二之宮遺跡

一本 文 編一

山 梨 県 中 央 自 動 車 道 埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書

1987. 3.

山梨県教育委員会日 本 道 路 公 団

二之宮遺跡

一本 文 編一

山 梨 県 中 央 自 動 車 道 埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書

1987. 3.

山梨県教育委員会日 本 道 路 公 団

本報告書は、中央自動車道建設に先立ち発掘調査された一連の遺跡のうち、山梨県東八代郡 御坂町二之宮地内に所在する二之宮遺跡について、その成果をまとめたものであります。

御坂町は、甲府盆地の北東縁に位置し、古墳時代後期ごろより中枢地の一つをなす地域で、 隣接する一宮町とともに後期古墳が密集しております。当遺跡のすぐ北側には東日本最大規模 の横穴式石室をもつ県指定史跡姥塚古墳があり、その周辺には中小古墳が濃厚に分布しており ます。さらにこの地は律令時代にも引き続き政治・文化の中心地として繁栄し、北西には平安 時代の国府跡といわれる国衙の地があり、東方金川の対岸一宮町には国分寺・国分尼寺が置か れ、現在もその跡が国の史跡に指定されております。また『和名抄』所載の郷が最も濃密に分 布するのも、この地方であります。

二之宮遺跡は金川扇状地の末端に位置し、国道137号線を挟んで東側の姥塚遺跡と連なっていますが、調査の結果、両遺跡は一つの遺跡として把握すべきものであることが判明いたしました。両遺跡を合わせますと550軒に近い住居址が発見されましたが、そのほとんどが古墳時代から奈良・平安時代に至るもので、集落址としては県下最大の規模であります。

このうち二之宮遺跡は、1979年12月から1981年10月にかけて調査され、その結果、縄文時代住居址1軒、同弥生時代3軒、同古墳時代157軒、同奈良時代24軒、同平安時代198軒、年代不明9軒の合計392軒の住居址、それに平安時代の井戸址1基が検出されました。各住居址などからは大量の遺物が出土いたしましたが、土師器、須恵器、灰釉陶器についての編年研究上の貴重な資料はもちろん、銅鏃や馬具それに鏡など当時の政治・文化を究明するに必要な資料なども得られております。住居址は古墳時代と平安時代の両時期のものが最も多く、このうち古墳時代のものは姥塚古墳の造られた時期に該当するものが多く、当古墳の築造に直接関与した集落とも考えられます。その後、奈良時代には住居数が減少しますが、甲斐国府が国衙の地に置かれたと推定される平安時代には以前にも増して多くの住居が見られるようになり、集落の変遷過程を究明する重要な資料を提供しております。さらに古墳時代と平安時代のある時期に住居に大小の規模の組み合わされたような住居の配置をみることができ、集落内になんらかの変化があったことを推定できるかもしれません。なおここは『和名抄』にいう山梨郡井上郷に属したと思われますが、この付近の郷の配置はかなり複雑であり、異説も存在しております。

以上、本報告書の概要を述べましたが、二之宮遺跡は隣接する姥塚遺跡と一体をなしておりますので、別冊で刊行されます同遺跡の報告書と併せてご利用いただければ幸甚です。

末筆ながら、種々ご協力を賜わった関係機関各位、地元の方々並びに直接調査に従事していただいた方々に厚く御礼申し上げます。

1987年3月

山梨県埋蔵文化財センター 所長 **磯 貝 正 義**

- 1. 本書は1979~1981年に日本道路公団から受託した中央自動車道西宮線の建設に伴う山梨県東八代郡二之宮に所在する二之宮遺跡(二之宮・二之宮西)の発掘調査報告である。なお本遺跡は集落址として国道137号線を挟んだ東側まで続くが、東側は姥塚遺跡として別途調査報告される。
- 2. 整理作業は1981年度~1986年度の間、日本道路公団より受託事業として実施した。
- 3. 発掘調査は山梨県教育庁文化課が実施し、整理作業は1982年度より山梨県埋蔵文化財センターで行った。

整理は文化財主事坂本美夫、米田明訓、末木健、保坂康夫が担当した。

- 4. 整理作業は1981年~1983年度まで土器洗い、注記、復元作業を中心に行い、1984年~1986年 度からは遺物実測、遺構トレース、図版作成、執筆作業を併行して行った。
- 5. 本報告書の執筆、編集は坂本が行った。
- 6. 写真撮影は遺構を坂本、米田、末木、保坂が行い、遺物は塚原明生(日本写真家協会員) が行った。
- 7. 本遺跡の石材鑑定は(財)山梨文化財研究所第6研究室長河西学氏に依頼した。
- 8. 鉄製品の処理、実測は保坂が主に行った。253号住居址出土の馬具の実測は大谷猛氏による。
- 9. 発掘調査から報告書作成に至るまでの間、下記の機関、方々からご協力、ご教示をいただいた。記して感謝申し上げたい。

道路公団東京第二建設局、県土木部用地課、道路課、御坂町教育委員会、同二之宮区・井 クト区

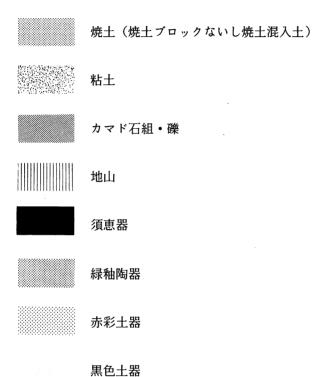
服部敬史、斎藤孝正、福田健司、大谷猛、国平健三、河野喜映、瀬川裕市郎、平林将信、志村博、高橋一夫、宮昌之、堀内真、 (敬称略)

- 10. 本報告書にかかる出土品及び記録図面、写真等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
- 11. 整理参加者(復元、遺物実測、遺構トレース、図版作成)

出月俊江、石川操、池谷美江子、小笠原睦子、岡田牧子、長田久江、河西学、梶本優子、弦間文代、小林千ゑ子、後藤良美、佐野正美、斎藤多喜子、斎藤つね子、佐野勝広、滝沢みち子、強矢明子、寺本由美子、土肥正治、名執洋子、永井由美子、内藤真千子、新津重子、野田昭人、林部光、日向千恵、広瀬勝子、平野修、平出知恵子、古屋みや子、掘ノ内泉、松野和美、宮沢公雄、矢崎喜美江、若尾澄子、若尾悦子、和田宏美、渡辺節子、渡辺義訓、渡辺礼子

凡 例

- 1. 図版の縮尺は原則として遺構を1/60、遺物のうち土器、石器を1/3、鉄製品を1/2としたが、適当でないものは任意の縮尺とした。
- 2. 図版中のスクリーン・トーンは次のような内容を示している。



3. 灰釉陶器の図中の矢印は釉の範囲を示す。

- 4. 遺構平面図内のナンバーは、各遺構より出土した土器のナンバーで、遺物図版中のナンバーと一致する。またSは石器を、Fは鉄製品をあらわし、そのナンバーは土器と同様である。
- 5. 住居址の主軸はカマドの設置壁と、その反対側の壁の方向とし、カマドの不明な例、あるいはコーナーカマドの例などは長軸を主軸とし、その角度は原則として北を起点とした。
- 6. 遺構のうち次のもの欠番である。
 - 50、57、124、156、192、221、222、223、233、234、235、248、249、274、302 なお西43号住居址については、遺構は明確にならなかった。

目 次

序	
例言	
凡例	

ν	.1 🗖			
F	【例			
第	1	章	調査の実施と経過	1
			第1節 調査に至るまで	······ 1 ⁻
			1. 発掘調査事務経過	1
			2. 調査組織	1
			第2節 調査の実施	3
			1.発掘区の設定と調査方法	3
			2 調査の経過	3
第	2	章	遺跡周辺地域の状況	5
			第1節 遺跡の位置と立地	5
			1.遺跡の位置	5
			2. 地理的環境	5
			第2節 遺跡周辺の歴史的環境	5
第	3 章		遺構と遺物	13
			第1節 住居址と出土遺物	13
			第2節 各時代の概要	180
第	4	章	各説	183
			第1節 集落址の変遷	183
			第 2 節 鉄製品	212
			第 3 節 墨書 • 刻書土器	216
お	わり	に		220

挿 図 目 次

第	1	l	図	遺跡位置図	6
第	2	2	図	遺跡地形図	9
第	3	}	図	遺跡全体図	11
第	4	1	図	遺構配置図(1)	15
第	Ę	5	図	遺構配置図 (2)	39
第	6	6	図	遺構配置図(3)	91
第	7	7	図	遺構配置図(4)	105
第	8	3	図	遺構配置図(5)	137
第	ę	9	図	遺構配置図(6)	139
第	1	0	図	竪穴住居址ブロック位置図	187
第	1	1	図	集落変遷図(1)	193
第	1	2	図	集落変遷図(2)	195
第	1	3	図	集落変遷図 (3)	197
第	1	4	図	集落変遷図(4)	199
第	1	5	図	集落変遷図(5)	201
第	1	6	図	集落変遷図 (6)	203
第	1	7	図	集落変遷図(7)	205
第	1	8	図	集落変遷図(8)	207
第	1	9	図	平安時代鉄製品分布図	213

表 目 次

第	1	表	住居址一覧表	174
第	2	表	ブロック別住居址存在状況表	212
第	3	表	遺物観察表 ······	221

図 版 目 次

図版第	1	1号住居址・カマド平面図	図版第	31	39号住居址・カマド平面図
図版第	2	3 • 4号住居址平面図 • 4号住居	図版第	32	40号住居址・カマド平面図
		址カマド平面図	図版第	33	41•42 号住居址平面図•41号住居
図版第	3	5号住居址平面図・カマド微細図			址カマド平面図
図版第	4	6 • 7 号住居址平面図	図版第	34	43号住居址・カマド平面図
図版第	5	8・9号住居址・カマド平面図	図版第	35	44・45号住居址・カマド平面図
図版第	6	10号住居址平面図	図版第	36	46号住居址平面図
図版第	7	11号住居址・カマド平面図	図版第	37	47号住居址・カマド平面図
図版第	8	12号住居址・カマド平面図	図版第	38	48号住居址・カマド平面図
図版第	9	13号住居址・カマド平面図	図版第	39	49号住居址・カマド平面図
図版第	10	14・15号住居址平面図	図版第	40	51号住居址平面図・51号住居址カ
図版第	11	14・15号住居址・カマド平面図			マド平面図
図版第	12	16号住居址・カマド平面図	図版第	41	52号住居址・カマド平面図
図版第	13	17号住居址・カマド平面図	図版第	42	53号住居址平面図
図版第	14	18号住居址平面図	図版第	43	54号住居址・カマド平面図
図版第	15	19号住居址・カマド平面図	図版第	44	55 • 56号住居址平面図 • 56号住居
図版第	16	20号住居址平面図			址カマド平面図
図版第	17	21号住居址・カマド平面図	図版第	45	59・60号住居址・カマド平面図
図版第	18	22号住居址平面図	図版第	46	60号住居址・カマド平面図・遺物
図版第	19	23号住居址・カマド平面図			出土状況
図版第	20	24号住居址・カマド平面図	図版第	47	61号住居址・カマド平面図
図版第	21	22 • 25号住居址平面図	図版第	48	62号住居址・カマド平面図
図版第	22	26•27•28号住居址平面図•27号	図版第	49	63号住居址・カマド平面図
		住居址カマド平面図	図版第	50	64号住居址・カマド平面図
図版第	23	29号住居址・カマド平面図	図版第	51	65 • 66号住居址平面図
図版第	24	30号住居址・カマド平面図	図版第	52	67号住居址・カマド平面図
図版第	25	31号住居址・カマド平面図	図版第	53	68号住居址平面図
図版第	26	32•33号住居址平面図•33号住居	図版第	54	69(1)号住居址平面図
		址カマド平面図	図版第	55	69(2)号住居址・カマド平面図
図版第	27	34号住居址・カマド平面図	図版第	56	70•71号住居址平面図
図版第	28	35号住居址・カマド平面図	図版第	57	72号住居址・カマド平面図
図版第	29	36号住居址平面図	図版第	58	73•74号住居址平面図
図版第	30	37 • 38号住居址平面図	図版第	59	75号住居址・カマド平面図

図版第	60	76号住居址・カマド平面図	図版第	90	121号住居址平面図
図版第	61	77・78号住居址・カマド平面図	図版第	91	122 · 125 · 126号住居址平面図
図版第	62	79号住居址・カマド平面図	図版第	92	125・126号住居址カマド平面図
図版第	63	80号住居址・カマド平面図	図版第	93	127 · 128 · 131号住居址平面図
図版第	64	79 • 80号住居址遺物出土状況	図版第	94	128号住居址カマド平面図
図版第	65	81号住居址・カマド平面図	図版第	95	129号住居址平面図
図版第	66	82号住居址・カマド平面図	図版第	96	129号住居址カマド平面図・遺物
図版第	67	83号住居址・カマド平面図			出土状況
図版第	68	84号住居址・カマド平面図	図版第	97	130号住居址・カマド平面図
図版第	69	85号住居址・カマド平面図	図版第	98	132号住居址・カマド平面図
図版第	70	86 • 87 • 88号住居址平面図 • 86号	図版第	99	133・134号住居址平面図
		住居址カマド平面図	図版第 1	100	135号住居址・カマド平面図
図版第	71	89 • 90号住居址平面図	図版第 1	101	136号住居址・カマド平面図
図版第	72	91号住居址・カマド平面図	図版第 1	102	137号住居址・カマド平面図
図版第	73	92・93号住居址・カマド平面図	図版第 1	103	138号住居址•炉平面図
図版第	74	94号住居址・カマド平面図	図版第 1	104	139・140号住居址平面図
図版第	75	95号住居址・カマド平面図	図版第 1	105	139・140号住居址カマド平面図
図版第	76	96•97号住居址平面図•97号住居	図版第 1	106	141 • 142号住居址平面図
•		址カマド平面図	図版第 1	107	143号住居址・カマド平面図
図版第	77	98•99号住居址平面図•99号住居	図版第 1	108	144号住居址・カマド平面図
		址カマド平面図	図版第 1	109	145•146号住居址平面図
図版第	78	100・101号住居址平面図・100	図版第 1	110	147号住居址・カマド平面図
		号住居址カマド平面図	図版第 1	111	148号住居址・カマド平面図
図版第	79	102 • 103号住居址平面図 • 102	図版第 1	112	149号住居址平面図
		号住居址カマド平面図	図版第 1	113	150 • 151号住居址平面図
図版第	80	104号住居址・カマド平面図	図版第 1	114	150・151号住居址・カマド平面
図版第	81	105号住居址・カマド平面図			図
図版第	82	106号住居址・カマド平面図	図版第 1	115	152号住居址・カマド平面図
図版第	83	107 • 108号住居址平面図	図版第 1	16	153号住居址・カマド平面図
図版第	84	109号住居址平面図	図版第 1	17	154号住居址・カマド平面図
図版第	85	110 • 111号住居址平面図	図版第 1	18	155号住居址・カマド平面図
図版第	86	112 • 113号住居址平面図	図版第 1	19	157号住居址平面図・158号住居
図版第	87	114・115・116号住居址平面図			址カマド平面図
図版第	88	117 • 118号住居址平面図	図版第 1	.20	159・160号住居址平面図・160
図版第	89	119 • 120号住居址平面図 • 119			号住居址カマド平面図
		号住居址カマド平面図	図版第 1	.21	161号住居址・カマド平面図

図版第	122	162号住居址・カマド平面図	図版第 150	204住居址平面図
図版第	123	163号住居址・カマド平面図	図版第 151	205号住居址・カマド平面図
図版第	124	164・165号住居址・カマド平面	図版第 152	206号住居址・カマド平面図
		図	図版第 153	207号住居址・カマド平面図
図版第	125	166号住居址平面図	図版第 154	208号住居址・カマド平面図
図版第	126	167号住居址・カマド平面図	図版第 155	209号住居址・カマド平面図
図版第	127	168号住居址・カマド平面図	図版第 156	210号住居址平面図
図版第	128	169·170号住居址平面図·169	図版第 157	210号住居址カマド平面図
		号住居址カマド平面図	図版第 158	211号住居址平面図
図版第	129	171号住居址・カマド平面図	図版第 159	212号住居址・カマド平面図
図版第	130	172号住居址・カマド平面図	図版第 160	213号住居址・カマド平面図
図版第	131	173・174号住居址平面図・174	図版第 161	214号住居址・カマド平面図
		号住居址カマド平面図	図版第 162	215号住居址・カマド平面図
図版第	132	175・176号住居址平面図・176	図版第 163	216 • 217号住居址平面図
		号住居址カマド平面図	図版第 164	218・219号住居址・カマド平面
図版第	133	177•178号住居址平面図		図
図版第	134	177・178号住居址カマド平面図	図版第 165	220号住居址・カマド平面図
図版第	135	179・180号住居址平面図・180	図版第 166	224号住居址・カマド平面図
		号住居址カマド平面図	図版第 167	225 • 226号住居址平面図 • 226
) IT/Listry () IMER	MINN TO	200 200 7 压心死 1 陆区 200
図版第	136	181号住居址・カマド平面図		号住居址カマド平面図
図版第 図版第			図版第 168	
	137	181号住居址・カマド平面図		号住居址カマド平面図
図版第	137 138	181号住居址・カマド平面図 182号住居址平面図	図版第 168	号住居址カマド平面図 227号住居址・カマド平面図
図版第 図版第	137 138	181号住居址・カマド平面図 182号住居址平面図 182号住居址カマド平面図	図版第 168 図版第 169	号住居址カマド平面図 227号住居址・カマド平面図 228号住居址・カマド平面図
図版第 図版第	137 138 139	181号住居址・カマド平面図 182号住居址平面図 182号住居址カマド平面図 183・184号住居址平面図・183	図版第 168 図版第 169 図版第 170	号住居址カマド平面図 227号住居址・カマド平面図 228号住居址・カマド平面図 229号住居址・カマド平面図
図版第 図版第 図版第	137 138 139 140	181号住居址・カマド平面図 182号住居址平面図 182号住居址カマド平面図 183・184号住居址平面図・183 号住居址カマド平面図	図版第 168 図版第 169 図版第 170 図版第 171	号住居址カマド平面図 227号住居址・カマド平面図 228号住居址・カマド平面図 229号住居址・カマド平面図 230・231号住居址平面図・231
図版第 図版第 図版第 図版第 図版第	137 138 139 140 141	181号住居址・カマド平面図 182号住居址平面図 182号住居址カマド平面図 183・184号住居址平面図・183 号住居址カマド平面図 185号住居址・カマド平面図	図版第 168 図版第 169 図版第 170 図版第 171	号住居址カマド平面図 227号住居址・カマド平面図 228号住居址・カマド平面図 229号住居址・カマド平面図 230・231号住居址平面図・231 号住居址カマド平面図
図版第 図版第 図版第 図版第 図版第 図版第	137 138 139 140 141 142	181号住居址・カマド平面図 182号住居址平面図 182号住居址カマド平面図 183・184号住居址平面図・183 号住居址カマド平面図 185号住居址・カマド平面図 186・187・188号住居址平面図	図版第 168 図版第 169 図版第 170 図版第 171	号住居址カマド平面図 227号住居址・カマド平面図 228号住居址・カマド平面図 229号住居址・カマド平面図 230・231号住居址平面図・231 号住居址カマド平面図 232・236号住居址平面図・236
図版第 図版第 図版第 図版第 図版第 図版第 図版第 図版第	137 138 139 140 141 142 143	181号住居址・カマド平面図 182号住居址平面図 182号住居址カマド平面図 183・184号住居址平面図・183 号住居址カマド平面図 185号住居址・カマド平面図 186・187・188号住居址平面図 189号住居址・カマド平面図	図版第 168 図版第 169 図版第 170 図版第 171	号住居址カマド平面図 227号住居址・カマド平面図 228号住居址・カマド平面図 229号住居址・カマド平面図 230・231号住居址平面図・231 号住居址カマド平面図 232・236号住居址平面図・236 号住居址カマド平面図
図版第 図版第 図版第 図版第 図版第 図版第 図版第 図版第	137 138 139 140 141 142 143	181号住居址・カマド平面図 182号住居址平面図 182号住居址カマド平面図 183・184号住居址平面図・183 号住居址カマド平面図 185号住居址・カマド平面図 186・187・188号住居址平面図 189号住居址・カマド平面図 190・191・193号住居址平面図	図版第 168 図版第 169 図版第 170 図版第 171 図版第 172	号住居址カマド平面図 227号住居址・カマド平面図 228号住居址・カマド平面図 229号住居址・カマド平面図 230・231号住居址平面図・231 号住居址カマド平面図 232・236号住居址平面図・236 号住居址カマド平面図 237-1・237-2号住居址平面図・
図版第 図版第 図版第 図版版第 図版版第 図版版第 図版版第 図版版第 図版	137 138 139 140 141 142 143 144	181号住居址・カマド平面図 182号住居址平面図 182号住居址カマド平面図 183・184号住居址平面図・183 号住居址カマド平面図 185号住居址・カマド平面図 186・187・188号住居址平面図 189号住居址・カマド平面図 190・191・193号住居址平面図 194・195号住居址平面図・194	図版第 168 図版第 169 図版第 170 図版第 171 図版第 172	号住居址カマド平面図 227号住居址・カマド平面図 228号住居址・カマド平面図 229号住居址・カマド平面図 230・231号住居址平面図・231 号住居址カマド平面図 232・236号住居址平面図・236 号住居址カマド平面図 237-1・237-2号住居址平面図・237-1号住居址カマド平面図
図版第 図 図 図 図 図 図 版 版 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第	137 138 139 140 141 142 143 144	181号住居址・カマド平面図 182号住居址平面図 182号住居址カマド平面図 183・184号住居址平面図・183 号住居址カマド平面図 185号住居址・カマド平面図 186・187・188号住居址平面図 189号住居址・カマド平面図 190・191・193号住居址平面図 194・195号住居址平面図・194 号住居址カマド平面図	図版第 168 図版第 169 図版第 170 図版第 171 図版第 172 図版第 173 図版第 174 図版第 175	号住居址カマド平面図 227号住居址・カマド平面図 228号住居址・カマド平面図 229号住居址・カマド平面図 230・231号住居址平面図・231 号住居址カマド平面図 232・236号住居址平面図・236 号住居址カマド平面図 237-1・237-2号住居址平面図・237-1号住居址カマド平面図 237-1号住居址カマド平面図
図版第 図 図 図 図 図 図 版 版 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第	137 138 139 140 141 142 143 144	181号住居址・カマド平面図 182号住居址平面図 182号住居址かマド平面図 183・184号住居址平面図・183 号住居址カマド平面図 185号住居址・カマド平面図 186・187・188号住居址平面図 189号住居址・カマド平面図 190・191・193号住居址平面図 194・195号住居址平面図・194 号住居址カマド平面図 196号住居址・カマド平面図	図版第 168 図版第 169 図版第 170 図版第 171 図版第 172 図版第 173 図版第 174 図版第 175 図版第 176	号住居址カマド平面図 227号住居址・カマド平面図 228号住居址・カマド平面図 229号住居址・カマド平面図 230・231号住居址平面図・231 号住居址カマド平面図 232・236号住居址平面図・236 号住居址カマド平面図 237-1・237-2号住居址平面図・237-1号住居址カマド平面図 238・239号住居址中面図 240号住居址・カマド平面図
図図図図図図図図図図図図図図の図の 図の の の の の の の の の の	137 138 139 140 141 142 143 144 145	181号住居址・カマド平面図 182号住居址平面図 182号住居址カマド平面図 183・184号住居址平面図・183 号住居址カマド平面図 185号住居址・カマド平面図 186・187・188号住居址平面図 189号住居址・カマド平面図 190・191・193号住居址平面図 194・195号住居址平面図・194 号住居址カマド平面図 196号住居址・カマド平面図 196号住居址・カマド平面図 197・198・199号住居址平面図	図版第 168 図版第 170 図版第 171 図版第 172 図版第 173 図版第 174 図版第 175 図版第 176 図版第 177	号住居址カマド平面図 227号住居址・カマド平面図 228号住居址・カマド平面図 229号住居址・カマド平面図 230・231号住居址平面図・231 号住居址カマド平面図 232・236号住居址平面図・236 号住居址カマド平面図 237-1・237-2号住居址平面図・237-1号住居址カマド平面図 237-1号住居址カマド平面図 238・239号住居址平面図 240号住居址・カマド平面図 241号住居址・カマド平面図
図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図の図ののののののの	137 138 139 140 141 142 143 144 145 146	181号住居址・カマド平面図 182号住居址平面図 182号住居址かマド平面図 183・184号住居址平面図・183 号住居址カマド平面図 185号住居址・カマド平面図 186・187・188号住居址平面図 189号住居址・カマド平面図 190・191・193号住居址平面図 194・195号住居址平面図・194 号住居址カマド平面図 196号住居址・カマド平面図 196号住居址・カマド平面図 197・198・199号住居址平面図 197号住居址カマド平面図	図版第 168 図版第 169 図版第 170 図版第 171 図版第 172 図版第 173 図版第 175 図版第 176 図版第 177 図版第 178	号住居址カマド平面図 227号住居址・カマド平面図 228号住居址・カマド平面図 229号住居址・カマド平面図 230・231号住居址平面図・231 号住居址カマド平面図 232・236号住居址平面図・236 号住居址カマド平面図 237-1・237-2号住居址平面図・237-1号住居址カマド平面図 238・239号住居址平面図 240号住居址・カマド平面図 241号住居址・カマド平面図 242・243号住居址平面図
図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図の図の図のののののの	137 138 139 140 141 142 143 144 145 146	181号住居址・カマド平面図 182号住居址平面図 182号住居址カマド平面図 183・184号住居址平面図・183 号住居址カマド平面図 185号住居址・カマド平面図 186・187・188号住居址平面図 189号住居址・カマド平面図 190・191・193号住居址平面図 194・195号住居址平面図 194・195号住居址平面図 194・195号住居址平面図 197・198・199号住居址平面図 197・198・199号住居址平面図 197号住居址カマド平面図 198・199号住居址カマド平面図	図版第 168 図版第 170 図版第 171 図版第 172 図版第 173 図版第 174 図版第 175 図版第 176 図版版第 177 図版版第 178 図版第 178 図版第 179	号住居址カマド平面図 227号住居址・カマド平面図 228号住居址・カマド平面図 229号住居址・カマド平面図 230・231号住居址平面図・231号住居址平面図・231号住居址平面図・236号住居址平面図・236号住居址平面図・236号住居址中面図・237-1・237-2号住居址平面図・237-1号住居址カマド平面図 238・239号住居址平面図 240号住居址・カマド平面図 241号住居址・カマド平面図 241号住居址・カマド平面図 242・243号住居址平面図 244号住居址・カマド平面図

図版第 181	247号住居址平面図	図版第 212	289号住居址・カマド平面図
図版第 182	250 • 251号住居址平面図 • 250	図版第 213	290号住居址・カマド平面図
	号住居址カマド平面図	図版第 214	291 • 292 • 293号住居址平面図
図版第 183	252号住居址・カマド平面図	図版第 215	291・292号住居址カマド平面図
図版第 184	253号住居址・カマド平面図	図版第 216	294号住居址平面図
図版第 185	254・255号住居址・カマド平面	図版第 217	294号住居址カマド平面図
	\boxtimes	図版第 218	295号住居址平面図
図版第 186	256号住居址・カマド平面図	図版第 219	296号住居址・カマド平面図
図版第 187	257号住居址・カマド平面図	図版第 220	297号住居址・カマド平面図
図版第 188	258号住居址平面図	図版第 221	298 • 299号住居址平面図
図版第 189	259号住居址・カマド平面図	図版第 222	299号住居址カマド平面図・300
図版第 190	260・261号住居址平面図・261		号住居址平面図
	号住居址カマド平面図	図版第 223	301号住居址・カマド平面図
図版第 191	262号住居址・カマド平面図	図版第 224	303号住居址平面図
図版第 192	263号住居址・カマド平面図	図版第 225	304号住居址・カマド平面図
図版第 193	264号住居址・カマド平面図	図版第 226	305号住居址・カマド平面図
図版第 194	265号住居址・カマド平面図	図版第 227	306号住居址平面図•遺物出土状
図版第 195	266号住居址・カマド平面図		況
図版第 196	267 • 268号住居址平面図 • 268	図版第 228	307号住居址・カマド平面図
	号住居址カマド平面図	図版第 229	308 • 309号住居址平面図
図版第 197	269号住居址・カマド平面図	図版第 230	310・311号住居址平面図
図版第 198	270号住居址・カマド平面図	図版第 231	312号住居址・カマド平面図
図版第 199	271 • 272号住居址平面図	図版第 232	313号住居址・カマド平面図
図版第 200	273 • 274号住居址平面図	図版第 233	314号住居址平面図
図版第 201	275•276号住居址平面図•275	図版第 234	314号住居址カマド平面図
	号住居址カマド平面図	図版第 235	315号住居址・カマド平面図
図版第 202	277号住居址・カマド平面図	図版第 236	316号住居址・カマド平面図
図版第 203	278住居址平面図	図版第 237	317号住居址・カマド平面図
図版第 204	279号住居址・カマド平面図	図版第 238	318号住居址・カマド平面図
図版第 205	280号住居址平面図	図版第 239	319号住居址・カマド平面図
図版第 206	281号住居址・カマド平面図	図版第 240	320号住居址・カマド平面図
図版第 207	282 • 283号住居址平面図	図版第 241	312 • 322号住居址平面図
図版第 208	284号住居址・カマド平面図	図版第 242	323号住居址・カマド平面図
図版第 209	285 • 286号住居址平面図	図版第 243	324号住居址平面図
図版第 210	287-1 • 288号住居址平面図	図版第 244	西1号住居址・カマド平面図
図版第 211	287-2号住居址・カマド平面図	図版第 245	西2号住居址・カマド平面図

図販第 247 四5 号住居址・カマド平面図 図販第 279 四47号住居址・カマド平面図 図販第 280 西47号住居址・カマド平面図 図販第 281 西47号住居址・カマド平面図 図販第 281 西48号住居址・カマド平面図 図販第 281 西50号住居址・カマド平面図 図販第 283 西50号住居址・カマド平面図 図販第 285 西13号住居址・カマド平面図 図販第 285 西3号住居址・カマド平面図 図販第 285 西3号住居址・カマド平面図 図販第 285 西3号住居址・カマド平面図 図販第 285 西61号住居址・カマド平面図 図販第 289 西61号住居址・カマド平面図 図販第 289 西61号住居址・カマド平面図 図販第 289 西61号住居址・カマド平面図 図販第 289 西61号住居址・カマド平面図 図販第 280 西71・72号住居址・カマド平面図 図販第 300 西71・72号住居址・カマド平面図 図販第 300 西71・72号住居址・カマド平面図 図販第 301 西71・78号住居址・カマド平面図 図販第 301 西71・78号住居址・カマド平面図 図販第 301 西82号住居址・カマド平面図 図販第 301 西83号住居址・カマド平面図 図販第 301 西83号住居址・カマド平面図 図販第 301 西83号住居址・カマド平面図 図販第 301 西83号住居址・カマド平面図 図版第 301 西83号住居址・カマド平面図 図版第 301 西83号住居址・カマド平面図 図版第 301 西83号住居址・カマド平面図 四別第 301 西83号住居址・カマド平面	図版第 246	西3・4号住居址・カマド平面図	図版第 278	西46号住居址遺物出土状況平面図
図販第 249	図版第 247	西5号住居址・カマド平面図	図版第 279	西47号住居址・カマド平面図
図版第 250	図版第 248	西 6 号住居址・カマド平面図	図版第 280	西47号住居址・カマド平面図
図版第 251 西10号住居址・カマド平面図 図版第 283 西50号住居址・カマド平面図 図版第 252 西11号住居址・カマド平面図 図版第 253 西15号住居址・カマド平面図 図版第 254 西15号住居址・カマド平面図 図版第 255 西13号住居址・カマド平面図 図版第 255 西14号住居址・カマド平面図 図版第 256 西15号住居址・カマド平面図 図版第 257 西15号住居址・カマド平面図 図版第 257 西15号住居址・カマド平面図 図版第 257 西16・17号住居址平面図 図版第 258 西15号住居址・カマド平面図 図版第 257 西16・17号住居址平面図 図版第 258 西18・19号住居址平面図 図版第 259 西20・21号住居址平面図 図版第 259 西20・21号住居址平面図 図版第 259 西20・21号住居址平面図 図版第 250 西20号住居址・カマド平面図 図版第 250 西25号住居址・カマド平面図 図版第 251 西21・62号住居址・カマド平面図 図版第 251 西31・32号住居址・カマド平面図 図版第 251 西63・64号住居址・カマド平面図 図版第 251 西65号住居址・カマド平面図 図版第 251 西65号住居址・カマド平面図 図版第 251 西67・68号住居址・カマド平面図 図版第 251 西67・68号住居址・カマド平面図 図版第 251 西7・68号住居址・カマド平面図 図版第 251 西7・7号住居址・カマド平面図 図版第 251 西7・7号住居址・カマド平面図 図版第 251 西7・7号住居址・カマド平面図 図版第 251 西7・7号住居址・カマド平面図 図版第 301 西79号住居址・カマド平面図 図版第 301 西79号住居址・カマド平面図 図版第 301 西79号住居址・カマド平面図 図版第 301 西79・8号住居址・田図・77号住 図版第 271 西3号住居址・カマド平面図 図版第 301 西79・8号住居址・田図・77号住 図版第 271 西3号住居址・カマド平面図 図版第 301 西79・8号住居址・カマド平面図 回版第 301 西79・8号住居址・カマド平面図 田77・7号住居址・カマド平面図 田77・7号住居址・カマド平面図 田77・7号住居址・カマド平面図 田77・7号住居址・カマド平面図 田77・7号中国 20版第 301 西79・8号住居址・カマド平面図 田77・7日 101 田 201 田 301	図版第 249	西 7 号住居址・カマド平面図	図版第 281	西48号住居址平面図
図版第 252 西11号住居址平面図 図版第 253 西12号住居址・カマド平面図	図版第 250	西8 • 9 号住居址平面図	図版第 282	西49号住居址・カマド平面図
図販第 253 西12号住居址・カマド平面図 図販第 285 西53号住居址・カマド平面図 図販第 285 西53号住居址・カマド平面図 図販第 285 西53号住居址・カマド平面図 図販第 285 西56号住居址・カマド平面図 図版第 287 西56号住居址・カマド平面図 図版第 287 西56号住居址・カマド平面図 図版第 288 西57・58号住居址・平面図 の服第 288 西57・58号住居址・平面図 の服第 288 西57・58号住居址・中面図 の服第 289 西59号住居址・中面図 の服第 289 西59号住居址・中面図 の服第 289 西59号住居址・カマド平面図 図版第 280 西60号住居址・カマド平面図 図版第 280 西61・62号住居址・カマド平面図 図版第 280 西61・62号住居址・カマド平面図 回版第 281 西61・62号住居址・カマド平面図 回版第 281 西61・62号住居址・カマド平面図 回版第 281 西61・62号住居址・カマド平面図 回版第 281 西65号住居址・カマド平面図 回版第 281 西65号住居址・カマド平面図 回版第 283 西65号住居址・カマド平面図 回版第 283 西65号住居址・カマド平面図 回版第 284 西66号住居址・カマド平面図 回版第 285 西67・68号住居址・カマド平面図 回版第 285 西67・68号住居址・カマド平面図 回版第 285 西69号住居址・カマド平面図 回版第 285 西71・72号住居址・カマド平面図 回版第 287 西70号住居址・カマド平面図 回版第 289 西71・72号住居址・カマド平面図 回版第 289 西73・74号住居址・カマド平面図 回版第 290 西73・74号住居址・カマド平面図 回版第 300 西75号住居址・カマド平面図 回版第 301 西76号住居址・カマド平面図 回版第 301 西76号住居址・カマド平面図 回版第 273 西39号住居址・カマド平面図 回版第 302 西77・78号住居址・田図・77号住 回版第 273 西39号住居址・カマド平面図 回版第 303 西79・80号住居址・カマド平面図 回版第 275 西40号住居址・カマド平面図 回版第 304 西19号住居址・カマド平面図 回版第 275 西41号住居址・カマド平面図 回版第 304 西19号住居址・カマド平面図 回版第 275 西41号住居址・カマド平面図 回版第 304 西41号住居址・カマド平面図 回版第 275 西41号住居址・カマド平面図 回版第 304 西41号住居址・カマド平面図 回版第 275 西41号住居址・カマド平面図 回版第 304 西41号住居址・カマド平面図 回版第 277 西41号住居址・カマド平面図 回版第 304 西41号住居址・カマド平面図 回版第 305 西41号柱 305	図版第 251	西10号住居址・カマド平面図	図版第 283	西50号住居址・カマド平面図
図版第 254 西13号住居址・カマド平面図 図版第 285 西53号住居址・カマド平面図 図版第 285 西54・55号住居址平面図 図版第 286 西54・55号住居址平面図 図版第 287 西56号住居址かマド平面図 図版第 287 西56号住居址かマド平面図 図版第 288 西57・58号住居址平面図・57号住 居址カマド平面図 図版第 288 西57・58号住居址平面図・57号住 居址カマド平面図 図版第 289 西59号住居址平面図・57号住 区版第 260 西22・23号住居址平面図 図版第 290 西60号住居址・カマド平面図 図版第 261 西24号住居址・カマド平面図 図版第 291 西61・62号住居址・カマド平面図 図版第 261 西24号住居址・カマド平面図 図版第 291 西61・62号住居址平面図・61号住 区址のマド平面図 図版第 291 西61・62号住居址・加マド平面図 図版第 264 西27・28号住居址・カマド平面図 図版第 292 西63・64号住居址・カマド平面図・63号住 区址のマド平面図 図版第 293 西65号住居址・カマド平面図 図版第 294 西66号住居址・カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址・カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址・カマド平面図 図版第 295 西69号住居址・カマド平面図 区域第 296 西69号住居址・カマド平面図 区域第 296 西69号住居址・カマド平面図 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 298 西71・72号住居址・カマド平面図 図版第 298 西71・72号住居址・加マド平面図 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 298 西71・72号住居址・カマド平面図 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 298 西71・72号住居址・カマド平面図 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 300 西75号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 区址の 277号住 200 田 277・78号住居址・カマド平面図 図版第 273 西40号住居址・カマド平面図 図版第 303 西79・80号住居址・カマド平面図 図版第 274 西40号住居址・カマド平面図 図版第 304 西19号住居址・カマド平面図 図版第 275 西41号住居址・カマド平面図 図版第 304 西42・44号住居址・カマド平面図 図版第 305 西43号住居址・カマド平面図 図版第 275 田28号住居址・カマド平面図 図版第 305 西43号住居址・カマド平面図 図版第 205 田25号柱版址 205 四本25号柱版址 205 四本25号柱版址 205 四本25号柱版址 205 四本25号柱版址 205 四本	図版第 252	西11号住居址平面図	図版第 284	西51•52号住居址平面図•52号住
図版第 255 西14号住居址平面図 図版第 286 西56・55号住居址平面図 図版第 287 西56号住居址・カマド平面図 図版第 287 西56号住居址・カマド平面図 図版第 288 西57・58号住居址平面図・57号住 居址カマド平面図 図版第 289 西59号住居址平面図・57号住 居址カマド平面図 図版第 289 西60号住居址平面図 図版第 289 西60号住居址・カマド平面図 図版第 290 西60号住居址・カマド平面図 図版第 291 西61・62号住居址・面図・61号住 居址カマド平面図 図版第 292 西63・64号住居址・面図・63号住 居址カマド平面図 図版第 293 西65号住居址・面図・63号住 居址カマド平面図 図版第 294 西65号住居址・カマド平面図 図版第 295 西65号住居址・カマド平面図 図版第 296 西69号住居址・カマド平面図 図版第 296 西69号住居址・カマド平面図 図版第 297 西69号住居址・カマド平面図 図版第 298 西7・7・7・7・7・7・7・7・7・7・7・7・7・7・7・7・7・7・7・	図版第 253	西12号住居址・カマド平面図		居址カマド平面図
図版第 256 西15号住居址・カマド平面図 図版第 287 西56号住居址カマド平面図 図版第 257 西16・17号住居址平面図 図版第 288 西57・58号住居址平面図・57号住図版第 258 西18・19号住居址平面図 図版第 289 西59号住居址平面図 図版第 260 西22・23号住居址平面図 図版第 290 西60号住居址・カマド平面図 図版第 261 西2号住居址・カマド平面図 図版第 291 西61・62号住居址・面図・61号住図版第 262 西25号住居址平面図 図版第 291 西61・62号住居址平面図・61号住図版第 263 西26号住居址・カマド平面図 図版第 292 西63・64号住居址平面図・63号住図版第 264 西27・28号住居址平面図・27号住居址・カマド平面図 図版第 293 西65号住居址・カマド平面図 図版第 294 西65号住居址・カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址・カマド平面図 図版第 266 西30号住居址・カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址・カマド平面図 図版第 267 西31・32号住居址平面図・32号住 居址カマド平面図 図版第 296 西69号住居址・カマド平面図 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 297 西7・7号住居址・カマド平面図 図版第 299 西7・7・7号住居址・カマド平面図 図版第 271 西36・37号住居址・加図・37号住 図版第 301 西7・7号住居址・カマド平面図 図版第 272 西38号住居址・カマド平面図 図版第 301 西7・7号住居址・カマド平面図 図版第 273 西30号住居址・カマド平面図 図版第 301 西7・7・7号住居址・カマド平面図 図版第 273 西30号住居址・カマド平面図 図版第 301 西7・7・7号住居址・カマド平面図 図版第 274 西40号住居址・カマド平面図 図版第 303 西7・7・8号住居址・中面図・77号住 居址カマド平面図 図版第 304 西7・7・8号住居址・中面図 図版第 275 西41号住居址・カマド平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図 図版第 277 西45号住居址・カマド平面図 図版第 305 西83号住居址・カマド平面図 図版第 277 西45号住居址・カマド平面図 図版第 305 西83号住居址・カマド平面図 図版第 277 西45号住居址・カマド平面図 図版第 305 西83号住居址・カマド平面図 図版第 277 西45号住居址・カマド平面図 図版第 305 西85号住居址・カマド平面図 図版第 277 西45号住居址・カマド平面図 図版第 305 西85号住居址・カマド平面図 図版第 305 西85号住居址・カマド平面図 図版第 307 西85号住居址・カマド平面図 図版第 305 西85号住居址・カマド面図 305 西85号住居址・カマド面図 305 西85号柱配址・カマド面図 305 西85号柱配址・カマド面図 305 西85号柱配址・カマド面図 305 西85号柱配址 カマド面図 305 西85号柱配址 カマド面図 305 西85号柱配址 カマド面図 305 西85号柱配址 305 西85号柱配址 305 西85号柱 305 西85号柱配址 305 西85号柱 305 西85号	図版第 254	西13号住居址・カマド平面図	図版第 285	西53号住居址・カマド平面図
図版第 257 西16・17号住居址平面図 図版第 288 西57・58号住居址平面図・57号住 図版第 258 西18・19号住居址平面図 図版第 289 西59号住居址平面図 図版第 260 西22・23号住居址平面図 図版第 290 西60号住居址・カマド平面図 図版第 291 西61・62号住居址平面図・61号住 図版第 261 西24号住居址・カマド平面図 図版第 292 西63・64号住居址平面図・63号住 図版第 263 西26号住居址・カマド平面図 図版第 292 西63・64号住居址平面図・63号住 居址カマド平面図 図版第 293 西65号住居址・カマド平面図 図版第 294 西65号住居址・カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址・カマド平面図 図版第 295 西69号住居址・カマド平面図 図版第 296 西69号住居址・カマド平面図 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 297 西71・72号住居址・カマド平面図 図版第 299 西73・74号住居址・カマド平面図 図版第 290 西77・78号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 273 西39号住居址・カマド平面図 図版第 303 西79・80号住居址・面図・77号住 居址・カマド平面図 図版第 303 西79・80号住居址・面図 図版第 275 西41号住居址・カマド平面図 図版第 304 西81号住居址・面図 図版第 276 西42・44号住居址・カマド平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図 図版第 277 西45号住居址・面図 図版第 307 西83号住居址・カマド平面図 図版第 277 西45号住居址・カマド平面図 図版第 307 西45号は日址・カマド平面図 図版第 307 田45号は日址・カマド平面図 図版第 307 田45号は日址・カマド平面図 図述 307 田45号は日址・カマド平面図 307 田45号は日址・カマド平面図 307 田45号は日址・カマド本面図 307 田45号は日址・カマド本面図 307 田45号は日址・カマド本面図 307 田45号は日址・カマド本面図 3	図版第 255	西14号住居址平面図	図版第 286	西54 • 55号住居址平面図
図版第 258 西18・19号住居址平面図 図版第 259 西20・21号住居址平面図 図版第 260 西22・23号住居址平面図 図版第 290 西60号住居址・カマド平面図 図版第 291 西61・62号住居址・加図・61号住 図版第 261 西24号住居址・カマド平面図 図版第 291 西61・62号住居址平面図・61号住 図版第 262 西25号住居址平面図 図版第 292 西63・64号住居址平面図・63号住 図版第 263 西26号住居址・カマド平面図 図版第 292 西63・64号住居址平面図・63号住 居址カマド平面図 図版第 293 西65号住居址・カマド平面図 図版第 294 西66号住居址・カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址・カマド平面図 図版第 266 西29号住居址・カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址・カマド平面図 図版第 266 西30号住居址・カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址・加図・68号住 図版第 266 西30号住居址・カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址・カマド平面図 図版第 267 西31・32号住居址・カマド平面図 図版第 295 西69号住居址・カマド平面図 図版第 296 西69号住居址・カマド平面図 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 299 西73・74号住居址・カマド平面図 図版第 270 西35号住居址・カマド平面図 図版第 300 西75号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 302 西77・78号住居址・カマド平面図 図版第 303 西79・80号住居址・カマド平面図 図版第 275 西41号住居址・カマド平面図 図版第 304 西81号住居址・和図 図版第 276 西41号住居址・カマド平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図 図版第 277 西45号住居址・カマド平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図 図版第 377 西45号住居址・カマド平面図 図版第 377 西45号住居址・カマド平面図 図版第 379 80号住居址・カマド平面図 図版第 379 80号住居址・カマド平面図 図版第 379 80号住居址・カマド平面図 図版第 379 80号住居址・カマド平面図 図版第 377 西45号住居址・カマド平面図 図版第 377 西45号住居址・カマド平面図 図版第 379 80号住居址・カマド平面図 図版第 379 80号住居址・カマド平面図 図版第 377 西45号住居址・カマド平面図 図版第 377 西45号住居址・カマド平面図 図版第 379 80号住居址・カマド平面図 図述 379 80号住居址・カマド平面図 図述 379 80号住居址・カマド平面図 図述 379 80号住居址・カマド平面図 図述 379 80号址・カマド平面図 279 80号址 279 80号址・カマド平面図 279 80号址 279 80号址 279 80号址 279 8	図版第 256	西15号住居址・カマド平面図	図版第 287	西56号住居址カマド平面図
図版第 259 西20・21号住居址平面図 図版第 289 西59号住居址平面図 図版第 260 西22・23号住居址平面図 図版第 290 西60号住居址・カマド平面図 図版第 291 西61・62号住居址・面図・61号住 居址カマド平面図 図版第 291 西61・62号住居址平面図・63号住 居址カマド平面図 図版第 292 西63・64号住居址平面図・63号住 居址カマド平面図 図版第 293 西65号住居址平面図・63号住 居址カマド平面図 図版第 293 西65号住居址・カマド平面図 図版第 294 西66号住居址・カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址・面図・68号住 居址カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址・カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址・面図・68号住 居址カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址・カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址・カマド平面図 図版第 296 西69号住居址・カマド平面図 図版第 296 西69号住居址・カマド平面図 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 298 西71・72号住居址・カマド平面図 図版第 298 西71・72号住居址・カマド平面図 図版第 298 西71・72号住居址・カマド平面図 図版第 300 西75号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 303 西79・8号住居址平面図・77号住 区域第 273 西30号住居址・カマド平面図 図版第 304 西81号住居址平面図 四81号住居址・カマド平面図 図版第 205 西81号住居址・カマド平面図 図版第 205 西81号住居址・カマド平面図 図版第 205 西81号住居址・カマド平面図 図版第 205 西81号住居址・カマド平面図 四81号住居址・カマド平面図 四85 305 西82号住居址・カマド平面図 四85 305 西82号住居址・カマド平面図 四85 四65号住居址・カマド平面図 四85 305 西82号住居址・カマド平面図 四85 305 西825号住居址・カマド平面図 四85 305 西25 305 西25 305 305 西25 305 305 西25 305 305 305 西25 30	図版第 257	西16•17号住居址平面図	図版第 288	西57•58号住居址平面図•57号住
図版第 260 西22・23号住居址平面図 図版第 290 西60号住居址・カマド平面図 図版第 261 西24号住居址・カマド平面図 図版第 291 西61・62号住居址平面図・61号住 図版第 262 西25号住居址平面図	図版第 258	西18·19号住居址平面図		居址カマド平面図
図版第 261 西24号住居址・カマド平面図 図版第 291 西61・62号住居址平面図・61号住図版第 262 西25号住居址平面図	図版第 259	西20•21号住居址平面図	図版第 289	西59号住居址平面図
図版第 262 西25号住居址平面図 図版第 263 西26号住居址・カマド平面図 図版第 293 西63・64号住居址平面図・63号住 居址カマド平面図 図版第 264 西27・28号住居址平面図・27号住 居址カマド平面図 図版第 295 西65号住居址・カマド平面図 図版第 296 西29号住居址・カマド平面図 図版第 296 西30号住居址・カマド平面図 図版第 297 西65号住居址・カマド平面図 図版第 266 西30号住居址・カマド平面図 図版第 297 西67・68号住居址・カマド平面図 図版第 267 西31・32号住居址平面図・32号住 居址カマド平面図 図版第 268 西33号住居址・カマド平面図 図版第 298 西69号住居址・カマド平面図 図版第 299 西69号住居址・カマド平面図 図版第 290 西33号住居址・カマド平面図 図版第 290 西34号住居址・カマド平面図 図版第 290 西34号住居址・カマド平面図 図版第 290 西35号住居址・カマド平面図 図版第 270 西35号住居址・カマド平面図 図版第 300 西75号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 302 西77・78号住居址・カマド平面図 図版第 273 西39号住居址・カマド平面図 図版第 303 西79・80号住居址・加図・77号住図版第 274 西40号住居址・カマド平面図 図版第 304 西81号住居址・カマド平面図 図版第 275 西41号住居址・カマド平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図	図版第 260	西22•23号住居址平面図	図版第 290	西60号住居址・カマド平面図
図版第 263 西26号住居址・カマド平面図 図版第 292 西63・64号住居址平面図・63号住 居址カマド平面図 図版第 293 西65号住居址・カマド平面図 図版第 294 西66号住居址・カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址・カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址・カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址・カマド平面図 図版第 296 西30号住居址・カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址・カマド平面図 図版第 296 西69号住居址・カマド平面図 図版第 296 西69号住居址・カマド平面図 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 298 西71・72号住居址・カマド平面図 図版第 299 西73・74号住居址・カマド平面図 図版第 299 西73・74号住居址・カマド平面図 図版第 299 西73・74号住居址・カマド平面図 図版第 300 西75号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 272 西38号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 301 西79・80号住居址・カマド平面図 図版第 303 西79・80号住居址平面図・77号住 図版第 275 西41号住居址・カマド平面図 図版第 304 西81号住居址・カマド平面図 図版第 304 西81号住居址・カマド平面図 図版第 276 西42・44号住居址・カマド平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図 図版第 307 西83号住居址・カマド平面図	図版第 261	西24号住居址・カマド平面図	図版第 291	西61•62号住居址平面図•61号住
図版第 264 西27・28号住居址平面図・27号住 居址カマド平面図 図版第 293 西65号住居址・カマド平面図 図版第 294 西66号住居址・カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址・カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址・カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址平面図・68号住 居址カマド平面図 図版第 296 西69号住居址・カマド平面図 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 298 西71・72号住居址平面図 図版第 298 西71・72号住居址平面図 図版第 270 西35号住居址・カマド平面図 図版第 299 西73・74号住居址・カマド平面図 図版第 271 西36・37号住居址平面図・37号住 図版第 300 西75号住居址・カマド平面図 図版第 272 西38号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 273 西39号住居址・カマド平面図 図版第 302 西77・78号住居址平面図・77号住 図版第 274 西40号住居址・カマド平面図 図版第 303 西79・80号住居址平面図 図版第 275 西41号住居址・カマド平面図 図版第 304 西81号住居址平面図 図版第 276 西42・44号住居址平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図 図版第 277 西45号住居址・カマド平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図 図版第 277 西45号住居址・カマド平面図 図版第 306 西83号住居址・カマド平面図 図版第 307 西83号住居址・カマド平面図	図版第 262	西25号住居址平面図		居址カマド平面図
居址カマド平面図 図版第 293 西65号住居址・カマド平面図 図版第 294 西66号住居址・カマド平面図 図版第 266 西30号住居址・カマド平面図 図版第 267 西31・32号住居址平面図・32号住 屋址カマド平面図 図版第 298 西67・68号住居址平面図・68号住 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 298 西71・72号住居址・カマド平面図 図版第 270 西35号住居址・カマド平面図 図版第 299 西73・74号住居址・カマド平面図 図版第 271 西36・37号住居址平面図・37号住 居址カマド平面図 図版第 272 西38号住居址・カマド平面図 図版第 300 西75号住居址・カマド平面図 図版第 273 西39号住居址・カマド平面図 図版第 300 西75号住居址・カマド平面図 図版第 272 西38号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 273 西39号住居址・カマド平面図 図版第 302 西77・78号住居址・面図・77号住図版第 774 西39号住居址・カマド平面図 図版第 305 西77・78号住居址・カマド平面図 図版第 276 西40号住居址・カマド平面図 図版第 307 西45号住居址・カマド平面図 図版第 308 西81号住居址・カマド平面図 図版第 277 西41号住居址・カマド平面図 図版第 306 西82号住居址・カマド平面図	図版第 263	西26号住居址・カマド平面図	図版第 292	西63•64号住居址平面図•63号住
図版第 265 西29号住居址・カマド平面図 図版第 294 西66号住居址・カマド平面図 図版第 266 西30号住居址・カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址平面図・68号住 居址カマド平面図 図版第 296 西69号住居址・カマド平面図 図版第 296 西69号住居址・カマド平面図 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 298 西71・72号住居址・カマド平面図 図版第 290 西73・74号住居址・カマド平面図 図版第 270 西36・37号住居址・カマド平面図 図版第 299 西73・74号住居址・カマド平面図 図版第 271 西36・37号住居址平面図・37号住 図版第 300 西75号住居址平面図 図版第 272 西38号住居址平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 272 西38号住居址・カマド平面図 図版第 302 西77・78号住居址平面図・77号住 図版第 273 西40号住居址・カマド平面図 図版第 303 西79・80号住居址平面図・77号住 図版第 274 西40号住居址・カマド平面図 図版第 303 西79・80号住居址平面図・77号住 図版第 275 西41号住居址・カマド平面図 図版第 304 西81号住居址平面図 図版第 276 西42・44号住居址平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図 図版第 277 西45号住居址・カマド平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図 図版第 277 西45号住居址・カマド平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図 図版第 277 西45号住居址・カマド平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図	図版第 264	西27•28号住居址平面図•27号住		居址カマド平面図
図版第 266 西30号住居址・カマド平面図 図版第 295 西67・68号住居址平面図・68号住 図版第 267 西31・32号住居址平面図・32号住 居址カマド平面図 図版第 296 西69号住居址・カマド平面図 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 298 西71・72号住居址平面図 図版第 270 西35号住居址・カマド平面図 図版第 299 西73・74号住居址・カマド平面図 図版第 271 西36・37号住居址平面図・37号住 図版第 300 西75号住居址・カマド平面図 図版第 272 西38号住居址平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 273 西39号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 273 西39号住居址・カマド平面図 図版第 303 西77・78号住居址平面図・77号住図版第 273 西40号住居址・カマド平面図 図版第 274 西40号住居址・カマド平面図 図版第 275 西41号住居址・カマド平面図 図版第 305 西81号住居址・カマド平面図 図版第 276 西42・44号住居址平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図 図版第 277 西45号住居址・カマド平面図 図版第 307 西82号住居址・カマド平面図				
図版第 267 西31・32号住居址平面図・32号住 居址カマド平面図 図版第 268 西33号住居址・カマド平面図 図版第 269 西34号住居址・カマド平面図 図版第 270 西35号住居址・カマド平面図 図版第 271 西36・37号住居址平面図・37号住 屋址カマド平面図 図版第 271 西36・37号住居址平面図・37号住 図版第 300 西75号住居址・カマド平面図 図版第 272 西38号住居址平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 273 西39号住居址・カマド平面図 図版第 302 西77・78号住居址平面図・77号住区域第 273 西39号住居址・カマド平面図 図版第 274 西40号住居址・カマド平面図 図版第 275 西41号住居址・カマド平面図 図版第 276 西42・44号住居址平面図 図版第 305 西83号住居址・カマド平面図 図版第 307 西83号住居址・カマド平面図 図版第 307 西83号住居址・カマド平面図		居址カマド平面図	図版第 293	西65号住居址・カマド平面凶
居址カマド平面図図版第 296西69号住居址・カマド平面図図版第 268西33号住居址・カマド平面図図版第 297西70号住居址・カマド平面図図版第 269西34号住居址・カマド平面図図版第 298西71・72号住居址平面図図版第 270西35号住居址・カマド平面図図版第 299西73・74号住居址・カマド平面図図版第 271西36・37号住居址平面図・37号住図版第 300西75号住居址平面図図版第 272西38号住居址平面図図版第 301西76号住居址・カマド平面図図版第 273西39号住居址・カマド平面図図版第 302西77・78号住居址平面図・77号住図版第 274西40号住居址・カマド平面図図版第 303西79・80号住居址平面図図版第 275西41号住居址・カマド平面図図版第 304西81号住居址平面図図版第 276西42・44号住居址平面図図版第 305西82号住居址・カマド平面図図版第 277西45号住居址・カマド平面図図版第 306西83号住居址・カマド平面図	図版第 265			
図版第 268 西33号住居址・カマド平面図 図版第 297 西70号住居址・カマド平面図 図版第 269 西34号住居址・カマド平面図 図版第 298 西71・72号住居址平面図 図版第 270 西35号住居址・カマド平面図 図版第 299 西73・74号住居址・カマド平面図 図版第 271 西36・37号住居址平面図・37号住 図版第 300 西75号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 302 西77・78号住居址・カマド平面図 図版第 273 西38号住居址・カマド平面図 図版第 302 西77・78号住居址平面図・77号住 図版第 273 西39号住居址・カマド平面図 図版第 303 西79・80号住居址平面図 図版第 275 西41号住居址・カマド平面図 図版第 304 西81号住居址平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図 図版第 307 西83号住居址・カマド平面図 図版第 307 西83号住居址・カマド平面図 図版第 308 西83号住居址・カマド平面図 図版第 306 西83号住居址・カマド平面図		西29号住居址・カマド平面図	図版第 294	西66号住居址・カマド平面図
図版第 269 西34号住居址・カマド平面図 図版第 298 西71・72号住居址平面図 図版第 270 西35号住居址・カマド平面図 図版第 299 西73・74号住居址・カマド平面図 図版第 271 西36・37号住居址平面図・37号住 図版第 300 西75号住居址平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 302 西77・78号住居址平面図・77号住 図版第 273 西39号住居址・カマド平面図 図版第 303 西79・80号住居址平面図 図版第 274 西40号住居址・カマド平面図 図版第 303 西79・80号住居址平面図 図版第 275 西41号住居址・カマド平面図 図版第 304 西81号住居址平面図 図版第 276 西42・44号住居址平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図 図版第 277 西45号住居址・カマド平面図 図版第 306 西83号住居址・カマド平面図	図版第 266	西29号住居址・カマド平面図 西30号住居址・カマド平面図	図版第 294	西66号住居址・カマド平面図 西67・68号住居址平面図・68号住
図版第 270 西35号住居址・カマド平面図 図版第 299 西73・74号住居址・カマド平面図 図版第 271 西36・37号住居址平面図・37号住 図版第 300 西75号住居址平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 302 西77・78号住居址平面図・77号住 図版第 273 西39号住居址・カマド平面図 図版第 303 西79・80号住居址平面図 図版第 274 西40号住居址・カマド平面図 図版第 303 西79・80号住居址平面図 図版第 275 西41号住居址・カマド平面図 図版第 304 西81号住居址平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図 図版第 276 西42・44号住居址平面図 図版第 306 西83号住居址・カマド平面図 図版第 306 西83号住居址・カマド平面図	図版第 266	西29号住居址・カマド平面図 西30号住居址・カマド平面図 西31・32号住居址平面図・32号住	図版第 294 図版第 295	西66号住居址・カマド平面図 西67・68号住居址平面図・68号住 居址カマド平面図
図版第 271 西36・37号住居址平面図・37号住 図版第 300 西75号住居址平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 302 西77・78号住居址平面図・77号住図版第 273 西39号住居址・カマド平面図 図版第 303 西79・80号住居址平面図 図版第 274 西40号住居址・カマド平面図 図版第 303 西79・80号住居址平面図 図版第 275 西41号住居址・カマド平面図 図版第 304 西81号住居址平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図 図版第 276 西42・44号住居址平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図 図版第 307 西83号住居址・カマド平面図 図版第 307 西83号住居址・カマド平面図	図版第 266 図版第 267	西29号住居址・カマド平面図 西30号住居址・カマド平面図 西31・32号住居址平面図・32号住 居址カマド平面図	図版第 294 図版第 295 図版第 296	西66号住居址・カマド平面図 西67・68号住居址平面図・68号住 居址カマド平面図 西69号住居址・カマド平面図
居址カマド平面図 図版第 301 西76号住居址・カマド平面図 図版第 272 西38号住居址平面図 図版第 302 西77・78号住居址平面図・77号住図版第 273 西39号住居址・カマド平面図 居址カマド平面図 図版第 303 西79・80号住居址平面図 図版第 274 西40号住居址・カマド平面図 図版第 304 西81号住居址平面図 図版第 275 西41号住居址・カマド平面図 図版第 304 西81号住居址平面図 図版第 276 西42・44号住居址平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図 図版第 277 西45号住居址・カマド平面図 図版第 306 西83号住居址・カマド平面図	図版第 266 図版第 267 図版第 268	西29号住居址・カマド平面図 西30号住居址・カマド平面図 西31・32号住居址平面図・32号住 居址カマド平面図 西33号住居址・カマド平面図	図版第 294 図版第 295 図版第 296 図版第 297	西66号住居址・カマド平面図 西67・68号住居址平面図・68号住 居址カマド平面図 西69号住居址・カマド平面図 西70号住居址・カマド平面図
図版第 272 西38号住居址平面図 図版第 302 西77・78号住居址平面図・77号住 図版第 273 西39号住居址・カマド平面図 居址カマド平面図 図版第 303 西79・80号住居址平面図 図版第 274 西40号住居址・カマド平面図 図版第 303 西79・80号住居址平面図 図版第 304 西81号住居址平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図 図版第 277 西45号住居址・カマド平面図 図版第 306 西83号住居址・カマド平面図	図版第 266 図版第 267 図版第 268 図版第 269	西29号住居址・カマド平面図 西30号住居址・カマド平面図 西31・32号住居址平面図・32号住 居址カマド平面図 西33号住居址・カマド平面図 西34号住居址・カマド平面図	図版第 294 図版第 295 図版第 296 図版第 297 図版第 298	西66号住居址・カマド平面図 西67・68号住居址平面図・68号住居址カマド平面図 西69号住居址・カマド平面図 西70号住居址・カマド平面図 西71・72号住居址平面図
図版第 273西39号住居址・カマド平面図居址カマド平面図図版第 274西40号住居址・カマド平面図図版第 303西79・80号住居址平面図図版第 275西41号住居址・カマド平面図図版第 304西81号住居址平面図図版第 276西42・44号住居址平面図図版第 305西82号住居址・カマド平面図図版第 277西45号住居址・カマド平面図図版第 306西83号住居址・カマド平面図	図版第 266 図版第 267 図版第 268 図版第 269 図版第 270	西29号住居址・カマド平面図 西30号住居址・カマド平面図 西31・32号住居址平面図・32号住 居址カマド平面図 西33号住居址・カマド平面図 西34号住居址・カマド平面図 西35号住居址・カマド平面図	図版第 294 図版第 295 図版第 296 図版第 297 図版第 298 図版第 299	西66号住居址・カマド平面図 西67・68号住居址平面図・68号住 居址カマド平面図 西69号住居址・カマド平面図 西70号住居址・カマド平面図 西71・72号住居址平面図 西73・74号住居址・カマド平面図
図版第 274西40号住居址・カマド平面図図版第 303西79・80号住居址平面図図版第 275西41号住居址・カマド平面図図版第 304西81号住居址平面図図版第 276西42・44号住居址平面図図版第 305西82号住居址・カマド平面図図版第 277西45号住居址・カマド平面図図版第 306西83号住居址・カマド平面図	図版第 266 図版第 267 図版第 268 図版第 269 図版第 270	西29号住居址・カマド平面図 西30号住居址・カマド平面図 西31・32号住居址平面図・32号住 居址カマド平面図 西33号住居址・カマド平面図 西34号住居址・カマド平面図 西35号住居址・カマド平面図 西35号住居址・カマド平面図 西36・37号住居址平面図・37号住	図版第 294 図版第 295 図版第 296 図版第 297 図版第 298 図版第 299 図版第 300	西66号住居址・カマド平面図 西67・68号住居址平面図・68号住 居址カマド平面図 西69号住居址・カマド平面図 西70号住居址・カマド平面図 西71・72号住居址平面図 西73・74号住居址・カマド平面図 西75号住居址平面図
図版第 275西41号住居址・カマド平面図図版第 304西81号住居址平面図図版第 276西42・44号住居址平面図図版第 305西82号住居址・カマド平面図図版第 277西45号住居址・カマド平面図図版第 306西83号住居址・カマド平面図	図版第 266 図版第 267 図版第 268 図版第 269 図版第 270 図版第 271	西29号住居址・カマド平面図 西30号住居址・カマド平面図 西31・32号住居址平面図・32号住 居址カマド平面図 西33号住居址・カマド平面図 西34号住居址・カマド平面図 西35号住居址・カマド平面図 西36・37号住居址平面図・37号住 居址カマド平面図	図版第 294 図版第 295 図版第 296 図版第 297 図版第 298 図版第 299 図版第 300 図版第 301	西66号住居址・カマド平面図 西67・68号住居址平面図・68号住 居址カマド平面図 西69号住居址・カマド平面図 西70号住居址・カマド平面図 西71・72号住居址平面図 西73・74号住居址・カマド平面図 西75号住居址平面図 西75号住居址平面図
図版第 276 西42・44号住居址平面図 図版第 305 西82号住居址・カマド平面図 図版第 277 西45号住居址・カマド平面図 図版第 306 西83号住居址・カマド平面図	図版第 266 図版第 267 図版第 268 図版第 269 図版第 270 図版第 271	西29号住居址・カマド平面図 西30号住居址・カマド平面図 西31・32号住居址平面図・32号住 居址カマド平面図 西33号住居址・カマド平面図 西34号住居址・カマド平面図 西35号住居址・カマド平面図 西36・37号住居址平面図・37号住 居址カマド平面図 西38号住居址平面図	図版第 294 図版第 295 図版第 296 図版第 297 図版第 298 図版第 299 図版第 300 図版第 301	西66号住居址・カマド平面図 西67・68号住居址平面図・68号住 居址カマド平面図 西69号住居址・カマド平面図 西70号住居址・カマド平面図 西71・72号住居址平面図 西73・74号住居址・カマド平面図 西75号住居址平面図 西76号住居址・カマド平面図 西76号住居址・カマド平面図
図版第 277 西45号住居址・カマド平面図 図版第 306 西83号住居址・カマド平面図	図版第 266 図版第 267 図版第 268 図版第 269 図版第 270 図版第 271	西29号住居址・カマド平面図 西30号住居址・カマド平面図 西31・32号住居址平面図・32号住 居址カマド平面図 西33号住居址・カマド平面図 西34号住居址・カマド平面図 西35号住居址・カマド平面図 西36・37号住居址平面図・37号住 居址カマド平面図 西38号住居址平面図 西38号住居址平面図	図版第 294 図版第 295 図版第 296 図版第 297 図版第 298 図版第 300 図版第 301 図版第 301	西66号住居址・カマド平面図 西67・68号住居址平面図・68号住 居址カマド平面図 西69号住居址・カマド平面図 西70号住居址・カマド平面図 西71・72号住居址平面図 西73・74号住居址・カマド平面図 西75号住居址平面図 西75号住居址平面図 西76号住居址・カマド平面図 西77・78号住居址平面図
	図版第 266 図版第 267 図版第 268 図版第 269 図版第 270 図版第 271 図版第 272 図版第 273 図版第 274	西29号住居址・カマド平面図 西30号住居址・カマド平面図 西31・32号住居址平面図・32号住 居址カマド平面図 西33号住居址・カマド平面図 西34号住居址・カマド平面図 西35号住居址・カマド平面図 西36・37号住居址・カマド平面図 西36・37号住居址平面図・37号住 居址カマド平面図 西38号住居址平面図 西39号住居址・カマド平面図 西40号住居址・カマド平面図	図版第 294 図版第 295 図版第 296 図版第 297 図版第 298 図版第 300 図版第 301 図版第 302	西66号住居址・カマド平面図 西67・68号住居址平面図・68号住 居址カマド平面図 西69号住居址・カマド平面図 西70号住居址・カマド平面図 西71・72号住居址平面図 西73・74号住居址・カマド平面図 西75号住居址平面図 西76号住居址・カマド平面図 西77・78号住居址・カマド平面図 西77・8号住居址平面図
図版第 278 西46号住居址・カマド平面図 図版第 307 西井戸址	図版第 266 図版第 267 図版第 268 図版第 270 図版第 271 図版第 271 図版第 272 図版第 273 図版第 274	西29号住居址・カマド平面図 西30号住居址・カマド平面図 西31・32号住居址平面図・32号住居址平面図・32号住居址カマド平面図 西33号住居址・カマド平面図 西34号住居址・カマド平面図 西35号住居址・カマド平面図 西36・37号住居址平面図・37号住居址 アド平面図 西38号住居址平面図 西38号住居址・カマド平面図 西40号住居址・カマド平面図 西40号住居址・カマド平面図 西41号住居址・カマド平面図	図版第 294 図版第 295 図版第 296 図版第 297 図版第 298 図版第 300 図版第 301 図版第 302 図版第 303	西66号住居址・カマド平面図 西67・68号住居址平面図・68号住 居址カマド平面図 西69号住居址・カマド平面図 西70号住居址・カマド平面図 西71・72号住居址平面図 西73・74号住居址平面図 西75号住居址平面図 西75号住居址平面図 西76号住居址・カマド平面図 西77・78号住居址平面図 西77・78号住居址平面図・77号住 居址カマド平面図 西79・80号住居址平面図
	図版第 266 図版第 267 図版第 268 図版第 270 図版第 271 図版第 271 図版第 273 図版第 274 図版第 275 図版第 275	西29号住居址・カマド平面図 西30号住居址・カマド平面図 西31・32号住居址平面図・32号住 居址カマド平面図 西33号住居址・カマド平面図 西33号住居址・カマド平面図 西35号住居址・カマド平面図 西36・37号住居址・カマド平面図 西36・37号住居址平面図・37号住居址 ア軍回図 西38号住居址・カマド平面図 西39号住居址・カマド平面図 西40号住居址・カマド平面図 西41号住居址・カマド平面図 西41号住居址・カマド平面図 西42・44号住居址平面図	図版第 294 図版第 295 図版第 296 図版第 298 図版第 299 図版第 300 図版第 301 図版第 302 図版第 303 図版第 304 図版第 304	西66号住居址・カマド平面図 西67・68号住居址平面図・68号住居址かマド平面図 西69号住居址・カマド平面図 西70号住居址・カマド平面図 西71・72号住居址平面図 西73・74号住居址平面図 西75号住居址平面図 西76号住居址平面図 西76号住居址・カマド平面図 西77・78号住居址平面図 西77・78号住居址平面図 西77・78号住居址平面図 西78号住居址平面図 西81号住居址平面図 西81号住居址平面図

					h.d.
図版第 308	西井戸址 2 号溝		図版第 339	27 • 28号住居址出土道	物
図版第 309	西1号溝状遺構		図版第 340	29号住居址出土遺物	
図版第 310	1号住居址出土遺物	(1)	図版第 341	30号住居址出土遺物	
図版第 311	1号住居址出土遺物	(2)	図版第 342	31号住居址出土遺物	
図版第 312	1号住居址出土遺物	(3)		32号住居址出土遺物	(1)
図版第 313	1号住居址出土遺物	(4)	図版第 343	32号住居址出土遺物	(2)
図版第 314	2号住居址出土遺物			33号住居址出土遺物	
図版第 315	3 • 4 号住居址出土边	遺物	図版第 344	34 • 35 • 37号住居址日	出土遺物
	5号住居址出土遺物	(1)	図版第 345	38 • 39号住居址出土通	遺物
図版第 316	5号住居址出土遺物	(2)		40号住居址出土遺物	(1)
図版第 317	5号住居址出土遺物	(3)	図版第 346	40号住居址出土遺物	(2)
図版第 318	6 • 7 • 8 号住居址b	出土遺物	図版第 347	40号住居址出土遺物	(3)
図版第 319	9号住居址出土遺物		図版第 348	41 • 42号住居址出土近	遺物
図版第 320	10号住居址出土遺物		図版第 349	43号住居址出土遺物	(1)
図版第 321	11号住居址出土遺物	(1)	図版第 350	43号住居址出土遺物	(2)
図版第 322	11号住居址出土遺物	(2)		45号住居址出土遺物	
図版第 323	12号住居址出土遺物	(1)	図版第 351	46•47•48号住居址出	出土遺物
図版第 324	12号住居址出土遺物	(2)	図版第 352	49号住居址出土遺物	
	13号住居址出土遺物	(1)		51号住居址出土遺物	(1)
図版第 325	13号住居址出土遺物	(2)	図版第 353	51号住居址出土遺物	(2)
図版第 326	13号住居址出土遺物	(3)		52号住居址出土遺物	
図版第 327	14号住居址出土遺物		図版第 354	53号住居址出土遺物	(1)
図版第 328	15号住居址出土遺物		図版第 355	53号住居址出土遺物	(2)
	16号住居址出土遺物	(1)	図版第 356	54号住居址出土遺物	(1)
図版第 329	16号住居址出土遺物	(2)	図版第 357	54号住居址出土遺物	(2)
図版第 330	17号住居址出土遺物	(1)	図版第 358	55号住居址出土遺物	
図版第 331	17号住居址出土遺物	(2)	図版第 359	56号住居址出土遺物	
図版第 332	17号住居址出土遺物	(3)	図版第 360	58号住居址出土遺物	(1)
	18 • 19号住居址出土道	遺物	図版第 361	58号住居址出土遺物	(2)
図版第 333	20号住居址出土遺物		図版第 362	58号住居址出土遺物	(3)
図版第 334	21号住居址出土遺物		図版第 363	59号住居址出土遺物	
	22号住居址出土遺物	(1)		60号住居址出土遺物	(1)
図版第 335	22号住居址出土遺物	(2)	図版第 364	60号住居址出土遺物	(2)
図版第 336	23号住居址出土遺物		図版第 365	69号住居址出土遺物	(3)
図版第 337	254号住居址出土遺物	勿	図版第 366	61号住居址出土遺物	
図版第 338	25 • 26号住居址出土边	遺物		62号住居址出土遺物	(1)

図版第 367	62号住居址出土遺物	(2)	図版筆 400	92 • 93号住居址出土遺物
図版第 368	62号住居址出土遺物	(3)	図版第 401	94号住居址出土遺物 (1)
図版第 369	63号住居址出土遺物	,	図版第 402	94号住居址出土遺物 (2)
Editorale con	64号住居址出土遺物	(1)	図版第 403	95 • 96号住居址出土遺物
図版第 370	64号住居址出土遺物	(2)	図版第 404	97 • 98号住居址出土遺物
図版第 371	64号住居址出土遺物	(3)		99号住居址出土遺物 (1)
図版第 372	65号住居址出土遺物		図版第 405	99号住居址出土遺物 (2)
図版第 373	66 • 67号住居址出土遺	遺物	図版第 406	100号住居址出土遺物
図版第 374	68号住居址出土遺物		図版第 407	100 • 102号住居址出土遺物
図版第 375	69号住居址出土遺物	(1)		103号住居址出土遺物 (1)
図版第 376	69号住居址出土遺物	(2)	図版第 408	103号住居址出土遺物 (2)
図版第 377	69号住居址出土遺物	(3)	図版第 409	104・105号住居址出土遺物
図版第 378	69号住居址出土遺物	(4)	図版第 410	106 • 107号住居址出土遺物
図版第 379	70号住居址出土遺物		図版第 411	108 • 109号住居址出土遺物
図版第 380	71号住居址出土遺物		図版第 412	110・111・112号住居址出土遺
	72号住居址出土遺物	(1)		物
図版第 381	72号住居址出土遺物	(2)	図版第 413	113・115号住居址出土遺物
図版第 382	74•75号住居址出土遺	貴物	図版第 414	116・117号住居出土遺物
図版第 383	76号住居址出土遺物		図版第 415	118 • 119 • 120 • 121号住居址
図版第 383 図版第 384	76号住居址出土遺物 77号住居址出土遺物		図版第 415	118 • 119 • 120 • 121号住居址 出土遺物
		(1)	図版第 415 図版第 416	
図版第 384	77号住居址出土遺物	(1) (2)		出土遺物
図版第 384 図版第 385	77号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物	,-,	図版第 416	出土遺物 122号住居址出土遺物
図版第 384 図版第 385 図版第 386	77号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物	(2)	図版第 416	出土遺物 122号住居址出土遺物 123号住居址出土遺物
図版第 384 図版第 385 図版第 386 図版第 387	77号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物	(2) (1)	図版第 416 図版第 417	出土遺物 122号住居址出土遺物 123号住居址出土遺物 125号住居址出土遺物 (1)
図版第 384 図版第 385 図版第 386 図版第 387 図版第 388	77号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物	(2) (1) (2)	図版第 416 図版第 417 図版第 418	出土遺物 122号住居址出土遺物 123号住居址出土遺物 125号住居址出土遺物 (1) 125号住居址出土遺物 (2)
図版第 384 図版第 385 図版第 386 図版第 387 図版第 388 図版第 389	77号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物	(2) (1) (2) (3)	図版第 416 図版第 417 図版第 418 図版第 419	出土遺物 122号住居址出土遺物 123号住居址出土遺物 125号住居址出土遺物 (1) 125号住居址出土遺物 (2) 125号住居址出土遺物 (3)
図版第 384 図版第 385 図版第 386 図版第 387 図版第 388 図版第 389	77号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物	(2) (1) (2) (3) (4)	図版第 416 図版第 417 図版第 418 図版第 419 図版第 420	出土遺物 122号住居址出土遺物 123号住居址出土遺物 125号住居址出土遺物 (1) 125号住居址出土遺物 (2) 125号住居址出土遺物 (3) 126•127号住居址出土遺物
図版第 384 図版第 385 図版第 386 図版第 387 図版第 388 図版第 389 図版第 390	77号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 80号住居址出土遺物	(2) (1) (2) (3) (4) (1)	図版第 416 図版第 417 図版第 418 図版第 419 図版第 420 図版第 421 図版第 422	出土遺物 122号住居址出土遺物 123号住居址出土遺物 125号住居址出土遺物 (1) 125号住居址出土遺物 (2) 125号住居址出土遺物 (3) 126•127号住居址出土遺物 128号住居址出土遺物 (1)
図版第 384 図版第 385 図版第 386 図版第 387 図版第 388 図版第 399 図版第 390	77号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 80号住居址出土遺物 80号住居址出土遺物	(2) (1) (2) (3) (4) (1)	図版第 416 図版第 417 図版第 418 図版第 419 図版第 420 図版第 421 図版第 422 図版第 423	出土遺物 122号住居址出土遺物 123号住居址出土遺物 125号住居址出土遺物 (1) 125号住居址出土遺物 (2) 125号住居址出土遺物 (3) 126•127号住居址出土遺物 128号住居址出土遺物 (1) 128号住居址出土遺物 (2)
図版第 384 図版第 385 図版第 386 図版第 387 図版第 388 図版第 389 図版第 390	77号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 80号住居址出土遺物 80号住居址出土遺物 80号住居址出土遺物	(2) (1) (2) (3) (4) (1) (2)	図版第 416 図版第 417 図版第 418 図版第 419 図版第 420 図版第 421 図版第 422 図版第 423	出土遺物 122号住居址出土遺物 123号住居址出土遺物 125号住居址出土遺物 (1) 125号住居址出土遺物 (2) 125号住居址出土遺物 (3) 126•127号住居址出土遺物 128号住居址出土遺物 (1) 128号住居址出土遺物 (2) 128号住居址出土遺物 (3) 128号住居址出土遺物 (4) 129号住居址出土遺物 (1)
図版第 384 図版第 385 図版第 386 図版第 387 図版第 389 図版第 390 図版第 391 図版第 392 図版第 393 図版第 393	77号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 80号住居址出土遺物 80号住居址出土遺物 81号住居址出土遺物 81号住居址出土遺物	(2) (1) (2) (3) (4) (1) (2)	図版第 416 図版第 417 図版第 418 図版第 419 図版第 420 図版第 421 図版第 422 図版第 423 図版第 423	出土遺物 122号住居址出土遺物 123号住居址出土遺物 125号住居址出土遺物 (1) 125号住居址出土遺物 (2) 125号住居址出土遺物 (3) 126•127号住居址出土遺物 (1) 128号住居址出土遺物 (2) 128号住居址出土遺物 (2) 128号住居址出土遺物 (3) 128号住居址出土遺物 (4) 129号住居址出土遺物 (1)
図版第 384 図版第 385 図版第 386 図版第 387 図版第 389 図版第 390 図版第 391 図版第 392 図版第 393 図版第 394 図版第 395 図版第 396	77号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 80号住居址出土遺物 80号住居址出土遺物 80号住居址出土遺物 81号住居址出土遺物 82号住居址出土遺物 82号住居址出土遺物	(2) (1) (2) (3) (4) (1) (2) (1) (2) (3) (4) (4)	図版第 416 図版第 417 図版第 418 図版第 419 図版第 420 図版第 421 図版第 423 図版第 423 図版第 424 図版第 425 図版第 426	出土遺物 122号住居址出土遺物 123号住居址出土遺物 125号住居址出土遺物 (1) 125号住居址出土遺物 (2) 125号住居址出土遺物 (3) 126•127号住居址出土遺物 128号住居址出土遺物 (1) 128号住居址出土遺物 (2) 128号住居址出土遺物 (3) 128号住居址出土遺物 (4) 129号住居址出土遺物 (1) 129号住居址出土遺物 (1)
図版第 384 図版第 385 図版第 386 図版第 388 図版第 389 図版第 390 図版第 391 図版第 392 図版第 393 図版第 394 図版第 395 図版第 396 図版第 397	77号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 80号住居址出土遺物 80号住居址出土遺物 82号住居址出土遺物 82号住居址出土遺物 82号住居址出土遺物 82号住居址出土遺物 82号住居址出土遺物	(2) (1) (2) (3) (4) (1) (2) (1) (2) (3) (4) 号址出土遺物	図版第 416 図版第 417 図版第 418 図版第 419 図版第 420 図版第 421 図版第 422 図版第 423 図版第 424 図版第 425 図版第 425 図版第 427	出土遺物 122号住居址出土遺物 123号住居址出土遺物 125号住居址出土遺物 (1) 125号住居址出土遺物 (2) 125号住居址出土遺物 (3) 126•127号住居址出土遺物 128号住居址出土遺物 (1) 128号住居址出土遺物 (2) 128号住居址出土遺物 (3) 128号住居址出土遺物 (4) 129号住居址出土遺物 (1) 129号住居址出土遺物 (2) 129号住居址出土遺物 (2) 129号住居址出土遺物 (3)
図版第 384 図版第 385 図版第 386 図版第 388 図版第 399 図版第 390 図版第 391 図版第 392 図版第 393 図版第 394 図版第 395 図版第 396 図版第 397	77号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 78号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 79号住居址出土遺物 80号住居址出土遺物 80号住居址出土遺物 80号住居址出土遺物 81号住居址出土遺物 82号住居址出土遺物 82号住居址出土遺物	(2) (1) (2) (3) (4) (1) (2) (1) (2) (3) (4) 号址出土遺物	図版第 416 図版第 417 図版第 418 図版第 420 図版第 421 図版第 422 図版第 423 図版第 423 図版第 425 図版第 425 図版第 426 図版第 426 図版第 428	出土遺物 122号住居址出土遺物 123号住居址出土遺物 125号住居址出土遺物 (1) 125号住居址出土遺物 (2) 125号住居址出土遺物 (3) 126•127号住居址出土遺物 128号住居址出土遺物 (1) 128号住居址出土遺物 (2) 128号住居址出土遺物 (3) 128号住居址出土遺物 (4) 129号住居址出土遺物 (1) 129号住居址出土遺物 (1)

図版第 431	130号住居址出土遺物 (2)	図版第 458	172号住居址出土遺物 (2)
図版第 432	131号住居址出土遺物	図版第 459	173号住居址出土遺物
	132号住居址出土遺物 (1)	図版第 460	174・175・176号住居址出土遺物
図版第 433	132号住居址出土遺物 (2)	図版第 461	177号住居址出土遺物
図版第 434	132号住居址出土遺物 (3)	図版第 462	178 • 179 • 180号住居址出土遺物
図版第 435	132号住居址出土遺物 (4)	図版第 463	182号住居址出土遺物 (1)
図版第 436	133号住居址出土遺物	図版第 464	182号住居址出土遺物 (2)
図版第 437	134号住居址出土遺物	図版第 465	182号住居址出土遺物 (3)
	135号住居址出土遺物 (1)	図版第 466	182号住居址出土遺物 (4)
図版第 438	135号住居址出土遺物 (2)	図版第 467	183・184・186・188号住居址出
図版第 439	135号住居址出土遺物 (3)		土遺物
	136号住居址出土遺物	図版第 468	189・190・191号住居址出土遺物
図版第 440	137 • 138 • 39号住居址出土遺物	図版第 469	193・194・195・196号住居址出
図版第 441	140 • 142号住居址出土遺物		土遺物
図版第 442	143号住居址出土遺物	図版第 470	197号住居址出土遺物
	144号住居址出土遺物 (1)	図版第 471	198 • 200 • 202号住居址出土遺物
図版第 443	144号住居址出土遺物 (2)	図版第 472	203号住居址出土遺物
	145号住居址出土遺物		204号住居址出土遺物
図版第 444	147号住居址出土遺物	図版第 473	205号住居址出土遺物
図版第 445	148号住居址出土遺物 (1)		206号住居址出土遺物 (1)
図版第 446	148号住居址出土遺物 (2)	図版第 474	206号住居址出土遺物 (2)
図版第 447	149号住居址出土遺物	図版第 475	206号住居址出土遺物 (3)
	150号住居址出土遺物 (1)	図版第 476	207号住居址出土遺物 (1)
図版第 448	150号住居址出土遺物 (2)	図版第 477	207号住居址出土遺物 (2)
図版第 449	151号住居址出土遺物	図版第 478	208号住居址出土遺物
	152号住居址出土遺物		209号住居址出土遺物 (1)
図版第 450	153 • 154 • 155 • 157号住居址出	図版第 479	209号住居址出土遺物 (2)
	土遺物	図版第 480	210号住居址出土遺物 (1)
図版第 451	158号住居址出土遺物	図版第 481	210号住居址出土遺物 (2)
図版第 452	159・160・161号住居址出土遺物	図版第 482	210号住居址出土遺物 (3)
図版第 453	162 • 163号住居址出土遺物	図版第 483	211号住居址出土遺物
図版第 454	166 • 167号住居址出土遺物	図版第 484	212号住居址出土遺物
図版第 455	168 • 169号住居址出土遺物		213号住居址出土遺物
図版第 456	170号住居址出土遺物	図版第 485	214号住居址出土遺物
図版第 457	170号住居址出土遺物		215号住居址出土遺物 (1)
	172号住居址出土遺物 (1)	図版第 486	215号住居址出土遺物 (2)

図版第 487	215号住居址出土遺物 (3)	図版第 519	257号住居址出土遺物	(1)
	216号住居址出土遺物	図版第 520	257号住居址出土遺物	(2)
図版第 488	217号住居址出土遺物	図版第 521	258号住居址出土遺物	
図版第 489	218•219•220号住居址出土遺物	図版第 522	259 • 260号住居址出土	遺物
図版第 490	224号住居址出土遺物	図版第 523	261号住居址出土遺物	
図版第 491	225 • 226号住居址出土遺物		261号住居址出土遺物	(1)
図版第 492	227号住居址出土遺物	図版第 524	262号住居址出土遺物	(2)
図版第 493	228 • 229号住居址出土遺物		263号住居址出土遺物	
図版第 494	230・231・232号住居址出土遺物	図版第 525	264号住居址出土遺物	
図版第 495	236号住居址出土遺物	図版第 526	265号住居址出土遺物	
	237-1号住居址出土遺物 (1)	図版第 527	266号住居址出土遺物	(1)
図版第 496	237-1号住居址出土遺物 (2)	図版第 528	266号住居址出土遺物	(2)
図版第 497	237-2号住居址出土遺物	図版第 529	267号住居址出土遺物	
図版第 498	238号住居址出土遺物		268号住居址出土遺物	(1)
図版第 499	239号住居址出土遺物 (1)	図版第 530	268号住居址出土遺物	(2)
図版第 500	239号住居址出土遺物 (2)	図版第 531	268号住居址出土遺物	(3)
図版第 501	240号住居址出土遺物	図版第 532	269号住居址出土遺物	
図版第 502	241•242•243号住居址出土遺物	図版第 533	270号住居址出土遺物	
図版第 503	244号住居址出土遺物 (1)	図版第 534	271号住居址出土遺物	
図版第 504	244号住居址出土遺物 (2)	図版第 535	272号住居址出土遺物	
図版第 505	245号住居址出土遺物	図版第 536	273号住居址出土遺物	
図版第 506	246号住居址出土遺物 (1)		275号住居址出土遺物	(1)
図版第 507	246号住居址出土遺物 (2)	図版第 537	275号住居址出土遺物	(2)
図版第 508	246号住居址出土遺物 (3)	図版第 538	276号住居址出土遺物	
図版第 509	246号住居址出土遺物 (4)		277号住居址出土遺物	(1)
図版第 510	247 • 251号住居址出土遺物	図版第 539	277号住居址出土遺物	(2)
図版第 511	252号住居址出土遺物	図版第 540	277号住居址出土遺物	(3)
図版第 512	253号住居址出土遺物 (1)	図版第 541	277号住居址出土遺物	(4)
図版第 513	253号住居址出土遺物 (2)	図版第 542	278号住居址出土遺物	(1)
図版第 514	253号住居址出土遺物 (3)	図版第 543	278号住居址出土遺物	(2)
図版第 515	254号住居址出土遺物	図版第 544	279号住居址出土遺物	
図版第 516	255号住居址出土遺物	図版第 545	280号住居址出土遺物	
	256号住居址出土遺物 (1)	図版第 546	281 • 282号住居址出土	遺物
図版第 517	256号住居址出土遺物 (2)	図版第 547	283号住居址出土遺物	(1)
図版第 518	256号住居址出土遺物 (3)	図版第 548	283号住居址出土遺物	(2)

図版第 549	284号住居址出土遺物	図版第 578 316号住居址出土遺物
図版第 550	285 • 286 • 287-1号住居址出土遺	図版第 579 317号住居址出土遺物
	物	図版第 580 318 · 319号住居址出土遺物
図版第 551	287-2 • 288号住居址出土遺物	図版第 581 320 • 321 • 322号住居址出土遺物
図版第 552	289号住居址出土遺物 (1)	図版第 582 323号住居址出土遺物
図版第 553	289号住居址出土遺物 (2)	図版第 583 西 1 号住居址出土遺物 (1)
図版第 554	290 • 291号住居址出土遺物	図版第 584 西 1 号住居址出土遺物 (2)
図版第 555	292号住居址出土遺物	図版第 585 西 2 号住居址出土遺物
図版第 556	293号住居址出土遺物	図版第 586 西 3 • 西 4 • 西 5 号住居址出土遺物
	294号住居址出土遺物 (1)	図版第 587 西 6 号住居址出土遺物
図版第 557	294号住居址出土遺物 (2)	図版第 588 西7号住居址出土遺物
図版第 558	295号住居址出土遺物	図版第 589 西 8 号住居址出土遺物 (1)
図版第 559	296 • 297号住居址出土遺物	図版第 590 西 8 号住居址出土遺物 (2)
図版第 560	298 • 299号住居址出土遺物	図版第 591 西 8 号住居址出土遺物 (3)
	301号住居址出土遺物 (1)	図版第 592 西 9 号住居址出土遺物 (1)
図版第 561	301号住居址出土遺物 (2)	図版第 593 西 9 号住居址出土遺物 (2)
	303号住居址出土遺物	図版第 594 西10号住居址出土遺物 (1)
図版第 562	304号住居址出土遺物 (1)	図版第 595 西10号住居址出土遺物 (2)
図版第 563	304号住居址出土遺物 (2)	図版第 596 西10号住居址出土遺物 (3)
図版第 564	305号住居址出土遺物	図版第 597 西11•西12号住居址出土遺物
図版第 565	306号住居址出土遺物 (1)	図版第 598 西13号住居址出土遺物
図版第 566	306号住居址出土遺物 (2)	図版第 599 西14 • 西15号住居址出土遺物
図版第 567	306号住居址出土遺物 (3)	図版第 600 西16号住居址出土遺物 (1)
図版第 568	307号住居址出土遺物	図版第 601 西16号住居址出土遺物 (2)
図版第 569	308・310・311号住居址出土址遺	図版第 602 西16号住居址出土遺物 (3)
	物	図版第 603 西17号住居址出土遺物
図版第 570	312号住居址出土址遺物	図版第 604 西18号住居址出土遺物
	313号住居址出土遺物 (1)	図版第 605 西19号住居址出土遺物
図版第 571	313号住居址出土遺物 (2)	図版第 606 西20号住居址出土遺物
図版第 572	314号住居址出土遺物 (1)	西21号住居址出土遺物 (1)
図版第 573	314号住居址出土遺物 (2)	図版第 607 西21号住居址出土遺物 (2)
図版第 574	314号住居址出土遺物(3)	図版第 608 西21号住居址出土遺物 (3)
図版第 575	314号住居址出土遺物 (4)	図版第 609 西24号住居址出土遺物 (1)
図版第 576	315号住居址出土遺物 (1)	図版第 610 西24号住居址出土遺物 (2)
図版第 577	315号住居址出土遺物 (2)	図版第 611 西24号住居址出土遺物

		•		
図版第 612	西26号住居址出土遺物	(1)	図版第 645	西47号住居址出土遺物
図版第 613	西26号住居址出土遺物	(2)	図版第 646	西48号住居址出土遺物 (1)
図版第 614	西26号住居址出土遺物	(3)	図版第 647	西48号住居址出土遺物 (2)
図版第 615	西27号住居址出土遺物		図版第 648	西49号住居址出土遺物
図版第 616	西28号住居址出土遺物		図版第 649	西50•西51•西52号住居址出土遺物
図版第 617	西29号住居址出土遺物	(1)	図版第 650	西53号住居址出土遺物
図版第 618	西29号住居址出土遺物	(2)	図版第 651	西54号住居址出土遺物
図版第 619	西29号住居址出土遺物	(3)	図版第 652	西55号住居址出土遺物
図版第 620	西30号住居址出土遺物		図版第 653	西56•西57号住居址出土遺物
図版第 621	西31号住居址出土遺物		図版第 654	西58号住居址出土遺物
図版第 622	西32号住居址出土遺物	(1)	図版第 655	西59•西60•西61号居址出土遺物
図版第 623	西32号住居址出土遺物	(2)	図版第 656	西62•西63号居址出土遺物
	西33号住居址出土遺物		図版第 657	西64号住居址出土遺物
図版第 624	西34号住居址出土遺物		図版第 658	西65号住居址出土遺物
図版第 625	西35•西36号住居址出二	上遺物	図版第 659	西66号住居址出土遺物 (1)
図版第 626	西37号住居址出土遺物	(1)	図版第 660	西66号住居址出土遺物 (2)
図版第 627	西37号住居址出土遺物	(2)		西67号住居址出土遺物
図版第 628	西38号住居址出土遺物		図版第 661	西68号住居址出土遺物 (1)
図版第 629	西39号住居址出土遺物	(1)	図版第 662	西68号住居址出土遺物 (2)
図版第 630	西39号住居址出土遺物	(2)	図版第 663	西69•西70号住居址出土遺物
図版第 631	西40号住居址出土遺物		図版第 664	西71号住居址出土遺物 (1)
図版第 632	西41号住居址出土遺物	(1)	図版第 665	西71号住居址出土遺物 (2)
図版第 633	西41号住居址出土遺物	(2)	図版第 666	西71号住居址出土遺物 (3)
図版第 634	西41号住居址出土遺物	(3)	図版第 667	西71号住居址出土遺物 (4)
図版第 635	西41号住居址出土遺物	(4)	図版第 668	西71号住居址出土遺物 (5)
図版第 636	西42号住居址出土遺物		図版第 669	西71号住居址出土遺物 (6)
図版第 637	西43号住居址出土遺物		図版第 670	西72号住居址出土遺物
	西44号住居址出土遺物	(1)	図版第 671	西73号住居址出土遺物 (1)
図版第 638	西44号住居址出土遺物	(2)	図版第 672	西73号住居址出土遺物 (2)
図版第 639	西45号住居址出土遺物			西74号住居址出土遺物
図版第 640	西46号住居址出土遺物	(1)	図版第 673	西75号住居址出土遺物 (1)
図版第 641	西46号住居址出土遺物	(2)	図版第 674	西75号住居址出土遺物(2)
図版第 642	西46号住居址出土遺物	(3)	図版第 675	西76号住居址出土遺物
図版第 643	西46号住居址出土遺物	(4)	図版第 676	西77号住居址出土遺物
図版第 644	西46号住居址出土遺物	(5)	図版第 678	西79号住居址出土遺物

図版第	679	西80号住居址出土遺物	図版第 713	グリッド出土遺跡(29)
図版第	680	西81号住居址出土遺物 (1)	図版第 714	グリッド出土遺跡(30)
図版第	681	西81号住居址出土遺物 (2)	図版第 715	グリッド出土遺跡(31)
図版第	682	西81号住居址出土遺物 (3)	図版第 716	グリッド出土遺跡(32)
図版第	683	西82 • 西83号住居址出土遺物	図版第 717	墨書•刻書土器(1)
図版第	684	西83号住居址•1号土拡•西井戸址	図版第 718	墨書・刻書土器 (2)
•		出土遺跡	図版第 719	鉄製品(1)
図版第	685	グリッド出土遺跡(1)	図版第 720	鉄製品(2)
図版第	686	グリッド出土遺跡(2)	図版第 721	鉄製品(3)
図版第	687	グリッド出土遺跡(3)	図版第 722	鉄製品(4)
図版第	688	グリッド出土遺跡(4)	図版第 723	鉄製品(5)
図版第	689	グリッド出土遺跡(5)	図版第 724	鉄製品(6)
図版第	690	グリッド出土遺跡(6)	図版第 725	鉄製品(7)
図版第	691	グリッド出土遺跡(7)	図版第 726	石器
図版第	692	グリッド出土遺跡(8)	図版第 727	石器
図版第	693	グリッド出土遺跡(9)	図版第 728	石器
図版第	694	グリッド出土遺跡(10)	図版第 729	石器•土製品
図版第	695	グリッド出土遺跡(11)	図版第 730	石器
図版第	696	グリッド出土遺跡(12)	図版第 731	石器
図版第	697	グリッド出土遺跡(13)	図版第 732	石器
図版第	698	グリッド出土 遺 跡(14)	図版第 733	石器
図版第	699	グリッド出土 遺 跡(15)	図版第 734	石器
図版第	700	グリッド出土遺跡(16)	図版第 735	石器
図版第	701	グリッド出土 遺跡 (17)	図版第 736	石器
図版第	702	グリッド出土遺跡(18)	図版第 737	石器
図版第	703	グリッド出土遺跡(19)	図版第 738	石器
図版第	704	グリッド出土 遺 跡(20)	図版第 739	石器
図版第	705	グリッド出土遺跡(21)	図版第 740	石器
図版第	706	グリッド出土遺跡(22)	図版第 741	石器
図版第	707	グリッド出土遺跡(23)	図版第 742	石器
図版第	708	グリッド出土遺跡(24)	図版第 743	石器
図版第	709	グリッド出土遺跡(25)	図版第 744	石製・土製品類(1)
図版第	710	グリッド出土遺跡(26)	図版第 745	石製・土製品類(2)
図版第	711	グリッド出土遺跡(27)		

図版第 712 グリッド出土遺跡 (28)

図版第 746	調査風景•調査前風景	図版第 776	79号住居址カマドおよび遺物出土
図版第 747	1号住居址・同カマド		状況
図版第 748	5号住居址・同カマド	図版第 777	79号住居址貯蔵穴・82号住居址
図版第 749	6 • 7 号住居址	図版第 778	84号住居址・同カマド
図版第 750	8 • 9 号住居址	図版第 779	85号住居址・同カマド
図版第 751	10·11·18号住居址	図版第 780	89 • 93号住居址
図版第 752	11号住居カマド・12号住居址	図版第 781	94•97号住居址
図版第 753	17・20号住居カマド・12号住居址	図版第 782	99号住居址•同遺物出土状況
	カマド	図版第 783	106号住居址カマド
図版第 754	21号住居址・同カマド	図版第 784	125・126号住居址
図版第 755	21号住居址カマド(土層)		125号住居址カマド
	24号住居址	図版第 785	128号住居址•同遺物出土状况
図版第 756	24号住居址カマド	図版第 786	129号住居址•同遺物出土状況
図版第 757	29号住居址・同カマド	図版第 787	130号住居址・同カマド
図版第 758	39号住居址・同カマド	図版第 788	132号住居址・同カマド
図版第 759	40号住居址・同カマド	図版第 789	135号住居址・同カマド
図版第 760	47•49号住居址	図版第 790	136・137号住居址
	49号住居址カマド	図版第 791	138号住居址•同炉
図版第 761	53•54号住居址	図版第 792	144・147号住居址
図版第 762	54号住居址カマド	図版第 793	148号住居址・同カマド
図版第 763	59 • 60号住居址	図版第 794	148号住居址鋤先土出状況
図版第 764	60号住居址出土遺物		154号住居址
	62号住居址	図版第 795	159・160号住居址
図版第 765	62号住居址カマド・貯蔵穴	図版第 796	161・166号住居址
図版第 766	63 • 64号住居址	図版第 797	167·171号住居址
図版第 767	64号住居址カマド・貯蔵穴	図版第 797	172·174号住居址
図版第 768	65 • 69号住居址		182号住居址カマド・同貯蔵穴
図版第 769	69号住居址遺物出土状況・同カマド	図版第 800	200・203号住居址
	内遺物出土状況	図版第 801	
図版第 770	69号住居址カマド・遺物出土状況	図版第 802	·
図版第 771	69号住居址遺物出土状況	図版第 803	
図版第 772	72号住居址・同カマド	図版第 804	
	75•76号住居址		225 • 226号住居址
	77号住居址・同カマド		239 • 244号住居址
図版第 775	78号住居址カマド・79号住居址	図版第 807	246•252号住居址

図版第 808	252号住居址カマド	図版第 838	294号住居址
図版第 809	253号住居址	図版第 839	294号住居址カマド
図版第 810	253号住居址カマド・同馬貝出土	図版第 840	294号住居址石器出土状況
	状況	図版第 841	295号住居址・同カマド
図版第 811	254号住居址・同カマド	図版第 842	295号住居址石器出土状況
図版第 812	256 • 258号住居址		296号住居址
図版第 813	257号住居址・同カマド	図版第 843	297号住居址・同カマド
図版第 814	259 • 260号住居址	図版第 844	298•299号住居址
図版第 815	261号住居址・同カマド	図版第 845	299号住居址カマド・同金環出土
図版第 816	262号住居址・同カマド		状況
図版第 817	263 • 264号住居址	図版第 846	300・301号住居址
図版第 818	264号住居址カマド・265号住居	図版第 847	303号住居址
	址	図版第 848	304号住居址・同カマド
図版第 819	266号住居址・同カマド	図版第 849	304号住居址遺物出土状況
図版第 820	267号住居址		306号住居址カマド
図版第 821	268号住居址置カマド出土状況同	図版第 850	307・309号住居址
	カマド	図版第 851	310・311号住居址
図版第 822	269号住居址・同カマド	図版第 852	312・313号住居址
図版第 823	270号住居址・同カマド	図版第 853	314・315号住居址
図版第 824	271 • 272号住居址	図版第 854	316・317号住居址
図版第 825	273号住居址遺物出土状況	図版第 855	319号住居址・同カマド
	275号住居址	図版第 856	323号住居址
図版第 826	275号住居址カマド	図版第 857	西1号住居址・同カマド
図版第 827	277号住居址・同カマド	図版第 858	西2号住居址・同カマド
図版第 828	277号住居址カマド	図版第 859	西2号住居址貯蔵穴・同置カマド
	278号住居址		出土状况
図版第 829	279号住居址・同カマド	図版第 860	西3•西4号住居址•西3号住居
図版第 830	281号住居址・同カマド		址カマド
図版第 831	283号住居址	図版第 861	西5号住居址・同カマド
図版第 832	284号住居址・同カマド	図版第 862	西6号住居址・同カマド
図版第 833	287-2号住居址・同カマド	図版第 863	西7号住居址•同鉄製品出土状況
図版第 834	287-1 • 288同住居址	図版第 864	西8•西9号住居址
図版第 835	289号住居址・同カマド	図版第 865	西9号住居址カマド・同貯蔵穴
図版第 836	290号住居址・同カマド	図版第 866	西10号住居址
図版第 837	291 • 292 • 293号住居址	図版第 867	西11号住居址•同鉄鏃出土状況

図版第 868	西12号住居址・同カマド		西59号住居址
図版第 869	西13号住居址・同カマド	図版第 901	西60号住居址・同カマド
図版第 870	西14号住居址・同カマド	図版第 902	西61•西62号住居址•西61号住居址
図版第 871	西15号住居址・同カマド		カマド
図版第 872	西16•西17号住居址	図版第 903	西63 • 西64号住居址
図版第 873	西18•西19号住居址	図版第 904	西65号住居址・同カマド
図版第 874	西20 • 西21号住居址	図版第 905	西66号住居址・同カマド
図版第 875	西23号住居址	図版第 906	7号住居址
図版第 876	西24号住居址・同カマド	図版第 907	西68号住居址・同カマド
図版第 877	西25号住居址•同遺物出土状況	図版第 908	西69 • 西70号住居址
図版第 878	西26号住居址・同カマド	図版第 909	西71号住居址
図版第 879	西27 • 西28号住居址	図版第 910	西71号住居址遺物出土状況
図版第 880	西29号住居址・同カマド	図版第 911	西71号住居址遺物出土状況
図版第 881	西29号住居址カマド	図版第 912	西71号住居址遺物出土状況
図版第 882	西30号住居址・同カマド		同貯蔵穴
図版第 883	西31•西32号住居址	図版第 913	西72 • 西73号住居址
図版第 884	西33号住居址・同カマド	図版第 914	西73 • 西74号住居址カマド
図版第 885	西34号住居址・同カマド	図版第 915	西75号住居址・同カマド
図版第 886	西35号住居址・同カマド	図版第 916	西76号住居址・同カマド
図版第 887	西37 • 西38号住居址	図版第 917	西77号住居址・同カマド
図版第 888	西39•西40号住居址	図版第 918	西79号住居址•同管玉出土状况
図版第 889	西41号住居址・同カマド	図版第 919	西82号住居址•同遺物出土状況
図版第 890	西42 • 西45号住居址	図版第 920	西82号住居址遺物出土状況
図版第 891	西46号住居址		西83号住居址
図版第 892	西46号住居址カマド・同遺物出土	図版第 921	西83号住居址炉 • 同紡錘車出土状況
	状況	図版第 922	西井戸址
図版第 893	西46号住居址銅鏃出土状況•同貯	図版第 923	西井戸址
	蔵穴	図版第 924	西井戸址
図版第 894	47•西49号住居址	図版第 925	西井戸址セクション・同排水溝
図版第 895	西49号住居址カマド•西50号住居址	図版第 926	1号住居址出土遺物
図版第 896	西51 • 西52号住居址	図版第 927	2 · 3 · 5 号住居址出土遺物
図版第 897	西53号住居址・同カマド	図版第 928	6 • 9 号住居址出土遺物
図版第 898	西54•西56号住居址	図版第 929	10号住居址出土遺物
図版第 899	西57•西58号住居址	図版第 930	11号住居址出土遺物
図版第 900	西58号住居址紡錘車出土状況	図版第 931	12号住居址出土遺物

図版第 932 13 • 14号住居址出土遺物 図版第 966 128号住居址出	. I Sets d.L.
	土遺物
図版第 933 15 • 16 • 17号住居址出土遺物	出土遺物
図版第 934 17 • 20号住居址出土遺物	居址出土遺物
図版第 935 21·22号住居址出土遺物	34号住居址出土遺物
図版第 936 23 · 24 · 26 · 27号住居址出土遺物 図版第 970 135 · 137 · 1	38・139・140号住
図版第 937 29 • 30 • 31号住居址出土遺物 居址出土遺物	
図版第 938 32·34·37号住居址出土遺物	45・147号住居址出
図版第 939 38・40号住居址出土遺物 土遺物	
図版第 940 40 • 41号住居址出土遺物	出土遺物
図版第 941 42 · 43号住居址出土遺物	55・158・159号住
図版第 942 45 • 49号住居址出土遺物 居址出土遺物	
図版第 943 51 • 53号住居址出土遺物	70・172号住居址出
図版第 944 53号住居址出土遺物 土遺物	
図版第 945 54号住居址出土遺物	74・176号住居址出
図版第 946 55 • 56号住居址出土遺物 土遺物	
図版第 947 58 • 59号住居址出土遺物	79・180・182号住
図版第 948 60号住居址出土遺物 居址出土遺物	
図版第 949 60 • 62号住居址出土遺物	出土遺物
図版第 950 64·65号住居址出土遺物	97 • 203 • 205 • 20
図版第 951 66 • 68 • 69号住居址出土遺物 6号住居址出土	上遺物
図版第 952 69号住居址出土遺物	居址出土遺物
図版第 953 69号住居址出土遺物 図版第 980 208 • 209 • 21	10号住居址出土遺物
図版第 954 69 • 70 • 72号住居址出土遺物	12号住居址出土遺物
図版第 955 75 • 76 • 77号住居址出土遺物	16号住居址出土遺物
図版第 956 78 • 79号住居址出土遺物	24号住居址出土遺物
図版第 957 79・81号住居址出土遺物 図版第 984 225・226・22	27・229号住居址出
図版第 958 82号住居址出土遺物 土遺物	
図版第 959 83•84•86•87•89号住居址出土遺物 図版第 985 232 • 237 • 23	38 • 239号住居址出
図版第 960 91 • 92 • 93 • 94号住居址出土遺物 土遺物	
図版第 961 95 • 97 • 99号住居址出土遺物	11号住居址出土遺物
図版第 962 100 • 101 • 103 • 105号住居址出 図版第 987 244 • 245号住	居址出土遺物
土遺物	出土遺物
図版第 963 111 • 112 • 117 • 119 • 121号住 図版第 989 247 • 252 • 25	53号住居址出土遺物
居址出土遺物	56号住居址出土遺物
図版第 965 122 • 125 • 127号住居址出土遺物 図版第 991 256 • 257号住	居址出土遺物

図版第 992	259 • 260 • 262 • 263号住居址出		土遺物
	土遺物	図版第1021	西35•西36•西37•西39号住居址出
図版第 993	264 · 265 · 266 · 268号住居址出		土遺物
	土遺物	図版第1022	西40•西41号住居址出土遺物
図版第 994	268号住居址出土遺物	図版第1023	西42•西43•西44号住居址出土遺物
図版第 995	269 • 270号住居址出土遺物	図版第1024	西45•西46号住居址出土遺物
図版第 996	270•271•273号住居址出土遺物	図版第1025	西46•西47号住居址出土遺物
図版第 997	275 • 276号住居址出土遺物	図版第1026	西48•西49•西53号住居址出土遺物
図版第 998	227号住居址出土遺物	図版第1027	西54•西55•西56•西58号住居址出
図版第 999	228 • 279号住居址出土遺物		土遺物
図版第1000	281 • 283号住居址出土遺物	図版第1028	西59•西61•西63号住居址出土遺物
図版第1001	284・287-1・287-2・289号住居	図版第1029	西65•西66号住居址出土遺物
	址出土遺物	図版第1030	西68•西69•西71号住居址出土遺物
図版第1002	289·290·291·293号住居址出	図版第1031	西71号住居址出土遺物
	土遺物	図版第1032	西71号住居址出土遺物
図版第1003	294 • 295 • 296号住居址出土遺物	図版第1033	西72•西73•西75号住居址出土遺物
図版第1004	297・298・299・303・304号住	図版第1034	西75•西76•西77•西78•西80号住
	居址出土遺物		居址出土遺物
図版第1005	304・305・306号住居址出土遺物	図版第1035	西83号住居址・グリッド出土遺物
図版第1006	306 • 308 • 310 • 311 • 312 • 31	図版第1036	金属製品類(1)
	3号住居址出土遺物	図版第1037	金属製品類(2)
図版第1007	314号住居址出土遺物	図版第1038	金属製品類(3)
図版第1008	315号住居址出土遺物	図版第1039	石器類(1)
図版第1009	317·318·319号住居址出土遺物	図版第1040	石器類(2)
図版第1010	322・323号住居址出土遺物	図版第1041	石器類(3)
図版第1011	西1•西2号住居址出土遺物	図版第1042	石器類(4)
図版第1012	西6•西8•西9号住居址出土遺物	図版第1043	石器類(5)
図版第1013	西10号住居址出土遺物	図版第1044	石器類(6)
図版第1014	西10•西12•西13•西14号住居址出	図版第1045	石器類(7)
	土遺物	図版第1046	石器類(8)
図版第1015	西15•西16•西19号住居址出土遺物	図版第1047	石器類(9)
図版第1016	西21•西24号住居址出土遺物	図版第1048	石器類(10)
図版第1017	西26号住居址出土遺物	図版第1049	石器類(11)
図版第1018	西27•西28号住居址出土遺物	図版第1050	石器類(12)
図版第1019	西29 • 西30号住居址出土遺物	図版第1051	石製品・土製品類(1)
図版第1020	西31•西32•西33•西34号住居址出	図版第1052	石製品・土製品類(2)
	•		

第1章 調査の実施と経過

第1節 調査に至るまで

1. 発掘調査事務経過

昭和54年11月21日 文化庁に発掘通知を提出する。

昭和54年12月18日 文化庁より県教育委員会へ発掘通知の受理通知書が送付される。

昭和54年12月3日 第一次調査を開始する。

昭和55年6月30日 第一次調査を終了する。

昭和55年9月7日 第二次調査を開始する。

昭和56年10月12日 第二次調査を終了する。

なお、調査終了後に石和警察署へ発見通知を提出する。

2. 調査組織

○発掘調査

調 査 主 体 山梨県教育委員会

調査担当者 二之宮・二之宮西 坂本美夫(県文化財主事)

" "米田明訓(県文化財主事)

二之宮西 末木 健(県文化財主事)

" 保坂康夫(県文化財主事)

調 査 員 山路恭之助(現須玉町教育委員会)、神沢博子、須田愛子、佐野勝広(現小淵 沢町教育委員会)

調査補助員 渡辺儀訓(現山中湖小学校教諭)、山秋泰(日本大学)、飯田文恵(山梨県立 女子短期大学)、桑原敏(山梨大学)、岩本教之、梅田恵智子、服部照子、菅 沢ふみよ、丹羽紀子、堀口京子、羽鳥端子、青木崇、成瀬晃司、千葉啓蔵

作業員相原紫納、青木 栄、浅川 玲子、朝日 正美、芦沢なが子、雨宮 恵美、雨宮 正和、荒川奈津江、荒木 邦明、有田 博幸、飯田 文恵、飯島 紀男、石川 与平、石川 貴子、石田 一人、石原 昭仁、石原恵理子、石原 静江、石原 秀一、石原 尚子、石原 徳幸、石部 司、伊藤 公子、池田ユキ子、稲沢圭一郎、今井 良、岩間 寿子、岩間 卓夫、岩間 啓乃、岩間満支子、岩間む津美、上野七五三子、上野きく江、上野 昌哉、上村 一彦、内田 裕一、海野真由美、江波戸比沙恵、大沢 武、大沢 寛和、大間 春美、大野 昴子、大里 一男、小笠原良一、岡田 牧子、緒方 木水、緒方 民子、荻原 俊文、小口 武、小栗 久幸、

小沢 由美、 小田切澄枝、 長田喜代子、 小沢 典子、 小沢 裕美、 三郎、 小野 小野 研吉、 乙黒 幸年、 小野 綾子、 小野 朱実、 梶原智恵美、 風間 菊男、 河西みや子、 柏木 一浩、 梶原 朝子、 勝部 照子、 金塚 清隆、 梶原ひろみ、 梶原 結花、 梶原ふじ乃、 神谷 光二、 神谷けさ子、 栢尾 章彦、 金丸 克夫、 神座 恵、 唐沢 明浩、 川井 輝恵、 川井 正夫、 川口 純一、 川口 絹江、 良仁、 和子、 菊島 昭子、 川崎 富江、 河村 良子、 神沢 神沢 橘田一女、 菊島 和美、 菊島 宏幸、 菊島 文雄、 橘田 昭子、 橘田さつき、 北村 省三、 清原 憲秋、 楠 世紀、 久保田永子、 弦間 弦間 裕朗、 桑原 園枝、 熊沢 永俊、 弦間 浩一、 賢二、 弦間 由樹、 小池つや子、 小池 君彦、 後藤真由美、 後藤まさの、 小林 厚美、 小林かおる、 小林 悟、 小林 圭一、 小林 高広、 小林 秀行、 小宮山梅子、 近藤 明男、 斎藤 斎藤 正、 和彦、 斎藤つね子、 佐藤 靖子、 佐藤 佐野 正美、 佐野 三男、 敦、 塩川 浩正、 篠原 悦子、 篠原ひろ子、 篠原 輝子、 島田 慶子、 島津 孝、 清水 和夫、 清水 静江、 清水 司、 清水 文雄、 下倉 茂雄、 下倉はる子、 下倉 義次、 志村 秀樹、 城之内美代子、 神宮司庫造、 神宮司八千代、 進藤 稔、 菅沢ふみよ、 強矢明子、 鈴木 梅子、 杉原 恵、 鈴木幾久雄、 鈴木寿美恵、 鈴木 武俊、 富子、 鈴木 鈴木 直美、 鈴木 和子、 鈴木 秀男、 鈴木フサノ、 鈴木 学、 鈴木 米子、 須藤 昭仁、 関本 利枝、 関本ひでみ、 其田 弘毅、 高野 守、 高橋 英子、 武川 康昭 竹越 和枝、 田中 弘、 千塚 正博、 千葉 啓蔵、 塚越あきの、 土屋アッ子、 土屋たか枝、 角田 辰己、 筒井ひさ美、 角田 昇、 角田 濃子、 恒川 和子、 天川 友子、 天川 輝子、 天川 良江、 寺本由美子、 富田 樋泉 岳二、 常雄、 永井由美子、 長尾美恵子、 長尾 美子、 仲田せい子、 中川 明美、 仲川恵美子、 中込 美雄、 中込 達也、 中村 和久、 中村加代子、 中村 初子、 中村 誠、 永見 尚、 名取鴻之助、 名取とも子、 七ツ村 茂、 成瀬 晃司、 野田 昭人、 萩田 時一、 羽鳥靖子、 花田 竹子、 原田 剛志、 林 成紀、 健慈、 平良 樋口 茂治、 広川 恵子、 平野 良明、 深田 竹子、 深田 春子、 深沢 和夫、 深沢 正子、 福田 和秀、 藤田 市郎。 古屋 茂美、 古屋たね子、 古屋 春仁、 洋子、 別符 信治、 保坂 保坂 栄子、 堀内 照美、 堀内きみ子、 堀内 幸子、 堀 雅治、 前田 浩二、 松田 直久、 松原 博、 水上 優子、 三沢 勲、 宮川 亮二、 宮沢まさみ、 向山 正子、 小沢 徳子

森山 洋一、 八木 望月 淳子、 望月春美、 強、 村松由美子、 矢ケ崎二男、 矢野 秀子、 矢野 早苗、 山崎 克代、 山口小百合、 若尾 澄子、 若尾 紀子、 山ノ内康文、 山本 修、 山本修二、 若林 正人、 渡辺 朝子、 渡辺 広江、 山本 和江

第2節 調査の実施

1. 発掘区の設定と調査方法

二之宮遺跡は中央自動車道の中でも、バスストップの設置される部分にあたり、道路幅が他の地点に比べ一段と広い。調査対象地域は国道137号線の西側に広がり、工事用杭のSTAN0.517+00から同521+20までのおおよそ長さ400m、幅約60mの範囲である。

このSTANaの間は北側に緩やかに膨らむカーブをえがいており、かつ既存家屋の取壊しや 工事の工程などとの関係から東側から西側、あるいは西側から東側へといった順序よく調査を 実施したのではなく、調査のできる部分から順次実施することになった。このため住居址番号 も混在した状況にある。

このような状況から調査区域の設定は、調査可能な場所にある東西のSTA杭をセンターラインとし、その南側と北側とに 5×5 mのグリッドを設定した。各グリッドの呼称は南側をS、北側をNとし、グリッド番号はセンターライン状の杭を1 (N_1)とし、その左右に $2 \cdot 3$ ……と付けた。

グリッドの設定は以上の要領で行ない、設定場所は次の6ケ所である。

S T A No. $517 + 20 \sim 517 + 40$

S T A No. $517 + 60 \sim 518 + 20$

S T A No. $518 + 20 \sim 519 + 00$

 $S T A No. 519 + 60 \sim 520 + 00$

S T A No. $520+00 \sim 520+40$

S T A No. $520 + 40 \sim 521 + 00$

2. 調査の経過

5ヶ所の地点に調査区域を設定したが、この調査の進行は次の様な順序で行った。

S T A No. $520+00 \sim 520+40$

S T A No. $520 + 40 \sim 521 + 00$

S T A No. $517 + 20 \sim 517 + 40$

STANo. $519+60\sim520+00$

S T A No. $518 + 20 \sim 519 + 00$

S T A No. $517+60 \sim 518+20$

このうちSTAN0.517+20~517+40の区間は、排水溝工事の幅に設定したトレンチ状の調査区であった。

第2章 遺跡周辺地域の状況

第1節 遺跡の位置と立地

1. 遺跡の位置

二之宮遺跡の所在する東八代郡御坂町は、甲府盆地の南東部に位置する。北を石和町、一宮町、東を南東方向に連なる御坂山地の稜線を境として大月市、東山梨郡大和村、南都留郡河口湖町、南を芦川村、西を八代町に接する東西16km、南北5.5kmの東西に細長い町域をもち、北側の町境付近を金川が東から西に向かって流れている。二之宮遺跡はこの町域の西端近く、同町二之宮に位置する。国鉄中央本線石和駅より南東方向約3kmの距離である。

2. 地理的環境

御坂町は1000mを越す御坂山地が背後にひかえ、町のほぼ中央に位置する上黒駒地区より南側は山間地的様相を強める。この御坂山地に源を発する金川が町の北側の境付近にほぼ沿うような形で東より西に向かって流れ出し、やがて盆地中央を南流する笛吹川に合流する。この間に広大な扇状地を形成する。金川扇状地である。上黒駒より西側の殆どの地域はこの扇状地の左岸に立地している。

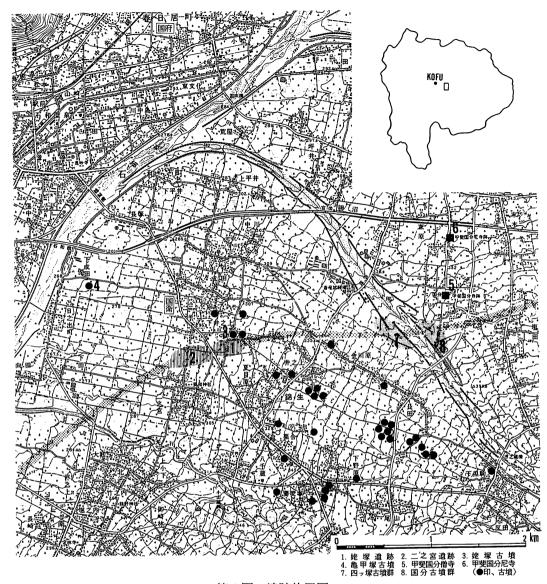
金川扇状地は扇頂を同町若宮の標高400m付近に、扇端を石和町と接する町の西端部の標高200m付近に置き、長さ約5.5kmに渡る地域を覆う。二之宮遺跡の立地する付近は扇央部分にあたると考えられるが、その中でも扇端部に近い位置にあり、傾斜はやや緩やかさを見せる。標高300m付近にある。

第2節 遺跡周辺の歴史的環境

二之宮遺跡の所在する御坂町地域は、原始時代より古代に至る間の遺跡が濃密に分布する地域であるが、特に後者の時期に顕著な地域といえる。

縄文時代の遺跡は町の東部にあたる山間地ないし金川扇状地の扇頂近くに濃厚な分布が知られる。金川右岸の上黒駒相沢にある中丸遺跡は、「黒駒土偶」と呼ばれる怪奇な形相をした土偶を出土したことで著名であり、また近接する金川左岸の柱野台地上に形成された柱野遺跡からは特徴ある渦巻文を施した縄文中期の土器の出土を見る。さらに金川水系からは離れるが、町の南東部にあたる竹居地区に縄文前期の諸磯式土器の標式遺跡として知られる花鳥山遺跡、あるいは縄文時代の早期から晩期に渡る長期で、かつ大型大珠を出土した三光遺跡などが見られる。

一方、扇端付近においても縄文時代の遺跡が散見される。二之宮遺跡に近い二之宮北通1456番地^(註1)からは縄文時代前期の土器片が採集されている。このほか夏目原宮の前遺跡、同赤根田



第1図 遺跡位置図

遺跡、同柿ノ木遺跡、喬塚首中根遺跡など、小規模と考えられる遺跡が散見される。

弥生時代の遺跡はやや不鮮明であるが、町内から散見される。その中で扇端部近くに立地する二之宮、下井之上、成田地区の湧水地帯に集中する傾向が認められ^(註2)、この地域から今後大規模な集落址の発見も予想される。

本県の古墳時代の中心は、最初本町の南西方向にある東八代郡中道町地域にあった。やがて5世紀代に至り本町の地域にも、古墳築造の風潮が確実に波及してくるようである。成田地域に所在する亀甲塚古墳がそれであり、本町最古の古墳といえる。しかし本町で古墳の造墓が活発になるのは、その中核地であった中道町地域勢力の衰退に伴い盆地北縁地域へ中心の移る6

世紀以降のことである。後期古墳の時期にあたり、本町の古墳は金川扇状地の扇央部にほとんど占地し、錦生古墳群を形成する。約30基ほどから成り、その盟主墳である姥塚古墳は6世紀後半ころの築造と考えられている古墳である。直径45m、高さ10mほどを測る大古墳で、内部に奥壁幅3.3m、長さ17.5mといった巨大な横穴式石室を持つ。

姥塚古墳を中核とする錦生古墳群は、県下の古墳分布状況、規模などから、大化改新によって「御坂勢力」の評として分割され、やがて律令体制下の郡へと移行していったものと考えられるほどの内容を持っている^(â‡3)。

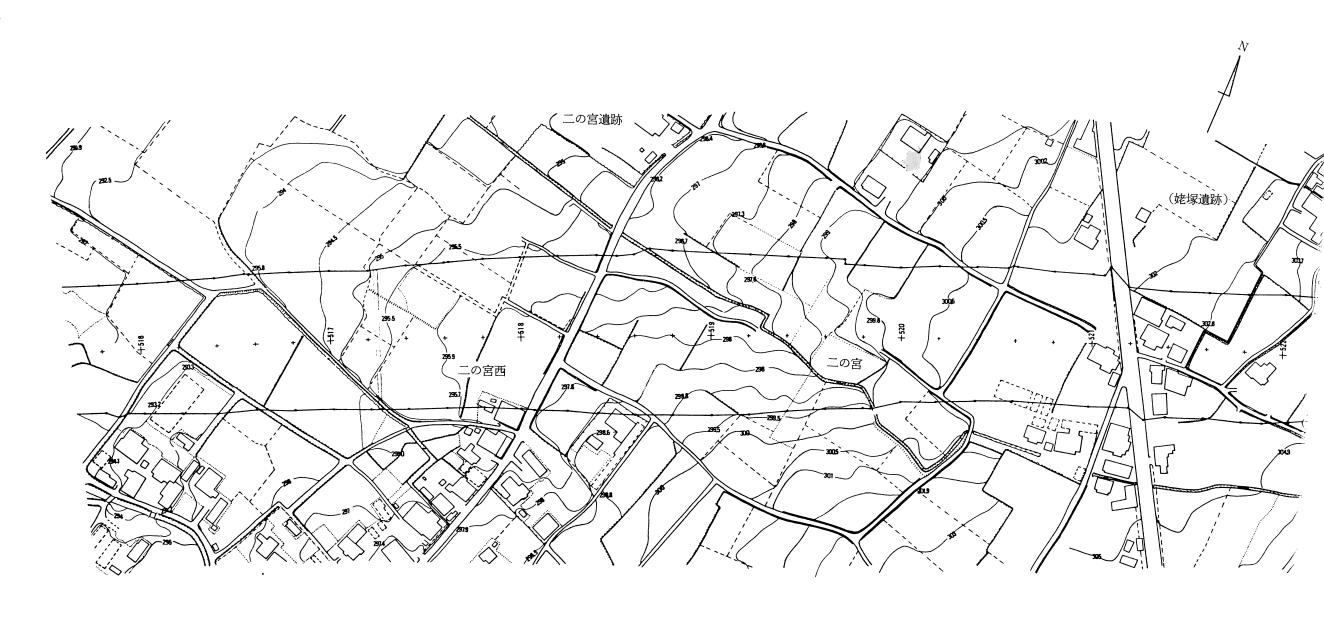
奈良・平安時代は国司を頂点とする山梨郡、八代郡、巨麻郡、都留郡の4郡制による支配体制が確立する。本町は二之宮遺跡の北側の地に『和名抄』に見られる山梨郡井上郷の遺称とされる井上地区が存在し、これからすれば山梨郡に属する地域といえる。しかし『和名抄』には合せて「甲斐国府は八代郡に在る」とも記されており、二之宮遺跡のやはり北側に井上地区と接して国府の遺称とされる国衙地区があり、これからすれば八代郡に属する地域ともいえるわけであり、山梨郡と八代郡とが錯綜する地域と考えられている。しかし本町の土師器の分布状況を見れば町内全域に認められるものの、その中でも二之宮遺跡を含めた二之宮から国衙地域にかけて、大きくかつ濃厚なまとまりを見せ、さらにこの分布域は今回の発掘調査から古墳時代初めごろより平安時代末ごろまで連綿と続いた伝統的集落址と考えられる状況から、姥塚古墳と切り離すことはできず、この分布地域の様子からすれば八代郡とする蓋然性も高くなろう。さらに井上地区と接する本町の金川原地区には、既に木下良氏によって指摘された「方八町」なる地名が存在し、国府との関連が注目され、かつ錦生古墳群の分布範囲に入るものと捉えられるところから、本町のほぼ全域が八代郡下にあったと想定することもできよう。また全域といかないまでも、国衙周辺地域が当時八代郡下であっても、それほど不都合はないであろうとする同じ様な考え方が、既に提示されている(計5)

本町地域は古代における郡境の複雑な事情が投影されている地域といえるが、この一方では古代甲斐国への玄関口でもあった。東海道横走駅より分かれた官道甲斐路が御坂峠より金川沿いに通過し、国衙に至る。この甲斐路沿いには駒留、上・下黒駒などの大字名、御馬休所、東・西馬鞭などの小字名が存在し、『日本書紀』や『扶桑略記』に見られる「甲斐の黒駒」の産地とも考えられる地域でもある。しかし牧址と捉えるよりも『延喜式』に見られる「水市駅」に比定する説が提示され(ith)、今日では有力な説となっている。

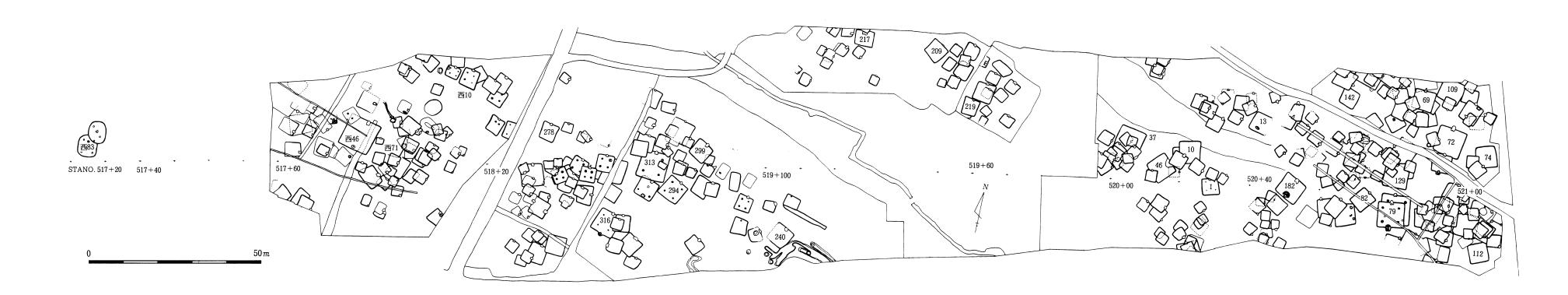
周辺地域を見ると北3.5kmの東山梨郡春日居町に国府、本県最古の寺本廃寺址、北東2.7kmの東八代郡一宮町に国分僧寺、国分尼寺などの地名や遺構が存在し、本町を含めた周辺地域は本県の古代史上に大きな比重をもった地域といえる。

註・参考文献

- 1. 長沢宏昌 1981 「東八代郡御坂町二之宮遺跡表採資料」『甲斐考古』 18-2
- 2. 上野晴朗 1971 「町の歴史」『御坂町史』
- 3. 坂本美夫 1983 「甲斐の郡(評)郷制」『山梨県立考古博物館、山梨県埋蔵文化財センター紀要』1
- 4. 木下良 1986 山梨県立考古博物館公開講座にてその存在を指摘している。
- 5. 磯貝正義・飯田文弥 1973 『山梨県の歴史』
- 6. 磯貝正義 1958 「甲斐の御坂 甲斐の古駅路再論 」『甲斐史学』第3号
- 7. 山梨県教育委員会 1979 『山梨県遺跡地名表』



第2図 遺跡地形図



第3図 遺跡全体図

第3章 遺構と遺物

第1節 住居址と出土遺物

本遺跡における住居址と出土遺物の概略について記述していくが、その中で住居址の帰属時期については、これまでに確立している本県の土師器編年を次の順序に組立て使用した。

坂本・末木 1984 『古墳時代土器の研究-山梨県』(古墳時代土器研究会)。

坂本・末木・堀内真 1983 『奈良・平安時代土器の諸問題 - 甲斐地域』(神奈川考古第14号)

坂本 1986 『古代末期~中世における在地系土器の諸問題-甲斐国』(神奈川考古第21号) 特に、この中で奈良・平安時代の土器編年と古代末期の土器編年の接続については重複部分 があるため、奈良・平安時代XII期(10世紀第4四半世紀)に古代末 I 期(10世紀第4四半世紀) 以降を接続させ、呼称を古代末 I 期をXII期としXX 期まで区分した。

なお住居址の詳しい時期区分については本文末に一覧表として示した。

○ 1号住居址(第1・310~313図)

 $520+35S_1$ 、 $520+25S_1$ 、 $520+25N_2$ 、 $520+35N_2$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈するが、北東隅を 3 号、8 号住居址によって切られている。規模は東西 5m、南東 4.9mを測る。主軸方向は $N-21^\circ-W$ を指す。

壁はわずかに外傾し、確認された壁高は東壁 13cm、西壁 12.5cm、南壁 10.5cm、北壁 16.5cm、平均壁高 13cmを測る。カマドは北壁のほぼ中央に設置されているが、その北東部分を 3 号住居址によって切られている。石組はカマド正面の左右のものがしっかりと埋めこまれており、袖石と確認できる。しかしこれ以外に石組を構成すると考えられるものがないことから、総石組カマドではなく、袖石と粘土を併用した構造と考えられる。焼土ブロックが 2 ケ所ほど検出された。

床は平坦に仕上げられている。柱穴と考えられるピットが3ケ所確認されたが、残りの北東 部の柱穴と考えられるピットは検出できなかった。

遺物はカマドとその正面あたりに集中しており、坏、高坏、鉢、甕、砥石、土製支脚などが見られる。このうち甕はカマド周辺から、支脚はカマドより1 m ほど離れた位置から出土した。 出土した遺物はほとんど古墳時代後期(鬼高期)のものであった。

重複遺構は3・8号住居址であり、切合い関係、出土遺物などから新旧関係は3・8号住居址(新)→1号住居址(古)であった。

〇 2号住居址 (第314図)

520+40S₃、520+45S₃グリッド杭の外側で、発掘地域外に位置する。

この住居址は調査の頭初において数ケ所の試掘抗(1.5×1.5) mを設定し、土層、遺物の包含

状況、遺構の存在状況を確認した際の1つから検出された住居址であり、1号住居址の南東方向 22m ほどにある。調査を実施する予定であったが、その後工事用道路部分となり未調査となったため、住居址のプランや規模等は明らかでない。

試掘時に焼土や礫が検出され、住居址のカマドであったと考えられる。このカマド付近から 遺物が出土し、坏、甕、円筒形土器、須恵器蓋坏などが見られる。いずれも古墳時代後期(鬼高 期)のものであるが、このほか試掘抗から平安時代と考えられる土器も出土しており、平安時 代の住居址が重複していたものと考えられる。

○ 3号住居址 (第2・315図)

520+35N₁、520+25N₁、520+25N₂、520+35N₂のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。試掘抗によって南壁部の一部を切られている。規模は東西 3.22m、南北 3.12mと比較的小型の住居址である。主軸方向は $N-105^{\circ}-E$ を指す。

壁はやや外傾し、確認された壁高は東壁 12cm、西壁 20cm、南壁 11.5cm、北壁 27cmを測るが、南壁の東半分は明瞭でなかった。東壁の南コーナー寄りに数センチメートルの厚さに焼土が認められ、カマドと考えられるが、袖石などは残存していなかった。

床は東壁側がやや低まっているようであった。柱穴については全く確認できなかった。

遺物は細片のものが多く坏、甕、鉄製品などが見られるが、図示できるものは少ない。坏は 内面のみこみまで暗文の施されたもので、平安時代の初めころのものと考えられる。底には墨 書と思われる痕跡が認められる。

重複遺構は1号住居址であり、切合いなどから新旧関係は3号住居址(新)→1号住居址(古)といえる。

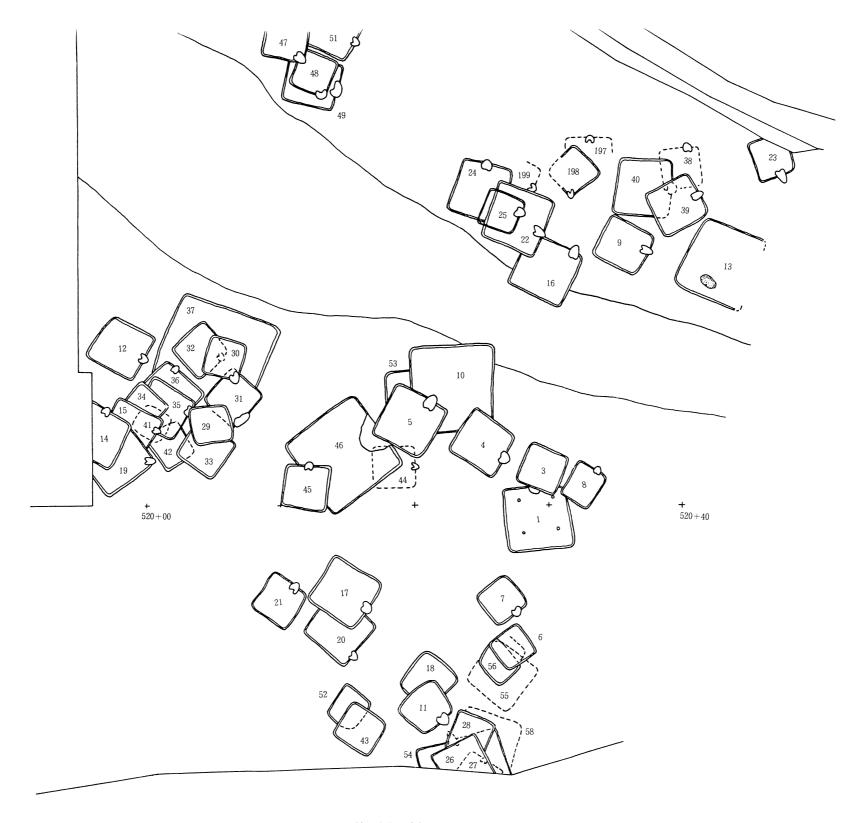
○ 4号住居址 (第2・315図)

520+30N₁、520+20N₁、520+20N₃、520+30N₃のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.35m、南北 3.8mを測る。主軸方向はN-12°-Eを指す。 壁はやや外傾して立ち上がり、東壁 13.5cm、西壁 13cm、南壁 21cm、北壁 17cmを測る。北壁と 東壁の 2 ケ所において焼土が確認され、このうち東壁のものは薄い堆積のものであることから、 北壁の焼土をカマドと考えた。北壁のカマドはほぼ中央に設置されているが、焼土のみで袖石 に利用された礫などは全く遺存していなかった。焼土の広がりは東西 0.7m×南北1.15m ほどで あった。

床は東西、南北ともほぼ平坦に作られている。柱穴については全く確認されていない。

遺物は坏、高台付坏、皿、甕などであるが細片が多く、図示できたのは坏と甕の2点のみであった。坏は内面に暗文の施されているのは確認できるが、内面みこみ部については不明である。なお高台付坏の内面みこみには暗文が認められる。皿は外面の器体部下半から底にかけて回転へラ削りの施されるものである。以上から本住居址は平安時代前半に置かれるものといえる。



第4図 遺構配置図(1)

重複遺構は10号住居址であり、切合いなどから4号住居址(新)→10号住居址(古)といえる。

○ 5号住居址(第3・315~317図)

520+25N₁、520+15N₁、520+15N₃、520+25N₃のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 4.38m、南北 4.45mを測る。主軸方向は $N-20^{\circ}-E$ を指す。壁は北壁を除き比較的良好に存在しており、東壁 54.5cm、西壁 44.5cm、南壁 49cm、北壁 19cm を測る。カマドは北壁の中央よりやや東壁寄りに設置されている。カマドは袖部が石組の構造であるが、左袖部の石組はすべて抜きとられており、その堀方のみが検出された。また煙道部が長さ 1.4mにわたって作られている。外側に向って緩やかな上げ勾配に、直径 20cm前後のトンネル状に作られており、一部に焼土化している部分も検出された。

床は東西、南北とも平坦に仕上げられている。柱穴については全く確認できなかった。

遺物はカマド周辺および東壁寄りに、比較的良好な状況で検出された。土師器坏、高台付坏、皿、高台付皿、甕、置カマド、須恵器壺、鉄製品(刀子ほか)、管玉などが見られる。坏は器体部内面に放射状の暗文、底を回転糸切り後周囲へう削りするのを基調とするが、みこみへの暗文は見られない。皿は器体部下半から底を回転へう削りするのを基調とする。管玉は混入品であろう。平安時代前半に置かれるものといえる。

重複遺構は10・44・46・53号住居址であり、切合い関係などから新旧関係は44号住居址(新) →5→46・53・10号住居址(古)といえる。

○ 6号住居址(第4・318図)

520+30 S₃、520+25 S₃、520+25 S₂、520+30 S₂のグリッドに位置する。

平面はほぼ方形を呈する。本住居址は第55~57号住居址と重複する部分が多いため、プラン検出が困難であった。このためトレンチなどを設定して範囲を確定した。そのため北壁と、東壁の一部がトレンチによって切られている。規模は東西、南北ともに 2.7mを測る。主軸方向は北壁のトレンチにおいて焼土が若干確認され、カマドと考えられるところから $N-45^{\circ}-E$ を指す。

壁は遺構の検出が困難な状況のため東壁 2 cm、西壁 5.5 cm、南壁 3.5 cm、北壁 1.5 cmといった残存状況となっている。カマドは北壁のほぼ中央あたりに位置するが、焼土が若干検出されたにすぎず、また袖石などは全く確認されなかった。

床はほぼ平坦に仕上げられている。柱穴は全く確認されていない。

遺物は土師器坏、皿、甕、鉄製品(刀子?)などが見られる。坏、皿は器体部下半にヘラ削りが見られず、底が回転糸切り未調整のものを主体とするものと見られ、平安時代中ころに置かれるものと考えられる。

重複遺構は55~57号住居址であり、本住居址の南半分あたりで複雑に切り合っている。新旧 関係は切合い、出土土器などから、55号住居址(新)→6→56号住居址(古)である。57号住居 址については遺物が少なく明確にできない。

○ 7号住居址(第4・318図)

520+30 S₂、520+20 S₂、520+20 S₁、520+30 S₁のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西、南北ともに 2.94mを測る。主軸方向は $N-129^\circ-E$ を指す。 壁は東壁 4~cm、南壁 3.5cm、北壁 12cm、西壁に至っては床面がかろうじて検出されたにすぎない。カマドは東壁のほぼ中央において焼土がわずかに確認されたにすぎず、石組などは全く見られなかった。なお焼土の広がりは東西 70cm、南北 $50\sim90cm$ であった。

床はほぼ平坦に仕上げられている。柱穴は全く確認されていない。

遺物はカマドの設置されている東半分に集中して見られる。土師器坏、甕、羽釜、灰釉陶器 壺などが見られるものの細片が多く羽釜、灰釉陶器壺を図示できるにすぎなかった。坏は器体 部下半がへう削りされる時期から、主にへう削りを施されなくなる時期と考えられるものであ り、底部も回転糸切り未調整のものが見られる。平安時代中ころに置かれるものといえる。

重複遺構はない。

○ 8号住居址(第5・318図)

 $520+35S_1$ 、 $520+30S_1$ 、 $520+30N_2$ 、 $520+35N_2$ のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。北西隅を試掘抗によって切られている。規模は東西 $2.46\,m$ 、南北 $3.0\,6m$ を測る。主軸方向は N -15° - E を指す。

壁は検出が困難であったため、東壁 5~cm、西壁 6.5cm、南壁 3~cm、北壁 4~cmを確認できたにすぎない。カマドは北壁の中央よりやや東壁寄りに設置されていたが、わずかに焼土の堆積が確認され、かろうじてカマドと判明した。また焼土のほぼ中央に立石が認められ、自然石を利用した支柱と考えられる。焼土範囲は東西、南北とも50cmほどであった。

床は平坦に仕上げられている。柱穴は全く確認できなかった。

遺物は細片が多く、土師器坏が図示できるのみであった。器体部内面に放射状暗文を施す器 形であり、平安時代前半に置かれるものといえる。

重複遺構は1号住居址で、新旧関係は8号住居址(新)→1号住居址(古)であった。

○ 9号住居址(第5・319図)

520+40N₄、520+30N₄、520+30N₆、520+40N₆のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.75m、南北 3.36mを測る。主軸方向は N - 105° - Eを指す。

壁はやや外傾し、確認された壁は東壁 16.5cm、西壁 11cm、南壁 14cm、北壁 12cmを測る。カマドは東壁の中央よりやや北壁寄りに設置され長さ 1.32m、幅 77cm ほどの大きさである。焼土を多量に含む土が厚さ10cm前後に堆積している。袖部が石組で片側のみ残存している。また中央あたりの焼土混入土層の上に礫が置かれており、支脚の役目をした可能性もある。

床は壁から内側に向って徐々に低く作られている。柱穴は全く確認されなかった。

遺物は豊富で、ほぼ全体から出土し、土師器坏、皿、甕などが見られる。坏は器体部下半をへ

ラ削り、底が回転糸切り後へラ削りされるものと、器体部下半および底ともにへラ削りの全く 施されないものとが、ほぼ同じ位の量で見られる。平安時代中ころのものと考えられる。

重複遺構はない。

○ 10号住居址(第6・320図)

520+30N₂、520+15N₂、520+15N₄、520+30N₄のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈するが、南側の大半を 4 • 5 号住居址によって切られている。規模は東西 6.17 m、南北 6.71 mを測る。主軸方向はカマドが明確にならず不明である。

壁はやや外傾し、確認された壁高は東壁 18cm、西壁 7 cm、南壁 10.5cm、北壁 17cmを測る。カマドは石組が全く確認されず、かつ焼土も全面に薄く散布していることから、位置を確定することができなかった。

床は本住居址が礫の比較的多い場所に作られていることから、黄褐色土を貼って全体的には 平坦に仕上げているが、それでも細い凹凸が目につく。周溝は見られず、柱穴は確認するに至 らなかった。

遺物は全体から確認されたが、北壁のやや内側において北壁に沿うような位置で、やや集中している状況が見られた。土師器坏、高坏、塊、甕、須恵器蓋坏、坏、石製紡錘車、土玉、滑石製品などがある。須恵器蓋坏と坏との間には若干の時間差を見なければならないが、古墳時代後期前半代(鬼高式)に置かれるものであった。

重複遺構は4・5・53号住居址であり、新旧関係は4・5号住居址(新)→10→53号住居址(古)であった。

○ 11号住居址(第7・321・322図)

520+25S4、520+15S4、520+15S2、520+25S2のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.25m、南北 3mを測る。主軸方向は $N-130^\circ-E$ を指す。 壁はやや外傾し、確認された壁高は東壁 25.5cm、西壁 25.cm、南壁 21.5cm、北壁 14cmを測る。 カマドは東壁の中央よりやや北壁寄りに設置されている。袖部が石組の形態のものであり、残存は比較的良好である。正面の左右袖石間には偏平な平石がさし渡されており、天井部をなしている。幅 35cm、長さ 60cm、厚さ 10cm前後ほどに焼土および焼土混入土が見られる。 なおカマド構築の掘方は幅 1.2m、長さ 1.05mほどを測る。

床は、南北方向はほぼ水平であるが、東西方向は西から東に向って緩やかに低くなっている。 この床はカマド付近で明確に貼った状況が確認でき、おおよそ 4 cm 前後に黒褐色土をつき固め ている。柱穴は全く確認されなかった。

遺物はカマドおよび住居址の中心付近に集中して出土した。土師器坏、高台付坏、皿、甕、羽釜、須恵器甕、用途不明鉄製品などがある。坏、皿は器体部下半にヘラ削りが見られず、底が回転糸切り未調整のものが主体を占めており、平安時代後半に主体が置かれるものと考えられる。

重複遺構は18号住居址であり、新旧関係は11号住居址が18号住居址を切って構築されており

11号住居址(新)→18号住居址(古)となる。

○ 12号住居址 (第8・323~324図)

520+05N2、519+95N2、519+95N4、520+05N4のグリッドに位置する。

平面は方形を呈するが、北西コーナー付近は畑の境界である石垣が作られており、確認できなかった。規模は 3.96m、南北 3.85mを測る。主軸方向は $N-115^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 11cm、西壁 17cm、南壁 10cm、北壁 10cmを測る。カマドは東壁の中央に設置されている。袖部が石組の形態で残存は良好であった。焼土ブロックは認められなかったが、厚さ15cm前後に焼土混入土の堆積が認められた。

床はほぼ平坦に仕上げられている。柱穴は全く確認されなかった。

遺物は比較的多く、特にカマドの右脇付近には集中していた。土師器坏、皿、甕、鉄製刀子などが見られる。坏は内面に暗文が無く、器体部下半にヘラ削り、底を回転糸切り後ヘラ削りするものと、器体部下半と底とも全くヘラ削りの見られないものとが相半ばする状況である。平安時代中ころに置かれるものと考えられる。

重複遺構はない。

○ 13号住居址 (第9・324~326図)

520+45N₄、520+40N₄、520+40N₅、520+45N₅のグリッドに位置する。

住居址の床、壁の立上りが確認できなかった。このため遺物の出土状況などから、平面が方形で規模が一辺 5.5m 前後を推定した。主軸方向はN-14°-Eを測る。

炉は推定プランの中央よりやや南西寄りに設置されているが、床面が軟弱なため床面として確認できず掘下げたため検出時には浮いたような状況となってしまった。焼土および焼土混入土の範囲は東西方向に長い、東西80cm、南北60cm、厚さ12cm前後を測る。

遺物も炉と同様に検出時には浮いた状況となってしまったが、炉を中心に大型の破片などが見られた。土師器蓋、器台、高坏、小型壺、甕などがある。高坏の中には脚部に幾つもの孔を配するものも存在する。甕の中にはS字口縁台付甕が確認できる。おおよそ古墳時代前~中期の時期に置かれるものと考えられる。

重複遺構は見られないようであった。

○ 14号住居址(第10・11・327図)

520+00N₁、519+95N₁、519+95N₃、520+00N₃のグリットに位置する。

平面は方形を呈すると思われるが、西部は畑の境界である石垣が積まれており、確認できなかった。規模は東西 3.7m以上、南北 3.85mを測る。主軸方向は $N-17^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 23.5cm、南壁 27.5cm、北壁 10cmを測る。西壁は不明である。カマドは北壁の中央付近に設置されたものと考えられる。袖部が石組の形態で袖石の存在状況も比較的良好であった。カマドの中央付近に直径 20cm前後、厚さ 2 cm前後の焼土層が認め

られた。なおカマドの掘方は長さ1m、幅0.8mほどの大きさであった。

床は平坦に仕上げられている。柱穴は全く認められなかった。遺物はカマド内から土師器甕、羽釜などが発見されたのをはじめ、カマドの周辺に遺物の集中が認められた。土師器坏、皿、高台付坏(?)、鉢、甕、羽釜、小壺などが見られる。坏、皿のいずれも器体部下半にヘラ削りがなく、底が回転糸切り未調整のものであり、平安時代後半のものであった。

重複遺構は15・19号住居址であり、新旧関係は14号住居址(新)→19→15号住居址(古)であった。なお14と19号住居址との間には、時間的差はほとんど認められなかった。

○ 15号住居址(第10・11・328図)

520+05N₁、519+95N₁、519+95N₃、520+05N₃のグリッドに位置する。

平面は方形を呈すると考えられるが、南半分を $14 \cdot 19$ 号住居址によって切られている。規模は東西 3.78m、南北は存在部で 2.3mを測る。主軸方向はN-119° -Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は南壁を除き東壁 9~cm、西壁 4~cm、北壁 7.5cmを測る。カマドは東壁の北壁側に寄って設置されている。カマドは袖部が石組の構造と考えられるが、検出状況が悪く、焼土のみが確認され袖石などの残存は見られなかった。焼土範囲は東西 55~cm、南北 65~cm、厚さ 15~cmほどを測る。床は平坦に仕上げられている。柱穴は全く確認できなかった。

遺物はカマド内より出土した土師器皿、甕のほか、坏、高台付坏などがある。このうち坏は 器体部下半にへう削りを施すが内面には暗文は見られない。平安時代前半のものと考えられる。 重複遺構は14・19号住居址のほかに34・35・41・42号住居址などであり、新旧関係は14・19・ 34・35・19号住居址(新)→15→41・42号住居址(古)であったが、このうち34・35号住居址と の切合い関係はやや明確でなく、新旧関係は流動的である。

○ 16号住居址(第12・328・329図)

520+35N₄、520+25N₄、520+25N₅、520+35N₅のグリッドに位置する。

平面は方形を呈するものと考えられるが、壁の立ち上りは確認できず、主に遺物の出土状況などから推定している。この推定によれば規模は東西、南北ともに 4.5mを測る。主軸方向は $N-10^\circ-E$ を指す。カマドは浮いた状況で北壁の中央より東壁寄りから検出されたが、長さ 80cm、幅 60cmほどを測る袖部が石組の形態のものである。袖石は左側壁のものが基部をしっかり埋め込んだ状況で確認された。しかし右側壁にはこの状況は確認されなかった。カマドの中央あたりに長さ 40cm、幅 35cm、厚さ 4cm前後の焼土層が確認された。なお中央よりやや外側にカマドの支脚と考えられる立石が見られるが、位置からして断定できない。

床は平坦に仕上げられている。柱穴は全く確認されなかった。

遺物はカマドの前面から集中して発見された。土師器坏、皿、甕、羽釜、用途不明鉄製品などが見られる。坏、皿ともに器体部下半にヘラ削りを施すものを主体としているが、坏の内面に暗文は見られない。少量の坏、皿が器体部下半にヘラ削りを施さず、底が回転糸切り未調整のものであった。平安時代中ころと考えられる。

重複遺構は22号住居址であり、新旧関係は22号住居址(新)→16号住居址(古)と考えられる。 なお遺物から見れば時間的差はほとんど見られない。

○ 17号住居址 (第13・330~332図)

 $520+20S_2$ 、 $520+10S_2$ 、 $520+10N_1$ 、 $520+20N_1$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 4.23m、南北 4.16mを測る。主軸方向は $N-105^{\circ}-E$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 18cm、西壁 27cm、南壁 22.5cm、北壁 24.5cmを測る。カマドは東壁のほぼ中央に設置され、袖部が石組の構造をとる。袖石は左右とも比較的良好な状況で残存していた。長さ 1.55m、幅 60cmほどを測る。焼土ブロック、焼土混入土が厚さ 30cmほどに堆積している。このうち焼土混入土の間に焼土を混入しない黒褐色土が介在していることから、大きく 2回に渡り使用されたものと考えられる。

床は平坦に仕上げられているが、カマドの右脇に1カ所、住居址の中央やや北寄りに2ヶ所のピットが見られる。このうち中央やや北寄りのものは柱穴の位置としては、やや不自然な位置である。またカマド脇のピットは貯蔵穴的な性格をもつものかもしれないが、断定できない。住居址中央には直径60cm、高さ15cmほどの粘土塊が確認された。柱穴と考えられるピットは全く確認されなかった。

遺物はカマドを中心に検出された。土師器坏、皿、甕、羽釜、灰釉陶器甕などがある。坏、皿はほとんど器体部下半にヘラ削りを施すものであるが、坏の内面には暗文が見られない。平安時代前期と考えられる。

重複遺構は20号住居址であり、新旧関係は17号住居址(新)→20号住居址(古)であった。 なお、時間的関係はわずかなものである。

○ 18号住居址(第14・332図)

520+25 S₃、520+15 S₃、520+15 S₂、520+25 S₂のグリッドに位置する。

平面は方形を呈するが、南東部分を11号住居址によって切られている。主軸方向はカマドが確定できず不明である。規模は東西 3.26m、南北 3.45mを測る。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 9.5cm、西壁 17cm、南壁 16cm、北壁 16cmを測る。住居址内に多数の礫が存在していたが、カマドの石組と考えられるものは認められなかった。

床は平坦に仕上げられている。柱穴は全く確認されなかった。

遺物はほとんどが細片のものであり、図示できるものはほとんどなかった。土師器坏がわずかに図示できた。内面に暗文がなく器体部下半をヘラ削り、底部を回転糸切り後ヘラ削りするもので、平安時代前半のものと考えられる。

重複遺構は11号住居址であり、11号住居址に切られていることから新旧関係は11号住居址(新) →18号住居址(古)であった。

○ 19号住居址(第15・332図)

520+05N₁、519+95N₁、519+95N₃、520+05N₃のグリッドに位置する。

平面は方形を呈するが西部の大半を14号住居址によって切られている。規模は東西 2.95m以上、南北 4.63mを測る。主軸方向は $N-40^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認できた壁高は西壁を除き東壁 21cm、南壁 23.5cm、北壁 16cmを測る。カマドは東壁と北壁のコーナーに設置され、袖部が石組の形態である。石組の残存状況は良好である。コーナーに設置されたため袖の左右に石を東壁と北壁まで延して積み上げており、特に左袖は2段に渡って積み上げられている状況が捉えられた。長さ20cm、幅30cm、厚さ5cmほどの焼土ブロックが認められた。カマドの掘方は長さ1.2m、幅1.7mほどの範囲であった。

床は平坦に仕上げられている。柱穴は全く確認できなかった。

遺物はカマド左袖の上部から砥石が出土したほか、土師器皿などが確認された。このうち図示できるのは数点であった。カマド内より出土した皿は器体部にヘラ削りをもたない底が回転糸切り未調整のものと考えられる。これをとれば平安時代後半といえる。

重複遺構は14・15号住居址であり、新旧関係は19号住居址(新)→14→15号住居址(古)と考えられる。

○ 20号住居址(第16・333図)

520+20S₃、520+10S₃、520+10S₁、520+20S₁のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 4.1m、南北 3.95mを測る。主軸方向は $N-117^{\circ}-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁20cm、西壁18cm、南壁 8cm、北壁21cmを測る。カマドは東壁の中央より南壁に寄って設置されているが、ほとんど石組が残存しておらず、焼土混入土が長さ 1.1m、幅60cmの範囲に散在するのを確認できたにすぎない。

床は平坦に仕上げられているが、南壁の中央やや西壁寄りに深さ20cm前後のピットが認められた。しかしその性格は不明である。柱穴は全く確認できなかった。

遺物は土師器坏、皿、甕、大鉢、灰釉陶器皿などがある。このうち坏、皿は器体部下半にヘラ削りを施し、底が回転糸切り後ヘラ削りされるものである。しかし坏の内面には暗文が全く施されないもので、平安時代前半と考えられる。

重複遺構は17号住居址であり、切合いや遺物の面から17号住居址(新)→20住居址(古)である。しかしその時期差はわずかなものといえる。

○ 21号住居址(第17・334図)

520+20S₂、520+15S₂、520+15S₁、520+20S₁のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.27 m、南北 3.2 mを測る。主軸方向はN-20°-Eを指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 25.5 cm、西壁 23.5 cm、南壁 10.5 cm、北壁 22 cmを測る。カマドは北壁の中央よりやや東壁寄りに設置され、袖部が石組の構造である。袖石の残存状况は左右とも良好である。また右袖石から天井石と考えられる偏平な角材がカマドの内側に落下している。焼土および焼土粒子混入土が厚さ30 cm ほどに堆積している。 床は平坦に仕上げられている。柱穴は全く確認されなかった。

遺物はカマドの中より土師器羽釜、周辺より土師器坏、皿、甕が出土した。坏、皿は器体部下半にへう削りを施し、底が回転糸切り後へう削りされているものである。坏の内面には暗文は見られないが、坏、皿、ともに口唇部形態は玉縁になっていない。平安時代前半と考えられる。重複遺構は17号住居址が隣接する以外無い。

○ 22号住居址(第18・334・335図)

520+30N₄、520+25N₄、520+25N₆、520+30N₆のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 4.2m、南北 4.4mを測る。主軸はN-100°-Eを指す。

壁は壁高がわずかに確認できたにすぎない。カマドは東壁のほぼ中央に位置するが、焼土が 確認されたにすぎない。

床はほぼ平坦に仕上げられている。柱穴は全く確認されなかった。

遺物は土師器坏、皿、甕、鉄鏃、砥石、石製紡錘車などがある。このうち石製紡錘車は混入品と考えられる。坏、皿ともに器体部下半にヘラ削りを施すものは少なく、おおくが器体部下半にヘラ削りを施さず、底が回転糸切り未調整のものであった。またわずかに内面に暗文を持つものが見られる。平安時代中ころと考えられる。

重複遺構は24・25号住居址で、新旧関係は22号住居址(新)→24→25号住居址(古)であった。

○ **23号住居址** (第19 • 336図)

520+50N₅、520+45N₅、520+45N₇、520+50N₇のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.05m、南北 2.92mを測る。北西コーナー部分が未掘である。 主軸は $N-140^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 20cm、西壁 14.5cm、南壁 21cm、北壁 10cmを測る。カマドは東壁のほぼ中央に設置され、袖部が石組の形態である。しかし、石組の残存はわるく、原位置のものはほとんど見られない。焼土層が長さ30cm、幅70cmに渡り見られ、また焼土混入土は長さ 1.2m、幅 80cmほどにわたって堆積があった。カマドの掘方は長さ 1.3m、幅 0.95mほどであった。

床は平坦に仕上げられている。柱穴は全く確認できなかった。

遺物はカマド内より土師器羽釜が出土したほか、カマド周辺に濃厚に見られ、土師器坏、皿、鉢、灰釉陶器高台付城などがある。坏、皿は器体部が無調整、底が回転糸切り未調整のものがほとんどである。灰釉陶器は光ケ丘窯址生品と考えられる。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は見られない。

○ 24号住居址(第20・337図)

 $520+30N_5$ 、 $520+20N_5$ 、 $520+20N_7$ 、 $520+30N_7$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.9m、南北 4.1m ほどを測る。主軸は N-5°- Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁18cm、西壁14cm、南壁15cm、北壁12cmを測る。カマドは北壁の中央に設置されている。袖部に石がほとんど見られないところから、粘土を主体として構築された構造と考えられる。また煙道部に向って一部レンガ状化した焼土の筋が見られた。カマド内に堆積した土には焼土、カーボンが含まれている。

床は平坦に仕上げられている。柱穴は全く確認されなかった。なお南壁の中央あたりに粘土 が遺存していた。

遺物はカマド周辺と、南壁寄りを中心にしたあたりに集中していた。土師器坏、鉢、甕、須恵 器短頸壺、鉄鏃(?)などが見られる。古墳時代後期前半ころと考えられる。

重複遺構は22•25号住居址であり、新旧関係は22号住居址(新)→25→24号住居址(古)であった。

○ 25号住居址(第21・338図)

520+30N4、520+25N4、520+25N6、520+30N6のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西、南北ともに 2.9mを測る。主軸方向はN-99°-Eを指す。 25号住居址はその大部分を22号住居址と重複しており、カマドと考えられる焼土がわずかに 確認されたにすぎない。

遺物は土師器坏、甕などがある。坏は器体部下半にヘラ削りを施し、かつ内面に暗文も施す ものであり、平安時代前半ころと考えられるものである。

重複遺構は22 • 24号住居址があり、新旧関係は22号住居址(新)→25→24号住居址(古)であった。

○ 26号住居址(第22・338図)

520+30S4、520+20S4、520+20S3、520+30S3のグリッドに位置する。

本住居址は他の住居址との重複が著しく壁の確定ができず、主に遺物の出土状況などによって平面形を推定した。平面は方形を呈するものと考えられる。規模は未掘の部分があり東西 3.35m、南北 3.45m以上を測る。主軸方向は $N-51^\circ-E$ を指す。

カマドは東壁の中央付近に礫の散乱が見られ、若干の焼土も確認されたので、カマドと考えた。袖部が石組の形態であるが残存状況は悪い。

遺物には土師器坏、皿、甕、用途不明鉄製品などが見られる。坏、皿ともに器体部下半にヘラ削りを施し、底が回転糸切り後ヘラ削りするものが主体である。なお坏の内面には暗文は見られない。平安時代中ころと考えられる。

重複遺構は27・28号住居址であるが、遺物の出土状況などからこの他にも確定できなかった 幾つかの重複住居址があったと考えられる。新旧関係は26号住居址(新)→28→27号住居址(古) であった。

〇 27号住居址 (第22 • 339図)

520+30 S₄、520+20 S₄、520+20 S₃、520+30 S₃のグリッドに位置する。

本住居址は他の住居址との重複が著しく、壁のごく一部が検出されたにすぎず、遺物の出土状況などから平面形を推定した部分が多い。平面は方形プランを呈するものと考えられる。規模は未掘の部分が多く、現状で推定できる範囲として東西 2.3m、南北 1.9m を測る。主軸方向は $N-16^\circ-E$ を指す。

壁の壁高の確認されたのは東壁のみで、約20cmを測る。カマドは北壁に設置され、袖部が石組の形態をとる。袖石の残存状況は比較的良好であった。焼土ブロックが中央部に点在するほか、焼土混入土は堆積土の全体に見られた。

床は平坦である。柱穴、貯蔵穴は全く確認されなかった。

遺物はカマドとその周辺から出土している。土師器坏、高坏、甕、須恵器高坏、それに土製支脚などが見られる。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は26・28号住居址で、新旧関係は26・28号住居址(新)→27号住居址(古)である。

○ 28号住居址 (第22 · 339図)

520+30S4、520+20S4、520+20S3、520+30S3のグリッドに位置する。

本住居址は他の住居址との重複が著しく、壁の確定ができず主に遺物の出土状況などによって平面形を推定した。平面は方形を呈するものと考えられる。規模は東西が 3m、南北が残存部で 2.45mを測る。主軸方向は $N-95^{\circ}-E$ を指す。

カマドの石組などは確認できなかったが、東壁寄りに焼土の認められる部分が確認され、ここをカマドと推定しておきたい。

柱穴などのピットや貯蔵穴などは全く確認されていない。

遺物は細片が多く図示できる資料は、甕のみであった。平安時代の甕と考えられ、南関東地域などとの関係が考えられるものである。重複関係から平安時代前半と考えられる。

重複遺構は26 • 27号住居址であり、新旧関係は26号住居址(新)→28→27号住居址(古)であった。

○ 29号住居址(第23・340図)

520+10N₁、520+00N₁、520+00N₃、520+10N₃のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.1m、南北2.8mを測る。主軸方向は $S-20^{\circ}-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁11cm、西壁12cm、南壁17cm、北壁15cmを測る。カマドは南壁のほぼ中央に設置され、袖部が石組の形態をとる。袖部の残存状況はほぼ良好といえる。焼土ブロックがわずかに存在する。このほか焼土はカマド内の堆積土のいずれにも確認できた。カマドの規模は長さ 1.35m、幅 0.3mほどであった。

床はほぼ平坦に仕上げられている。柱穴などは全く確認できなかった。

遺物は全体から確認されたが、土師器坏、皿、高台付坏、灰釉陶器高台付城が見られる。坏、 皿はいずれも器体部下半にヘラ削りの施されない、底が回転糸切り未調整のものであった。平 安時代後半と考えられる。

重複遺構は31・33・35・36号住居址であり、新旧関係は29号住居址(新)→31・35・33→36号住居址(古)であった。なお29号住居址から36号住居址までほとんど時間的な開きはない。

○ 30号住居址 (第24・341図)

 $520+10N_2$ 、 $520+00N_2$ 、 $520+00N_4$ 、 $520+10N_4$ のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.1 m、南北 3.07 m を測る。主軸方向は 2 ケ所に見られる 焼土のうちコーナー部分のものをカマドと考えていることから不明である。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 31cm、西壁 31cm、南壁 24cm、北壁 36cmを測る。カマドは焼土が中央よりやや西寄りと、南東コーナーの2ヶ所に認められたが、このうちコーナーの焼土をカマドと考えた。石組カマドと思われるが、石組の残存は全く見られない。カマド内の焼土は上下2層に渡って見られた。

床は平坦に仕上げられている。柱穴は全く確認できなかった。

遺物は土師器坏、皿、甕などが見られる。坏、皿は器体部下半に全くへラ削りを施さず、かつ 底が回転糸切り未調整のもののみである。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は $31 \cdot 32 \cdot 37$ 号住居址であり、新旧関係は30号住居址(新) $\rightarrow 31 \cdot 32 \rightarrow 37$ 号住居址 (古)である。このうち $31 \cdot 32$ 号住居址との間にはほとんど時間差が無いものと考えられる。

○ 31号住居址 (第25 • 342図)

520+10N₂、520+00N₂、520+00N₃、520+10N₃のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.45m、南北 3.5mを測る。主軸方向は $N-113^\circ$ - E を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 4.1cm、西壁 4.cm、南壁 12.5cm、北壁 35cmを測る。カマドは東壁の南壁近くに設置され、袖部が石組の形態をとる。袖石の残存状況は比較的良好といえる。袖石は正面の部分において左右方向に石積される形態と考えられる。焼土は長さ60cm、幅 40cm、厚さ 5.cmの範囲に認められる。このほかカマド内の堆積土に焼土の混入が見られる。

遺物は土師器坏、皿、緑釉陶器などが見られる。坏、皿はいずれも器体部にヘラ削りの施されない、底が回転糸切り未調整のものを主体とするものである。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は29・30・37号住居址である。新旧関係は29・30号住居址(新)→31→37住居址(古)である。このうち29~30号住居址の間にはそれほどの時間差は認められない。

○ 32号住居址(第26・342・343図)

520+10N₁、520+00N₁、520+00N₄、520+10N₄のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.45m、南北 3.48mを測る。主軸方向は N - 120° - Eを指す。

壁は外傾し、確認できた壁高は東壁 20.5cm、西壁 37.5cm、南壁 7 cm、北壁 49cmを測る。カマドは、東壁の中央よりやや北壁寄りに設置されている。袖部を石組する形態と考えられるが、

袖石などの残存は認められず、焼土などの堆積が直径70㎝ほどに渡り見られる。

床は平坦に仕上げられている。柱穴などは確認されなかった。北西コーナー付近に礫が見られたが、焼土の存在は認められなかった。

遺物は土師器坏、皿、緑釉陶器などがある。坏、皿は器体部下半にヘラ削りの施されたものと、施されないものとが見られた。平安時代中ころと考えられる。

重複遺構は30・37号住居址であり、新旧関係は30号住居址(新)→32→37号住居址(古)であった。

〇 33号住居址 (第26 • 343図)

520+10N₁、520+00N₁、520+00N₃、520+10N₃のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西3.2m、南北3.35mを測る。主軸方向はN-107°-Eを指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 17cm、西壁 7 cm、南壁 14cm、北壁 9 cmを測る。カマドは、 東壁の中央よりやや北壁寄りに設置されている。わずかにカーボン、焼土の堆積と立石が見られる。立石は袖石の一部と見られるが断定できない。床は平坦に仕上げられている。柱穴など は確認できなかった。

遺物は土師器坏、皿、甕などが見られる。坏、皿は器体部下半にヘラ削りがみられず、底が回 転糸取り未調整のものが主体である。平安時代中ころと考えられる。

重複遺構は29・42号住居址であり、新旧関係は29号住居址(新)→ 33→42号住居址(古)であった。29・33号住居址との間にはほどんど時間差はない。

○ 34号住居址(第27・344図)

520+05N₂、519+95N₂、519+95N₃、520+05N₃のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 2.7m、南北 2.77mを測る。主軸方向は N - 116° - Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 2.5cm、西壁 29.6cm、南壁 10cm、北壁 8 cmを測る。カマドは、東壁の中央よりやや南壁寄りに設置されている。石組カマドと考えられるが、袖石の残存はほとんど見られない。焼土が長さ75cm、幅50cm、厚さ 10cm前後に堆積している。

床は平坦に仕上げられている。柱穴は全く確認できなかった。

遺物はカマド内、その周辺から土師器坏、皿などが見られる。坏、皿は器体部下半にヘラ削りを施さず、底が回転糸切り未調整のものを主体とするようである。平安時代中ころと考えられる。

重複遺構は $14 \cdot 15 \cdot 35 \cdot 36 \cdot 41$ 号住居址である。このうち41号住居址との関係は、34号住居址が41号住居址の上に載って構築されている。新旧関係は14号住居址(新) $\rightarrow 34 \cdot 35 \cdot 15 \cdot 36 \rightarrow 41$ 号住居址(古)であった。なお、15号住居址との関係はやや明確でなく、流動的である。

○ 35号住居址(第28・344図)

520+05N₂、520+00N₂、520+00N₃、520+05N₃のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.5m、南北 3mを測る。主軸方向は $N-106^{\circ}-E$ を指す。

壁は南西コーナー付近を34号住居址で切られている。外傾し、確認された壁高は東壁 $10\,cm$ 、西壁 $11.5\,cm$ 、南壁 $15.5\,cm$ 、北壁 $2\,cm$ を測る。カマドは東壁の中央よりやや北壁寄り、北東コーナー近くに設置されている。石組カマドであるが残存状況は良くない。また一部を29号住居址によって切られている。焼土混入土が長さ $50\,cm$ 、幅 $55\,cm$ 、厚さ $5\,cm$ ほどに堆積している。

床は平坦に仕上げられている。柱穴などは全く確認されていない。

遺物は土師器皿が図示できたにすぎない。器体部下半にヘラ削りが施されず、底が回転糸切り未調整のものである。平安時代中ころと考えられる。

重複遺構は15・34・36・41・42号住居址などであり、新旧関係は34・35号住居址(新)→15・36→41・42号住居址(古)であった。34号住居址との時間差はほとんど無いと考えられる。36号住居址を切り込んで構築されている。

○ 36号住居址(第29図)

520+05N₂、520+00N₂、520+00N₄、520+05N₄のグリッドに位置する。

平面は方形を呈するものと考えられるが、南半分を34・35号住居址によって切られている。 規模が東西 3.99mを測り、南北は 2.9m以上を測る。主軸方向は $N-27^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 14.5cm、北壁 2cmを測る。西壁はわずかな壁高が確認されたにすぎず、南壁は不明である。

カマドは北壁の中央よりやや西壁寄りに設置されている。石組カマドと考えられるが、石組の残存は全くなく、わずかに焼土混入土の堆積が確認されたにすぎない。

床は平坦に仕上げられている。柱穴は全く確認されなかった。

遺物は図示できるものは全くない。34・35号住居址との切合い関係から、平安時代中ころと考えられる。

重複遺構は29・34・35・37号住居址であり、新旧関係は29号住居址(新)→34・35→37号住居址(古)である。

○ 37号住居址(第30・344図)

520+10N₂、520+00N₂、520+00N₅、520+10N₅のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は現状で東西 7.9m、南北 6.8mを測る。南部を31・35・36号住居址などによって切れている。

住居址の平面形は一応確認できたものの、明確に判断を下せない状況であった。カマドは確認できなかった。

床は平坦に仕上げられている。柱穴は全く確認てきなかった。

遺物は土師器坏、甕、甑、須恵器高坏であった。須恵器高坏は短脚のもので横位のハケメを 持つのを特徴とする。古墳時代後期前半に置かれるものと考えられる。 重複遺構は29・30・31・32・34・35・36号住居址と多い。新旧関係は29・30・34号住居址(新)→31・32・35・36→37号住居址(古)であり、この一群において37号住居址が最も古い時期の住居址といえる。

○ 38号住居址 (第30・345図)

 $520+45N_5$ 、 $520+35N_5$ 、 $520+35N_7$ 、 $520+45N_7$ のグリッドに位置する。

本住居址は39号住居址の北側で焼土がわずかに確認さたもので、この焼土を中心にして方形の平面形が推定されたにすぎず、不明な点が多い。

遺物は焼土付近から出土した土師器坏が図示できたにすぎない。坏は器体部下半にヘラ削りを全く施さず、底が回転糸切り未調整のものである。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は39・40号住居址である。新旧関係は直接的な切合い関係が不明なため遺物から推定すると、39号住居址(新)→38→40号住居址(古)である。

○ 39号住居址(第31・345図)

 $520+40N_{5}$ 、 $520+35N_{5}$ 、 $520+35N_{6}$ 、 $520+40N_{6}$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西3.3m、南北は3.7mを測る。主軸方向はN-48°-Eを指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁30cm、西壁21cm、南壁19cm、北壁29cmを測り、比較的良好な状況で検出された。カマドは北壁のほぼ中央に設置され、袖部を石組する形態で袖石などの残存は極めて良好であった。左右袖石はいずれも3個の平石を立てて袖となし、その中央部の石の上にやや小型の石材を載せている。また袖石の入口と奥との位置にそれぞれ左右から長手の平石をさし渡し、天井部としている。中央に焼土の5cmほどの堆積が見られた。またカマドの正面付近に薄く焼土や炭化物、灰の層が確認された。

床は壁側から中央に向ってわずかに上り気味に仕上げられている。柱穴などは全く確認されなかった。

遺物は土師器台付皿、羽釜などが見られる。台付皿は底が回転糸切り未調整のものである。 羽釜は胎土がやや硬く、器面にハケメがほとんど見られないものである。平安時代後半と考え られる。

重複遺構は38・40号住居址であり、新旧関係は39号住居址(新)→38→40号住居址(古)であった。

○ 40号住居址(第32・345~347図)

 $520+40N_5$ 、 $520+30N_5$ 、 $520+30N_7$ 、 $520+40N_7$ のグリッドに位置する。

平面はほぼ方形を呈する。規模は東西 4.25m、南北 4.35mを測る。主軸方向は N -13° - W を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 28cm、西壁 35cm、南壁 48cm、北壁 28cmを測り、比較的良好であった。カマドは北壁の中央に設置されたカマドである。袖石となる礫の存在が袖部正面

の1点にすぎず、総石組カマドとするより袖石と粘土を併用した構造と考えられる。またレンガ化した焼土が左右に平行して見られる。この焼土が壁とは直交していないことから壁に斜めに取付けられたものといえよう。

床はほぼ平坦に仕上げられている。柱穴などは全く確認できなかった。

遺物はカマド内とその周辺に集中して発見された。特に甕、甑どはカマド内に遺存が高かった。土師器坏、高坏、甕、甑などがある。古墳時代後期と考えられる。

重複遺構は38・39号住居址であり、新旧関係は最も古く位置ずけられ、39・38号住居址(新)→40号住居址(古)であった。

○ 41号住居址(第33・348図)

520+05N₁、519+95N₁、519+95N₃、520+05N₃のグリッドに位置する。

平面は矩形を呈する。規模は東西 2.65m、南北 2.55mを測る小型の住居址である。主軸方向は $N-107^{\circ}-E$ を指す。

壁はわずかに外傾し、確認された壁高は東壁 18cm、西壁 31cm、南壁 31cm、北壁 33cm ほどを測る。カマドは東壁の北壁際に設置されている。焼土などが70cm×40cmの範囲に認められる。しかし袖石などの礫は遺存していなかった。おそらく袖石と粘土を併用した構造ではないかと考えられる。

床はほぼ平坦に仕上げられている。柱穴などは全く確認されなかった。

遺物はカマドの脇あたりから重った状態で土師器境、坏などや、また南西コーナーあたりから坏が出土した。このほか甕が見られる。古墳時代末ころと考えられる。

重複遺構は $15 \cdot 19 \cdot 34 \cdot 35 \cdot 42$ 号住居址であり、このうち $15 \cdot 19 \cdot 34 \cdot 35$ 号住居址は本住居址の上部に構築されている。42号住居址はカマドの残存状況からは本住居址に切られている。新旧関係は $15 \cdot 19 \cdot 34 \cdot 35$ 号住居址(新) $\rightarrow 41 \rightarrow 42$ 号住居址(古)である。

○ 42号住居址(第33・348図)

 $520+05N_1$ 、 $520+00N_1$ 、 $520+00N_3$ 、 $520+05N_3$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.75m、南北 2.9mを測る。主軸方向は不明である。

壁は外傾するものと思われる。確認された壁高は東壁 4.5cm、南壁 10.5cm、北壁 17cm、西壁は 41号住居址によって切られている。カマドは不明である。

床は平坦に仕上げられている。柱穴などは全く確認されなかった。

遺物には土師器坏、皿、甕、鉢、須恵器高台付坏などが見られるが検出状況は良好ではなかった。そのために帰属時期は平安時代、奈良時代、古墳時代に渡る時期のものがある。しかし41号住居址との切合い関係からすれば古墳時代後期の時期と考えられ、甕がその時期に該当するものといえる。

重複遺構は15・35・41号住居址があり、新旧関係は15・35号住居址(新)→41→42号住居址(古)となる。

○ 43号住居址(第34・349・350図)

520+20S4、520+10S4、520+10S2、520+20S2のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西3.25m、南北3.45mを測る。主軸方向は $N-101^\circ-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 9~cm、西壁 12cm、南壁 13cm、北壁 13cmを測る。カマドは 東壁の中央よりわずか北壁寄りに設置されている。焼土が確認されたのみで、その範囲は80~cm×70~cmほどであった。

床はほぼ平坦に仕上げられている。柱穴などは全く確認されなかった。

遺物はカマドを中心に検出され、土師器坏、皿、甕、小型甕、羽釜、灰釉壺、鉄製品(刀子、 鉄鏃ほか)などが見られる。坏、皿は器体部下半にヘラ削りを施すものと施さないものとが見 られ、前者が主体を占める。しかし内面に暗文を施すものは全く見られなかった。平安時代中 ころと考えられる。

重複遺構は52号住居址があり、新旧関係はわずかであるが43号住居址(新)→52号住居址(古)となる。

○ 44号住居址(第35図)

520+20N₁、520+15N₁、520+15N₂、520+20N₂のグリッドに位置する。

カマドとその周辺の壁がわずかに検出されたにすぎない。5号住居址の南東コーナーと重複するが、両住居址の切合い関係が明瞭とならず、まず5号住居址から掘り下げた。その結果44号住居址が新しい時期であったにもかかわらず44号住居址の壁が切られた状況となった。5・46号住居址の上面に構築されている。

カマドは東壁に設置されている。カマドの位置が東壁のどのあたりに位置しているかは明確にならないが、東壁と南壁の隅に設置されたものでないことは、壁がカマドからさらに延びていることから明らかといえる。カマドは袖部を石組する形態である。

床は軟弱であったが、ほぼ平坦に作られている。柱穴などは全く確認できなかった。

遺物はカマド内より土師器の小破片が出土している。ヘラ削りを器体部下半に施していない ことから平安時代後半と考えられる。

重複遺構は5 • 46号住居址があり、新旧関係は44号住居址(新)→5→46号住居址(古)であった。

○ 45号住居址(第35・350図)

520+15 S₁、520+10 S₁、520+10 N₂、520+15 N₂のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.45m、南北 3.3mを測る。主軸方向は N-5°-Wを指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 7~cm、西壁 24~cm、南壁 19~cm、北壁 3~cmを測る。カマドは北壁の中央に設置され、袖部を石組する形態である。袖部は右袖がカマドの中央に倒れている石を袖石とすると、左右とも 2~tmを組合せたものと考えられる。焼土が $20~cm \times 25~cm$ 、厚さ 5~cm に堆積している。

床は中央部が若干高まっているようである。柱穴は全く確認されなかった。

遺物はカマドの前から出土した土師器甕が図示できたにすぎない。口唇部の内側がくびれているのを特徴とする。古墳時代末期ころと考えられる。

重複遺構は46号住居址であり、新旧関係は切合い状況から45号住居址(新)→46号住居址(古)となる。

○ 46号住居址(第36·351図)

520+20N₁、520+10N₁、520+10N₃、520+20N₃のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 6.45m、南北 6.55mを測る。主軸方向は $N-38^\circ$ - Eを指す。壁は検出状況が悪く、確認できた壁高は 4 壁ともわずか 2 cm 前後を測れたにすぎない。カマドは北壁のほぼ中央あたりに設置されているものと考えられる。しかし、ここに 5 号住居址が切り込んで構築されたためか袖石などの残存は見られず、 $2.5m \times 3$ m の範囲に焼土やカーボンが薄く検出されたのみであった。

床は一部で良好な状況で検出されたが、壁際では不明瞭なところが多かった。平坦に仕上げられている。柱穴などは全く確認できなかった。

遺物は少なく、土師器坏、高坏、塊、土玉、滑石製臼玉、滑石製品などであった。坏の形態などから古墳時代後期と考えられる。

重複遺構は5・44・45号住居址である。このうち44号住居址は本住居址の上部に5・45号住居址は本住居址を切り込んで構築している。このため新旧関係は44・5号住居址(新)→45→46住居址(古)となる。

○ 47号住居址(第37・351図)

 $520+15N_7$ 、 $520+05N_7$ 、 $520+05N_8$ 、 $520+15N_8$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈するものと考えられる。規模は東西 3.25m を測り、南北は北側に未掘部分を残しており 2.7m以上を測るものといえる。主軸方向はN-1°-Wを指す。

壁は検出状況が悪く、最高で東壁の7㎝を測るにすぎない。北壁は不明である。

カマドは東壁と南壁との隅に設置され、袖部を石組する形態である。袖石は左右に見られるがわずかであった。この袖石間は30cm強を測る。

床は平坦に仕上げられている。柱穴は全く確認できなかった。

遺物は少なく、図示できたのはカマド内より出土した土師器甕の小破片にすぎない。この甕の胎土は硬く、ハケメが不鮮明なものであり、平安時代後半と考えられる。

重複遺構は48・49・51号住居址であるが、これらを全て切って構築されていることから新旧 関係は47号住居址(新)→48・49・51号住居址(古)となる。

○ 48号住居址(第38・351図)

520+15N₇、520+10N₇、520+10N₈、520+15N₈のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.85m、南北 2.9mを測る。主軸方向はN-9°-Eを指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 19cm、西壁 10cm、南壁 11.5cm、北壁 22cmを測る。カマドは東壁と南壁との隅に設置され、袖部を石組する形態である。袖石の石組は右側のみに残存が見られた。焼土混入土は長さ 80cm、幅 40cm、厚さ 10cm前後を測る。

床は平坦である。柱穴は全く確認できなかった。

遺物は少なく、土師器坏、甕、用途不明鉄製品が図示できたにすぎない。坏は器体部下半に へラ削りを施した内黒土器であり、平安時代前半ころと考えられる。しかしカマドの設置場所 が隅とすれば、平安時代後半の要素が見られ、遺物と遺構との間に齟齬を持つことになる。

重複遺構は47・49号住居址であり、47号住居址に切られ、49号住居址を切って構築されている。 新旧関係は47・48号住居址(新)→49号住居址(古)である。

○ 49号住居址(第39・352図)

 $520+15N_6$ 、 $520+10N_6$ 、 $520+10N_8$ 、 $520+15N_8$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西3.9m、南北3.95mを測る。主軸方向は $N-90^{\circ}-E$ を指す。 壁はやや外傾し、確認された壁高は東壁 14.5~cm、西壁 10cm、南壁 5.5cm、北壁 15cmを測る。 カマドは東壁の中央に設置され、袖部を石組する形態である。袖は右袖の中央に石が抜き取られたような空間が見られている以外、残存状況は良好といえる。袖石間は 50cm強を測り、入口部の袖石間には長手の平石が 2 個さし渡され、天井部を構築していたような状況が見られた。 また袖石の空隙には褐色土で壁を構築している。焼土はブロック状に厚さ 5~cm前後の堆積が見られた。

遺物はカマド内より土師器坏、甕、それに皿などが見られる。このうち坏は器体部下半にへ ラ削りを施すが、内面には暗文の見られないもののみである。平安時代前半と考えれる。

重複遺構は47・48号住居址であり、いずれの住居址からも切られている。新旧関係は47・48号住居址(新)→49号住居址(古)であった。

○ 51号住居址(第40・352・353図)

 $520+20N_7$ 、 $520+10N_7$ 、 $520+10N_8$ 、 $520+20N_8$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈すると考えられるが、大半が未掘である。規模は東西 3.55 m、南北 2.95 m以上 測る。主軸方向はN-103°-Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 22cm、西壁 13cm、南壁 23.5cmを測る。カマドは東壁のほぼ中央に設置されたと考えられる。袖部を石組する形態と考えられるが、袖の残存状況は悪い。 焼土を含んだ堆積土は長さ 25cm、幅 30cm、厚さ 10cmほどであった。

床は平坦に作られている。柱穴は全く確認されなかった。

遺物は土師器坏、皿、甕、須恵器坏、砥石などがある。坏は器体部下半にヘラ削りを施し、かつ内面に暗文を施するものが主体を占め、また皿は器体部下半を回転ヘラ削りするものである。 平安時代前半と考えられる。 重複遺構は47号住居址であり、47号住居址によって西壁の上部を切られている。新旧関係は 47号住居址(新)→51号住居址(古)となる。

○ 52号住居址(第41・353図)

520+20S4、520+10S4、520+10S2、520+20S2のグリッドに位置する。

平面は方形を呈するが、43号住居址によって大きく切られている。規模は東西 2.75m、南北 2.7mを測る。主軸方向は $N-110^\circ-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 12.5cm、西壁 11.5cm、北壁 17cmを測る。カマドは東壁の中央よりわずかに南壁側に寄った位置に設置されている。焼土部分がわずかに確認されたにすぎず、袖石などの遺存は見られなかった。

床は平坦に仕上げられている。柱穴などは全く確認されなかった。

遺物の量は多くないが、カマドを中心に土師器坏、皿、小型甕、須恵器甕、壺などが見られる。 坏、皿、は器体部下半にヘラ削りを施すもので占められているが、内面に暗文は見られない。 平安時代前半と考えられる。

重複遺構は43号住居址であり、新旧関係は43号住居址(新)→52号住居址(古)となる。

○ 53号住居址 (第42 • 354 • 355図)

 $520+20N_2$ 、 $520+15N_2$ 、 $520+15N_4$ 、 $520+20N_4$ のグリッドに位置する。

平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられるが、大半を 5 ・ 10号住居址と重なっており、明確にできなかった。このため規模、主軸方向は不明である。壁は西、北壁の一部が確認されたにすぎない。いずれも外傾し、確認された壁高は西壁19cm、北壁 17cmを測る。カマドは全く不明であった。

床は平坦であった。柱穴などは全く確認できなかった。

遺物は土師器坏、高坏、甕、甑、滑石製臼玉それに盤状形土製品がある。古墳時代後期前半ころと考えられる。

重複遺構は $5 \cdot 10$ 号住居址である。このうち5号住居址は本住居址を切り込んで構築されている。10号住居址については本住居址とどのように切合うのか平面から確認できなかった。また床面はほぼ同一レベルで作られていたため、床面から平面形の広がりをつかむこともできなかった。新旧関係のうち5号住居址(新) $\rightarrow 10 \cdot 53$ 号住居址(古)は切合い関係で明らかとなったが、 $10 \cdot 53$ 号住居址の新旧関係は遺構からは明確にならなかった。このため別々の住居址であったか否か問題も残る。遺物から見た場合は、近接した時期であるが遺物の様相の上に若干の違いがある。53号住居址の遺物は、10号住居址の遺物に比べ丹塗りされたものが多く、53号住居址が10号住居址に比べて先行するものではないかと考えられる。

○ **54号住居址** (第43 • 356 • 357図)

520+30 S₄、520+20 S₄、520+20 S₃、520+30 S₃のグリッドに位置する。

平面は方形ないし長方形を呈すると考えられるが、南部に未掘部分を大きく残す。規模は東西が 6.15mを測る。南北は現状の確認できる部分で 3.3mを測る。主軸方向は $N-30^{\circ}-W$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 13cm、西壁 13.2cm、北壁 9cmを測る。カマドは北壁の中央に設置されている。石組は全く見られず粘土カマドといえる。袖石として土師器の甕を倒置して据え付けている。煙道部が緩ゆかな上り勾配で、0.9mほどの長さに確認された。またカマド内から円筒形土器の基部が見つかり、天井石ないし支脚の用途が推定される。

床は平坦に作られている。深さ 25cm前後のピットが 2 ケ所確認され、位置から柱穴と考えられる。また北壁のカマドと西壁の中間あたりで、浅い落込みが見つかり、貯蔵穴の可能性がある。

遺物はカマドを中心として分布しており、土師器坏、高坏、鉢、甕、甑、円筒形土器などがある。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は $26 \cdot 27 \cdot 28 \cdot 58$ 号住居址であるが、 $26 \sim 28$ 号住居址が切り込み、あるいは上部に構築されている。58号住居址の平面は明確にならず、切合い関係は不明である。しかし遺物からは58号住居址が古い時期に置かれる。新旧関係は $26 \sim 28$ 号住居址(新) $\rightarrow 54 \rightarrow 58$ 号住居址(古)となる。

〇 55号住居址 (第44 • 358図)

520+30 S₄、520+20 S₄、520+20 S₂、520+30 S₂のグリッドに位置する。

6・56号住居址に接した南側に設定した住居址である。石組のような礫や焼土が確認された ために55号住居址として調査を進めたが、おおよそ東西、南北4mほどの広さに同一時期と考え られる土師器の分布を確認できたにすぎず、平面プランを明確にできなかった。

遺物は土師器坏、皿、高台付坏、高台付皿、甕などである。坏、皿は器体部下半にヘラ削りを全く施さないものが主体を占めている。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は $6 \cdot 56$ 号住居址である。新旧関係は切合い関係から直接明らかにならなかったが、 遺物から見ると55号住居址(新) $\rightarrow 6 \cdot 56$ 号住居址(古)となる。

○ 56号住居址(第44・359図)

520+30 S₃、520+20 S₃、520+20 S₂、520+30 S₂のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.65m、南北 2.55mを測る。主軸方向は N -123° - E を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 7 cm、西壁 10 cm、南壁 10.5 cmを測る。北壁は 6 号住居址 との切合いで不明である。カマドは東壁の中央より南壁側に寄った位置に設置されている。石 組カマドと考えられるが、焼土などが確認されたにすぎない。

床は平坦に作られている。柱穴などは全く確認できなかった。

遺物はカマド内や脇などに集中していた。土師器坏、皿、甕などがある。坏、皿は器体部下半

にヘラ削りを施したものであるが、内面に暗文は見られない。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は 6 • 55号住居址であり、その新旧関係は55号住居址(新)→ 6 →56号住居址(古)である。

○ 58号住居址 (第360~362図)

520+30S4、520+20S4、520+20S2、520+30S2のグリッドに位置する。

28・54号住居址の北側に設定した住居址であったが、平面プランは明らかにできなかった。 しかし出土した遺物の中に大きな混乱した状況は見られず、住居址が存在していたと考えられる。

遺物は土師器坏、高坏、城、鉢、甕、須恵器蓋坏それに円筒形土器および鉄鏃などがある。古 墳時代後期前半ころと考えられる。

重複遺構は28・54号住居址である。新旧関係は28・54号住居址(新)→58号住居址(古)である。

○ 59号住居址 (第45 • 363図)

520+90N₄、520+80N₄、520+80N₆、520+90N₆のグリッドに位置する。

平面は西、北壁が東、南壁に比べて短く矩形を呈する。規模は中央で東西 3.0m、南北 3.1mを 測る。主軸方向はN-18°-Eを指す。

壁は平面プランの検出が思うようにいかなかったため、いずれの壁も3cm前後という状況であった。カマドは東壁と南壁とのコーナーに設置されていたと考えられる。しかし石組などは残存せず、わずかに焼土が検出されたにすぎない。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは全く確認されなかった。

遺物はコーナーに設置されたと考えられるカマドを中心に分布が見られた。土師器坏、高台付坏、甕などがある。坏は器体部下半にヘラ削りを施すものであるが、高台付坏は全くヘラ削りの施されていないものとの両者が見られ、明らかに時間差のあることを示している。カマドがコーナーに設置された住居址とすれば後者の高台付坏が伴出遺物と考えられ、平安時代後半に置かれるものといえる。

重複遺構はないが、63・68号住居址と壁を接している。

○ 60号住居址(第45 • 46 • 363~365図)

520+95N₃、520+85N₃、520+85N₅、520+95N₅のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.5m、南壁 4.0mを測る。主軸方向は $N-52^{\circ}-E$ を指す。壁は外傾しており、確認された壁高は東壁 11.5cm、西壁 14cm、南壁 6.5cm、北壁 18.5cmを測る。カマドは東壁の中央よりやや南壁側に寄って設置されている。粘土カマドと考えられるが、袖部の正面左右に礫を 1 個づつ配して袖石としている。袖石間は 35cm ほどを測るが、天井石などは架してなかった。しかしカマドの前面において直径約 10cm、長さ 47cm以上の円筒形土器が見

られ、天井石としての可能性もある。焼土は長さ 25cm、幅 30cm、厚さ 5 cmほどに確認された。 床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドを中心とした周辺に集中していた。土師器坏、高坏、鉢、甕、須恵器蓋坏それに 円筒形土器などがある。このうち特に高坏は脚部が太い大型品で、特徴的である。古墳時代後 期前半と考えられる。

重複遺構は72号住居址であり、本住居址が72号住居址を切り込んで構築されている。このため新旧関係は60号住居址(新)→72号住居址(古)となる。また西壁の南壁寄りに土 が見られたが、本住居址を切り込んでおり、貯蔵穴とはならない。

○ 61号住居址(第47 • 366図)

 $520+00N_6$ 、 $520+90N_6$ 、 $520+90N_7$ 、 $520+00N_7$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.3m、南壁 3.3mを測る。主軸方向はS-8°-Wを指す。

壁はわずかに立ち上がりが確認できたにすぎず、4壁とも5cm前後を測る。カマドは南壁の中央より東壁側に寄った位置に設置されている。袖部を石組する形態で、両袖とも2枚の石を組合せて構築している。手前の袖石の上部には左右から差し渡した様な形で平石が2枚存在している。おそらく天井部を構成したものと考えられる。袖石間は40cmほどを測る。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認されていない。

遺物はカマド内から土師器坏が出土しており、一点は丹塗りのものである。古墳時代後期前 半と考えられる。

重複遺構は109号住居址であり、本住居址が切り込んで構築している。このため新旧関係は61号住居址(新)→109号住居址(古)となる。

○ 62号住居址 (第48・366~368図)

521+10N₅、520+95N₅、520+95N₇、521+10N₇のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 5.55m、南壁 5.6mを測る。主軸方向は $N-16^{\circ}-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 16cm、西壁 13.5cm、南壁 15.5cm、北壁 9cmを測る。カマドは北壁の中央に設置されており、袖石を持つ粘土カマドである。袖石間は 40cmほどを測る。

床は平坦に作られているが、この床面には炭化材が残存していた。柱穴は確認できなかった。 貯蔵穴と考えられるピットがカマドと東壁との間に北壁に接して見られた。長方形を呈し東西 0. 85 m、南北 0.6 m で、深さ 0.3 m ほどであった。中より坏が重った状態で出土している。

遺物はカマドおよび貯蔵穴の周辺に集中が見られる。土師器坏、高坏、甕、甑などがある。古 墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は66・76・103号住居址である。このうち66・76号住居址は本住居址を切り込みあるいは本住居址の上部に構築されている。103号住居址は本住居址に切り込まれている。従って新旧関係は66・76号住居址(新)→62→103号住居址(古)となる。



第5図 遺構配置図(2)

○ 63号住居址 (第49・369図)

520+90N₅、520+80N₅、520+80N₆、520+90N₆のグリッドに位置する。

平面はやや矩形を呈する。規模は東西3.3m、南北3.5mを測る。主軸方向は $N-107^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 12cm、西壁 6.5cm、南壁 25cm、北壁 6.5cmを測る。カマドは東壁の中央よりやや南壁側に設置されている。袖部を石組する形態であるが、向って右側の袖石のみが残存する。しかし左側の袖石については残存しないものの、石を据えた際の堀り込みが認められた。焼土は幅40cm、長さ80cm、厚さ 10cm前後の堆積がある。

床は東壁から西壁に向って緩やかに傾斜している。柱穴は確認できなかった。

遺物は土師器坏、甕、鉢などがある。坏は器体部下半にヘラ削りを施し、かつ暗文も施されたものである。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は67・68・133号住居址であるが、いずれも本住居址が切り込んで、あるいは上部に 構築されている。従って新旧関係は63号住居址(新)→67・68・133号住居址(古)となる。

○ 64号住居址 (第50・369~371図)

521+00N₂、520+90N₂、520+90N₄、521+00N₄のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 5.2m、南北 5.45mを測る。主軸方向はN-9°-Wを指す。住居址中央の農道は未掘である。

壁は外傾し、確認できた壁高は東壁 20cm、西壁 12cm、南壁 34cm、北壁 20cmを測る。カマドは 北壁の中央に位置しており、粘土カマドである。焼土がブロック状に見られるほかは不明。

南壁は中央より西壁寄りの位置で外方に幅 1.4m ほどの方形状に突出し、中に貯蔵穴と考えられる皿状のピットが掘られていた。このピットは直径 0.9m 前後、深さ25cm ほどを測り、中に甕が埋設していた。

壁は平面に作られている。柱穴は全く確認できなかった。

遺物はカマドの周辺に集中していた。土師器坏、甕、須恵器坏などがある。坏は丹塗りのものが目につく。また甕は6個体以上と多い。須恵器坏は2個体あるが、時間差が見られる。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は72号住居址であり、本住居址が72号住居址を切り込んで構築している。従って新旧関係は64号住居址(新)→72号住居址(古)となる。

○ 65号住居址(第51・372図)

521+10N₂、521+00N₂、521+00N₄、521+10N₄のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西、南北ともに 4.15mを測る。主軸方向は $N-33^{\circ}-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 25.5cm、西壁 4.5cm、南壁 11.5cm、北壁 15cmを測る。カマドは北壁に設置されていたものと考えられる。ほとんど形を残していないが、焼土が北壁中央より北壁側に寄った位置で確認され、カマドと推定した。

床は平坦に作られている。柱穴は確認されなかった。

遺物は土師器甕などがある。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は $73 \cdot 74$ 号住居址である。このうち74号住居址を切り込んで本住居址が構築されている。73号住居址とは一応本住居址が切り込んでいるものと捉えられたが、十分には捉えきれなかった。新旧関係は65号住居址(新) $\rightarrow 73 \cdot 74$ 号住居址(古)となる。

○ 66号住居址(第51・373図)

521+10N₅、521+00N₅、521+00N₆、521+10N₆のグリッドに位置する。

本住居址は62・76号住居址の東側に設定した住居址であるが、平面プランは南壁を中心とした一部が推定されたにすぎない。

遺物は南東コーナー付近から集中して発見された。土師器坏、皿、須恵器壺などがある。坏、皿は器体部下半にへう削りを施すものであるが、暗文は見られない。平安時代前半ごろと考えられる。

重複遺構は62・76号住居址であり、本住居址は両住居址の上部に構築されたものであるが、 不明な部分が多い。新旧関係は66号住居址(新)→62・76号住居址(古)である。

○ 67号住居址 (第52・373図)

 $520+90N_5$ 、 $520+80N_5$ 、 $520+80N_7$ 、 $520+90N_7$ のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。東西 4.25m、南北 3.75mを測る。主軸方向はN-40°-Wを指す。

壁は外傾するが、確認できた壁高はいづれも5cm前後を測るにすぎない。カマドは北壁のほぼ中央に設置れている。しかし残存状況は悪く、焼土などが確認されたにすぎない。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴は全く確認できなかった。

遺物は土師器高坏、城、須恵器坏などがある。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は $63 \cdot 69 \cdot 132 \cdot 133$ 号住居址である。63号住居址に切り込まれている以外は本住居址が切り込んで構築しているようである。新旧関係は63号住居址(新) $\rightarrow 67 \rightarrow 69 \cdot 132 \cdot 133$ 号住居址(古)となる。

○ 68号住居址(第53・374図)

520+95N₅、520+85N₅、520+85N₆、520+95N₆のグリッドに位置する。

平面は隅丸長方形を呈する。規模は東西 3.9m、南北 4.6mを測る。主軸方向は $N-13^{\circ}-W$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 15cm、西壁 11cm、南壁 21.5cm、北壁 17.5cmを測る。

床はほぼ平坦に作られている。床面の上部に炭化材が見られ、焼失家屋の観を呈する。住居 址の中央よりやや北東寄りに地床炉が設置してある。直径30cm前後の焼土と、この焼土の南側 に接して長手の石材が埋めこまれており、枕石と考えられる。柱穴は全く確認できなかった。

遺物は土師器高坏、坩、S字口縁台付甕、壺などがある。また住居址北東隅からは長さ 10cm

前後の長手の石が8個まとまって発見されており、ムシロ編用石錘かと考えられる。古墳時代 前期ころと考えられる。

重複遺構は63・71号住居址である。63号住居址は本住居址を切り込み、本住居址が71号住居址を切り込んで構築している。従って新旧関係は、63号住居址(新)→68→71号住居址(古)となる。

○ **69号住居址** (第54 • 55 • 375~378図)

520+95N₅、520+85N₅、520+85N₈、520+95N₈のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 6.35m、南北 6 mを測る。主軸方向はN-4°-Wを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 32.5cm、西壁 23cm、南壁 29cm、北壁 30.5cmを測り比較的良好な状況で検出された。カマドは北壁の中央に設置されている。粘土カマドであり、袖部の一部にはレンガ化した部位も認められた。トンネル状に掘り窪めた細長い煙道部が緩やかに傾斜しながら住居址外に延びており、長さ 1.2mほどを測る。燃焼部の幅は 50cmほどであり、中に柱状の礫が2個ほぼ東西の向きに等間隔に認められた。このうち西側のものは掘り込んでしっかりと据えられており、支脚と考えられる。東側のものも確認された時は倒れた状況であったが、西側のものが燃焼部の隅に寄っているところから、東壁のものも支脚と考えてさしつかえないものといえよう。

床はほぼ平坦に作られている。貯蔵穴は見られなかった。柱穴は確認されなかった。 遺物はカマドを中心とした北壁際に集中していた。カマドの中からは甕2個が転倒したような 状況で確認された。またカマドの東側に甕と坏とが小範囲に集中する場所が見られた。

土師器坏、高坏、城、鉢、甕、甑、須恵器蓋坏、坏、短頸壺、鉄鏃、琥珀玉などが見られる。 特に甑と甕(長胴甕)は2対ずつある。坏は24個体と多量であり、このうち6個体が黒色処理された坏であった。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は67・70・71・149号住居址である。67号住居址は本住居址を切り込んで構築している。70・71・149号住居址は本住居址が切り込んでいる。新旧関係は67号住居址(新)→69→149・70・71号住居址(古)となる。

○ 70号住居址(第56 • 379図)

520+95N₅、520+90N₅、520+90N₇、520+95N₇のグリッドに位置する。

平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられるが、西側を大きく69号住居址によって切られている。規模は南北が4mを測る。東西は2.2m以上となる。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 27cm、南壁 20cm、北壁 31cmを測る。カマドは検出された壁の部分からは確認されていない。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は北東隅あたりから集中して見つかった。土師器坏、蓋、甕、甑などがある。このうち蓋については本住居址に伴出するものとは考えられず混入品といえる。坏はいずれも半球形のものであった。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は69・71号住居址であり、69号住居址は本住居址を切り込み、71号住居址は本住居址 に切り込まれている。従って新旧関係は69号住居址(新)→70→71号住居址(古)となる。

○ 71号住居址 (第56・380図)

 $520+95N_5$ 、 $520+85N_5$ 、 $520+85N_6$ 、 $520+95N_6$ のグリッドに位置する。

平面の確定がそれほど明確にできなかった住居址である。一応方形ないし長方形と考えられるが、東壁が曲線をもっていることから隅丸となる可能性もある。規模は南北 4.1 m を測るが、東西は 3 m以上になる。

壁は外傾し、確認できた壁高は東壁、南壁ともに 10cmほどを測る。炉は確認できなかった。 床はほぼ平坦に作られていた。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器蓋、高坏などが、わずかに確認されたにすぎない。古墳時代前期と考えられる。 重複遺構は68・69・70号住居址である。69・70号住居址に切られている。68号住居址との関係 はそれほど明確ではないが、平面プラン確認時においては一応68号住居址が本住居址を切って いる状況が捉えられた。従って新旧関係は69・70・68号住居址(新)→71号住居址(古)となる。

○ 72号住居址(第57 • 380 • 381図)

521+05N₃、520+90N₃、520+90N₆、521+05N₆のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 8.06m、南北 7.88mを測る大型住居址である。主軸方向はN-5°-E を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 28cm、西壁 20.5cm、南壁 20cm、北壁 25cmを測る。カマドは北壁中央よりやや西壁側に寄ったところに設置されている。粘土カマドと考えられるが、左右袖部の正面にのみ柱状に石を据え、袖石となしている。この袖石間は約 50cm ほどあるが、この上部には角状の平石が差し渡されて天井をなしている。この袖石から煙道部側には石が見られず、粘土を盛り上げた状況が観察された。しかし左袖部の外側には頭大の礫が複数見られ、あたかも袖部を押えているかのようであった。煙道部が緩やかに傾斜して住居址の外方に突出しているのが確認できた。焼土は幅 40cm、長さ 50cm、厚さ 10cm ほどに見られた。

床は平坦に作られているが、東から西に緩やかな傾斜をもっている。中央南東寄りに焼土、カーボンの広がっている面が見られた。柱穴は明確にできなかった。しかし支柱穴と考えられる小ピットが、東壁の外側で4ケ所確認された。直径20cm前後で深さ10~20cmほどであった。

周溝が確認され、幅 20cm、深さ 10cmほどであった。

遺物はカマドを中心に見られた。土師器坏、高坏、鉢、甕、甑、須恵器蓋坏、鉄製刀子、砥石、 土製紡錘車などである。坏、高坏などには丹塗りの施されたものが多く見られた。須恵器蓋坏 は破片であったが口縁部に稜をもち、かつ口唇部が凹している形態が主体を占めている。古墳 時代後期前半と考えられる。

重複遺構は60・64号住居址であり、いずれの住居址も本住居址を切り込んで構築している。 新旧関係は60号住居址(新)→64→72号住居址(古)となる。

○ 73号住居址(第58図)

521+10N₁、521+00N₁、521+00N₄、251+10N₄のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西4.05m、南北4mを測る。主軸方向は不明。

壁は4壁とも壁高を確認できる状況ではなかった。また焼土などもほとんど見られず、カマドの位置も不明である。

遺物は十師器の小破片が検出されたにすぎない。おおよそ古墳時代後期と考えられる。

重複遺構は65・74号住居址である。新旧関係は出土遺物より65号住居址(新)→73→74号住居址(古)と考えられる。

○ 74号住居址 (第58・382図)

521+15N₂、521+00N₂、521+00N₅、521+15N₅のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 6.1m、南北 6.2mを測る。主軸方向はN -23° - W と考えられる。

壁は4壁とも壁高を確認できる状況ではなかった。

床は平坦に作られている。住居址の中央やや北東寄りにおいて、直径 40cm ほどに焼土の分布が見られ、地床炉と考えられる。柱穴は確認できなかった。

遺物は土師器高坏、S字状口縁台付甕、壺などがある。S字状口縁台付甕は肩部に横走するハケメをもつものが主体のようである。古墳時代前期と考えられる。

重複遺構は65・73号住居址であり、新旧関係は65号住居址(新)→73→74号住居址(古)と考えられる。

○ 75号住居址(第59・382図)

 $521+10N_5$ 、 $521+05N_5$ 、 $521+05N_7$ 、 $521+10N_7$ のグリッドに位置する。

平面は矩形を呈する。規模は東西 3.25m、南北 3.22mを測る。主軸方向は $N-76^\circ-W$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 7~cm、西壁 3~cm、南壁 4.5cm、北壁 7.5cmを測る。カマドは西壁の中央より北壁側に寄って設置されている。袖部を石組する形態と考えられるが、袖石は 1~00残存するにすぎない。焼土は幅55cm、長さ60cm、厚さ 10cm前後で見られた。

床は平坦に作られている。柱穴は確認できなかった。

遺物は土師器坏、須恵器蓋坏などが見られる。坏は盤状形のものである。奈良時代と考えられる。

重複遺構は66号住居址であり、新旧関係は66号住居址(新)→75号住居址(古)であった。

○ 76号住居址(第60・383図)

 $521+05N_5$ 、 $521+00N_5$ 、 $521+00N_7$ 、 $521+05N_7$ のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 2.9m、南北 3.5mを測る。主軸方向はN-74°-Wを指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 43cm、西壁 28.5cm、南壁 43.5cm、北壁 24.5cmを測る。カマ ドは西壁の中央より北壁側に寄って設置されている。袖部を石組する形態で残存状況は良好であった。左右の袖部はいずれも平石を3枚組合せて構築されている。煙道部がトンネル状に細長く、緩やかな角度を持って住居外に延び、一部レンガ化した部分も認められた。袖石間は55 cmほどを測るが、この燃焼部に柱状の立石が南北方向に2個埋め込まれており、支柱と考えられる。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器坏、甕、鉢などがある。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は62・66号住居址である。62号住居址については本住居址が切り込んで構築している。66号住居址は本住居址の上部に構築されている。新旧関係は66号住居址(新)→76→62号住居址(古)となる。

○ 77号住居址 (第61・384図)

520+90S3、520+80S3、520+80S1、520+90S1のグリッドに位置する。

平面は方形ないし長方形と考えられるが、南側に未掘部分を残す。また北壁に添って浅い水道管埋設の溝、東壁側に水道管埋設の溝、および撹乱部分が見られる。規模は確認できる範囲で西壁が 3.1 m、北壁が 3.9 m ほどを測る。主軸方向は N-15°-Eを指す。

壁は西壁 6cm、北壁 4.5cmほどが確認されたにすぎない。カマドは北壁の中央付近に設置されたものと考えられる。袖石と考えられる礫が 1 個見られる。焼土は幅70cm、長さ55cm、厚さ25cm ほどに認められた。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドを中心に分布しており、土師器坏、高坏、城、鉢、甕、須恵器坏などがある。このうち坏、高坏などには丹塗りされたものが多い。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は78・113号住居址である。このうち113号住居址とは撹乱部分を介在するため重複関係は不明である。78号住居址との関係もそれほど明確にできなかったが、一応78号住居址が本住居址を切って構築していると考えられた。従って新旧関係は78号住居址(新)→77号住居址(古)となる。

78号住居址 (第61 • 385 • 386図)

 $520+90S_3$ 、 $520+75S_3$ 、 $520+75S_2$ 、 $520+90S_2$ のグリッドに位置する。

平面は方形ないし長方形と考えられるが、北壁沿いの部分のみで、大部分が未掘である。また北壁の西壁側もそれほど明確ではなかった。規模は東西のみが確認できたにすぎず、おおよそ8 mを測る。主軸方向はN-16°-Eとほぼ真北を指す。

壁は北壁がわずか 5 cm前後確認できたにすぎない。カマドは北壁のほぼ中央に設置されている。石組などは見られなかった。燃焼部付近にレンガ化した焼土が東西方向にブロック状に認められ、袖部と考えられる。おおよそ 40cmの間隔を持つ。

床は平坦に作られたと考えられる。貯蔵穴などは確認されていない。

遺物はカマドの周辺からまとまって見つかった。カマドの脇から甕が2個体並べられた様な

状況で発見された。また前面からは円筒形土器が検出された。土師器坏、高坏、城、甕、甑、円筒形土器などがある。坏、高坏には丹塗りのものが見られる。古墳時代後期前半ころと考えられる。

重複遺構は77号住居址で、新旧関係は78号住居址(新)→77号住居址(古)であった。

○ 79号住居址 (第62・387~390図)

520+85 S₃、520+75 S₃、520+75 N₁、520+85 N₁のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 8 m、南北 7.4mを測る大型の住居址である。なお住居址の東から西へ斜めに水道管埋設溝が掘られていた。主軸方向は $N-13^\circ-W$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 21cm、西壁 23cm、南壁 15cm、北壁 30cmを測る。カマドは北壁の中央に設置されている。粘土カマドであるが、袖部の入口部には石を柱状に立てている。この袖石間は 30cmほどを測る。細長い煙道部が緩やかな傾斜をもって住居外に延びている。

貯蔵穴と考えられるピットが南壁に見られる。南壁の中央より西壁寄りの位置に「コ」の字状に幅 1.2m、長さ 0.9mほどの突出部があり、この中に南北方向に幅 0.4m、長さ 1.1m、深さ 0.8mのピットが掘られている。さらにこのピットの住居址側(北側)には高さ 10cm前後で半円形にピットを取り囲むように土堤が周っている。

床は北から南に向って上り勾配に作られている。柱穴と考えられるピットが 4 個確認された。 直径 0.6m、深さ 0.9m 前後を測る。

遺物はカマドの周辺に集中していた。土師器坏、塊、鉢、甕、甑、須恵器坏、土製品などがある。このうち須恵器坏は他の土器類との間に時間的開きが感じられる。坏類には丹塗りのものが見られる。また甕類は総数9個体を数える。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は80号住居址であり、本住居址が80号住居址を切り込んで構築している。従って新旧関係は79号住居址(新)→80号住居址(古)となる。

○ **80号住居址**(第63 • 64 • 390 • 391図)

520+90S2、520+75S2、520+75N2、520+90N2のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 8.7m、南北 8.5mを測る大型の住居址である。なお北東隅を東から西へ斜めに農耕のための溝が走る。主軸方向は $N-12^\circ-W$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 12cm、西壁 21cm、南壁 13cm、北壁 12cmを測る。カマドは北壁中央よりやや西壁寄りに設置されている。粘土カマドであるが、東側の袖部と考えられる位置には角礫を柱状に 2 個配置している。また西側の袖部付近に見られる角礫も袖部を構成していたものと考えられる。さらにカマドの正面に見られる角礫は長さが 60cmほどのものである。断面図からすればカマドの幅は 50cmほどが推定されるところから、天井石と考えられる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴と考えられるピットが 4 ケ所確認された。直径 0.6m、深 さ 1m 前後を測る。

遺物はカマドの中と脇とに集中していたが、柱穴内からの出土も見られた。土師器坏、城、

鉢、甕、甑などがある。坏類は丹塗りされた半球形の坏がほとんどであった。古墳時代後期前 半と考えられる。

重複遺構は79号住居址であり、新旧関係は79号住居址(新)→80号住居址(古)である。

○ 81号住居址(第65 • 392図)

 $521+10S_3$ 、 $521+00S_1$ 、 $521+00S_1$ 、 $521+10S_3$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.8m、南北 3.65mを測る。主軸方向は $N-114^{\circ}-E$ を指す。本住居址は床面付近で検出されたため、東壁で 5~cmほどの壁高が確認されたにすぎず、他の壁高は確認できなかった。カマドは東壁中央に設置されたものと考えられるが、わずかに焼土、カーボンが確認されたにすぎない。

床は平坦に作られている。柱穴は全く確認できなかった。

遺物はわずかな量が見られたにすぎない。土師器皿、高台付坏(皿)が見られる。いずれも器体部にへラ削りの全く見られない、底が回転糸切り未調整のものであった。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は87・89・95・108・124号住居址であり、本住居址は87号住居址を除きその上部に構築されている。87号住居址とは微妙な関係であるが、遺物からは本住居址がわずかに先行するようである。従って新旧関係は81号住居址(新)→87・89・95・108→124号住居址(古)である。

○ 82号住居址 (第66・393~396図)

520+80 S₂、520+65 S₂、520+65 N₂、520+80 N₂のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 5.2m、南北 6m を測る。住居址中央に東から西へ水道管埋設溝が走っている。主軸方向は $N-34^\circ-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 12.5cm、西壁 10cm、南壁 8.5cm、北壁 7cmを測る。カマドは北壁のほぼ中央に設置されている。袖石と考えられる礫は全く見られず、焼土が幅 70cm、長さ 80cm、厚さ 10cmほどに見られる。なお、この焼土のほぼ中央あたりに角状の礫が存在し、支柱の可能性もある。

床はわずかに東から西に向って傾斜している。床面の南壁側にも焼土の分布が見られる。柱 穴は全く確認できなかった。

遺物はカマドを中心としたあたりと、中央南寄りのあたりとに集中して見られた。土師器坏、高坏、甕、甑、須恵器坏などがある。坏は半球形のものに限られ、甕も球胴形のものが主体を占めている。須恵器坏は口唇部が凹む形態のものである。古墳時代中~後期前半と考えられる。

重複遺構は北西隅で何らかの遺構と重なっているようであったが、この遺構が何なのかは明確にならなかった。

○ 83号住居址(第67 • 397図)

 $521+10S_2$ 、 $521+00S_2$ 、 $521+00N_1$ 、 $521+10N_1$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.5m、南北 3.57mを測る。主軸は $N-60^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 11cm、西壁 3.5cm、南壁 2cm、北壁 7.5cmを測る。カマドは東壁の中央より南壁寄りに設置されている。袖部が石組の形態であり、両袖とも $3\sim4$ 枚の石を組合せている。袖石間は 40cmを測る。焼土は幅 40cm、長さ 70cm、厚さ 5cm前後を測る。

床は平坦に作られている。柱穴は確認できなかった。

遺物は土師器坏、耳皿、甕、八稜鏡などがある。坏は器体部下半にヘラ削りを施さないものがほとんどである。平安時代後半と考えられる。

重複遺構には86・116・119・121号住居址であり、新旧関係は86号住居址(新)→83→119→116・121号住居址(古)である。

○ 84号住居址(第68・397図)

 $521+00S_2$ 、 $520+95S_2$ 、 $520+95N_1$ 、 $521+00N_1$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.8m、南北 3.05mを測る。主軸は N-93°-Eを指す。

壁は外傾し、確認できた壁高は東壁 12cm、西壁 6 cm、南壁 7 cm、北壁 7 cmを測る。カマドは東壁中央よりわずかに南壁寄りに設置されている。袖部が石組される形態で正面の左右に角礫が若干内側に倒れた状況に据えられ、袖石と考えられる。袖石間は 40cm ほどを測る。焼土はブロック状に幾つか見られた。

床は平坦に作られている。柱穴は確認できなかった。

遺物は土師器坏、皿、用途不明鉄製品などがある。坏はいずれも内面に暗文の見られない器体部下半にへう削りを施すものである。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は96・117・118号住居址であり、本住居址はこれらの住居址の上部に構築されている。 従って新旧関係は84号住居址(新)→117・118・96号住居址(古)となる。

○ 85号住居址(第69・397図)

521+00 S₁、520+90 S₁、520+90 N₂、521+00 N₂のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.95m、南北 3.9mを測る。主軸方向は N - 9° - Eを指す。 住居址の南壁際に沿って、南北方向に水道管埋設溝が走る。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 12cm、西壁 5.5cm、南壁 8 cm、北壁 8.5cmを測る。カマドは東壁と南壁との隅に設置されている。袖部を石組する形態であるが、左右の袖とも若干湾曲しながら 2 重に石組がなされ、これらの石組の隙間にやや小振りの長細い礫を埋め込んで構築している。袖石間 45cmほどを測る。焼土は 8 cm前後の厚さに堆積していた。

床は平坦に作られている。柱穴は確認されなかった。

遺物は土師器皿、灰釉陶器台付皿などがある。土師器皿はすべて器体部にヘラ削りの見られないものである。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は94・96・102・107・111・118号住居址である。本住居址はこれらの住居址の上部に構築されたものである。新旧関係は85号住居址(新)→94→102・111・107・108・96号住居址

(古)である。

○ 86号住居址(第70・397図)

521+15 S₂、521+05 S₂、521+05 N₁、521+15 N₁のグリッドに位置する。

本住居址はわずかに平面の輪郭とカマドなどが検出されたにすぎない。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.1 m、南北 3.25 mを測る。主軸方向は N - 26° - Eを指す。 壁はほとんど確認できなかった。カマドは北壁中央より東壁寄りに設置されている。袖石と 考えられる角礫 2 個と焼土とが確認された。袖石間は 55 cm を測る。

床は平坦に作られている。柱穴は確認されなかった。

遺物は土師器高台付杯がある。器体部にヘラ削りの全く施されないものである。平安時代後 半と考えられる。

重複遺構は83・90・116号住居址であり、新旧関係は86号住居址(新)→83→90・116号住居址(古)である。

○ 87号住居址(第70・398図)

521+10 S₃、521+00 S₃、521+00 S₁、521+10 S₁のグリッドに位置する。

本住居址は平面の輪郭とカマドの位置が明らかになったにすぎない。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.8m、南北 2.85mを測る。主軸方向は S-16°-Eを指す。 壁はほとんど確認できなかった。カマドは南壁のほぼ中央に設置されている。しかし焼土が わずかに検出されたにすぎない。

床は平坦に作られている。柱穴は確認出来なかった。

遺物は土師器皿、高台付坏がある。いずれも器体部にヘラ削りの施されないものである。平 安時代後半と考えられる。

重複遺構は81・88・108・121号住居址であり、新旧関係は87号住居址(新)→88・81→108→1 21号住居址(古)である。

○ 88号住居址(第70・398図)

521+10 S₃、521+00 S₃、521+00 S₂、521+10 S₂のグリッドに位置する。

本住居址はわずかに平面の輪郭が確認されたにすぎない。

平面は長方形を呈する。規模は東西 2.85m、南北 3.8mを測る。長軸方向は N -33° - E を指す。

壁はほとんど確認できなかった。カマドは不明。

床は平坦に作られている。柱穴は確認されなかった。

遺物は土師器皿がある。器体部にヘラ削りの施されないものである。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は87・121号住居址である。新旧関係は87号住居址(新)→88→121号住居址(古)で

あった。しかし87・88号住居址との時間差はわずかと考えられる。

○ 89号住居址(第71・398図)

521+15S₃、521+05S₃、521+05S₁、521+15S₁のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 4.1m、南北 3.80mを測る。長軸方向は $N-113^\circ-E$ を指す。 壁は外傾し確認された壁高は東壁 18cm、西壁 8.5cm、南壁 15.5cm、北壁 14cmを測る。カマドは不明。

床は平坦に作られている。柱穴は確認できなかった。

遺物は土師器坏、甕、鉄鏃(?)、馬具(轡)などがある。坏はいずれも器体部にヘラ削りの 見られないものである。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は81・95・108・121号住居址であり、新旧関係は81号住居址(新)→89→95・108・121号住居址(古)である。

○ 90号住居址(第71図)

521+15S₂、521+05S₂、521+05N₁、521+15N₁のグリッドに位置する。

本住居址はわずかに平面の輪郭が確認されたにすぎない。

平面は方形を呈するものと考えられる。規模は東西 3.5m以上、南北 3.7mを測る。

壁はほとんど確認できなかった。カマドは不明。

床は平坦に作られている。柱穴は確認できなかった。

遺物も土師器の小破片がわずかに見られるにすぎない。105号住居址との関係から平安時代後半と考えられる。

重複遺構は86・83・105号住居址で、新旧関係は86・83号住居址(新)→90→105号住居址(古) である。

○ 91号住居址(第72・399図)

 $520+85N_6$ 、 $520+75N_6$ 、 $520+75N_8$ 、 $520+85N_8$ のグリッドに位置する。

平面は方形ないし長方形を呈すると考えられるが、北部に未掘部分を残す。規模は東西 6 m、南北 5.3m以上を測る。主軸は $N-106^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 24cm、南壁 26cmを測る。カマドは東壁の中央あたりに設置されたものと考えられる。袖石の一部と考えられる礫が残存する。焼土を含んだ堆積土が幅 20cm、長さ 1.3m、厚さ 20cm前後に認められる。

床は平坦に作られている。柱穴は確認できなかった。

遺物は土師器坏、甕、手揘土器、鉄鏃(?)などがある。坏は盤状の坏である。奈良時代と考えられる。

重複遺構は92・132・137号住居址であり、新旧関係は92・137号住居址(新)→91→132号住居址(古)である。

○ 92号住居址(第73・400図)

 $520+85N_{7}$ 、 $520+80N_{7}$ 、 $520+80N_{8}$ 、 $520+85N_{8}$ のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.4m、南北 2.45mを測る。主軸方向はN -111° - E を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 17.5cm、西壁 18cm、南壁 20cm、北壁 19cmを測る。カマドは東壁の中央より南壁際に設置されている。袖石は左右とも 2 枚組で構築されるが、南側の袖石はさらに壁側に 1 個が据えられている。袖石間は 45cmを測る。焼土を含んだ堆積土が幅 45cm、長さ75cm、厚さ15cm前後に認められた。

床は平坦に作られている。柱穴は確認できなかった。

遺物はカマドを中心に分布が見られ、土師器坏、皿、甕などがある。坏、皿ともに器体部にへ ラ削りを施すものが主体を占める。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は91号住居址であり、新旧関係は92号住居址(新)→91号住居址(古)であった。

○ 93号住居址 (第73 • 400図)

521+05 S₁、521+00 S₁、521+00 N₂、521+05 N₂のグリッドに位置する。

本住居址はわずかに平面の輪郭とカマドが検出されたにすぎない。

平面は方形を呈するものと考えられるが、北側に未掘部分がある。規模はおおよそ東西 2.6m、南北 2.4m以上を測る。主軸方向はS-5° -Eを指す。

壁はほとんど確認できなかった。カマドは南壁の中央より東壁側に寄って設置されている。 袖部を石組する形態である。袖石と考えられる礫が2個認められ、焼土がわずかに確認された。 遺物は土師器坏、鉄鏃、ガラス製小玉などがある。いずれも器体部にヘラ削りの全く見られ ないものである。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は94・119・120号住居址である。新旧関係は93号住居址(新)→119→94・120号住居址(古)である。

○ 94号住居址(第74・401・402図)

 $521+05S_1$ 、 $520+95S_1$ 、 $520+95N_2$ 、 $521+05N_2$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西5.75m、南北5.35mを測る。主軸方向はN-1°-Eとほぼ真北を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 49cm、西壁 26cm、南壁 9.5cm、北壁24cmを測る。カマドは北壁の中央よりわずかに東壁側に寄った位置に設置されている。粘土カマドであり、東壁側の袖部正面には甕が袖石代りに据えられていた。左右袖石間は 55cmを測る。トンネル状の煙道部が住居址外に細長く延びている。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドの周辺を中心に分布しており、土師器坏、甕、甑、羽釜、置カマド(?)、須恵器坏、鉄鏃などがある。坏には半球形のものと盤状形の2形態が見られる。このうち後者が本

住居址に伴うものと考えられる。古墳時代後期後半~奈良時代と考えられる。

重複遺構は85・93・117・120号住居址である。新旧関係は85・93号住居址(新)→94→107・117・120号住居址(古)であった。

○ 95号住居址(第75 · 403図)

521+15S₃、521+05S₃、521+05S₁、521+15S₁のグリッドに位置する。

本住居址はわずかに平面の輪郭とカマドが検出されたにすぎない。

平面は方形を呈するものと考えられる。規模は東西3.5m、南北3.75mを測る。主軸は $S-25^{\circ}$ -Wを指す。

壁はほとんど確認できなかった。カマドは南壁の中央より東壁側に寄った位置に設置されている。袖部と考えられる礫が残存していた。焼土を含む堆積土が幅50cm、長さ80cm、厚さ5cm前後に認められた。

床は平坦に作られている。柱穴は確認できなかった。

遺物は土師器高台付坏、皿、甕、羽釜、灰釉陶器、用途不明鉄製品などがある。坏、皿は器体 . 部にへラ削りを全く施さないもののみである。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は81・89・104・108号住居址であり、新旧関係は81・89号住居址(新)→95→104・1 08号住居址(古)であった。

〇 96号住居址 (第76 • 403図)

521+00 S₂、520+90 S₂、520+90 N₁、521+00 N₁のグリッドに位置する。

重複する遺構が多く、部分的な残存であり、平面の輪郭、カマドの位置が確認されたにすぎない。

平面は長方形を呈するものと考えられる。規模は東西 6.3m 、南北 5.7m を測る。主軸方向は $S-42^{\circ}-E$ を指す。

壁はほとんど確認できなかったが、わずかに南壁において 7.5cm ほどを測る部分があった。カマドは南壁の中央付近に設置されたものと考えられる。しかし南壁の中央付近に焼土、カーボンが幅 2.7m、長さ 1.4mの広い範囲に見られるのみで、カマド本体の残存はなかった。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器坏、甕、手揑土器、円筒形土器、須恵器蓋坏、坏などがある。坏は丹塗りのものが目につく。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は84・85・98・101・102・107・110・111・117・118号住居址である。新旧関係は84・85・101・102号住居址(新)→96号住居址(古)である。なお98・107・118号住居址との関係は明確にならなかった。遺物からすれば98・107号住居址は後出的で、118号住居址は先行的要素が窺える。

○ 97号住居址 (第76・404図)

521+05N7、520+90N7、520+90N8、521+05N8のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.08m、南北 3mを測る。主軸方向は $N-15^\circ-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 27.5cm、西壁 6cm、南壁 26.5cm、北壁 7.5cmを測る。カマドは北壁の中央より東壁側に寄った位置に設置されている。カマドは北側に未掘部分を残す。 袖石と見られる礫が並列して存在し、この間は 40cmを測る。

床は平坦に作られている。柱穴は確認できなかった。

遺物は土師器坏、甕などがある。このうち甕は混入品と考えられる。坏は盤状形を呈する。 奈良時代と考えられる。

重複遺構は103・109号住居址である。新旧関係は97号住居址(新)→103・109号住居址(古)であった。

○ 98号住居址(第77·404図)

520+95 S 2、520+85 S 2、520+85 N 1、520+95 N 1 グリッドに位置する。

本住居址は重複する遺構が多く、輪郭の一部が検出されたにすぎない。

平面は方形ないし長方形と考えられる。規模は南北5.5mを測る。

壁はほとんど確認できず、またカマドの位置も不明である。

床は平坦に作られている。柱穴などは不明である。

遺物はわずかに確認されたにすぎない。土師器(などがある。古墳時代後期と考えられる。

重複遺構は96・101・107・110・111号住居址である。新旧関係は101・110・111号住居址(新)→98→107・96号住居址(古)である。なお111号住居址との関係は明確でないが、遺物からは111号が後出的要素を示すものといえる。

○ 99号住居址(第77・404・405図)

521+00 S₃、520+90 S₃、520+90 S₁、521+00 S₁のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.55m、南北 3.25m を測る。主軸方向は N - 99° - E を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 26cm、西壁 10cm、南壁 24cm、北壁 19cmを測る。カマドは東壁の中央より南壁側に寄った位置に設置されている。袖部が石組のカマドであり、残存状況も比較的良好である。袖石間は 55cmほどを測る。カマド内には焼土を混入した堆積土が充填していた。

床は平坦に作られている。柱穴は確認できなかった。

遺物はカマドを中心に全体に見られた。土師器坏、皿、甕、須恵器坏、甕などがある。坏、皿は器体部にヘラ削りを施しかつ内面にも暗文を施すのを基本とする形態である。須恵器坏は一部に褐色部分が認められ酸化焰焼成の状況も見られる。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は100・114・118号住居址であり、新旧関係は99号住居址(新)→100・114・118号住居址(古)であった。

○ 100号住居址 (第78・406図)

521+00 S₃、520+90 S₃、520+90 S₁、521+00 S₁のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 4.65m、南北 4.3mを測る。主軸方向は $N-9^\circ-W$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 17cm、西壁 16cm、南壁 15.5cm、北壁 12.5cmを測る。カマドは北壁の中央より東壁に近い位置に設置してある。残存状況は良くない。このカマドは袖石と考えられる礫と残存する焼土との関係からするとカマドの主軸が北壁に直角に据え付けられず、若干斜めに据え付けられたものと考えられる。

床はカマドの正面あたりが、他に比べて高い作りのようである。柱穴などは確認できなかった。

遺物は甕類がカマド付近に集中していた。土師器坏、城、鉢、甕などがある。古墳時代後期後 半ころと考えられる。

重複遺構は99・114・115・118号住居址である。新旧関係は99号住居址(新)→115・100・114 →118号住居址(古)である。

〇 101号住居址(第78 • 407図)

520+90 S₂、520+85 S₂、520+85 N₁、520+95 N₁グリットに位置する。

本住居址はわずかに平面の輪郭とカマドなどが検出されたにすぎない。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.97m、南北 2.9mを測る。北西隅を農耕時の溝で切られている。主軸方向は $N-83^{\circ}-E$ を指す。

壁は東壁で高さ 13cmほどを測る意外は、ほとんど残存しない。カマドは東壁の中央より南壁 寄りに設置されている。わずかに焼土、カーボンが確認されたにすぎない。

床は東から西に向って傾斜して作られている。柱穴は確認できなかった。

遺物は少なく、土師器坏が図示できたにすぎない。やや身の深い盤状形を呈する。奈良時代と考えられる。

重複遺構は96・98・111号住居址であり、101号住居址(新)→98→111・96号住居址(古)である。

○ 102号住居址(第79・407図)

521+00S1、520+90S1、520+90N1、521+00N1のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 2.34m、南北 2.76mを測る。住居址の中央上面を南北に走る水道管埋設溝がある。主軸方向はN-8°-Wを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 10cm、西壁 15.5cm、南壁 20cm、北壁 17cmを測る。カマドは北壁の中央よりわずかに東壁に寄った位置に設置されている。焼土がレンガ化した部分が見られ袖部を推測させる。

床面は平坦に作られている。柱穴は確認できなかった。

遺物は少なく土師器坏、甕、須恵器坏、高台付坏がある。このうち高台付坏は混入品と考えら

れる。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は85・96・107・111・117号住居址である。新旧関係は85号住居址(新)→102→96・107・111号住居址(古)である。

なお117号住居址との直接的な関係は不明である。

○ 103号住居址(第79 • 407 • 408図)

 $521+05N_6$ 、 $520+95N_6$ 、 $520+95N_8$ 、 $521+05N_8$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 4.45m、南北 4.44mを測る。主軸方向は S-8°-Wを指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 20cm、西壁 11.5cm、南壁 10cm、北壁 17.5cmを測る。カマドは南壁のほぼ中央に設置されているが、焼土、カーボンが確認されたにすぎない。

床面は平坦に作られている。柱穴は確認されなかった。

遺物は土師器坏、高坏、甕、鉄製刀子などである。古墳時代後期前半の中ころが上限と考えられる。

重複遺構は62・97・109号住居址である。

新旧関係は97・62号住居址(新)→103→109号住居址(古)である。

○ 104号住居址 (第80 • 409図)

521+15S₃、521+05S₃、521+05S₁、521+15S₁のグリッドに位置する。

本住居址は平面の輪郭とカマドがある程度捉えられたにすぎない。

平面は長方形を呈すると考えられる。規模は東西 4.3m、南北 3.2mを測る。主軸方向は N -7 9° - Wを指す。

壁はほとんど確認できなかった。カマドは東壁と南壁の隅に設置されている。しかし遺物との年代から異和観を持つ。袖石が左右に存在し、焼土を混入した堆積土が厚く存在する。

床は平坦に作られている。柱穴は確認できなかった。

遺物は土師器坏、皿、甕などかある。坏は器体部にヘラ削りを施すものである。平安時代前 半と考えられる。

重複遺構は95・108・112号住居址であり、新旧関係は95号住居址(新)→104→108→112号住居址(古)である。

○ 105号住居址(第81・409図)

521+15S₂、521+10S₂、521+10N₁、521+15N₁のグリッドに位置する。

住居址の北側および東側に未掘部分が残る。平面は方形ないし長方形と考えられる。規模は 東西 3.8m、南北 3.4m以上である。

壁は外傾し、確認された壁高は南壁 10cm、西壁 10cmを測る。カマドは東壁と南壁とのコーナーに設置された袖部を石組する形態である。南側の袖石は2枚確認され、さらに裾の脇から南壁の間には礫が置かれている。焼土がブロック状に認められた。

遺物はカマドとその周辺に集中しており、土師器坏、皿、甕、鉄製品(ノミ?)である。坏、 皿は器体部にヘラ削りを施すもので占められている。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は86・90号住居址であり、新旧関係は86・90号住居址(新)→105号住居址(古)である。

○ 106号住居址(第82・410図)

521+00S4、520+90S4、520+90S3、521+00S3のグリッドに位置する。

本住居址は北側の一部が確認できたにすぎず、南側に未掘部分が大きく残る。平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられる。規模は東西間で6.35mを測る。北壁の中央付近に斜めに水道管埋設溝が走る。主軸方向は $N-4^\circ-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 48.5cm、西壁 34cm、北壁 41.5cmを測る。カマドは北壁の中央よりわずかに東壁に寄った位置に設置されている。粘土カマドである。左右の袖石間は 35 cmを測る。細長い煙道部がやや強く傾斜しながら住居外に延びている。

遺物はカマドとその周辺から検出され、土師器坏、城、甕などがある。坏、城には丹塗りのものも見られる。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は114・115号住居址であり、新旧関係は106号住居址(新)→114・115号住居址(古)であった。

○ 107号住居址 (第83・410図)

521+00 S₁、520+90 S₁、520+90 N₂、521+00 N₂のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 4.5m、南北 4.5mを測る。主軸方向はN-81°-Eを指す。

壁の検出状況はそれほど良くない。確認された壁高は東壁 3 cm、西壁 7 cm、南壁 3 cm、北壁 15.5cmを測る。カマドは東壁のほぼ中央に設置されていたものと考えられ、わずかに焼土が確認 された。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はわずかに確認できたにすぎない。土師器坏がある。古墳時代後期と考えられる。

重複遺構は85・94・96・102・111・117号住居址である。新旧関係は85・94・102・111号住居址(新)→107→96・117号住居址(古)である。

○ 108号住居址(第83・411図)

521+10S₃、521+05S₃、521+05S₁、521+10S₁のグリッドに位置する。

本住居址は他の住居址との重複部分が多く住居址の南側の一部が確認されたにすぎない。

平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられる。規模は現状で東壁 1.5m 、南壁 1.5m を 測る。

壁は東壁と南壁が確認されたにすぎない。いずれも確認できた壁高は 5 cm 前後を測るにすぎない。カマドの位置は不明であった。

床は平坦に作られている。柱穴は確認できなかった。

出土遺物は土師器坏、高台付皿、鉢などがある。坏は器体部にヘラ削りを施すもののみである。高台付皿と甕は混入品と考えられる。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は81・87・89・95・104・112・121号住居址であり、 新旧関係は81・87・89・95・104号住居址(新)→108・112・121号住居址(古)である。なお104と108号住居址との間にはそれほどの時間差は認められない。

〇 109号住居址 (第84 • 411図)

 $521+05N_6$ 、 $520+90N_6$ 、 $520+90N_8$ 、 $521+05N_8$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 6.74m、南北 6.6mを測る。長軸方向はN-100°-Eを指す。 北西部に未掘部分を残す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 30cm、西壁 28cm、南壁 30.5cm、北壁 8.5cmを測る。カマドは現在確認されている壁の部分からは見つかっていない。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなきった。

遺物は土師器蓋、坏、甕、台付甕などがある。坏は丹塗りされたものである。なお、蓋は他の 遺物より高い位置から出土したもので、混入品と考えられる。古墳時代後期前半と考えられる。 重複遺構は61・97・103号住居址であり、 新旧関係は97・61・103号住居址(新)→103号住居 址(古)となる。

○ 110号住居址 (第85 • 412図)

520+95 S₃、520+90 S₃、520+90 S₁、520+95 S₁のグリッドに位置する。

平面は矩形を呈する。規模は東西 3.3m、南北 2.94mを測る。主軸方向は N-5° -Wを指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 16.5cm、西壁 12cm、南壁 17cm、北壁 2cmを測る。カマドは北壁の中央よりやや東壁側に寄った位置に設置されている。しかしカマドの大部分を南北に走る水道管埋設溝によって切られており、焼土がわずかに認められたにすぎない。

床は平坦に作られている。柱穴は確認できなきった。

遺物は少量であり、土師器坏、甕が図示できたにすぎない。坏は平底のやや深味のあるものである。奈良時代と考えられる。

重複遺溝は96・98・111号住居址であり新旧関係は110・98号住居址(新)→ 96・111号住居址(古)である。なお98と110号住居址との関係は明確でない。

○ 111号住居址(第85・412図)

521+00S2、520+85S2、520+85N1、521+00N1のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 5.6m、南北 5.45mを測る。長軸方向は $N-114^\circ-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 5~cm、西壁 8.5cm、南壁 4.5cm、北壁 6~cmとわずかである。 カマドの位置は不明である。 床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は北西コーナー付近でわずかに確認されたにすぎない。土師器城、高坏、甕、土玉などがある。古墳時代後期と考えられる。

重複遺構は85・96・98・101・102・107・110号住居址であり、新旧関係は85・101・98・110・102号住居址(新)→111→107・96号住居址(古)である。

○ 112号住居址(第86・412図)

521+15S₄、521+00S₄、521+00S₂、521+15S₂のグリッドに位置する。

平面は隅丸方形を呈する。規模は東西 5.9m、南北 5.25mを測る。北東コーナー付近に攪乱部分がある。 主軸方向は $N-30^{\circ}-W$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 6 cm、西壁 13cm、南壁 9 cm、北壁 5.5cmを測る。

床は平坦に作られている。炉は住居の中央やや北西寄りに設置されており東西35cm、南北55cmの範囲に焼土がわずかに認められた。貯蔵穴あるいは柱穴などは確認できなかった。

遺物は住居の南半分に集中しており、土師器S字状口縁台付甕、甕、器台などがある。S字 状口縁台付甕は肩部に横走ハケメの施されないものである。古墳時代前期後半と考えられる。

重複遺構は104・108号住居址であり、新旧関係は104・108号住居址(新)→112号住居址(古)であった。

○ 113号住居址(第86・413図)

520+95S4、520+90S4、520+90S2、520+95S2のグリッドに位置する。

平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられるが、西部に撹乱部分が見られ、南部に未掘部分を残す。規模は南北4.24mを測り、東西は2m以上となる。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 6 cm、南壁 15.5cm、北壁 2.5cmを測る。カマドは現在確認された壁の部分には存在しないようである。

床は平坦に作られている。柱穴は確認できなかった。北東コーナー付近に炭化材が遺存していた。

遺物はわずかで、土師器坏、甕がある。坏は丹塗りされている。古墳時代後期と考えられる。 重複遺構は114号住居址であり、新旧関係は113号住居址(新)→114号住居址(古)であった。

○ 114号住居址(第87図)

521+00S4、520+90S4、520+90S2、521+00S2のグリッドに位置する。

平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられるが、西および南側が明確にならない。規模はいずれも東西 2.4m、南北 5.4m以上となる。

壁はほとんど確認できなかった。カマドの位置は北壁において薄い焼土の散布を見たが、特定できなかった。

床は平坦に作られている。115号住居址とほとんど同一面をなしていて、新旧関係は明確にで

きなかった。柱穴などは確認できなかった。

遺物は細片がわずかに見られたにすぎず、図示できなかった。周辺の住居址との重複関係から古墳時代後期と考えられる。

重複遺構は99・100・106・113・115号住居址であり、新旧関係は99・100・106号住居址(新)→113・114・115号住居址(古)である。なお114は113号住居址より若干先行、115号住居址よりは後出するものといえる。

〇 115号住居址(第87 • 413図)

521+00S4、520+95S4、520+95S2、521+00S2のグリッドに位置する。

本住居址は平面の輪郭がわずかに確認されたにすぎない。平面は方形ないし長方形を呈する ものと考えられるが、西および南側が不明である。規模は東西3.15m、南北4.55m以上になる。

壁はほとんど確認できなかった。わずかに東壁が 6 cm ほどの高さを測ったにすぎない。カマドの位置は不明である。

床はほぼ平坦に作られているが、114号住居址とほとんど同一面にあり、明確に区別できなかった。 柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器坏、鉢、甕などがある。坏は半球形を呈するもののみであった。古墳時代後期 前半と考えられる。

重複遺構は100・106・114号住居址であり、新旧関係は100・106号住居址 (新)→114・115号住居址 (古)であった。なお114号住居址より若干先行するものといえる。

○ 116号住居址(第87・414図)

521+10S₁、521+00S₁、521+00N₁、521+10N₁のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 4.25m、南北 3.38mを測る。東壁に便所があったため、未掘部分として残った。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 14.5cm、西壁 12.5cm、南壁 25.5cmを測る。カマドの位置は不明である。

床は中央がわずかに低くなっている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器坏、甕、甑などがある。坏は半球形で丹塗りされている。古墳時代後期前半と 考えられる。

重複遺構は83・86・90号住居址であり、新旧関係は83・86号住居址(新)→116号住居址(古)であった。なお90号住居址との関係は明確にならない。

○ 117号住居址 (第88・414図)

521+00 S₁、520+90 S₁、520+90 N₂、521+00 N₂のグリッドに位置する。

本住居址は他の住居址との重複部分が多く、平面プランの輪郭の一部と、カマドの設置されていたと思われる焼土範囲を確認できたにすぎない。平面は方形ないし長方形を呈すると考え

られる。規模は一辺が7m前後と思われる。主軸方向は $N-82^{\circ}-E$ を指す。

壁は東壁と南壁の一部が確認されたにすぎない。その壁高は東壁 6.5cm、南壁 2 cm ほどである。カマドは東壁の中央付近に設置されたものと考えられるが、焼土がわずかに検出されたのみである。

床は平坦に作られていた。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器坏、高坏、甑などのほか、住居址の北東コーナーあたりからムシロ編に使用したと考えられる長手の礫が17点ほど見つかった。坏は器体部中央に稜をもつものであり古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は84・85・94・96・102・107・118・119・121号住居址である。新旧関係は85・84・11 9・94・96・102号住居址(新)→117・118・121号住居址(古)であった。

○ 118号住居址(第88・415図)

521+00 S₂、520+95 S₂、520+95 S₁、521+00 S₁のグリッドに位置する。

本住居址は他の住居址との重複部分が多く、平面プランの壁と考えられるごく一部が長さ1.77mほど確認されたにすぎない。このため規模、主軸方向は全く不明である。

遺物は土師器坏が図示できたにすぎない。坏は内外面に丹塗りされたものが見られる。古墳 時代後期前半と考えられる。

重複遺構は84・96・99・100・117号住居址である。新旧関係は84・99号住居址(新)→96・10 0・117号住居址(古)であった。

○ 119号住居址(第89・415図)

 $521+05S_1$ 、 $521+00S_1$ 、 $521+00N_1$ 、 $521+05N_1$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.55m、南北 2.55mを測る。主軸方向は $N-28^{\circ}-E$ を指す。壁は確認されたものの壁高は東壁 6~cm、西壁 2~cm、南壁 4.5cm、北壁 2.5cmとわずかである。カマドは北壁のほぼ中央に設置されているが、袖石と考えられる礫が 1~d 、それに焼土がわずかに確認されたにすぎない。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴は確認できなかった。

遺物は少なく、土師器坏が図示できたにすぎない。坏は盤状を呈するもので、奈良時代と考えられる。

重複遺構は83・93・117・121号住居址である。新旧関係は83・93号住居址(新)→119→117・121号住居址(古)であった。

○ 120号住居址(第89・415図)

521+05 S₁、521+00 S₁、521+00 N₂、521+05 N₂のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの東壁と西壁のコーナーの一部が確認されたにすぎず、カマドの位置、 規模などは不明である。東壁は 2.55m、南壁は 1.4m ほどの部分が明らかになった。 床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器が図示できるにすぎない。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は93・94号住居址である。93号住居址の下部から確認されているが、94号住居址との 関係は明確にできなかった。新旧関係は93・94号住居址(新)→120号住居址(古)であった。

○ 121号住居址(第90・415図)

521+10 S₃、521+10 S₃、520+95 N₁、521+10 N₁のグリッドに位置する。

平面は隅丸方形を呈する。規模は東西 7m、南北6.55mを測る。長軸方向は $N-83^{\circ}-E$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 27cm、西壁 4.5cm、南壁 47.5cm、北壁 21.5cmを測り比較的良好な状況で確認できた。炉は確認できなかった。また炉の位置を推定できるような焼土も見られなかった。

床はほぼ平坦に硬く作られていた。柱穴などは確認できなかった。

遺物は床面と壁際などからわずかに確認されたにすぎない。土師器甕、S字状口縁台付甕、 坩などである。古墳時代前期と考えられる。

重複遺構は多く81・83・87・88・89・108・117・119号住居址であるがいづれの住居址よりも古く、新旧関係は81・83・87・88・89・108・119・117号住居址(新)→121号住居址(古)であった。

○ 122号住居址 (第91・416図)

520+85N6、520+75N6、520+75N8、520+85N8のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西2.85m、南北2.98mを測る。主軸方向はN-102°-Eを指す。 壁は東壁と南壁の一部がわずかに検出されたにすぎず、また他の平面プランは輪郭をわずか に推定できたにすぎない。確認された壁高は南壁 6 cmを測る。カマドは東壁の中央よりわずか に南壁に寄った位置に設置されている。袖石の一部と考えられる礫と焼土が認められたにすぎない。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。なお中央付近に平な礫が見られた。

遺物はカマドと、南壁あたりに集中しており、北西コーナー付近では鉄製品が出土した。

土師器坏、皿、羽釜、甕、灰釉陶器、鉄製刀子などがある。坏、皿はいずれも器体部下半にへ ラ削りを施すものであるが、暗文は見られない。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は91・132号住居址であり、新旧関係は122号住居址(新)→91・132号住居址(古)であった。

○ 123号住居址(第417図)

 $520+85\,N_7$ 、 $520+75\,N_7$ 、 $520+75\,N_8$ 、 $520+85\,N_8$ のグリッドに位置する。

本住居址は91号住居址の下部から、住居址のコーナーらしいごく一部分が確認されたもので、

そのほとんどが未掘部分であり、形態などは全く不明である。

遺物はわずかに出土している。土師器坏であるが細片である。古墳時代後期前半ころと考えられるものである。

重複遺構は91号住居址であり、91号住居址が本住居址の上に構築されており、新旧関係は91号 住居址(新)→123号住居址(古)となる。

○ 125号住居址(第91・92・417~419図)

520+85N₂、520+75N₂、520+75N₄、520+85N₄のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.85m、南北 3.95mを測る。主軸方向は N -107° - E を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 32.5cm、西壁 1.5cm、南壁 52cm、北壁 31.5cmと比較的良好 に検出された。カマドは東壁のほぼ中央に設置されている。袖石と考えられる礫がわずかに認められ、焼土を混入した堆積土が認められた。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドを中心として存在しており、土師器坏、皿、羽釜、置カマド、鉄鏃などが見られる。坏、皿は体部下半にヘラ削りを施すものがほとんどである。しかし暗文を施すものは見られない。置カマドは上縁と下縁の一部分だけであった。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は126・127・129・130号住居址である。新旧関係は125号住居址 (新)→126・127→129・130号住居址 (古)であった。

○ 126号住居址(第91・92・420図)

520+85N2、520+75N2、520+75N4、520+85N4のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 4m、南北 3.95mを測る。住居の南東部を 125号住居址に切られている。主軸方向は $N-17^\circ-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 28.5cm、西壁 24cm、南壁 34.5cm、北壁 18.5cmと比較的良好な状況で検出された。カマドは北壁の中央よりわずかに東壁側に寄った位置に設置されている。袖石と考えられる礫はほとんど見られなかったものの、焼土ないし焼土混入土の堆積は 20 cm前後に認められた。

床はほぼ平坦に作られていた。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドを中心に出土し、土師器坏、甕、須恵器坏、蓋坏、鉄製品(刀子)などがある。 坏は底径のやや大きい盤状に近い形態で、かつ内面に暗文の施された例も見られる。奈良時代 末~平安時代初頭と考えられる。

重複遺構は125・129・130号住居址である。新旧関係は125号住居址(新)→126→129・130号 住居址(古)であった。

〇 127号住居址(第93·420図)

 $520+80N_1$ 、 $520+75N_1$ 、 $520+75N_3$ 、 $520+80N_3$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.7m、南北 2.55mを測る。主軸方向は $N-115^{\circ}-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 7.5cm、西壁 9~cm、南壁 7.5cmを測る。カマドは東壁の南壁 に寄った位置に設置されている。わずかに焼土と袖石と考えられる礫が存在するにすぎない。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は南壁に寄った位置から多く出土し、土師器坏、甕などがある。坏は器体部下半にヘラ削りを施し、かつ内面に暗文を施すものがほとんどを占る。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は125・129号住居址である。新旧関係は125号住居址(新)→127→129号住居址(古) であった。

○ **128号住居址** (第93 • 94 • 421~424図)

520+90N₂、520+80N₂、520+80N₄、520+90N₄のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.15m、南北 2.9mを測る。主軸方向は S - 3°-Eを指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 20.5cm、西壁 21.5cm、南壁 11cm、北壁 13.5cmと比較的良好な状況であった。カマドは南壁のほぼ中央に設置されていた。袖石と考えられる礫が左右に1個づつ認められ袖石間は 40cmを測る。さらにこの間の上部に差し渡したような状況で長手の礫が横たわり、天井石と考えられる。焼土あるいは焼土混入土が 30cmほどの厚さで認められた。床はほぼ平坦に作られている。なお若干であるが炭化材が認められた。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドを中心に住居址の全面に渡って認められた。カマド内からは甕の下半部が埋った状況で見つかった。土師器坏、高坏、腺、鉢、甕、甑、須恵器腺などであり、かなり量的には多い。坏、高坏などには丹塗りの例が認められる。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は129・130・131号住居址である。新旧関係は128号住居址 (新) →129・130→131号住居址 (古) であった。

○ **129号住居址** (第95 • 96 • 425~429図)

520+90N₁、520+75N₁、520+75N₃、520+90N₃のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西、南北ともに7.3mを測る。住居の南壁と西壁のコーナー付近には、農耕時の溝が走っている。主軸方向は $N-10^{\circ}-W$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 8 cm、西壁 17.5cm、南壁 12cm、北壁 8 cmを測る。カマドは北壁の中央よりわずかに西壁に寄った位置に設置されている。しかし北西部を125号住居址によって切られている。袖石らしい礫が東壁側に見られ、これより直線状にレンガ化した焼土が北壁に向って認められた。また中央には柱状の礫が据えられ、支柱と考えられる。 床は中心に向ってわずかずつ傾斜して作られている。中央に炭が、また南東コーナーには粘土塊が認められた。

遺物はカマド周辺、特に東側からは土器が重なった状況で発見された。土師器坏、高坏、甕

などであり、特に甕は大小14個体が確認された。ほとんどが球胴に近い形態のものであった。 また坏は半球形のものに限られている。古墳時代中期後半~後期前半と考えられる。

重複遺構は125・126・127・128・130・131・134号住居址である。新旧関係は125・126・127・134・128・130号住居址(新)→129→131号住居址(古)であった。

○ 130号住居址(第97 • 430 • 431図)

520+90N₂、520+75N₂、520+75N₅、520+90N₅のグリッドに位置する。

本住居址は北側に未掘部分を残す。平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられる。規模は東西 6.55 mを測り、南北は現状で 5 mを測る。主軸方向はN-76°-Wを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 31cm、西壁 15.5cm、南壁 12cmを測る。カマドは西壁のほぼ中央付近に設置されている。カマドの入口部の左右に礫を立て袖石となし、さらに壁に向って小振りの礫が見られる。また袖石間は 45cmほどを測り、その前に長手の礫が遺存している。さらに中央付近にも細長い礫が存在し、これは支柱かと考えられる。焼土 ブロックが $20cm \times 30cm$ 、厚さ 5cmほどに認められた。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器坏、高坏、甕、鉢、甑、須恵器蓋坏、土玉などがある。坏は偏平な半球形と稜を 持つものとが見られる。甕は長胴形を呈する。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は125・126・127・128・129・131号住居址である。新旧関係は125 ~128号住居址(新) →130→129・131号住居址であった。

○ 131号住居址(第93・432図)

520+90N₁、520+80N₁、520+80N₃、520+90N₃のグリッドに位置する。

本住居址は128~130号住居址によって住居の大半を切られ、東壁および南壁の一部の輪郭が わずかに確認されたにすぎない。平面は隅丸方形ないし長方形を呈するものと考えられる。規 模は南北で5 m前後の大きさと推定される。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 23cm、南壁 24.5cmを測る。

床はほぼ平坦に作られている。

遺物には高坏、壺、甕などが見られるが、細片である。壺の中には胴部に凸帯を持つものが 見られる。古墳時代前期~中期と考えられる。

重複遺構は128~130号住居址であり、新旧関係は128 ~130号住居址(新)→131号住居址(古)である。

○ 132号住居址(第98・432~435図)

 $520+80N_6$ 、 $520+75N_6$ 、 $520+75N_8$ 、 $520+85N_8$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 4.35m、南北 4.45mを測る。主軸方向は $N-26^{\circ}-W$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 33cm、西壁 37.5cm、南壁 29cm、北壁 32.5cmと比較的良好 に検出された。カマドは北壁の中央よりやや東壁側に寄った位置に設置されている。袖石が袖部の入口部のみに据えられるものであり、袖石間は 40cmを測る。長さ 30cm、幅 35cm、厚さ 4cm ほどに焼土が認められる。またカマド内の堆積土中に長手の石が見られ、支脚かと考えられる。

床は中心に向って緩やかに傾斜をして作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドを中心にほぼ全面に認められた。特にカマド周辺には甕、甑、ガラス小玉 1、土玉 4 などが集中していた。土師器坏、高坏、甕、甑などがある。坏は外面に稜を持つもののみのようである。甕類は大小 9 個体が確認された。古墳時代後期と考えられる。

重複遺構は67・91・122・133号住居址であり、新旧関係は67・122・91号住居址(新)→132→133号住居址(古)であった。

○ 133号住居址(第99 · 436図)

 $520+85N_5$ 、 $520+75N_5$ 、 $520+75N_7$ 、 $520+85N_7$ のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西4.29m、南北5.05mを測る。長軸方向は $N-10^{\circ}-E$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 19cm、西壁 22.8cm、南壁 19cm、北壁 18.2cmを測り、比較的良好な状況で検出された。カマドは確認できなかった。またカマドを推定できる焼土も認められなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、南東コーナー付近から甑が出土した。土師器坏、甕、甑などである。坏は丹塗りされた偏平な半球形と、外面に稜をもつ形態とが見られる。甑は底部に一条の止め部を持っている。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は63・67・132・138号住居址であり、新旧関係は63・67号住居址(新)→132→133号→138号住居址(古)である。

○ 134号住居址(第99 • 437図)

520+80N₁、520+70N₁、520+70N₃、520+80N₃のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.35m、南北 2.5mを測る。主軸方向は N -9° -Eを指す。住居址の中央を東西方向に走る農耕時の溝によって切られている。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 8.5cm、西壁 6.5cm、南壁 7 cm、北壁 11.5cmを測る。カマドは確認できなかったが、東壁と南壁のコーナー付近に焼土が認められ、このあたりに設置されていたものと考えられる。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド周辺と、南壁際に集中して発見された。土師器坏、皿、甕などがある。坏は器体部下半にへラ削りを施すものと、施さないものとの両者が見られる。平安時代中ころと考えられる。

重複遺構は129号住居址である。新旧関係は134号住居址(新)→129号住居址(古)である。なお158号住居址と近接するが、158号住居址の平面プランがやや明確にならず、重複するか否か

は不明である。

○ 135号住居址 (第100・437~439図)

 $520+75N_{7}$ 、 $520+70N_{7}$ 、 $520+70N_{8}$ 、 $520+75N_{8}$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.4m、南北 3.1mを測る。主軸方向はN -112° - E を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 22.5cm、西壁 27.5cm、南壁 26.5cm、北壁 25cmを測り、比較的良好な状況で確認された。カマドは東壁の南壁に近い位置に設置され、残存状況は良好である。袖部が総石組の形態をとるもので $3\sim 4$ 個の石を組合せている。また壁際の袖部の間には長手の石が横たわっており、天井部を構成したものかと考えられる。この袖石間は 45cm前後を測る。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド周辺に密集している。またカマドの右側の袖部と南壁との間には須恵器大甕の底部が据え付けられた様な状況で検出れた。土師器坏、高台付坏、皿、羽釜、甕、灰釉陶器甕がある。坏、皿は器体部下半にヘラ削りを施すものがほとんどを占めている。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は91・137・143号住居址であり、新旧関係は135号住居址(新)→137→91・143号住 居址(古)である。

○ 136号住居址(第101 • 439図)

520+80N6、520+70N6、520+70N8、520+80N8のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.15 m、南北 3.2 mを測る。主軸方向は S - 65° - Eを指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 14 cm、西壁 20.5 cm、南壁 21.5 cm、北壁 21 cmを測る。カマドは東壁の南壁際に設置されており、南側の袖部は南壁に接する状況である。袖部が石組の形態をとり、3 個が組合せられる。このうち南側の袖部の東壁際の石は他の袖石が小口面を上に柱状に設置されているのに対して、広口面を上面として据えられている。あるいは南壁との関係かとも考えられる。袖石間は 35 cm ほどを測る。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はわずかに確認されたにすぎず、土師器甕、羽釜、用途不明鉄製品が見られる。平安時 代後半と考えられる。

重複遺構は122号住居址であり、新旧関係は136号住居址(新)→122号住居址(古)である。

○ 137号住居址(第102・440図)

520+80N₇、520+70N₇、520+70N₈、520+80N₈のグリッドに位置する。

本住居址は北側に未掘部分を大きく残す。カマドと東壁、南壁の一部が確認されたにすぎない。平面は方形ないし長方形と考えられる。規模は現在確認されている部分で東壁 1.7m、南壁 2.6mを測る。

壁は外傾し、東壁 26.5cm、南壁 24.5cmが確認された。カマドは東壁の南壁に近い位置に設置されている。袖部が石組の形態をとる。この袖部は柱状に据えた石の上部の空隙部に小礫を埋め込む状況が見られる。左右の袖石間は 40cmを測る。また中央付近に支柱が設置されている。

遺物は土師器坏、皿などがある。坏、皿は器体部下半にヘラ削りを施すもので、坏にはさらに暗文が施されている。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は91・135・143号住居址であり、新旧関係は135号住居址(新)→137・91・143号住居址(古)であった。

○ 138号住居址(第103・440図)

520+85N₄、520+75N₄、520+75N₆、520+85N₆のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 5 m、南北 4.9mを測る。主軸方向は N-50°-Wを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 8.5cm、西壁 10.5cm、南壁 9.5cm、北壁 12cmを測る。

床はほぼ平坦に作られている。中央より北東にわずか寄った位置に炉が設置されている。東西 43cm、南北 40cmほどの地床炉で、長さ 37cm、幅 10cm、厚さ 20cmほどの礫が枕石として設置されている。柱穴と考えられるピットが 4 ケ所確認できた。深さは $45\sim65cm$ ほどであった。

遺物は少なく土師器壺、甕などがある。壺は有段あるいは折返しの口縁のものである。甕は 台付甕の底部である。古墳時代前期中ころと考えられる。

重複遺構は63・133号住居址であり、新旧関係は63号住居址(新)→133→138号住居址(古)である。

○ 139号住居址 (第104・105・440図)

520+70N₇、520+60N₇、520+60N₉、520+70N₉のグリッドに位置する。

本住居址は北西部に未掘部分を大きく残している。平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられるが、東壁と南壁の輪郭およびカマドと考えられる焼土とが確認されたにすぎない。 規模は現状で東壁 2.4m、南壁 2.85mを測る。主軸方向はN-110°-Eを指す。

壁はわずかに確認されたにすぎない。カマドは東壁の南壁近くに設置されたものと考えられる。しかし焼土がわずかに確認されたにすぎず、袖石などは全く見られなかった。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。なお南壁に接して直径 50cm、深さ7 cm前後の浅い土城が見られる。中から土器片の出土を見るが、本住居址との関係は不明である。

遺物は土師器坏、皿、甕などである。坏、皿は器体部下半にヘラ削りを施すものである。平安 時代前半と考えられる。

重複遺構は140号住居址であり、本住居址に載って140号住居址が構築されている。したがって 新旧関係は140号住居址(新)→139号住居址(古)となる。

○ 140号住居址(第104 • 105 • 441図)

 $520+70N_6$ 、 $520+60N_6$ 、 $520+60N_8$ 、 $520+70N_8$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 5.5m、南北 5.3mを測る。主軸方向は $N-110^{\circ}-E$ を指す。 壁は確認されたが、その壁高は、東壁 $5\,cm$ 、西壁 $2\,cm$ 、南壁 $6\,cm$ 、北壁 $6\,cm$ とわずかを測るにすぎない。カマドは東壁の中央よりわずかに南壁側に寄った位置に設置されている。袖部が石組の形態をとり、袖石間は $50\,cm$ ほどを測る。焼土ブロックを含んだ堆積土が厚く見られる。また左脇にはカマドの用材と思われる石が存在する。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド内およびその周辺を中心に分布しており、土師器坏、皿、甕などがある。坏、皿は器体部下半にヘラ削りを施さないものが主体を占めている。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は139・142・143号住居址であり、新旧関係は140号住居址 (新)→139→143・142号住居址 (古)である。

○ 141号住居址 (第106図)

520+80N₄、520+70N₄、520+70N₆、520+80N₆のグリッドに位置する。

本住居址は南側に大きく未掘部分を残す。また平面プランの輪郭とカマドの設置場所と推定される焼土がわずかに確認されたにすぎない。平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられる。規模は東西 4.4m を測り、南北は 3m以上になるものといえる。主軸方向は $N-117^{\circ}-E$ を指す。

壁の確認された壁高は4cm前後と悪い。カマドは東壁に設置されたものと考えられる。しか し東壁の未掘部分付近に焼土がわずかに認められるにすぎず、構造は不明である。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は細片に砕けたものがわずか発見されたにすぎず、図示できなかった。また年代を判定できる良好なものも見られなかった。

重複遺構はない。

○ 142号住居址(第106・441図)

 $520+70N_5$ 、 $520+60N_5$ 、 $520+60N_7$ 、 $520+70N_7$ のグリッドに位置する。

平面は東壁が短いため矩形を呈する。規模は中央で東西 4.95m、南北 5.2m を測る。長軸方向はN - 8°-Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は、東壁 11.5cm、西壁 2.5cm、南壁 14.5cm、北壁 14cmを測る。炉は確認できなかったが、南壁の中央付近に薄く堆積した焼土が存在する。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく土師器高坏、城、S字状口縁台付甕などがある。S字状口縁台付甕は肩部に横走するハケメを施すものと、施さないものとの両者が見られるようである。古墳時代前期と考えられる。

重複遺構は140号住居址であり、新旧関係は140号住居址(新)→142号住居址(古)であった。

○ 143号住居址(第107 · 442図)

520+80N6、520+65N6、520+65N8、520+80N8のグリッドに位置する。

本住居址は北側に未掘部分を大きく残す。平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられる。規模は東西 7.5mを測り、南北は 5.5m以上と考えられる。主軸方向は $S-12^{\circ}-W$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は、東壁 20cm、西壁 4 cm、南壁 57cmを測る。カマドは若干浮いた様な状況であるが、南壁の東壁際に設置されていた。礫が数個とわずかに焼土の堆積を認められるにすぎない。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器坏、城、甕などがある。坏は半球形のものである。また甕は球胴気味のものである。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は91・135・137・140号住居址であり、新旧関係は140・135・137号住居址 (新)→91→143号住居址 (古)であった。

○ 144号住居址(第108 • 442 • 443図)

520+70S2、520+60S2、520+60N1、520+70N1のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 4.85m、南北 5.4mを測る。主軸方向は $N-20^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は、東壁 30cm、西壁 20cm、南壁 12.5cm、北壁 24cmを測り、比較的良好に検出された。カマドは北壁の中央よりわずかに西壁に寄った位置に設置されている。袖石と考えられる礫は全く存在しなかったが、焼土ないし焼土混入土が長さ 1m、幅 1.15mの範囲に認められた。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は主にカマド周辺、および東壁際から発見された。土師器坏、甕などがある。坏には偏平な半球形のものと、稜をもつものの2形態が見られ、このうち後者には丹塗りのものも存在する。甕は長胴甕が見られる。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は145・148号住居址であり、新旧関係は148号住居址(新)→144→145号住居址(古)であった。なお145号住居址との間にはそれほど時間差は認められない。

○ 145号住居址(第109・443図)

520+75 S₃、520+60 S₃、520+60 N₁、520+75 N₁のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 5.85m、南北 6.4mを測る。長軸方向は $N-25^{\circ}-W$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は、東壁 15.5cm、西壁 $7\,cm$ 、南壁 $4\,cm$ 、北壁 $11\,cm$ を測る。カマドは確認されなかったが東壁際付近で焼土ブロッや炭化物などが広範囲に認められるところから、東壁にカマドの存在していた可能性もある。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は細片が多かった。土師器坏、高坏、甕、小型壺、甑、須恵器坏、高坏などがある。坏は

偏平な半球形のものと、稜をもつものとの2形態が見られる。前者と高坏とには丹塗りのものも見られる。甑は小型の鉢形のものである。須恵器高坏は長脚2段透しのものである。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は144・148号住居址であり、新旧関係は148・144号住居址(新)→145号住居址(古)であった。

○ 146号住居址 (第109図)

520+80N₃、520+75N₃、520+75N₄、520+80N₄のグリッドに位置する。

本住居址は平面の輪郭がわずかに確認されたにすぎない。方形ないし長方形を呈するものと考えられるが、東側が大きく126号住居址によって切られている。規模は南北 2.7mを測り、東西は確認された現状で 0.85mを測る。

壁は比較的良好な状況で検出され、確認された壁高は西壁 16cm、南壁 20cm、北壁 16cmを測る。カマドは確認されず、また位置を推定するような焼土の存在も確認された壁付近では見られなかった。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は細片がわずかに出土したのみであり、かつ図示できるものはなかった。細片は平安時代を示す遺物であったが、細い時期は不明である。

重複遺構は126号住居址であり、新旧関係は146号住居址(新)→146号住居址(古)である。

○ 147号住居址(第110・444図)

520+80N₃、520+70N₃、520+70N₄、520+80N₄のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.45 m、南北 3.3 mを測る。主軸方向は N-111°-Eを指す。 壁は外傾し、確認された壁高は、西壁 7.5 cm、南壁 8 cm、北壁 7 cmを測る。東壁はほとんど見られず、わずかに輪郭が確認されたにすぎない。カマドは東壁の中央に設置されている。袖部が石組の形態であり、脇には袖石間に差し渡し天井石となしたと考えられる長手で偏平な石が残存している。袖石間は 45 cm ほどを測る。焼土、カーボンなどが厚く堆積しているのが認められる。 床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド周辺それに南壁際に多く見られた。土師器坏、皿、羽釜、甕などがある。坏、皿は器体部にヘラ削りを施すものと、全く施さないものの2形態が見られる。平安時代中ころと考えられる。

重複遺構は193号住居址であり、新旧関係は147号住居址(新)→193号住居址(古)であった。

○ 148号住居址(第111・445・446図)

520+65 S 2、520+55 S 2、520+55 N 1、520+65 N 1のグリッドに位置する。

平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられるが、東南部を他住居によって大きく切られている。規模は南北5.35mを測り、東西は確認された現状で4mを測る。主軸方向は $N-25^{\circ}-$

Wを指す。

壁の検出状況はそれほど良くなく、確認された壁高は西壁 4 cm、南壁 13cm、北壁 12cmを測る。カマドは北壁の西壁近くに寄った位置に設置されている。袖部の入口部のみに袖石を設置する形態のものである。この袖石間は 35cmを測る。またこの袖石間には甕が差し渡されたような状況で発見され、甕によって天井部を構築した可能性もある。焼土ないし焼土混入土が多量に遺存している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドの正面付近から集中して出土している。土師器坏、高坏、城、鉢、甕などのほか土製の支柱がある。坏は半球形のものと稜をもつものとの2形態が見られる。高坏、城などには丹塗りの見られるものがある。甕は長胴甕が主体である。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は144・145・157号住居址であり、新旧関係は148号住居址 (新)→144・145→157号 住居址 (古)であった。

149号住居址 (第112 • 447図)

 $520+95N_{7}$ 、 $520+85N_{7}$ 、 $520+85N_{8}$ 、 $520+95N_{8}$ のグリッドに位置する。

平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられるが、北側に大きく未掘部分を残す。規模は東西 6.05mを測るが、南北は確認された現状で 2.75mを測る。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 22.5cm、西壁 23.5cm、南壁 21.5cmと比較的良好な状況であった。カマドは確認できなかった。また現在確認されてる壁の周辺にカマドの存在を推定させる焼土やカーボンの遺存も見られなかった。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、土師器坏、甑などが図示できたにすぎない。坏は半球形のもののみであった。 古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は69号住居址であり、新旧関係は69号住居址(新)→149号住居址(古)であった。

○ 150号住居址(第113・114・447・448図)

520+75N₃、520+65N₃、520+65N₄、520+75N₄のグリッドに位置する。

平面は南壁が北壁に比べて短かく矩形を呈する。規模は中央で東西 3.3m、南北 2.9mを測る。 主軸方向は $N-95^{\circ}-E$ を指す。

壁の検出は悪く、確認された壁高は東壁 3.5cm、西壁 6.5cm、南壁 4 cm、北壁 5 cmを測る。カマドは東壁の中央より南壁側に寄った位置に設置されていた。袖部が石組の形態のもので、この袖石間は 43cmほどを測る。またカマドの中央には支柱と考えられる石が据えられていた。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドの正面あたりに集中していた。土師器坏、皿、甕、羽釜、灰釉陶器(長頸壺)がある。坏、皿、は器体部下半にヘラ削りを施すものがほとんどである。暗文を施した坏もごくわずか見られるようである。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は151・152・168・191・193号住居址であり、新旧関係は152号住居址(新)→150→151・168・191・193号住居址(古)であった。

○ 151号住居址(第113・114・449図)

 $520+75N_2$ 、 $520+65N_2$ 、 $520+65N_4$ 、 $520+75N_4$ のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭がわずかに確認されたにすぎない。平面は方形を呈する。規模は東西 4.4m、南北 4.3mを測る。東壁から西壁に向かって斜めに農耕時の溝が走る。主軸方向は $N-85^{\circ}-E$ を測る。

壁は東壁で 5.5cmほどが測られたにすぎない。カマドは東壁のほぼ中央付近に設置されている。 袖石の礫の残存は見られず、わずかに焼土を確認できたにすぎない。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドの正面付近に分布が濃く見られた。土師器坏、甕、用途不明鉄製品などがある。 坏は器体部下半にヘラ削りを施すもので、このうち大型のものには暗文も認められる。平安時 代前半と考えられる。

重複遺構は150・168・183・184号住居址であり、新旧関係は150号住居址(新)→151→168・183・184号住居址(古)であった。なお168号住居址との間はわずかな時間差といえる。

○ **152号住居址** (第115 • 449図)

520+75N3、520+65N3、520+65N5、520+75N5のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.1m、南北 3.15mを測る。 主軸方向はN -62° - E を指す。

壁はわずかに検出され、確認できた壁高は東壁 4.5cm、西壁 7cm、南壁 4.5cm、北壁 5cmを測る。カマドは東壁の南壁近くに設置されている。袖部が石組の形態をとるものといえるが、右袖部の石組はすでに抜きとられており残存しない。焼土が長さ 40cm、幅 25cm、厚さ 10cmほどに認められる。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。北西コーナー付近に平たい石が見られる。

遺物は細片が多い。土師器坏、台付坏、灰釉陶器塊などがある。坏は器体部にヘラ削りの全く見られないもので占められている。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は150・169・190・191号住居址であり、新旧関係は152号住居址(新)→150→169・190・191号住居址(古)であった。

○ 153号住居址(第116・450図)

520+70N₃、520+60N₃、520+60N₅、520+70N₅のグリッドに位置する。

平面は東壁が西壁に比べて短かく、矩形を呈する。規模は中央で東西 2.75m、南北 2.55mを測る。主軸方向は N -112° – E を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 9~cm、西壁 9.5cm、南壁 6~cm、北壁 10cmを測る。カマドは東壁の中央よりやや南壁側に寄った位置に設置されている。袖部が石組の形態のもので、両袖とも $3\sim4$ 個の石を組合せている。袖石間は 45cmほどを測る。焼土および、カーボン混入土が厚く堆積しているのが認められる。カマド中央に柱状の石が据えられており、支脚と考えられる。床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

・遺物はカマド周辺に集中がみられた。土師器坏、甕、灰釉陶器塊などがある。土師器坏は器体部下半にヘラ削りの施されたもののみである。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は169号住居址であり、新旧関係は153号住居址(新)→169号住居址(古)であった。

○ **154号住居址** (第117 • 450図)

 $520+75N_1$ 、 $520+65N_1$ 、 $520+65N_3$ 、 $520+75N_3$ のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.1m、南北 3.55mを測る。 主軸方向は $N-25^{\circ}-E$ を指す。

壁はわずかに確認されたにすぎない。その確認された壁高は東壁 3.5cm、南壁 4.5cm、北壁 4cmを測る。西壁は平面プランの輪郭がわずかに確認されたにすぎない。カマドは北壁の中央よりわずかに東壁側に寄った位置に設置されている。袖部が石組される形態であるが、一部の残存を見るにすぎない。袖石間は 40cmほどを測る。焼土が厚さ 8cmほどに見られる。

床は平坦に作られているが、西壁際は明確にはならなかった。柱穴などは確認できなかった。 遺物は少なく、土師器坏などがある。坏は器体部下半にヘラ削りが施され、かつ内面に暗文 の施される例がほとんどである。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は185号住居址である。本住居址が185号住居址の上部に構築されていることから新 旧関係は154号住居址(新)→185号住居址(古)となる。

○ 155号住居址 (第118・450図)

520+70N₂、520+60N₂、520+60N₄、520+70N₄のグリッドに位置する。

本住居址は西壁部を撹乱などで明確にできなかった。また東壁から西壁に向って農耕時の溝が走っている。平面は長方形を呈するものと考えられる。規模は東西 3.85m、南北 3.8m ほどを 測る。主軸方向は $N-104^{\circ}-E$ を指す。

壁はわずかに検出されたにすぎない。確認された壁高は東壁 3.5cm、南壁 4.5cm、北壁 4 cmを 測る。カマドは東壁の中央よりわずかに南壁側に寄った位置に設置されている。袖部が石組の 形態をとるものであるが、左袖部は耕作時の溝で壊されている。焼土が 10cm 前後の厚さで認められる。

床はほぼ平坦に作られている。カマドの前面に平石が認められた。

遺物は南半分から多く出土した。土師器坏、皿、羽釜などである。坏、皿は器体部下半にヘラ削りを施すもので占められている。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は見られないようである。

○ **157号住居址** (第119 • 450図)

520+65 S₃、520+50 S₃、520+50 N₁、520+65 N₁のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭がわずかに確認されたにすぎない。平面は隅丸方形を呈するものと考えられる。規模は東西 5m、南北 5.35mを測る。主軸方向は $N-22^\circ-E$ を指す。

壁はほとんど確認できなかった。

床はほぼ平坦に作られている。住居の中央北西よりに長径60cm、短径45cmほどに焼土が認められ、炉と考えられる。

遺物は細片がわずかに出土したにすぎない。土師器高坏などがある。受部が大きく広がり、 脚部には孔を穿っている。古墳時代前期と考えられる。

重複遺構は148号住居址であり、新旧関係は148号住居址(新)→157号住居址(古)であった。

○ 158号住居址(第119・451図)

520+75 S₁、520+70 S₁、520+70 N₂、520+75 N₂のグリッドに位置する。

本住居址はカマドのみが確認でぎたにすぎず、住居の平面形態、および規模などは不明である。

カマドは南壁に設置されたものと考えられる。カマドの主軸方向は $N-20^\circ-W$ を指す。袖部が総石組の形態をとるものである。両袖部とも残存状況は比較的よく $3\sim 4$ 個の石を組合せている。袖石間は 30cmを測る。焼土の堆積が 10cm前後見られる。

遺物はカマド内および正面付近からわずかに出土した。土師器皿、羽釜である。皿は器体部にへう削りを全く施さないものである。羽釜は華奢な感じを受ける鍔が取り付けられるが、口縁を連続して回るものでなく、3ヶ所で切れるものである。底は木葉痕の見られる平底を呈する。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は184号住居址と重複するものと思われるが、本住居址の平面形態を捉えられず不明である。

○ 159号住居址(第120・452図)

520+55 S₄、520+45 S₄、520+45 S₂、520+55 S₂のグリッドに位置する。

本住居址は南側に未掘部分を残す。平面は長方形ないし矩形を呈するものと考えられる。規模は中央で東西 3.05 m を測り、南北は現状で 3.25 m を測る。

壁は東壁が確認高5cmを測る以外、ほとんど認められなかった。カマドは確認できなかった。 しかし現在のプランの壁付近からは焼土も確認されず、南壁か、南東コーナー付近に設置され たものと考えられる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は住居の東南付近に集中が見られ、土師器坏、高台付坏などがある。坏、高台付坏は器体部下半にへラ削りの全く施されないもので占められている。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は見られなかった。

○ 160号住居址(第120・452図)

520+50N2、520+45N2、520+45N4、520+50N4のグリッドに位置する。

平面は西壁が東壁に比べて短く、矩形を呈する。規模は中央で東西 3 m、南北 2.9mを測る。 主軸方向は $N-125^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁は東壁 14cm、西壁 10cm、南壁 8 cm、北壁 10cmを測る。カマドは東壁の中央よりわずかに北壁側に寄った位置に設置されている。袖部が石組のものと考えられるが袖石の残存は悪い。焼土混入土が 20cm前後に堆積している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はそれほど多くなくカマドの正面付近に集中が見られた。土師器坏、羽釜などがある。 坏は器体部下半にへラ削りを施すものと、施さないものとの2形態がある。平安時代中ころと 考えられる。

重複遺構は見られない。

○ 161号住居址 (第121・452図)

520+50S4、520+40S4、520+40S2、520+50S2のグリッドに位置する。

本住居址は南側に未掘部分を残す。平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられる。規模は東西 2.9mを測り、南北は現状で 2.35mを測る。主軸方向はN-87°-Eを指す。

壁の状況は悪く、確認された壁高は東壁 4 cm、西壁 5 cm、北壁 5 cmを測る。カマドは東壁のほぼ中央付近に設置されたものと考えられる。袖部を石組とする形態で残存状況も良い。この袖石間は 35cmほどを測る。厚さ 4 cm前後の焼土が認められる。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はわずかに出土した程度であった。土師器坏、皿、甕、羽釜などがある。坏、皿は器体部 下半にヘラ削りを施すものと施さないものとが見られる。平安時代中ころと考えられる。

重複遺構は174・188号住居址であり、新旧関係は161号住居址(新)→174→188号住居址(古)であった。なお161・174号住居址との間にはほとんど時間差を認められない状況といえる。

○ 162号住居址(第122 • 453図)

520+55N₄、520+45N₄、520+45N₆、520+55N₆のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西、南北ともに 3 mを測る。主軸方向はN-13°-Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 33cm、西壁 32cm、南壁 39.5cm、北壁 26.5cmを測り、比較的良好に検出された。カマドは北壁のほぼ中央に設置されていた。袖部には袖石と考えられる礫の残存は全く認められず、粘土カマドと考えられる。煙道部は住居外に突出して長さ 1m前後、直径 20cm前後のトンネル状に作られたと思われる。しかしその上部は削平されており確認できない。また燃焼部から煙道部にかけての壁は厚さ 1cm前後にレンガ化している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく土師器坏、甕などがある。坏は半球形を呈する。古墳時代後期後半と考えられ

る。

重複遺構は163号住居址であり、新旧関係は162号住居址(新)→163号住居址(古)であった。

○ **163号住居址** (第123 • 453図)

520+55N₄、520+45N₄、520+45N₆、520+55N₆のグリッドに位置する。

本住居址は西壁部が明確にならなかった。また南壁も北壁と角度が違い、やや不安定な状況といえる。平面は長方形ないし方形を呈するものと考えられる。規模は南北 5mを測り、東西は現状で 4mほどを測る。主軸方向は $N-3^\circ-W$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 18cm、南壁 11cm、北壁 7.5cmを測る。カマドは北壁のほぼ中央あたりに設置されたものと考えられる。袖部には石は見られなかった。焼土は長さ 0.8m、幅 0.6m、厚さ 10cm前後に認められた。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器坏、高坏、城、鉢、甕、土玉などがある。坏は稜をもつものみであり、丹塗りされた例も見られる。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は162号住居址であり、新旧関係は162号住居址(新)→163号住居址(古)であった。

○ 164号住居址(第124図)

 $520+60N_4$ 、 $520+50N_4$ 、 $520+50N_6$ 、 $520+60N_6$ のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭とカマドの位置が確認されたにすぎない。平面は方形を呈するが、北西コーナー付近は明確にならなかった。規模は東西 3m、南北 2.9mを測る。主軸方向は $N-113^\circ-E$ を指す。

壁の検出状況は悪く、ほとんど壁高を確認できなかった。カマドは東壁のほぼ中央に設置されたものと考えられるが、わずかに焼土などが確認されたにすぎない。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はほとんど確認できなかった。

重複遺構は見られない。

○ 165号住居址(第124図)

520+60N₄、520+50N₄、520+50N₅、520+60N₅のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭とカマドの位置などが確認できたにすぎない。平面は方形を呈する。なお東壁から西壁に向って農耕時の溝が走る。規模は東西 3.35m、南北 3.5mを測る。主軸方向は $N-26^{\circ}-E$ を指す。

壁の検出状況は悪く、ほとんど壁高を確認できない状況であった。カマドは北壁の中央よりやや東壁側に寄った位置に設置されている。しかし、焼土などがわずかに確認されたにすぎない。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認されなかった。

重複遺構は見られなかった。

○ 166号住居址(第125 • 454図)

520+50 S₂、520+40 S₂、520+40 N₁、520+50 N₁のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 4.3m、南北 4.45mを測る。長軸方向は $N-22^{\circ}-E$ を指す。 壁はわずかに確認され、確認された壁高は東壁 7~cm、西壁 5~cm、南壁 8~cm、北壁 5~cmほどを測る。カマドの位置は確認できなかった。

遺物は少量確認されたにすぎない。土師器坏、甕それに置きカマドがある。坏は器体部下半にへう削りを施すものと、施さないものとの2形態が見られる。置きカマドはごく細片であった。平安時代中ころと考えられる。

重複遺構はない。

〇 167号住居址 (第126 • 454図)

520+45 S₃、520+35 S₃、520+35 S₂、520+45 S₂のグリッドに位置する。

平面は南壁が北壁に比べて短く、矩形を呈する。規模は中央で東西 3.1m、南北 3.25mを測る。 主軸方向は $N-114^\circ-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 9 cm、西壁 9.5cm、南壁 9 cm、北壁 7.5cmを測る。カマドは東壁の南壁際に設置されている。袖部は石組と考えられるが、まったく残存していない。住居址中央付近に偏平で細長い石が見られ、あるいはカマドの構築材とも考えられる。焼土、カーボン混入土層が厚さ 10cm前後に見られる。

遺物はカマド周辺に多く見られ、土師器坏、皿、鉢、甕、灰釉陶器瓶がある。坏、皿は器体部 下半にへう削りを施すものがほとんどのようである。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は見られない。

○ 168号住居址(第127・455)

 $520+75N_2$ 、 $520+65N_2$ 、 $520+65N_4$ 、 $520+75N_4$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈するものと考えられるが、南壁は農耕時の溝で切られ、また西壁は輪郭が確認されたにすぎない。規模は東西 2.9mを測り、南北は現状で3mを測る。主軸方向は $N-108^{\circ}-E$ を指す。

壁の検出状況は悪く、確認できた壁高は東壁 7.5cm、北壁 4.5cmを測るにすぎない。カマドは東壁のほぼ中央に設置されている。袖部が石組の形態である。右袖部は良好な残りであった。左右の袖石間は 40cmほどを測る。焼土混入土が厚さ 10cm前後に認められた。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器坏、鉢、甕などがある。このほか東壁のカマドの脇付近からムシロ編石錘かと 考えられる細長い石が3個ほど出土した。坏は器体部下半にヘラ削りを施すもので、大型のも のは内面黒色でかつ暗文が見られる。平安時代前半と考えられる。 重複遺構は150・151・170号住居址であり、新旧関係は150・151号住居址(新)→168→170号住居址(古)であった。

○ **169号住居址** (第128 • 455図)

520+70N₃、520+65N₃、520+65N₅、520+70N₅のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの一部の輪郭とカマドが確認されたにすぎない。そのため形態、規模などは不明である。平面は方形ないし長方形が考えられる。主軸方向は $N-108^\circ-E$ を指す。

壁の検出状況は悪く、ほとんど壁高は確認できなかった。カマドは東壁の南壁際に設置されている。袖部が石組カマドの形態で、両袖部とも比較的良好な残りであった。この袖石間は 47 cmほどを測る。焼土ブロック混入土が厚さ 15cm前後に認められた。

柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド内から出土しており、土師器坏、皿、甕などがある。坏、皿は器体部下半にヘラ削りを施すもののみで、坏内面には暗文が見られる。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は152・153・170号住居址であり、新旧関係は152・153号住居址 (新)→169→170号 住居址 (古)であった。

○ 170号住居址 (第128・456図)

520+70N₂、520+65N₂、520+65N₄、520+70N₄のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランのごく一部の輪郭が推定されたにすぎない。平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられるが、北側部分が他住居址と重複しているため明確とならない。

推定できたプランは西壁と南壁の一部であったが、これも壁が確認できたものではなく、遺物の分布状況によるものである。

遺物は細片になりながらも比較的多く残存していた。土師器坏、甕、甑などがある。坏は稜をもつもののみで、丹塗りされている。甑は小型のものである。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は150・151・152・155・168・169・191号住居址であり、新旧関係は150・151・152・155・168・169号住居址(新)→170号住居址(古)であった。なお191号住居址との直接的な関係は不明である。

○ 171号住居址(第129・457図)

520+45S2、520+35S2、520+35N1、520+45N1のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.7m、南北 3.75mを測る。主軸方向は $N-121^\circ-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 13cm、西壁 8cm、南壁 13cm、北壁 10cmを測る。カマドは 東壁の南壁際に設置されている。袖部が石組と考えられるが、残存するものはごく少ない。平面にレンガ化した焼土が袖部に沿った様な帯状に認められた。またカマドの底の部分にも焼土が認められた。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴は確認できなかった。

遺物はカマドを中心に全面に認められた。土師器坏、甕などがある。坏は器体部下半にヘラ削りを施し、かつ内面に暗文の見られるものである。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は178・179号住居址であり、新旧関係は179号住居址(新)→171→178号住居址(古)であった。なお178号住居址との間にはほとんど時間差がないものといえる。

○ 172号住居址(第130 • 457 • 458図)

520+65N₃、520+55N₂、520+55N₅、520+65N₅のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 4.15m、南北 3.75mを測る。東壁から西壁に向って農耕時の溝が走っている。 主軸方向は $N-110^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 19cm、西壁 8 cm、南壁 14cm、北壁 13cmを測る。カマドは東壁の中央より南壁側に寄った位置に設置されている。袖部の左右に袖石が1個づつ残存する。この袖石間は 27cmほどとやや狭い。焼土混入土が 15cm前後の厚さに認められる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドの正面を中心に分布が見られ、土師器坏、皿、甕、須恵器甕などがある。坏、皿は器体部下半にへう削りを施すもので占められている。なお坏の外面に墨書「大」が書かれているものがある。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は176号住居址であり、本住居址は176号住居址の上に主軸、規模をほとんど同じにして構築されている。新旧関係は172号住居址(新)→176号住居址(古)であった。

○ 173号住居址(第131・459図)

520+60N₂、520+55N₂、520+55N₄、520+60N₄のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭が一部推定されたにすぎない。その一部は北壁であるが、これも壁等から確認されたものでなく、遺物の出土状況、焼土などから推定されたにすぎない。したがって形態、規模などは不明である。

カマドは北壁際で焼土が多量に認められるところから北壁に設置されていた可能性が強い。しかし形態は全く不明である。

遺物はこの北壁際の焼土付近を中心に分布が見られた。土師器坏、塊などがある。坏はすべて稜をもつもので占められている。また内面に放射状の暗文の見られるものも存在する。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は確認できなかった。

○ 174号住居址 (第131・460図)

520+50 S₄、520+40 S₄、520+40 S₂、520+50 S₂のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 2.25m、南北 2.95mを測る。南東コーナー付近に未掘部分を残す。主軸方向は $N-31^{\circ}$ - を指す。

を残す。主軸方向はN-31°-Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 9 cm、西壁 12 cm、南壁 8.5 cm、北壁 13 cmを測る。カマドは北壁のほぼ中央に設置されている。袖部に袖石が 1 個残存している。焼土が厚さ 5 cm前後に認められる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなった。

遺物はわずかな量であった。土師器皿、甕などがある。皿は器体部下半にへ う削りを施すものと、施さないものとの 2 形態が見られる。平安時代中ころと考えられる。

重複遺構は161・188号住居址であり、新旧関係は161号住居址(新)→174→188号住居址(古)であった。なお161号住居址の間にはほとんど時間差はない。

○ 175号住居址 (第132・460図)

520+50 S₃、520+40 S₃、520+40 S₁、520+50 S₁のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの袖部がわずかに確認できたにすぎない。平面は方形を呈する。規模は東西 2.7m、南北 2.5mを測る。長軸方向は $N-82^{\circ}-E$ を指す。

壁の壁高の確認できるものはほとんどなかった。カマドは確認されず、かつ設置位置を推定 するような焼土の存在も見られなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴は確認できなかった。

遺物は少なく、土師器坏、高台付坏などが図示でぎたにすぎない。いずれも器体部下半には ヘラ削りの見られないものであった。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は179・188号住居址であり、新旧関係は175号住居址(新)→179→188号住居址(古)であった。

○ 176号住居址(第132 • 460図)

520+65N₃、520+55N₃、520+55N₅、520+65N₅のグリッドに位置する。

本住居址は172号住居址の直下から主軸方向をほとんど同一にして発見された住居址である。このためカマドとわずかに平面プランの輪郭が確認できなかったにすぎない。平面は長方形を呈している。規模は東西 4.65m、南北 3.55mを測る。東壁から西壁に向って農耕時の構が走っている。主軸方向は $N-120^{\circ}-E$ を指す。

カマドは東壁のほぼ中央付近に設置されているが、北壁の一部を農耕時の溝によって切られている。袖部の正面と考えられる位置の左右に袖石が1個ずつ見られる。袖石はこれ以外の残存を見られなかった。袖石間は47cmほどを測る。焼土が厚さ5cm前後に堆積している。

床はほぼ平坦に作られているものと見られた。柱穴などは確認できなかった。

遺物はわずかに出土したにすぎない。土師器坏、皿、鉄鏃などがある。坏、皿は器体部下半に へラ削りを施すもののみに限られている。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は172号住居址であり、新旧関係は172号住居址(新)→176号住居址(古)となる。しかし出土した遺物を比較すると、ほとんど時間差が認められない。主軸方向を一致するところ

を考えあわせば、両住居址は立替えされたものとも推定できる。

○ 177号住居址(第133・134・461図)

520+50S1、520+40S1、520+40N1、520+50N1のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西および南北とも 2.95mを測る。主軸方向は $N-91^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は西壁 11.5cm、北壁 10cmを測る。西壁、南壁は輪郭が確認できた程度であった。カマドは東壁の中央より南壁側に寄った位置に設置されている。袖石の石材と考えられる礫が幾つか見られるが、断定できない。焼土混入土の堆積が認められる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は細片が多い。土師器坏、甕、置カマド、鉄製刀子などがある。坏は器体部下半にヘラ削りを施すものである。置カマドは正面の一部である。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は166号住居址であり、新旧関係は166号住居址(新)→177号住居址(古)である。

○ 178号住居址(第133・134・462図)

520+45 S₂、520+40 S₂、520+40 N₁、520+45 N₁のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.6m、南北 2.55mを測る。主軸方向は $N-85^{\circ}-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 5.5cm、西壁 5.cm、南壁 4.cm、北壁 6.5cmを測る。カマドは 東壁のほぼ中央に設置されている。袖部が石組の形態であるが、北側の袖部は既に抜きとられ たものと考えらる。焼土混入土層が厚く認められる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドの周辺に集中していた。土師器坏、鉢、甕などがある。坏、鉢は器体部下半にへ ラ削りを施し、内面に暗文を施すのを主体とする。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は171号住居址であり、新旧関係は171号住居址(新)→178号住居址(古)であった。 しかしその間の時間的な差はほとんどないものといえる。

○ 179号住居址 (第135 • 462図)

520+50 S₂、520+40 S₂、520+40 S₁、520+50 S₁のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.75m、南北 2.9mを測る。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 9 cm、西壁 16cm、北壁 18cmを測る。カマドは確認できなかった。西壁の中央付近に薄く焼土の散布が見られるが、カマドの痕跡を推定するまでには至らないものである。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、土師器坏が図示できたにすぎない。器体部下半にヘラ削りの施されないものである。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は171・175号住居址である。新旧関係は175・179号住居址(新)→171号住居址(古)

である。175号と179号住居址とは遺構の切合いからは新旧を明確にできなかったが、遺物の様相からの新旧関係は175号住居址(新) \rightarrow 179 \rightarrow 171号住居址(古)である。

○ 180号住居址 (第135 • 462図)

520+70N₁、520+60N₁、520+60N₂、520+70N₂のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.95m、南北 2.9mを測る。主軸方向は $N-26^\circ-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 5~cm、西壁 3.5cm、南壁 4.5cm、北壁 4~cmを測る程度で検出状況は悪い。カマドは北壁の中央付近に設置されている。しかし焼土が長さ75cm、幅70cm、厚さ 10cm前後に認められるのみで、構造を確認できるまでに至らなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はわずがであるが、住居址の全面に見られた。土師器坏、皿、甕などである。坏は器体部 下半にへラ削りを施す。内面は坏、皿とも暗文が施されている。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は185・186号住居址であり、新旧関係は186・180号住居址(新)→185号住居址(古)である。186・180号住居址の新旧関係は遺構の切合いから明確にすることはできなかった。遺物の上では一応186号住居址が後出と考えられるものの、186号住居址の遺物は比較資料としては極めて難点がある。

○ 181号住居址 (第136図)

520+65N₁、520+55N₁、520+55N₂、520+65N₂のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.5m、南北 3.1mを測る。住居址の北西コーナー付近を東から西に向って農耕時の溝が走る。主軸方向は $N-36^{\circ}-W$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁5.5cm、西壁5.5cm、南壁6cmを測り、北壁はほんのわずかの検出状況であった。カマドは北壁のほぼ中心付近に設置されている。しかし焼土が長さ35cm、幅25cm、厚さ3cm前後に認められるのみで、構造は不明である。

床はほぼ平坦に作られているが、カマド周辺を掘り過ぎたため、カマドが浮いた様な状況を 呈している。柱穴などは確認できなかった。

遺物は細片がわずかに出土したにすぎない。

重複遺構は189号住居址であり、新旧関係は181号住居址(新)→189号住居址(古)である。

○ 182号住居址(第137 • 138 • 463~466凶)

520+60S1、520+45S1、520+45N2、520+60N2のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 7.1m、南北 6.8mを測る。主軸方向はN-23°-Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 10cm、西壁 13cm、南壁 11.5cm、北壁 17.5cmを測る。カマドは北壁のほぼ中央付近に設置されている。袖部には袖石は全く残存していなかった。しかし東西 2 本のセクションには袖石を設置していたと推定できる掘り込みが認められる。これからすれば袖部に石を組合せた構造と考えることもできる。この袖部を形成すると考えられる掘り

込みの間はいずれのセクションにおいても80cmを測る。またカマドのほぼ中央と考えられる位置には柱状の石が据えられており、支脚と考えられるものである。焼土ないし焼土を多量に混入する土が厚さ20cmほどに堆積しているのが認められた。

床は南壁から北壁に向って緩やかに下って作られているようである。暗褐色土を 4cm 前後の厚さに叩き締めて床を構築している。住居の中央より西寄りには撹乱部分が見られる。南壁の中央付近には貯蔵穴と考えられる土城が掘られ、その外側を「コ」の字形に土堤が取り巻いている。貯蔵穴と考えられる土城は東西 1m、南西 0.95m、深さ約 30cmを測る。この土城から続いて北側に東西 35cm、南北 25cm、深さ 13cm ほどのピットが見らられ、その左右にそれぞれごく浅い小ピットが存在する。これらはおそらく入口の梯子受けのピットと推定できるものであろう。土堤は高いところで 4cm 前後の比較的低い作りであった。柱穴は確認できなかった。

遺物はカマドおよびその周辺に集中し、貯蔵穴付近にもわずかに見られた。土師器坏、高坏、小型壺、甕、甑、土玉などがある。坏には半球形と口縁部に稜をもつもの、それに口縁でわずかに外反する形態があり、このうち半球形の坏が主体を占める。高坏は脚部の裾が段状を呈する。甕は球胴形の形態で占める。甑は小型の鉢形の形態である。古墳時代後期初頭ころと考えられる。

重複遺構は見られなかった。

○ 183号住居址(第139・467図)

520+75N₂、520+65N₂、520+65N₃、520+75N₃のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭と、カマドの位置が確認できたにすぎない。平面は長方形を呈する。規模は東西 3m、南北 3.8mを測る。北壁の際あたりを東から西へ向って農耕時の溝が走っている。主軸方向は $N-29^\circ-E$ を指す。

壁は東壁が高さ4cmほど確認された程度で、他の壁はほとんど皆無の状況に近い。カマドは 北壁の中央よりやや西壁側に寄った位置に設置されたものといえるが、焼土が厚さ10cm前後に 認められるのみで、構造は不明である。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器台付坏、蓋坏などであり、内面に暗文が施されている。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は151・184号住居址であり、新旧関係は151号住居址(新)→183・184号住居址(古)であった。なお183・184号住居址との間に直接切合い関係を捉えられなかったが、位置からすれば時間差はそれほどないものと考えられる。

○ 184号住居址(第139 • 467図)

520+75 N₂、520+65 N₂、520+65 N₃、520+75 N₃のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.25m、南北 2.7mを測る。北壁沿いを東から西に向って農耕時の溝が走る。長軸方向はN-8°-Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 6 cm、西壁 4 cm、南壁 3 cm、北壁 16 cmを測る。カマドは確認されず、またカマドの位置を推定できるような焼土、カーボンなどは見られなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はほとんど見られず、わずかに土師器坏が図示できたにすぎない。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は151・158・168・183号住居址などであり、新旧関係は158・151・168号住居址 (新) →183・184号住居址 (古)であった。このうち183と184号住居址との新旧関係は明確にできない が、その間には時間差はそれほど認められない。

○ 185号住居址(第140図)

520+75N₁、520+65N₁、520+65N₃、520+75N₃のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭とカマドの位置が確認できたにすぎない。平面は方形を呈する。 規模は東西 2.1m、南北 2.3mを測る。主軸方向は $N-91^{\circ}-E$ を指す。

壁はほとんどその壁高を確認できず、床面で平面プランが確認された程度といえる。カマドは東壁の中央よりわずかに南壁側に寄った位置に設置されている。焼土が長さ 55cm、幅 25cm、厚さ 4 cm前後に認められたにすぎず、その構造は確認できなかった。

床は平坦に作られているようである。柱穴は確認できなかった。遺物はほとんど検出されなかった。

重複遺構は180・154号住居址である。新旧関係は154・180号住居址(新)→185号住居址(古)である。

○ 186号住居址(第141・467図)

520+70N₁、520+60N₁、520+60N₂、520+70N₂のグリッドに位置する。

平面は西壁が東壁に比べて短かく、矩形を呈する。住居址の東壁から南壁に向って東西に農耕時の溝が走る。規模は中央で東西 2.25 m、南北 2.8 mを測る。長軸方向は N-36°-Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 10cm、西壁 8cm、南壁 7cm、北壁 8cmを測る。カマドは確認できず、また位置を推定できるような焼土の散布も認められなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はわずかに土師器皿が図示できたにすぎない。しかしこれも細片であり良好な資料とはいえない。しいていえば平安時代後半の所産と考えられる。

重複遺構は180号住居址である。切合い関係は一部が重なる程度でそれほど明確にならなかったが、遺物から一応新旧関係を186号住居址(新)→180号住居址(古)と捉えておきたい。

○ 187号住居址(第141図)

520+65N₂、520+55N₂、520+55N₄、520+65N₄のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの一部が確認されたにすぎない。北西部に大きな撹乱が見られる。平

面は方形ないし長方形を呈するものと考えられる。規模は南北が1.9mを測る小型のものといえる。カマドと推定できる焼土などは認められなかった。

遺物が土師器の細片がわずかに検出されたにすぎないが、一応竪穴住居址と捉えておきたい。

○ 188号住居址(第141・467図)

520+50 S₄、520+40 S₄、520+40 S₂、520+50 S₂のグリッドに位置する。

平面は方形ないし長方形と考えられるが、西壁は明確とならなかった。規模は南北 3.15mを 測り、東西は現状で 1.5mを測る。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 3 cm、南壁 10cm、北壁 3.5cmを測る程度と検出状況は悪い。 、カマドは確認できず、また位置を推定する焼土などの存在も見られなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は住居址の中央および北東隅から出土しているが、図示できたのは土師器皿のみであった。皿は器体部下半にヘラ削りを施すものである。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は161・174・175・196号住居址であり、新旧関係は161・174・175・188号住居址(新)→196号住居址(古)であった。このうち196と188号住居址の間にはそれほど時間差は認められないようである。

○ 189住居址 (第142・468図)

520+65N₁、520+55N₁、520+55N₃、520+65N₃のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.5m、南北 4.15mを測る。住居の中央を東西方向に、水道管の埋設溝が走る。主軸方向は N - 8° - Wを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 3~cm、西壁 3~cm、南壁 7.5cm、北壁 6.5cmを測る程度にすぎない。カマドは北壁の中央よりわずかに西壁側に寄った位置に設置されている。袖部が石組の形態と考えられるが、残存する袖石は左右に一個ずつあった。袖石間は 40~cmほどを測る。なおカマド付近に 40~cmほどの長細い石が見られ、あるいは天井部を構築した石材かとも考えられる。焼土が厚さ 10~cmほどに認められる。

遺物は少なく、図示できたのは細片から図をおこした土師器甕ないし鉢のみである。平安時 代前半と考えられる。

重複遺構は181号住居址であり、新旧関係は一応181号住居址(新)→189号住居址(古)と考えられるが明確でない。

○ 190号住居址 (第143・468図)

520+75N₄、520+70N₄、520+70N₅、520+75N₅のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの南東コーナー付近がわずかに確認できたにすぎず、北側に大きく未 掘部分を残す。

遺物も少なく、土師器坏、皿などが図示できたにすぎない。坏、皿ともに器体部下半にヘラ

削りを施すものである。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は191号住居址であり、新旧関係は190号住居址(新)→191号住居址(古)であった。

○ 191号住居址(第143・468図)

 $520+75N_3$ 、 $520+65N_3$ 、 $520+65N_5$ 、 $520+75N_5$ のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランが確認できたにすぎない。平面は長方形を呈する。規模は東西 4.4m、南北 5.1mを測る。長軸方向はN - 5 $^{\circ}$ - Eを指す。

壁はほとんど確認できなかった。カマドも確認できず、その位置を推定できるような焼土なども見られなかった。

柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、土師器城、甕などがある。甕は西壁際から出土している。古墳時代後期後半 と考えられる。

重複遺構は152・190・193号住居址であり、新旧関係は152号住居址 (新)→190・193→191号 住居址 (古)であった。

〇 193号住居址(第143·469図)

520+75N₃、520+70N₃、520+70N₅、520+75N₅のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭が確認できたにすぎない。平面は方形を呈する。規模は東西 3.25m、南北 3.25mを測る。長軸方向は $N-30^{\circ}-W$ を指す。

カマドは確認されず、またその位置を推定できる焼土なども見られなかった。遺物は細片が少量出土したのみである。土師器甕などがある。この甕は口縁部が薄い作りである。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は147・150・191号住居址であり、新旧関係は147・150号住居址(新)→193→191号 住居址(古)であった。

○ 194号住居址(第144・469図)

520+55N₂、520+50N₂、520+50N₄、520+55N₄のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭とカマドの一部が確認されたにすぎない。平面は長方形を呈する。規模は東西 2.95m、南北 3.7mを測る。南部に浅い溝状の遺構が見られ、不明瞭な部分が多い。主軸方向は $N-15^{\circ}-E$ を指す。

カマドは北壁の西壁近くに設置されている。袖石と考えられる礫がわずかに残存する。また 焼土混入土が厚さ 10cm前後に見られる。柱穴などは不明であった。

遺物は少量出土したにすぎない。土師器坏、甕それに置カマドなどがある。坏はカマド内より出土しており、器体部下半にヘラ削りを施すものである。置カマドは上縁の破片であった。 平安時代前半と考えられる。

重複遺構は195号住居址である。新旧関係は遺構の切合い関係から直接その関係を知ることは

できないが、遺物からすれば194号住居址(新)→195号住居址(古)となる。

○ 195号住居址(第144 • 469図)

520+60N₂、520+50N₂、520+50N₄、520+60N₄のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの一部が確認されたにすぎない。平面の形態は不明である。東壁と北壁の一部が確認されているが、その長さは現状で東壁 3 m、北壁 2 mを測る。

壁の確認された壁高は西壁 5 cm、北壁 5.5cmと悪い。カマドは確認されず、その設置場所を推定できるような焼土なども見られなかった。

床は平坦に作られているようである。柱穴などは不明である。

遺物は少量であった。土師器皿がある。器体部下半を回転へラ削りするものである。平安時 代前半と考えられる。

重複遺構は194号住居址であり、新旧関係は194号住居址(新)→195号住居址(古)であった。

○ 196号住居址(第145 • 469図)

520+50 S₃、520+45 S₃、520+45 S₁、520+50 S₁のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 2.6m、南北 2.95mを測る。主軸方向は $S-17^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 6.5cm、西壁 4.5cm、南壁 6.cm、北壁 5.5cmを測る。カマドは南壁の中央より東壁側に寄った位置に設置されている。カマドの形態は不明である。焼土混入土が幅 85cm、長さ 50cm、厚さ 15cmほどに見られる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド周辺から少量出土した。土師器坏、皿、甕などがある。坏、皿は器体部下半にへ ラ削りを施すものである。カマド内より出土した甕は器壁が非常に薄く、口縁部が尖形を呈す るものである。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は188号住居址であり、新旧関係は188号住居址(新)→196号住居址(古)であった。

○ 197号住居址(第146 • 470図)

520+35N₆、520+30N₆、520+30N₇、520+35N₇のグリッドに位置する。

本住居址はカマドの位置が確認されたにすぎず、平面プランや規模は全く不明である。ただカマドの焼土の堆積状況や遺物の出土状况などから、カマドが北壁に設置されていたことを確認できる。

カマドは袖部に $2\sim3$ 個の礫を組合せる形態と考えられ、左右袖石間は 30cmほどを測る。しかし左袖の入口部の袖石は小型のもので、袖石としてはやや貧弱さを受ける。焼土が厚さ 5cmほどに堆積しているのが認められる。カマドの主軸方向は $N-14^\circ-E$ を指す。

遺物はカマド内と正面付近から出土したものであり、土師器坏、甕、鉢、砥石などがある。坏は器体部下半にへラ削りを施すもののみである。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は198号住居址が考えられる。新旧関係は遺構の切合い関係から直接確認できなかった。遺物から見れば198号住居址(新)→197号住居址(古)となる。

○ 198号住居址(第146 • 147 • 471図)

 $520+35N_5$ 、 $520+30N_5$ 、 $520+30N_7$ 、 $520+35N_7$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。しかし北東および南西コーナー付近が明確でない。規模は東西 2.9m、南北 2.85mを測る。主軸方向は $N-36^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 15cm、南壁 30cm、北壁 24cmを測る。カマドは東壁と南壁のコーナーに位置する。袖部が石組の形態をとるものである。袖部の最も奥の左右の袖石に礫が渡された状況が見られ、天井部を構築したものと考えられる。なお、袖石に用いた礫はいずれも部厚く、かつ偏平なものでない。焼土は6cm前後の堆積が認められる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド内などから出土したが、少量であった。土師器高台付坏、甕などである。高台付坏は器体部にへう削りを全く施さないものである。甕の中にはヘラ削り状の調整をもち、かつ胎土が比較的硬いものが見られる。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は197号住居址であり、新旧関係は198号住居址(新)→197号住居址(古)である。

○ 199号住居址(第146・147図)

 $520+30N_5$ 、 $520+25N_5$ 、 $520+25N_7$ 、 $520+30N_7$ のグリッドに位置する。

本住居址はカマドが発見されたにすぎない。しかしカマドは東壁に設置されたことを、焼土などの堆積から確認できた。

カマドは袖部を石組する形態で、3個の石を組合せている。左右袖石間は38cmほどを測る。 主軸方向は $S-11^{\circ}-E$ を測る。焼土が8cm前後に堆積している状況を確認できた。

遺物はカマド内およびその正面あたりから出土した。土師器坏、蓋坏、甕、羽釜および置カマドなどが見られる。しかしほとんどが細片であり図示できたものはなかった。坏は器体部下半にヘラ削りを施し、内面に暗文をもつものが主体を占める。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は22・24号住居址である。新旧関係は本住居址の平面プランが全く不明であり、遺構の切合いから確認できなかった。遺物から見れば22号住居址(新)→199→24号住居址(古)となる。

○ 200号住居址(第148・471図)

519+75N₃、519+65N₃、519+65N₅、519+75N₅のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.75m、南北 3.25mを測る。主軸方向は $N-23^{\circ}-E$ を指す。

壁の検出状況は悪く、確認できた壁高は東壁 3 cm、西壁 4 cm、北壁 3 cmを測り、南壁は輪郭のみであった。カマドは北壁の中央よりわずかに西壁寄りの位置に設置されている。しかし、

わずかに焼土、カーボンなどが確認できたにすぎず、構造は不明である。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はごく少量で、かつ細片であり土師器甕が図示できたにすぎない。このほか坏の細片も 見られた。奈良時代ころと考えられる。

重複遺構は住居址西側に遺構らしいプランが認められた。しかし住居址と確定するまでには 至らなかった。

○ 201号住居址(第148図)

 $519+65N_3$ 、 $519+60N_3$ 、 $519+60N_5$ 、 $519+65N_5$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈するものと考えられるが、南側が明確とならなかった。規模は東西 2.25m を 測り、南北は現状で 2.25m を測る。

壁は検出状況が悪く、確認された壁高は東壁 4.5cm、西壁 6 cm、北壁 8 cmを測るにすぎない。 カマドは確認されず、その設置された位置を推定できるような焼土、カーボンなどの存在も認 められなかった。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はごくわずかで、しかも細片であった。土師器坏などがある。坏は口縁部形態が玉縁の ものであり、平安時代中ころと考えられる。

重複遺構は確認できなかった。

○ 202号住居址(第149 • 471図)

519+70N4、519+60N4、519+60N5、519+70N5のグリッドに位置する。

平面は東壁が西壁にくらべて短く、矩形を呈する。規模は中央で東西 2.75m、南北 2.65mを測る。主軸方向は $N-35^{\circ}-E$ を指す。

壁は検出状況が悪く、確認された壁高は東壁 5 cm、西壁 3 cm、南壁 3 cm、北壁 6 cmを測るにすぎない。カマドは確認できなかったが、北壁の東壁近くに焼土が認められ、カマドの設置位置ではないかと考えられる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、かつ細片が多い。土師器坏、鉢、甕などがある。坏、甕はいずれも古墳時代後期~奈良時代に属するものと考えられる。鉢は混入品と思われる。

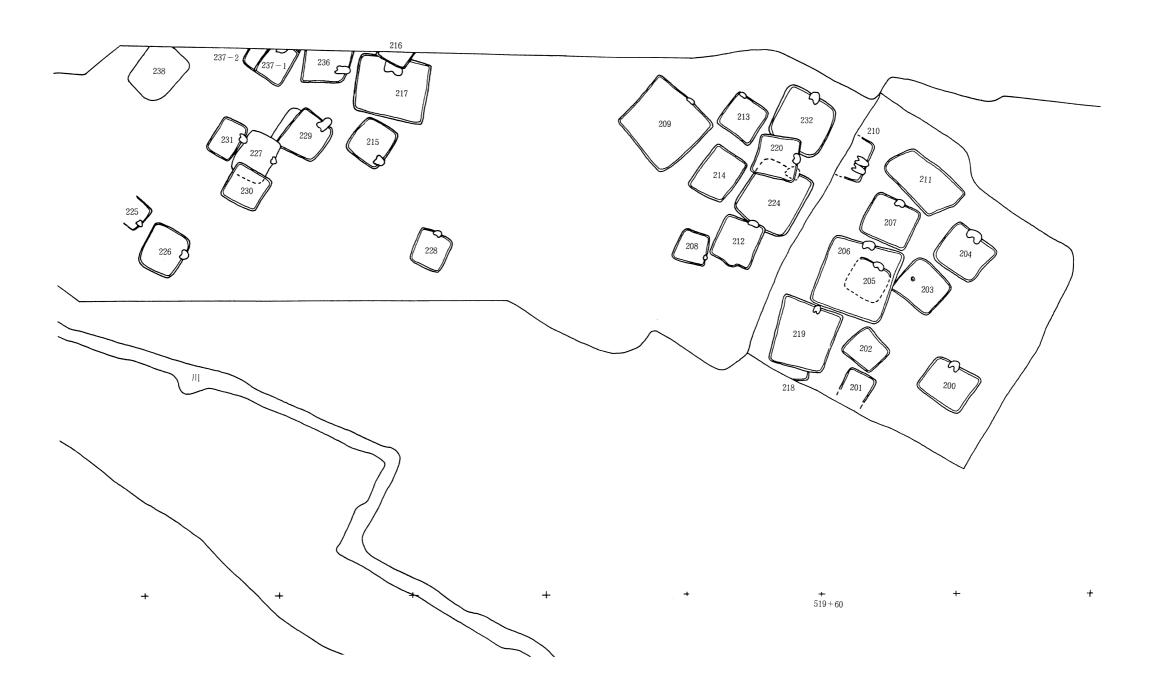
重複遺構は見られない。

○ 203号住居址(第149・472図)

 $519+70N_5$ 、 $519+65N_5$ 、 $519+65N_6$ 、 $519+70N_6$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.53m、南北 3.35mを測る。北西コーナー付近に桃を植えつけるための撹乱土城がある。長軸方向は $N-111^\circ-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 11cm、西壁 5 cm、南壁 11cm、北壁 12.5cmを測る。カマド



第6図 遺構配置図(3)

は確認できなかったが、西壁中央近くに焼土が認められ、カマドの設置されていた可能性が考えられる。

床は住居址の中央が周囲に比べ、わずかに高くなっている。柱穴などは確認できなかった。 遺物は細片が多く、土師器坏、城、甕などが見られる。坏は半球形に近いもの、稜をわずかに もつものなどがある。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は206号住居址であり、新旧関係は203号住居址(新)→206号住居址(古)であった。

○ **204号住居址** (第150 • 472図)

 $519+75N_5$ 、 $519+65N_5$ 、 $519+65N_7$ 、 $519+75N_7$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.55m、南北 3.47mを測る。カマドの東側と、北西コーナー付近にピットが見られる。いずれも桃の植付用の穴である。主軸方向は $N-25^\circ-E$ を指す。

壁の検出状況は悪く、確認された壁高は東壁 5 cm、西壁 4.5cm、南壁 4 cm、北壁 4 cmを測るにすぎない。カマドは北壁のほぼ中央あたりに設置されているが、焼土、カーボンなどがわずかに検出されたにすぎず、構造は不明である。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器坏、甕などが見られる。坏は底が大きな盤状を呈するものである。奈良時代と 考えられる。

重複遺構は見られない。

○ 205号住居址(第151・473図)

519+70N5、519+60N5、519+60N6、519+70N6のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.2m、南北 3.47mを測る。主軸方向は $N-9^\circ-E$ を指す。 壁の検出状況は悪く、確認された壁高は東壁 7cm、西壁 5cm、南壁 4cm、北壁 7cmを測るにすぎない。カマドは北壁の中央よりわずかに東壁寄りの位置に設置されている。しかし構造は袖部に石を用いたものか否か明確にならなかった。焼土ブロックが数ケ所に認められる。

床はほぼ平坦に作られている。カマド付近は掘りすぎのためカマドが浮いたような状況を呈 している。

遺物は少ない。土師器坏、甕などがある。坏は器体部下半にヘラ削りを施するもので、かつ 内面に暗文が見られる。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は206号住居址で、新旧関係は205号住居址(新)→206号住居址(古)であった。

○ 206号住居址(第152 · 473~475図)

519+70N₅、519+55N₅、519+55N₇、519+70N₇のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 5.55m、南北 5.65mを測る。主軸方向はN-7°-Eを指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 13.5cm、西壁 8cm、南壁 6cm、北壁 18.5cmを測る。カマドは北壁のほぼ中央に設置されている。袖部の正面にのみ袖石を設置する形態であり、袖石より 奥の袖部は粘土で作られたと考えられ、一部にレンガ化した箇所が認められる。この左右袖石間は 40cmほどを測る。焼土が上下二段に渡って認められる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド周辺に集中が見られ、また東壁近くに細長い長さ10cm前後の礫が多数存在していた。土師器坏、塊、高坏、甕などがある。坏は稜をもつのに限られ、塊、高坏などには丹塗りのものが見られる。甕は4個体ほど見られ、長胴甕が主体を占める。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は203・205号住居址であり、新旧関係は205号住居址(新)→203→206号住居址(古)であった。

○ 207号住居址(第153 • 476 • 477図)

519+70N6、519+60N6、519+60N7、519+70N7のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.82m、南北 3.5mを測る。主軸方向は $N-13^\circ-E$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 4.5cm、西壁 7.5cm、南壁 6.cm、北壁 6.cmを測る。カマドは 北壁のほぼ中央に設置されている。袖部の正面にのみ袖石を設置する形態である。袖石間は 37.cmほどを測る。焼土が厚さ 5.cmほどに堆積しているのが認められた。なおカマドの中央付近に 小型甕が、底を上に向けて立てられたような状況で検出された。あるいは支脚かとも考えられる。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。なお北西のコーナー付近に粘土塊が存在していた。

遺物はカマドを中心にほぼ全面から出土した。土師器坏、城、鉢、高坏、甕などがある。坏は 稜をもつものに限られる。甕は長胴甕を主体としている。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は見られない。

○ 208号住居址(第154・478図)

 $519+55N_5$ 、 $519+45N_5$ 、 $519+45N_7$ 、 $519+55N_7$ のグリッドに位置する。

平面は北壁が南壁に比べ短く、矩形を呈する。規模は中央で東西 2.25m、南北 2.55mを測る。 主軸方向は $N-90^{\circ}-E$ を指す。

壁の検出状況は悪く、確認できた壁高はほとんど3cm以下を測るにすぎない。カマドは東壁の中央よりやや南壁側に寄った位置に設置されている。しかし、焼土混入土が厚さ10cm前後に堆積しているのが確認されたのみで、構造は不明である。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はごく少なく、土師器甕が図示できたにすぎない。甕は口縁部が広く、胴部にヘラ削りないしハケメを施したものである。奈良時代と考えられる。

重複遺構は見られない。

○ **209号住居址** (第155 • 478 • 479図)

519+55N₇、519+45N₇、519+45N₉、519+55N₉のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 5.45m、南北 5.1mを測る。主軸方向は $N-36^{\circ}-E$ を指す。 壁の検出状況は悪く、確認された壁高は東壁 3.5cm、西壁 3.cm、北壁 6.5cmを測るにすぎない。 カマドは北壁の中央よりわずかに東壁寄りの位置に設置されている。しかし焼土がわずかに確 認されたにすぎず、構造は不明である。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド周辺から集中して出土した。土師器坏、城、鉢、甕、甑、須恵器蓋坏などがある。 坏は半球形のものと、稜をもつものとが見られ、このうち後者が主体を占める。甑と考えられ るものは底部を失しており明確でない。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は見られない。

○ 210号住居址(第156 • 157 • 480~482図)

 $519+65N_7$ 、 $519+60N_7$ 、 $519+60N_8$ 、 $519+65N_8$ のグリッドに位置する。

平面は方形ないし長方形を呈すると考えられるが、西部が削平されており明確とならない。 規模は南北 3.35m を測り、東西は現状で 2.5m を測る。主軸方向は $N-105^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 12.5cm、南壁 18.5cm、北壁 11.5cmを測る。カマドは東壁の中央よりわずかに南壁側に寄った位置に設置されている。このカマドは 2 連のカマドと考えられるものであった。両カマドとも同一時期に構築され同時に使用されたが、まず東側のカマドが使用されなくなった時点で、西側のカマドの右袖より東側のカマドの正面に壁が構築され、西側のカマドのみが使用されたものと考えられる。このカマドの袖部はいずれも石組される形態である。この袖石間は西側のカマドが 38cm、東側が 42cmほどを測る。焼土ないし焼土混入土が両者から認められたが、このうち西側の焼土が東側の焼土の上部に覆いかぶさっていた。また西側カマドの中央付近に支柱と考えられる板状の石が据えられていた。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は西側のカマド内と、東側カマドの脇付近から集中して出土した。なお東側のカマド内からの出土はわずかであった。土師器坏、皿、甕、羽釜、鉢、置カマド、灰袖陶器塊などがある。 坏、皿は器体部下半にへき削りを施すもののみで占められている。置カマドは細片であった。 平安時代中ころと考えられる。

重複遺構はない。

○ 211号住居址(第158 • 483図)

519+75N6、519+65N6、519+65N8、519+75N8のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの西壁、それに北壁、南壁の輪郭の一部が確認されたにすぎず、検出 状況は極めて悪く、形態を確定することはできなかった。北西コーナー付近、および南壁付近 の2ヶ所から焼土と炭化材が検出された。 遺物は2ヶ所の焼土内などからわずかに出土した。土師器坏、鉢、甕、甑などであるが細片が多い。坏は半球形を呈するものであるが、口縁部は内傾する。甕は球胴形のもの、口縁に横走のハケメをもつものが見られる。古墳時代中期~後期初めと考えられる。

重複遺構はない。

○ 212号住居址(第159・484図)

 $519+60N_5$ 、 $519+50N_5$ 、 $519+50N_7$ 、 $519+60N_7$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.25m、南北 3.25mを測る。主軸方向は $N-11^{\circ}-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 10cm、西壁 5.5cm、南壁 4.5cm、北壁 7.5cmを測る。カマドは北壁の中央よりやや東壁側に寄った位置に設置されている。袖石は全く見られなかった。しかし抜き取られた様な状況が断面に観察され、袖部が石組の形態と考えられる。焼土ないし焼土混入土が 10cm前後の厚さで堆積しており、この幅は 65cmほどを測る。カマドの中心には柱状の石が据えられており、支柱と考えられる。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドを中心に出土し、土師器坏、甕などであった。坏は器体部下半にヘラ削りを施 すものである。甕は器壁の薄い長胴甕である。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は224号住居址であり、新旧関係は212号住居址(新)→224号住居址(古)であった。

○ 213号住居址(第160 · 484図)

519+60N₇、519+50N₇、519+50N₉、519+60N₉のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.05 m、南北 3 mを測る。主軸方向は N - 25° - Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 13cm、西壁 8.5cm、南壁 6cm、北壁 11cmを測る。カマドは北壁の西壁際に設置されている。袖石などは確認できなかった。焼土混入土が 10cm前後に認められ、その幅は 45cmほどを測る。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド周辺を中心に全面から出土したが、量は多くない。土師器坏、高坏などである。 坏は半球形を呈し、底が平底に近い形態を呈するもので占められる。古墳時代中期~後期前半 と考えられる。

重複遺構は北側に何らかの遺構が存在したようであるが明確にできなかった。

○ 214号住居址(第161 • 485図)

519+55N₆、519+50N₆、519+50N₈、519+55N₈のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 2.97m、南北 3.8mほどを測る。主軸方向は $N-110^\circ-E$ を指す。

壁の検出状況は悪く、確認された壁高は北壁の3cmが最高であり、平面プランが確認できた程度と言える。カマドは東壁の北壁際に設置されているが、焼土などが確認されたにすぎず、

構造は不明である。

床は若干起伏が見られる。柱穴などは確認できなかった。

遺物は細片で、しかも少量であった。土師器甕、甑の底部である。甕は球胴形を呈するもので、古墳時代後期ころと考えられるが、確定することはできない。

重複遺構は見られない。

○ 215号住居址(第162 · 485~487図)

519+30N7、519+20N7、519+20N9、519+30N9のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.05m、南北 3.1mを測る。主軸方向は $N-104^{\circ}-E$ を指す。 壁の検出状況は悪く、確認された壁高は西壁が 13cmを測るほかはいずれも 3.5cm未満を測るにすぎない。カマドは東壁の南壁際に設置されている。袖部を石組する形態である。 袖石間は 35cmほどを測る。焼土混入土が 10cmほどに堆積しているのが認められる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド周辺を中心に分布が見られた。土師器坏、皿、甕、土錘などがある。坏、皿は器 体部下半にヘラ削りを施すものがほとんどを占める。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は見られなかった。

○ 216号住居址(第163 · 487図)

517+30N₈、517+25N₈、517+25N₉、517+30N₉のグリッドに位置する。

平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられるが、北側に大きく未掘部分を残す。規模は東西 2.85 mを測り、南北は現状で 1.7 mを測る。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 5.5cm、西壁 15cm、南壁 4cmを測る。カマドは確認できず設置位置、構造は不明である。また現在確認できた壁に、カマドの位置を推定できるような焼土なども見られなかった。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、細片も多かった。土師器坏、甕などがある。坏は身の深い盤状形を呈し、みこみに暗文を施すものである。甕は口縁が短く、かつ肥厚する形態である。奈良時代と考えられ、る。

重複遺構は217号住居址であり、新旧関係は本住居址が217号住居址を切り込んで構築されていることから216号住居址(新)→217号住居址(古)となる。

○ 217号住居址(第163 · 488図)

517+35N₈、517+25N₈、517+25N₉、517+35N₉のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 5.5m、南北 4.75mを測る。主軸方向は N-4°-Wを指す。

壁の検出状況はそれほど良好でなく、確認された壁高は東壁 7 cm、西壁 4 cm、南壁 2.5cm、北

壁 6 cmを測る。カマドは北壁のほぼ中央に設置されているが、216号住居址によって削平されたためか、カマドの前面に見られるような焼土などがわずかに確認されたにすぎない。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドの正面あたりと考えられる付近に集中が見られた。土師器坏、埦、高坏、甕、ミニュチアの甑、甕、滑石製臼玉、砥石などが見られる。坏は偏平な半球形を呈するものである。 甕は長胴形が多いようである。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は216号住居址であり、新旧関係は216号住居址(新)→217号住居址(古)であった。

○ 218号住居址(第164 • 489図)

519+60N₄、519+55N₄、519+55N₅、519+60N₅のグリッドに位置する。

平面は方形ないし長方形を呈すると考えられるが、西側は全く不明である。また東壁、北壁の輪郭もそれほど明確にできなかった。規模は南北が4.5mを測り、東西は3.2m以上と考えられる。主軸方向は $N-98^{\circ}-E$ を指す。

壁の検出状況は極めて悪く、ほとんどの部分で壁の輪郭が確認できた程度といえる。カマドは東壁のほぼ中央付近に設置されていた。しかし焼土などが厚さ 10cm、幅 55cm ほどに認められる以外、構造は明確にできない。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、かつ細片が多い。土師器高坏、鉢、甕などがある。古墳時代後期ころと考えられる。

重複遺構は219号住居址である。新旧関係は明確に捉らえきれなかったが、床面などからすれば218号住居址(新)→219号住居址(古)と考えられる。遺物は両住居址とも細片であり、比較できなかった。

○ 219号住居址(第164 · 489図)

519+65N₄、519+55N₄、519+55N₆、519+65N₆のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 4.4m、南北 4.75mを測る。主軸方向はN-8°-Eを指す。壁の検出状況はそれほど良好ではない。確認された壁高は東壁 3~cm、西壁 5.5cm、南壁 4.5cm、北壁 11.5cmを測る。カマドは北壁のほぼ中央に設置されている。しかし焼土混入土が厚さ 15cmほどに確認されたにすぎず、構造は不明である。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴は確認できなかった。

遺物は少なく細片が多い。土師器甕が図示できたにすぎない。古墳時代後期と考えられる。 重複遺構は218号住居址で、新旧関係は218号住居址(新)→219号住居址(古)と捉えたが、 明確でない。

○ 220号住居址(第165 · 489図)

519+60N₇、519+55N₇、519+55N₈、519+60N₈のグリッドに位置する。

平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられるが、南壁は224号住居址との切合い関係が明確に捉えられなかったため確定できない。規模は東西 3.25m を測る。主軸方向は $N-90^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 10.5cm、西壁 9cm、南壁 9cm、北壁 20cmである。カマドは東壁のほぼ中央付近に設置されたものと考えられる。しかし焼土混入土が厚さ 10cm 前後、幅 60cm ほどに認められる以外、構造は明確にならなかった。なお、カマドが掘過ぎのため浮いた状況になってしまった。また224号住居址のカマドの支柱と考えられる石が南側に見えることから、この支柱の北側に本住居址の南壁が作られたとする方が実状にあう。したがって本住居址の南北の規模は3m ほどを測ることになる。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、土師器坏、甕が図示できたにすぎない。坏は器体部に全くへラ削りを施さないものである。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は224・232号住居址であり、新旧関係は220号住居址(新)→224・232号住居址(古)であった。

○ 224号住居址(第166 • 490図)

 $519+60N_6$ 、 $519+50N_6$ 、 $519+50N_8$ 、 $519+60N_8$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 4.75m、南北 4.65mを測る。主軸方向は $N-12^{\circ}-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 6.5cm、西壁 4cm、南壁 12.5cm、北壁 20.5cmを測る。

カマドは北壁のほぼ中央に設置されている。

袖部は袖石を正面にのみ設置するものであり、この袖石間は 60cm ほどを測る。焼土ブロックないし焼土混入土は上下に 2 段に認められる。なお支柱と考えられる柱状の石が220号の住居址南壁付近で確認された。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドの前面付近に集中していた。土師器坏、鉢、塊、甕、甑、土玉などがある。坏は 半球形のものと稜をもつものとの2形態が見られ、中に丹塗りするものもある。甑は把が1個 の小型のものと、取っ手の形態は不明であるが大型の2形態が見られる。甕は長胴甕が主体と 見られる。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は212・220号住居址である。

新旧関係は212・220号住居址(新)→224号住居址(古)であった。

○ 225号住居址(第167 • 491図)

 $519+10N_6$ 、 $519+05N_6$ 、 $519+05N_7$ 、 $519+10N_7$ のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭と、カマドの位置が確認されたにすぎない。平面は方形ないし長方形を呈すると考えられるが、西壁側は不明である。規模は南北 2.3mを測り、東西は現状で 1.7mを測る。主軸方向は $N-95^{\circ}-E$ を指す。

壁の検出状況は極めて悪く、ほとんど壁高を確認することはできなかった。カマドも確認できなかったが、東壁の中央より南壁に寄った位置に焼土が認められ、カマドの設置場所と考えられる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴は確認できなかった。

遺物は少量であった。土師器坏、須恵器坏とがある。土師器坏は箱形に近く、器体部下半に へう削り、外面に波状のへう磨き、内面およびみこみ部に暗文を施す。須恵器は底をへう削り と、静止糸切り未調整の2形態が見られる。奈良時代末~平安時代初めころと考えられる。

重複遺構は見られない。

○ 226号住居址(第167 • 491図)

 $519+15N_5$ 、 $519+05N_5$ 、 $519+05N_7$ 、 $519+15N_7$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.3m、南北 3.35mを測る。主軸方向は $N-98^{\circ}-E$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 20.5cm、西壁 23cm、南壁 19cm、北壁 14.5cmであった。カマドは東壁の中央よりわずかに北壁側に寄った位置に設置されている。しかし焼土を少量混入した土が厚さ 15cm、幅 65cmほどに堆積しているのが確認できるのみで、構造は明確とならない。床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はごく少量であった。土師器坏を図示できたにすぎない。坏は底の広い箱形を呈するものである。底を静止糸切り後へラ削り、内面およびみこみに不鮮明であるが暗文の施されているのを確認できる。奈良時代末~平安時代初めころと考えられる。

重複遺構はない。

○ 227号住居址(第168 • 492図)

519+20N7、519+15N7、519+15N8、519+20N8のグリッドに位置する。

本住居址は平面の輪郭およびカマドの位置が確認されたにすぎない。平面は長方形を呈する。 規模は東西 2.6m、南北 3.57mを測る。主軸方向は $N-105^{\circ}-E$ を指す。

壁の検出状況は悪く、壁高を確認できたところはない。カマドは東壁の中央よりやや北壁側に寄った位置に設置されている。しかし、焼土混入土などの堆積が認められたにすぎず、構造は不明である。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は北壁側に集中して確認された。土師器坏、鉢、甕、須恵器坏などがある。土師器坏は半球形状で底が平底に近い形態である。甕は球胴甕である。須恵器坏は口縁が長く直立し、かつ口唇部が丸く作られる形態である。受部の稜は短い。胎土はセピア色を呈する。古墳時代中期後半~後期初めと考えられる。

重複遺構は229・230号住居址であり、新旧関係は229号住居址(新)→227号住居址(古)であった。230号住居址とは明確に新旧を確認できなかった。

○ 228号住居址(第169・493図)

519+35N5、519+25N5、519+25N7、519+35N7のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭とカマドが確認されたにすぎない。平面は長方形を呈する。規模は東西 2.4m、南北 3.25mを測る。主軸方向はN-1°-Eを指す。

壁の検出状況は極めて悪く、壁高の確認された部分はない。カマドは北壁の中央に設置されている。袖部を石組する形態であるが、右袖部が残存するにすぎない。右袖部から 25cmほど内側に柱状の石が据えられているが、これは左袖部の石組の一部と見るより、支柱と考えられるものである。焼土を少量混入した土が 15cm前後に堆積しているのが認められる。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、細片であった。土師器高台付坏、羽釜などがある。平安時代後半と考えられる。

重複遺構はない。

○ 229号住居址(第170・493図)

519+25N7、519+15N7、519+15N9、519+25N9のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.25m、南北 3.35mを測る。主軸方向は $N-24^\circ-E$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 5~cm、西壁 5.5cm、南壁 7.5cm、北壁 9~cmを測る。カマドは北壁の中央より東壁側に寄った位置に設置されている。焼土ブロックが厚さ 5~cm前後に確認されたが、構造は不明である。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド内などから主に出土した。土師器坏、甕、鉢などである。坏は器体部下半をへ ラ削りする形態、甕、鉢は器壁が薄い形態である。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は227号住居址で、新旧関係は229号住居址(新)→227号住居址(古)であった。

○ 230号住居址(第171・494図)

519+20N6、519+15N6、519+15N8、519+20N8のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.05m、南北 3mを測る。長軸方向は $N-110^{\circ}-E$ を指す。 壁の検出状況はそれほど良くなく、確認された壁高は東壁 5cm、西壁 6cm、南壁 6.5cm、北壁 4.5cmを測るにすぎない。カマドは確認できず、またカマドの位置を推定できる焼土なども確認できなかった。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少ない。土師器甕がある。古墳時代中~後期と考えられる。

重複遺構は227号住居址であるが、新旧を明確にできなかった。

○ 231号住居址(第171・494図)

519+20N7、519+10N7、519+10N9、519+20N9のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 2.05m、南北 3mを測る。住居の中央を東壁から西壁に向かって撹乱の溝が走っている。主軸方向は $N-109^{\circ}-E$ を指す。

壁の検出状況は悪く、確認された壁高は東壁 5 cm、西壁 5.5cm、南壁 5 cm、北壁 4 cmを測るにすぎない。カマドは東壁の北壁際に設置されている。しかし焼土ブロック混入土が厚さ 5 cm、幅 35cmほど認められるのみで、構造は不明である。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、細片である。土師器高坏の脚の一部と土玉とが図示できたにすぎない。古墳 時代中~後期と考えられる。

重複遺構は見られない。

○ 232号住居址 (第172・494図)

519+65N7、519+55N7、519+55N9、519+65N9のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 4m、南北 4.3mを測る。主軸方向は $N-10^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 9 cm、西壁 6 cm、南壁 11.5cm、北壁 7 cmを測る。カマドは北壁中央よりわずかに西壁側に寄った位置に設置されている。しかし焼土と袖部などを構築したと考えられる礫がいくつか乱雑に残存していたにすぎず、構造は明確にならなかった。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は各壁際に多く存在し、土師器坏、高台付坏、皿、滑石製勾玉などがある。坏は器体部下半にへう削りを施し、内面に暗文を施すものも見られる。皿は器体部下半を回転へう削りするものが主体である。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は220号住居址であり、新旧閣系は220号住居址(新)→232号住居址(古)であった。

○ 236号住居址(第172 • 495図)

519+30N₈、519+20N₈、519+20N₉、519+30N₉のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈するものと考えられるが、北壁側に未掘部分を残す。規模は東西 2.7m を測り、南北は現状で 3m を測る。主軸方向は $N-90^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 21cm、西壁 17cm、南壁 3cmを測る。カマドは東壁の中央より南壁側に寄った位置に設置されている。焼土ブロック混入土が厚さ 10cm、幅 65cmほどに認められるのみで、構造は明確にならない。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、細片であった。土師器城が図示できたにすぎない。古墳時代後期後半ころと 考えられる。

重複遺構はない。

○ **237** - **1** 号住居址(第173 • 495 • 496図)

519+25N₈、519+15N₈、519+15N₉、519+25N₉のグリッドに位置する。

本住居址は最初1軒と考えていたが、資料整理の段階で遺物の様相が東側と西側で違うことが分かり2軒に分括し、東側を237-1号、西側を237-2号住居址としたものである。

平面は長方形を呈するものと考えられる。規模は東西 2.3m、南北 3.15mほどと考えられる。 主軸方向は $N-29^{\circ}-E$ を指す。

壁の検出状況は悪く、特に西壁と北壁は全く分からない。カマドは北壁の中央より西壁側に寄った位置に設置されたものと考えられる。焼土混入土が厚さ 20cm、幅 60cm ほどに堆積している。構造は明確にならないが、焼土混入土の中に柱状に石が据わっており、支脚とも考えられる。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドおよび西壁周辺に集中していた。土師器坏、蓋坏、甕、須恵器坏などがある。土 師器坏は内面に暗文を施す。甕は器壁の薄い長胴甕である。須恵器坏は回転糸切り未調整であ る。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は237-2号住居址であり、新旧関係は237-1号住居址(新)→237-2号住居址(古)である。

○ 237 - 2号住居址(第173・497図)

519+25N8、519+15N8、519+15N9、519+25N9のグリッドに位置する。

本住居址は237-1号住居址の西側に存在していたものである。平面の形態、規模は全く不明である。

遺物は土師器坏、甕、甑などである。坏は稜をもつものが主体と考えられる。甑は取っ手の取付けられた大型品である。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は237-1号住居址であり、新旧関係は237-1号住居址(新)→237-2号住居址(古)である。

○ 238号住居址(第174・498図)

519+15Ng、519+05Ng、519+05Ng、519+15Ngのグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.3m、南北 4.5m を測る。なお北西コーナー付近に未掘部分が残る。長軸方向はN-28°-Eを指す。

壁の検出状況は悪く、確認された壁高は東壁 19cm、西壁 7 cm、南壁 3.5cm、北壁 3 cmを測るにすぎない。カマドは確認されず、またカマドないし炉を推定できるような焼土などは現状では認められなかった。

床は若干起伏があるようであった。柱穴などは確認できなかった。

遺物は住居の北側に多かった。土師器坏、高坏、甕、甑などがある。高坏は受部外面に稜をもち、脚がラッパ状に裾広がりの長脚の形態で、中に小孔を穿つものも見られる。甑は小型の鉢形である。古墳時代中期と考えられる。

重複遺構はない。

○ 239号住居址(第174 · 499 · 500図)

519+15S₃、519+05S₃、519+05S₁、519+15S₁のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 4.3m、南北 3.95mを測る。主軸方向は N - 8° - E を指す。

壁の検出状況は極めて悪い。確認された壁高は西壁が 6 cmを測るにすぎず、住居の北側半分は平面プランの輪郭が確認されたにすぎない。カマドは確認できなかったが、北壁の西壁近くに薄く焼土が認められ、カマドを設置した場所と考えられる。

床はゆるやかな起伏が見られる。柱穴などは確認できなかった。

遺物は南壁側に多く見られた。土師器坏、皿、甕、羽釜、灰釉陶器城、長頸壺などがある。坏、皿は器体部下半にヘラ削りを施したものに限られる。坏の中の大型品には内面が黒色のものも見られる。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は住居址にはない。7号溝と重複するが、本住居址が7号溝の上に構築されている。

○ 240号住居址(第175·501図)

519+10S₅、519+00S₅、519+00S₃、519+10S₃のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 5.55m、南北 5.8mを測る。主軸方向は $N-30^{\circ}-E$ を指す。壁の検出状況は悪く、確認された壁高は東壁 6cm、南壁 10cmを測る。他の壁は輪郭を確認できるにすぎなかった。カマドは北壁の中央に設置されている。焼土混入土が厚さ 10cm、幅 85cmほどに認められた以外、付近に小礫が見られたものの構造を確認することはできなかった。

床は起伏が認められ、中央付近で高まるようである。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、細片が多い。土師器坏、城、鉢、甕それに円筒形土器などがある。坏は偏平な 半球形を呈する。また坏、城はいづれも内外面とも黒色を呈する。古墳時代後期後半と考えら れる。

重複遺構はない。

○ 241号住居址(第176 • 502図)

519+05S3、518+95S3、518+95S1、519+05S1のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.8m、南北 3.2mを測る。主軸方向は $N-90^{\circ}-E$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 6.5cm、南壁 8cm、北壁 7cmを測る。カマドは北壁と東壁とのコーナーに設置されている。焼土が 10cm前後に認められたにすぎず、構造は明らかでない。床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少ない。土師器坏、皿、甕などがある。坏、皿は器体部下半にヘラ削りを施すものと施 さないものとの2形態が見られ、前者がやや多いようである。甕は口縁の厚い形態である。平 安時代中ころと考えられる。

重複遺構はない。



第7図 遺構配置図(4)

○ **242号住居址** (第177 • 502図)

519+00 S₅、518+95 S₅、518+95 S₃、519+00 S₃のグリッドに位置する。

平面はやや不整形であるが方形を呈する。規模は東西 3.7m、南北 3.8mを測る。主軸方向は $N-70^{\circ}-E$ を指す。

壁の検出状況は悪く、確認できた壁高は東壁 5.5cm、西壁 3.5cm、南壁 7.5cm、北壁 5 cmを測る。カマドは東壁のほぼ中央に設置されているが、焼土がわずかに確認できる程度で、構造は明確でない。

床は緩やかな起伏が見られる。柱穴などは確認できなかった。なお、カマドの正面付近に直径 1m、深さ 35cmほどの土城が見られる。その埋土中にカーボンが含まれている。本住居址を埋めた最下層の下に見られ、本住居址に関係するものと考えられる。

遺物は少量であった。土師器坏、高坏などがある。坏は稜を持つ形態である。古墳時代後期 前半と考えられる。

重複遺構はない。

○ **243号住居址** (第177 · 502図)

519+00S2、518+90S2、518+90N1、519+00N1のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 2.95m、南北 3.8mを測る。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 4cm、西壁 6cm、南壁 9cmを測る。北壁は輪郭が確認されたにすぎない。カマドは確認できず、その位置を推定できるような焼土なども認められなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少量であった。土師器坏、皿などがある。坏、皿とも器体部下半にヘラ削りを施すものである。平安時代前半と考えられる。

重複遺構はない。

○ **244号住居址** (第178 • 503 • 504図)

519+00S₃、518+85S₃、518+85S₁、519+00S₁のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 4.5m、南北 4.7mを測る。主軸方向はN - 4° - Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 10cm、西壁 5 cm、南壁 4 cm、北壁 9 cmを測る。カマドは北壁の中央よりわずかに東壁側に寄った位置に設置されている。袖部の正面のみに袖石を据え、それから奥を粘土で構築する形態で、袖石より住居の外側に向かって間隔をせばめてレンガ化した厚さ 1 cmほどの壁が認められる。袖石間は 45cmほどを測る。焼土は厚さ 3 cm前後の堆積が認められる。

床は南壁から北壁に向かって緩やかに低くなる。直径 45cm前後の柱穴が 4 本確認された。深さはそれぞれ P_1-30cm 、 $P_2-28.5cm$ 、 $P_3-31.5cm$ 、 P_4-32cm ほどを測る。

遺物はカマド北東コーナー付近から比較的まとまって出土した。土師器坏、城、鉢、甕、円筒

形土器、土製支脚、須恵器坏などがある。土師器坏は偏平な半球形のものと稜をもつものとの 2 形態があり、後者が主体的である。甕は長胴甕である。古墳時代後期後半と考えられる。 重複遺構はない。

○ 245号住居址(第179 · 505図)

518+95 S₄、518+90 S₄、518+90 S₂、518+95 S₂のグリッドに位置する。

平面は矩形を呈する。規模は中央で東西 4.65m、南北 4.7mを測る。主軸方向は N-0°-Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 11.5cm、西壁 8.5cm、南壁 5.5cm、北壁 4 cmを測る。 カマドは確認できなかったが、北壁の中央付近に焼土が認められ、カマドの設置された位置と 考えられる。

床は南壁から北壁に向かって緩やかに傾斜している。東壁の中央付近に直径 55cm、深さ 13.5 cmのピットが認められる。このピットは位置からすれば柱穴とは考えられず、土器類などが落込んでいる状況からすれば貯蔵穴と考えられる。

遺物はそれほど多くない。東壁中央付近の貯蔵穴内からはまとまって出土した。土師器坏、 甕などがある。坏は稜をもつ形態に限られるようである。甕は長胴甕である。古墳時代後期前 半と考えられる。

重複遺構はない。

○ 246号住居址 (第180 • 506~509図)

518+85 S₆、518+75 S₆、518+75 S₃、518+85 S₃のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 4.75m、南北 4.35mを測る。主軸方向は $N-45^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 23cm、西壁 5cm、南壁 18cm、北壁 14.5cmを測る。カマドは北壁のほぼ中央付近に設置されている。焼土混入土が厚さ 10cm、幅 55cmほどに堆積している。しかし、カマドの構造は明確にならなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドの正面付近に多く見られた。土師器坏、城、鉢、高坏、甕、須恵器甕などがある。 坏は半球形のものと稜をもつものとの2形態が見られ、後者が主体を占める。甕は6個体ほど あり、長胴甕を主体とする。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構はない。

○ 247号住居址(第181・510図)

518+95 S₂、518+85 S₂、518+85 N₁、518+95 N₁のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.2m、南北 5.45mを測る。長軸方向は N -0° - E を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 8 cm、西壁 7 cm、南壁 5.5cm、北壁 10cmを測る。カマドは確認されなかった。西壁の中央より北壁側に寄った位置に、わずかであるが焼土が認められた。あるいはカマドの設置された位置とも考えられる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、細片が多い。土師器坏、皿、甕、円筒形土器、用途不明鉄製品などがある。坏、 皿は器体部下半にへう削りを施するもので占められる。甕は口縁部が肥厚するものである。平 安時代前半と考えられる。

重複遺構はない。

○ 250号住居址(第182図)

518+55N₂、518+45N₂、518+45N₃、518+55N₃のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭とカマドの位置が確認できたにすぎない。平面は長方形を呈する。規模は東西 3.35m、南北 1.85mを測る。

カマドは北東コーナーに設置されている。焼土ブロックが認められる以外、構造などは不明である。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少量で、しかも細片であった。平安時代と考えられる。

重複遺構は251号住居址であり、新旧関係は切合い関係から250号住居址(新)→251号住居址(古)である。

○ **251号住居址** (第182 • 510図)

518+50N₂、518+45N₂、518+45N₃、518+50N₃のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.67m、南北 2.85mを測る。長軸方向はN-9°-Eを指す。壁の検出状況は悪く、確認された壁高は東壁 4cm、西壁 6cm、南壁 4cm、北壁 6.5cmを測るにすぎない。カマドは確認できず、位置を推定できるような焼土も認められなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は北西コーナー付近からまとまって出土したが、量は多くない。土師器坏、甕などがある。坏は盤状形ないし箱形を呈するものと考えられる。甕はやや球胴形を呈する。奈良時代と考えられる。

重複遺構は250号住居址であり、新旧関係は250号住居址(新)→251号住居址(古)であった。

○ 252号住居址(第183・511図)

518+80S2、518+70S2、518+70S1、518+80S1のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.55m、南北 3.25mを測る。主軸方向は N -9 $^{\circ}$ - E を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 15.5cm、西壁 15.5cm、南壁 18.5cm、北壁 16.5cmを測る。カ

マドは北壁のほぼ中央に設置されている。袖部を石組する形態と考えられるが、残存状況は良くない。袖石間は55cmほどを測る。焼土混入土が15cmほどに堆積している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、細片が多い。土師器坏、城、甕などがある。坏は半球形を呈する。甕は長胴甕を主体とするものと考えられる。古墳時代後期後半ころと考えられる。

重複遺構は259号住居址であり、新旧関係は252号住居址(新)→259号住居址(古)である。

○ 253号住居址(第184·512~514図)

518+55 S₁、518+45 S₁、518+45 N₁、518+55 N₁のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西、南北ともに 4.45mを測る。主軸方向は $N-0^\circ-E$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 34.5cm、西壁 12.5cm、南壁 22.5cm、北壁 14.5cmを測り、比較的良好な状況で検出された。カマドは北壁のほぼ中央に設置されている。袖部の正面にのみ袖石を据える形態である。この袖石間は 37cmほどを測る。厚さ 2cm前後の焼土ブロックが認められる。

床は住居の中央に向かって低く作られている。柱穴と考えられるピットが 4 本確認された。深さは $P_1-18.5cm$ 、 P_2-27cm 、 P_3-18cm 、 $P_4-31.5cm$ ほどを測る。

遺物は住居の東半分ほどに多く見られた。また北東コーナーからは轡が出土した。土師器坏、 城、鉢、甕、甑などがある。坏は偏平な半球形を呈するものと、稜をもつものとの2形態が見ら れ、その比率は半々であった。甕は長胴甕が主体を占め、中に高台付のものも存在するようで ある。甑には把手が棒状のものと環状のものとの2形態が見られる。轡は立聞部に鉸具の取付 られた形態である。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は256・257・264・272号住居址であり、新旧関係は253号住居址 (新)→256・257・264・272号住居址 (古)であった。

○ **254号住居址** (第185 • 515図)

518+50 S₃、518+40 S₃、518+40 S₁、518+50 S₁のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.7m、南北 2.5mを測る。主軸方向は $N-13^{\circ}-E$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 15.5cm、西壁 23cm、南壁 5.cm、北壁 20.5cmを測る。カマドは北壁の中央よりわずかに東壁側に寄った位置に設置されている。袖部が石組される形態であり、左右の袖石間は 40cmほどを測る。焼土混入土が厚さ 20cm前後に堆積している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは明確にできなかった。

遺物は破片が多く、古墳時代と奈良時代との時期のものが混在しているようである。このうちカマド内から出土した坏は器体部下半をヘラ削りするものであり、奈良時代と考えられる。この他にも幾つか奈良時代ではないかと考えられる遺物がみられることから、本住居址は奈良時代を中心とする時期のものと考えられる。

重複遺構は255号住居址であり、新旧関係は255号住居址(新)→254号住居址(古)であった。

○ 255号住居址(第185 • 516図)

518+45S₃、518+40S₃、518+40S₂、518+45S₂のグリッドに位置する。

本住居址は254号住居址と重複し、しかも遺物の様相からすれば新しい時期の構築であったにもかかわらず重複部の北側部分の輪郭を明確に捉らえきれなかった。平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられる。規模は東西2mを測り、南北は確認できた部分で1.1mを測る。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 8 cm、西壁 15cm、南壁 13.5cmを測る。カマドは東壁の南壁際ないし南東コーナーに設置されている。袖部の袖石と考えられる立石が 1 個見られる以外、厚さ 5 cmほどに焼土をわずかに含む堆積土が認められたにすぎない。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく細片が多い。土師器坏、甕などがある。坏は器体部下半にヘラ削りを施すもののみである。なお内面に暗文は見られない。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は254号住居址であり、新旧関係は255号住居址(新)→254号住居址(古)であった。

○ 256号住居址(第186·516~518図)

518+60 S₁、518+50 S₁、518+50 N₂、518+60 N₂のグリッドに位置する。

本住居址の平面プランは、一部に輪郭のみ確認されたところも見られる。平面は方形を呈し、 規模は東西、南北ともに 4.95cmを測る。主軸方向はN-4°-Wを指す。

壁の検出状況は悪く、確認できた壁高は西壁 5 cm、北壁 5 cmを測るにすぎない。カマドは北壁のほぼ中央に設置されている。カマドの用材かと考えられる礫がわずかに知られるのみで、 構造は明確にならない。焼土が厚さ 5 cmほどに見られる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴と考えられるピットが 4 ケ所確認できた。深さは P_1-31 cm、 P_2-30cm 、 $P_3-33.5cm$ 、 P_4-31cm ほどを測る。

遺物は多く、ほぼ全面に見られた。土師器坏、高坏、埦、甕、円筒形土器、須恵器蓋坏、坏な どがある。

土師器坏は偏平な半球形のもの、半球形で底が平底のもの、稜をもつものの3形態が見られる。このうち底が平底のものには糸切りかと考えられる痕跡が見られる。甕は長胴甕が主体と考えられる。須恵器蓋坏はいずれも口径の小さい形態である。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は253・258・272号住居址であり、新旧関係は253号住居址(新) \rightarrow 256 \rightarrow 258・272号住居址(古)である。なお253と256号住居址との間にはそれほど時間的隔たりはないものと考えられる。

○ **257号住居址** (第187 • 519 • 520図)

518+50 S₁、518+40 S₁、518+40 N₂、518+50 N₂のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 4.7m、南北 4.8mを測る。主軸方向は $N-20^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 12cm、西壁 14cm、南壁 5.5cm、北壁 9cmを測る。カマドは北壁のほぼ中央に設置されている。袖部の正面にのみ袖石を設置するものである。この左右の

袖石間は37cmほどを測る。またこの袖石より奥の壁に向かってレンガ化した焼土が壁状に認められる。このほか厚さ5cm前後の焼土の堆積が見られる。

床は平坦に作られている。柱穴と考えられるピットが 4 ケ所確認された。このピットは直径 3 $0\sim50$ cm ほどで、深さ P_1-47 cm、 P_2-53 cm、 $P_3-32.5$ cm、 $P_4-39.5$ cm ほどを測る。

遺物はカマド付近を中心にして分布していた。土師器坏、高坏、甕、甑、手揑土器、須恵器腺などがある。坏は稜をもつ形態をとり、甕は長胴甕が主体を占める。甑は把手のつかないもののようである。なお手揑土器が多い。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は253・264・273・276号住居址であり、新旧関係は253・264号住居址(新)→257→273・276号住居址(古)であった。

○ 258号住居址(第188 • 521図)

518+55 S₂、518+50 S₂、518+50 N₁、518+55 N₁のグリッドに位置する。

本住居址は南壁の一部が確認された以外は、平面プランの輪郭を推定できた程度にすぎない。 平面は方形ないし長方形をとるものと思われる。規模は南北が7 m ほどを測る。確認できた壁 高は南壁が18cmほどであった。

遺物は少ない。土師器坏、甕などがある。坏は稜をもつ形態であり、丹塗りのものも見られる。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は256・272号住居址である。新旧関係は256号住居址(新)→258号住居址(古)である。なお272号住居址との直接的関係は明確でない。遺物からすれば258号住居址が後出といえる。

○ 259号住居址(第189・522図)

518+55S3、518+45S3、518+45S1、518+55S1のグリッドに位置する。

本住居址は西側の一部が明確にできなかった。平面は長方形と考えられる。規模は南北 5.55 mを測り、東西は 4.6m 前後と考えられる。主軸方向は $N-85^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 20cm、南壁 13.5cm、北壁 13cmを測る。カマドは東壁の中央よりわずかに北壁側に寄った位置に設置されている。袖部の正面のみに袖石を据えるものと考えられるが、残存状況は悪い。厚さ 3 cmほどの焼土ブロックが認められる。

床は平坦に作られている。柱穴などは明確にできなかった。

遺物は少ない。土師器坏、鉢、甕、甑、須恵器甕などがある。坏は半球形で口縁部で外反する 形態である。甕は球胴甕である。甑は鉢形の小型品である。須恵器甕は口縁部の直下に稜をも つ形態をとる。古墳時代中期と考えられる。

重複遺構は252号住居址であり、新旧関係は252号住居址(新)→259号住居址(古)であった。

○ 260号住居址(第190 • 522図)

518+40 S₁、518+35 S₁、518+35 N₂、518+40 N₂のグリッドに位置する。

本住居址平面プランの輪郭とカマドの位置が確認されたにすぎない。平面は南壁が北壁に比

べて短く、矩形を呈する。規模は中央で東西 2.9m、南北 2.5mを測る。主軸方向は N -20° - W を指す。

壁は検出状況が極めて悪く、壁高の確認できた壁はない。カマドは北壁の中央に設置されているが、焼土がわずかに認められる程度で、構造は明確でない。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少ない。土師器皿が図示できたにすぎない。器体部下半にヘラ削りを施さないもので、かつ底が回転糸切り未調整である。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は261 • 275号住居址である。新旧関係は260号住居址(新)→261→275号住居址(古)であった。

○ **261号住居址** (第190 • 523図)

518+45 S₁、518+35 S₁、518+35 N₁、518+45 N₁のグリッドに位置する。

本住居址の平面プランは東壁を除いて、輪郭が確認された程度にすぎない。平面は長方形を呈する。規模は東西 3.55m、南北 2.47mを測る。主軸方向はN-112°-Eを指す。

壁は東壁が確認された程度で、その壁高は 11.5cmを測る。カマドは東壁の中央よりわずかに南壁側に寄った位置に設置されている。袖部を石組する形態であり、左右の袖石間は 45cmを測る。厚さ 4 cm ほどに焼土ブロックの堆積が見られる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドの正面付近にまとまって見られたが、細片が多い。土師器坏、甕などがある。 坏は大きな平底で盤状形を呈している。奈良時代と考えられる。

重複遺構は260・269・275号住居址であり、新旧関係は260号住居址 (新)→261→269・275号住居址 (古)であった。

○ 262号住居址(第191 • 523 • 524図)

518+35 S 2、518+30 S 2、518+30 S 1、518+35 S 1のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.1m、南北 3 mを測る。主軸方向は N-105°-Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 10.5cm、西壁 5cm、南壁 9cm、北壁 6cmを測る。カマドは東壁の南壁近くに設置されている。袖部が石組される形態であり、左右袖右間は 45cmほどを測る。また一部の袖石はカマドの内面と外面とを粘土で覆っている状態が認められた。焼土は顕著に見られなかったが、焼土を少量含め堆積土は厚く認められた。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は比較的多く、全面に渡って認められた。土師器坏、皿、甕、灰釉陶器塊などがある。坏、皿は器体部下半にへう削りを施すものと施さないものとの2形態が見られ、その比率は半々位であった。平安時代中ころと考えられる。

重複遺構は263・277号住居址であり、新旧関係は262号住居址(新)→263・277号住居址(古)であった。なお263号住居址との間にはそれほどの時間的開きはない。

○ 263号住居址(第192·524図)

518+35 S₃、518+30 S₃、518+30 S₁、518+35 S₁のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.25m、南北 3.2mを測る。主軸方向は $N-99^\circ-E$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 15cm、西壁 8cm、南壁 6cm、北壁 15cmを測る。カマドは東壁の中央よりやや南壁側に寄った位置に設置されている。袖部が石組の形態をとるものであり、左右袖石間は 40cmほどを測る。焼土がブロック状に厚さ 6cmほどに認められる。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少ない。土師器坏、蓋坏などがある。坏は器体部下半をヘラ削りし、内面に暗文を施するものも見られる。坏、蓋坏には墨書が認められるが、判読不明である。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は262 • 270号住居址であり、新旧関係は262 • 270号住居址(新)→263号住居址(古)であった。

○ **264号住居址** (第193 • 525図)

518+50S1、518+40S1、518+40N1、518+50N1のグリッドに位置する。

本住居址は北壁側の一部が確認されたにすぎない。平面は方形ないし長方形と考えられる。 主軸方向は $N-37^{\circ}-E$ を指す。

壁の検出状況は悪く、確認できた壁高は西壁、北壁ともに 4 cmを測るにすぎない。カマドは 北壁の中央よりやや西壁側に寄った位置に設置されている。しかし焼土ブロック混入土が厚さ 1 0cm前後に認められる以外、構造を明らかにできない。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドを中心に分布が見られた。土師器坏、鉢、甕、須恵器蓋坏、甕などがある。坏は 半球形のものと稜をもつものとの2形態が見られ、このうち後者が主体を占める。また丹塗り されたものも見られる。甕は長胴甕である。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は253・257・267・269・273・276号住居址であり、新旧関係は253・267・269号住居址 (新)→264→257・273・276号住居址(古)であった。

○ 265号住居址(第194 • 526図)

518+35 S₁、518+25 S₁、518+25 N₂、518+35 N₂のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.8m、南北 2.7mを測る。主軸方向はN-140°-Eを指す。 壁は比較的良好な状況で検出された。外傾し、確認された壁高は東壁 21cm、西壁 33cm、南壁 21cm、北壁 22cmほどを測る。カマドは東壁の中央よりわずかに南壁側に寄った位置に設置され ている。袖部が石組される形態であり、さらに上部に小型の石を積んでいる。左右袖石間は 25 cmほどを測る。奥壁側には天井石と考えられる平石がさし渡されている。焼土混入土が厚さ 15 cm前後に認められる。

床はほぼ平坦に造られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドを中心に分布していた。土師器坏、甕、灰紬陶器塊などがある。坏は器体部下半にヘラ削りが全く施されず、底が回転糸切り未調整のものである。甕は口縁の短い球胴形を 呈する。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は277号住居址であり、新旧関係は265号住居址(新)→277号住居址(古)であった。

○ **266号住居址** (第195 • 527 • 528図)

518+30 S₃、518+25 S₃、518+25 S₂、518+30 S₂のグリッドに位置する。

本住居址は礫層中に構築されたものと考えられる。しかし平面プランの輪郭とカマドが確認されたにすぎない。平面は方形を呈する。なお、南東コーナー付近に水道管埋設溝が走り未掘となっている。規模は東西 2.5m、南北 2.65mを測る。主軸方向は $N-132^{\circ}-E$ を指す。

カマドは東壁の中央より北壁側に寄った位置に設置されている。袖部が石組の形態のもので、 左右袖石間は35cmほどを測る。焼土混入土が厚さ10cmほどに堆積する。

床は本住居址が礫層中に構築されていたため、小さな凸凹が認められた。柱穴などは確認で きなかった。

遺物はカマドを中心に全面に認められた。土師器坏、高台付坏、皿、鉢、灰紬陶器塊などがある。坏、皿などは器体部下半にヘラ削りが全く施されず、底が回転糸切り未調整のものがほとんどを占める。平安時代中ころと考えられる。

重複遺構はない。

○ 267号住居址(第196 • 529図)

518+50S2、518+40S2、518+40N1、518+50N1のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.1m、南北 2.8mを測る。主軸方向は $N-11^\circ-E$ を指す。壁の検出状況は極めて悪く、いずれの壁も 2.5cm未満で、平面プランの輪郭が確認された程度といえる。カマドは北壁のほぼ中央に設置されているが、焼土などがわずかに認められた程度で、構造は明らかにならなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、かつ細片であった。土師器甕、須恵器高台付坏などがある。奈良時代と考え、られる。

重複遺構は264・269・271号住居址であり、新旧関係は267号住居址 (新)→264・269・271号 住居址 (古)であった。

○ **268号住居址** (第196 • 529~531図)

518+40S2、518+35S2、518+35N1、518+40N1のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭とカマドの位置がわずかに確認できたにすぎない。平面は方形を呈するものと考えられ、東西、南北とも 2.9mほどの規模を推定できる。主軸方向は $N-12^\circ-E$ を指す。

カマドは北壁の中央よりやや東壁側に寄った位置に設置されている。袖部を石組する形態で 左右袖石間は47cmほどを測る。

遺物は少ない。土師器坏、甕、置カマドなどがある。坏は器体部下半にヘラ削り、内面に暗文を施すものである。甕は薄い口縁部形態をとる。置カマドはカマド内より発見された。甕と同様に胎土が薄い作りである。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は262 • 277号住居址であり、新旧関係は262号住居址(新)→268→277号住居址(古)であった。

○ 269号住居址(第197 • 532図)

518+45 S₂、518+35 S₂、518+35 N₁、518+45 N₁のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 4.35m、南北 4.3mを測る。主軸方向は $N-35^{\circ}-W$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 12.5cm、西壁 19cm、南壁 6cm、北壁 12cmを測る。カマドは北壁のほぼ中央に設置されている。残存状況が悪く、構造は明確にならなかった。しかし袖部と考えられるレンガ化した壁が帯状に左右に認められた。焼土ブロックなどが厚さ 10cm前後に堆積していた。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴と考えられるピットが 4 ケ所確認された。いずれも直径 50cm 前後で、深さは $P_1-37.5cm$ 、 $P_2-24.5cm$ 、 P_3-30cm 、 P_4-24cm を測る。なお P_4 の脇に直径 30cm、深さ 25cmの小ピットが存在する。

遺物は少ない。土師器坏、城、鉢、甕、須恵器蓋坏、坏それに土玉などがある。土師器坏は半球形のものと、稜をもつものとの2形態が見られ、その比率は半々であった。須恵器坏は口径が小さい。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は261・267・264・271・273・274・276号住居址である。新旧関係は261・267号住居址(新)→269→264・271・273・274・276号住居址(古)であった。

○ 270号住居址 (第198・533図)

518+40 S₄、518+30 S₄、518+30 S₁、518+40 S₁のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 5.05m、南北 5.15mを測る。主軸方向は N -105° - Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 15.5cm、西壁 8 cm、南壁 6 cm、北壁 13.5cmを測る。カマドは東壁のほぼ中央に位置する。袖部が石組の形態で、左右袖石間は 40 cm 前後を測る。焼土混入土が厚さ 10 cm 前後に堆積している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド周辺を中心にして見られた。土師器坏、皿、甕、羽釜などがある。坏、皿は器体部にへラ削りを施すものと施さないものとの2形態が見られるものの、後者は287-2号住居址との切合いから、287-2号住居址に帰属するものと考えられる。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は263・254・287-2号住居址であり、新旧関係は287-2号住居址(新)→270→263・

254号住居址(古)であった。

○ 271号住居址(第199 · 534図)

518+45S₂、518+40S₂、518+40S₁、518+45S₁のグリッドに位置する。

本住居址は北側部分を他住居によって大きく切られている。平面は隅丸方形ないし隅丸長方 形を呈するものと考えられる。規模は東西 4.2m、南北は確認できる部分で 3.1mを測る。

壁の検出状況は悪く、確認できた壁高は東壁 3 cm、西壁 5 cm、南壁 10 cmを測る。カマドは確認できたいずれの壁にも見られず、北側部分の壁に設置されているものと考えられる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少ない。土師器高坏、甕、須恵器蓋坏、坏、高坏など見られるが須恵器坏は混入品と考えられる。甕は球胴形態を呈する。蓋坏は稜をもち、かつ口唇部に爪搔痕を有する。古墳時代 後期前半と考えられる。

重複遺構は267・269号住居址であり、新旧関係は267・269号住居址(新)→271号住居址(古)であった。

○ 272号住居址 (第199 • 535図)

518+65 S 2、518+50 S 2、518+50 N 2、518+65 N 2のグリッドに位置する。

本住居址は南北方向の中央付近に水道管が埋設されており未掘部分となった。このため西側部分についてはやや不明確なものである。平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられる。 規模は南北 5.1 mを測る。東西は明確にならなかった。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 8 cm、南壁 7 cm、北壁 13 cmを測る。カマドは不明である。 床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器坏、甕、小玉などがある。坏は半球形で口縁部が外反する形態である。甕は球 胴形をとる。古墳時代中期と考えられる。

重複遺構は256・258号住居址である。新旧関係は256・258号住居址(新)→272号住居址(古)であった。

○ 273号住居址(第200 · 536図)

518+45S1、518+40S1、518+40N2、518+45N2のグリッドに位置する。

本住居址は住居の北東コーナー付近がごくわずか確認できたにすぎず、平面の形態、規模などは全く分からない。

確認された部分から土師器坏、高坏が出土した。高坏は脚部に長方形の透し孔を3ケ所穿ったものである。古墳時代中~後期と考えられる。

重複遺構は257・264・269・275号住居址である。新旧関係は257・264・269・275号住居址(新) →273号住居址(古)であった。

275号住居址(第201 • 536 • 537図)

518+45 S₁、518+35 S₁、518+35 N₂、518+45 N₂のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西、南北ともに 2.55m を測る。主軸方向は $N-21^{\circ}-W$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 6~cm、西壁 7.5cm、北壁 8~cm を測る。なお南壁は明確に検出できなかった。カマドは北壁のほぼ中央に位置する。袖部の正面にのみ袖石を据える形態である。この袖石間は 40cmほどを測る。焼土混入土が厚さ 15cmほどに堆積している。

床は中央に向かいわずかに低まっている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドおよび北西コーナー付近に集中してみられた。土師器坏、鉢、城、甕、須恵器蓋坏、碌などがある。坏は稜をもつもののみであった。甕は球胴甕と長胴甕とが見られる。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は260 • 261 • 276号住居址であり、新旧関係は260 • 261号住居址 (新)→275→276号住居址 (古)であった。

○ 276号住居址(第201 • 538図)

518+45N₁、518+40N₁、518+40N₂、518+45N₂のグリッドに位置する。

本住居址は北西コーナー付近の輪郭が確認されたにすぎない。規模は現状で西壁が 2.1m、北壁が 2.4mを測る。

壁はほとんど確認できなかった。カマドは不明である。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少ない。土師器高坏、埦などがある。古墳時代中期と考えられる。

重複遺構は257・264・269・273・275号住居址である。新旧関係は257・264・269・273・275号住居址(新)→276号住居址(古)であった。

○ 277号住居址(第202 • 538~541図)

518+40S2、518+25S2、518+25N2、518+40N2のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 6.5m、南北 6.45mを測る。主軸方向は $N-22^\circ-W$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 17cm、西壁 12cm、南壁 15cm、北壁 15cmを測る。カマドは北壁の中央よりやや東壁側に寄った位置に設置されていた。袖部の正面にのみ袖石を据える形態である。この袖石間は 35cmほどを測り、この間に円筒形土器がさし渡される様な状況で発見された。また袖石から奥に向かってレンガ化した焼土が帯状に認められ、袖部の壁と考えられる。焼土混入土が厚さ 25cmほどに堆積している。

床は中央に向かってわずかに低まって作られている。柱穴と考えられるピットが 3 ケ所確認された。いずれも直径 45cm前後で、深さは P_1-37cm 、 P_2-51cm 、 P_3-43cm ほどを測る。

遺物はカマドを中心にしてほぼ全面に見られた。土師器坏、高坏、城、鉢、甕、円筒形土器、 須恵器坏などがある。土師器坏は半球形と稜をもつものとの2形態があり、後者がほとんどで ある。坏には丹塗りされたものが見られる。甕は長胴甕がほとんどである。古墳時代後期前半 と考えられる。

重複遺構は262・265・268号住居址であり、新旧関係は262・265・268号住居址 (新)→277号 住居址 (古)であった。

○ 278号住居址(第203 • 542 • 543図)

518+45N₂、518+30N₂、518+30N₄、518+45N₄のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 4.73m、南北 5.13mを測る。主軸方向は $N-10^{\circ}-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 5~cm、西壁 23cm、南壁 7~cm、北壁 4~cmを測る。カマドは 北壁の中央に設置されていたものと考えられる。しかし焼土がわずかに確認された程度にすぎない。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は坏、高坏、埦、鉢、甕、須恵器坏、石製紡錘車、滑石製勾玉などがある。甕はやや球胴形を呈するものと、長胴形の2形態が見られる。古墳時代後期後半ころと考えられる。

重複遺構はない。

○ 279号住居址 (第204 • 544図)

518+40S₅、518+30S₅、518+30S₃、518+40S₃のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西2.5m、南北2.97mを測る。主軸方向は $N-31^\circ-E$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁13cm、西壁7.5cm、南壁 9cm、北壁18cmを測る。カマドは北壁の中央よりやや西壁側に寄った位置に設置されている。袖部を石組する形態と考えられるが、残存状況は良くない。この袖石間は40cmほどを測る。焼土混入土が厚さ10cm前後に堆積している。

床はぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドの前面に集中してみられた。土師器坏、高台付坏、皿、甕、砥石などがある。坏、皿などは器体部にヘラ削りを施さないのを基本とする形態である。甕は外面にハケメがほとんど見られず、胎土のやや硬いものである。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は285・286号住居址であり、新旧関係は279号住居址(新)→285・286号住居址(古)であった。

○ 280号住居址 (第205 • 545図)

518+60N₂、518+50N₂、518+50N₃、518+60N₃のグリッドに位置する。

本住居址は床の一部とカマドの位置が確認されたにすぎない。

床は黄褐色土をつきかため、ほぼ平坦に作られていた。

カマドは床に接して焼土が認められ、カマドの位置と推定できたにすぎない。

遺物は少ない。土師器甕などがある。球胴甕と長胴甕とが見られる。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構はない。

○ 281号住居址(第206 • 546図)

518+45N₅、518+40N₅、518+40N₇、518+45N₇のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.7m、南北 2.65mを測る。主軸方向はN-115°-Eを指す。 壁は外傾し、確認された壁高は西壁 14cm、南壁 13.5cm、北壁 14cmを測る。東壁は輪郭のみ確認された。カマドは東壁の中央より北壁側に寄った位置に設置されている。袖部の正面にのみ袖石が見られるものの、石組の形態と考えられる。左右袖石間は 35cm ほどを測る。焼土混入土が厚さ 10cm前後に堆積している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド周辺に集中して見られた。土師器坏、皿、甕、羽釜、灰釉陶器皿などがある。土師器坏、皿は器体部下半にヘラ削りを施すもののみである。平安時代前半と考えられる。

重複遺構はない。

○ **282号住居址** (第207 • 546図)

518+45N2、518+40N2、518+40N4、518+45N4のグリッドに位置する。

平面は北壁が南壁に比べて短く、矩形を呈する。規模は中央で東西 3.15m、南北 2.95mを測る。主軸方向は $N-3^\circ-E$ を測る。

壁は検出状況は悪く、確認された壁高は東壁 6.5cm、西壁 4cm、南壁 4cmを測る。北壁は輪郭が確認された程度である。カマドは北壁のほぼ中央に設置されていたものと考えられる。わずかに焼土の分布が確認できた。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、土師器坏、甕などであった。坏はいずれも器体部下半にヘラ削り、内面に暗 文を施す形態である。甕は器壁の薄い形態をとる。平安時代前半と考えられる。

重複遺構はない。

○ **283号住居址** (第207 • 547 • 548図)

518+45 S 6、518+35 S 6、518+35 S 4、518+45 S 4のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 5.55m、南北 5.45mを測る。長軸方向は $N-91^{\circ}-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 57cm、西壁 17cm、南壁 16cm、北壁 22.5cmを測る。カマドは確認できなかった。

床はやや起伏が見られる。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器坏、高坏、鉢、甕などがある。坏は半球形と稜をもつものとの2形態が見られ、 後者が主体を占める。中に丹塗りの例もある。甕は大小で7固体ほどあり、長胴甕が主体を占 めている。古墳時代後期後半ころとみられる。

重複遺構は289号住居址である。新旧関係は283号住居址(新)→289号住居址(古)であった。

○ 284号住居址(第208 • 549図)

518+40 S₃、518+30 S₃、518+30 S₁、518+40 S₁のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.3m、南北 3.6mを測る。主軸方向は $N-90^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 17cm、西壁 17.5cm、南壁 6 cm、北壁 18cmを測る。カマドは東壁の中央より北壁側に寄った位置に設置されている。袖部を石組する形態であり、左右袖石間は 55cmほどを測る。焼土混入土が厚さ30cmほどに堆積している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは不明である。

遺物はカマドを中心に分布が見られた。土師器坏、皿、甕、大鉢などがある。坏は器体部下半をへう削り、内面に暗文をほどこすものに限られる。皿は器体部下半を回転へう削りする形態である。甕、大鉢などは器壁が薄く作られている。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は270号住居址であり、新旧関係は270号住居址(新)→284号住居址(古)であった。

○ 285号住居址(第209 • 550図)

518+35 S 5 、518+30 S 5 、518+30 S 3 、518+35 S 3 の グリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.45m、南北 3.35mを測る。長軸方向は N - 115° - Eを指す。

壁の検出状況は悪く、確認された壁高は東壁 7 cm、西壁 3.5 cm、南壁 4 cm、北壁 9 cmを測る。カマドは確認できず、また位置を推定できる焼土なども認められなかった。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、細片であった。土師器坏、高台付坏、甕などがある。坏は器体部下半にヘラ削りの施されない形態である。坏と甕との間に時間的な開きが認められる。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は279号住居址であり、新旧関係は279号住居址(新)→285号住居址(古)であった。

○ 286号住居址(第209・550図)

518+40 S₅、518+30 S₅、518+30 S₄、518+40 S₄のグリッドに位置する。

本住居址は西部を279号住居址によって切られている。平面は方形ないし長方形と考えられる。 規模は南北 2.27 m を測り、東西は現状で 1.37 m を測る。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 15cm、南壁 9cm、北壁 14cmを測る。カマドは検出された壁まわりからは確認できなかった。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく細片であった。土師器蓋、甕などが図示できたにすぎない。古墳時代後期ころと考えられる。

重複遺構は279号住居址であり、新旧関係は279号住居址(新)→286号住居址(古)であった。

○ **287-1号住居址**(第210·550図)

518+35 S 6、518+25 S 6、518+25 S 5、518+35 S 5のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.25m、南北 2.9mを測る。主軸方向は N - 7°- E を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 10cm、西壁 19cm、南壁 14.5cm、北壁 12.5cmほどを測る。カマドは北壁の中央より東壁側に寄った位置に作られている。焼土などがわずかに確認できたにすぎず、構造は不明である。

床は中央がやや低まっている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少ない。土師器皿などがある。器体部下半にヘラ削りを施さず、底が回転糸切り未調整の形態をとる。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は288号住居址である。新旧関係は287-1号住居址(新)→288号住居址(古)であった。

○ 287 - 2 号住居址(第211 • 551図)

518+35 S₄、518+25 S₄、518+25 S₂、518+35 S₂のグリッドに位置する。

本住居址は砂礫層中に構築されたものであり、その輪郭とカマドが明らかになったにすぎない。平面は方形を呈する。規模は東西 3.05m、南北 2.95mを測る。主軸方向は $N-112^\circ-E$ を指す。

壁の検出状況はきわめて悪く、壁高の確認できたものはない。カマドは東壁の中央よりやや南壁側に寄った位置に設置されている。袖部が石組される形態と考えられるが、残存状況は良くない。袖石間は50cmほどを測る。中に焼土混入土が厚く堆積している。

床が砂礫層の上にあるため黄褐色土を貼っているが、それでも小刻みの起伏を見せる。全体からすれば平坦といえる。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少ない。土師器坏、甕、羽釜などがある。坏は器体部下半にヘラ削りの見られない、底が回転糸切り未調整の形態をとる。甕は口縁部が肥厚する。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は266・270号住居址であり、新旧関係は266号住居址(新) \rightarrow 287-2 \rightarrow 270号住居址(古)であった。なお266号住居址との間にはそれほどの時間的差はない。

○ 288号住居址(第210・551図)

518+35 S 6、518+25 S 6、518+25 S 4、518+35 S 4のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西3.25m、南北3.15mを測る。主軸方向は $N-97^{\circ}-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 9cm、西壁 4.5cm、南壁 10cm、北壁 11cmを測る。カマドは東壁の中央よりわずかに北壁側に寄った位置に設置されている。焼土がわずかに認められる程度で、構造などは不明である。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、かつ細片であった。土師器坏、皿などがある。坏、皿は器体部下半にヘラ削り を施す形態のみで占められている。平安時代前半と考えられる。 重複遺構は287・289号住居址であり、新旧関係は287号住居址(新)→288→289号住居址(古)であった。

○ 289号住居址(第212 · 552 · 553図)

518+40 S₆、518+30 S₆、518+30 S₄、518+40 S₄のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 5.27m、南北 5.8mを測る。主軸方向は N-5° -E を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 13.5cm、西壁 11.5cm、南壁 25.5cm、北壁 7.5cmを測る。カマドは北壁の中央よりわずかに東壁側に寄った位置に設置されている。袖部の正面にのみ袖石を設置し、それより奥を粘土で構築するものである。左右袖石間は 50cmほどを測る。カマド内の焼土の量は少量であった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドを中心に認められた。土師器坏、高坏、甕、甑などがある。坏は稜をもつ形態のみであり、中に丹塗りのものが見られる。甕は長胴形のものが主体のようである。甑は小型で多孔のものである。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は283・288号住居址であり、新旧関係は288号住居址(新)→283→289号住居址(古)であった。

○ 290号住居址(第213·554図)

518+30 S₆、518+25 S₆、518+25 S₄、518+30 S₄のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.25m、南北 3.35mを測る。主軸方向は $N-25^\circ-E$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 11cm、西壁 9cm、南壁 11cm、北壁 12.5cmを測る。カマドは北壁の中央よりやや西壁側に寄った位置に設置されている。袖部が石組される形態である。左右袖石間は 55cmほどを測る。焼土混入土が厚さ 15cmほどに堆積している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド周辺に多く見られた。土師器坏、皿、灰紬陶器甕などがある。坏、皿は器体部下 半にへラ削りを施すもののみで、坏には内面に暗文の施されるものもみられる。平安時代前半 と考えられる。

重複遺構は南東側に何らかの遺構の存在を考えられたが、明確にできなかった。

○ **291号住居址** (第214 • 215 • 554図)

518+80S1、518+70S1、518+70S2、518+80S2のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.3m、南北 3.35mを測る。主軸方向は N-5°-Eを指す。壁の検出状況は悪く、確認された壁高は東壁 4cm、西壁 4cm、南壁 6cmを測るにすぎない。北壁は輪郭が確認できた程度である。カマドは北壁のほぼ中央に設置されたと思われるが、わずかに焼土などが確認されたのみで、構造は明らかでない。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少ない。土師器坏、高台付坏、甕、置カマド(?)、滑石製臼玉などがある。坏は器体部下半にへラ削りし、内面に暗文を施す例も見られる。甕は器壁の薄い形態である。置カマドは口縁部の破片であり、口縁部形態から推定したにすぎず、鉢とも考えれる形態である。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は292号住居址であり、新旧関係は291号住居址(新)→292号住居址(古)であった。

○ 292号住居址(第214 • 215 • 555図)

518+80 S₁、518+70 S₁、518+70 N₂、518+80 N₂のグリッドに位置する。

本住居址はその大半を291号住居址によって切られている。平面は長方形を呈する。規模は東西 3.45m、南北 4.05mを測る。主軸方向は N -5 $^{\circ}$ - E を指す。

壁の検出状況は悪く、確認できた壁高は東壁 6 cm、北壁 5 cmを測る。西、南壁は輪郭が確認できた程度である。カマドは北壁の中央より若干東壁側に寄った位置に設置されている。焼土混入土が厚さ 10cm前後に認められたが、袖部の構造は明確にならなかった。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少ない。土師器坏、皿、鉢、甕、鉄製刀子などがある。坏、皿は器体部下半にヘラ削りし、坏は内面に暗文を施す例が見られる。鉢、坏、皿と胎土、整形を同じくするものである。平 安時代前半と考えられる。

重複遺構は291・293号住居址であり、新旧関係は293号住居址(新)→291→292号住居址(古)である。なお291と292号住居址との関係は、接近した時期と考えられる。

○ 293号住居址(第214・556図)

518+80N₁、518+70N₁、518+70N₂、518+80N₂のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.05 m、南北 3.35 mを測る。長軸方向はN-18°-Eを指す。 壁の検出状況は極めて悪く、確認できた壁高は南壁の一部が 8.5 cmを測るにすぎず、他の壁は 輪郭が確認された程度である。なお南東コーナー付近は切合い関係が明確にできなかった。カ マドは確認できず、位置を推定できる焼土なども認められなかった。しかし、土器の出土状況 からすれば南東コーナー付近に可能性がある。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは明確にできなかった。

遺物は少ない。土師器坏、高台付坏、甕などがある。坏は器体部下半にヘラ削りを施すものである。内面には暗文が見られない。甕は口縁部の肥厚する形態である。平安時代前半ころと考えられる。

重複遺構は292号住居址であり、新旧関係は293号住居址(新)→292号住居址(古)であった。また291号住居址ともごく一部が重複するものと考えられる。その新旧関係は293号住居址(新)→291号住居址(古)といえる。

○ **294号住居址** (第216 • 217 • 556 • 557図)

518+80 S₃、518+65 S₃、518+65 N₁、518+80 N₁のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 6.55m、南北 6.7mを測る。主軸方向は $N-24^{\circ}-E$ を指す。

壁の検出状況は悪い。確認された壁高は東壁 5 cm、西壁 12.5 cm、南壁 8.5 cm、北壁はその輪郭が確認された程度である。カマドは北壁の中央よりわずかに東壁側に寄った位置に設置されている。袖部の正面にのみ袖石が据えられる形態で、それ以降の袖部を粘土で構築しており、粘土のブロック化した部分が認められる。左右袖石間は 55 cmほどを測るものと考えられる。中に焼土が 5 cm前後の厚さに堆積しているのが認められる。

床は黄褐色土を貼り、平坦に作られている。柱穴と考えられるピットが4ケ所確認された。 直径50cm前後であり、深さはいずれも50~65cmほどを測る。

遺物はカマドを中心に見られた。また長さ 10cm、直径 5 cm前後の細長い礫が多数確認された。 特に北西コーナー付近、南西コーナーから南壁の中央にかけての位置に集中が見られた。この 中で南壁中央付近のものは大きさが揃っているようである。

土師器坏、高坏、塊、甕、甑それにムシロ編石器と考えられるものなどである。坏は稜を持つ ものに限られており、中に丹塗りの例も見られる。甕は長胴甕のものが見られる。古墳時代後 期後半と考えられる。

重複遺構はない。

○ 295号住居址(第218·558図)

518+90 S 2、518+80 S 2、518+80 N 1、518+90 N 1のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.9m、南北 4.1mを測る。主軸方向は $N-1^\circ-W$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 12.5cm、西壁 18cm、南壁 11cm、北壁 6.5cmほどを測る。カマドは北壁のほぼ中央に設置されているが、焼土がわずかに確認されたにすぎず、構造は明確でない。

床は中央付近が低くなっているようである。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドを中心にして分布が見られた。また南壁側には長さ 10cm、直径 5 cm前後の長手の礫が集中して存在している。土師器坏、高坏、城、鉢、甕などがある。坏は半球形を呈する。 甕は球胴形を呈する。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は303号住居址であり、新旧関係は295号住居址(新)→303号住居址(古)であった。

○ 296号住居址(第219·559図)

518+85 S₁、518+75 S₁、518+75 N₁、518+85 N₁のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.8m、南北 2.9mを測る。主軸方向はN-8°-Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 12cm、西壁 4 cm、南壁 7 cm、北壁 6 cmを測る。カマドは北壁の中央から東壁側に寄った位置に設置されている。焼土が厚さ 5 cm前後に確認される以外、構造などを明らかに出来なかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド周辺に多く見られたが、細片である。土師器皿、甕、円筒形土器、灰紬陶器城などがある。皿は器体部下半を回転へラ削りする形態である。甕は茶褐色を呈するものである。 円筒形土器としたものは、通常の円筒形土器とは違う整形であり、むしろ置カマドの整形に共通する形態をもっている。平安時代前半と考えられる。

重複遺構はない。

○ 297号住居址(第220·559図)

518+65 S 6、518+55 S 6、518+55 S 5、518+65 S 5のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 4.2m、南北 3.2mを測る。主軸方向はN-11°-Eを指す。 壁の検出状況は悪く、確認された壁高は東壁 3.5cm、西壁 5 cm、南壁 3 cm、北壁 3 cmにすぎない。カマドは北壁の中央よりわずかに東壁側に寄った位置に設置されている。袖部の正面にのみ袖石を据える形態である。左右袖石間は 40cmほどを測る。この袖石間には円筒形土器とそれに差し込んだような状況の長手の礫とが存在し、左右袖石に差し渡した天井部と考えられる。焼土が厚さ 15cm前後に堆積している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。なお北西コーナー付近には粘土塊が遺存していた。

遺物はカマド内およびカマド周辺からわずかに見つかった。土師器高坏、城、甕、円筒形土器などがある。境には丹塗りが見られる。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は306号住居址であり、新旧関係は297号住居址(新)→306号住居址(古)であった。

○ **298号住居址** (第221 • 560図)

519+90N1、519+80N1、519+80N2、519+90N2のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.5m、南北 2.75mを測る。主軸方向は S-0°-Eを指す。壁の検出状況は悪く、確認された壁高は東壁 5cm、西壁 4cm、南壁 6cmを測る。北壁は輪郭が推定される程度である。カマドは南壁の中央より、やや東壁側に寄った位置に設置されている。焼土が若干認められる程度で、構造は明確でない。カマドの左脇の南東コーナーには直径 50cm 前後、深さ 12cm ほどのピットが認められる。あるいは貯蔵穴と考えられる。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、かつ細片が多い。土師器皿、高台付坏などがある。いずれも器体部下半にへ ラ削りの施されない形態である。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は299・301号住居址であり、新旧関係は298号住居址(新)→301→299号住居址(古)であった。

○ **299号住居址** (第221 • 222 • 560図)

518+85N₁、518+75N₁、518+75N₃、518+85N₃のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 5.45m、南北 5.2mを測る。主軸方向は $N-28^{\circ}-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 9~cm、南壁 28cm、北壁 5.5cmを測る。西壁は輪郭が確認された程度である。カマドは北壁の中央よりわずかに東壁側に寄った位置に設置されている。 焼土が厚さ 10cm 前後に堆積していたのを認めたにすぎず、構造は不明である。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少ない。南西コーナー付近からは金環が出土した。土師器甕、高坏、須恵器蓋坏などがある。甕は長胴甕である。須恵器蓋坏は直径 10cm未満の小型品である。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は298号住居址であり、新旧関係は298号住居址(新)→299号住居址(古)であった。

○ 300号住居址(第222図)

518+90 S₁、518+85 S₁、518+85 N₂、518+90 N₂のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭がわずかに確認できたにすぎない。平面は長方形を呈する。規模は東西 2.45m、南北 4.2mを測る。長軸方向は $N-17^{\circ}-E$ を指す。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

床の南北コーナー付近にわずかな焼土が認められ、炉とも考えられる。

遺物はほとんど確認できなかった。時期は不明である。

重複遺構はない。

○ **301号住居址** (第223 • 560 • 561図)

518+90S1、518+80S1、518+80N2、518+90N2のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西、南北ともに 3.55mを測る。主軸方向はN-15°-Eを指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 12cm、西壁 4 cm、南壁 14cmを測る。北壁は輪郭が確認された程度ある。カマドは不明であるが298号住居址と北壁で重複しており、北壁にカマドの存在した可能性がある。北東コーナー付近に焼土が認められ、他住居址のカマドと考えられたが明確にできなかった。遺物の中にも違和感の見られるものもなく、1 軒の住居址として捉えた。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは不明である。

遺物は少なく細片が多い。土師器坏、皿などがある。坏、皿は器体部下半をヘラ削りする。特に皿の底は大きな平底を呈する形態である。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は298号住居址であり、新旧関係は298号住居址(新)→301号住居址(古)であった。

○ 303号住居址 (第224・561図)

518+85 S₂、518+75 S₂、518+75 N₁、518+85 N₁のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 4.55m、南北 5.4mを測る。長軸方向は $N-12^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 8.5cm、西壁 10.5cm、南壁 17cm、北壁 5 cmを測る。カマド

は確認できなかった。確認された壁まわりにカマドの位置を推定できるような焼土などを認めることはできなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、細片が多い。土師器坏、城、高坏、甕、甑(?)、須恵器坏などがある。坏は 形骸化した稜をもつ小型品である。甕は長胴形と考えられる。古墳時代後期前半と考えられる。 重複遺構は295号住居址であり、新旧関係は295号住居址(新)→303号住居址(古)であった。

○ **304号住居址** (第225 • 562 • 563図)

518+75N₂、518+65N₂、518+65N₃、518+75N₃のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.15m、南北 3.25mを測る。主軸方向は $N-90^{\circ}-E$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 8.5cm、西壁 14cm、南壁 12cm、北壁 17cmを測る。カマドは東壁の中央より南壁側に寄った位置に設置されている。袖部に石組は認められないが、セクションの状況から袖石を抜き取られた痕跡が窺われ、袖部を石組する形態と考えられる。左右袖石間は袖石の痕跡と考えられる位置で 40cmを測る。カマド内には焼土ブロックが幾つか見られ、また厚さ 5cm 前後に堆積する焼土が認められる。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は多く、カマドを中心にして全体に認められた。土師器坏、蓋坏、皿、甕などがある。坏、皿は器体部下半にヘラ削りを施すもので、内面に暗文を施す例も見られる。甕は器壁の薄い形態である。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は312・321号住居址であり、新旧関係は304・321号住居址(新)→312号住居址(古)であった。なお304と321号住居址との関係は明確にならず、また遺物もほとんど同一時期のものであった。

○ 305号住居址 (第226 • 564図)

518+60 S₆、518+50 S₆、518+50 S₄、518+60 S₄のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 4.3m、南北 4.35mを測る。主軸方向は $N-87^{\circ}-W$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 15cm、西壁 14cm、南壁 16cm、北壁 14.5cmを測る。カマドは西壁の中央より南壁側に寄った位置に設置されている。焼土混入土が厚さ 15cm前後に堆積している。構造は明確にならないが、左右の袖石間は焼土混入土の範囲から 80cm前後と考えられる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドを中心に認められたが、それほど量は多くない。土師器坏、甕、須恵器高台付坏などがある。土師器坏は底が大きな平底で、身の浅い形態と底が平底気味で身の深い形態との2種類がある。前者は器体部下半を回転へラ削りし、内外面に入念なへラ磨きを施す。後者はみこみ部を含んだ内外面にへラ磨きが施される。甕も口縁部の違いから3形態ほどある。須恵器高台付坏は高台が比較的外側に付けられた身のやや浅い形態をとる。奈良時代と考えられ

る。

重複遺構は306・316号住居址であり、新旧関係は305号住居址(新)→306・316号住居址(古)であった。

○ **306号住居址** (第227 • 565~567図)

518+65 S₆、518+55 S₆、518+55 S₃、518+65 S₃のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭が確認できたにすぎない。平面は方形を呈する。規模は東西5.35m、南北5.2mを測る。主軸方向は $N-3^{\circ}-E$ を指す。

カマドは北壁の中央よりわずかに西壁側に寄った位置に設置されていた。袖部の正面にのみ 袖石を据え付ける形態である。左右袖石間は30cmほどを測る。カマド内に甕などの土器が多量 に残存する。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドおよびカマドの前面に集中していた。土師器高坏、甕、甑、円筒形土器、土製支脚、須恵器坏などがある。甕は球胴甕と長胴甕の2形態が見られる。甑は円筒形土器に近い形態をみせるが、整形などで大いに異なる。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は297・305号住居址であり、新旧関係は305号住居址(新)→297→306号住居址(古)であった。

○ 307号住居址(第228 • 568図)

518+60S4、518+55S4、518+55S2、518+60S2のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.5m、南北 3.4mを測る。主軸方向はN-3°-Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 21cm、西壁 7cm、南壁 12.5cm、北壁 12cmを測る。カマドは北壁の中央よりわずかに東壁側に寄った位置に設置されている。焼土が厚さ 5cm前後に認められる程度で、構造は明確にならない。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、細片が多い。土師器坏、甕、須恵器蓋坏(?)などがある。坏は底が大きな平底を呈する盤状ないし箱形の形態と考えられる。内外面にヘラ磨きが顕著である。甕は口縁部が「く」の字状に屈曲する形態である。奈良時代と考えられる。

重複遺構は315・316号住居址であり、新旧関係は307号住居址(新)→315・316号住居址(古)であった。

○ 308号住居址 (第229・569図)

518+60 S₃、518+50 S₃、518+50 S₁、518+60 S₁のグリッドに位置する。

本住居址は西壁側に南北に走る水道管が埋設されており未掘部分となっている。平面は方形ないし長方形と考えられる。規模は南北 4.55mを測る。東西は現状で 3.5mを測る。主軸方向は $N-16^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 8cm、南壁 9cm、北壁 5cmを測る。カマドは北壁の中央よりわずかに東壁側に寄った位置に設置されている。焼土がわずかに認められたにすぎず、構造は明確にならなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少ない。土師器坏、甕、須恵器坏、滑石製勾玉、土玉などがある。土師器坏は稜を持つ 形態で、丹塗りされている。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構はない。

○ 309号住居址(第229図)

518+70N₃、518+65N₃、518+65N₄、518+70N₄のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.65m、南北 3mを測る。主軸方向は $N-99^{\circ}-E$ を指す。

壁の検出状況は悪く、確認された壁高は北壁 5 cmを測るにすぎない。他の壁は輪郭が確認された程度である。カマドは東壁の中央よりわずかに南壁側に寄った位置に設置されているが、焼土などが確認できたにすぎず、構造は不明である。

遺物は少なく、ほとんどが細片であり、土師器については図示できなかった。西壁の中央あたりに鉄製品が遺存していた。刃部と考えられる部分が柄部と考えられる部分から極端に屈曲する作りであるが、どの様に使用されたのか不明である。また砥石も出土している。土師器片は平安時代前半と考えられるものであった。

重複遺構は310号住居址であり、新旧関係は309号住居址(新)→310号住居址(古)であった。

○ 310号住居址 (第230 • 569図)

518+70N₂、518+60N₂、518+60N₄、518+70N₄のグリッドに位置する。

本住居址は西壁部に南北に走る水道管が埋設されており、未掘部分となっている。平面は方形ないし長方形と考えられる。規模は南北3.35mを測る。東西は現状で2.55mを測る。

壁は検出状況が悪く、輪郭が確認された程度である。カマドは確認できず、設置場所も不明である。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、細片が多かった。土師器坏、皿などがある。坏、皿は器体部下半にヘラ削りを 施すもので占められている。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は309 • 311号住居址であり、新旧関係は309号住居址(新)→310→311号住居址(古)であった。

○ 311号住居址(第230 • 569図)

518+70N₁、518+60N₁、518+60N₃、518+70N₃のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 5.15m、南北 5mを測る。主軸方向はN-1°-Eを指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 14.5cm、西壁 5m、南壁 4m0、神壁 m0。北壁は輪郭が確認さ れた程度である。カマドは北壁の中央よりわずかに東壁側に寄った位置に設置されていた。しかし焼土がわずかに確認できる程度で、構造は明確にならなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器坏、城、鉢などがある。坏はいずれも稜を持つ形態のものである。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は $310 \cdot 313 \cdot 318$ 号住居址であり、新旧関係は310号住居址(新) $\rightarrow 311 \rightarrow 313 \cdot 318$ 号住居址(古)であった。なお318号住居址との間にはそれほどの時間の開きはないものといえる。

○ 312号住居址(第231·570図)

518+75N₁、518+70N₁、518+70N₃、518+75N₃のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西2.97m、南北2.45mを測る。主軸方向は $N-40^\circ$ -Eを指す。壁の検出状況は悪く、確認された壁高は西壁 4cm、南壁 4.5cmを測り、東壁、北壁はその輪郭が確認されたにすぎない。カマドは北壁の西壁寄りに設置されている。袖部の正面にのみ袖石を据える形態であるが、片側の袖石が残存するだけであった。左右袖石間は断面の状況から 50cmほどと見られる。中に焼土が厚さ 5cm前後に堆積している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドの前面あたりに多く見られた。土師器坏、鉢、甕などがある。坏は半球形のものと稜を持つものとの2形態がある。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は304・313号住居址であり、新旧関係は304号住居址(新)→312→313号住居址(古)であった。

○ **313号住居址** (第232 • 570 • 571図)

518+75 S₁、518+60 S₁、518+60 N₂、518+75 N₂のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。南壁に突出部が見られる。規模は東西 8.2m、南北 8.4mを測る大型の住居址である。主軸方向はN-4°-Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 23cm、西壁 17cm、南壁 20cm、北壁 3cmを測る。カマドは北壁のほぼ中央に設置されている。袖石は全くみられず焼土が厚さ 5cm 前後に堆積している以外、構造は明らかでない。カマドの位置と相対峙した南壁の位置には、壁を外側に「コ」の字形に突出して、中に土城が穿たれた、貯蔵穴と考えられる施設がある。この貯蔵穴はほぼ方形を呈し東西 1cm 、南北 1.15m 、深さ 51cm ほどを測る。また貯蔵穴の北西の脇に楕円形(長軸 30cm 、短軸 20cm 、深さ 9cm)の小ピットが穿たれており、梯子受のピットとも考えられる。貯蔵穴の前面には土堤などの施設は見られないが、大振りの礫が数個見られる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴と考えられる直径65cm前後のピットが4ケ所確認された。その深さは P_1-30cm 、 P_2-40cm 、 P_3-42cm 、 P_4-40cm を測る。住居址の東部分には柱穴と柱穴の間に長さ 2.65m、幅 2m、深さ 13cmほどの長方形の窪みが見られた。この窪みの底は住居址の床と同様にかたく作られており、住居址に伴うものと考えられる。

遺物はカマド周辺と、南壁を中心とする付近に多く見られた。また南壁付近には長さ 10cm前後の細長い礫が幾つか見られ、ムシロ編石錘かと考えられる。

土師器坏、高坏、城、鉢、甕、手 土器、ムシロ編石錘などがある。坏には半球形で口縁部が外反するものと、稜を持つものとの2形態が見られる。甕は球胴形のものが多く見られ、中に丹塗りする例も見られる。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は311・312・314・318号住居址であり、新旧関係は311・312・318号住居址 (新)→3 13→314号住居址 (古)であった。

○ **314号住居址** (第233 • 234 • 572~575図)

518+70S3、518+60S3、518+60N1、518+70N1のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 5.65m、南北 5.6mを測る。主軸方向はN-14°-Eを指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 10.5cm、西壁 7 cm、南壁 9.5cmを測る。北壁は輪郭を確認できた程度にすぎない。カマドは北壁の中央よりわずかに東壁側に寄った位置に設置されている。袖石と考えられる礫は全く見られない。焼土が厚さ 5 cm 前後に堆積しているのが認められるほか、袖部と考えられる壁状にブロック化した焼土も一部に認められる。構造は明らかでない。なお住居址の中央付近にも焼土、カーボンが見られ、やはり厚さ 5 cm ほどに焼土の堆積が認められる。この焼土は浅い土城状の中に堆積し、その回りにカーボンなどが見られることから、カマドと共に機能していたもので、炉と考えられよう。

床は黄褐色、黒褐色土を硬く突き固めてほぼ平坦に作られている。柱穴と考えられる直径 40 cm 前後のピットが 2 ケ所確認された。これらのピットの深さは P_1-33cm 、 P_2-20cm ほどを測る。北側の柱穴は確認できなかった。

南壁のほぼ中央に貯蔵穴と考えられる長方形の土城が穿たれている。規模は東西 1.1m、南北 1m、深さ 33cmほどを測る。この貯蔵穴の回りには高さ $3\sim7cm$ ほどの土堤が回っている。

遺物はカマドおよび炉の周辺を中心にして分布していた。土師器坏、塊、高坏、甕、甑などがある。坏は半球形のものに限られるが、底は丸底と小さな平底との両者が見られる。甕は7個体ほどあるが、ほとんど球胴形を呈するものである。1例だけ鉢形に近い形態のものが見られる。甑は把手を持たない鉢形の形態である。古墳時代中期後半~後期初めと考えられる。

重複遺構は313号住居址であり、新旧関係は313号住居址(新)→314号住居址(古)であった。

○ 315住居址(第235 • 576 • 577図)

518+65 S₄、518+55 S₄、518+55 S₂、518+65 S₂のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 4.45m、南北 5.17mを測る。主軸方向は $N-10^{\circ}-W$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 8.5cm、南壁 7cm、北壁 8cmを測る。西壁は輪郭が確認された程度にすぎない。カマドは北壁のほぼ中央に設置されている。袖部の正面にのみ、石のかわりに土器(甕)を据えた形態である。左右袖石間は 45cmほどを測る。焼土ブロック混入土が

厚さ 20cm前後に堆積していた。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドの前面を中心にして分布していた。土師器坏、高坏、鉢、甕、円筒形土器、土製支脚、須恵器蓋坏、高坏などがある。坏は半球形のものと稜を持つものとの2形態がある。甕はいずれも長胴甕である。須恵器蓋坏は直径10cm未満の小型品である。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は307・316号住居址であり、新旧関係は307号住居址(新)→315→316号住居址(古)であった。

○ 316号住居址 (第236 • 578図)

518+60 S₅、518+50 S₅、518+50 S₂、518+60 S₂のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 6.87m、南北 6.9mを測る。主軸方向は $N-15^{\circ}-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 9.5cm、西壁 14.5cm、南壁 5.cm、北壁 7.5cmを測る。

カマドは北壁の中央よりわずかに東壁側に寄った位置に設置されている。袖部の正面のみに袖石を据える形態である。左右袖石間はおおよそ70cmを測る。この袖石間の上部に差し渡したような平石が見られ、天井部を構成した石材の一部と考えられる。中に焼土ブロック混入土が厚さ20cm前後に堆積しているのが見られる。南壁にはカマドと対峙する位置に貯蔵穴と考えられるピットが見られる。この貯蔵穴は南壁を「コ」の字状に突出させ、その中に穿たれており、直径80cm、深さ24.5cmほどを測る。貯蔵穴の回りには土堤の設備は見られない。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴と考えられる直径 40cm前後のピットが 3 ケ所確認された。深さは P_1-31cm 、 P_2-30cm 、 P_3-21cm を測る。なお北東に位置するであろう柱穴は確認できなかった。

遺物はカマド周辺に多く見られた。土師器坏、高坏、城、鉢、甕などがある。坏は稜を持つものがほとんどである。甕は球胴甕と長胴甕との両者が見られる。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は305・307・315号住居址であり、新旧関係は305・307号住居址(新)→315→316号住居址(古)であった。

○ 317号住居址(第237·579図)

518+75N4、518+65N4、518+N6、518+75N6のグリッドに位置する。

本住居址は西壁側を南北に水道管埋設溝が走り、未掘となっている。規模は南北5.1mを測り、東西は現状で3.2mを測る。主軸方向は $N-9^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 36cm、南壁 17cm、北壁 4 cmを測る。カマドは北壁の中央付近に設置されている。袖部の正面のみに袖石を据えた形態である。左右袖石間は断面などから 50cmほどを測る。焼土が厚さ 5 cm前後に認められる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴と考えられる直径35㎝、深さ20㎝ほどのピットが1ケ所

確認された。

遺物は土師器坏、高坏、鉢、甕などがある。坏は稜を持つ形態で、中に丹塗りされた例も見られる。高坏は脚に1~2段の透し孔を穿つものである。甕は長胴甕が見られる。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構はない。

〇 318号住居址 (第238 • 580図)

518+70N₁、518+60N₁、518+60N₃、518+70N₃のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。なお北西コーナー付近に水道管埋設溝があり未掘となっている。規模は東西 4.8m、南北 4.5mを測る。主軸方向は $N-12^{\circ}-W$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 8.5cm、西壁 10.5cm、南壁 6.5cm、北壁 5.5cmを測る。カマドは北壁のほぼ中央に設置されている。焼土ブロックが厚さ 5 cm 前後に堆積しているのが認められる以外、袖石などは確認できなかった。しかし、壁の一部を構成したと考えられるレンガ化した焼土ブロックが認められた。断面などからすれば左右の袖間は40cmほどと考えられる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴と考えられる直径 35cm、深さ 17cmほどのピットが南東コーナー付近に 1 ケ所確認された。

遺物は少ない。土師器坏、甕などがある。坏は偏平な半球形のものと、稜を持つものとの2 形態がある。後者には丹塗りされた例や、黒色を呈する例が見られる。甕は長胴甕と球胴甕と の2形態がある。古墳時代後期前半と考えられる。

重複遺構は311・313号住居址であり、新旧関係は311号住居址(新)→318→313号住居址(古)であった。

○ 319号住居址 (第239・580図)

518+75N₄、518+65N₄、518+65N₅、518+75N₅のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 4.15m、南北 3.25mを測る。主軸方向は $N-85^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 5~cm、西壁 6.5cm、南壁 7.5cm、北壁 7.5cmを測る。カマドは東壁の中央より南壁側に寄った位置に設置されている。袖石と考えられる礫は全く確認できず、わずかに支柱ではないかと考えられる礫が据えられている。焼土ブロック混入土が厚さ 25~cmほどに堆積している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。住居中央付近に平石が見られた。

遺物は少量であった。土師器坏、置カマドなどがある。坏は器体部下半にヘラ削りを施すもので、内面に暗文の施された例がある。置カマドは上縁の小破片であり全体の形は不明である。 平安時代前半と考えられる。

重複遺構はない。

○ **320号住居址** (第240 • 581図)

518+80N₂、518+75N₂、518+75N₃、518+80N₃のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭が確認された程度にすぎない。規模は東西 2.9m、南北 2.85m を 測る。主軸方向は $N-7^\circ-E$ を指す。

カマドは北壁のほぼ中央に設置されている。焼土が厚さ5cm前後に堆積しているのが認められる程度で、構造は不明である。

床はほぼ平坦に作られているが、西壁側でやや明確でない。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、かつ細片であった。土師器甕、手捏土器などがある。甕は底をヘラ調整した ものである。古墳時代後期後半ころと考えられる。

重複遺構は323号住居址である。新旧関係は320号住居址(新)→323号住居址(古)と捉えたが、やや明確性を欠く。

○ 321号住居址(第241·581図)

518+80N₂、518+70N₂、518+70N₄、518+80N₄のグリッドに位置する。

本住居址は住居の南東コーナー付近の輪郭が確認されたにすぎない。規模は現状で東壁 1.35 m、南壁 2.7mを測る。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、土師器甕を図示できたにすぎない。甕は器壁の薄い形態である。平安時代前 半と考えられる。

重複遺構は304・322・323号住居址であり、新旧関係は322号住居址(新)→304・321→323号住居址(古)であった。なお304号住居址と本住居址との新旧関係は明確に捉えられなかった。また遺物から見ても近接した時期と考えられる。

○ 322号住居址 (第241・581図)

518+80N₂、518+70N₂、518+70N₄、518+80N₄のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.1m、南北 3.22mを測る。主軸方向は $N-104^\circ-E$ を指す。壁の検出状況は悪く、確認された壁高は東壁 5cm、西壁 5cmを測る。南壁、北壁は輪郭を確認できた程度にすぎない。カマドは東壁の北壁近くに設置されているが、焼土がわずかに認められる程度で構造は不明である。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器坏、皿、甕、羽釜、灰紬陶器塊などがある。坏、皿は器体部下半にヘラ削りを施すものである。甕は口縁部が極端に肥厚する形態である。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は321・323号住居址であり、新旧関係は322号住居址(新)→321→323号住居址(古) である。

○ 323号住居址(第242·582図)

518+75N₂、518+70N₂、518+70N₄、518+75N₄のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 6.5m、南北 6.4mを測る。主軸方向はN-12°-Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 11cm、西壁 5cm、南壁 8.5cm、北壁 7cmを測る。カマドは北壁の中央に設置されている。袖石は全く確認できなかった。焼土ブロックが幾つか認められ、中に袖部と考えられる状況のものも見られた。これからすると左右の袖石間は 60cm前後と推定できる。

床は北壁から南壁に向かってゆるやかに低くなっている。柱穴と考えられる直径 70cm 前後のピットが 4 ケ所確認された。深さは P_1-44cm 、 $P_2-36.5cm$ 、 P_3-33cm 、 $P_4-36.5cm$ を測る。

遺物はカマドの周辺に多く見られた。土師器坏、高坏、甕、円筒形土器などである。坏は偏平 な半球形のものと、稜を持つものとの2形態が見られる。高坏は身が坏と同様の2形態がある。 甕は長胴甕である。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は320・321・322号住居址であり、新旧関係は322・321号住居址 (新)→320→323号 住居址 (古)であった。

○ 324号住居址 (第243図)

518+35 S₃、518+25 S₃、518+25 S₂、518+35 S₂のグリッドに位置する。

本住居址は平面の輪郭が確認された程度にすぎない。平面は方形を呈する。規模は東西 3.05 m、南北 2.85 m を測る。主軸方向は $N-15^{\circ}-E$ を指す。

砂礫層に切り込んで構築されており、床は黒褐色土を貼って締固めているが小刻みの起伏は 見られる。全体的には平坦に作られている。

カマドは北壁の東壁近くに設置されていたものといえる。しかし焼土がわずかに確認された にすぎず、構造は不明である。

遺物はほとんど認められなかった。帰属時期は不明である。

重複遺構はない。

○ 西1号住居址(第244 • 583 • 584図)

518+10N₁、518+00N₁、518+00N₂、518+10N₂のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.3m、南北 2.8mを測る。主軸方向は $N-116^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 5 cm、西壁 6 cm、南壁 5 cm、北壁 5 cmを測る。カマドは東壁の中央よりわずかに南壁側に寄った位置に設置されている。袖部を石組する形態であり、左右の袖石間は 27 cmほどを測る。カマド内に焼土はほとんど認められなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドの前面付近を中心に分布が見られた。土師器坏、甕などが見られる。坏は器体部下半にへラ削りが全く施されず、底が回転糸切り未調整の形態のものに限られる。甕は大小があり、特に小型甕は坏と同様に外面をロクロ整形し、底が回転糸切り未調整のものである。



第8図 遺構配置図(5)





第9図 遺構配置図(6)

大型甕は器形にやや不安定な形状を見せるものである。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は西24・西25・西48号住居址であり、新旧関係は西1号住居址(新)→西24・西25・西48号住居址(古)であった。

○ 西2号住居址(第245·585図)

518+15N₁、518+05N₁、518+05N₂、518+15N₂のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 2.7m、南北 3.27mを測る。主軸方向は $N-140^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 7 cm、西壁 11.5cm、南壁 8.5cm、北壁 8.5cmほどを測る。カマドは東壁のほぼ中央に設置されている。袖部を石組する形態であるが、その残存状況は良くない。左右袖石間は 50cmほどを測るものと考えられる。焼土はわずかに混入が認められるにすぎない。

床は平坦に作られている。柱穴は認められなかった。

カマドの右袖脇に東壁に接して直径50cm、深さ8cmほどの浅い土址があり、貯蔵穴の可能性を持つ。

遺物はカマド、貯蔵穴を中心に分布が認められた。土師器坏、皿、羽釜、置カマドなどがある。 坏、皿は器体部下半にヘラ削りを施すものがほとんどであった。坏の大型品には内面黒色の例 も見られる。置カマドは焚き口部の破片である。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は西14号住居址であり、新旧関係は西2号住居址(新)→西14号住居址(古)であった。

○ 西3号住居址(第246·586図)

518+00N6、517+90N6、517+90N7、518+00N7のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.67m、南北 2.88mを測る。主軸方向は $N-13^{\circ}-E$ を指す。確認された壁高は西壁 21cm、北壁 8.5cmほどを測る。なお東壁と南壁は他住居址との重複部分にあたり、輪郭が確認された程度にすぎない。カマドは北壁の中央に設置されている。袖部を石組する形態と考えられるが、残存状況は悪い。左右の袖石間は 35cmほどを測る。焼土混入土が 10cm前後に堆積している。床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は極めて少量で、しかも細片であった。土師器坏などがある。口縁部が玉縁状に肥厚する形態を見せる。平安時代前半ころと考えられる。

重複遺構は西4号住居址であり、新旧関係は西3号住居址(新)→西4号住居址(古)であった。

○ 西4号住居址(第246·586図)

518+00N6、517+90N6、517+90N7、518+00N7のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 2.75m、南北 3.45mを測る。主軸方向は N - 103° - E を

指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 9 cm、西壁 11 cm、南壁 5 cm、北壁 11 cmを測る。カマドは東壁の北壁寄りに設置されている。袖部が石組の形態である。左右の袖石間は 45 cm ほどを測る。焼土混入土が厚さ 20 cm 前後に認められる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はは少なく、細片が多い。土師器坏、皿、甕がある。坏は器体部下半にへラ削りする形態で、内面のみこみ部に暗文の施された例も見られる。甕は器壁の薄い形態をとる。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は西3 • 西18号住居址であり、新旧関係は西3号住居址(新)→西4→西18号住居址 (古)であった。

○ 西5号住居址(第247·586図)

518+10N₂、518+00N₂、518+00N₄、518+10N₄のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.95m、南北 3.12mを測る。主軸方向は $N-34^\circ-E$ を指す。壁の検出状況は悪く、確認された壁高は西壁 5~cm、南壁 6~cmを測る。東壁、北壁は土址などの重複があり輪郭が確認された程度であった。カマドは南壁のほぼ中央に設置されている。袖部を石組する形態であり、左右袖石間は30~cmほどを測る。焼土ブロックおよび焼土混入土の堆積が厚さ 5~cmほどに認められた。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、ほとんど細片であった。土師器高台付坏、皿などであるが、覆土からの出土であって、時期の明確な特定はできない。おおよそ平安時代前半ころかと考えられる。

重複遺構は西15・西22号住居址であり、新旧関係は西5号住居址(新)→西15・西22号住居址(古)である。なお西15号住居址との間に大きな時間差はないものと考えられる。また西22号住居址との関係は遺物から明確にすることはできなかった。

○ 西6号住居址(第248·587図)

518+30N₅、518+20N₅、518+20N₇、518+30N₇のグリッドに位置する。

平面は不整形に近い長方形を呈する。規模は中央で東西 2.75m、南北 3.45mを測る。主軸方向 は $N-13^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 9 cm、南壁 5 cm、北壁 11 cmを測る。西壁は輪郭が確認できた程度にすぎない。カマドは北壁の中央に設置されていた。袖石は確認できなかった。このほか焼土混入土が厚さ 25 cm ほどに認められた程度で、構造は明らかでない。

床は小刻みな起伏は見られるが、全体には平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は南壁側を中心にして分布が見られた。土師器坏、城、甕、甑、須恵器長頸壺などが見られる。坏は偏平な半球形の形態に限られる。甑は小型の部類に入る鉢形の形態をとる。古墳時

代後期後半と考えられる。

重複遺構は西7・西16号住居址であり、新旧関係は西7号住居址(新)→ 西6→西16号住居址(古)であった。

○ 西7号住居址(第249·588図)

 $518+25N_5$ 、 $518+15N_5$ 、 $518+15N_7$ 、 $518+25N_7$ のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 4.55m、南北 3.93mを測る。主軸方向は N -23° - E を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 10.5cm、南壁 22cmを測る。西壁、北壁は輪郭が確認された程度である。カマドは北壁のほぼ中央に設置されている。袖部が石組される形態と考えられるが、残存状況は良くない。左右の袖石間は 40cmほどを測る。焼土が厚さ 5cm前後に堆積している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドの前面を中心に認められた。土師器坏、甕などがある。坏は半球形のものと大きな平底を呈する盤状形のものとが見られるが、前者は混入品と考えられる。甕には長胴甕と球胴甕の2形態が見られる。奈良時代と考えられる。

重複遺構は西6・西16・西23号住居址であり、新旧関係は西7号住居址(新)→西6・西16・西23号住居址(古)であった。

○ 西8号住居址(第250·589~591図)

518+10N4、518+00N4、518+00N6、518+10N6のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.1m、南北 3.2mを測る。主軸方向は $N-10^{\circ}-E$ を指す。

床は南壁側から北壁側に向かって緩やかに低く傾斜している。柱穴などは確認できなかった。 遺物は住居址の全面に認められた。土師器坏、高坏、甕、甑、須恵器坏などがある。土師器坏 は偏平な半球形のものと、稜をもつものとの2形態が見られる。高坏には脚部の大型と小型と の形態がある。甕は球胴甕と長胴甕とがある。甑は把手付の形態をとる大型品である。須恵器 坏は直径10cm未満の小型品が主体を占める。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構はない。

○ 西9号住居址(第250·592·593図)

518+10S4、518+00S4、518+00S2、518+10S2のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.75m、南北 3.85mを測る。主軸方向は N - 26° - Eを指す。

壁の検出状況は良くない。確認された壁高は東壁 6 cm、南壁 5 cm、北壁 4 cmを測る。西壁は輪郭が確認された程度である。カマドは北壁の中央より、わずかに東壁側に寄った位置に設置されている。礫が数個カマド周辺から発見されたが、袖石と考えられる原位置を示す礫は確認されなかった。焼土が厚さ 3 cm前後に認められる程度で、構造は明確にならなかった。

床はほぼ平坦に造られている。柱穴などは確認できなかった。

北壁に設置されたカマドの右脇に長方形の土城が穿たれている。中から本住居址出土品と同時期と考えられる土器が出土する。しかし本住居址を切り込んで構築しており、貯蔵穴とは考えられない。

遺物はカマド周辺に集中して分布が見られた。土師器甕、円筒形土器などがある。甕は大小の違いは見られるものの、いずれも長胴甕であった。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構はない。

○ 西10号住居址 (第251・594~596)

 $518+20N_5$ 、 $518+10N_5$ 、 $518+10N_7$ 、 $518+20N_7$ のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 5m、南北 5.6mを測る。主軸方向は $N-13^{\circ}-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 8.5cm、西壁 3.5cm、南壁 10.5cm、北壁 7cmを測る。

カマドは北壁のほぼ中央に設置されている。袖部の正面にのみ袖石を据える形態で、この左右袖石間は37cmほどを測る。焼土および焼土混入土の堆積が認められる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴と考えられるピットが 4 ケ所確認された。深さは P_1-21 cm、 P_2-32cm 、 P_3-21cm 、 P_4-18cm を測る。

遺物はカマドを中心にほぼ全面にわたって認められた。土師器坏、城、高坏、甕、須恵器蓋坏、坏などかある。土師器坏は偏平な半球形を呈するものと、稜をもつ2形態が見られ、中には黒色を呈するものもある。このうち前者が主体を占める。甕は長胴甕と球胴甕の2形態がある。須恵器蓋坏、坏はともに口径10cm未満の小型品であった。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は西23号住居址であり、新旧関係は西10号住居址(新)→西23号住居址(古)であった。

○ 西11号住居址(第252 • 597図)

518+30N₂、518+20N₂、518+20N₄、518+30N₄のグリッドに位置する。

本住居址の東側部分を南北に農道が走っており、未掘となっている。平面は長方形ないし方形と考えられる。規模は南北5.25を測る。東西は北壁の確認できる部分で2.85mを測る。

壁は外傾し、確認された壁高は西壁 7.5cm、南壁 7.5cm、北壁 11.5cmを測る。カマドは確認されている壁まわりからは見つかっておらず、住居址の東側部分に設置されているものといえる。

床は平坦に作られている。柱穴と考えられるピットが 2 ケ所確認された。直径 30cm ほどで、深さは P_1-21cm 、 P_2-20cm ほどを測る。貯蔵穴は確認できなかった。

遺物は少なく、土師器坏、高坏が図示できたにすぎない。坏は偏平な半球形を呈する形態で、

黒色を呈する。高坏は身が坏同様の半球形を呈し、脚部の背の低い形態と思われる。古墳時代 後期後半と考えられる。

重複遺構はない。

○ 西12号住居址 (第253 • 597図)

518+25N2、518+15N2、518+15N4、518+25N4のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 4.25m、南北 4.83mを測る。主軸方向は $N-20^{\circ}-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 5~cm、西壁 9~cm、南壁 4~cm、北壁 12.5cmを測る。カマドは 北壁のほぼ中央に位置している。袖部の正面のみに袖石を据える形態で、左右袖石間は 35cmほどを測る。焼土が厚さ 5~cm前後に認められる。カマドのほぼ中央には柱状の石が据えられており、支脚と考えられる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴と考えられるピットが 2 ケ所確認された。 直径 45cm 前後で深さが $P_1-25.5cm$ 、 P_2-10cm ほどを測る。東壁の北壁寄りに粘土塊が認められる。

遺物はカマドを中心に分布が見られた。土師器坏、高坏、甕、須恵器坏(片)などがある。土師器坏は稜を持つものが主体と考えられる。しかし、稜を持つものにも2形態がある。高坏は脚の背の低いものと思われる。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構はない。

○ 西13号住居址(第254·598図)

518+05S2、517+95S2、517+95N1、518+05N1のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.7m、南北 8.7mを測る。主軸方向は $N-105^\circ-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 5~cm、西壁 4.5cm、南壁 5~cm、北壁 7~cmを測る。カマドは 東壁のほぼ中央に設置されている。袖部を石組する形態であるが、片側にのみ残存する。左右 の袖石間の開きは分からない。それでも、焼土混入土が厚さ 15cm 前後、幅 70cm ほどに認められることから、70cm 前後を推定できよう。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドを中心として分布が見られた。土師器坏、蓋坏、皿、甕などがある。坏は器体部下半にヘラ削り、内面に暗文を施すものである。皿は器体部下半を回転ヘラ削りする。甕は大小あるが、いずれも器壁の薄い形態をとる。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は西31号住居址であり、新旧関係は西13号住居址(新)→西31号住居址(古)であった。しかし時間的には大きな開きはない。

○ 西14号住居址(第255 • 599図)

518+15N₁、518+10N₁、518+10N₃、518+15N₃のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.25m、南北 2.7mを測る。主軸方向は N -102° - E を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 12.5cm、西壁 12cm、南壁 9.5cm、北壁 11.5cmを測る。カマドは東壁の南壁近くに設置されたものと考えられる。袖の片側のみが残存しており、袖部を石組する形態である。焼土はほとんど認められなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少ない。土師器坏が図示できたにすぎない。大きな平底の盤状形を呈する器体である。 器体部下半に小刻みなヘラ削りを施している。内面のみこみ部には円形の線刻が認められる。 奈良時代と考えられる。

重複遺構は西2号住居址であり、新旧関係は西2号住居址(新)→西14号住居址(古)であった。

○ 西15号住居址(第256 • 599図)

518+10N₂、518+00N₂、518+00N₃、518+10N₃のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.35m、南北 3 mを測る。主軸方向は N-90°-Eを指す。

壁の検出状況は悪く、確認された壁高は東壁 4.5cm、南壁 7 cmを測る。西壁、北壁は輪郭が確認された程度にすぎない。カマドは東壁の中央よりわずかに北壁側に寄った位置に設置されている。袖部を石組する形態であり、左右袖石間は 33cmほどを測る。焼土混入土が厚さ 5 cm 前後に堆積しているが、認められた。

遺物はカマド内および周辺に主に認められた。土師器坏、皿などがある。坏は器体部下半に へう削り、内面に暗文を施す。皿は器体部下半に回転へう削りを施すものが主体を占める。平 安時代前半と考えられる。

重複遺構は西 5 • 西22号住居址であり、新旧関係は西 5 号住居址(新)→西15→西22号住居址(古)であった。

○ 西16号住居址 (第257・600~602図)

518+30N₄、518+15N₄、518+15N₆、518+30N₆のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 4.85m、南北 4.95mを測る。長軸方向は $N-16^{\circ}-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 11cm、西壁 3cm、南壁 11cm、北壁 9.5cmほどを測る。カマドは現在確認されている壁まわりからは見つかっていない。北壁に設置されていた可能性が高い。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴と考えられるピットが 3 ケ所確認された。直径 50cm前後であり、深さは P_1-15cm 、 P_2-20cm 、 P_3-22cm ほどを測る。

遺物は住居址の南西部に集中が見られた。土師器坏、高坏、塊、甕、須恵器蓋坏、坏、長頸壺などがある。土師器坏は偏平な半球形の坏と、退化した稜を持つものとの2形態がある。高坏は脚部の背の低い形態と思われる。甕は9個体ほどあり、球胴甕と長胴甕の2形態があり、後者が量的に多い。須恵器蓋坏は宝珠把、内面に返りを持つ形態である。須恵器坏は口径が10cm未満の小型品である。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は西6・西7号住居址であり、新旧関係は西7・西6号住居址(新)→西16号住居址(古)であった。

○ 西17号住居址(第257 • 603図)

 $518+05N_6$ 、 $517+95N_6$ 、 $517+95N_8$ 、 $518+05N_8$ のグリッドに位置する。

本住居址は北側に未掘部分を残す。平面は長方形ないし方形かと考えられる。規模は東西 3.9 mを測る。南北は東壁の確認できた部分で 2.6 mを測る。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 12cm、西壁 12.5cm、南壁 5.5cmほどを測る。カマドは確認されている壁まわりからは見つかっていない。なお南壁の西壁寄りの床に焼土の散布が認められる。しかしカマドの設置された位置と推定するには至らない。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器坏、高台坏、甕、羽釜、灰紬陶器などがある。坏には器体部下半にヘラ削り、内面に暗文を持つものと、ヘラ削りおよび暗文を全く施さないものとが見られ、違和感をもつ。 このうち前者は覆土内からの出土であり、混入品と考えられ、後者が本住居址に伴う坏といえる。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は西19号住居址であり、新旧関係は西17号住居址(新)→西19号住居址(古)であった。

○ 西18号住居址(第258 • 604図)

518+05N₅、517+95N₅、517+95N₇、518+05N₇のグリッドに位置する。

平面は南壁が北壁に比べて短く、矩形を呈する。規模は中央で東西 3.35m、南北 3.5m ほどを 測る。長軸方向は N -31° – E を指す。

壁の検出状況は悪く、確認された壁高は東壁 3.5cm、南壁 3 cm、北壁 4 cmを測るにすぎない。 西壁は一部の輪郭が確認された程度であった。カマドは確認されている壁まわりには見られなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なかったが南東コーナー付近に集中が見られた。土師器坏、甕、円筒形土器などがある。坏は半球形を呈するもののみのようである。甕は球胴甕と長胴甕の2形態が見られる。 古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は西4号住居址であり、新旧関係は西4号住居址(新)→西18号住居址(古)であった。

○ 西19号住居址(第258 · 605図)

518+00N6、518+00N6、518+00N8、518+10N8のグリッドに位置する。

平面は方形ないし長方形と考えられるが、西壁部は他住居址などで切られている。規模は南北 4mを測る。東西は南壁の確認できる部分で 3.25mを測る。長軸方向は $N-36^{\circ}-E$ を指す。

壁の検出状況は良くない。確認された壁高は東壁 5 cm、南壁 3.5cm、北壁 5.5cmほどを測る。カマドは確認された壁まわりには認められず、また設置位置を推定できるような焼土も見られなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は東壁側に集中する傾向が見うけられた。土師器坏、皿、甕、羽釜などである。坏、皿は 器体部下半にへう削りを施すものに限られるようである。特に口縁部の肥厚が目に付く。平安 時代前半と考えられる。

重複遺構は西17号住居址であり、新旧関係は西17号住居址(新)→西19号住居址(古)であった。

○ 西20号住居址(第259 · 606図)

518+15 S₁、518+05 S₁、518+05 N₂、518+15 N₂のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 2.75m、南北 3.25mを測る。主軸方向は $N-100^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 11.5cm、西壁 8cm、南壁 6cm、北壁 4cmほどを測る。カマドは東壁の南壁際に設置されている。袖部を石組する形態であるが片側のみが残存している。 焼土混入土が厚さ 10cm前後に堆積しているのが認められる。また支脚と考えられる柱状の石が据えられている。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は北壁側で多く見られた。土師器坏、蓋坏、皿などがある。坏、皿は器体部下半にヘラ削りを施すものに限られるようである。蓋坏は大口径のものである。平安時代前半と考えられる。 重複遺構はない。

○ 西21号住居址(第259 • 606~608図)

518+00N₃、517+90N₃、517+90N₅、518+00N₅のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭が確認された程度にすぎない。平面は方形を呈している。規模は 東西 3.4m、南北 3.6mを測る。主軸方向は $N-96^{\circ}-E$ を指す。

カマドは東壁の中央よりやや南壁側に寄った位置に設置されていた。しかし焼土などが認められた程度で、構造などは不明である。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴は確認できなかった。カマドの南側の脇あたりに、長径 1.15m、短径 0.6m、深さ 24cmほどの土城が見られ、貯蔵穴かと考えられ、中から土師器皿などが出土している。

遺物はカマド、貯蔵穴付近に集中が見られる。土師器坏、皿、甕、灰紬陶器皿、壺、滑石製臼 玉などがある。坏は器体部下半にヘラ削りを施すものであるが、内面に暗文を施すものとそう でないものとが見られる。甕は大小のものが見られ、いずれも器壁が薄く作ってある。平安時 代前半と考えられる。 重複遺構はない。

○ 西22号住居址 (第260図)

518+10N₂、518+05N₂、518+05N₄、518+10N₄のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.65m、南北 2.73mを測る。主軸方向は $N-120^\circ-E$ を指す。壁の検出状況は悪く、西壁が壁高 4cmほどを確認できた以外は、輪郭を確認できた程度にすぎない。カマドは不明であるが、東壁の中央あたりに偏平な石が遺存しており、その状況が埋め込まれているとことからカマドの石材と考えられる。

床はやや起伏が見られるようである。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、ほとんど得られなかった。他の住居址との重複関係からおおよそ、平安時代 前半ころと考えられる。

重複遺構は西5・西15号住居址であり、新旧関係は西5・西15号住居址(新)→西22号住居址(古)と捉えた。

○ 西23号住居址(第260図)

518+20N₅、518+15N₅、518+15N₇、518+20N₇のグリッドに位置する。

本住居址は炭化材、カーボンなどが多量に認められ、火災住居址と思われる。

平面は長方形を呈する。規模は東西 4.3m、南北 3.75mを測る。長軸方向は N -135° - E を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 7.5cm、西壁 4cm、北壁 9.5cmほどを測る。南壁は輪郭が確認された程度にすぎない。カマドは確認されている壁まわりには見られず、不明である。

床は平坦に作られている。住居址の南東部分を中心に炭化材、カーボンなどが多量に遺存している。柱穴と考えられるピットが 3 ケ所確認された。直径 25cm 前後で、深さは P_1-20cm 、 P_2-20cm 、 P_3-24cm 、ほどを測る。

遺物は小破片がわずかに見られたにすぎず、図示できなかった。他の住居址の切合い関係から古墳時代後期後半ころと考えられる。

重複遺構は西7・西10号住居址である。新旧関係は西7・西10号住居址(新)→西23号住居址(古)であった。

○ 西24号住居址(第261 • 609 • 610図)

518+10N₁、518+00N₁、518+00N₃、518+10N₃のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.45m、南北 3.25mを測る。主軸方向はN-9°-Eを指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 23cm、西壁 5cm、南壁 9cm、北壁 15.5cmを測る。カマドは北壁のほぼ中央に設置されている。袖部の前面のみに袖石を据える形態と思われる。しかし残存状況は良くなく、構造などは不明である。焼土混入土が厚さ 5cm前後に堆積している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。西壁の北壁寄りあたりに粘土

塊が遺存していた。

遺物はカマド周辺と、南東コーナー付近に集中が見られた。土師器坏、甕、須恵器坏などがある。坏は偏平な半球形の形態をとる。甕は長胴甕と球胴甕の2者が認められる。須恵器坏は口径10cm未満の小型品である。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は西1号住居址である。新旧関係は西1号住居址(新)→西24号住居址(古)であった。

○ 西25号住居址(第262・611図)

518+05 S₁、518+00 S₁、518+00 N₂、518+05 N₂のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.45m、南北 3.7mを測る。長軸方向は $N-15^\circ-E$ を指す。 壁の検出状況は悪く、確認された壁高は東壁 5.5cm、西壁 3.cm、南壁 3.5cm、北壁 3.cmほどを測る。カマドは、いずれの壁まわりからも確認されず、また位置を推定できるような焼土の存在も見られなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は住居址の北西部に多く見られた。土師器坏、高台付坏、甕などがある。坏は器体部下半をへう削り、内面に暗文を施すものと、器体部下半にへう削りを施さないものとの2形態がある。このうち後者は混入品と考えられる。甕は大小が見られ、いずれも器壁の薄い作りである。平安時代前半ころと考えられる。

重複遺構は西1・西24・西40・西70号住居址であり、新旧関係は西1号住居址(新)→西25→西40・西70号住居址(古)であった。西70号住居址は西40号住居址より若干古出と考えられる。

○ 西26号住居址(第263・612~614図)

518+05N₂、517+90N₂、517+90N₄、518+05N₄のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 5.2m、南北 4.7mを測る。主軸方向は $N-115^{\circ}-E$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 10.5cm、西壁 16cm、南壁 20.5cm、北壁 16cmほどを測る。カマドは東壁の中央よりわずかに北壁側に寄った位置に設置されている。袖部を石組する形態である。左右袖石間は 57cmほどを測る。焼土混入土が厚さ 15cmほどに堆積している。なお本住居址のカマドは西33号住居址のカマドの前面に主軸を同じくして構築されている。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は住居址の中央付近を中心に分布が見られた。土師器坏、高台付坏、皿、甕、羽釜、置カマド、灰紬陶器段皿などがある。坏は器体部下半にヘラ削りを施すものがほとんどである。高台付坏は内面黒色のものと、器体部に全くヘラ削りを持たない形態とがある。後者は混入品と考えられる。皿も坏と同様に器体部下半にヘラ削りを施すものが主体を占め、わずかにヘラ削りを施さない形態がある。後者は混入品と考えられる。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は西33・西76・西80号住居址である。新旧関係は西26号住居址(新)→西33・西76・ 西80号住居址(古)となる。なおいずれの住居址との間にも、時間差はほとんど認められない状 況といえる。

○ 西27号住居址(第264 • 615図)

518+00N₁、517+90N₁、517+90N₃、518+00N₃のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.7m、南北 3.05mを測る。主軸方向は $N-141^{\circ}-E$ を指す。壁の検出状況は悪い。確認された壁高は東壁 8.5cm、西壁 2.5cm、南壁 4.5cm、北壁 4.5cmを測る。カマドは東壁の南壁よりに設置されている。袖部は石組される形態である。左右の袖石間は入口部で 37cmほどを測るが、置くに向かって幅を減じている。焼土混入土が認められる。

床は平坦に作られている。北壁コーナー付近に焼土が認められる。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド周辺に多く見られた。土師器坏、甕などがある。坏は器体部下半にヘラ削り、 内面に暗文を施すものと、器体部にヘラ削の全く施されないものとがある。このうち後者は混 入品と考えられる。甕は器壁の薄い作りのものである。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は西38 • 西71号住居址である。新旧関係は西27号住居址(新)→西38→西71号住居址 (古)であった。

○ 西28号住居址(第264·616図)

 $518+10\,N_3$ 、 $518+00\,N_3$ 、 $518+00\,N_5$ 、 $518+10\,N_5$ のグリッドに位置する。

平面は不整形な楕円形を呈する。規模は長軸5.3m、短軸4.85mを測る。長軸方向は $N-85^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁で16cm、西壁で4cm、南壁で8cm、北壁で16cmほどを測る。炉の位置は明確にならず、また位置を推定する焼土なども見られなかった。

床はわずかに起伏を認められる程度である。柱穴、貯蔵穴などは確認できなかった。

遺物は少なく、住居址の中央あたりに甕の破片が見られた。縄文時代中期初頭ころの土器と 考えられる。本遺構を一応住居址として捉えたが炉が確認できず、住居址としての明確性を欠 く。

重複遺構はない。

○ 西29号住居址(第265·617~619図)

518+15N₅、518+05N₅、518+05N₇、518+15N₇のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 4.25m、南北 3.55mを測る。主軸方向は $N-11^\circ-E$ を指す。

壁の検出状況は比較的良好であった。確認された壁高は東壁 28.5cm、西壁 4 cm、南壁 35.5cm、北壁 20.5cmほどを測る。東壁と南壁の一部に幅25~40cm、深さ 5 cm前後の周溝が回る。カマドは北壁の中央に設置されている。袖部の前面にのみ袖石ないし袖石の代わりとして長胴甕を据える形態である。この左右の袖石間は 55cmほどを測る。なお左右袖石間には長胴甕が 3 個ほど連

なった状況で残存しており、袖石間に差し渡して天井部を構築したものといえよう。また袖石から奥に向かって袖部は粘土で構築されたものと考えられる状況が断面において確認された。 焼土混入土の堆積が見られる。

床は平坦に作られている。柱穴と考えられる直径20cm前後のピットが4ケ所確認され、深さは $P_1-18.6cm$ 、 $P_2-9.7cm$ 、 $P_3-8.7cm$ 、 P_4-23cm を測る。カマドの東脇には楕円形の貯蔵穴と考えられる土城がある。長さ1.15m、幅0.65m、深さ7cmを測る。また西壁の北壁近くにも楕円形の土城が見られる。長さ1.5m、幅0.85m、深さ20cmを測る。これも貯蔵穴と考えられる。

遺物はカマドを中心として分布が見られた。土師器坏、塊、鉢、甕、手 土器、須恵器蓋坏などがある。坏は偏平な半球形のもののみであった。甕には長胴甕、球胴甕などのほかに、小型の台付甕が見られる。須恵器蓋坏は口径が11cmほどの小型品である。古墳時代後期後半と考えられる。

重複遺構は西58号住居址であり、新旧関係は西29号住居址(新)→西58号住居址(古)であった。

○ 西30号住居址(第266 • 620図)

517+95S2、517+90S2、517+90N1、517+95N1のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.55m、南北 4.25mを測る。主軸方向は N - 101° - E を指す。

壁の検出状況は比較的良好である。確認された壁高は東壁 28.5cm、西壁 4 cm、南壁 35.5cm、北壁 20.5cmを測る。カマドは東壁の北壁寄りに設置されている。袖部を石組する形態であり、左右の袖石間は 40cmほどを測る。中央には柱状に石が据えられており、支脚と考えられる。焼土混入土が厚さ 10cm前後に堆積する。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド周辺に多く認められた。土師器坏、皿、甕などである。坏は器体部下半をヘラ削り、内面に暗文を施すものと、器体部下半にヘラ削りのみを施すものとが見られる。前者は混入品と考えられる。皿は器体部下半にヘラ削りを施すものを主体とする。甕は口縁部にやや肥厚が認められる形態である。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は西47・西53・西68号住居址であり、新旧関係は西30号住居址(新)→西47・西53→ 西68号住居址(古)であった。

○ 西31号住居址(第267 • 621図)

518+05 S₂、517+95 S₂、517+95 N₁、518+05 N₁のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.3m、南北 4mを測る。長軸方向は $N-105^{\circ}-E$ を指す。壁の検出状況は悪い。確認された壁高は東壁 2.5cm、南壁 3cm、北壁 3cmを測る。西壁は輪郭が確認された程度にすぎない。カマドは確認されている壁まわりには見られず、また位置を推定させる焼土なども認められなかった。

床はやや起伏が見られる。柱穴などは確認できなかった。

遺物は坏、甕、羽釜などである。坏は器体部下半にヘラ削りを施し、中には内面に暗文を施す例がある。なお内面黒色の坏は口縁部形態が著しく違い、混入品と考えられる。甕は器壁の薄い作りである。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は西13号住居址である。新旧関係は西13号住居址(新)→西31号住居址(古)であった。しかし遺物から見た場合時間的にはほとんど差がないものと考えられる。

○ 西32号住居址(第267 • 622 • 623図)

517+90 S₃、517+80 S₃、517+80 S₁、517+90 S₁のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 2.4m、南北 3.35mを測る。長軸方向はN-7°-Eを指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 9 cm、西壁 12.5cm、南壁 7 cm、北壁 6 cmほどを測る。カマドは東壁と南壁の接する南東コーナーに設置されている。袖部を石組する形態である。左右の袖石間は 25cmほどと狭い。焼土ブロックはわずかであったが、焼土混入土は厚さ 15cmほどに堆積している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は住居址の東側部分に多く見られた。土師器坏、高台付坏、甕などがある。坏は器体部下半にへラ削りを施さないのを基本とする。高台付坏は内面が黒色を呈する。甕には大小が見られ、小型品はロクロ整形による稜が顕著に認められる。平安時代後半と考えられる。

重複遺構はない。

○ 西33号住居址 (第268・623図)

518+05N₂、517+95N₂、517+95N₄、518+05N₄のグリッドに位置する。

平面は方形ないし長方形を呈する。規模は南北 2.5mを測る。主軸方向はN-105°-Eを指す。 東西は西壁が明確にならず、南壁の確認できる部分で 1.25mを測る。

壁の検出状況は悪い。確認された壁高は東壁 3.5cm、南壁 3cm、北壁 3cmを測るにすぎない。カマドは東壁に設置されている。なおカマドの正面に主軸と同方向に西26号住居址のカマドが設置がされている。袖部を石組する形態で、左右の袖石間は50cmほどを測る。焼土混入土が厚さ 10cmほどに堆積している。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器坏、皿、甕などがある。坏、皿は器体部下半をヘラ削りするものである。なお坏の中には内面黒色の例も見られる。甕は口縁部に肥厚化が見られる形態のものが認められる。 平安時代前半と考えられる。

重複遺構は西26号住居址であり、新旧関係は西26号住居址(新)→西33号住居址(古)となる。

○ 西34号住居址(第269・624図)

518+00S1、517+90S1、517+90N2、518+00N2のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.3m、南北 3.2mを測る。主軸方向は $N-92^{\circ}-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 11.5cm、西壁 8.5cm、南壁 7.cm、北壁 10.5cmほどを測る。 カマドは東壁の中央よりわずかに南壁側に寄った位置に設置されている。袖部を石組する形態 で、左右の袖石間は 44cmほどを測る。焼土が厚さ 10cmほどに堆積する。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認されなかった。

遺物はカマドおよび南壁側に多く見られた。土師器坏、皿、甕などがある。坏、皿は器体部下 半にへう削りを施すものに限られる。甕は口縁部が肥厚し、かつ器壁も厚い作りである。平安 時代前半と考えられる。

重複遺構は西71号住居址であり、新旧関係は西34号住居址(新)→西71号住居址(古)であった。

○ 西35号住居址(第270 · 625図)

517+85N₃、517+75N₃、517+75N₅、517+85N₅のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 4.1m、南北 3.8mを測る。主軸方向は $S-44^{\circ}-W$ を指す。

壁の検出状況は悪い。確認された壁高は東壁 6 cm、南壁 4 cm、北壁 4 cmを測る。西壁は輪郭が確認された程度にすぎない。カマドは南壁の東壁寄りに設置されている。袖部を石組する形態で、左右の袖石間は 40cmほどを測る。焼土混入土が厚さ 10cm前後に堆積している。

床はほとんど平坦に作られている。柱穴と考えられるピットが2ケ所確認された。直径 45cm前後で、深さは P_1-15cm 、 P_2-23cm ほどを測る。

遺物は少なく土師器坏、甕などがある。両者の間には時間差が大きく見られるものであり、 後者の甕はカマドの形態などからすれば混入品と考えられる。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は西46号住居址であり、新旧関係は西35号住居址(新)→西46号住居址(古)であった。

○ 西36号住居址(第271・625図)

518+90N₄、518+85N₄、518+85N₆、518+90N₆のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランが確認されたものではなく、土器の分布状況から平面プランを推定したもので、壁、カマド等が全く不明であり、住居址とするにはやや難点があるかもしれない。

土器はほぼ同程度の高さから出土しており、この分布状況からすれば平面は方形を呈し、規模は東西 2.35m、南北 2.65m ほどを推定することができる。

遺物は土師器坏、皿、高台付坏などがある。いずれも器体部に全くへラ削りが認められず、 底が回転糸切り未調整のものである。坏には底部が台状を呈する例も認められる。高台付坏の 高台は足高台である。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は周囲より土師器の出土が認められ、何らかの遺構の存在を想定できるが明確にできなかった。

○ 西37号住居址(第271 • 626 • 627図)

517+95 S₄、517+85 S₄、517+85 S₂、517+95 S₂のグリッドに位置する。

本住居址は平面プラン、カマドが確認されたにすぎない。平面は長方形を呈する。規模は東西 2.3m、南北 3.45mを測る。主軸方向は $N-112^{\circ}-E$ を指す。

壁はほとんど検出されなかった。カマドは東壁のほぼ中央に設置されている。袖部を石組する形態であるが、片側の袖は大きく壊されている。左右の袖石間は 54cmほどを測る。焼土混入土が厚さ 15cm前後に堆積している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器坏、甕、須恵器坏、甕などがある。土師器坏はいずれも盤状形ないし箱形の形態をとるが、内面に暗文を持つものと持たないものとが見られ、暗文を持つものは概して身が深い。甕は球胴甕といえよう。須恵器坏は底が回転糸切り未調整のものである。坏(図版第718-9)の底には「十二月」なる墨書が認められる。奈良時代と考えられる。

重複遺構は西52号住居址であり、新旧関係は西37号住居址(新)→西52号住居址(古)であった。

○ 西38号住居址(第272·628図)

518+05N₁、517+95N₁、517+95N₃、518+05N₃のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 4.3m、南北 3.45mを測る。主軸方向は $S-13^\circ-W$ を指す。壁の検出状況はあまり良くない。確認された壁高は東壁 4cm、西壁 4cm、南壁 6cm、北壁 5cmほどを測る。カマドは南壁の中央に位置する。カマドの用材と考えられる石が散乱する。袖部を石組する形態と考えられるが、明確な構造は分からない。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器坏、皿、甕などがある。坏は器体部下半にヘラ削りを施し、内面に暗文の見られる例もある。皿は器体部下半を回転ヘラ削りする。甕は器壁の薄いつくりである。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は西27・西44・西64・西71号住居址であり、新旧関係は西44・西27・西64号住居址 (新)→西38→西71号住居址(古)であった。

○ 西39号住居址(第273・629・630図)

517+90N₃、517+80N₃、517+80N₆、517+90N₆のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭とカマドの位置が確認された程度にすぎない。特に北壁は全く確認できず、東壁もわずかに推定できたにすぎない。平面は方形ないし長方形と考えられる。規模は東西 5.35mを測る。南北は確認できる範囲で 3.7mほどを測る。主軸方向は $N-105^{\circ}-E$ を指す。

壁の検出状況は極めて悪く、確認できた壁高は南壁が 5cmほどであった。カマドは東壁の中央あたりに設置されたものと考えられる。焼土、カーボンなどが東西 1.1m、南北 0.8mの範囲

に散布しており、カマドの設置位置と考えられる。しかし焼土が厚さ 5 cm ほどに堆積しているのが認められた以外、構造を明確にはできなかった。

遺物はほぼ全面に見られた。土師器坏、高坏、甕などがある。坏は小さい平底をもつ半球形で、身の深いものと浅いものとが見られる。甕はすべて球胴甕である。古墳時代中期後半~後期初頭ころと考えられる。

重複遺構はない。

○ 西40号住居址 (第274・631図)

518+05 S₁、517+95 S₁、517+95 N₂、518+05 N₂のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 4.25m、南北 3.85mを測る。主軸方向は N -17° - E を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 8 cm、西壁 4 cm、南壁 10 cm ほどを測る。北壁は輪郭が確認された程度である。カマドは北壁の中央に設置されている。焼土混入土が10 cm 前後に堆積しているのが認められる以外、袖石などは見られず、構造は不明である。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少ない。土師器坏、蓋坏、甕、土玉などがある。坏は器体部下半にヘラ削り、内面に暗文を施すものを基本としている。蓋坏は坏に比べて口径が大きい。甕は大小見られるが、いずれも器壁が薄く作られている。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は西1・西24・西25・西44・西70号住居址である。新旧関係は西1・西44・西25号住居址(新)→西40→西70・西24号住居址(古)であった。

○ 西41号住居址 (第275・632~635図)

517+90 S₂、517+80 S₂、517+80 N₁、517+90 N₁のグリッドに位置する。

平面は北壁が南壁に比べ短く、矩形を呈する。住居址北西部の検出状況は悪く、不明瞭である。規模は中央で東西 6.1 m、南北 4.95 mを測る。主軸方向はN-36°-Eを指す。

壁の検出状況は良くない。確認された壁高は東壁 4 cm、南壁 3 cm、北壁 4.5 cmを測る。西壁は輪郭が確認された程度である。カマドは北壁の中央よりやや東壁側に寄った位置に設置されている。袖部の正面のみに石の代わりに甕を据えた形態と考えられる。この袖部の甕の脇には、他の甕の破片が直線状に散乱しており、あるいは天井部を構成したものが落下した可能性もある。焼土混入土が厚さ 5 cm前後に堆積している。

床は平坦に作られている。柱穴などは認められなかった。

遺物はカマド周辺と、住居址の北西コーナー付近に多く見られた。土師器坏、高坏、塊、甕、飯、円筒形土器、土製支脚などがある。坏は偏平な半球形のものを主体とし、内面黒色のものも見られる。甕は大小で9個体が見られる。球胴甕と長胴甕とが見られるが、両者の間には違和感を認めざるを得ない。本住居址の年代は古墳時代後期前半と考えられる。なお甕のうちの球胴甕は古墳時代後期の中でも溯るものと考えられ、他の遺物とは開きがある。この球胴甕の

出土した付近は西67号住居址と重複する部分があり、西67号住居址の遺物の可能性もある。と すれば本住居址の東西の規模が幾分縮小されることになる。

重複遺構は西67号住居址であり、新旧関係は西41号住居址(新)→西67号住居址(古)である。

○ 西42号住居址(第276 • 637 • 638図)

517+80N₃、517+70N₃、517+70N₄、517+80N₄のグリッドに位置する。

本住居址は南東コーナー付近をわずかに確認したにすぎない。平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられる。規模は確認できる部分で東壁、南壁ともに 1.4 mを測る。

カマドは確認できなかった。

柱穴と考えられる直径 35cm、深さ 23.5cm ほどを測るピットが 1 ケ所検出された。

貯蔵穴と考えられる長方形のピットが南東コーナー付近に見られる。このピットは長さ 0.85 m、幅 0.6m、深さ 20cmほどを測る。また貯蔵穴の西側全面に幅 30cm、高さ 7cm前後の土堤が設けられている。

遺物は貯蔵穴内やその周辺に見られ、土師器坏、高坏、甕などがある。坏は小さな平底をもち、かつ口縁部が外反する半球形の形態をとる。甕は球胴甕である。古墳時代中期ころと考えられる。

重複遺構は西60号住居址であり、新旧関係は西60号住居址(新)→西42号住居址(古)であった。

○ 西44号住居址(第276 • 637 • 638図)

518+00N₁、517+95N₁、517+95N₂、518+00N₂のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランを遺物の出土状況から推定したにすぎず、北壁側に存在する他住居址 との切合いも明確にできなかった。平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられる。規模 は東西方向で3.8m程度が考えられる。

カマドは不明である。

遺物は土師器坏、高台付坏、蓋坏、甕、羽釜などがある。坏は器体部下半にヘラ削りを施さず、 底がわずかに台状を呈する形態が主体を占めている。甕は口縁部、胴部が共に厚く作られてい る。羽釜はやや雑な作りを思わせる。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は西38・西64・西70号住居址である。新旧関係は切合いからは明確にならなかった。 遺物からすれば西44号住居址(新)→西38・西64・西70号住居址(古)となる。

○ 西45号住居址(第277 • 639図)

517+95 S₁、517+85 S₁、517+85 N₂、517+95 N₂のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.25m、南北 2.55mを測る。主軸方向は N -129° - E を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 11.5cm、西壁 4.5cm、北壁 7.5cmほどを測る。南壁は輪郭が

確認された程度である。カマドは東壁のほぼ中央に設置されている。袖部を石組する形態であるが残存状況は良くない。この左右の袖石間は 48cmほどを測る。中に焼土混入土が厚さ10cm前後に堆積している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド周辺と、西壁側に多く見られた。土師器坏、皿、高台付坏、甕、羽釜、鉄製紡錘車などがある。坏、皿は器体部下半にへう削りを施すものと施さないものとの2形態が、ほぼ同数認められる。しかし底部形態では、回転糸切り未調整のものがほとんどを占めている。甕は口縁部が肥厚する形態である。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は西68 • 西69号住居址であり、新旧関係は西69号住居址(新)→西45→西68号住居址(古)である。

○ 西46号住居址(第278 • 279 • 640~644図)

517+90N1、517+75N1、517+75N4、517+90N4のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 9 m、南北 9.4mの大型住居址である。西壁の中央付近に東西方向に水道管埋設溝が走る。又南壁の東壁際には馬入れによる撹乱部分が見られる。主軸方向は $N-12^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 19cm、西壁 5cm、南壁 9cm、北壁 6cmを測る。カマドは北壁の中央よりわずかに東壁側に寄った位置に設置されている。袖石などは全く確認できなかった。焼土混入土が厚さ10cm前後、幅 45cm、長さ 1.4mほどに認められた程度で構造は不明である。

床は平坦に作られている。柱穴と考えられる直径 20cmほどのピットが 4 ケ所確認された。その深さはいずれも 70cm前後を測る。

カマドの東壁側の脇には楕円形の土城があり、貯蔵穴と考えられる。長径 1.8m、短径 1.1m、深さ 21cmほどを測る。また南壁の中央付近にも方形の土城が見られ、これも貯蔵穴と考えられる。東西 0.9m、南北 0.9m、深さ 22cmを測る。

粘土塊が南西コーナーの柱穴の近くに認められた。また南壁と西壁際に焼土などの散布が認められた。

遺物はカマド周辺、南壁側の貯蔵穴を中心とする付近に多く見られた。土師器坏、塊、高坏、鉢、甕、須恵器 、甕、銅鏃、管玉などがある。坏は小さな平底をもつ半球形の形態をとるが、口縁部が内湾気味のものと外反する2形態がある。高坏は脚部のみの確認であるが、やはり、裾部が有段のものと、ラッパ状に広いものとの2形態がある。甕は6個体ほど見られ、ほとんどが球胴甕である。1例のみ台付甕の台が認められる。須恵器 疎は頸部が細く、胴部中央に細かい波状文が施されている。甕は口唇部直下に稜をめぐらすものである。胎土は共にセピア色を呈する。古墳時代中期と考えられる。

重複遺構は西35号住居址であり、新旧関係は西35号住居址(新)→西46号住居址(古)であった。

○ 西47号住居址(第280·645図)

518+0052、517+9052、517+9051、518+0051のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.45m、南北 3.25mを測る。長軸方向は $N-84^\circ-E$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 7cm、西壁 3cm、南壁 6.5cm、北壁 5cmを測る。カマドは南北コーナー付近に焼土などが認められ、カマドの設置された場所と考えられる。しかし、伴出土師器との関係でこれまで考えられている設置位置と違い違和感をもつ。袖石らしき礫とその周辺にカマド構築用材と考えられる礫が散乱している程度で、構造は不明である。焼土混入土が厚さ 5cm 前後に堆積している。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド周辺と北壁近くに多く見られた。土師器坏、皿、甕などがある。坏は器体部下半にへう削り、内面に暗文を施すものがほとんどである。皿は器体部下半を回転へう削りする。 甕は器壁の薄い作りのものである。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は西30号住居址であり、新旧関係は西30号住居址(新)→西47号住居址(古)であった。

○ 西48号住居址(第281 • 646 • 647図)

 $518+00\,S_1$ 、 $517+90\,S_1$ 、 $517+90\,N_2$ 、 $518+00\,N_2$ のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 6 m、南北 5.95mを測る。ただし、西半分位は他住居址との切合いで明確性を欠く。なお炭化材などが多く見うけられた。長軸方向は $N-118^\circ-E$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 8 cm、南壁 3 cm、北壁 9.5cmを測る。カマドは確認できた壁まわりには見られなかった。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は住居址の東半分からことごとく出土を見た。土師器坏、城、高坏、甕、甑などがある。 坏は小さな平底で半球形を呈するものがほとんどである。甕は球胴甕、長胴甕とが見られるが、 後者は混入品と考えられる。甑は底部の破片であるが、小型の鉢形を呈するものと考えられる。 古墳時代中期ころと考えられる。

重複遺構は西34・西68・西71号住居址である。新旧関係は西34・西68号住居址(新)→西48・西71号住居址(古)である。西71号住居址との新旧関係は切合い関係からは明確にならなかった。 遺物からみれば西71号住居址が先行する形態といえる。

○ 西49号住居址(第282・648図)

517+75S3、517+65S3、517+65S1、517+75S1のグリッドに位置する。

本住居址は南壁側に未掘部分を残す。平面は方形ないし長方形と考えられる。規模は東西 4.3 mを測る。南北は確認できる範囲で 3.4 mを測る。主軸方向はN-103°-Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 7 cm、西壁 3.5cm、北壁 4 cmほどを測る。カマドは東壁の中央付近に設置されているものと考えられる。袖部を石組する形態と考えられるが、残存状況

は悪い。焼土混入土が厚さ 10cm前後に堆積する。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド周辺と、西壁側に多く見られた。土師器坏、皿、甕、置きカマド(片)、須恵器四耳壺(片)、灰紬陶器城などがある。土師器坏、皿は器体部下半にヘラ削りを施すものを基本とし、口縁部が玉縁を呈する。平安時代前半ころと考えられる。

重複遺構は西59号住居址であり、新旧関係は西49号住居址(新)→西59号住居址(古)であった。

○ 西50号住居址(第283・649図)

517+70N2、517+65N2、517+65N3、517+70N3のグリッドに位置する。

平面は北壁と西壁の輪郭の一部、それにカマドが確認あるいは推定できたにすぎない。東壁側は南北に走る溝に切られ、南壁部は輪郭も明確にできなかった。規模は東壁が 3.5m、西壁が 2.3mほどを推定できたにすぎない。主軸方向は $N-8^\circ-E$ を指す。

カマドは北壁の西壁近くに設置されていた。しかし焼土がわずかに確認できる程度で構造は 不明である。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドおよびその周辺に見られた。土師器坏、甕などがある。坏は器体部下半に不鮮明ながらへラ削り、また内面にも暗文を推定できる痕跡が認められた。甕は器壁の薄い作りである。平安時代前半ころと考えられる。

重複遺構は西65・西75号住居址であり、新旧関係は西65号住居址(新)→西50→西75号住居址(古)であった。

○ 西51号住居址(第284・649図)

517+70N₂、517+60N₂、517+60N₄、517+70N₄のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 4.65m、南北 4.25mを測る。主軸方向は $N-107^{\circ}-E$ を指す。

壁の検出状況は悪い。確認された壁高は南壁が 4.5cmを測るほかは、輪郭が確認された程度にすぎない。カマドは東壁の中央やや南壁側に寄った位置に設置されていたものと考えられるが、焼土の残存がわずかに認められた程度で、構造は不明である。

床は南壁寄りに一部明確に認められたが、その他はやや不鮮明であった。ほぼ平坦に作られているものと考えられる。柱穴などは明確にできなかった。

遺物は東壁と南壁際に多く見られた。土師器坏、皿、鉄製品などがある。皿は器体部下半を回転へラ削りするものである。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は西75号住居址であり、新旧関係は西51号住居址(新)→西75号住居址(古)であった。

○ 西52号住居址 (第284・649図)

517+95 S₄、517+85 S₄、517+85 S₂、517+95 S₂のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.6m、南北 2.55mを測る。主軸方向は $N-22^{\circ}-E$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 32cm、西壁 21cm、南壁 33.7cmを測る。北壁は明確にならなかった。カマドは北壁の東壁際に設置されている。袖部の袖石と考えられる石が 1 個残存しているにすぎず、構造は明確にならなかった。焼土混入土が厚さ 15cmほどに堆積していた。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器坏、甕などである。坏は底が大きく、身の深い形態をとる。器体部下半に底から続く回転へう削りが見られる。外面にタテ方向のへう磨きが施されている。また内面黒色のものも見られる。甕は球胴甕である。奈良時代と考えられる。

重複遺構は西37号住居址である。新旧関係は西37号住居址(新)→西52号住居址(古)であった。

○ 西53号住居址(第285・650図)

517+95S2、517+85S2、517+85N1、517+95N1のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.7m、南北 3.3mを測る。主軸方向はN-30°-Eを指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 15.5cm、南壁 5 cm、北壁 5 cmほどを測る。西壁は一部輪郭 が確認された程度である。カマドは北壁のほぼ中央に設置されている。焼土混入土が厚さ 15cm ほどに堆積し、その中に支脚と考えられる石が据えられている。袖の構造は明確でないが、一 部に粘土で構築したと考えられる部分が認められる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少なかった。土師器坏、鉢、甕などがある。坏にはやや大型で稜を持つ形態と、器体部下半にへ う削り、内面に暗文を施す形態とが見られる。甕は口縁部を肥厚する形態である。遺物には新旧 2 相が認められるが、カマドの構造などからすれば 1 、 2 、 6 が本住居址に伴うもので、他は混入品と考えられる。古墳時代後期と考えられる。

重複遺構は西30・西41号住居址であり、新旧関係は西30号住居址(新)→西53→西41号住居址 (古)であった。

○ 西54号住居址(第286 • 651図)

517+65 S₃、517+55 S₃、517+55 S₁、517+65 S₁のグリッドに位置する。

本住居址は南壁部に未掘部分を残す。平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられる。 規模は東西 3.7mを測る。南北は確認できる範囲で 3.3mを測る。長軸方向は $N-120^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 7 cm、西壁 5 cm、北壁 5 cmほどを測る。カマドは確認されず、確認されている壁まわりに位置を推定するような焼土などは認められなかった。

床はやや起伏が見られる。柱穴などは確認できなかった。

遺物は住居址の中央付近に多く見られた。土師器坏、皿、灰紬陶器塊などがある。坏、皿は器

体部下半をヘラ削りするものがほとんどである。平安時代前半ころと考えられる。

重複遺構は西72号住居址の平面の位置からは重複するものと考えられるが、明確にならなかった。遺物からすれば西54号住居址(新)→西72号住居址(古)となる。

○ 西55号住居址(第286 • 652図)

517+70N3、517+65N3、517+65N4、517+70N4のグリッドに位置する。

本住居址は東壁と南壁の一部の輪郭が確認された程度にすぎない。平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられる。規模は東壁が3.5m、南壁が2.5mほどまで推定できた。

床は住居址の南東コーナー付近に比較的しっかりした床が認められた。

遺物は土師器坏、蓋坏、甕、ガラス製小玉などがある。坏は器体部下半をヘラ削りするものがほとんどであり、中には内面に暗文を施す例も見られる。しかし暗文を施す例は混入品と考えられる。甕は口縁部がやや肥厚するものと、胴部をヘラ削りする小型の甕とが見られる。平安時代前半ころと考えられる。

重複遺構は西57・西61・西75号住居址などである。新旧関係は西57号住居址(新)→西55→西61→75号住居址(古)であった。

○ 西56号住居址(第287 • 653図)

517+70N₁、517+60N₁、517+60N₃、517+70N₃のグリッドに位置する。

本住居址は平面の輪郭とカマドが確認された程度にすぎない。平面は長方形を呈する。南東コーナーと南西コーナーとは溝などにより切られており、明確でない。規模は東西 4.15m、南北 4.75mを測る。主軸方向は $N-68^{\circ}-E$ を指す。

壁の検出状況は悪く、確認された壁高は東壁 3 cm、南壁 4 cmを測ったにすぎない。カマドは東壁の中央より南壁側に寄った位置に設置されている。焼土が厚さ 5 cmほどに堆積している以外、構造は明確にできなかった。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。なお住居址の中央西寄りに焼土が 認められた。

遺物は少ない。土師器坏、甕、須恵器坏などがある。土師器坏は底がやや大きく、器体部下半をへう削り、内面およびみこみに暗文を施す形態である。須恵器坏は底の大きい盤状に近い形態である。底は回転糸切り未調整である。平安時代前半ころと考えられる。

重複遺構はない。

○ 西57号住居址(第288 • 653図)

517+70N₃、517+60N₃、517+60N₅、517+70N₅のグリッドに位置する。

本住居址はカマドとその前後の壁の輪郭が確認できたにすぎない。平面は方形ないし長方形を呈するものと考えられる。規模はおおよそ 4.5m前後かと推定される。主軸方向は $S-17^{\circ}-W$ を指す。

カマドは南壁のほぼ中央に設置されたものと考えられる。焼土混入土が厚く堆積しているが、 構造は不明である。

床はカマドの前面に一部良好に認められた。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器坏、羽釜などがある。坏は器体部にヘラ削りを全く施さないものが主体を占めるようである。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は西55・西61・西78号住居址であり、新旧関係は西57号住居址(新)→西55→西61・西78号住居址(古)であった。

○ 西58号住居址 (第288・654図)

518+15N₆、518+05N₆、518+05N₇、518+15N₇のグリッドに位置する。

本住居址は北壁側に未掘部分を残し、かつ平面の輪郭が確認された程度にすぎない。平面は 方形ないし隅丸方形を呈するものと考えられる。規模は東西 4 mを測り、南北は確認できる部分で 2.5 mを測る。

壁の検出状況は悪く、確認された壁高は南壁3cmを測れたにすぎない。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴、炉などは確認できなかった。住居址の中央付近に炭化 材が認められる。

遺物は全面に見られた。土師器甕、土製紡錘車などがある。甕は口縁部にヘラによる刺突文を施すものと施さないものとがある。底はすべてヘラ整形されている。弥生時代末期ころと考えられる。

重複遺構は西29号住居址であり、新旧関係は西29号住居址(新)→西58号住居址(古)であった。

○ 西59号住居址 (第289 • 655図)

517+70S3、517+60S3、517+60S1、517+70S1のグリッドに位置する。

本住居址は南壁部側に未掘部分を残す。平面は長方形を呈する。規模は東西 $4.1 \, m$ 、南北 $4.85 \, m$ を測る。長軸方向は N -23° - E を指す。

壁の検出状況は悪く、確認された壁高は北壁 5 cmを測るにすぎず、他の壁は輪郭が確認された程度である。カマドは確認できなかった。また確認された壁まわりにカマドの位置を推定するような焼土などは認められなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少ない。土師器坏、皿などがある。坏は器体部下半をヘラ削りする形態である。皿は大きな平底から器体部下半までを回転ヘラ削りするものである。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は西49号住居址であり、新旧関係は西49号住居址(新)→西59号住居址(古)であった。

○ 西60号住居址(第290・655図)

517+80N₂、517+70N₂、517+70N₄、517+80N₄のグリッドに位置する。

本住居址は平面の輪郭とカマドが確認されたにすぎない。平面は長方形を呈する。規模は東西 5m、南北 3.4m ほどを測る。主軸方向は $N-133^\circ-E$ を指す。

カマドは東壁のほぼ中央に位置する。袖部を石組する形態であるが、片側の袖だけが残存する。焼土混入土が厚さ10cmほどに堆積している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はすくない。土師器坏、皿、甕などがある。坏は全て器体部下半にヘラ削りを施さない 形態である。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は西42・西62・西63号住居址であり、新旧関係は西60号住居址(新)→西63・西62・西42号住居址(古)であった。

○ 西61号住居址(第291・655図)

 $517+75N_3$ 、 $517+65N_3$ 、 $517+65N_5$ 、 $517+75N_5$ のグリッドに位置する。

本住居址は南東コーナー付近とカマドが確認された程度であり、北側には東西に走る水道管埋設溝が見られる。平面は方形ないし長方形と考えられる。規模は確認できる範囲で東西、南北とも 2.3m ほどを測る。主軸方向は $N-106^{\circ}-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 8 cm、南壁 4 cmほどを測る。カマドは東壁に設置されており、南壁から 1.5cmほどの距離にある。袖部を石組する形態であり、左右の袖石間は 50 cm前後を測る。焼土ブロック混入土が厚さ 15 cm前後に堆積している。またカマドの中央よりやや北寄りに支脚と考えられる柱状の石が据えられている。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド内およびカマドの脇あたりに多く見られた。土師器坏、蓋坏、皿などがある。 坏、皿は器体部下半にヘラ削りを施し、内面に暗文を施された例が見られる。平安時代前半ころと考えられる。

重複遺構は西55 • 西57 • 西62号住居址である。新旧関係は西57 • 西55号住居址(新)→西61→西62号住居址(古)であった。

○ 西62号住居址(第291・656図)

 $517+75N_3$ 、 $517+65N_3$ 、 $517+65N_5$ 、 $517+75N_5$ のグリッドに位置する。

本住居址は南東コーナー付近が確認できた程度にすぎない。平面は方形ないし長方形と考えられる。規模は確認できる範囲で東西 2.45m、南北 2.5m ほどを測る。

壁の検出状況は悪く、確認できた壁高は東壁 3 cm、南壁 3.5cm程度であった。カマドは確認できなかった。また位置を確認できる焼土なども認められなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少ない。土師器坏が図示できたにすぎない。偏平な半球形の形態である。古墳時代後期ころと考えられる。

重複遺構は西55・西60・西61号住居址である。新旧関係は西55・西60・西61号住居址(新)→西62号住居址(古)であった。

○ 西63号住居址 (第292・656図)

517+75N₂、517+65N₂、517+65N₄、517+75N₄のグリッドに位置する。

本住居址は南半分を他住居址によって大きく切られている。平面は方形ないし長方形を呈する。規模は東西が3mを測り、南北は確認できる範囲で1.7mを測る。主軸方向は $N-12^\circ-E$ を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 11.5cm、西壁 6.5cm、北壁 8.5cmほどを測る。カマドは北壁の中央よりわずかに東壁側に寄った位置に設置されている。焼土ブロック混入土が厚さ 10cmほどに堆積している。構造は不明である。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は土師器坏、甕などがある。坏は大きな平底の盤状形を呈する。みこみに放射状のヘラ磨き(暗文)の施された例もある。またこの坏には外面に「井」の線刻が見られる。甕は器壁の厚さが均一な長胴甕である。奈良時代と考えられる。

重複遺構は西60・西65・西75号住居址である。新旧関係は西60・西65号住居址(新)→西63→ 西75号住居址(古)であった。

○ 西64号住居址(第292 • 657図)

518+05N₁、517+95N₁、517+95N₃、518+05N₃のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西、南北ともに 2.75mを測る。主軸方向は $N-116^\circ-E$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 5~cm、西壁 9~cm、南壁 9~cm、北壁 8~cmほどを測る。カマドは東壁のほぼ中央に設置されているが、焼土混入土などがわずかに確認された程度で、構造は明確にならなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は南壁側に多く見られた。土師器坏、皿、甕、羽釜などがある。坏、皿は器体部下半にへ ラ削り、内面に暗文が施されるものが主体を占める。甕は器壁が薄手のものである。平安時代 前期ころと考えられる。

重複遺構は西38・西44号住居址であり、新旧関係は西44号住居址(新)→西64→西38号住居址(古)であった。

○ 西65号住居址(第293・658図)

517+75N2、517+65N2、517+65N4、517+75N4のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.25m、南北 3.15mを測る。主軸方向は $N-103^\circ-E$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 6~cm、西壁 5~cm、南壁 7~cm、北壁 8.5cmを測る。カマドは 東壁の中央よりやや南壁側に寄った位置に設置されている。袖部を石組する形態と考えられる が、残存状況は良くない。左右の袖石間は35cmほどを測る。焼土を少量含んだ堆積土が認められる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

土師器坏、皿、甕、置カマド、灰紬陶器城、長頸壺などがある。坏、皿は器体部下半にヘラ削りを施し、口縁部が玉縁を呈する。甕には大小が見られる。このうち大型の甕の口縁部は肥厚する形態である。平安時代前半ころと考えられる。

重複遺構は西50・西63・西75号住居址であり、新旧関係は西65号住居址(新)→西50・西63・西75号住居址(古)であった。

○ 西66号住居址(第294・659・660図)

517+80N₁、517+70N₁、517+70N₃、517+80N₃のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 3.2m、南北 2.9mを測る。主軸方向は $N-100^{\circ}-E$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 12.5cm、西壁 9cm、南壁 10cm、北壁 13.5cmを測る。カマドは東壁の中央よりやや南壁側に寄った位置に設置されている。おそらく袖部を石組する形態と考えられるが、残存状況は良くなく、袖部の左右に袖石が 1 個づつ残存しているにすぎない。この左右の袖石間は50cmほどを測る。焼土を少量含む堆積土が認められる。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はほぼ全面にわたって見られた。土師器坏、皿、甕、羽釜、置カマド、有孔円盤などがある。坏、皿は器体部下半にヘラ削りを施すもので、口縁部が玉縁を呈する。甕は口縁部が肥厚する形態である。置カマドは基底部と正面の庇の部分の破片である。平安時代前半ころと考えられる。

重複遺構は西73号住居址であり、新旧関係は西66号住居址(新)→西73号住居址(古)であった。なお両住居址の間にほとんど時間差は認められない。

○ 西67号住居址(第295 · 660図)

517+90 S₁、517+80 S₁、517+80 N₂、517+90 N₂のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西、南北ともに 3mを測る。主軸方向はN-5° -Eを指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 6cm、西壁 7cm、南壁 10cm、北壁 7.5cmほどを測る。カマドは北壁のほぼ中央付近に設置されているが、焼土混入土がわずかに認められる程度で、構造は不明である。

床はほぼ平坦に作られている。焼土の散布や、炭化材が認められる。また南壁の中央付近には粘土塊が見られた。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少ない。土師器坏、鉢、高坏(?)などがある。坏は半球形を呈するが、小型品である。 古墳時代後期ころと考えられる。なお西41号住居址の出土遺物のうち球胴甕は本住居址に伴う 可能性がある。

重複遺構は西41号住居址であり、新旧関係は西41号住居址(新)→西67号住居址(古)であっ

○ 西68号住居址(第295 · 661 · 662図)

517+95S1、517+90S1、517+90N1、517+95N1のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。東西 2.75m、南北 2.65mを測る。主軸方向は N - 22° - Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 14cm、西壁 12cm、南壁 18cm、北壁 10.5cmを測り、比較的良好に検出された。カマドは北壁のほぼ中央に設置されている。袖部に袖石が左右に 1 個づつ見られる。おそらく石組の形態をとるものと考えられるが、残存状況は良くない。左右の袖石間は 50cmほどを測る。焼土混入土が厚さ 10cm前後に堆積している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマド周辺と西壁側に多く見られた。遺物は土師器坏、甕などである。坏は小さな平底をもつ半球形の形態である。甕は長胴甕であり、中には胴下半部に小刻みのヘラ削りを施しているものも見られる。遺物は坏と甕との間に大きな時間的違いが認められる。坏は古墳時代中期ころと考えられ、甕は奈良時代前後かと考えられるものである。本住居址は後者の時期が該当するものであろう。前者は西48号住居址との重複部分であり、西48号住居址に帰属するものであろう。

重複遺構は西30・西45・西48号住居址である。新旧関係は西45・西30号住居址(新)→西68→西48号住居址(古)であった。

○ 西69号住居址 (第296・663図)

517+95 S₁、517+85 S₁、517+85 N₂、517+95 N₂ グリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 3.15m、南北 3.7mを測る。主軸方向は $N-91^{\circ}-E$ を指す。壁は外傾し、確認された壁高は東壁 7cm、南壁 6cm、北壁 3cmを測る。西壁は輪郭が確認された程度である。カマドは東壁の南壁近くに設置されている。袖部が石組される形態と考えられるが、残存状況は良くない。焼土混入土が厚さ 10cm前後に堆積している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少量であった。土師器坏、高台付坏、甕などがある。坏類は器体部にヘラ削りの全く、施されない形態である。甕は小型の甕で、胴部にロクロによる整形痕が横方向に走っている。 平安時代後半と考えられる。

重複遺構は西45号住居址である。新旧関係は西69号住居址(新)→西45号住居址(古)である。

○ 西70号住居址(第297 • 663図)

518+05 S₁、517+95 S₁、517+95 N₂、518+05 N₂のグリッドに位置する。

平面は方形ないし長方形と考えられる。規模は東西 3.35m を測り、南北は確認できる部分で 2.8mを測る。主軸方向はN- 108° -Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 7 cm、西壁 6.5cm、南壁 4 cmを測る。北壁は確認できなかっ

た。カマドは東壁の南壁際に設置されている。袖部を石組する形態であるが、片側のみ残存している。焼土混入土が 20cm ほどの厚さに堆積している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少ない。土師器坏、蓋坏などがある。坏は器体部下半にヘラ削りを施す。平安時代前 半ころと考えられる。

重複遺構は西44号住居址であり、新旧関係は西44号住居址(新)→西70号住居址(古)であった。

○ 西71号住居址 (第298 • 664~669図)

518+00N₁、517+90N₁、517+90N₃、518+00N₃のグリッドに位置する。

本住居址は他住居址との重複関係などから東壁側の平面プランの輪郭の一部が確認されたにすぎない。東壁の確認できる長さは2.5mほどを測る。

カマドは確認されず、位置を推定できる焼土なども検出できなかった。

床はほぼ平坦に作られている。

遺物は多量で、しかも集中して発見された。土師器坏、高坏、甕、腺、鉢、甑、須恵器 腺などが見られた。このうち土師器 腺と須恵器 腺とは10cmほどの近接した地点から出土した。この回りに甕、高坏などが、その外側に坏などが集中して遺存しているような感を見せる。坏は小さな平底の半球形を呈するものと、口縁部が外反するもの、それに小さな平底の見られない半球形のものとの3 形態があり、前2 者がほとんどを占める。高坏は受部の外面に明瞭な稜を持つものと持たないもの、脚部に段を持つものと持たずにスカート状に開くものとの2 形態がある。甕は6 個体ほど見られるが、いずれも球胴甕である。このうち35の胴部には木葉文のような線刻が見られる。甑は小型の鉢形を呈する。須恵器坏腺は口縁部下半に稜を持ち、頸部の細い形態で、胎土はセピア色を呈する。土師器の腺は須恵器 腺を模倣したものといえよう。古墳時代中期後半と考えられる。

重複遺構は西27・西34・西38・西44・西64・西77・西80号住居址である。新旧関係は本住居址がいずれの住居址よりも古い時期の所産といえる。

○ 西72号住居址(第298 • 670図)

517+65 S₂、517+55 S₂、517+55 S₁、517+65 S₁のグリッドに位置する。

本住居址は若干の焼土と土器の存在で住居址と推定したにすぎず、平面プランは明確になっていない。

遺物は土師器高坏、甕、灰紬陶器塊などがある。高坏の接合面には糸切りないしヘラ切りのような痕跡が見られる。古墳時代後期、それに平安時代中ころ2時期が見られるが、量的には前者が多く、この時期を住居址の年代と考えておきたい。灰紬陶器は混入品と考えられよう。

重複遺構は西54号住居址である。新旧関係は遺構からは明確にならなかったが、遺物からすれば西54号住居址(新)→西72号住居址(古)であった。

○ 西73号住居址(第299 • 671 • 672図)

517+80N₁、517+70N₁、517+70N₃、517+80N₃のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭とカマドの位置が確認できた程度にすぎない。平面は方形を呈し、規模は東西 4.9m、南北 4.95mを測る。主軸方向は $N-103^\circ-E$ を指す。

カマドは東壁の北壁際に設置されている。袖石の一部と考えられる石が据えられている。焼土混入土が厚さ5cm前後に認められる。構造は明確にならない。柱穴などは確認できなかった。なお南東コーナー付近にも焼土と礫とがみられるが、性格を捉えられなかった。

遺物はカマド周辺および南西コーナー付近に多く見られた。土師器坏、皿、甕、羽釜、灰紬陶器塊などがある。坏、皿は器体部下半にヘラ削りを施すものに限られるようである。甕は大小の形態が見られ、口縁部に肥厚がわずかに認められる。平安時代前半ころと考えられる。

重複遺構は西66・西74号住居址である。新旧関係は西66号住居址(新)→西73→西74号住居址 (古)であった。なお西66号住居址との間の時間差はわずかなものと考えられる。

○ 西74号住居址(第299・672図)

517+80N₁、517+70N₁、517+70N₃、517+80N₃のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭とカマドの位置が確認できた程度にすぎない。平面は方形ないし長方形と考えられる。規模は南北 3.35mを測る。東西は確認できる範囲で 2m を測る。主軸方向は $N-11^{\circ}-E$ を指す。

カマドは北壁の中央付近にあったものと考えられる。土師器甕が倒立した状態で据えられており、その埋土には焼土が混入している。袖部に据えられたものと考えられるが構造は不明である。

柱穴などは確認できなかった。

遺物は少ない。土師器甕が2個体ある。1つは長胴甕であるが口縁部を欠いている。1つは 底部片であり、小刻みなヘラ削りが認められる。古墳時代後期と考えられる。

重複遺構は西73 • 西79号住居址であり、新旧関係は西73号住居址(新)→西74→西79号住居址(古)であった。

○ 西75号住居址(第300・673・674図)

517+70N₂、517+60N₂、517+60N₄、517+70N₄のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 6.35m、南北 6mを測る。主軸方向は $N-20^\circ-W$ を指す。 壁は外傾し、確認された壁高は東壁 9m、西壁 10.5m、南壁 8.5m、北壁 10mなどを測る。カマドは確認できず、また位置を示す焼土なども認められなかった。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴と考えられるピットが 4 ケ所確認された。直径 50 cm 前後で深さは P_1-39 cm、 P_2-47 cm、 P_3-44 cm、 P_4-52 cm ほどを測る。南壁の中央よりやや西壁に寄った位置に貯蔵穴と考えられる土址が見られる。長さ 95 cm、幅 90 cm、深さ 27 cm 前後を測る。また貯蔵穴の前面には「コ」の字状にごく低い土堤が作られている。なお南西コーナー付近に

焼土の散布が認められる。

遺物は北壁と、南壁の貯蔵穴付近に多く見られた。土師器坏、高坏、甕、壺、須恵器などがある。坏は小さな平底の半球形を呈するものと、口縁部がわずかに外反する形態との2形態がある。高坏は脚部がラッパ状に開く形態が知られる。甕は球胴甕である。須恵器は把手の部分だけであるが、セピア色を呈する胎土のものである。古墳時代中期と考えられる。

・重複遺構は西50・西51・西55・西63・西65号住居址である。新旧関係は本住居址が最も古い時期の所産である。

○ 西76号住居址(第301·675図)

518+00N₃、517+90N₃、517+90N₄、518+00N₄のグリッドに位置する。

平面は方形を呈する。規模は東西 2.8m、南北 3.05mを測る。主軸方向は $N-69^{\circ}-E$ を指す。 北西コーナー付近を井戸址によって切られている。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 9 cm、南壁 11cm、北壁 9 cm ほどを測る。西壁は平面プランが確認された程度にすぎない。カマドは東壁のほぼ中央に位置している。袖部を石組する形態と考えられるが、残存状況は悪い。焼土混入土が厚さ20cm ほどに堆積している。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドの前面に多く見られた。土師器坏、甕、灰紬陶器塊などがある。坏は器体部下 半にへう削りを施すものを基本とする。甕は口縁部にわずかな肥厚の認められる形態である。 平安時代前半ころと考えられる。

重複遺構は西26・西80号住居址である。新旧関係は西26号住居址(新)→西76→西80号住居址(古)であった。なおいずれの住居址との間にも、それほどの時間的差は認められない。

○ 西77号住居址(第302・676図)

517+95N2、517+85N2、517+85N3、517+95N3のグリッドに位置する。

平面は長方形を呈する。規模は東西 2.3m、南北 1.95m ほどを測る小型の住居址である。主軸方向はN-4°-Eを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 5 cm、西壁 6 cm、南壁 5 cm、北壁 3 cmを測る。カマドは北壁の中央付近に設置されている。袖部が石組の形態である。左右の袖石間は 57 cm ほどを測る。焼土混入土が厚さ 15 cm ほどに堆積している。

床は平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物はカマドの前面あたりに多く見られた。遺物は土師器坏、高台付坏、皿、鉢などがある。 坏は器体部下半にへう削りを施すものと全く施さないものとがあり、前者が主体を占める。皿 は器体部下半にへう削りを施す形態である。鉢は口縁部が肥厚する。平安時代前半ころと考え られる。

重複遺構はない。

○ 西78号住居址 (第302・677図)

517+65N₃、517+55N₃、517+55N₅、517+65N₅のグリッドに位置する。

本住居址は南西コーナー付近の平面プランの輪郭が確認されたにすぎない。規模は確認できる範囲で東西 5.7 m、南北 4.75 m ほどを測る。

カマドは確認できず、位置も不明である。

床は平坦に作られ、硬く締められていた。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少ない。土師器坏、皿、甕などがある。1~5が本住居址に伴うものと考えられ、6~10は混入品と考えられる。本住居址に伴う坏は小さな平底で半球形を呈するものであり、口縁部が外反している。甕は球胴甕と考えられる。古墳時代中期ころと考えられる。

重複遺構は西57号住居址であり、新旧関係は西57号住居址(新)→西78号住居址(古)であった。

○ 西79号住居址(第303·678図)

517+85S1、517+75S1、517+75N2、517+85N2のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭とカマドの位置とが確認された程度にすぎない。東壁部を溝で切られている。平面は長方形を呈する。規模は東西 5.1m、南北 4.2mほどを測る。主軸方向は $N-33^\circ-E$ を指す。

カマドは北壁の東壁側に寄った位置に設置されている。袖部は明確にならず、焼土が厚さ 5 cm前後に認められた程度で、構造も明確にならなかった。

床はやや掘り過ぎて、カマドがやや浮いた状況となってしまった。

遺物はカマドを中心に認められた。土師器坏、甕、鉢、高坏、管玉などがある。坏は小さな平底をもつ半球形のものである。小型の鉢ないし壺なども見られる。古墳時代中期~後期ころと考えられる。

重複遺構は西74号住居址であり、新旧関係は西74号住居址(新)→西79号住居址(古)であった。

○ 西80号住居址(第303・679図)

518+00N₂、517+90N₂、517+90N₄、518+00N₄のグリッドに位置する。

平面は長方形ないし方形を呈するものと考えられる。規模は東西 4.5mを測る。南北は確認できる部分で 3mを測る。長軸方向は $N-74^\circ-E$ を指す。

壁の検出状況は悪い。確認できた壁高は西壁 9 cm、南壁 10cmほどを測る。東壁は輪郭が確認できた程度である。カマドは確認されず、また位置も不明である。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴などは確認できなかった。

遺物は少ない。土師器坏、鉢、甕などがある。坏は器体部下半にヘラ削りを施すものである。 甕は口縁部がわずかに肥厚する形態である。平安時代前半と考えられる。

重複遺構は西26・西71・西76号住居址である。新旧関係は西26号住居址(新)→西76→西80→

西71号住居址(古)であった。なお西76号住居址との間にはほとんど時間差は認められない。

○ 西81号住居址 (第304・680~682図)

517+75N4、517+65N4、517+65N6、517+75N6のグリッドに位置する。

本住居址は平面プランの輪郭もカマドの位置も確認できなかったものである。同形体の遺物が同一レベルで、しかもある程度の範囲の中に見られることから住居址とした。平面は方形を呈するものと考えられる。規模はおおよそ東西 4.6m、南北 4.25m ほどが考えられる。

遺物は量が多い。土師器坏、高台付坏、皿などがある。坏は器体部外面にヘラ削りを施さず 底が回転糸切り未調整の形態とするものがほとんどを占める。平安時代後半と考えられる。

重複遺構は明確にできなかった。

○ 西82号住居址(第305 • 683図)

517+35N₂、517+25N₂、517+25N₄、517+35N₄のグリッドに位置する。

平面は楕円形を呈する。規模は東西 5.17m、南北 6.15mを測る。主軸方向は N - 11° - W を指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 11cm、西壁 28.5cm、南壁 7 cm、北壁 9 cmほどを測る。

床はほぼ平坦に作られている。柱穴と考えられるピットが 2 ケ所検出された。直径 30 cm 前後で、深さは P_1-17 cm、 $P_2-27.5$ cm ほどを測る。炉が住居址のほぼ中央に設置されている。地床炉であり、枕石が 2 個据えられている。焼土範囲は東西 63 cm、南北 58 cm ほどを測り、厚さ 7 cm ほどの堆積が認められる。カマドの西脇には直径 30 cm 前後の平石が見られる。このほか、南壁側に直径 65 cm、深さ 13 cm ほどのピットが認められ、中より土器が出土した。南東の壁にも一辺55 cm、深さ 21 cm ほどのピットが見られる。

遺物は少ない。台付甕である。口縁部および底の底縁はいずれも折返して帯状に作られている。ハケメが内外面に多用されている。弥生時代末ころと考えられる。

重複遺構は西83号住居址であり、新旧関係は西82号住居址(新)→西83号住居址(古)であった。

○ 西83号住居址(第306・683・684図)

517+30N₁、517+20N₁、517+20N₃、517+30N₃のグリッドに位置する。

平面は隅丸長方形を呈する。規模は東西 6.35m、南北 5.5mを測る。主軸方向は N-7° -Wを指す。

壁は外傾し、確認された壁高は東壁 13cm、西壁 23.5cm、南壁 9.5cm、北壁 27cmを測る。

床は平坦に作られている。柱穴と考えられるピットが 4 ケ所検出された。直径 40cm前後で、深さは $P_1-38.5cm$ 、 P_2-63cm 、 P_3-43cm 、 P_4-55cm ほどを測る。

住居址の中央よりやや北寄りに炉が設置されている。地床炉であり、焼土ブロックとなっている。枕石が「L」字状に据えられている。大きさは東西 35cm、南北 50cmほどを測るが、西側を

桃の植樹による際の穴で切られている。炉の西脇に直径30cmほどの平石が遺存する。住居址の南北コーナー付近に長さ50cm、幅45cm、深さ17.5cmほどのピットが認められる。

遺物は少ない。土師器甕、壺、土製紡錘車などがある。甕は長胴の形態で口唇部に刻目、胴部 にハケメ調整を施す。小型の壺の口縁部には小孔が1個穿ってある。弥生時代末期ころと考え られる。

重複遺構は西82号住居址であり、新旧関係は西82号住居址(新)→西83号住居址(古)であった。

○ 西井戸址 (第307・308・684図)

517+95N₃、517+85N₃、517+85N₅、517+95N₅のグリッドに位置する。

西76号住居址の一角を切って構築されている。平面が方形を呈する石積の井戸址である。規模は中央で東西が上端 1.9m、下端 1.7m、南北が上端 1.5m、下端 1.5m、深さ 1.5mを測る。掘り方は底部近くまで逆台形状に、底部付近がほぼ垂直に掘られ、底は平坦である。その後四周に30~70cm前後の河原石を積み上げている。その積み上げ方法は石の横口面を内側に向けて積み上げる野面積みで空隙には小さな石を入れて塞いでいる。また壁と壁とのコーナーは両壁から鎹状に組込む部分も見られる。壁の遺存状況は東壁、南壁、北壁が旧態を呈し、西壁には大きな崩れが認められる。中には土砂、石などが堆積しており、土師器などが出土した。

井戸址の北西コーナーから北西方向に向かって溝が認められる。この溝は井戸址の掘方から連続して掘られたものであり、かつ井戸址の北西コーナー付近には溝の石積とも考えられる状況の石が溝の掘り方に沿うように北壁側に認められるもので、井戸址の排水溝と考えられる。長さ5.2m、幅65cm、深さ20cmほどを測る。

遺物は土師器坏、手揑土器などがある。坏は器体部下半にヘラ削りを施すもので、内面に暗 文を施す例も見られる。平安時代中ころと考えられる。

重複遺構は西76号住居址であり、新旧関係は西井戸址(新)→西76号住居址(古)であった。 しかし時間的にはきわめて近接している。

○ 西1号溝状遺構(第309図)

518+10N₂、518+00N₂、518+00N₄、518+10N₄のグリッドに位置する。

楕円形を呈する土城で、長軸 6.4m、短軸 4.2m、深さ 35cmほどを測る。南壁側にはさらに長軸 85cm、短軸 65cm、深さ 25cmほどの楕円形の小ピットが見られる。土城内には焼土あるいはカーボンなどの遺存は見られず、また堆積した土の中にも焼土、カーボンは認められなかった。 覆土中より土器類が出土している。土師器の高坏、甕、甑などがある。古墳時代中期ころを主体とする所産と考えられる。

重複遺構は西5・西15・西26・西33号住居址である。新旧関係はいずれの住居址よりも先行する時期である。

第1表 住居址一覧表

住居址番号	時期	住居址番号	時 期
1	古墳時代末期1~2	31	奈良•平安時代 ™~
2	″ 後期 2	32	″ XI~XI
3	奈良•平安時代 VI	33	″ ~XI
4	" VII	34	″ XII∼XII
5	″ ~W I ~	35	<i>"</i> ™~
6	″ XI~XI	36	(平安時代中ころ)
7	" XII	37	古墳時代~後期 2
8	" VII	38	奈良•平安時代 Ⅲ
9	// XII	39	// XIV
10	古墳時代後期2~3	40	古墳時代後期4~
11	奈良•平安時代 XII~XII	41	" 末期 l
12	(平安時代中ころ)	42	古墳時代
13	古墳時代前期後半	43	奈良•平安時代 XII~III
14	奈良•平安時代 ₩	44	″ ™以降
15	" XII	45	古墳時代~奈良時代
16	″ XI~XI	46	古墳時代末期 1 ~末期 2
17	″ ~XII	47	平安時代末期
18	″ ~XII	48	奈良•平安時代 XII
19	" XIV	49	" XI
20	″ ~XI	50	欠番
21	" XI	51	奈良•平安時代 Ⅸ~
22	″ XI~XI	. 52	″ XI~
23	// XV	53	古墳時代後期3
24	古墳時代後期 2	54	" 後期3~後期4
25	奈良•平安時代 Ⅷ~	55	奈良•平安時代 ☒
26	″ XI~XI	56	" XI
27	古墳時代後期3~後期4	57	欠番
28	奈良•平安時代 XI~XI	58	古墳時代後期1~後期2
29	″ ™ ~	59	奈良•平安時代 XW
30	″ XW∼	60	古墳時代後期4~

住居址番号	時 期	住居址番号	時期
61	古墳時代 後期2~後期3	93	奈良•平安時代 Ⅲ
62	// 後期 3 ~	94	古墳時代~奈良•平安時代
63	奈良•平安時代 ~Ⅷ	95	奈良•平安時代 XV
64	古墳時代 後期3	96	古墳時代 後期 2
65	// 末期 3	97	奈良•平安時代 I
66	奈良•平安時代 XI	98	(古墳時代後期ころ)
67	古墳時代 末期1~	99	奈良•平安時代 VⅢ
68	〃 前期後半~中期前半	100	古墳時代 末期 1
69	// 末期 1	101	奈良•平安時代 Ⅲ
70	// 後期1	102	古墳時代 末期 1
71	〃 前期前半	103	" 後期 2
72	″ ~後期2~	104	奈良•平安時代 ~XⅢ
73	(古墳時代後期ころ)	105	" XII
74	古墳時代 前期前半	106	古墳時代 後期4~末期1
75	奈良•平安時代 Ⅱ~	107	"後期3~後期4
76	古墳時代 末期1~末期2	108	奈良·平安時代 ~XII
77	"後期3~後期4	109	古墳時代 後期 2
78	″ 後期4~末期	110	末期3~奈良•平安時代1
79	" 後期 1 ~後期 2	111	古墳時代 後期3~末期1
80	"後期1~後期3	112	〃 前期後半
81	奈良•平安時代 XV	113	″ 後期3~4
82	古墳時代 中期後半~	114	古墳時代後期
83	奈良•平安時代 凇~凇	115	古墳時代 ~後期4~
84	″ XI~XII	116	" ~後期 2 ~
85	// XV	117	″ 後期3~
86	″ ~XV	118	<i>"</i> 後期 2 ∼ 3
87	// XVI	119	奈良・平安時代 Ⅲ~Ⅳ
88	// XVI	120	古墳時代 後期2~
89	// XV	121	〃 前期後半~中期前半
90	(平安時代後半ころ)	122	奈良·平安時代 ~XII
91	奈良·平安時代 I~	123	古墳時代 後期2~
92	" XI	124	欠番

住居址番号	時 期	住居址番号	時 期
125	奈良•平安時代 XI	157	古墳時代 前期前半
126	″ ~VI	158	奈良•平安時代 ~ スス/~
127	″ VII	159	″ ~ XV
128	古墳時代 ~後期 4	160	″ XII∼XII
129	〃 中期後~	161	″ XII∼XII
130	″ ~後期3~	162	古墳時代 末期3~
131	<i>"</i> 中期前	163	″ 後期 4 ~末期 1
132	"後期 4~末期 1	164	不明
133	// 後期2~後期3	165	不明
134	奈良•平安時代 XII~XII	166	奈良•平安時代 ~XII~XII
135	" XII	167	″ XI~XII
136	// XII	168	″ ~XI~
137	" XI	169	″ ~X
138	古墳時代 中期	170	古墳時代 後期 2~後期 3
139	奈良•平安時代 ~ Ⅻ	171	奈良•平安時代 Ⅷ~
140	″ XII∼XI	172	" XI
141	不 明	173	古墳時代 後期3~後期4
142	古墳時代 ~中期	174	奈良•平安時代 XII~XII
143	" 末期 1	175	" ~ ™ ~
144	<i>"</i> 後期 3	176	″ ~XI
145	"後期3∼	177	″ XII~
146	(平安時代?)	178	<i>"</i> ₩
147	奈良・平安時代 ~ ※20~	179	// XV
148	古墳時代 末期1~	180	" VIII
149	″ 後期1~	181	(平安時代)
150	奈良•平安時代 ~XI	182	古墳時代 後期 I
151	奈良•平安時代 ~XI~	183	奈良•平安時代 Ⅶ
152	″ ~XV	184	″ ~VII~
153	″ ~ X I .	185	不明
154	″ VII	186	奈良•平安時代 XV
155	" XII	187	不明
156	欠番	188	奈良•平安時代 XI~XII

住居址番号	時 期	住居址番号	時 期
189	奈良•平安時代 (X~XI)	221	欠番
190	″ ~XII	222	"
191	古墳時代 末期Ⅲ	223	"
192	欠番	224	古墳時代~後期4~
193	奈良•平安時代 VII	225	奈良•平安時代 V
194	″ ~XI~	226	" V
195	" VIII	227	古墳時代 中期後半~後期 I
196	" X	228	奈良•平安時代 XV~XV
197	" XII	229	″ VII∼
198	// XM	230	古墳時代 中~後期
199	不明	231	〃 中~後期
200	奈良•平安時代 (Ⅲ~Ⅳ)	232	奈良•平安時代 Ⅷ
201	″ XI~XI	233	欠番
202	古墳時代後期~奈良時代	234	"
203	古墳時代 末期Ⅱ~	235.	"
204	奈良•平安時代 Ⅱ~Ⅲ	236	古墳時代 末期 I
205	″ VI∼VII	237 – 1	奈良•平安時代 VII
206	古墳時代 後期4~末期1	237 – 2	古墳時代 ~末期1~
207	// 後期 4 ~	238	〃 中期前半~中期後半
208	奈良•平安時代 Ⅱ~Ⅲ	239	奈良•平安時代 ~ 🗵
209	古墳時代 後期4~末期1	240	古墳時代 ~末期Ⅱ
210	奈良•平安時代 XII	241	奈良•平安時代 Ⅺ~™
211	古墳時代 ~後期1	242	古墳時代 ~後期 4
212	奈良•平安時代 VII	243	奈良•平安時代 ~Ⅲ
213	古墳時代 中期後半~後期前半	344	古墳時代 末期 I
214	// 後期 1	245	// 後期 4
215	奈良•平安時代 XI~	246	″ ~末期 I ~
216	″ ~Ⅲ~	247	奈良•平安時代 XII~
217	古墳時代 ~末期Ⅱ	248	欠番
218	古墳時代 後期~末期	249	"
219	″ 後期	250	(平安時代)
220	奈良•平安時代 XW~XM	251	奈良•平安時代 Ⅲ~Ⅳ

住居址番号	時 期	住居址番号	時 期
252	古墳時代 後期 4 ~末期 I	284	奈良•平安時代 Ⅷ~
253	″ ~末期 2~	285	″ XV~XV
254	奈良•平安時代 ~Ⅲ~Ⅳ	286	(古墳時代後期)
· 255	″ ~XII	287 – 1	奈良•平安時代 ▼ ~
256	古墳時代 ~末期2~	287 – 2	″ XI~XI
257	″ ~後期 4	288	″ ~XII
258	〃 末期 I	289	古墳時代 後期 3
259	〃 中期後半	290	奈良•平安時代 XI~
260	奈良•平安時代 ₩	291	// VII
261	<i>"</i> Ⅲ~	292	" VII
262	″ XI~ XI	293	″ ~XII
263	″ VII∼VII	294	古墳時代 末期 1
264	古墳時代 後期4~	295	″ 後期3 · 4~末期1
265	奈良•平安時代 XV	296	奈良•平安時代~IX~
266	″ XII∼ XII	297	古墳時代 末期 1 ~末期 2 ~
267	″ Ⅲ~ Ⅳ	298	奈良•平安時代 凇~
268	" VIII	299	古墳時代 末期 2
269	古墳時代 末期~末期 2	300	不明
270	奈良•平安時代 XII	301	奈良•平安時代~X
271	古墳時代 ~後期 3	302	欠番
272	// 中期後半	303	古墳時代 後期3~後期4
273	″ 後期2~後期3	304	奈良•平安時代 Ⅷ~
274	欠番	305	″ Ⅲ~
275	古墳時代 後期4~末期1~	306	古墳時代 後期 2 ~後期 3
276	" 中期後半~後期 I	307	奈良•平安時代 I~Ⅱ
277	″ 後期 4 ~末期 I	308	古墳時代 ~後期 4
278	" 末期 1 ~末期 2	309	(平安時代)
279	奈良•平安時代 XW	310	奈良•平安時代 XI
280	古墳時代 ~末期 1	311	古墳時代 ~末期1~
281	奈良•平安時代 XII	312	" ~ " ~
282	" IX	313	″ ~後期3~
283	古墳時代 末期1~	314	〃 中期後半~後期1

住居址番号	時期	住居址番号	時 期
315	″ 末期 1 ~末期 2	西23	(古墳時代 末期2以前)
316	古墳時代 後期4~末期1	24	古墳時代 末期 3
317	" " ~ "	25	奈良•平安時代 Ⅷ~IX
318	"後期 2 ~後期 3	26	″ XI∼XII
319	奈良•平安時代 ~IX	27	″ ~X
320	古墳時代 末期 3 以降	28	縄文時代
321	奈良•平安時代 Ⅷ~Ⅸ	29	古墳時代 末期2~末期3
322	″ ~X I ~	30	奈良•平安時代(Ⅷ)XI
323	古墳時代 ~末期3	31	" VII
324	不明	32	″ ~XW~
西 1	奈良•平安時代 XV	33	″ ~XII
2	″ XI∼	34	″ XI~XI
3	″ XI~	35	(平安時代)
4	″ ~VII~VII	36	奈良•平安時代 XW
5	" X	37	" V
6	古墳時代 ~末期2~3	38	″ ₩~X
7	奈良•平安時代 Ⅲ	39	古墳時代 ~後期1
8	古墳時代 末期2~	40	奈良•平安時代 ~Ⅷ
9	" 末期 2	41	古墳時代 後期3~
10	" "	42	″ 中期後半3~
11	" "	43	奈良·平安時代 X~XI
12	// 末期 1	44	" XIV
13	奈良•平安時代 ~IX	45	// XII • XV
14	″ ~Ⅲ~	46	古墳時代 中期後半
15	″ ~IX	47	奈良•平安時代 IX~X
16	古墳時代 末期2~末期3	48	古墳時代 中期後半~
17	奈良•平安時代 XII~XV	49	奈良•平安時代 XII~
18	古墳時代 末期 2	50	″ ~\u \text{VII}~
19	奈良•平安時代 XII	51	" X
20	" X	52	″ Ⅲ~ Ⅳ
21	″ X~XI	53	古墳時代末期1~末期2 (奈良・平安時代X~XI)
22	(" X以前)	54	奈良·平安時代 XI

住居址番号	時 期	住居址番号	時 期
西55	″ ~XII	西70	奈良•平安時代 Ⅷ~
56	奈良•平安時代 VII	71	古墳時代 中期後半
57	″ ~XV	72	" 後期 4
58	弥生時代 末期	73	奈良•平安時代 XI
59	奈良•平安時代 X~	74	古墳時代 後期4(?)
60	// XIV	75	<i>"</i> 中期後半
61	// VII	76	奈良•平安時代 ~Ⅷ
62	古墳時代 後期2又は末期2	77	″ XII∼
63	奈良•平安時代 Ⅲ~Ⅳ	78	古墳時代 中期後半~ (奈良•平安時代XI~XII)
64	″ ~X	79	古墳時代 ~後期1
65	″ ~XII	80	奈良•平安時代 XII~
66	″ XI∼XII	81	// XV
67	古墳時代 後期 1	82	弥生時代 末期
68	″ (中期後半)末期2~末期3	83	" "
69	奈良•平安時代 ~₩	井戸址	奈良•平安時代 X~XI

第2節 各時代の概要

縄文時代

遺構として捉えられたのは、西28号住居址1軒のみであった。しかし、これも住居址としては中心施設である炉の確認が見られず、やや明確性を欠くものといえる。

土器は西28号住居址の中期前葉の五領ケ台式以外にも、遺跡内より僅かであるが確認された。たとえば S T A No.519+15 N_6 地点からは早期の土器と考えられる繊維混入、底部尖形の土器がほぼ完形に近い状況で出土した。口縁部に修理孔が見られ、前面に擦痕が施されているものであった。このほか細片であるが前期の時期を中心として幾片かが採集されている。

石器類も遺構伴出品でないが打製石斧、磨製石斧それに石鏃などが見られる。

弥生時代

本時代の遺構としては弥生時代末期の住居址が3軒ほど確認され、遺跡の西側に集中する傾向が認められた。住居址形態は基本的に隅丸方形を呈するものと考えられる。

出土遺物は口唇部に刺突文を施す甕形土器を主体とするものであり、このほか台付甕、小型 壺などが見られる。また西82・83号住居址などからは土製の紡錘車が確認された。

遺構外からも土器片の出土を確認できたが、量的には僅かであった。

遺構外からも土器片の出土を確認できたが、量的には僅かであった。

古墳時代

本期は本遺跡において平安時代とともに、集落址隆盛の1つの頂点といえる。古墳時代前期の住居址が遺跡の東部と姥塚遺跡に偏在して分布した以後は、遺跡の全体に渡って住居址の存在が確認され、その数も徐々に増加を見せ、古墳時代後期~末期にかけて最も多くなり、本集落址の隆盛の頂点を示している。

住居址形態も幾つかの要素に渡って変遷が捉えられるようである。まず住居址の中心的設備である炉は、中期後半の時期に確実にカマドへと変わっていく。壁際に焼土が認められ、カマドの設置を確認できるが、その構造については検出された住居址から明確にできるものはなかった。それでも袖部に石が全く検出されなかったことから、総粘土造りの構造を推定できる。次に貯蔵穴であるが、これも後期後半~末期になるとほとんど姿を消していく施設のようである。また住居址の規模も時期の下降するに従って小規模化していく状況が窺える。

遺物は西46・西71号住居址に見られる初期須恵器の存在が注目される。いずれも中期後半の時期(5世紀後半代)に該当するものであり、本県における古墳および住居址のいずれも出土品として最古に位置付けられるものであり、かつ伴出土師器の年代推定にも大いに役のあるところといえよう。本期の住居址は総数157軒の多きにのぼっており、出土した土師器もむろん多数あることから、須恵器などを介在として、土師器編年が細かく把握できるものと考えている。

土師器の中で後期後半になると底部に回転糸切りではないかと考えられる例(例えば256 号住、図版第516)が見られる。このような例は姥塚遺跡においても数例見られ、土師器生産における技術論として大いに注目されるところかもしれない。

鉄製品、銅製品などで確実に住居址に伴う例は、86例ほどで、それほど多くはない。西46号住居址からは銅鏃(図版第722)の出土が見られ、本県2例目の出土であった。253号住居址出土の馬具(轡)は、本県後期古墳のなかで後半頃の時期の古墳から多く出土が認められ、住居址出土例としては本県最初のものである。また古墳の副葬品と共通するものであることから、古墳被葬者との関係が注目されよう。このことは金環(図版第722)を出土した299号住居址や、鉄鏃、鋤先、勾玉、石製品などを出土した住居址にも言えよう。

このほか鉄鎌、刀子なども少量であるが確認されている。

石器類としては68・117・206・294・295号住居址などから藁などを使って敷物を編むための重しに使われたのではないかと考えられる長さ10cm前後の長手の石が出土している(図版第730~同第741)。これらは住居址から10個前後まとまって発見されたものが多い。その中で294号住居址例は同形態の細長い石が相当量確認できた。この手の石の他住居址出土例には石の側縁の中央左右に抉りを入れた例が認められるものが多いのに対し、294号住居址の例にはそれほど明確な例は見られない。このため294号住居址出土のものが全て重しであると推定することはできるが断定はできない。

これ以外には砥石が知られる。

石製品類には滑石製の有孔製品(図版第744-2・4)が10・22号住居址、勾玉(図版第745-28・29)が232・278号住居址より出土している。

紡錘車(図版第744-1・5・6)は10・72・278号住居址などから出土が確認される。土製品(5)と石製品(1・6)の両者が見られる。石製品のうち(1)は滑石製品で、鋸歯状に線刻が認められるものである。

玉類には管玉、丸玉(土玉を含む)、臼玉などが認められ、比較的量も多いように思われる。

奈良時代

本期の住居址数は24軒と前代に比べて極端に少なくなる。また住居址自体も前代に比べて総体的に小規模のものが顕著となる。カマドは袖部が全て石組される例も見られてくる。

出土遺物は土器類以外ほとんど知られない。土師器、須恵器など見られるが、総体的に量は 少ない。

平安時代

本遺跡における集落址の隆盛の第2の頂点に達する時期であり、総数198軒の住居址が確認され、隆盛した様子を窺うことができる。住居址は総体的に小規模のものとなってくるが、その中にあっても大型住居址と小型住居址との存在が見られるようである。住居址に取り付けられるカマドは袖部が全て石組のものとなり、その取り付け位置に大きく見れば時期による変遷が捉えられるようである。

出土遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、石器、鉄製品などが知られる。

土師器類はほとんどがいわゆる「甲斐型」の坏、皿、甕類で占められており、他地域からの流入品はほとんど認められないようである。

須恵器には坏、甕類などが見られ、特に坏は10世紀代で灰釉陶器類に取って代られる状況といえる。しかし灰釉陶器類の出土は検出住居址数に比べて量的にごく僅かな状況を捉えることができ、本県の北巨摩郡地方の在り方とやや趣を異にしているようである。

墨書、あるいは刻書の出土例は、周辺に見られる「国衙」の地名の予想に反し、極めて少量であった。遺跡全体で12点という数であり、隣接する姥塚遺跡にも顕著でないところから、少ないことが本遺跡では一般的なことであったものと考えられよう。

鉄製品類には刀子、鉄鎌、紡錘車、鉄鏃、馬具、銅製八稜鏡などが知られる。このうち刀子、 紡錘車と鉄鏃との間にはやや分布地域に違いが見られるようである。

馬具は89・西31号住居址などから引手あるいは銜などの部分が出土している。

八稜鏡は83号住居址の覆土中よりの出土で、特別な施設ないし附属品に供なっているような 状況は認められなかった。

石器類としては砥石が確認された。

第4章 各 説

第1節 集落址の変遷

二之宮遺跡より検出された約400軒の住居址について、時期別の集落址の変遷状況について触れてみたい。

時期区分は弥生時代末期、古墳時代前期(前期~中期前半)、古墳時代中期後半、古墳時代後期前半(後1~2期)、古墳時代後期後半(後3~4期)、古墳時代末期(末1~3期)、奈良時代前期(奈・平 I~Ⅲ期)、奈良時代後期(同Ⅲ~V期)、平安時代前期1段階(同Ⅵ~Ⅷ期)、平安時代前期2段階(同Ⅸ~Ⅹ期)、平安時代前期3段階(同Ⅺ期)、平安時代前期4段階(同Ⅷ期)、平安時代後期1段階(同Ⅷ)、平安時代後期2段階(同Ⅷ~Ⅷ)、平安時代後期3段階(同Ⅷ~Ⅷ)、平安時代後期4段階(同Ⅷ~Ⅷ)、平安時代後期4段階(同Ⅷ~Ⅷ)、平安時代後期4段階(同Ⅷ~Ⅷ)、平安時代後期4段階(同Ⅷ~Ⅷ)、平安時代後期4段階(同Ⅷ~Ⅷ)の16段階とした。おおよそ50年単位の区分を基本としたが、これ以上の場合あるいは逆に未満の例もある。これは土器編年の進展状況や変化を捉えるのに適切な期間に合わせたためである。

なお分布状況を明確にするため分布地域をおおよそ $A \cdot B \cdot C \cdot D$ の大ブロックに区分し、さらにそれぞれの大ブロックの下に幾つかの小ブロックの形成が見られるため、この小ブロックを a_1 、 a_2 …… b、c、 d_1 、 d_2 ……ブロックとした(第10図参照)。

1. 弥生時代末

本時期に確実に該当する住居址は極めて少ない。西58・西82・西83号住居址のわずか3軒にすぎない。西48号住居址について当初は弥生時代末頃と考えていたが、住居址形態から一応混入品として処理した経過を持つ。しかし土器の分布状況からすれば西48号住居址付近に一軒ほどの存在を想定できる。だがこれを加えてみても4軒ほどで、しかも西82・西83号住居址は重複しており、同時存在はあり得ない。従っていずれにしても調査区域内においては稀少な時期ということになろう。

その分布状況は二之宮遺跡の西端、STANaで示せば517+20地点から同518+20地点のAブロックに見られ、それ以東の遺跡内や、姥塚遺跡に明確な存在は知られない。しかし弥生土器と考えられる破片の分布には、75号・257号・294号・303号・316号住居址の覆土中より出土が見られ、さらに杭Na518+65地点からも出土が確認されており、これらは特に杭Na518+70地点付近に集中的に分布しているようである。これ以東においては75号住居址の覆土中に認められた1例のみで、稀薄な地域となり、姥塚遺跡においてもほとんど見られず、本遺跡における弥生時代末の時期はそれほど顕著なものではなかったといえよう。この中で遺跡の西に向かうに従って濃厚になる傾向が捉えられ、Aブロックあるいはそれ以西に集落の中心を想定することもできよう。この傾向はこれまで知られている町内の弥生時代遺物の分布の状況とほぼ合致しているようである。

2. 古墳時代前期~中期後半

本時期は、いわゆるS字状口縁台付甕の使用された時期を当てたために、時間的には古墳時代中期のうちの前半部まで含んでおり、やや長期に渡ることになる。

本遺跡において確認された住居址は、弥生末期の時期と同様にそれほど多くなく、11軒を数えるにすぎない。これ以外で本時期の土器片を出土する地点の分布を見ると247号・127号・116号・167号・西71・西34号住居址の覆土中、それに杭N0.519+35 N_7 、同517+60 S_1 グリッドなどに確認できる程度であり、やはり少ない状況を捉えられる。

このうち住居址の分布地域はDブロックの杭No.520+40から同521+10の間に全て存在し、かつ比較的密な状況を呈す。一方、土器片の分布状況を見ると先の住居址と重複する地域を除いた西側にも、分布を認めることはできるものの、極めて散見的な状況を呈する。従って本時期の中心は遺跡の東端にあることを捉えることができ、更にその東方の広がりは道路を隔てた姥塚遺跡の東限まで達する。この間において本期の住居址の消長がなされたことになる。

Dブロックにおける住居址の存在状況を見れば、数の上からすれば d_5 ブロックに最も集中し、このほか d_6 、 d_4 、 d_7 、 d_2 、 d_3 ブロックなどに見られ、小ブロック化が捉えられる。しかし小ブロック化は見られるものの、その中における住居址の規模は比較的均一な状況が強いようである。

弥生時代末期の集落址が本遺跡の西端を中心に展開されていたのに対し、本時期の集落址が全く反対側である東端を中心に展開されたことになり、そこに大きな変化を捉えることができる。

3. 古墳時代中期後半

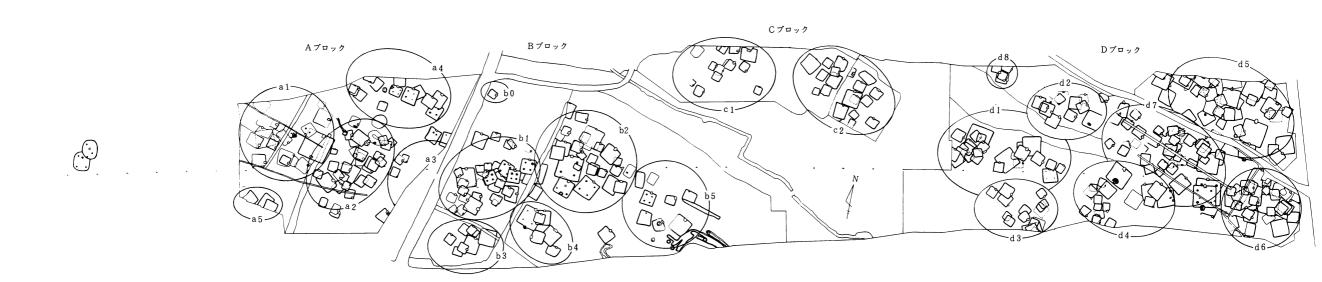
本期は、いわゆる和泉式土器の使用された5世紀後半の時期で、時間的には前代に比べ50年と短い。また本県において須恵器が確認できる最初の段階でもある。

本期に該当する住居址は前代とほぼ同程度の13軒ほどであり、数量的にそれほど多いとはいえない。なお、本期に該当する土器片の分布状況は、次に述べる住居址の分布状況にほぼ一致する状況である。

住居址の分布状況はA~Dの全てのブロックに認めることができ、さらに細かく見れば各ブロック中の小ブロックに存在していることから、全体的には点々とした状況で分布していることになる。

本期の分布状況は前代の分布が遺跡東端のDブロックおよびそれ以東にあったのに対し、遺跡全体に拡散した状況を見いだせる。しかし、その拡散の状況は前代のような群集的ではなく、小ブロック状でしかも点々とした状況であり、この点に前代の分布状況との上に大きな違いを見いだせる。また前代の住居址規模に比べて大型の住居址が認められるところとなる。Dブロックでは129号住居址、Bブロックでは272号住居址、Aブロックでは西46号住居址といった具合であり、このうち特に西46号住居址は一辺9m強を測る最も大型の例である。

このような小ブロック状で、しかも広域に拡散し、かつ大型住居址の存在する点は前代の共同体の枠が崩れ、その中から自立した家父長層の出現のあったことを意味するものと捉えることもできよう。



第10図 竪穴住居址ブロック位置図 (® 該当住居址 上器片出土地点)

この中で最も住居址数の集中するブロックはAブロックであり、しかも本期最大規模の西46号住居址を含むばかりでなく、その回りに存在する他の住居址も総体的に規模の大きいもののようであり、有力な家父長層の1つといえよう。さらに西46号住居址からは銅鏃、管玉など古墳の副葬品と共通する遺物の出土も確認でき、西46号住居址がAブロックの中心であるばかりか、本期の集落全体における最も有力な家父長層の1つであったことを想定できよう。

なお集落の広がりは西端、東端ともに更にその先の地域まで及ぶものであろうと考えられる。

4. 古墳時代後期前半

本時期は土師器坏に須恵器坏の模倣が認められる時期で、おおよそ5世紀末~6世紀前葉(6世紀第1四半世紀)の時期にあたる。

本期に該当する住居址は29軒ほどで、前代に比べ大幅な増加率を示す。これらの分布状況を見ると、前代と同様に小ブロックごとに、かつ拡散する傾向が強い。しかし、この中で東側と西側の区域とに若干の違いが見られる。AおよびBブロックが、ほぼ前代の占地を継承しているのに対して、これより東側の特にDブロックにおいては、中に小ブロック化の現象が顕著に見られるようになり、さらにCブロックの一角をも取り込むような大ブロック化を形成した状況を捉えられる。この大ブロックは C_2 ブロック(211・213・214住)、 d_1 ブロック(37住)、 d_2 ブロック(24住)、 d_3 ブロック(58住)、 d_4 ブロック(182住)、 d_5 ブロック(61・70・72・103・109・123・133・149住)、 d_6 ブロック(96・116・120住)、 d_7 ブロック(79・80・170住)の7小ブロック、21軒よりなる。

前代の分布状況が西側の地区にやや多く傾斜して見られたのに対し、本期になるとその様相を逆転する。すなわち東側が21軒の住居址よりなる大ブロックを形成したのに対して、西側は前代の占地を引き継いだ2小ブロック4軒が存在するにすぎない。さらにこのような傾向は住居址間の規模においても認められ、東側の大ブロック中には37・79・80・72・182号住居址などの大型住居址を含んでいるのに比べ、西側ブロックの中にはそれらに比肩する住居址の存在は全く認められず、分布の濃淡に加えて規模の上にも明らかな差違を見い出せることになる。東側の大ブロックはさらに姥塚遺跡にも及ぶことになるから、この傾向は一層際立つことになり、この大ブロックが集落址において優位に立っていたことを捉えることができる。

一方、本期ごろより小ブロックの中に大型住居址と小型住居址とが組み合う例が明確になってくる。たとえば d_5 ブロックの72号住居址とそれ以外の住居址とに見られるような状況で、このほか d_6 、 d_7 、 a_1 ブロックにも認められる。また d_1 と d_2 、 d_4 と d_3 というような小ブロックが2つ組あって大、小の関係を想定できるようなものもある。このような住居址間の格差は家父長層の自立と共に、その中において上下関係を顕在化させてきたものと捉えることもできよう。

5. 古墳時代後期後半

本時期は6世紀の中頃から6世紀後半代を中心とした時期にあたる。総数47軒が該当し、集落の大きな成長を捉えられる時期といえる。

分布状況を見ると、遺跡の東側の区域は前代と同様に8小ブロックからなる大ブロックを形成している。これに対し西側の区域は基本的に前代の状況を受け継ぐ部分も見られるが、Bブ

クにおいて大きな変化を捉えることができる。それはBブロックが前代において 2 軒よりなる小ブロックであったのに対し、本期に至ると総数16 軒と急激な増加を見せる。B ブロックの中も幾つかの小ブロック化を捉えられるが、D ブロックに見られた程明瞭な状況は見られず、むしろ 1 つの小ブロックがそのまま大きなブロックに成長してきたと捉えられる。B ブロックはさらにその西側のA ブロックを含めて東側のD ブロックに対抗するような勢力に成長してきたように思われる。

Aブロックは4軒ほどの住居址の存在が見られるものの、ブロックの中心はぼけてしまい、 むしろBブロックに吸収された様な状況を呈する。古墳時代中期後半に本遺跡最大規模の住居 址を構えた勢力の急激な衰退を捉えることができる。

本時期には東西にやや異質であるが2つの大ブロックが形成されたことになる。これらの状況を見ると住居址の数の上ではDブロックがBブロックを凌いでいる。しかしその内容においてはDブロックの住居址規模がやや小振りになった状況を捉えられるのに対し、Bブロックは本期が最も規模の大きくなった時期にあたり、313、316号住居址がこれにあたる。しかも313号住居址は本期最大規模の住居址であり、Bブロックに急激に勢力を伸長した家父長を想定できる。だが急激な勢力の伸長を捉えられるものの、総体的に見ればDブロックの住居址の規模は大きなものが多く、かつ姥塚遺跡にまで及ぶものであり、いまだ健在な状況を想定できる。ただDブロックの分布状況に集中性の薄らいだ状況が捉えられることから、Dブロックの指導力にかげりの見られる時期といえよう。

本期において小ブロックの中に、大型住居址と小型住居址との存在する状況が前代より一層明確になる。313号住居址を中心とするBブロックはその最たるものといえる。

6. 古墳時代末期

7世紀代を中心とする時期である。本期はやや長期に渡る期間であるが、そのおおよその傾向を窺うことはできよう。本期に該当する住居址は57軒と前代に引き続き多く、集落の安定した状況を捉えることができる。

分布状況には大きな変化が見られる時期といえる。まず東側の C • D ブロックを見ると小ブロックを残しながらも前代に比べて僅か19軒といった極端なまでに住居址数を減少させ、かつ集束力の無くなった状況を呈し、もはや大ブロックとして捉えられるような状況ではなく、大ブロックとしての機能を失い、むしろ小ブロック単位による機能が想定される。

これに対し西側のBブロックは前代に比べ一層濃密な分布状況を呈し、しかも前代のAブロックを完全に吸収した状況を見せ、総数36軒を数える大ブロックを形成する。なおその分布状況には前代と同様に小ブロック化を明確に捉えられない状況である。

このように分布状況は東西の2ブロックとして捉えられるが、その内容は数の上でDブロックの解体が進みBブロックの家父長の優位性が指摘できる状況といえる。この点はさらに住居址の規模においても捉えることができる。すなわちBブロックに大型住居の存在が多く認められ、かつ馬具あるいは金環などの出土が合わせて確認され、そこにはB、Dブロックの力関係の逆転を見い出すことができる。

小ブロック内における大型住居址と小型住居址の存在状況は、前代同様に多い。しかし住居 址規模は前代に比べ総体的に小規模化を見せており、外的規制の働いた可能性を想定すること もできよう。

7. 奈良時代前半

本期は土器編年の中に明確な区別のできないものが見られ、奈良・平安 I ~Ⅲ期を前半、同Ⅲ~V期を後半として、Ⅲ期をいずれの側にも重複させてある。

本期に該当する住居址は21軒である。住居址数の急激な減少に加えて、分布状況の上からも大きな変換期と考えられる。まずAブロックを含めたBブロックの地は、全く前代の面影を残さない。総数10軒と前代に比べ4分の1程度となり、大ブロックとしての形態は捉えられず、小ブロックが顕在化する。1つの小ブロックに1~4軒の分布が見られる程度で、閑散とした状況である。

この傾向は東側のC・Dブロックにも当てはまり、さらにC・Dブロックは明確に分れる状況にある。総数11軒でCブロックが4軒、Dブロックが7軒である。Dブロックは姥塚遺跡が含まれることからさらに増加するが、その位置は遺跡の東端に位置し、Cブロックとの間に大きく空白地域を挟み、C・Dブロックが明確に2つの地域に分かれる。

いずれにしても本期における集落の衰退を捉えることができる。これは住居址の規模にも投影され、前代のような大型住居址はほとんど見られない。かわって小規模の住居址が小ブロック化と共に顕在化してくる。特に前代のBブロック地域の消長が著しく、Bブロックの解体が急激に進行した状況を捉えられる。この中で小ブロック内に見られる大型住居址と小型住居址といった存在の関係は、ほとんど見られなくなる。

8. 奈良時代後期

本期は奈良時代後半といっても、平安時代の初めを含んでいる。本期に該当する住居址は総数18軒ほどで、前代とほぼ同様な状態を示す。

住居址の分布は西側のA・Bブロックに総数10軒ほどが見られ、規模および分布状況は前代とほとんど変わらない状況を呈しているといってよい。

東側の前代に分離した $C \cdot D$ ブロックにおいては、 $A \cdot B$ ブロックに比べやや変化を捉えることができるようである。すなわち前代において新たに明確な占地を見せたCブロックは6 軒ほどの存在が見られ増加へと転じている。逆にDブロックにおいては総数わずかに2 軒ほどとなり、かつ小ブロックの d_6 ブロックに確認できるだけとなる。このDブロックは東側の姥塚遺跡を含めても、急激に減少をたどったブロックと考えることができる。従って集落全体からすれば、西側に集中する傾向を捉えることができる。

住居址の規模は前代同様に小規模なものがほとんどを占めている状況といえる。また小ブロックにおける大型住居址と小型住居址の存在関係はほとんど見られない。

9. 平安時代前期(1)

本期はおおよそ9世紀中頃から末頃までの期間である。

本期に該当する住居址は総数38軒であり、前代に比べ約倍に近い増加を見せる。

集落全体における状況は前代とあまり変わらないが、遺跡の東側において変化が認められる。 西側のA・B ブロックは住居址数は増加するもののいずれも2軒前後の住居址からなる小ブロックが数個見られる程度で、どちらかといえば小ブロック的存在といえる。A ブロックは3 小ブロック8軒、B ブロックは2 小ブロック7軒である。

中間のCブロックは東西に小ブロックの認められるもので、総体で5軒ほどが存在する。

東側のDブロックの地域は、前代に比べ住居址数の上で急激な増加を見せる。総数18軒ほどが6小ブロックに分かれ、かつ再び大ブロック化の現象を示し始める。

住居址の規模は前代とほぼ同じであるが、住居址数からすれば本期において、集落が再び大きくなってきたことを捉えられる。この中にあってDブロックの住居址の増加は極めて大きなものであり、Dブロックの伸長が著しい。

小ブロック内における大型住居址と小型住居址との存在の関係はほとんど認められず、かつ 住居址規模は均等化している状況といえる。

10. 平安時代前期(2)

本時期はおおよそ10世紀前半の時期にあたる。

本期に該当する住居址は18軒を数え、前代に比べ減少傾向を見せる。この中で大きな変化が東西の両地区において見られる。西側のBブロックは総数4軒と前代より減少傾向を見せる。これに対しAブロックは総数9軒を数え、前代より増加しBブロックを凌ぎ、西側の地区における中心的ブロックを形成している状況といえる。

東側は西側に比べ大きな変化を見せる。Cブロックでは今のところ存在した住居址は確認されず、全くの空閑地的状況である。また前代に急激な増加の認められたDブロックにおいては、逆に急激な減少を見せ、わずか3軒が確認できるのみである。従って西側の地域が前代の規模を踏襲してきたのに対し東側は、急激な変化を見せ閑散とした状況に陥り、集落の中心が遺跡の西側にあったことを捉えられる。

住居址の規模は前代と同様に、ほぼ均一的な状況といえる。このため小ブロック内においては大型住居址と小型住居址の存在関係は認められない。

11. 平安時代前期(3)

本時期はおおよそ10世紀後半代のうちの、その前半部(10世紀第3四半世紀)にあたり、期間的には約25年前後の幅とした。これは50年前後として分布状況を見ると、細かな変化が捉えられないためである。

本期は総数30軒と、幾分盛り返した状況といえる。特に大きな変化が東側の地区に認められる。

西側のA・Bブロックは総数9軒と、前代よりやや少ない状況にある。特にこの中でAブロック中のa₂ブロックは大幅な減少を見せている。

これに対して東側では前代と一変した状況にあり、19軒と大幅な増加を見せている。おおよそ7小ブロックに分かれ、これらが集まって大ブロックを形成している状況である。

両者の中間地区である C ブロックには、わずかに 1 軒の存在が確認できるにすぎない。従っ

て、これらからすると本期は東側のブロックにその優位性を捉えることができる。

本期は前代と比べ住居址の規模にも変化が認められるようである。すなわち前代までがほぼ同等の規模をもった住居址で構成されていたのに対して、本期にはAブロックの西26号、西73号住居址、Dブロックの49・66・125・151号住居址といった一回り規模の大きな住居址が見られるようになり、かつその回りにやや規模の小さな住居址の存在が再び確認できるようになる。これは集落内における身分や力関係の上に変化が生じてきたことを反映しているものと受け取れよう。

12. 平安時代前期 (4)

本時期はおおよそ10世紀末(10世紀第4四半世紀)の時期にあたり、25年前後と短期間である。

本期に該当する住居址は総数65軒を数え、本遺跡において住居址数の上では最も集落の伸長が著しい時期で、前代に比べ飛躍的な増加といえる。

西側のAブロックは総数12軒ほどを数え、前代を上回る。4つほどの小ブロックを形成し、中には大型住居址と小型住居址の存在関係が認められる。

Bブロックでは総数13軒を数え、前代の住居址数を飛躍的に越え急激な増加を見せたブロックといえる。Aブロックと同様に、4つほどの小ブロックから成るが、やはり中に大型住居と小型住居址の存在関係が明確に捉えられるブロックもある。

CブロックはC₂ブロック側に2軒ほどの存在が見られる程度といえる。その位置関係からすれば、むしろ次のDブロックに含まれるものといえる。

Dブロックは前代同様に 8 小ブロックが集まり、かつ C ブロックを含めた形で、 1 つの大ブロックを形成する。小ブロックは 4 軒前後の数から成るものが多く、総数 40 軒を数える。東側の姥塚遺跡を含めれば、一層その数を伸すであろう。また d_4 ・ d_2 ・ d_5 の各ブロックなどに大型住居址と小型住居址の存在が認められる。

本期は総体的にみて集落の大きな成長期と位置付けることが可能であろう。さらに住居址規模の違いが小ブロック内に顕著に捉えられる時期でもあるといえる。

13. 平安時代後期 (1)

本期は年代的には前代に含まれるものであるが、土器の変化の上で以降に引き継がれる大きな節目にあたり、後期として分離した。おおよそ10世紀末(10世紀第4四半世期)の時期にあたる。

総数24軒ほど知られるが、内容的には前代の時期と重複する住居址が多くを占めている。

本期の全体的な傾向としては総数において半数以下に激減していることがまず上げられ、総じて衰退傾向に向かっている状況を捉えられる。その傾向の最も大きな部分が西側の $A \cdot B$ ブロックに見られる。 a_4 ブロックに1 軒、 b_1 ブロックに3 軒の合計 4 軒の存在が確認できるのみであり、減少率が実に85%を示し、前代の面影を認めることはできない。これに続くC ブロックも僅かに1 軒の存在を確認できるのみで、集落の西側は極めて閑散な状況を呈する。

東側のDブロックは本期の中では活発な状況を呈する地域である。それでも7つの小ブロッ

クに分かれ、総数24軒と減少率40%ほどであり、A・Bブロック同様な大きな衰退を見せる。

前代に見られた小ブロック内における大型住居址と小型住居址との存在関係は認められるものの、わずかに認められる程度でその傾向の薄れてきている状況を捉えられる。

14. 平安時代後期(2)

本期はおおよそ11世紀前半(11世紀第1~第2四半世紀)にあたる。

本期に該当する住居址は総数31軒を数え、ほぼ前代の状況を保っている。この中で西側に再び住居址の増加が見られる。14軒ほどで、A・Bブロック合わせて5つの小ブロックよりなり、3軒前後の存在するものが多い。特にAブロックとBブロックの内のAブロックに近い側に住居址の集中が見られる。

CブロックではC₁ブロックに1軒の存在を知るにすぎない。

東側のDブロックにおいては7ブロックにおいて総数16軒が存在する。Dブロックにおいては、農道の北側にあったd5ブロックに1軒確認できる程度で、本期以降住居址の存在は見られなくなる。

本期の住居址の規模はほとんどが平均化したものとなっており、小ブロック内において大型住居址と小型住居址の存在は認められなくなる。また前代同様に遺跡の中間地域にほとんど住居址が確認できず、閑散とした状況になる。

15. 平安時代後期(3)

本期はおおよそ11世紀後半(11世紀第3~第4四半世紀)をあてる。

本期に該当する住居址は5軒ほどにすぎない。かつ本期に属すると考えられる土器片の出土 状況も極めて少なく、集落址の衰退が急激に進行したことを捉えられる。

本期の住居址の分布状況を見ると、確認された住居址の5軒が全て遺跡の東側に位置するDブロックに見られる。 d_2 、 d_4 、 d_6 、 d_7 の4ブロックに存在するが、これらは大きなブロックとして捉えられるものではなく、むしろ小ブロックごとの存在といえる。

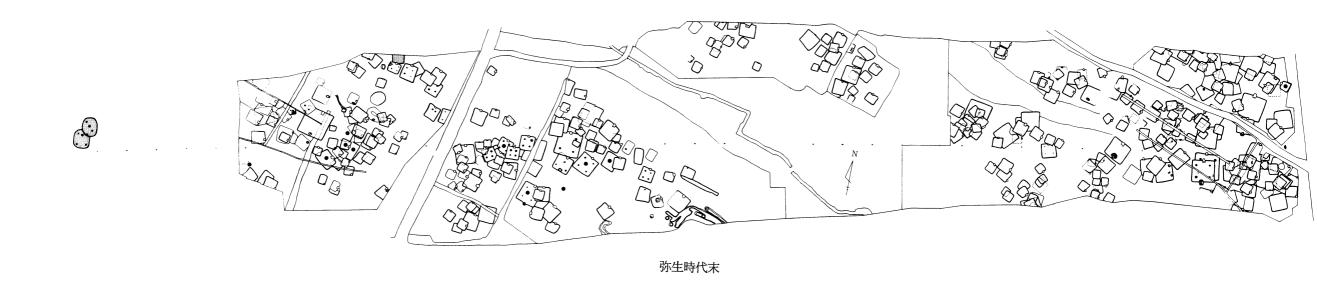
Dブロックの西側のC・B・Aブロックにおいては全く住居址が確認されず、かつ土器片の分布も明確でない。従って本期の中心は東側のDブロックにあったものと考えられる。

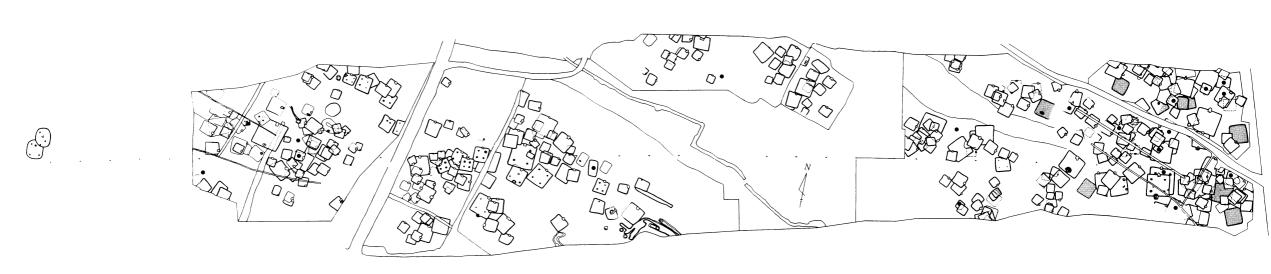
住居址の規模は例数が少なく、やや不安な面もあるが現状では前代と同様に平均化した規模であり、かつ小ブロックに複数の住居址の存在する例はほとんどなく、大型住居址と小型住居址との存在関係は全く認められない。しかし、平均化したとはいえ、前代に比べ一層の縮小化を捉えられる。

16. 平安時代後期 (4)

本時期はおおよそ12世紀代が想定される時期である。

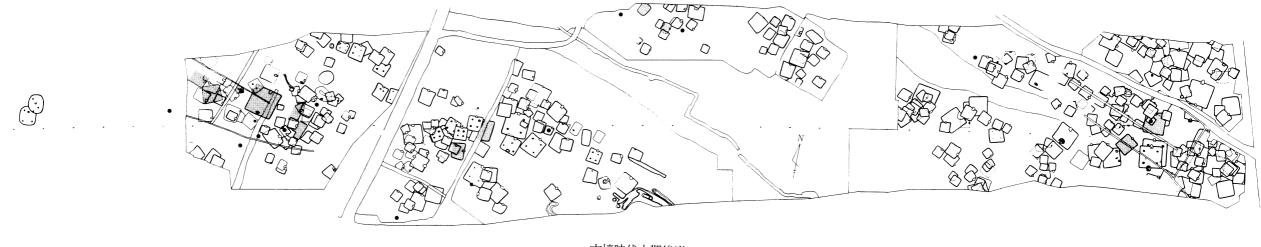
確認された住居址はわずかに 1 軒と少ない。遺跡の東側のDブロック中の d_4 ブロックに存在する。規模は前代とほぼ同一の大きさであり、住居址としては小規模なものといえる。これからすれば集落自体の存在が危うい状況にあろう。しかし本期と考えられる土器片の分布地域を見れば、点々と広範囲に及んでいることが捉えられる。特に C ブロックと B ブロックとに比較的多く見られ、さらに517+20地点まで及ぶ。



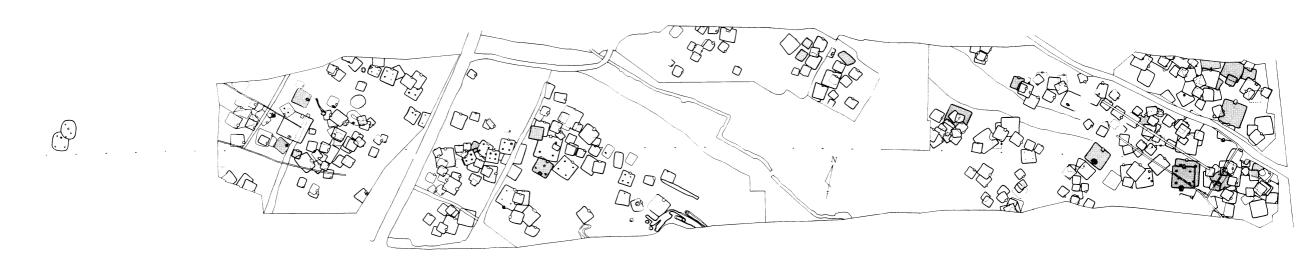


古墳時代中期前半

第11図 集落変遷図(1)



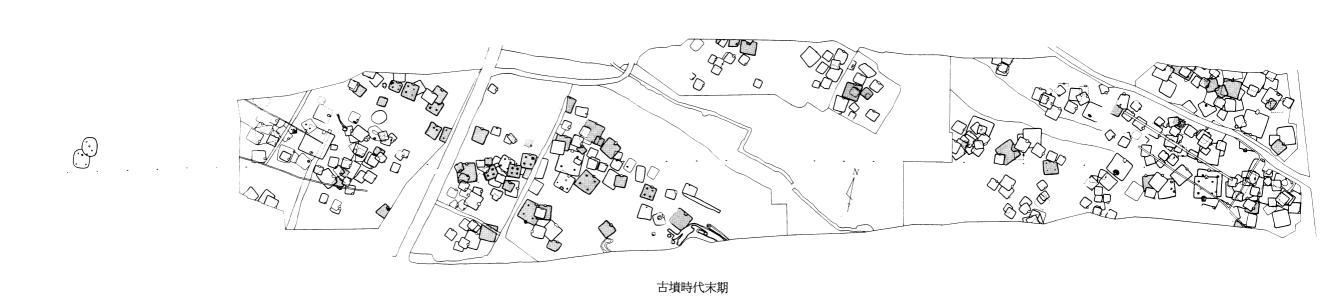
古墳時代中期後半



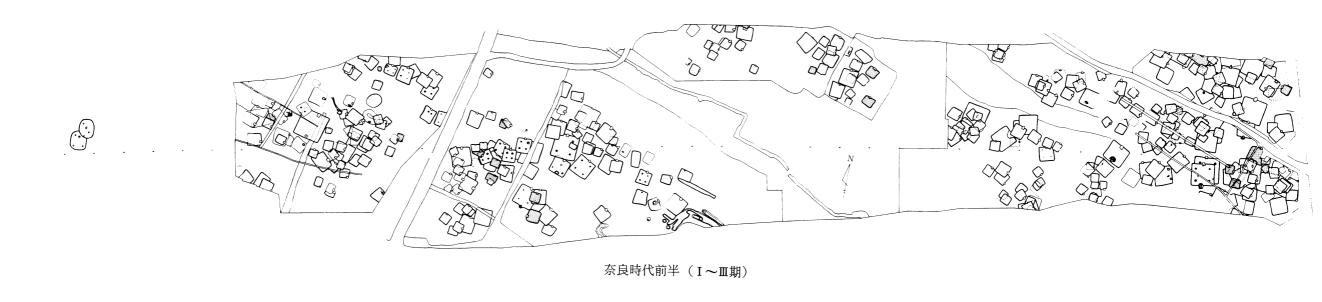
古墳時代後期前半

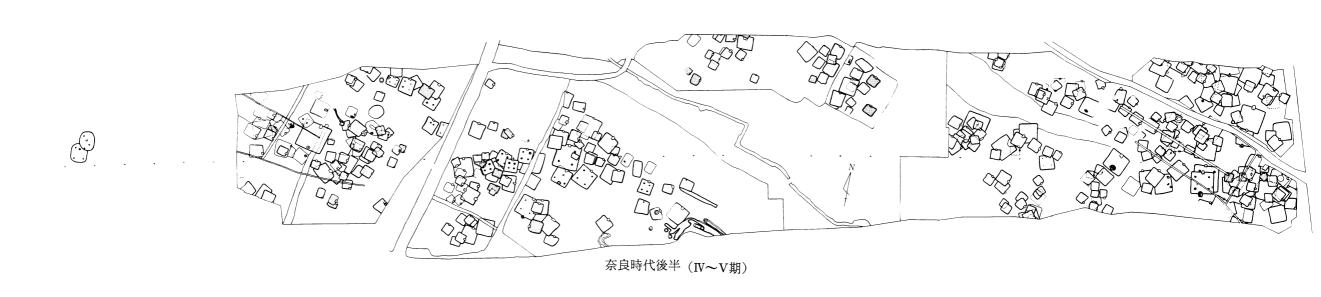
第12図 集落変遷図(2)



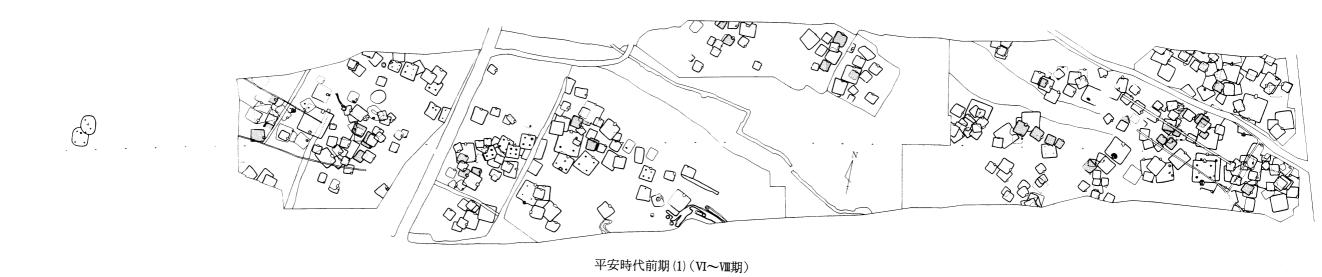


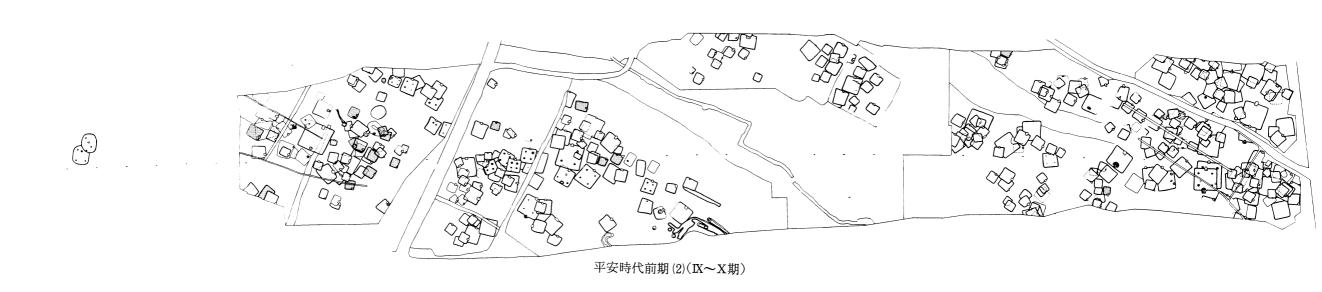
第13図 集落変遷図(3)



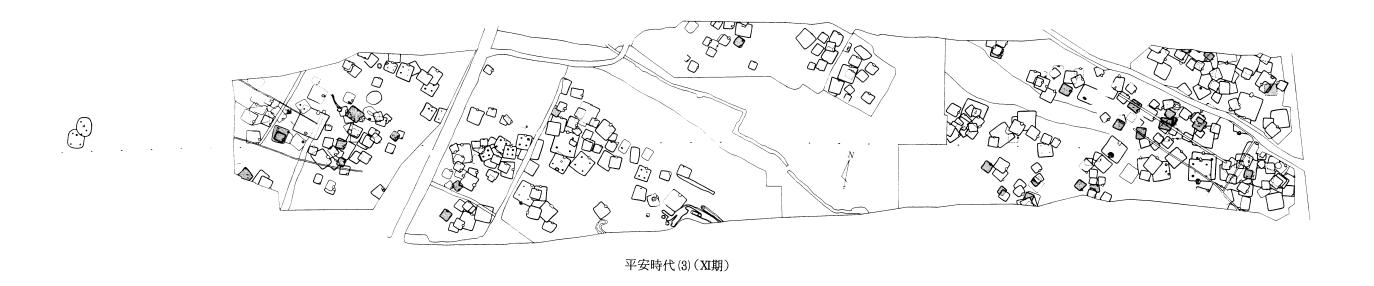


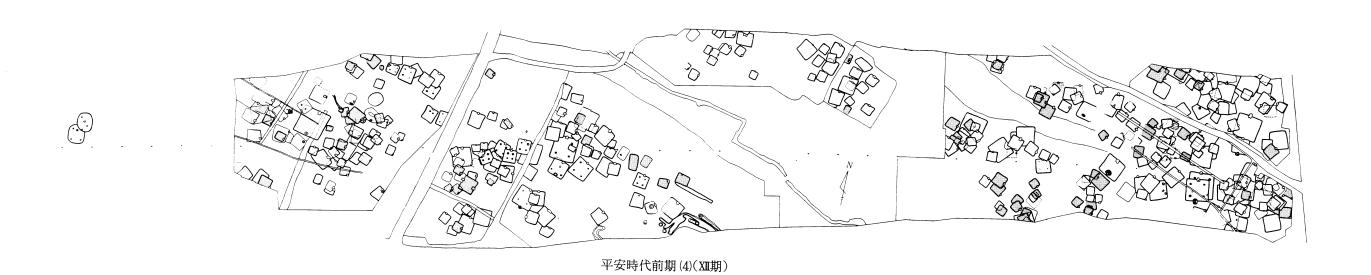
第14図 集落変遷図(4)



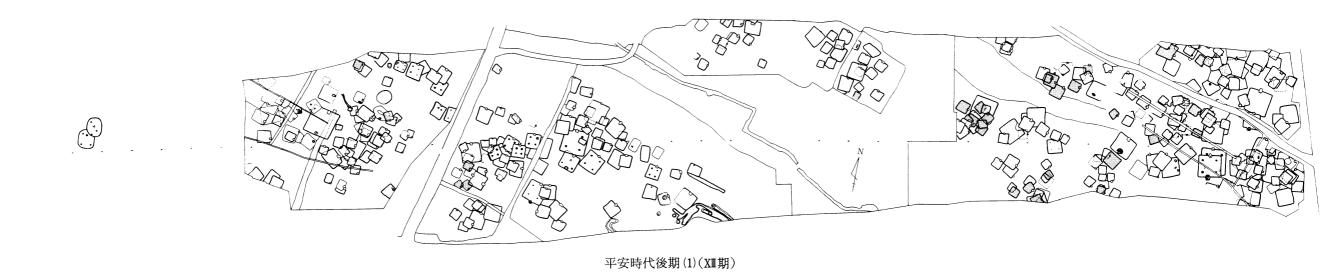


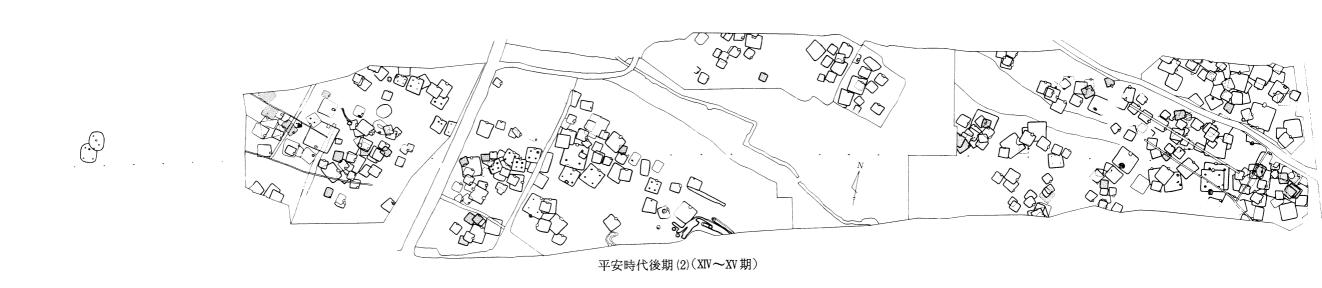
第15図 集落変遷図(5)



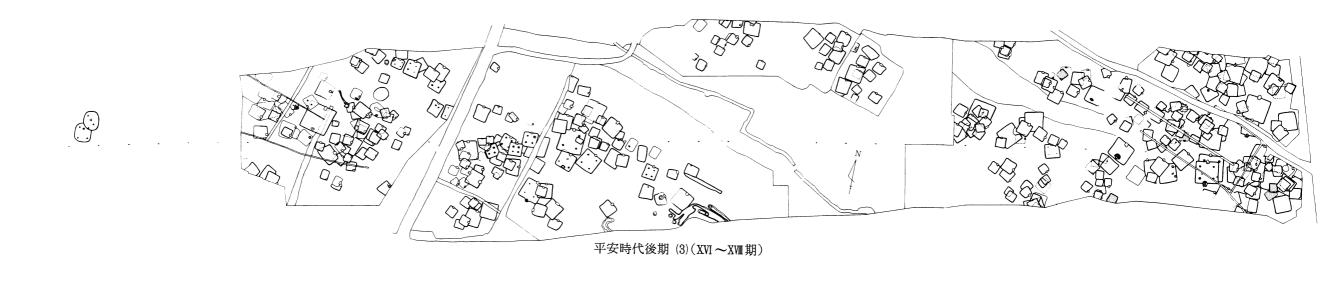


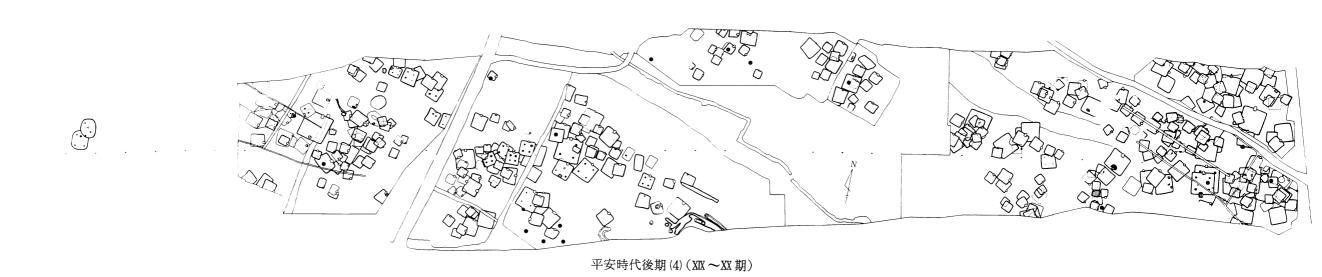
第16図 集落変遷図(6)





第17図 集落変遷図(7)





第18図 集落変遷図 (8)

本期の住居址が比較的浅い位置から発見される傾向があり、実際には今以上の存在するところとなろう。

以上、各期(25~100年)にわたって集落の消長を見てきたが、次にこれらを全体的に捉え、かつ関連事項について触れてみたい。

弥生時代末期の住居址は遺跡西部に集中する傾向は認められるものの、一部分の確認であり 集落の様相は推測の域をでない。しかし、おおよそ次の古墳時代前期~中期前半の様相に近い ものと考えられる。本遺跡の東端部を含めた姥塚遺跡に古墳時代前期~中期前半にかけての分 布が見られ、これと同様なブロック状であったものと考えられる。そこには住居址の規模の大 小は存在するものの、住居址が小ブロック状に存在する明確な状況は捉えられない。塩山市西 田遺跡も古墳時代前期の大集落跡であるが、それほど明確な小ブロック化は捉えられない。一 つの大ブロック的な集落址といった状況を呈している。

このようにその集落址としての内容には大きな違いは見られないようであるが、占地の上では遺跡の西端と東端というように、明確な違いを見せている。このため両者が同一集落としての動きであるのか否か明確な判断は下せない。しかし次の古墳時代中期後半の住居址の占地からすれば、同一集落としての動きと見ることもできよう。

古墳時代中期後半の時期は、前代に比べて大きな変化を捉えられる。すなわち検出された住居

出数は前代とほぼ変わらないものの、その占地には大きな特徴が捉えられる。前代の集落が
その中に小ブロック化を明確に捉えられない大ブロック状で存在していたのに対し、本期の集

落は遺跡の東から西といった極めて広範囲に拡散し、かつ小ブロック化の顕在化が明確に捉えられるようになる。おおよそ4つのブロックに分かれ、姥塚遺跡を含めればさらに数を増す。
この拡散しかつ小ブロック化する状況は既に述べたように、共同体の枠を破って家父長層の自立、台頭がなされたものと捉えることができる。この中で西46号住居址は本時期における最大
規模の住居址であり、最も有力な位置にあった家父長と推定できよう。

このような状況は造墓形態においても捉えることができる。すなわち、この時期(5世紀中頃以降)は、本県の前期古墳の分布状況において最も変化の大きな時期にあたる。本町の亀甲塚古墳、八代町狐塚古墳、中道町かんかん塚(茶塚)古墳、豊富村王塚古墳、三珠町大塚古墳などに見られるように、古墳の規模は前代に比べて規模を縮小するが、数は最も多くかつ分布範囲の拡散を明確に捉えられる時期であり、集落における住居址の変化と対応するようである。

この変化は次の古墳時代後期前半の時期に一層際立ってくるようである。検出された住居址は前代に比べ約2倍ほどに増加し、集落自体の成長過程を捉らえる中で小ブロック化が明確化してくる。この小ブロックの中に前代に比べ、大型住居址と小型住居址との配置されている例が多く見られるようになり、自立した家父長層の中に階層分化の現象を捉えられることになる。本期は5世紀末から6世紀初め(6世紀第1四半世紀)のころであり、本県においても墓制の上に横穴式石室を採用する中小の古墳の築造が開始され、今まで以上に数を増しかつ広範な地域に認められるようになる時期にあたっており、集落内における住居址のありかたと対応する状況を示している。

古墳時代後期後半は古墳時代の中で、集落の最も充実した時期と考えられ、47軒の住居址が確認されている。本期は前代の趨勢を受け継いでおり、小ブロック化の中における大型住居址と小型住居址との存在が顕在化する時期と考えられる。最も明瞭な例は、後期の中で最大規模を誇る313号住居址の存在するBブロックであろう。313号住居址を取り巻くように小型の住居址が点在する状況を汲みとれる。

本期の含まれる古墳時代後期は、錦生古墳群の主に形成された時期と考えられ、そのうち本 集落址に近接して存在する姥塚古墳は直径45m、横穴式石室長17.5mを測り、盟主墳といえるも ので、おおよそ6世紀の終りごろに近い時期の築造と考えられている。この時期は次の時期と 共に集落址の動向における隆盛期の時期にほぼ合致しており、本集落址が姥塚古墳を直接築造 した共同体の中核を占めていたものと捉えることができよう。

古墳時代末期の7世紀代を中心とする時期は前代の傾向を受け継ぎ、数の上では総数57軒と最も隆盛を見せた時期といえよう。その内容は小ブロック化の中に大型住居と小型住居との存在関係のみを見れば、顕著であり変化の見られないところといえよう。しかし住居址が相対的に小型化してくる状況、すなわち格差が縮まり平均化へと向かう様子を読みとることができ、そこに家父長層の輩出、分化の一段と進んだ状況および大化改新による身分制度の変化が徐々に渗透してきた状況を捉えることができよう。また小規模化してきた時期の住居址から馬具の出土したことは、もはや住居址の規模の大小ではその力関係を単純に比較することのできない背景が生じてきた時期といえよう。

奈良時代になると集落の様相が一変する。検出された住居址は約21軒と、前代に比べて大幅に減少する。そこには前代の隆盛した姿をもはや捉えることはできず、さらに前代に比べ一段と住居址規模の縮小する状況が認められる。また小ブロック化は認められるものの、それらが集中する傾向は見られず、かつ小ブロック中の大型住居址と小型住居址との存在関係には明確に認められず、平均化した姿を捉えることができる。そこに律令制度下の身分制度の投影を、読みとることもできよう。

この傾向は次の奈良時代後半ないし平安時代初めの時期にも受け継がれる。

平安時代の前半代のうちの9世紀後半代~10世紀前半代になると、住居址は増加傾向に転ずる。これら住居址は小ブロック状に分布し、その中に複数の住居址の存在が見られる。しかし住居址の規模には大きな隔たりは見られない。

平安時代の10世紀後半代になると、小ブロック状に分布する住居址の中に、大型住居址と小型住居址との存在関係が再び捉えられるようになり、この傾向は10世紀後半代一杯続くようである。特に細かくみれば10世紀末頃に59軒という数の住居址が検出され、数の上では本集落址の最も隆盛した時期と捉えることができる。またこの時期が小ブロックにおける大型住居址と小型住居址との存在が最も顕在化する時期でもある。

県内における平安時代の遺跡の消長は、遺跡によって多少の違いは見られるものの、おおよそ本時期の10世紀後半代において、県内一円に最も隆盛した状況を捉えられるようである。このように10世紀後半代になると再び集落が隆盛の方向に向かい、かつ小ブロック内における住

居址規模の大小の存在は、集落内における社会構造の変化を捉えられ、あるいは集落内における田堵の成長などとの関連を考える必要もあろう。

平安時代後半代の11世紀代以降は、前代の傾向が急激に消滅し、かつ集落の縮小化が急速に 進み、やがて本集落の終焉となる。

次に集落内における住居址の動きについて触れてみたい。これは遺跡の中に検出された住居址が無秩序に存在するのではなく、あるブロックごとに10軒、20軒といったように重複して築造されており、既に述べた小ブロックがそれであり、このブロックの中に見られる住居址がどのような時代的変遷を見せるのかということである。

第2表は集落の変遷におけるA~Dブロックと、その中に包括される小ブロックにおける住居址がどの時期に存在したのかを示したものである。各丸印は該当する時期の住居址の存在を示しており、これを見るとAブロック内の a_2 小ブロック、Bブロック内の b_1 小ブロックのように古墳時代中期後半から平安時代後半代までといった、非常に長期に渡って存在する例が見られる。またこれ以外の小ブロックにおいても断続的ではあるが、一定期間の住居址の存在を確認できるものが多い。これらの状況を見ると住居址が、それぞれの小ブロックの存在する地域に拘束されて作られた様子を捉えることができ、そこに同系列と考えられる家族の存在を想定できる。古墳時代から平安時代に渡る長期間であり、かつ奈良時代において断続する例も見られるようであるが、少なくともその前後においては前述のような状況を捉えてもよいのではないだろうか。

次にこれらの住居址の規模と継続期間の関係を見てみると以下のようになる。丸印の中の数字が各ブロック内における住居址の規模の順序を示しており、Aブロックにおいては a2小ブロック内に最も大型住居址の住居址が 2 時期に渡って存在する。その後は B~Dブロックに比肩するほどの住居址は見られないものの、a2小ブロックがAブロックの中で最も長期に渡って住居址の確認できるものである。

B ブロックでは b_1 小ブロックに最初の大型住居址が見られ、1 時期おいて次の段階では b_2 ブロックに移って大型住居址が存在する。B ブロックにおいては、この b_1 、 b_2 小ブロックが長期に渡り、かつ住居址の存在頻度の最も高い例である。

C ブロックは全期間を通してA、B、C ブロックに比肩するような大型住居址の存在は、全く見られない。C ブロックに限れば C_1 小ブロックに比べて C_2 小ブロック側に規模の大きな住居址が存在する。しかしC ブロックにおける C_1 、 C_2 小ブロックの住居址の頻度は均衡している状況といえる。

Dブロックにおいては d₇ 小ブロックが、古墳時代中期後半~後期後半ないし末ごろまで、最も大型住居址の作られたブロックといえる。また d₇ 小ブロックにおける住居址の存在する頻度は、B ブロックの中で d₄ 小ブロックと共に最も高いブロックである。

このように長期に渡って、あるいは存在頻度の高い小ブロックの中に各ブロックにおける最 大規模の住居址の存在していることを捉えられる。従って小ブロックにおける同系列の家族の 継続性を考えることが、一層可能性を高くしよう。 集落内における住居址の占地に、以上のような同系列の家族の継続性が捉えられるならば、 住居址の構築にあたっては極めて拘束性の強い点が抽出でき、ひいては人間への拘束性を示す ものと捉えることができる。この拘束性の強いエリアで勢力の消長を展開したことになろう。

住居址大小組合無有無 ク 軒 時 期 В C D Α 数 $a_1 \mid a_2 \mid a_3 \mid a_4 \mid a_5 \mid b_0 \mid b_1 \mid b_2 \mid b_3 \mid b_4 \mid b_5 \mid c_1 \mid c_2 \mid d_1 \mid d_2 \mid d_3 \mid d_4 \mid d_5 \mid d_6 \mid d_7 \mid d_8$ 弥 生 時 代 末 ololololo 古墳時代前期 11 O(0)1 olo 2 〃 中期後半 13 1 O(0)後期後半 29 有(少) 0 olo 3|1|4|2|0後期後半 有(多) 47 〃 末期 0 0 3|2|157 有(多) 奈 良 時 代 前半(I~Ⅲ期) 有(少) 21 10101010 \bigcirc 1 Olo O(0)0 1 $O | \mathbb{O}$ 18 0 後半(Ⅲ~Ⅴ期) 平 安 時 代 前半(VI~VII期) olol 0 00 olololo olololo 38 0000 0 olol 18 0 -1010 (IX~X期) 0 0 |O|ololo 30 有(少) (XI期) 00 0|0|0|0|0|0 0|0|0|0|0|0|0|0 65 有(多) (紅期) 0 0 0|0|0|0|0|0|0 29 有(少) 後半 ()期) Olo 31 ololo 0 olololololo (XV~XV期) 00 5 0 0 (XVV~XVVIII) (XX~XX期) 8 | 11 | 3 | 7 | 4 | 1 | 12 | 8 5 5 2 7 9 7 8 | 6 | 12 | 9 | 11 | 10 | ブロック別住居存在数

第2表 ブロック別住居址存在状況表

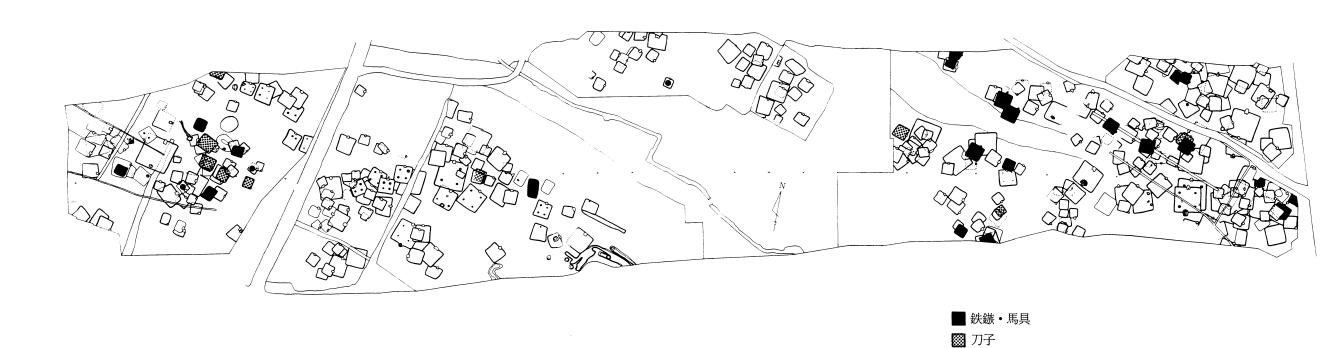
第2節 鉄製品

本遺跡から出土した鉄製品(含む銅製品)は総数58点であった。その内訳は鉄鏃28点、銅鏃1点、馬具2点、刀子21点、紡錘車2点、不明5点であり、鉄鏃、刀子がその大半を占め、かつ曲刃鎌の明確な存在は知られない。これら鉄製品について時期別の推移などについて検討を加えてみたい。

古墳時代

鉄鏃 3 点、銅鏃 1 点、馬具 1 点、刀子 6 点、不明 1 点の計11点が見られる。鉄鏃は後期前半に

[※] 丸内の数字は各ブロック内における住居址の規模の大きさの順位



第19図 平安時代鉄製品分布図

● 紡錘車

2点、末期に1点、銅鏃は中期後半に1点である。その分布は鉄鏃がDブロックに集中する。銅鏃はAブロックの本遺跡最大規模を誇る西46号住居址からの出土であった。

刀子は中期後半2点、後期前半2点、後期後半1点、末期2点と各期に確認できた。分布状況はDブロックに2点、Cブロックに1点、Aブロックに4点と特にAブロックに集中しているようである。Aブロックには西46号住居址も含まれている。

馬具は253号住居址から1点出土している。鉸具立聞素環鏡板付轡であり、7世紀代の中小古墳から主体的に出土する形式の馬具といえる。古墳に埋葬された家父長層との関係を知る資料となろう。すなわち253号住居址付近の272号住居址からはガラス製丸玉、323号住居址からは金環などの出土があり、これら出土品は中小古墳に見られる副葬品の様相と共通するものであり、古墳被葬者と集落を結び付けるものとなろう。

奈良時代

本時代は検出された遺構が少なく、確認された鉄製品は2点と少ない。その内訳は鉄鏃1点、 不明1点であり、出土地はDブロックであった。

平安時代

鉄鏃24点、馬具1点、刀子14点、紡錘車2点、不明3点であり、遺跡より出土した鉄製品の75%を占める。遺跡における鉄製品の保有は、本時代の初ころより急激に高まり、11世紀代まで続くが、本時代における時期別の占有率を見ると次のようになる。

平安時代前期 1段階-13.6%

〃 〃 2段階-15.9%

〃 // 3段階-9.0%

〃 〃 4段階-31.8%

// 後期 1段階-18.1%

〃 〃 2段階-8.6%

特に前期4段階にピークがあり、さらに後期1段階は時期的には前期4段階に含まれるものであり、その占有率は一層大きくなる。この時期は本集落址の最も伸長した時期にあたり、鉄製品が何らかの役割を果たしたことが考えられる。各期における武器類(鉄鏃、馬具)と農工具類(刀子、紡錘車)との比率を時期別に見ると次のようになる。

前期	1 段階	武器类	頁 33%	農工具類	66%
″	2 段階	. //	42%	"	57%
"	3 段階	"	100%	"	0 %
"	4 段階	"	57%	"	28%
後期	1 段階	"	62%	"	25%
"	2 段階	"	60%	"	40%

これを見ると前期3段階にやや問題を残すが、次の前期4段階の時期になるとそれ以前は農工具類が武器類を上回っていたのに対し、逆に武器類が農工具類を上回り、逆転したことが捉えられ、鉄製品の占有率の最も大きな時期と一致することになる。鉄製品の内容の変化の裏に

は、集落内における人的構成・性格に変化のあったことを想定できる。武器類のみの変化を見れば前期3段階ごろより増加を見せ、前期4段階を境に再び減少傾向を見せるが、この中で前期3段階より後期1段階で58%を占める。この期間の集落内における住居址の変化には住居址数の増加のほかに、小ブロック内における大型住居址と小型住居址との存在が再び明確に捉えられる時期にあたっており、鉄製品目、武器類の変化と軌一にすることになり、集落内に大きな変貌を捉えることができよう。

次に武器類を時期別およびブロック別に見てみる。

前期1段階 D=100%

" 2 " D=100%

" 3" D = 75% A = 25%

" 4 " D= 77% A=11% B=11%

後期 1 " D=100%

" 2 " D=100%

これらの数字には偶然性も作用するであろうがDブロックに強い傾斜の見られることを捉えられよう。全体的にみてもDブロックが80%を占めており、特にDブロックの集落内における異質性を指摘できるものなのかもしれない。

第3節 墨書•刻書土器

本遺跡から出土した墨書・刻書土器は、それほど多くない。住居址別に列挙すると次のよう になる。

墨書

263号住居址 坏の底部外面と蓋の外面とのそれぞれに認められるが、いずれも判読不可能である。時期は9世紀第4四半世紀(W期)。

288号住居址 坏の底部外面に認められるが、判読不可能である。時期は10世紀第 4 四半世紀 (XII期)。

172号住居址 坏の器体部外面に「大」の墨書が認められる。時期は10世紀第3四半世紀 (XI期)。

西37号住居址 坏の底部外面に「十二月?」の墨書が認められる。時期は8世紀第4四半世紀~9世紀第1四半世紀前半(V期)。

西井戸址 坏の底部外面に認められるが、判読不可能である。時期は10世紀第2~第3四半世紀(X~XI期)。

グリット

518+40S 坏の底部外面に認められるが、判読不可能である。時期は9世紀第4~10世紀第2四半世紀(四~X期)。518+40 坏の底部外面に認められるが、判読不可能である。時期は10世紀第3~第4四半世紀(XI~XII期)。

表採品

坏の器体部外面と底部外面とに認められるが、判読不可能である。時期は9世紀第4四半世紀(WII期)と10世紀第4四半世紀(XII期)。

刻書

西63号住居址 坏の器体部外面に「井」の刻書が認められる。時期は8世紀第3~第4四半世紀(Ⅲ~Ⅳ期)。

グリット

518+20N₈ 坏の底部外面に「廣万」の刻書が認められる。時期はみこみ部に暗文の施される 形態であり、9世紀第3四半世紀以前(WI期以前)と考えられる。

以上が本遺跡出土の墨書、刻書土器である。そして上限を西63号住居址例の8世紀中頃、その下限を518+40グリットの10世紀末頃に求められ、その中で9世紀第4~10世紀第4四半世紀(Ⅷ~Ⅻ)の時期にやや集中する傾向を認めることができる。

なお刻書については箆書の中で文字として判読できたもののみを取り上げており、記号類については他の十器の中にも見られる。

ここで本県出土の墨書土器の時期別比率を見るとおおよそではあるが次のようになる。

Ⅲ期 0.8%

Ⅳ期 1.7%

V期 0.8%

VI期 0

VII期 5.1%

Ⅷ期 19.5%

区期 7.6%

X期 16%

XI期 16.9%

XII期 30.5%

₩期 0.8%

この内VI期については該当資料がなく不明であるが、その前後の状況から1~5%の間の比率になるものと考えられる。また**2**期については該当する住居址が見られるものの、墨書数は極めて少なく、本時期あたりに明確な形で盛衰の下限を求めることができるのではなかろうか。

この比率は時期の判定にも問題は残ると思われるが、おおよそではその傾向を表しているものといえよう。とすれば、墨書、刻書土器の盛行時期の開始をWI期前後に求めることができよう。あわせてVII期~XIIの期間において墨書、刻書と土器の96%が集中することから、特にこの期間(9世紀第3四半世紀~10世紀第4四半世紀)に盛行した現象と捉えることができよう。二之宮遺跡も数値的には大小の差のあるものの、W一XII期にその80%ほどの集中を見ることから、ほぼ県下の大勢に沿った状況にあり、墨書・刻書の風潮が確実に本遺跡にも及んでいることを確認できる。

次の墨書・刻書の内容について検討を加えてみたい。墨書・刻書土器は個々の遺跡の中においても使用された文字にバラエティーが認められることから、県内全体を通してみた場合、一段と変化に富んだ状況が窺える。これまで確認された墨書・刻書の文字には人名、地名を除いて西、廣、大、八、池、山、保、生、木、長、魚、三、中、王、客、内、九、真、田、庄、送、主、舌、羊、斐、元、平、高、井、十、下、太、矢、貞、生、神、五、黒、天、倭、永、寺、寅、倉、本、南、丙、毛、仁、禾、立、古、千、東、吉、夫、平、成など約60種ほどが時期の確認できる例である。これらを時期別に分けてみると、幾つかは長期に渡る時期に使用された例が抽出される。

西		™~ XI	
廣		VII~VII	
八		™~ × ™	
長		VII~XII	
魚			хи∼хи
Ξ			$x_1 \sim x_1$
真		VII~XII	
田		$X \sim XII$	
主		WI∼X	
安		$\mathbf{X} \sim \mathbf{X} \mathbf{I}$	
井	$IV \sim XII$		
+	$III \sim XII$		
太			$x_1 \sim x_1$
貞		₩~XI	
生		VII∼X	
永		VII∼XII	
寺		VII∼XII	
本		IX~XII	
南			$x_1 \sim x_1$
古			$x_1 \sim x_1$
DI I	-の20種が	長期間に	渡って目

以上の20種が長期間に渡って見られるものであるが、これらの中にも出現時期が大きく3段階ほどに見られるようである。すなわち皿ないしIV期に初現を求められるもの(井・十)、畑期頃に初現を求められるもの(西・廣など10種)、XI期頃に初現を求められるもの(魚・王など5種)などである。これらのことからあるいは時期によって使用される文字の種類に差のあることが窺われるようでもある。

次に長期間に渡る種類の内容について、例えば「西」、「八」、「真」、「本」、「廣」を使って検討してみたい。

「西」は須玉町大豆生田遺跡、大泉村豆生田第3遺跡、長坂町柳坪遺跡に見られる。「八」は・

山梨市日下部遺跡、須玉町大豆生田遺跡、一宮町北堀遺跡、長坂町柳坪遺跡に見られる。「真」は山梨市日下部遺跡、一宮町北堀遺跡、長坂町柳坪遺跡に見られる。「本」は都留市堀ノ内原遺跡、甲西町村上古墳に見られる。「廣」は一宮町勝沼バイパス280地点、同319地点、同慈眼寺遺跡、長坂町柳坪遺跡、須玉町豆生田第3遺跡に見られる。これらの中には「西」のようにやや狭い範囲に分布の知られる例や、「八」、「廣」のようにやや広範囲に分布の見られる例、又「本」のように郡内地域と国中地域とに分布の見られる例といったように、一住居址あるいは一集落址の中で完結できる例は全くみられない。なおこの傾向は他の長期に渡る種類の大勢にも認められるところである。

この様に長期に渡り、かつ広範囲に認められるという点を考慮すれば、墨書・刻書土器の性格として所有形態あるいは家族構成といった一住居址あるいは一集落址で完結する性格を想定する部分もあろうが、その多くは吉祥句、符号を介在とする信仰関係の性格を想定することの意義を追求できるのではないだろうか。

次に墨書・刻書土器の出土率を遺跡間において捉えた場合、本遺跡はどのような位置付けができるのであろうか。方法は単純に遺跡全体から出土した墨書・刻書の総量と、遺跡における III~XII期に該当する住居址総数の比率を検討材料とした。やや粗い方法といえるが、おおよその遺跡における傾向は捉えられるのではないかと考えている。まず地域別に列挙するとおおよそ次のようになる。

東八代郡地域

一宮町北堀遺跡 20.5%、同両ノ木神社遺跡 20%、同勝沼バイパス269地点 175%、同280地点 100%、同282地点 30%、同313地点 44%、同319地点 11.1%、大和村田ノ平遺跡 25%。

山梨市地域

日下部遺跡 65%

北巨摩郡地域

大泉村東姥神B遺跡 71%、同豆生田第3遺跡 137%、木ノ下、大坪遺跡 37%、小渕沢町上平出遺跡 71%、同前田遺跡 36%、長坂町柳坪遺跡 86%、武川村宮間田遺跡 26%。

韮崎市

坂井南遺跡 25%、中田小学校遺跡 30%

都留市

堀ノ内原遺跡 83%

地域別に出土率を挙げてみたが、この中で勝沼バイパス269地点、同280地点、豆生田第3遺跡は他の遺跡に比べて、すば抜けた集中傾向を認められるところであり、性格上の違いを考える必要があるかもしれない。その他は30%~80%の数値の範囲にあり、このあたりに平均的な状況を窺えるものといえよう。しかし、この数値の中にも地域によって大きな違いを認められるようである。それは特に東八代郡地域と北巨摩郡地域であり、東八代郡地域の平均25%に対し、北巨摩郡地域は平均48%という高率を示し、北巨摩郡地域が約2倍の集中度を見せることになる。

このように一般的傾向ではあるが、やや稀薄な地域である東八代郡下における本遺跡の状況を比べてみると、164軒の住居址に対して僅か11例の墨書・刻書が知られるのみで、比率的には6%程度となる。このことは稀薄地の中にあっても平均を大きく下回るものであり、本遺跡においては盛行した状況を認めることはできない。

二之宮遺跡は『和名抄』に見られる国衙所在推定地から、おおよそ300メートルの近距離にあり、かつ本遺跡が古墳時代より連綿と継続している状況が窺えることを加味すれば、国衙の成立過程における本遺跡の性格を反映しているものと捉えることができるものかも知れない。

おわりに

二之宮遺跡(含む二之宮西)の概要と若干の考察を加えてきた。縄文時代1軒、弥生時代3 軒、古墳時代157軒、奈良時代24軒、平安時代198軒、時期不明9軒、合計392軒の竪穴式住居址 と井戸址1基の大集落址であり、特に古墳時代と平安時代に属する時期の住居址が大半を占め、 この時期に隆盛を見せた集落址といえる。

大きな 2 時期の隆盛を見せる本集落址は、さらに時期を細分して集落変遷を検討してみると、若干の濃淡はあるものの弥生時代から平安時代まで連綿と続いた伝統的集落址であったと位置付けができ、郡郷制へそのまま移行されたものといえる。その中で時期によって集落の収縮、拡散、移動などの行われた状況が捉えられるようである。特に弥生時代から古墳時代初めにかけて、大きな動きが見られる。この動きが何によって生じたかは明確にできないが、あるいは支配体制強化をめざすための動きとも考えられる。また各時期の検討を通して、その中に住居址の大・小の組合わされた状況の存在する時期が捉えられた。古墳時代と平安時代中ころの10世紀代に見られ、その置かれていた体制の内容は違うものと考えられるが、いずれも集落内における階層の変化と見ることができよう。

集落内における住居址の占地にも大きな流れが認められる。すなわち古墳時代後期ころより 平安時代末ころまでの間、住居址が幾つかの小ブロックごとに繰り返し、構築されていること が捉えられ、このことから土地に対する保守性の強さが窺える。

本遺跡の所在地は平安時代における山梨郡井上郷とする説が有力であるが、国衙の存在する 関係から八代郡であっても、さ程無理はないものともいわれている。しかし集落内から出土し た墨書土器などに、これを明確にする資料は確認されなかった。むしろ国衙所在地の集落址で あるところから、「多量の墨書土器」の出土を期待していたのに反し、ごく微量の墨書土器な どが確認されたにすぎず、国衙との係り具合が注目され、また国衙の移転時期とも係りがある ものかもしれない。

以上、若干のまとめをしたが、たとえば土器の検討、底部に回転糸切り様の痕跡を持つ古墳 時代の土器など、まだまだ検討を加えなければならない問題が多々存在する。これらの点につ いては後日に期したい。

最後に調査に際し、指導、助言あるいは援助をいただいた関係各位ならびに機関、および発掘調査、整理作業に従事した各位に、誌上をかりて厚くお礼申し上げたい。

第3表遺物観察表(二之宮)

97-11	iyi KG	\$1:11 ()	調			整	11/. 1 left. 15 22 301	444.
番号	器種	法量(cm)	28	体部	山	部	────────────────────────────────────	備考
1	上 師 坏.	(日) 12.6 (高) 4.0 (底)	ヘラケズ	IJ			(胎)緻密、赤色粒含む (焼)良好 (色)褐色	
2	上 師 坏	14.0 3.6	ヘラケズ (内)へ		(内)	ヘラミガキ	密 良好 褐色 (内) 黑色	反転
3	l: 師 坏	13.0 4.3	ヘラケズ (内) へ		(内)	ヘラケズリ	密、赤色粒含む 良好 黒褐色	反転
4	l: 師 坏	12.0	ヘラケズリ (内)へ			ヘラミガキ	密、赤色粒含む 良好 暗褐色	反転 焼きむら
5	t: 師 坏	14.6 3.2	ヘラケズ)			密、赤色粒含む 良好 黄褐色	反転
6	t: 師 坏	13.0 3.5	ヘラケズリ	、ヘラミガ		ヘラミガキ	やや粗い 良好 褐色	反転
7	上 師 坏	12.7	ヘラケズ	J)			密 良好 黒褐色	反転
8	上師坏	11.8	ヘラケズリ	、ヘラミガ	+		密 良好 黒褐色	反転
9	上 師 坏	11.9 3.5	ヘラケズ (内)へ	•			密、赤色粒含む 良好 赤褐色	反転
10	上師坏	13.0 3.6	ヘラケズ	J			密、赤色粒含む 良好 黄褐色	反転 焼きむら
11	上 師 坏	12.6 3.9	ヘラケズ)			機密、赤色粒含む 良好 褐色	
12	上 師 坏	11.6 2.7	ヘラケズ (内)へ		(内)	ヘラミガキ	密 良好 黑褐色	
13	士 師 坏	10.8	ヘラケズ (内) へ	-			緻密 良好 黄褐色	反転
14	1: 師	12.3					緻密 良好 赤褐色	反転
15	上 師 高 坏	11.8	ヘラケズ	J)	ヘラケ	ァズリ	やや粗い、赤色粒合む 良好 赤褐色	
16	h: 師 境	16.0	ヘラミガー				密 良好 (外、内) 丹塗り	反転
17	土 師 境	14.0	ヘラケズ	IJ			粗い、赤色砂粒含む 良好 暗褐色	反転
18	:h: 師 境	8.9 5.4	ヘラケズ)			緻密 良好 暗褐色	

	PU T5	N. El. Z	調	整	胎士、焼成、色調	備考
番号	器 種	法量 (cm)	器体	部 底 部	加.1.、粉切、巴酮	VHI 75
19	土: 師 変	(口) 21.6 (高) 32.7 (底) 9.3	ハケメ (内) ハケメ	ヘラナデ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	
20	土 師 小型甕	9.0		ヘラナデ	密、赤色粒含む 良好 褐色	反転
21	土 師 塾	30.3	ハケメ (内) ハケメ		密 良好 黄褐色	反転
22	土 師	9.0	ヘラケズリ (内) ハケメ		密 良好 褐色	焼きむら
23	:t: 師 甕	16.6	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 赤褐色	反転
24	土師	20.3	(内) ハケメ		やや粗い 良好 褐色	反転
25	土: 師 獀	16.0 31.3 6.4	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕、ヘラケズリ	粗い 良好 褐色	
26	士: 師 甕	25.1	ハケメ		密、赤色粒含む 良好 褐色	焼きむら
27	士: 師 魏	25.2	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 褐色	
28	土 師 支 柱	4.7			やや粗い、石英含む 良好 暗褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎士、焼成、色調	備考
田石	66 恒	公里(加)	器 体 部	底 部	加工、炒加、巴酮)HI 45
1	土 師 坏	(口) 12.2 (高) 4.2 (底)	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 明褐色	反転
2	土 師 坏	13.0	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ		緻密 良好 褐色	
3	土 師 坏	12.3 3.9	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 暗褐色	
4	土 師 坏	12.1 4.0	ヘラケズリ (内) 横ナデ		緻密 良好 淡褐色	
5	土 師 坏	12.5 4.1	ヘラミガキ、ヘラケズリ (内) 横ナデ		緻密 良好 暗褐色	
6	須恵器 蓋	12.4			緻密 良好 灰白色	反転
7	土師		ハケメ、ヘラケズリ (内) 横ナデ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 褐色	

番号	器	種	法量 (cm)	調			整	胎士、焼成、色調 備	考	
金石	fair	恒	AZER (CIII)	器 体	部	底	部) PHS	~,
	± :	師	(日)	ヘラケズリ		木葉痕		(胎) やや粗い		
8	四	筒	(高) 44.5 (底) 9.6					(焼)良好 (色)赤褐色		

番号	191 - 1616	器種 法量(cm)	調整		胎士、焼成、色調	備考
	fir th		器 体 部	底 部	用1.1.、 外以、 巴酮	уна <i>7-</i> 3
1	土 師 坏	(11) 12.2 (高) 5.2 (底) 7.3	申1%前後の横位へラミガキ (内)暗文	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	赤色粒子含む 反転

4 号住居址

W-E1	器種	法量 (cm)	調整		胎士、焼成、色調	備考
番号	谷 惶		器体部	底 部	MILLY MEDICY CAN	ун 73
1	土: 師 坏	(日) 10.1 (高) 4.2 (底) 6.4	横ナデ、ヘラケズリ (内) 暗文		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 黄褐色	赤色粒子含む 反転
2	土: 師 甕	23.4	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 赤褐色	

.50%, LJ	ivi ££	31-J-L ()	調	整	胎上、焼成、色調	備考
番号	器 種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	THE LANGE COM	ИНЗ ~5
1	上 師 坏	(日) 11.4 (高) 4.1 (底) 6.6	横ナデ、ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	赤色粒子含む
2	上 師 坏	11.0	ヘラケズリ (内) 暗文		緻密 良好 茶褐色	赤色粒子含む 小片反転
3	土 師 坏	10.1	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	緻密 良好 黄褐色	反転
4	土 師 坏	10.4 4.2 4.8	横ナデ、ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	赤色粒子含む 底部スス付着
5	土: 師 坏	10.4 4.3 5.1	ヘラケズリ (内) 暗文	全面ヘラケズリ	緻密 良好 黄褐色	
6	土 師 坏	10.8 4.0 5.1	横ナデ (内) 暗文	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	
7	土 師 坏	10.5 4.6 5.0	ヘラケズリ (内) 暗文	全面ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	反転
8	土 師 坏	7.7	(内) 暗文	削出高台	密 良好 赤褐色	赤色粒子含む 反転
9	土 師 坏	16.3 6.1 8.0	線刻 (内) 暗文	削出高台	密· 良好 赤褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎上、焼成、色調	備考
金石	器種	法里 (cm)	器 体 部	底 部	折江、光双、巴祠)
10	土 師高 坏	(口) 12.4 (高) 5.0 (底) 6.0	ヘラケズリ	削出高台	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 黄褐色	反転
11	土師皿	15.5 1.8 1.1	横ナデ	ヘラケズリ	密 良好 褐色	反転
12	土 師 皿	15.5 2.5 6.5	横ナデ、回転へラケズリ (内) 不鮮明な暗文	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
13	土 師 坏	15.6 3.5 5.4	横ナデ (内) 横ナデ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	
14	土 師 台付皿	15.0 4.1 8.6	横ナデ (内) ヘラミガキ		密 良好 赤褐色	
15	土 師 甕	21.8	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 暗褐色	金雲母舎む
16	土 師	16.0	横ナデ、ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 臭好 暗褐色	金雲母舎む
17	土 師 甕	8.5	不鮮明なハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 茶褐色	選母多量に含む
18	土 師 甕	9.5	ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 茶褐色	反転 雲母多量に含む
19	土 師	7.8	(内) ハケメ、ヘラケズリ	木葉痕	粗い 良好 暗褐色	金雲母、石英含む
20	土 師置カマド				粗い 良好 茶褐色	
21	灰 釉 壺	8.7	ヘラケズリ		緻密 良好 灰褐色	内、外面1部自然釉

番号	器種	法量 (cm)	調整		- 胎上、焼成、色調	Att: tr.
田づ	firit 17组		器 体 部	底 部	MILLS BOXS Calo	備考
1	土 師 坏	(口) 12.2 (高) 3.7 (底) 5.3	横ナデ	回転糸切り	(胎)密、赤色粒含む (焼)良好 (色)褐色	
2	土 師 坏	10.7 1.9 5.2	横ナデ	回転糸切り	やや粗い、赤色粒合む 良好 黄褐色	
3	土 師 坏	13.4 2.15	ヘラケズリ	回転糸切り	密、赤色粒含む 良好 褐色	反転
4	土 師 翌	24.6			やや粗い 良好 茶褐色	反転

3 7 .11	iyi Ke	2011 ()	調問	整	胎土、焼成、色調	備	考
番号	器種	法量(cm)	器体部	底 部			
1	上 師 羽 釜	(日) 26.0 (高) (底)	ハケメ (内) ハケメ		(胎)や物い、石英含む (焼)良好 (色)暗褐色		
2	灰 釉 舞	9.4			緻密 良好 灰褐色		

8 号住居址

番号	器種	itit ()	34	整	胎士、焼成、色調	備考
111 'J		法量 (cm)	器体部	底 部	加工、分切人、巴利	THI TO
1	l: 師 坏	(日) 11.5 (高) 4.3 (底)	(内)暗文(不鮮明)	ヘラケズリ	(胎)密、赤色粒含む (焼)良好 (色)赤褐色	反転
2	上 師 坏	10.0	ヘラケズリ (内)暗文(不鮮明)		緻密、赤色粒含む 良好 黄褐色	反転
3	l: 師 坏	10.9	ヘラケズリ (内)暗文(不鮮明)		緻密、赤色粒合む 良好 黄褐色	汉 転

.gg. 1 1	器種	法量 (cm)	34	整	胎士、焼成、色調	備考
番号	665 ₹ ‼	/Eu((cm)	器体部	底 部	MILL SOUL COM	(FI)
1	上 師	(日) 11.6 (高) 4.2 (底) 4.9	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎)緻密、赤色粒含む (焼)良好 (色)赤褐色	
2	l: 師 坏	11.8 4.3 4.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
3	上 師 坏	11.6 4.4 4.8	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺へラケズリ	緻密、黒色粒含む 良好 茶褐色	
4	1: 師	11.8 4.0 4.0	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺へラケズリ	緻密 良好 茶褐色	反転
5	1: 師 坏	12.7 3.8 6.2	横ナデ	回転糸切り	密、赤色粒含む 良好 暗褐色	反転
6	土: 師 坏	12.3 3.3 6.1	横ナデ	回転糸切り	緻密 良好 茶褐色	
7	上 師 坏	12.9 4.0 5.8	横ナデ	回転糸切り	密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
8	士: 師 坏	14.3 4.1 6.9	横ナデ	回転糸切り	緻密 良好 赤褐色	
9	士: 師 坏	14.5 4.8			緻密 良好 褐色(内)黒色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調		整	RAIL MINE CORN	Att	.:tr.
ш Э	fit 13里	在组 (CIII)	器体音	部 底	部	──胎上、焼成、色調	備	考
10	上師坏	(口) 15.2 (高) 4.7 (底) 7.6		回転糸は	IJŊ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 黄褐色		
11	土 師 坏	13.0 2.7		ヘラケン	ズリ	緻密、赤色粒含む 良好 赤褐色		
12	土 師 坏	11.0 2.6 5.4	横ナデ	回転糸切	गुष्ठ गुष्ठ	緻密 良好 褐色	反転	
13	土. 師 甕	16.6	ハケメ (内) ハケメ			やや粗い、実明合む 良好 茶褐色	反転	
14	土 師 甕	31.0	ハケメ (内) ハケメ			粗い、塞母含む 良好 茶褐色	反転	

番号	器種	法量 (cm)	調			整	胎上、焼成、色調	A+1:	tr.
ш-Л	tur 132	IAM (UII)	器体	部	底	部	加工、粉以、巴酮	備	书
1	土 師 坏	(口) 14.0 (高) (底)	ヘラケズリ				(胎)密、赤色粒含む (焼)良好 (色)(内、外)丹塗り	反転	
2	上 師 坏	12.9 4.1	ヘラケズリ				やや粗い、赤色粒合む 良好 (内、外)丹塗り		
3	土 師 坏	14.0 4.1	ヘラケズリ				やや粗い 良好 褐色 (内) 丹塗り		
4	土 師 坏	13.8 4.1	ヘラケズリ				やや粗い 良好 (内、外) 丹塗り		
5	土 師 坏	14.6 2.9	ヘラケズリ				密、赤色粒含む 良好 (内、外)丹塗り	反転	
6	土師坏	13.5 4.1	ヘラケズリ				密 良好 褐色 (内) 丹塗り		
7	土 師 坏	13.6 3.7	ヘラケズリ		·		やや粗い、石英合む 良好 (内、外)丹塗り		
8	土 師 坏	15.2	ヘラケズリ				や相い、赤色粒合む 良好 (内、外)丹塗り	反転	
9	土 師 坏	9.8	ヘラケズリ				緻密 良好 赤褐色	反転	
10	土 師高 坏	12.0 8.8 9.3	ヘラケズリ				密、赤色粒含む 良好 褐色		
11	須恵器 蓋	12.1 5.3					緻密 良好 青灰色		
12	須恵器 坏	13.5 4.5	ヘラケズリ		ヘラケズリ		緻密 良好 青灰色		

番号器種		法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備	tz.
田勺 品 俚	IXE (UII)	器 体 部	底 部	加工、税以、已间	考		
13	上 師	(口) 22.0 (高) (底)	ハケメ (内) ハケメ		(胎) やや粗い、め粒石英含む (焼)良好 (色)褐色		
14	土 師 壺	8.5		ヘラケズリ	密 良好 褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調	整	14.1. 株式 各部	備考
金石	奋性	佐里 (CIII)	器 体 部	底 部	- 胎土、焼成、色調	加 石
1	土 師 坏	(口) 13.0 (高) 4.1 (底) 3.4	横ナデ、ヘラケズリ	回転糸切り	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	反転
2	土 師 坏	12.0 3.8 4.5	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ	ヘラケズリ	密 良好 褐色	赤色粒子含む スス付着
3	上 師 坏	18.2	横ナデ、ヘラケズリ		緻密 良好 茶褐色(内)黒色	1/6片反転
4	土 師 坏	16.6 5.1 6.9	横ナデ、ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	一部焼きむら
5	土 師 坏	13.5 3.8 6.5	横ナデ	回転糸切り	緻密 良好 赤褐色	赤色粒子含む スス付着
6	土 師 坏	13.2 4.0 5.5	横ナデ (内)ナデ	回転糸切り	緻密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
7	土 師 坏	12.4 3.45 5.6	横ナデ (内)ナデ	回転糸切り	緻密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
8	土 師 坏	12.8 3.8 5.8		回転糸切り	緻 密 良好 茶褐色	反転
9	土 師 坏	14.0 4.3 5.8	横ナデ (内) 横ナデ	回転糸切り	緻密 良好 茶褐色	赤色粒子含む
10	土師坏	12.1 3.45 5.3	横ナデ (内)ナデ	回転糸切り	緻密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
11	土 師 坏	12.8 3.6 6.3	横ナデ (内) ナデ	回転糸切り	緻密 良好 褐色	赤色粒子含む
12	上 師	11.6 3.75 6.0			やや粗い 良好 暗褐色	
13	土 師 坏	12.3 3.8 5.1	横ナデ (内) ナデ	回転糸切り	密 良好 褐色	赤色粒子含む
14	土 師 坏	13.0 3.2 6.8	横ナデ (内) ナデ	回転糸切り	緻密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
15	土師坏	15.6	横ナデ		やや粗い 良好 褐色	赤色粒子含む 反転

597. 1-1	iui £f	31- EE ()	34	整	BEAS HAND LAN	備考
番号	器種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	胎士、焼成、色調	備考
16	土: 師 台付 境	(口) 16.2 (高) 5.4 (底) 10.5	横ナデ		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 黄褐色	反転
17	土: 師 高台付 埦	14.4 5.5 7.8	横ナデ (内) ナデ		94個、超越了全体金 良好 茶褐色	火転
18	土: 師 高台付 境	9.5			やや粗い 良好 黄褐色	
19	上師高坏	12.5	横ナデ		密、赤色粒子含む 良好 褐色	火 転
20	土 師 台付城	7.3			やや粗い 良好 茶褐色(内)黒色	焼きむら 反転
21	土 師 坏	5.8		回転糸切り	緻密 良好 褐色 (内) 黒色	
22	土: 師 坏	12.8 3.1 5.3	横ナデ (内)ナデ	回転糸切り	概密、赤色粒子含む 良好 赤褐色(内)黒色	
23	i: 師 魏	16.0	横ナデ、ハケメ (内) 不鮮明なハケメ		緻密 良好 茶褐色	反転
24	:1: 66 IIII	14.0 2.3 6.5	ナデ (内) ナデ	回転糸切り	やや粗い 良好 茶褐色	
25	土 師 羽 釜	23.4	ハケメ (内) ハケメ		や中相い、選別多風に含む 良好 暗褐色	1/8片反転
26	.t: ## ##	12.6 2.3 6.1		回転糸切り	緻密 良好 茶褐色	反転
27	灰 釉 甕	16.1	横位へラケズリ後ナデ (内)ナデ		緻密 良好 灰白色	反転

番号	器種	法量 (cm)	34	整	RALL Jakesty CA 381	A th :	·····
11173	1111 TR	在集(cii)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備	5
1	土 師 坏	(口) 13.3 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 赤褐色		
2	土: 師 坏	12.3 3.5 4.8	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺ヘラケズリ	や相い、赤色粒合む 良好 黄褐色		
3	土. 師 坏	14.0 3.9	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 褐色	反転	
4	土: 師 坏	16.3 5.2 7.0	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺ヘラケズリ	やや粗い、赤色粒合む 良好 赤褐色	坟転	
5	上 師 坏	14.5 4.7 6.7	ヘラケズリ	回転糸切り	や相い、赤色粒合む 良好 褐色	反転	

番号	器 種	法量 (cm)	部局	整	胎上、焼成、色調	備考
金子	谷 悝	(CIII)	器 体 部	底 部	In.L.、%UX、巴酮	1/111 - 15
6	上 師 坏	(口) 13.1 (高) 3.7 (底) 5.5	横ナデ	回転糸切り	(胎) やや粗い、赤色粒合む (焼) 良好 (色) 赤褐色	
7	上 師 坏	12.2 3.5 5.0	横ナデ	回転糸切り	密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
8	上 師 坏	14.0 4.1 6.4	横ナデ	回転糸切り	やや粗い 良好 暗赤褐色	
9	上師坏	12.0 2.75			密、赤色粒含む 良好 褐色	反転
10	上 師 坏	12.6 2.2 5.2	横ナデ	回転糸切り	密、赤色粒含む 良好 黄褐色	
11	上 師 坏	12.7 2.4 3.6	ヘラケズリ	ヘラケズリ	や中相い、赤色粒合む 良好 黄褐色	
12	-t: 66 1111	13.4 1.9 4.8	ヘラケズリ		や神い、赤色粒合む 良好 赤褐色	
13	土 師 坏	12.0 2.6 5.2	横ナデ	回転糸切り	や神川、赤色粒合む 良好 赤褐色	焼きむら
14	上師坏	12.6 2.7 5,8	横ナデ	回転糸切り	密、赤色粒含む 良好 茶褐色	反転
15	:L: 師 塑	30.0	ハケメ		密、石英含む 良好 暗褐色	
16	上 師 翌	9.6	·	木葉痕	やや粗い 良好 暗褐色	反転

97.17	DD 575	M. ISI ()	調	整	胎上、焼成、色調	備考
番号	器種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	MILLY MEAN COM	C P I I I
1	出 師 蓋	(口) (高) (底)	ヘラケズリ		(胎)密、赤色粒含む (焼)良好 (色)黄褐色	
2	土 師	15.7			密 良好 褐色	
3	土: 師 蓋	13.3			やや粗い 良好 暗褐色	
4	上 師	9.5	ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 褐色	
5	上 師 高 坏	25.0	ヘラミガキ		緻密 良好 赤褐色	
6	土 師高 坏	23.7	ヘラミガキ (内) ヘラミガキ		密、赤色粒含む 良好 (内、外)丹塗り	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田勺	663 化里	(ALM)	器 体 部	底 部		νπ <i>*</i> σ
7	土 師高 坏	(口) 18.0 (高) (底)	ヘラミガキ (内) ハケメ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 黄褐色	
8	土 師高 坏	22.6			やや粗い 良好 茶褐色	反転
9	土 師高 坏		縦位ヘラミガキ		やや粗い 良好 赤褐色	
10	土 師高 坏	8.8			密 良好 茶褐色	1段3孔
11	土 師高 坏				やや粗い 良好 黄褐色	2段6孔
12	土師坑	2.7	ヘラケズリ ヘラミガキ (内) ヘラケズリ	ヘラケズリ	やや粗い、石英含む 良好 丹塗り	
13	土 師	11.6	ハケメ (内) ハケメ		密、赤色粒含む 良好 褐色	
14	土師	12.0	ヘラミガキ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 褐色	沈線が一対ある
15	土 師 台付甕	14.7	ハケメ (内) 縦指頭搔痕		や中相い、 祭母合む 良好 暗褐色	反転 くびれの所に沈線を 回す
16	土 師	15.6			やや粗い 良好 褐色	
17	土 師 台付甕	9.2	ハケメ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 黄褐色	
18	土 師 翌	15.5	(内) ヘラケズリ		やや粗い、赤色粒含む 良好 褐色	反転
19	土 師 変	29.0	ハケメ (内) ハケメ		密 良好 茶褐色	反転
20	土 師 変	8.9	ヘラケズリ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 暗褐色	
21	土 師 壺	5.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 黄褐色	

番号	器種	法量(cm)	調		整		松上 株式 各部	£#;	te.	
		(A)	器	体	部	底	部	胎土、焼成、色調	備	考
1	土 師 坏	(口) 13.8 (高) 4.5 (底) 7.0	横ナデ			回転糸切り)	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色		
2	土 師 坏	15.2 5.3 7.0				ヘラケズ!	1	やや粗い 良好 赤褐色	反転 焼きむら	

番号	器種	法量 (cm)	訓				整	胎土、焼成、色調	£#;	考
#7	60 1里	太里 (CIII)	器	体	部	底	部		備	考
3	土 師 坏	(口) (高) 3.8 (底) 5.1	横ナデ			回転糸切り		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 茶褐色		
4	土 師 坏	3.4 7.0	横ナデ			回転糸切り		緻密 良好 暗褐色		
5	土 師 坏	11.6 2.4 6.4	横ナデ			回転糸切り		緻密 良好 暗茶褐色		
6	十: 師 坏	10.6 2.2 5.2				回転糸切り		緻密 良好 赤褐色		
7	土師皿	12.0 2.05 5.5	横ナデ			回転糸切り		緻密 良好 黄褐色	反転	
8	土 師 坏	8.8 2.2 4.2	横ナデ			回転糸切り		やや粗い 良好 茶褐色		
9	土 師 小型甕	5.8 4.15 3.9				ヘラケズリ		やや粗い 良好 暗褐色		
10	土 師高台付坏	7.3						緻密 良好 黄褐色		
11	土 師 鉢	21.6						緻密 良好 茶褐色		
12	土師	38.6	ハケメ					やや粗い 良好 茶褐色		
13	土 師羽 釜	34.0	ハケメ (内) ハ	ケメ				緻密 良好 茶褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田力	60 作生	公里 (CII)	器体部	底 部	加工、税权、巴嗣	기배 주
1	土 師 坏	(口) 14.9 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 概念、必粒赤色粒合む (焼)良好 (色)赤褐色	反転
2	土 師 台付坏	16.5 5.95 7.3	(内) ヘラミガキ		やや粗い 良好 赤褐色 (内) 黒色	反転
3	土 師 坏	13.6 2.65 6.2		ヘラケズリ	概念、砂粒赤色粒含む 良好 赤褐色	反転
4	土 師 坏	14.0			やや粗い、砂粒含む 良好 褐色	反転
5	土 師 変	28.8	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 赤褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎士、焼成、色調	備考
番写	盆 性	佐里(CII)	器 体 部	底 部	月日. L.、 外印入、 巴西可	ביי פוע
1	上 師 坏	(口) 12.1 (高) 3.7 (底) 4.7	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)褐色	赤色粒子含む
2	上 師 坏	14.4 4.3 5.9	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺へラケズリ	緻密 良好 褐色	赤色粒子含む
3	上 師 坏	7.4	横ナデ	回転糸切り未調整	密 良好 褐色	赤色粒子含む
4	上 師 坏	15.6 5.0 6.9	横ナデ (内) ナデ	回転糸切り	緻密 良好 赤褐色	赤色粒子含む 反転
5	上 師 坏	16.7	横ナデ		緻密 良好 赤褐色	赤色粒子含む 反転
6	上 師 羽 釜	25.0			粗い 良好 暗赤褐色	
7	上 師 坏	12.6 2.4 4.4	ヘラケズリ (内) ナデ	回転糸切り後へラケズリ	密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
8	土 師羽 釜		ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 暗赤褐色	
9	土 師 坏	12.4 2.6 3.5	ヘラケズリ (内) ナデ	回転糸切り後ヘラケズリ	密 良好 黄褐色(内)赤褐色	赤色粒子含む 焼きむら
10	土 師 坏	12.0 2.6 4.8	横ナデ (内) ナデ	回転糸切り未調整	密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
11	土 師 翌	31.6	ハケメ (内)不鮮明なナデ		やや粗い 良好 暗赤褐色	金雲母含む

37. LL	typ Kill	计是 ()	調	整	胎上、焼成、色調	備考
番号	器種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	月11. L、 <i>外</i> 4.7X、 巴南	VIII ~3
1	上 師 坏	(口) 11.6 (高) (底)	ナデ、ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	反転
2	土 師 坏	13.2 4.0 5.6	ナデ、ヘラケズリ	回転糸切り後周辺ヘラケズリ	密 良好 明黄褐色	
3	土 師 坏	12.7	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	全面ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	反転
4	土 師 坏	12.4 3.9 4.7	ナデ、ヘラケズリ	全面ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色(内)黒色	
5	土 師 坏	13.2 4.05 5.05	横ナデ、ヘラケズリ	回転糸切り後周辺へラケズリ	緻密 良好 赤褐色	

.sg., t. 1	thi TE	3411 ()	調	整	II/s I Inter-15 Az-3141	Att:
番号	器 種	法量 (cm)	器体部	底 部	胎士、焼成、色調	備考
6	士. 師 坏	(口) 1.4 (高) (底)	横ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	赤色粒子含む
7	土 師 坏	13.8	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		緻密 良好 赤褐色(内)黒色	反転
8	土 師 坏	12.7	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		緻密 良好 赤褐色	砂粒赤色粒子含む
9	: 師 坏	13.9 4.3 5.5	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	中転糸切り後周辺ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	反転
10	士 師 坏	14.0 3.95 5.8	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	中転糸切り後周辺へラケズリ	やや粗い 良好 赤褐色	反転
11	土. 師 坏	14.4 5.1 6.45	ナデ、ヘラケズリ	全面ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
12	土 師 坏	13.8 4.0 5.3	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	回転糸切り後周辺へラケズリ	密 良好 明黄褐色	反転
13	土 師 坏	15.1 3.9 5.4	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	全面ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	反転
14	士 師 坏	17.1 5.3	ナデ、ヘラケズリ	回転糸切り後周辺ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色(内)黒色	反転
15	土 師 坏	11.6 2.4	横ナデ	ヘラケズリ	緻密 良好 暗褐色	焼きむら
16	十. 師 坏	12.8 2.6 4.6	横ナデ、ヘラケズリ	全面ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	
17	十. 師 坏	11.8 2.95 4.3	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	全面ヘラケズリ	緻密 良好 暗褐色	
18	土: 師 坏	12.2 2.5	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		やや粗い 良好 赤褐色	赤色粒子含む
19	土. 師	12.8 2.4 5.0	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	反転
20	士: 師 坏	13.5 3.8 6.0	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	反転
21	土 師 坏	12.4 2.55	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	ヘラケズリ	緻密 良好 黒褐色	
22	士: 師 坏	15.0 3.1 6.6	横ナデ	回転糸切り	やや粗い 良好 赤褐色	反転
23	士 師	13.3	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 暗茶褐色	砂粒子、石英含む 反転
24	灰 釉	8.3	ヘラケズリ		緻密 良好 灰褐色	

番号	器種	法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
留写	帝 悝	大里 (CII)	器 体 部	底 部	ALLEY MONT CON	Viii 75
25	土 師 甕	(口) 14.2 (高) (底)	ハケメ (内) ハケメ		(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 暗茶褐色	砂粒子含む 反転
26	土 師 翌	32.8	ナデ、ハケメ (内) ナデ、ハケメ		粗い 良好 暗赤褐色	砂粒子、石英含む
27	土 師羽 釜	21.3	横ナデ (内) ハケメ		粗い 良好 暗赤褐色	砂粒子、石英含む

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田力	66 作里	在里(CIII)	器 体 部	底 部) JHI
1	土 師 坏	(口) (高) (底) 4.6	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)茶褐色	反転
2	土 師 坏	4.5	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密、砂粒含む 良好 茶褐色	反転

19号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	htt:
ш 7		法里 (CIII)	器 体 部	底 部	加工、粉以、巴酮	備考
1	土 師 坏	(口) 12.2 (高) (底)			(胎)密、黒色粒含む (焼)良好 (色)黄褐色	反転
2	土 師 坏	14.0	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転
3	須恵器 鉢	28.0			緻密 良好 灰色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
шу	tic 132	IZE (CII)	器 体 部	底 部	加上、税以、巴酮) VHI 45
1	土 師 坏	(口) 12.4 (高) 3.7 (底) 5.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転
2	土 師 坏	12.1 3.8 4.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	やや粗い、赤色粒含む 良好 赤褐色	
3	土 師 坏	12.2 3.7 5.4	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺ヘラケズリ	やや粗い 良好 茶褐色	
4	土 師 坏	12.9 3.8 4.8	ヘラケズリ	ヘラケズリ	やや粗い、赤色粒含む 良好 赤褐色	反転
5	土 師 鉢	18.8 6.8 7.7	ヘラケズリ	回転糸切り、周囲ヘラケズリ	やや粗い、必枚赤色粒合む 良好 赤褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	마는 소 석대사 그리	Att: atc.
田つ	600 代里	(A)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備 考
6	土師	(口) 17.6 (高)	ヘラケズリ		(胎) 緻密、赤色粒含む (焼)良好	反転
	坏	(底)			(焼)良好 (色)赤褐色	
7	土 師	13.2 2.5	ヘラケズリ		緻密、赤色粒含む 良好	反転
	坏	5.2			良好 赤褐色	
8	土 師	14.2	ヘラケズリ		密自好	反転
	坏				良好 赤褐色	
9	土 師	13.5			密、赤色粒含む 良好 暗褐色	反転
Ľ	坏				暗褐色	
10	土 師	16.6	ハケメ		密良好	
	甕				暗褐色	
11	土師			木葉痕	粗い、石英含む 良好 暗褐色	
	甕	8.0	(内) ハケメ		暗褐色	
12	土 師	31.0			粗い、雲母砂粒含む	
	魙		(内) ハケメ		良好 暗褐色	
13	土 師	38.4			やや粗い	
13	甕				良好暗褐色	
14	灰 釉				緻密	底部は無釉
14	脚付皿				緻密 良好 灰白色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田力	600 位生	(ALL)	器体部	底 部	加工、粉狀、巴酮	! VH
1	土 師 坏	(口) 12.4 (高) 4.1 (底) 4.6	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 緻密、赤色粒含む (焼)良好 (色)赤褐色	反転
2	土 師 坏	12.8 2.3 5.1	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	·
3	土師	33.4	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い、雲母含む 良好 茶褐色	反転
4	土 師羽 釜	22.0	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い、金潔母含む 良好 暗褐色	反転

番号	器 種	種 法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考	
	留力	谷 性	法里(CIII)	器 体 部	底 部	加工、殊政、巴嗣	1/H 45
	1	土 師 坏	(口) 13.2 (高) 3.7 (底) 5.1	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 緻密、黒色粒含む (焼)良好 (色)赤褐色	反転
	2	土 師 坏	11.8 3.7	ヘラケズリ	回転糸切り	緻密、赤色粒含む 良好 赤褐色	反転

517. [**	uu ee	24 MI. ()	調		整	日本本	備考
番号	器種	法量(cm)	器体	部	底	出土、焼成、色調 部	7厘
3	土. 師 坏	(口) 12.8 (高) 3.3 (底) 6.0	ヘラケズリ			(胎) 緻密、赤色粒含む (焼)良好 (色)茶褐色	反転
4	土 師 坏	14.8 5.3 4.2	ヘラケズリ (内) 暗文		ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色 (内) 黒色	反転
5	土. 師 坏	5.7	横ナデ		回転糸切り	緻密、赤色粒含む 良好 茶褐色	
6	士: 師 坏	15.3 4.5 7.8	横ナデ		回転糸切り	緻密 良好 茶褐色	以転
7	土 師 坏	12.9 4.0 5.4	横ナデ		回転糸切り	緻密、赤色粒含む 良好 暗褐色	
8	士. 師 坏	13.1 3.9 5.0	横ナデ		回転糸切り	緻密 良好 赤褐色	反転
9	土 師 坏	13.6 4.6 4.7	横ナデ	, -	回転糸切り	や相い、赤色粒含む 良好 黄褐色	汉 载
10	士: 師 坏	12.6 3.8 5.6	横ナデ		回転糸切り	緻密、赤色粒含む 良好 茶褐色	汉•広
11	土 師 坏	12.8				緻密 良好 茶褐色 (内) 黒色	汉朝:
12	土師坏	12.8 2.2 7.0			ヘラケズリ	緻密、黒色粒含む 良好 茶褐色	文載
13	土師坏	12.4 3.0 3.7	ヘラケズリ		ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	
14	土 師 坏	13.1 2.3 5.6	ヘラケズリ		ヘラケズリ	緻密、赤色粒含む 良好 茶褐色	
15	土 師 坏	12.0 2.6 4.2	ヘラケズリ		回転糸切り、周辺へ	ラケズリ 緻密 良好 黄褐色	
16	土師坏	12.0	ヘラケズリ			や相い、赤色粒含む 良好 赤褐色	
17	士: 師 坏	12.0 3.0 6.0	横ナデ		回転糸切り	概念、赤色黒色粒含む 良好 赤褐色	反軸点
18	土 師 坏	11.2 2.5 4.8	横ナデ		回転糸切り	密、黒色粒含む 良好 茶褐色	反転
19	土 師 坏	11.8 2.4 3.2	横ナデ		回転糸切り	密、黒色粒含む 良好 茶褐色	反転
20	士: 師 坏	7.4			削出高台	緻密、黒色粒含む 良好 茶褐色	
21	土、師		ハケメ (内) ハケ	*		やや粗い 良好 茶褐色	反転

57.1.1	uu Le	ald L ()	調	整	胎上、焼成、色調 備 考
番号	器種	法量 (cm)	器 体 部	底 涨	胎上、焼成、色調 備 考
1	土: 師 坏	(日) 11.1 (高) 4.05 (底) 5.3	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、周辺ヘラケズリ	(胎) 緻密 (姓) 良好 (色) 赤褐色
2	土 師 坏	15.0 3.5 5.4	横ナデ	回転糸切り未調整	やや粗い 良好 暗赤褐色
3	土 師 坏	11.2 2.85 4.7	横ナデ	回転糸切り未調整	密、赤色粒含む 良好 赤褐色
4	上 師 坏	10.3 3.9 4.8	横ナデ	回転糸切り未調整	密 良好 赤褐色
5	上 師 坏	12.0 3.0 4.2	横ナデ	回転糸切り未調整	密 良好 赤褐色
6	上 師 坏	10.4 2.8 4.5	横ナデ	回転糸切り未調整	ゃゃ粗い、赤色粒含む 良好 褐色
7	上 師	19.4 8.1 7.6		回転糸切り未調整	密、赤色粒含む 良好 赤褐色
8	灰 釉 高台付城	15.1 6.2 7.8			緻密 良好 灰白色
9	灰 釉 台付坏	6.0		回転糸切り	緻密 良好 灰色
10	灰 釉 高台付城	7.2		回転糸切り	緻密 良好 灰白色

57.11	器種	31-J31 ()	[H	整	胎上、焼成、色調	備考
番号	希 俚	法量 (cm)	器 体 部	底 部	加工、粉碎人 巴胡	(Fig. 2)
1	土 師 坏	(11) 10.0 (高) (底)			(胎) 緻密 (姓) 良好 (色) 黄褐色	反転
2	上 師	13.5 8.4 6.5	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 暗褐色	
3	十. 師 題	27.2			密 良好 暗褐色	
4	上 師 舞	29.6	ヘラケズリ		やや粗い 良好 褐色	焼きむら
5	土 師	10.0	ヘラケズリ	木葉痕、ヘラケズリ	やや粗い、石英含む 良好 赤褐色	
6	上 師 魏	24.0	(内) ヘラケズリ		密 良好 暗褐色	

番号	器種	法量(cm)	調	整	- 胎土、焼成、色調	備考
俄万		(A)	器 体 部	底 部	加工、税以、巴利	1 THE 45
7	土. 師 甕	(口) (高) (底) 7.5		木葉痕	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 暗褐色	
8	須恵器 壺	17.2			緻密 良好 緑灰色	

番号	器種	重 法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田力	600年	法里(CIII)	器体部	底 部	加工、税权、巴酮	加州
1	土 師 坏	(口) 11.2 (高) (底)	ヘラケズリ (内) 暗文		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転
2	土 師 坏	5.8	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	やや粗い 良好 褐色 (内) 黒色	反転
3	土 師 坏	6.8		ヘラケズリ	密良好 茶褐色	反転
4	土師	7.0	指頭痕	木葉痕	やや粗い 良好 茶褐色	

26号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	141. 세수 소개	AH:tx
田勺	60 位	左里 (CII)	器 体 部	底 部	· 胎土、焼成、色調 ·	備考
1	土 師 坏	(口) 12.4 (高) 4.2 (底) 5.6	ナデ、ハケメ	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色(内)黒色	反転
2	土 師 坏	12.8	横ナデ		密 良好 黄褐色	
3	土 師 坏	12.0 1.9	横ナデ、ヘラケズリ		密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
4	土 師 坏	12.8	横ナデ、ヘラケズリ		やや粗い 良好 黄褐色	赤色粒子含む 反転
5	土師	32.0	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	反転
6	土 師				やや粗い 良好	反転
	甕	10.0	(内)ハケメ		良好 茶褐色	

番号器種	里 蒱	種法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
	法量(cm)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調) III 45	
1	土 師 坏	(口) 12.8 (高) 3.1 (底)	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)茶褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	16.1. 株式 各部	# *
田勺	667 代里	(A)	器 体 部	底 部	→ 胎土、焼成、色調 	備考
2	土 師	(口) 12.4 (高) (底)			(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	反転
	坏	(底)			(色) 暗褐色	
3	土 師	13.2	ナデ、ヘラケズリ		密良好	反転
	坏				暗褐色	
4	土 師	15.4			やや粗い良好	
	坏				良好茶褐色	
5	土 師	15.4	横ナデ、ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	反転
	高坏		(内)ハケメ		茶褐色	
6	須恵器				密良好	
	高 坏				青灰色	
7	土 師	11.8	横ナデ、ナデ		密良好	
	小型甕				茶褐色(内)黒色	
8	土 師'	18.1	横ナデ、ハケメ		粗い 良好	
	甕		(内)ハケメ		褐色	
9	土 師		ヘラケズリ	木葉痕	粗い 良好	砂粒子含む 反転
9	甕	7.0			茶褐色	/ 父 华丛
10	土 師	20.0			やや粗い自好	焼きむら
10	支 柱	20.0			良好茶褐色	

番号	器種	法量(㎝)	調整			整	胎土、焼成、色調	備考				
7	番号 器 種		器	体	部	底	部	加工、加以、巴阿) 明			
	1	土.	師	(口) 12.4 (高) (底)						(胎) 密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	赤色粒子含む 反転	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田石	台 恒	法里 (CIII)	器体部	底 部	加工、残风、巴酮	畑 石
1	土 師 坏	(口) 12.5 (高) 3.6 (底) 5.7	横ナデ (内) ナデ	回転糸切り	(胎)密 (焼)良好 (色)褐色	赤色粒子含む
2	土師坏	14.8	ナデ		やや粗い 良好 暗褐色	赤色粒子含む 反転
3	土 師 坏	7.6		回転糸切り	密 良好 褐色	赤色粒子含む
4	土 師 坏	11.6 3.7 5.2	横ナデ	回転糸切り	やや密 良好 暗褐色	反転
5	土 師 坏	11.8 3.5 5.3	横ナデ	回転糸切り	やや粗い 良好 赤褐色	砂粒含む

番号	器 種	法量 (cm)	調		整	胎上、焼成、色調	備考
金巧	谷 性	法里(CII)	器体	部	底 部	加工、粉码、品刷	URS 45
6	上 師 皿	(口) 11.7 (高) 2.1 (底) 4.6	ナデ		回転糸切り	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 赤褐色	赤色粒子含む
7	土師皿	12.0 2.2 5.8	横ナデ (内)ナデ		回転糸切り	密 良好 赤褐色	
8	土師皿	13.0				密 良好 褐色	
9	上 師 皿	12.5				密 良好 褐色	
10	土 師 高台坏	6.6				密 良好 赤褐色	赤色粒子含む 反転
11	灰 釉 坏	13.0				緻密 良好 灰白色	口縁部に灰釉
12	灰 釉 台付 坑	6.5				緻密 良好 灰白色	

317. 🗀	1111 201	. 社員 ()	調	整	1145 A 2144 A 214	備考
番号	器種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	- 胎士、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 12.7 (高) 4.2 (底) 4.7	横ナデ (内)横ナデ	回転糸切り	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	赤色粒子含む
2	土 師 坏	14.3	横ナデ		緻密 良好 黄褐色	
3	土 師 坏	13.2 4.3 7.6	ナデ	回転糸切り後へラケズリ	緻密 良好 茶褐色	反転
4	土 師 坏	13.0			緻密 良好 黄褐色	
5	土 師 坏	5.6		回転糸切り	密 良好 褐色	
6	土 師 鉢	18.2 6.0 7.6		回転糸切り未調整	緻密 良好 暗褐色	反転
7	土 師 坏	10.8 2.2 6.1	横ナデ	回転糸切り	やや粗い 良好 黄褐色	- 部焼きむら
8	上 師 坏	11.0 2.9 4.5	横ナデ	回転糸切り未調整	緻密 良好 黄褐色	
9	土 師 坏	9.2 2.3 4.9	横ナデ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 赤褐色	反転
10	土 師 坏	11.0	ナデ		やや粗い 良好 黄褐色	

番号 器 種	하면 ()	調整		胎土、焼成、色調	備考	
金石	谷 性	法量(cm)	器 体 部	底 部	用11上、 <i>为</i> 40人、巴神) THE 45
11	土 師 大 甕	(口) 32.0 (高) (底)	ハケメ (内) ハケメ		(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転
12	土 師 小型 変	13.0	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 赤褐色	石英含む 反転

番号 器 種	計長 ()	114	整	胎士、焼成、色調	備考	
υ	谷 性	法量(cm)	器 体 部	底 部	nn I., went, Cam	У на <i>7</i> 5
1	上 師 坏	(日) 13.8 (高) 3.8 (底) 6.6	横ナデ		(胎) やや密 (焼) 良好 (色) 褐色	
2	上 師	16.5			やや密、砂粒含む 良好 褐色	反転
3	土 師 坏	10.2 2.6 3.8		ヘラケズリ	やや密 良好 茶褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	制	整	胎士、焼成、色調	備考
∰ 'J	66 MI	在里(CIII)	器体部	底 部	加工、粉砂、巴酮	phi "J
1	士: 師 坏	(口) 12.3 (高) 3.0 (底) 6.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎)密、赤色粒子含む (焼)良好 (色)赤褐色	反転
2	上 師 坏	14.1	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密、赤色粒子含む 良好 赤褐色	
3	十. 師 坏	16.8	ヘラケズリ		密、赤色粒子含む 良好 赤褐色	反転
4	上 師 坏	16.3 5.3 7.4		ヘラケズリ	密、赤色粒子含む 良好 暗褐色	反転
5	十: 師 坏	12.6 3.3 5.6		回転糸切り	密、赤色粒子含む 良好 赤褐色	反転
6	上 師 坏	13.8 3.9 5.9		回転糸切り	やや粗い赤色粒子含む 良好 赤褐色	反転
7	上 師 坏	13.4 3.7 6.0		回転糸切り	密、赤色粒子含む 良好 褐色	反転
8	:1: 66 IML	12.3 2.65 4.3	ヘラケズリ	回転糸切り	密、赤色粒子含む 良好 赤褐色	
9	:1: 66 mi	12.2 3.1 4.3		回転糸切り	密、赤色粒子含む 良好 褐色	
10	:t: \$\text{\$\titt{\$\text{\$\}\$}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}	11.3 2.2 5.0		回転糸切り	密、赤色粒子含む 良好 赤褐色	

番号器種	法量(㎝)	â	調整		胎土、焼成、色調	備	考			
		器	体	部	底	部	加工、死以、亡啊) Jing 25	75	
11	土師皿	(口) 12.2 (高) (底) 6.0				回転糸切り)	(胎)密、赤色粒子含む (焼)良好 (色)褐色	反転	
12	緑 釉 台付皿	13.4 2.4 7.4	·					緻密 良好 内外面、全面緑釉		

番号	器種	计局 ()	調	-	1	整	16.1. 地代 名部	備考	
借与	品 性	法量 (cm)	器体	部	底	部	胎土、焼成、色調	畑 ち	
1	土 師 坏	(口) 12.6 (高) (底)	(内)ナデ				(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転	
. 2	土 師 坏	13.6	横ナデ (内) ナデ				緻密 良好 赤褐色	反転	
3	土師坏	14.2	横ナデ (内)横ナデ				緻密 良好 茶褐色	反転	
4	土師坏	5.0			回転糸切り		緻密 良好 暗褐色	反転	
5	土 師 坏	6.0			回転糸切り		緻密 良好 赤褐色		
6	土 師 変	7.8	ハケメ (内) ハケメ		木葉痕		砂粒多量に含む 良好 暗褐色		

34号住居址

番号	器種	法量(㎝)	調	整	164. 横岭 各部	備考
H J H 1	(A)	器 体 部	底 部	· 胎土、焼成、色調	備考	
1	土師皿	(口) 12.5 (高) 2.6 (底) 4.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 暗褐色	
2	土 師			回転糸切り	密、赤色粒子含む 白好	
	坏	7.0			良好 褐色	
3	土師			回転糸切り	密、赤色粒子含む	
	坏	7.0			良好 褐色	

番号	器種	法量(㎝)	調		整	│ │ │ 胎土、焼成、色調	備考
H 2	1000 198	IZE (CII)	器	体 部	底 部	加工、始次、巴酮) VIII
1	土師皿	(口) 11.8 (高) 2.2 (底) 5.8			回転糸切り未調整	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
#7	66)位	在里(CIII)	器体部	底 部	加工、税权、巴祠	佣 右
1	土師	(口) 15.0 (高) 4.0	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	
	坏	(底)				
2	土 師	13.2	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	
	坏				茶褐色	
3	土 師	15.4 5.9	ヘラケズリ		密、赤色粒子含む	
"	埦	5.9			良好褐色	
	土 師	11.1 6.1	ヘラケズリ		密	外面底部焼きむら
4	埦	6.1			密 良好 茶褐色	
5	土 師	25.0			やや粗い	反転
5	魙				良好茶褐色	
6	土 師	13.4			やや粗い 良好 茶褐色	反転
	獀		(内) ハケメ		茶褐色	
7	土 師				やや粗い、赤色粒子含む 白・紅ス	反転
'	餁	7.0			良好 黄褐色	
8	須恵器				緻密 良好 灰色	
°	高 坏	7.6			灰色	

38号住居址

番号	番号 器 種 法量(cm)		調整		胎土、焼成、色調	備	考		
田台	日本 性	法量(cm)	器体	部	底	部	加工、粉灰、巴岡	7/#3	75
1	土 師 坏	(口) 13.0 (高) 4.4 (底) 5.7			回転糸切	り未調整	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 赤褐色		

39号住居址

番号器種		法量 (cm)	調整		胎土、焼成、色調	備考
田 句 句	品 俚	大里 (CIII)	器 体 部	底 部	加工、光双、巴祠) VHI
1	土 師 台付皿	(口) 9.8 (高) 2.0 (底) 5.3	横ナデ (内) ナデ	回転糸切り未調整	(胎) 緻密 (焼)良好 (色)茶褐色	赤色粒子含む 反転
2	土 師羽 釜	32.1	横ナデ (内) ヘラケズリ		やや粗い 良好 暗褐色	

番号	番号 器 種 法量(cm)		調	整	胎土、焼成、色調	備考
田力	台 性	(加)	器 体 部	底 部	加工、粉灰、巴酮	VH
1	土 師 坏	(口) 13.0 (高) 3.6 (底)	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色) 黒褐色	

番号	器種	法量(cm)	調用	整	胎士、焼成、色調	備考
番り	初 相	法里(CIII)	器 体 部	底 部	加工、始攻、巴酮) HI 75
2	土: 師 坏	(口) 11.7 (高) 3.7 (底)	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)褐色	
3	土 師 坏	13.0 3.7	横ナデ、ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	
4	土: 師 坏	13.2 3.7	横ナデ、ヘラケズリ		密 良好 暗褐色	赤色粒子含む
5	土. 師 坏	10.6 3.9	横ナデ、ヘラケズリ		緻密 良好 黒褐色	
6	土 師高 坏	14.4	横ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		密 良好 赤褐色	
7	土 師高 坏	12.3 9.0 10.3	横ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	·	緻密 良好 黒褐色	
8	土 師高 坏	11.8 8.8 9.5	横ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ、ハケメ		緻密 良好 黒褐色	
9	土 師 高 坏	13.8 12.2 11.9	ナデ、ヘラケズリ		緻密 良好 黒褐色	
10	土師	19.4 34.1 5.1	横ナデ、ハケメ (内) ナデ、ハケメ	木葉痕?ヘラケズリ	やや粗い 良好 褐色	焼きむら
11	土: 師 甕	21.3 27.5	(内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 茶褐色	
12	土 師 甕	17.2 21.8 10.2	ナデ、ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	粗い 良好 茶褐色	反転
13	土. 師 鉢	8.3 7.3	ヘラケズリ		密 良好 褐色	
14	:1: 師 鉢	21.2 10.1 9.2	横ナデ、ヘラケズリ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 褐色	反転
15	土 師 手 捏	6.0 4.5 5.5			密 良好 黒褐色	
16	土. 師	12.3 6.2 6.5	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ、ヘラケズリ		良好 黒褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎士、焼成、色調	調備考
田石	600 作里	宏里 (CIII)	器 体 部	底 部	加工、粉切、巴酮) VHI 45
1	土: 師 坏	(口) 12.2 (高) 3.55 (底)	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	
2	l: 師 坏	11.6 4.0	ヘラケズリ、ヘラミガキ		緻密 良好 黒色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎上、焼成、色調 備 考
H 7	603 作里	在里 (CIII)	器体部	底 部	· 胎上、焼成、色調 備 考
3	土 師 坏	(口) 6.8 (高) 3.6 (底)	ヘラミガキ、ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 暗褐色
4	士. 師 坏	6.91 4.1	ヘラミガキ、ヘラケズリ		緻密 良好 暗褐色 (内) 黑色
5	上 師 境	16.9 7.5	横ナデ、ヘラケズリ (内) ヘラケズリ		密 良好 茶褐色
6	土 師 魏		ハケメ (内) ハケメ	木葉痕、ヘラケズリ	やや粗い 良好 茶褐色

番号	器種	ýt-Et ()	調	整	 胎上、焼成、色調 備	備考
借与	谷 性	法量 (cm)	器体部	底 部	加工、粉以、巴酮	川 万
1	上師坏	(口) 12.3 (高) 4.2 (底) 5.3		回転糸切り	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	
2	土 師 坏	12.6 3.25 4.4	横ナデ	回転糸切り	やや粗い 良好 褐色	
3	土 師浅 鉢	50.7	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	
4	上 師 独	16.6	横ナデ、ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 暗褐色	
5	上 師 坏	11.0 3.2	ヘラミガキ、ヘラケズリ		緻密 良好 明褐色	
6	須恵器 台付坏	15.9 3.6 11.5			緻密 良好 青灰色	

番号	器種	计量 ()	調	整	胎上、焼成、色調	備考
	帝 悝	法量 (cm)	器 体 部	底 部	加工、粉以、巴酮	VH →5
1	十. 師 坏	(口) 11.9 (高) 4.3 (底) 3.9	横ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	
2	上 師 坏	12.2	横ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		緻密 良好 茶褐色	反転
3	土 師 坏	14.0			緻密 良好 黄褐色	反転
4	土 師 坏	12.8	横ナデ、ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	反転
5	土 師 坏	13.8	ナデ		緻密 良好 茶褐色(内)黒彩	赤色粒子含む 反転

番号	器 種	法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
金石	器種	広里(CII)	器 体 部	底 部	加工、粉砂、巴爾	ун 73
6	土 師 坏	(口) 12.3 (高) 3.8 (底)			(胎) 密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	赤色粒子含む
7	土 師 坏	12.6 3.5 6.1	横ナデ	回転糸切り	やや粗い 良好 茶褐色	
8	土 師	12.8	横ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 赤褐色	
9	土師皿	11.6	(内) ナデ		緻密 良好 茶褐色	赤色粒子含む
10	土 師 皿	11.9 2.5	横ナデ		密 良好 茶褐色	赤色粒子含む 反転
11	土. 師 坏	17.4	横ナデ		やや粗い 良好 黄褐色	赤色粒子含む 反転
12	土野	27.2	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	白色粒子含む
13	土. 師 小型 甕	11.6			やや粗い 良好 褐色	反転
14	土 師 羽 釜	22.8	横ナデ、ハケメ後ナデ不鮮明 (内)ハケメ		密 良好 暗褐色	金雲母含む
15	土 師羽 釜	21.4	ケズリ後ナデ、ハケメ		密 良好 褐色	金雲母含む 反転
16	灰 釉	11.3			緻密 良好 灰白色	自然釉

番号	器種	法量 (cm)	調	整	- 胎土、焼成、色調	備考	
田勺	60 恒	在里(CII)	器 体 部	底 部			5
1	土 師 甕	(口) 17.1 (高) 23.5 (底) 9.2	ハケメ (内)ハケメ、指頭痕	木葉痕	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調	整	脱上 被成 负担	備考
田石	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大里 (CIII)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	加 行
1	土 師 坏	(口) 13.0 (高) (底)			(胎) 密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	赤色粒子含む
2	土 師 坏	11.8 3.5	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ		緻密 良好 褐色	反転
3	土 師高 坏	14.0	横ナデ		密 良好 赤褐色	

平旦	番号	器種	法量(㎝)	調整		胎土、焼成、色調	備考	
	田勺	6分 任里	(A)	器 体 部	底 部	加工、粉块、色褐) Viii 45	
ſ	4	土 師	(口) 16.0 (高)	不鮮明なヘラケズリ		(胎)密 (焼)良好		
ļ	4	埦	(底)	(内)横ナデ		(色)赤褐色	-	

番号	器種	法量(㎝)	調			整	胎土、焼成、色調	備	考
田勺	1000 11里	(A)里(CII)	器体	部	底	部	加工、税政、已间) HI	77
1	土 師 翌	(口) 32.4 (高) (底)					(胎) 密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	反転	

48号住居址

番号	器種	法量(cm)	調	調整		備考
借与			器体部	底 部	胎土、焼成、色調	- A
1	土 師 坏	(口) 18.0 (高) (底)	ヘラケズリ (内) 暗文		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)赤褐色(内)黒色	
2	土師	2.9	ハケメ、ヘラケズリ		やや粗い 良好 赤褐色	金雲母含む

49号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田勺	132 132	公里(CII)	器 体 部	底 部	加工、粉奶、巴姆) III 45
1	土 師 坏	(口) 13.0 (高) 4.0 (底) 4.7	横ナデ、ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)褐色	
2	土 師 坏	14.0 4.1 4.2	横ナデ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	線刻
3	土 師 坏	8.0 3.8 4.7		回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 褐色	
4	土 師 坏	14.4 5.2 4.8	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	
5	土 師 皿	13.0 2.2 3.8	横ナデ	ヘラケズリ	密 良好 褐色	
6	土 師 聖	33.0	ハケメ		密 良好 褐色	金雲母含む

37. E.	番号	器種	法量 (cm)	調整		胎土、焼成、色調	備考
	田力	66 代里	(CIII)	器 体 部	底 部	加工、税权、巴酮	VIII 45
	1	土 師 坏	(口) 11.8 (高) 4.0 (底) 6.0	横ナデ、ヘラケズリ (内) 暗文		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
钳勺	66) 作里		器 体 部	底 部	加工、粉织、巴酮) VHI *5
2	土 師 坏	(口) 11.6 (高) 4.1 (底)	横ナデ、ヘラケズリ		(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	
3	土 師 坏	11.5 4.15 4.0	ヘラケズリ	全面ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
4	土 師 坏	11.2 4.25 4.9	横ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	全面ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
5	土 師 皿	12.6 2.45 4.6	ナデ、回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	赤色粒子含む
6	土 師 皿	12.9 2.7 5.9	ナデ、回転ヘラケズリ (内)ナデ	回転ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	赤色粒子含む
7	土師皿	12.4 2.2 5.5	横ナデ (内) 横位へラミガキ	回転ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	赤色粒子含む
8	須恵器 台付坏		横ナデ	削出高台	密 良好 灰色	反転
9	土 師 甕	25.6	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	反転
10	土 師 変	34.2	ハケメ (内) ハケメ		粗い、砂粒含む 良好 赤褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田力	66 代里	(A)	器体部	底 部	加工、粉块、巴洞	VHI 45
1	土 師 坏	(口) 11.6 (高) (底)	横ナデ、ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)茶褐色	反転
2	土 師 坏	12.2	横ナデ、ヘラケズリ		緻密 良好 茶褐色	反転
3	土 師 坏	13.0	横ナデ、ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	赤色粒子含む
4	土 師 翌	15.2	横ナデ、ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	金雲母全体に含む
5	須恵器 翌	27.0			緻密 良好 灰色	少破片 反転
6	灰 釉 長頸壺		(内)横ナデ		緻密 良好 灰釉	反転

கூடி	प्राप्त इति	상.를 ()	調	整	14. 大田 公田	£#: ±#.
番号	器 種	法量(cm)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 14.0 (高) 3.4 (底)			(胎)密、砂粒含む (焼)良好 (色)(内外)丹塗り	
2	±: 師 坏	(口) 12.0 (高) 2.9 (底)	ヘラケズリ		(胎)やや粗い、赤色粒含む (焼)良好 (色)褐色	反転
3	十. 師 坏	15.4			粗い 良好 褐色	反転
4	:1: 師 坏	13.8 2.8			やや粗い、赤色粒含む 良好 暗褐色	
5	土: 師 坏	15.8 3.7			やや粗い 良好 (内外)丹塗り	
6	士: 師 坏	15.0 3.4	ヘラケズリ		やや粗い 良好 (内外)丹塗り	反転 赤色顔料
7	土: 師 坏	14.4 3.8			やや粗い、砂粒含む 良好 (内外)丹塗り	
8	±: 師 坏		ヘラケズリ		やや粗い、赤色粒含む 良好 褐色	
9	土 師高 坏	14.4	ヘラケズリ		緻密 良好 (内外)丹塗り	
10	土 師高 坏	11.0	ハケメ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 黄褐色 (内) 黒色	反転
11	1: 師	16.4	ヘラケズリ		粗い 良好 赤褐色	反転
12	上 師 高 坏	17.2 9.8 10.5	ヘラケズリ		やや粗い 良好 赤褐色 (内) 丹塗り	
13	生. 師 甕	16.6	ハケメ		粗い 良好 黄褐色	
14	土: 師 董	16.8			緻密、砂粒含む 良好 黄褐色	
15	土: 師	13.9 15.0 7.4	ハケメ (内) ハケメ、ヘラケズリ、指頭度	木葉痕	緻密、砂粒含む 良好 褐色	
16	土: 師 飯	15.5 10.5 8.3	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ	ヘラケズリ	やや粗い、石英含む 良好 暗褐色	
17	士製品				褐色	径15.8cm 厚 2.0cm

番号	器種	注得 ()	調	整	144 株式 条押	備考
借写	器種	法量(cm)	器体部	底 部	- 胎土、焼成、色調 -	備 考
1	土 師 坏	(口) 14.8 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	反転 焼きむら
2	土 師 坏	12.4	ヘラケズリ		概密、砂粒、石英含む 良好 (内、外)丹塗り	反転
3	土 師 坏	12.4	ヘラケズリ		密 良好 褐色 (内) 黒色	
4	土 師 坏	13.4 3.95 11.7	ヘラケズリ		やや粗い 良好 赤褐色	反転
5	土 師 坏	12.8 3.9	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 (内、外)黒色	反転
6	土 師 坏	13.5 3.7	ヘラケズリ		緻密、赤色粒含む 良好 赤褐色	反転 焼きむら
7	土師坏	12.0	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 赤褐色 (内) 黒色	焼きむら
8	土 師 坏	15.0	ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色	
9	土 師 坏	12.3 5.7	ヘラケズリ		緻密、赤色粒含む 良好 赤褐色	反転
10	土 師高 坏	11.6 8.6 8.0	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	
11	土 師高 坏	15.8	ヘラケズリ		緻密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
12	土 師 坏	15.5	ヘラケズリ		緻密、赤色粒含む 良好 明褐色	反転
13	土 師 坊 (20.0 8.8	ヘラケズリ	·	やや粗い 良好 赤褐色	反転 焼きむら
14	土 師 境	9.4 7.7	ヘラケズリ (内)ヘラケズリ		緻密 良好 茶褐色	
15	土師	19.0 12.5	ヘラケズリ		粗い 良好 暗褐色	反転
16	土師	16.4	ハケメ (内)ハケメ		密 良好 赤褐色	
17	土師	15.5	ヘラケズリ		やや粗い 良好 黄褐色	焼きむら
18	土師	18.0	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い、赤色粒、砂 粒含む 良好 褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	- 胎土、焼成、色調	備考
番巧	荷性	法里(皿)	器 体 部	底 部	加工、施以、巴姆	VHI +5
19	上 師 変	(口) 18.0 (高) (底)	ハケメ (内) ハケメ		(胎) 密、砂粒含む (焼) 良好 (色) 赤褐色	
20	土 師 甕	14.5	ハケメ		や和い、1~1.5%の 砂粒含む 良好 黄褐色	
21	土師	7.0		ヘラケズリ	やや粗い 良好 赤褐色	
22	土師	12.7 14.3 7.2	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ	ヘラケズリ	ゃや粗い、小磯含む 良好 茶褐色	
23	上 師 円 筒	9.5	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 赤褐色	

番号	tur tat	計量 ()	調		整		胎土、焼成、色調	備	考
番号	器種	法量 (cm)	器体	部	底 部	18	MILLY MUNCH CHAI	7/10	- 15
1	土 師 坏	(口) 13.4 (高) (底)	ヘラケズリ				(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 褐色		
2	土 師 坏	18.2 3.2 5.8			ヘラケズリ		密 良好 褐色	反転	
3	土 師 皿	14.4 3.4 5.3			ヘラケズリ		やや粗い 良好 暗褐色		
4	土 師 台付坏	11.0 4.5 6.5					密、赤色粒含む 良好 赤褐色		
5	土 師 台付坏	10.6 4.5 5.8					やや粗い、赤色粒含む 良好 褐色	反転	
6	土 師 台付皿	4.5					やや粗い 良好 暗褐色	一部反転	
7	土 師 台付皿	5.9					やや粗い 良好 褐色		
8	土 師 台付皿	13.4 3.8 10.2					粗い 良好 褐色	焼きむら	
9	土 師 甕	16.6	ハケメ				粗い、金紫母、砂粒 含む 良好 暗赤褐色		
10	土 師 甕	31.0	ハケメ (内) ハケメ				やや粗い 良好 茶褐色		

307.1.1	w re	와티 ()	調用	整	DA L. Mr. de Action	AH: ±4.
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 12.2 (高) 4.3 (底) 4.2	ヘラケズリ	ヘラケズリ	機能、赤色粒、黒色粒 (胎)含む (焼)良好 (色)褐色	反転
2	上 師 坏	12.0	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	反転
3	土: 師	11.8	ヘラケズリ		緻密 良好 黄褐色	反転 焼きむら
4	上 師 坏	13.6	ヘラケズリ		概密、赤色粒、無色粒 含む 良好 茶褐色	
5	土: 師 坏	5.8	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色 (内) 黒色	反転 焼きむら
6	:1: # !!!!	13.2 2.5 5.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	
7	:1: 師 魏	16.0	横ナデ 下部ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	
8	土 師 魏	36.0	ハケメ (内) ハケメ		密 良好 暗褐色	
9	土: 師 魏	27.9	ハケメ (内) ハケメ		粗い、砂粒含む 良好 暗褐色	反転
10	土: 師 姓	11.0	ハケメ (内) ヘラケズリ		やや粗い 良好 暗褐色	

番号	器種	法量 (cm)	14	整	胎土、焼成、色調	備考
ш75	60 年	公里 (CIII)	器 体 部	底 部		備考
1	上 師 境	(口) 12.3 (高) 5.0 (底)	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	
2	土. 師 坏	13.8 5.2	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		緻密 良好 赤褐色	
3	上 師 坏	12.6 5.0	ヘラケズリ		緻密 良好 灰褐色(内) 黒色	焼きむら
4	地 頻	14.7	ヘラケズリ		緻密 良好 茶褐色	
5	十: 師	14.0	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横位ヘラミガキ		密 良好 黒褐色(内) 黒色	反転
6	上: 師	11.8	機位へラミガキ、ヘラケズリ (内) 横位へラミガキ		緻密 良好 ^{無関色(内) -部川杉戦}	反転

番号	器種	注导 (om)	調	整	11/2 bits 42	All: 46
1877	器種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	- 胎土、焼成、色調	備考
7	土 師高 坏	(口) 13.7 (高) 8.6 (底) 9.6	ケズリ後ミガキ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 黄褐色	赤色粒子含む
8	上 師高 坏	13.6			密 良好 茶褐色	反転
9	上 師高 坏	10.8	横ナデ、ヘラケズリ		緻密 良好 黄褐色(内) 黑色	内面焼きむら
10	土 師高 坏	10.5	ナデ (内) ナデ		緻密 良好 黄褐色、丹塗り	表面赤色顔料
11	土 師 小 鉢	10.4	ヘラケズリ		やや粗い 良好 #@丹練り(M) #10	反転
12	上師	17.8	横ナデ、ヘラケズリ (内) ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	反転
13	土 師	13.4	ハケメ (内) ハケメ後ナデ		粗い 良好 黄褐色	反転
14	須恵器 蓋				緻密 良好 灰色	
15	土 師 翌	32.2			やや粗い 良好 白褐色	砂粒子、石英含む
16	土 師 甕	26.6			やや粗い 良好 赤褐色	砂粒子含む
17	土 師		ハケメ (内) ハケメ		緻密 良好 黄褐色	
18	土 師 壺		ハケメ後ナデ不鮮明 (内) ヘラケズリ		粗い 良好 赤褐色	赤色粒子含む
19	土 師 甕		ヘラケズリ		やや粗い 良好 黄褐色	赤色粒子含む
20	上 師 甕	18.6	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 黄褐色	反転
21	:: 師 甕	8.4	ハケメ (内) 不鮮明なナデ	木葉痕、ヘラケズリ	やや粗い 良好 褐色	
22	土 師	16.6	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 黄褐色	
23	土 師	9.0		ヘラケズリ	やや粗い 良好 _{黄褐色(内)白褐色}	赤色粒子含む
24	土 師 円 筒		ハケメ (内) 輪積み		やや粗い 良好 褐色	

番号 器	np 456	計算 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
金石	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、加入、乙酮	ин <u>.</u>
1	土 師 坏	(口) 16.8 (高) 5.8 (底) 6.8	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎)密、赤色粒含む (焼)良好 (色)赤褐色(内)黒色(吸着)	反転
2	土 師 坏	16.2 6.0 7.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密、赤色粒含む 良好 赤褐色(内)黒色(吸着)	反転
3	土 師 台付坏	15.3 6.8 10.6			やや粗い、赤色粒含む 良好 赤褐色	反転
4	土 師 台付坏	11.2 5.4 7.2			やや粗い、赤色粒含む 良好 赤褐色	反転
5	土 師 小型甕	12.1 9.4 6.2	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	粗い 良好 褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番写	奋 悝	法国(CII)	器 体 部	底 部	加工、粉以、巴酮	VH *5
1	土 師	(口) 12.4 (高) 3.7	ヘラケズリ、ヘラミガキ		(胎)密、赤色粒含む (焼)良好	反転
	坏	(底)	(内)横位へラミガキ		(色) 赤褐色	
2	須恵器	13.4	ヘラケズリ		緻密 良好	反転
	蓋				灰白色	
3	土 師	13.4 15.4	ヘラケズリ	指頭痕、ハケメ	緻密、砂粒含む 良好	
Ĺ	髙 坏	11.7			赤褐色(脚部外)黒色	
4	土 師	15.4 17.65	ヘラケズリ、ハケメ	指頭痕、ハケメ	緻密、砂粒含む 良好	
	髙 坏	11.9			黄褐色(脚部外)黒色	
5	土師	13.25 16.0	ヘラケズリ	指頭痕、ハケメ	緻密 良好	
	高 坏	14.1			赤褐色	
6	土師	15.4 7.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密、赤色粒含む 良好	
L	鉢	,,,	(内) ヘラミガキ	(内) ヘラミガキ	赤褐色	
7	土 師	17.2 10.2	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密良好	反転●
L.	鉢	8.3			暗褐色	
8	土 師	23.0	ヘラケズリ、ハケメ		密良好	焼きむら
L	甕		(内) 輪積み		茶褐色	
9	土. 師	23.9	ハケメ、ヘラミガキ		密 良好	
	壺		(内) ハケメ、ヘラケズリ		茶褐色	
10	士: 師	14.0 22.7	ハケメ、ヘラケズリ	木葉痕?ヘラケズリ	やや粗い 良好	
10	獀	7.0	(内) ハケメ、ヘラケズリ		茶褐色	
11	士: 師		ハケメ、ヘラケズリ	ヘラケズリ	やや粗い 良好	反転 焼きむら
	塑	8.2	(内) ハケメ		褐色	

番号器種	1111 TAE	法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
	帝 悝		器 体 部	底 部		VAS 75
12	土 師 壺	(口) (高) (底) 9.0	ヘラケズリ (内) ハケメ	ヘラケズリ	(胎) やや粗い、砂粒含む (焼)良好 (色)茶褐色	
13	土 師 円 筒		ハケメ (内) 輪積み	木葉痕	密 良好 赤褐色	反転

107.113	BD 75	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考	
l	番号器種		器 体 部	底 部		VIB 75	
	1	土 師 坏	(口) 16.5 (高) (底)			(胎) 密 (焼) 良好 (色) (内外) 丹塗り	反転
	2	土. 師 坏	13.9	ヘラケズリ		密 良好 (内外)丹塗り	

			調	整	11. I late - 15. 25. 25.	H+ ±
番号	器種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 13.8 (高) 4.6 (底)	ヘラケズリ後ナデ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)赤褐色	底部焼きむら 反転
2	土 師 坏	14.1 4.2	横ナデ、ヘラミガキ (内) 横ナデ、ヘラミガキ		緻密 良好 暗赤褐色	金雲母を含む
3	土 師 坏	15.3	ヘラケズリ (内) 横ナデ、横位へラミガキ		緻密 良好 暗褐色	反転 内外黒彩
4	土 師 坏	14.2 4.3	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		緻密 良好 赤褐色	金雲母を含む
5	土 師 坏	12.8 3.6	横位へラミガキ (内) 横位へラミガキ		緻密 良好 暗褐色	反転
6	土 師 坏	14.2	横ナデ、ヘラケズリ		緻密 良好 丹塗り (内) 黒色	反転
7	土 師 坏	12.0	ハケメ、ヘラケズリ		緻密 良好 黄褐色	反転
8	土 師 高 坏	13.2 11.8	ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ、ヘラミガキ		緻密 良好 赤褐色(内)暗褐色	金雲母を含む
9	土 師 高 坏	13.4 9.1 11.8	ヘラケズリ、ヘラミガキ		緻密 良好 褐色	
10	土 師高 坏	13.2 9.0 10.0	ナデ、ヘラケズリ、ミガキ (内) ナデ		緻密 良好 赤褐色(内)暗褐色	
11	土 師 25	21.0 33.4 7.0	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕、ヘラケズリ	粗い、砂粒含む 良好 褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田力	1位 1年 1五年 1	(A)	器 体 部	底 部	加工、税权、巴酮	VIII 45
12	土 師 甕	(口) 20.0 (高) 32.0 (底) 7.8	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 暗褐色	砂粒子を含む
13	土 師 甕	13.5	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 赤褐色	反転
14	土 師 選	6.5	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	緻密 良好 暗褐色	
15	土 師 甕	7.6	(内) ヘラケズリ	木葉痕	やや粗い 良好 赤褐色	
16	土 師 魏	16.0	不鮮明なヘラケズリ		やや粗い 良好 茶褐色	
17	土 師	27.0 28.2 8.8	横ナデ、ヘラケズリ		粗い 良好 褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田力	60 任里	公里 (CII)	器 体 部	底 部	胎工、焼以、巴酮	備考
1	土 師 坏	(口) 10.6 (高) 3.9 (底) 5.5	ヘラケズリ、暗文 (内)暗文	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼)良好 (色)暗褐色	反転
2	:上 師		ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密良好	反転
	坏	6.4	(内) 暗文		褐色	
3	土 師		ヘラケズリ	全面ヘラケズリ	密 良好	赤色粒子含む
	坏	5.2			黄褐色	
4	土 師	21.0	ハケメ		やや粗い 良好	金雲母含む 反転
•	塑		(内) ハケメ		褐色	/
5	土 師	37.2	ハケメ		やや粗い 良好	金雲母含む
	大 鉢		(内) ハケメ		暗褐色	

番号	器種	计具 ()	調	調整		Att: tx
田力	6分 作里	法量(cm)	器 体 部	底 部	- 胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 14.5 (高) 3.4 (底)	ヘラケズリ後ナデ (内) ナデ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) (内外) 丹塗り	
2	土 師 坏	13.8	ヘラケズリ後ナデ (内) ナデ		密 良好 概色(内外) 丹塗り	
3	土 師 坏	13.5 4.3	ヘラケズリ		密 良好 黑褐色(內外) 黑彩	
4	須恵器 坏	11.0			緻密 良好 灰白色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調			整	胎土、焼成、色調	備	考
田巧	一 位	法里 (CIII)	器	体 部	底	部	加工、残政、巴酮) VIII	45
5	須恵器 坏	(口) 12.8 (高) 4.0 (底)					(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 灰白色		
6	土: 師 魏	14.4 26.5 7.0	不鮮明な	ヘラケズリ ケメ	ヘラケズ!	1	密 良好 暗褐色		
7	土: 師 遊	14.8	ハケメ後 (内) 横	ナデ ナデ、ハケ	×		やや粗い 良好 赤褐色	赤色粒子含む 反転	
8	1: 師	17.0 33.2 6.2	不鮮明なハ	ケ、ヘラケス ケメ	「リ 木葉痕		密 良好 暗褐色		
9	1: 師 魏	18.0 35.5 6.0	ヘラケズ (内) へ	•	木葉痕		やや粗い 良好 暗褐色		
10	1: 師 魏	14.5 30.5 5.5	ヘラケズ (内)ナ	リ デ 、輪 積み	ヘラケズリ		密 良好 暗褐色		
11	土: 師 魏	12.0 29.5	ナデ		木葉痕		やや粗い 良好 褐色		
12	l: 師 磁	8.3	ヘラケズ (内)ナ・		ヘラケズリ		やや粗い 良好 赤褐色		
13	士. 師 敬	17.5	ナデ (内) へ	ラケズリ			密 良好 赤褐色		

番号	器種	法量 (cm)	34	整	- 胎土、焼成、色調	備考
(° 111			器体部	底 部	加工、税权、巴酮	7月 75
1	1: 師	(口) 25.7 (高)	ナデ、ヘラケズリ		(胎) やや粗い (焼) 良好	焼きむら
1	麪	(底)	(内) ヘラケズリ		(色) 褐色	
2	1: 師	19.8	横ナデ、ヘラケズリ		緻密 良好	
2	麵		(内)横ナデ、ヘラケズリ	_	茶褐色	
3	.l. 66	25.6	ハケメ		やや粗い 良好	焼きむら
3	魏		(内) ハケメ、ヘラケズリ		黄褐色	

番号	器種	器種 法量(cm)		整	胎土、焼成、色調	備考
田力	667 代担	器体部底部	加工、粉块、巴酮) HI 75		
1	土: 師	(口) 11.9 (高) 4.1 (底) 4.0	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	ヘラケズリ	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 黄褐色	砂粒子、赤色粒子含む
2	土: 師 坏	11.8 3.0 3.8	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	回転糸切り	やや粗い 良好 褐色	赤色粒子、砂粒子含む 反転
3	士: 師 坏	14.8 5.6 5.4	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	回転糸切り後ヘラケズリ	密 良好 褐色	砂粒子、赤色粒子含む

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
留与	谷性 性	伝里 (CIII)	器体部	底 部	加工、税权、巴姆	1 PHB 45
4	土 師 皿	(口) 13.0 (高) 2.4 (底) 4.0	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	赤色粒子含む
5	須恵器				緻密 良好 青灰色	

番号	器	種	法量	()	ā	問			整	胎土、焼成、色調	備	考
留写	€	悝	佐里	(CIII)	器	体	部	底	部	加工、粉奶、巴姆	VAS	73
1	須恵		(口) (高) (底)	12.6						(胎) 緻密 (焼)良好 (色)灰褐色	反転	
2		 師 坏		15.2	横ナデ、)			緻密 良好 暗褐色(黒色)	反転	
3	土	師壺		9.2	横ナデ、(内) 横		r ズリ ヘラケズリ			緻密 良好 暗褐色	反転	
4	土 坊	師 E		12.2	へラミガ (内) <i>′</i>	•				緻密 良好 暗褐色	反転	

31Z. 🗀	up 446	計量 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、殊政、巴嗣	畑 与
1	土 師	(口) 13.8 (高) (底)	ハケメ		(胎)やや粗い、金雲母含む (性)良好	
	台付甕	(底)	(内) 指頭痕		(焼)良好 (色)黄褐色	
2	土 師	12.8	ヘラミガキ		緻密 良好	
	獀		(内) ヘラケズリ		(内外)丹塗り	
3	土 師	18.0	ヘラミガキ		密 良好 赤褐色	反転
	坩		(内) ヘラミガキ			
4	土 師		ヘラケズリ、ヘラミガキ		密良好	
	坩				褐色(内)丹塗り	
5	土 師	26.0	ハケメ		緻密 良好 褐色	
	甕		(内) ハケメ			
6	土 師		ハケメ		密 良好 褐色	
	甕	22.0				
7	土師				密 良好 褐色	反転
<u> </u>	壺				褐色	
8	土 師				緻密 良好	
	高环	13.0		7	(内外)黒彩	
9	土師				密 良好 褐色	
	高 坏				褐色	

番号	器	種	法量 (cm)	調		·	整	胎土、焼成、色調	備	¥.
11173	fir	但	広里 (Ⅲ)	器体	部	底	部	加工、粉切、巴爾) VHI	* 3
10	:f:	師	(口) (高)	ヘラケズリ				(胎) 緻密 (焼) 良好		
10	高	坏	(底) 10.0					(色)褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調	整	图图 3.744 上入图	備考
借り	器種	在里(CII)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師	(口) 12.6 (高) 4.0	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	(胎) 緻密 (焼) 良好	
•	坏	(底)	(内) ヘラミガキ	(内)ヘラミガキ	(色) 赤褐色	
2	上師	12.2	ヘラケズリ		密 良好	
	坏				赤褐色	
3	上 師	12.3 3.8	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	緻密 良好	
	坏		(内)ヘラミガキ	(内)ヘラミガキ	灰褐色	
4	上師	12.8 3.9	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	緻密 良好	
	坏	10.0	(内) ヘラミガキ	(内) ヘラミガキ	赤褐色	
5	上師	12.6 3.7	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ (th)。ここ・ゼキ	緻密 良好 (中4) 開彩	
	上 師	12.4	(内)ヘラミガキ	(内)ヘラミガキ	(内外) 黒彩 	
6	坏	12.4			9 良好 暗褐色	
	上師	12.5	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	経 密	
7	坏	3.8	(内) ヘラミガキ	(内) ヘラミガキ	良好 黒彩	
	土 師	13.0	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	 緻密	
8	坏	4.1	(内) ヘラミガキ	(内) ヘラミガキ	良好 (内外)黒彩	
9	:t: 66	11.7 3.5	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	緻密 良好	
9	坏	3.3	(内) ヘラミガキ	(内) ヘラミガキ	(内外)黒彩	
10	土 師	12.8 3.8	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	緻密 良好	
	坏		(内) ヘラミガキ	(内) ヘラミガキ	暗褐色	
11	:H: 師	12.5 3.7	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	緻密 良好	
	坏		(内)ヘラミガキ	(内)ヘラミガキ	暗褐色	
12	.t. 66	13.2 3.85	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	緻密 良好	
	坏	100	(内) ヘラミガキ	(内)ヘラミガキ	暗褐色	
13	上師	13.0 3.6	ヘラケズリ、ヘラミガキ (は) ヘニミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ (内) ヘラミガキ	緻密 良好 (内外) 用色	
	土師	12.7	(内) ヘラミガキ ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	(内外) 黒色 	
14	坏	3.9	ベラリスリ、ベラミガギ (内) ヘラミガキ	(内) ヘラミガキ	良好赤褐色	
	土師	13.0	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	 緻密	
15	坏	3.85	(内)ヘラミガキ	(内)ヘラミガキ	良好 (内外)黒色	
-	土 師	12.0	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ		
16	坏	3.6	(内)ヘラミガキ	(内) ヘラミガキ	良好 (内外)黒彩	

			調	整	The state of the s	AH14
番号	器種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1.7	土 師	(口) 12.25	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	(胎) 緻密 (焼) 良好	
17	坏	(高) 3.9 (底)	(内)ヘラミガキ	(内) ヘラミガキ	(色) (内外) 黒彩	
18	上 師	13.0 3.9	ヘラミガキ	ヘラミガキ	緻密 良好	
10	坏		(内)ヘラミガキ	(内) ヘラミガキ	(內外) 黒彩	
19	土 師	12.3 4.4	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	緻密 良好	
	坏		(内)ヘラミガキ	(内)ヘラミガキ	(内外)黒彩	
20	土: 師	12.5 3.8	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	緻密 良好	
	坏		(内)ヘラミガキ	(内) ヘラミガキ	(内外) 黒彩	
21	土師	11.9 4.3	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	緻密 良好	
	坏	10.4	(内)ヘラミガキ	(内)ヘラミガキ	無彩	
22	土. 師	12.4 4.3	ヘラケズリ	ヘラケズリ (rtn) ヘニミギナ	緻密 良好 赤褐色	
		13.2	(内) ヘラミガキ ヘラケズリ、ヘラミガキ	(内) ヘラミガキ ヘラケズリ、ヘラミガキ	教密	
23	坏	4.8	(内)ヘラミガキ	(内) ヘラミガキ	良好 (内外)黒彩	
	土師	13.35	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	緻密	
24	坏	4.9	(内) ヘラミガキ	(内) ヘラミガキ	良好 (内外)黒彩	
	土 師	11.3	ヘラケズリ		緻密	
25	坏	3.6			良好 暗褐色	
00	土 師	11.1	ヘラケズリ、ヘラミガキ		密良好	
26	高 坏				(内外)黒彩	
27	土: 師	10.8 7.4	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	緻密 良好	
	埦	1.3	(内) ヘラミガキ	(内)ヘラミガキ	赤褐色	_
28	土: 師	10.0 5.0	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	緻密 良好	
	塊		(内) ヘラミガキ	(内)ヘラミガキ	赤褐色	
29	須恵器	12.4 4.7			緻密 良好	
	蓋				灰色	
30	須恵器	12.8 3.8			緻密、小石含む 良好	
-	蓋	10.4			青灰色 緻密、小石含む	
31	須恵器 坏	10.4 3.8			一級名、74130 良好 青灰色	
	ル 須恵器	10.3			を できます できます できます かんさい かんき できます かんき かんき かんき かんき かんき かんき かんき しゅう しゅう かんき	
32	坏	3.5			良好青灰色	
	須恵器	8.8			緻密	口緑にフタのような
33	壷	14.8			良好 灰色、中間に自然釉	ものをのせて焼成し た痕跡がある
	.d: AND	18.2	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	緻密	
34	鉢	7.0	(内) ヘラミガキ	(内)ヘラミガキ	良好 赤褐色	
25	土: 師	15.4	ヘラケズリ	木葉痕、ヘラケズリ	密、砂粒含む 良好	
35	塑	16.7 8.6	(内) ヘラケズリ		褐色	

番号	器種	辻县 (⋅⋅)	調	整	胎上、焼成、色調	備考
借与	谷 悝	法量 (cm)	器体部	底 部	加工、粉切入、巴爾)HI 45
36	土 師	(口) 20.0 (高) 36.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎)密、砂粒含む (焼)良好	
	甕	(底) 5.9	(内) ヘラケズリ、ヘラミガキ		(色)暗褐色	
37	土 師	26.6 29.1	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好	
5,	麪	10.3	(内) ヘラケズリ		黄褐色	
38	土 師	13.8 12.3	ハケメ		密 良好	
36	甕	12.0	(内) ハケメ、ヘラミガキ		黄褐色	
39	上師	14.4 18.7	ハケメ、ヘラケズリ	ヘラケズリ	密良好	
	麪	4.6	(内) ハケメ、ヘラミガキ		褐色	
40	土 師	19.6 35.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	粗い、砂粒含む 良好	
10	麪	6.2	(内) ヘラケズリ、ヘラミガキ		褐色	
41	土 師		ヘラケズリ		粗い 良好	焼きむら
41	手 揘	4.4			黄褐色	
42	上 師	26.0 30.35	ヘラケズリ		密良好	
42	緪	9.4	(内) ヘラミガキ		黄褐色	
43	上 師	24.4 30.5	ヘラケズリ		密良好	
40	餁	10.3	(内) ヘラミガキ		赤褐色	

.17Z.121	器種	社科 ()	調	整	胎上、焼成、色調	備考
番号	谷 性	法量 (cm)	器 体 部	底 部	加工、粉奶、巴爾	уні 73
1	士 師 坏	(口) 11.8 (高) 5.0 (底) 4.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	
2	上 師 坏	12.3 5.4 3.7	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	
3	土 師 坏	13.4			密 良好 茶褐色	
4	土 師	10.8	ヘラケズリ (内) ハケメ		密 良好 茶褐色	
5	土 師	23.4 26.8 8.7	ヘラケズリ、ハケメ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	
6	土 師	25.6	ヘラケズリ (内) ハケメ		緻密 良好 褐色	焼きむら
7	土 師	6.0	ヘラケズリ (内) ハケメ		密 良好 黄褐色	焼きむら

番号	器種	法量 (cm)	調			整	BALL MACE 4538	備考
留与	谷 性	法里 (CIII)	器は	本 部	底	部	胎土、焼成、色調	畑 石
1	土 師 坏	(口) 12.0 (高) (底)					(胎) 緻密 (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土 師 蓋		ミガキ				やや粗い 良好 暗褐色	焼きむら
3	土 師 高 坏	8.2	ミガキ				密 良好 黄褐色	金雲母含む 反転
4	土 師 手 捏	4.9	指頭痕				やや粗い 良好 褐色	

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	HALL Must 44. HE	備考
田石	谷 俚	法里 (CIII)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 15.2 (高) 2.7 (底)	ヘラケズリ		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) (内外) 丹塗り	反転
2	土 師 坏	14.5	ヘラケズリ		やや粗い 良好 赤褐色	反転
3	土 師 坏	11.8	ヘラケズリ		密 良好 (内外)丹塗り	反転
4	土 師 坏	13.8	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		やや粗い 良好 茶褐色	砂粒子、石英含む
5	土 師 坏	14.8	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		やや粗い 良好 (外)丹塗り	赤色粒子含む 反転
6	土 師 坏	15.0	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		やや粗い 良好 (内外)丹塗り	反転
7	土 師 坏	13.5	ヘラケズリ		緻密 良好 (内外)丹塗り	
8	土 師 坏	13.4	ヘラケズリ		密 良好 (内外)丹塗り	赤色粒子含む 反転
9	土. 師 坏	15.0	ヘラケズリ		やや粗い 良好 (内外)丹塗り	反転
10	土 師 坏	13.4 3.7	横ナデ、ヘラケズリ		密 良好 丹塗り (内) 黒彩	
11	土 師 坏	14.6 3.4	横ナデ、ヘラケズリ		密 良好 丹塗り (内) 黒彩	
12	土 師 坏	14.7 3.8	ヘラケズリ		粗い 良好 黄褐色(内) 黒色	砂粒多量に含む

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
ш.,	1107 128	IAE (UII)	器 体 部	底 部	NO.L. WORK CAM) MB 45
13	須恵器 蓋	(口) 15.0 (高) (底)			(胎) 緻密 (焼)良好 (色)灰褐色	反転
14	須恵器 蓋	11.5			緻密 良好 青灰色	
15	須恵器 蓋				緻密 良好 灰白色	
16	須恵器 蓋	13.5			緻密 良好 青灰色	反転
17	須恵器 蓋				密 良好 青灰色	反転
18	土 師 境	11.4			やや粗い 良好 黄褐色	反転
19	土 師高 坏	13.2	ヘラケズリ		やや粗い 良好 (内外)丹塗り	反転
20	土 師高 坏	8.1 14.9			やや粗い 良好 丹塗り	砂粒子、石英含む 反転
21	土 師 壺				緻密 良好 茶褐色	反転
22	土: 師 甕	13.4			密 良好 褐色	
23	土: 師 翌	20.4	ハケメ、ヘラケズリ		粗い 良好 褐色	反転
24	土 師 翌	7.4	ヘラケズリ (内) ハケメ	ヘラケズリ	粗い 良好 茶褐色	
25	土 師 翌	19.4	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 褐色	反転
26	土 師 翌	6.3	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	焼きむらあり 反転
27	土 師 手 捏	3.4	指頭痕 (内) 指頭痕		緻密 良好 黄褐色	
28	土 師				粗い 良好 褐色	
29	土 師 手 捏	3.0	ハケメ、指頭痕 (内)ハケメ	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	反転

37.LI	器種	计 县 ()	調				整	- 胎土、焼成、色調	備考
番号	器 種	法量(cm)	器	体	部	底	部	加工、烧灰、巴两	DH → →
1	土 師	(口) 11.2						(胎)密 (焼)良好	
1	台付甕	(高) (底)						(色)	
2	土 師	14.0						やや粗い 良好	反転
	台付甕							1501	
3	土 師							やや粗い 良好	
Ľ	台付甕								
4	土 師							やや粗い 良好	
_	台付甕							223	
5	土 師							やや粗い 良好	
	台付甕							223	
6	土 師	12.8						やや粗い 良好	反転
	壺							茶褐色	
7	土 師	19.7						やや粗い 良好	
	壺							茶褐色	
8	土 師							粗い 良好	反転
	壺							褐色 	
9	土 師	18.0						やや粗い 良好	反転
	壺							褐色	
10	土 師							やや粗い 良好	反転
	高坏							(内外) 丹塗り	
11	土 師		指頭痕					やや粗い 良好	
	手 揘	2.9						黄褐色	
12	土 師							やや粗い 良好	砂粒子含む 反転
	壺	7.2						褐色(内)黄褐色	
13	土 師	13.2	ヘラケズ!)後へき	ラミガキ			緻密 良好	
	坏		(内) 斜	ワヘラミ	ミガキ			赤褐色	
14	土 師	24.8	ナデ					密良好	
	高坏		(内)ナ	デ				赤褐色	

来早	番号器種	種法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
借与		(CIII)	器 体 部	底 部	加工、税权、巴姆	VH 73
1	土師坏	(口) 14.8 (高) 3.8 (底) 9.6	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	回転糸切り周辺へラミガキ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	
2	土 師 坏	15.8			密 良好 褐色	

番号	器種	法量	()	ind.	周			整	胎土、焼成、色調	備	考		
fi	17	76	悝	佐里	(cm)	器	体	部	底	部		VIII	~9
	3	須恵		(口) (高) (底)	14.2 2.9						(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 灰色	自然釉	

.sg. 🖂	nyi se	\$1-15L ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	加工、税权、巴酮) H 45
1	土 師 坏	(日) 13.4 (高) (底)			(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 赤褐色	反転
2	土 師 坏	14.8			緻密 良好 黄褐色	反転
3	土. 師 坏	13.2	ヘラケズリ		やや粗い 良好 赤褐色	反転
4	土 師 坏	12.3	ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色	反転
5	土 師	13.3			やや粗い 良好 赤褐色	反転
6	土 師	16.8	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ		やや粗い 良好 暗褐色	反転
7	士 師 甕	11.4 15.9 8.3	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 茶褐色	
8	:: 師 要	15.6	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	焼きむら
9	土師	16.8 12.8 10.3	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 赤褐色	
10	土師	8.2	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 赤褐色	

517, 1:3	器種	() E144	調	整	胎士、焼成、色調	備考
番号	60 任	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、粉切、巴酮	E* IIIV
1	土 師 坏	(口) 13.4 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 丹塗り	反転
2	土 師 坏	16.1	ヘラケズリ		緻密 良好 (内外)丹塗り	反転
3	土. 師 坏	10.0	ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 茶褐色	反転
4	土 師 坏		ヘラケズリ		やや粗い、赤色粒含む 良好 赤褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	114.1. Mart 44.38	/#: -#/-
留写	帝 悝	佐重(CII)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備 考
5	土 師 坏	(口) (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 丹塗り	
6	須恵器 坏				緻密 良好 青灰色	反転
7	土 師高 坏	12.4	ヘラケズリ		密 良好 (内外)丹塗り	反転
8	土 師 鉢	11.4	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 茶褐色	
9	土 師 鉢	13.9	ヘラミガキ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 (内外)黒色	
10	土 師	14.9	(内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	反転
11	土 師 変	14.0	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	反転 焼きむら
12	土 師 甕	7.0	ヘラケズリ	木葉痕、ヘラケズリ	粗い 良好 褐色	焼きむら
13	土師	16.5 30.3 6.6	ヘラケズリ (内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 黄褐色	
14	土 師	11.5 13.3 6.7		木葉痕	やや粗い 良好 赤褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
# '5	663 代里	(A)	器体部	底 部	1 加工、残以、巴酮	備考
1	土 師 坏	(口) 13.4 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 密、赤色粒含む (焼)良好 (色) (内外)丹塗り	
2	土 師 坏	13.0	ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 (内外)丹塗り	
3	土 師 坏	12.3			密 良好 (内外)黒色	
4	土 師 坏	14.0 3.8	ヘラケズリ		緻密、赤色粒含む 良好 暗褐色	
5	土師	10.4	ヘラケズリ		緻密 良好 黄褐色	
6	土 師 坂	11.6	ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 褐色	
7	土 師 城	21.6	ヘラケズリ		緻密、赤色粒含む 良好 赤褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
借与	谷 性	公里(011)	器 体 部	底 部		1/H 45
8	土 師	(口) 18.2 (高) 33.8 (底) 6.5	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ	木葉痕	無い、赤色粒、砂粒 (胎)含む (焼)良好 (色)褐色	
9	土 師 甕	17.9 34.0 6.3	ハケメ (内) ハケメ	ハケメ、ヘラケズリ	粗い、石英含む 良好 赤褐色	焼きむら
10	土 師	13.6 19.8 8.0	ヘラケズリ (内) ハケメ、輪積み	木葉痕、ヘラケズリ	粗い、5 %位の小石 含む 良好 赤褐色	
11	土師	10.2	ヘラケズリ (内)ハケメ		緻密 良好 褐色	
12	土 師 円 筒	53.5 9.5	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 赤褐色	
13	土師	15.0			密 良好 黄褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番与	谷 恒	法里(CII)	器体部	底 部	加工、粉以、巴酮	VH
1	土 師	(口) 15.0 (高)			(胎) 密 (焼) 良好	反転
	坏	(底)			(色) (内外) 丹塗り	
2	土 師	13.4			密良好	
	坏				褐色	
3	土 師	13.0			密良好	
	坏				褐色	
4	土 師	13.4 4.0	ヘラケズリ、ヘラミガキ		密良好	
			(内) ヘラケズリ、ヘラミガキ	•	(内外) 丹塗り	
5	土 師	13.5 4.5	ヘラケズリ、ヘラミガキ		密良好	
	坏		(内) ヘラケズリ、ヘラミガキ		丹塗り(内)黒色	
6	土 師	13.9 3.7	ヘラケズリ		密良好	
	坏				(内外) 黒彩	
7	須恵器	10.25 3.5			緻密 良好 青灰色	
	坏					
8	土 師	18.4			粗い 良好 赤褐色	反転
	鉢					
9	土師	12.8	ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	
-	壺		(内)ハケメ			
10	土師	10.8 12.6	(rh) 0 = 1	ヘラケズリ	やや粗い良好	
	塑	6.6	(内) ハケメ		赤褐色	反転
11	土師	22.2	ハゲメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 褐色	/ 人平仏
	斑		(KA) 1/2 x	<u> </u>	Mat:	

番号	the till	→ → → → → → → → → → → → → → → → → → →	調	整		htt: _tx
金写	器種	法量 (cm)	器体部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
12	土 師 変	(口) 20.1 (高) (底)	ヘラケズリ、ハケメ (内) ヘラケズリ、ハケメ		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 赤褐色	
13	土 師 甕	8.2	(内) ハケメ	ヘラケズリ	粗い 良好 茶褐色	焼きむら
14	土 師 小型甕	10.2	ハケメ (内) ハケメ		粗い、赤色粒含む 良好 赤褐色	
15	土 師 翌	19.8 30.9 6.8	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 茶褐色	
16	土師	20.1	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 赤褐色	
17	土師	8.8	(内) ハケメ、ヘラケズリ	木葉痕	粗い 良好 赤褐色	
18	土師	20.1 32.5 6.6	ハケメ (内) ハケメ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 黄褐色	
19	土 師 甕	18.2 33.05 7.0	ハケメ (内) ハケメ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 褐色	
20	土師	17.4 11.2	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 赤褐色	
21	土 師 鉢	16.3 9.0 6.9		木葉痕	粗い 良好 赤褐色	
22	土 師 甕	19.0 33.2 5.8	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	粗い、砂粒含む 良好 赤褐色	
23	土 師 甕	17.8 22.2	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ		やや粗い、砂粒含む 良好 褐色	
24	土 師 手 捏				密 良好 黒 褐 色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田勺	1117 133	在風 (CIII)	器 体 部	底 部	加工、粉灰、巴酮	7月 石
1	土 師 坏	(口) 13.0 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) (内外) 丹塗り	反転
2	土 師 坏	15.0			密 良好 (内外)丹塗り	反転 焼きむら
3	土 師 坏	14.2			密 良好 茶褐色	
4	土 師 坏	14.4	ヘラケズリ		やや粗い 良好 (内外)丹塗り	反転

.17Z. [1]	器種	计 县 ()	語				整	- 胎土、焼成、色調	備	考
番号	6分 1生	法量 (cm)	器	体	部	底	部	加工、税权、巴姆	VÆ	~j
5	土 師 壺?	(口) 16.4 (高) (底)						(胎)密 (焼)良好 (色)(内外)丹塗り	反転	
6	土 師 坏	15.6	ヘラケス	、 リ				密 良好 (内外)丹塗り	反転 焼きむら	
7	土 師	18.0						密 良好 黒色		
8	土師	26.8 28.0 13.1	ヘラケス	()				やや粗い 良好 茶褐色	反転 焼きむら	
9	土 師 小型饗	9.2						密 良好 黄褐色	反転	
10	土 師 変	25.2						やや粗い 良好 黄褐色	反転 焼きむら	

177. 🗆	nn 246	사티 ()	調			整	胎土、焼成、色調	備	考
番号	器種	法量(cm)	器体	部	底	部	加工、始次、已過	VIII	~ ,
1	土 師 皿	(口) 10.5 (高) 2.4 (底) 4.0	横ナデ		回転糸切り		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 褐色		
2	土師皿	9.2 2.1 4.6	横ナデ		回転糸切り		やや粗い 良好 黄褐色		
3	土師皿	9.3 2.4 5.1	横ナデ		回転糸切り		やや粗い 良好 褐色		
4	土 師 台付坏						やや粗い 良好 褐色		
5	土 師 高台付坏	11.2					やや粗い 良好 褐色		
6	土 師 高台付坏	10.2 5.8 5.4					緻密 良好 暗褐色		
7	土 師 高台付坏	10.0 4.4 5.4					密 良好 赤褐色		
8	土 師 高台付坏	10.0 4.2 5.6					密 良好 暗褐色		

40 HP 46		计是 ()	調	整	上 胎土、焼成、色調	
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、粉砂、 CM	Wes
1	土 師 坏	(口) 15.3 (高) 6.0 (底)	ヘラケズリ後ナデ、ヘラミガキ (内) ナデ、ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	

177.12	DD 556	ALMI ()	調	整	마시. 바라 소개	htt: ±x.
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 音		備考
2	土 師 坏	(口) 15.0 (高) 6.5 (底)	ヘラケズリ後ヘラミガギ (内) ヘラケズリ後ナデ	キ ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼)良好 (色)赤褐色	
3	土 師 坏	14.1 5.4	ヘラケズリ後ヘラミガギ (内) ヘラケズリ	キ ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
4	土 師 坏	16.0 6.2 6.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	
5	土 師 坏	14.0 4.5 4.0	ヘラケズリ、ヘラミガギ (内)ヘラミガキ	キ ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
6	土 師 坏	14.4	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ、ヘラミュ		緻密 良好 茶褐色	
7	土 師 坏	14.6	ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色	
8	土 師 坏	14.4	ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色	
9	須恵器 坏	12.6			緻密 良好 青灰色	
10	土 師 坏	16.4	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	反転
11	土師	14.0	ヘラケズリ (内) 横ナデ		緻密 良好 褐色	反転
12	土師	6.3	ヘラナデ、ヘラケズ (内)ヘラナデ、ヘラケズ		粗い 良好 赤褐色	砂粒含む
13	土 師				緻密 良好 黄褐色	
14	土師	18.1 29.6 7.8	ケズリ後ナデ不鮮明 (内)横ナデ	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	一部焼きむら
15	土 師 壺	13.5 22.8 6.5	横ナデ、ヘラケズリ後ナ (内)樹ナデ、ヘラケズリ後ナ		粗い 良好 褐色	
16	土 師 境	16.0	ナデ、ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	
17	土 師 翌	18.9	横ナデ、ヘラナデ (内) 横ナデ、ヘラケス	ズリ	粗い 良好 赤褐色	砂粒含む
18	土 師 甕	18.6	横ナデ、ハケメ (内) ハケメ		緻密 良好 赤褐色	反転
19	土 師 壺	12.1 29.0 6.7	横ナデ、ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 暗褐色	
20	土 師 翌	6.3	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ	ヘラケズリ	粗い 良好 暗褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田力	600 1里	(加)	器 体 部	底 部	MILEY MUNCY COM	7세 주
21	土 師 変	(口) 17.0 (高) (底)	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ、ヘラケズリ		(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 褐色	
22	土師	19.5 31.0 6.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 暗褐色	·
23	土師	10.2 9.8 4.0	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ、ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	砂粒子含む
24	土. 師 甕	17.4 33.8 8.0	横ナデ、ヘラミガキ (内) 横ナデ、ヘラミガキ	木葉痕、ヘラケズリ	密 良好 褐色	砂粒を含む 焼きむら

番号	器種	法量 (cm)	調	調整			胎土、焼成、色調	備	考
田力	田勺 船 俚	大里 (CII)	器体	部	底	部	加工、始以、巴祠	VHI	75
1	土 師 坏	(口) 14.5 (高) (底)	r				(胎)密 (焼)良好 (色)赤褐色		
2	土 師						密 良好 赤褐色		
	坏	5.4					赤褐色		
3	土 師				回転糸切り		密 良好 赤褐色	焼きむら	
"	耳皿	3.8					赤褐色		
4	土 師		ヘラケズリ		木葉痕		粗い 良好 褐色		
4	壺	9.2					褐色		
5	土 師						粗い 良好 茶褐色		
9	麪	9.2					茶褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
金石	奋 悝	法里(CII)	器 体 部	底 部	加工、粉以、巴姆	VHI 45
1	土 師 坏	(口) 12.6 (高) 3.6 (底) 4.2	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)褐色	
2	土 師 坏	12.0	ヘラケズリ		やや粗い、赤色粒含む 良好 赤褐色	
3	土 師 坏	12.5 4.0 5.1	横ナデ	回転糸切り	密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
4	土師皿	12.7 2.7	ヘラケズリ	ヘラケズリ	やや粗い、赤色粒含む 良好 赤褐色	
5	土師皿	12.1 2.7 4.3	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密、赤色粒含む 良好 褐色	

30Z. 🖂	器種	计县 ()	調	-	整	胎土、焼成、色調	備	考
番号	器種	法量(cm)	器	体 部	底 部	加工、税权、巴嗣	VAII	79
1	土師皿	(口) 14.4 (高) 3.2 (底) 6.5			回転糸切り未調整	(胎) やや粗い、砂粒含む (焼)良好 (色)赤褐色		
2	土 師 皿	9.95 2.5 4.4	横ナデ		回転糸切り未調整	密、砂粒含む 良好 赤褐色		
3	土師皿	10.0 2.5 4.3	横ナデ		回転糸切り未調整	密、石英含む 良好 黄褐色	反転	
4	灰 釉 台付皿	10.9 2.5 5.9				緻密 良好 灰白色		

86号住居址

番号器	器種	種 法量(㎝)		整	- 胎土、焼成、色調	備考
借与	奋 性	法重(证)	器 体 部	底 部	加工、加工、	Cr GAV
1	土 師 高台付坏	(口) 13.8 (高) (底)			(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転

87号住居址

番号	器種	種 法量(cm) -	調 整			- 胎土、焼成、色調	備考
借与	新性	(CII)	器	体 部	底 部	加工、施以、巴姆	ин <i>43</i>
1	土師皿	(口) 9.6 (高) 2.2 (底) 5.6	横ナデ		回転糸切り未調整	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転
2	土 師 台付坏	10.0				やや粗い、砂粒含む 良好 褐色	反転

88号住居址

邓 .口 叩 辞	法量(cm)	ā	8			整	胎土、焼成、色調	備	考	
番号	器種	法量(cm) 	器	体	部	底	部	加工、粉砂、巴姆	VHI	7
1	土師皿	(口) 9.6 (高) 2.2 (底) 4.8	横ナデ			回転糸切	り未調整	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 黒褐色		

37 E BP 58	計画()	調	整	胎土、焼成、色調	備考	
番号	計 器 種 法量(c	法量 (cm)	器体部	底 部	一 加工、光汉、巴嗣) Viii 45
1	土 師 坏	(口) 16.2 (高) 4.6 (底) 5.0	横ナデ	回転糸切り未調整	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 黒褐色	
2	土師坏	11.0			やや粗い 良好 茶褐色	反転

37Z. [2]	器種	計量 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、粉砂、 Ca两	75 ERV
3	土 師 坏	(口) 12.4 (高) 5.0 (底) 6.3	横ナデ	回転糸切り未調整	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	
4	土 師 坏	10.0			密 良好 茶褐色(内)黒色	
5	土 師 坏	4.5		回転糸切り未調整	密 良好 赤褐色	
6	土 師 坏			回転糸切り未調整	密 良好 赤褐色	
7	土 師 変	25.0			やや粗い 良好 黒褐色	反転

₩ .□	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	在重(CII)	器 体 部	底 部	加工、例识、已两	VHI 175
1	土 師	(口) 14.4 (高) (底)	ナデ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 黄褐色	反転
1	坏	(底)	(内)ナデ		(色) 黄褐色	
2	土 師	11.6			密良好	
	坏				黒褐色(内)茶褐色	
3	土 師	17.7			緻密 良好	反転
"	坏	11.5	(内) ヘラミガキ		赤褐色	
4	土 師	17.2			密良好	
4	坏	10.8			褐色	
5	土 師	25.2	横ナデ		密	焼きむら
"	坏		(内)横ナデ		良好 褐色	
6	土 師	23.2	ナデ		粗い 良好	反転
	甕		(内) ハケメ		黄褐色	
7	土 師				やや粗い良好	
'	手 揘	5.2	(内) 指頭痕		良好茶褐色	
8	土 師	3.9			やや粗い 良好	底部剝離
	手 捏	4.5	(内) 指頭痕		赤褐色	
9	土 師	25.2	ハケメ		粗い 良好	反転
	甕				良好 赤褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田力	台 性	公里 (CIII)	器体部	底 部	加工、施以、こ時	УН В 775
1	土 師 坏	(口) 11.8 (高) 4.3 (底) 4.0	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ、ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)(内外)丹塗り	砂粒を多量に含む

番号	器種	法量(cm)	調	整	164. March 4548	備考
留与	谷 性	法里(CII)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	1/用 右
2	土師"	(口) 11.9 (高) 4.45	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好	砂粒子、石英含む 反転
	坏	坏 3.7			(色) 黄褐色	/A+A
3	土 師	12.05 4.5		回転糸切り、ヘラケズリ	密良好	砂粒子、石英含む
	坏	4.0			赤褐色	
4	土 師	11.8			密 良好	赤色粒子含む 反転
	坏				赤褐色、丹塗り	/A+A
5	土 師	12.7 3.0	ナデ、ヘラケズリ	ヘラケズリ	密良好	
	Ш	5.3	(内)ナデ		赤褐色	
6	土 師	12.9 2.9	ナデ、ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密良好	
	Ш	5.8	(内)ナデ		赤褐色	
7	土 師	16.8	ハケメ、不鮮明		粗い 良好	焼きむら
	甕		(内) ハケメ		赤褐色	
8	土 師	27.8	ナデ、ハケメ		やや粗い自好	石英含む 反転
	甕		(内) ハケメ		良好赤褐色	(X [#] 4
9	土師	30.2	ナデ、ハケメ		粗い 良好	砂粒子を含む 焼きむら
	甕		(内)ナデ、ハケメ		赤褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調整			整	胎土、焼成、色調	備考	考	
田力	66 位	在風 (CIII)	器	体	部	底	部	加工、光双、巴酮	1)相	45
1	土 師 坏	(口) 10.4 (高) 3.4 (底) 4.4				回転糸切り		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 赤褐色	焼きむら	
2	土 師 坏	11.6 3.2 6.0	ナデ			回転糸切り	未調整	やや粗い 良好 黄褐色	焼きむら	

番号	器種	法量(cm)	調	整	1644 株式 各部	備考
田勺	66 位	法里 (CIII)	器体部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 13.8 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	赤色粒子含む 焼きむら
2	土 師 坏	11.2	ヘラケズリ		密 良好 褐色	反転
3	土 師 坏	14.9	ヘラケズリ		密 良好 褐色	反転
4	土 師 坏	13.2	ヘラケズリ		密 良好 褐色	反転 焼きむら
5	土節変	21.8	横ナデ、ヘラケズリ (内) ハケメ、ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	14.1. March 45.5H	Att: -tr.
ш.,	111 12	拉里(畑)	器体部	底 部	胎土、焼成、色調	開 考
6	土 師	(口) 20.8 (高) (底)	ハケメ後ナデ、不鮮明		(胎) やや粗い	
L	甕	(底)	(内)ハケメ後横ナデ		(焼)良好 (色)赤褐色	
7	土 師		ハケメ	木葉痕	やや粗い	反転
	甕	7.4	(内)ハケメ		良好 黄褐色	
8	土師	17.5			やや粗い	焼きむら
Ľ	坏				良好黄褐色	
9	須恵器	16.0			緻密 良好 青灰色	反転
	坏				青灰色	
10	土師		ハケメ	木葉痕	粗い 良好 茶褐色	反転
	要	9.2	(内) ハケメ		茶褐色	
11	土 師	22.2 11.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好	
	飯	11.1			褐色(内)黒色	
12	土 師	38.3			やや粗い 良好 赤褐色	
	羽釜				赤褐色	
13	土 師	42.7	ハケメ		やや粗い 自好	
13	置カマド		(内) ハケメ		良好 暗褐色	

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
金 一	谷 性	大里(CII)	器 体 部	底 部	加工、粉以、巴酮	ν μ -5
1	土 師	(口) 11.0 (高) 3.0	横ナデ	回転糸切り未調整	(胎) やや粗い (焼) 良好	
	Ш	(底) 5.3	(内)横ナデ		(色) 赤褐色	
2	土 師	14.0	ナデ		やや粗い 良好	
	台付坏				茶褐色(内)暗褐色	
3	土 師	13.8			やや粗い 良好	赤色粒子含む 反転
	III				赤褐色	~~~
4	土 師	11.2 1.9	ナデ	回転糸切り未調整	やや粗い 良好	反転
	Ш	4.4	(内) ナデ		赤褐色	
5	土 師	14.6	ヘラミガキ		密良好	反転
	坏		(内) ヘラミガキ		茶褐色(内)黒色	
6	土 師	15.0	ヘラミガキ		密良好	
U	台付城	6.2	(内) ヘラミガキ		茶褐色	
7	土 師	30.6	ナデ		やや粗い 良好	反転
_ '	羽釜		(内) ナデ		赤褐色	
8	土 師	31.0	ハケメ		やや粗い 良好	
	獀		(内)ハケメ、不鮮明		茶褐色	
9	灰 釉					把手
	瓶					

37.EL	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	奋 悝	(CIII)	器 体 部	底 部	加土、粉砂、乙醇	uig
1	土 師 坏	(口) 14.9 (高) 3.6 (底)	ナデ、ヘラケズリ		(胎)密 (焼)良好 (色)丹塗(内)黒色	赤色粒子含む
2	土師	19.8	横ナデ (内) 横ナデ		緻密 良好 黄褐色	赤色粒子多量に含む 反転
3	土 師 坏	15.0	ヘラケズリ後ナデ		密 良好 (内外)丹塗り	赤色粒子含む 反転
4	土 師 手 捏	3.9			やや粗い 良好 赤褐色	
5	土 師 坏	14.8	横ナデ、ヘラケズリ		密 良好 褐色	赤色粒子含む 反転
6	土 師 円 筒	9.0	ハケメ後ナデ (内) 指頭痕	木葉痕	やや粗い 良好 赤褐色	反転
7	須恵器 蓋	12.4			緻密 良好 青灰色	反転
8 .	須恵器 坏	12.3			緻密 良好 青灰色	

97号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎士、焼成、色調	備考
留与	万		器 体 部	底 部	加工、外以、巴酮) THE 45
1	土 師 坏	(口) 12.0 (高) (底)			(胎)密 (焼)良好 (色)黄褐色	反転
2	土 師 坏	13.2 3.3 8.4	横ナデ、ヘラミガキ (内) 横ナデ		緻密 良好 褐色	
3	土 師		指頭痕		密良好褐色	反転
	手 揘	7.3	(内) 指頭痕		褐色	
١,	土 師		ハケメ		やや粗い 良好	赤色粒子含む 反転
4	甕	19.5	(内) ハケメ		褐色(内)黒色	/父平公
5	土 師		ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ	密良好	反転
5	鉢				暗褐色	

番号	番号 器 種	法量(cm)		調整		胎土、焼成、色調	備	考				
一份 气	40	俚	佐里、	(cm)	器	体	部	底	部	加工、放政、巴爾) THE 75	73
1	土師		(口) (高) (底)	9.0	ナデ					(胎) 密 (焼) 良好 (色) 白黄褐色	反転	

番号	器種	法量 (cm)	調			整	胎土、焼成、色調	備	考
番写	一	法量(cm)	器体	部	底	部	加工、放政、巴姆	D/EI	ت
2	土 師 坏	(口) 16.4 (高) (底)					(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 褐色	反転	

37. D	111 £E	사티 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	法量 (cm)	器体部	底 部	胎工、焼吹、巴鍋	加
1	士 師 坏	(口) 10.5 (高) 4.5 (底) 5.4	ヘラケズリ (内)放射状暗文	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	
2	土 師 坏	10.2 4.35 5.0	ヘラケズリ (内) 放射状暗文	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
3	土 師 坏	10.9 4.7 5.3	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	緻密 良好 白黄褐色	
4	土 師 坏	10.9 4.25 5.3	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
5	土 師 坏	10.6 4.2 5.0	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
6	土 師 坏	10.6 4.2 5.2	ナデ (内) 暗文不鮮明	回転糸切り、ヘラケズリ	緻密 良好 黄褐色	
7	土 師 坏	11.5 4.0 5.5		回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
8	土 師 坏	10.2 4.3 5.3	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
9	須恵器 坏	11.3 4.3 6.1		回転糸切り	やや粗い やや不良 灰褐色(一部黄褐色)	小砂粒含む
10	土 師 皿	14.8 2.55		ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
11	土 師 坏	11.0 4.0 6.2	ナデ、ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り	緻密 良好 赤褐色	反転
12	須恵器 坏	10.1 3.6	ヘラケズリ	ヘラケズリ	やや粗い やや不良 褐色	砂粒含む
13	土. 師 鉢	18.5 7.8 8.3	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
14	.土. 師 坏	13.3 5.35 6.1	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	ヘラケズリ	密 良好 明赤褐色	
15	須恵器 高台付壺	9.4			密 良好 青灰色	反転
16	土師	23.4	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 褐色	反転

	法量 (cm)	調			整	胎土、焼成、色調	備非	tr.	
田力	60 但	公里 (四)	器体	部	底	部	加工、粉以、巴酮	1VEE *	5
17	土 師	(口) 23.2	ハケメ不鮮明				(胎) やや粗い (焼) 良好	赤色粒子含む	
17	퐻	(高) (底)	(内) ハケメ				(焼)良好 (色)茶褐色	反転	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田勺	663 作里	(A)	器 体 部	底 部	加工、殊政、巴酮	VIII 45
1	土 師 坏	(口) 11.8 (高) 3.6 (底)	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	雲母を含む
2	土 師 坏	12.6	ナデ (内) ナデ		密 良好 明黄褐色	赤色粒子含む
3	土 師 飯	11.2 6.8	ヘラケズリ		粗い 良好 褐色	雲母を含む
4	土 師 鉢	19.4 8.25	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		緻密 良好 赤黄褐色	反転
5	土 師 変	15.1 19.0 6.0	横ナデ、ハケメ (内) ハケメ	ヘラケズリ	粗い 良好 褐色	雲母を含む
6	土 師 甕	21.0 36.1 4.6	ハケメ (内) ハケメ	ヘラケズリ、ハケメ	粗い 良好 明黄褐色	砂粒を含む
7	土 師 整	19.8 32.2 6.6	ハケメ、ヘラケズリ (内)ハケメ、ヘラケズリ	木葉痕	粗い 良好 赤褐色	砂粒を含む

101号住居址

来	番号器種	法量(cm)		ā	哥			整	胎土、焼成、色調	備	_tr-		
H	7	11.7	1里	仏里	(Ш)	器	体	部	底	部] 加工、粉以、巴酮	1)用	考
1		土	師 不	(口) (高) (底)	16.0 5.9	ヘラケス	ぐり		ヘラケズリ		(胎)密 (焼)良好 (色)褐色	反転	

来早	番号 器 種	法量 (cm)	調	整	日ム J. Micrit 45.部	AH: -14.
田勺	1000 1000	太重 (CIII)	器 体 部	底部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 黄褐色	
2	須恵器 坏				緻密 良好 青灰色	
3	土 師 翌	8.2		ヘラケズリ	やや粗い 良好 赤褐色	
4	須恵器 台付坏	10.9			密 良好 灰白色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	144 L Mr. + 4430	Att: -tr.	
ш-5	122	1107 13E	(CII)	器体部	底 部	- 胎土、焼成、色調 -	備考
1	土 師 坏	(口) 11.4 (高) (底)			(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) (内外) 黒色		
2	土師高坏	8.9			緻密 良好 黄褐色		
3	土 師 甕	20.0			密、赤色粒含む 良好 赤褐色		
4	土 師	22.2	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 赤褐色		
5	土 師 翌	29.0	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ		粗い、砂粒含む 良好 褐色	焼きむら	
6	土: 師 変	13.2 6.0	ヘラケズリ	木葉痕	密、2%位の小石含む 良好 褐色		

104号住居址

番号	器種	法量 (㎝)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田つ 69	fin 有里	公里 (CII)	器体部	底 部	加工、税以、巴酮	VIII 45
1	土 師 坏	(口) 14.0 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	反転
2	土 師 皿	14.2			密 良好 暗褐色	反転
3	土師	29.6	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 褐色	反転

来早	番号 器 種 法量	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
# 7		公里(CII)	器 体 部	底 部	加工、粉以、巴阿	VHI 주
1	土 師 坏	(口) 12.6 (高) 3.9 (底) 3.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎)密、赤色粒含む (焼)良好 (色)明褐色	
2	土 師 坏	13.4	ヘラケズリ		密 良好 赤褐色	反転
3	土 師 坏	12.2 3.6 4.8	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密、赤色粒含む 良好 赤褐色	反転
4	土 師 坏	14.8	ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 赤褐色	反転
5	土 師 坏	5.2	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密、赤色粒含む 良好 赤褐色	

3Z.口	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	帝 性	佐里 (CIII)	器体部	底 部		VIII 75
6	土 師 皿	(口) 12.8 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	反転
7	土 師 皿	13.0 2.7 5.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
8	土師皿	12.4	ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 暗褐色	反転
9	土師皿	12.4 2.5 3.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密、赤色粒含む 良好 赤褐色	反転
10	土師	26.3	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い、砂粒含む 良好 赤褐色	反転

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
金石	奋 惶	法国(CII)	器 体 部	底 部	加工、殊政、巴嗣	7月 石
1	土 師 坏	(口) 12.8 (高) 4.3 (底)	ヘラケズリ		(胎)密 (焼)良好 (色)褐色(内)黒色	
2	土 師 坏	14.0			緻密 良好 丹塗り	
3	土 師 坏	13.3	横ナデ、ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 (内外)黒色	反転
4	土 師 坏	13.0 4.0	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	砂粒を含む
5	土 師 坏	13.2	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ、ミガキ		緻密 良好 黄褐色	
6	土 師 坏	13.4	ヘラケズリ (内) 横ナデ		粗い 良好 黄褐色	
7	土 師 城	11.2	横ナデ、ケズリ後ミガキ不鮮明		緻密 良好 (内外)丹塗り	一部焼きむら
8	土 師 小型甕	10.4	横ナデ		やや粗い 良好 赤褐色	赤色粒子多量に含む 反転
9	土 師 小型変	13.4 15.8 6.7	ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ	木葉痕、ヘラケズリ	やや粗い 良好 暗褐色(内)黒色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備	考
借与	石 作型	(CIII)	器 体 部	底 部	加工、例识、已间	VHI	73
1	土 師 坏	(口) 14.4 (高) (底)	ヘラケズリ後ナデ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) (内外) 黒色		

302.10	tur tati	法量(cm)	調整		胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	MILLS MEDAS CHA	7.5 ENG
2	土 師 坏	(口) 13.2 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	

37. LJ	器 種	计图 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器 種	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、粉以、巴姆	VIII 79
1	土 師 坏	(口) 14.2 (高) 4.8 (底) 4.15	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)赤褐色	赤色粒子含む
2	土 師 坏	11.9 3.7 5.1	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	赤色粒子含む 反転
3	土 師 坏	14.6 4.8 3.9	ヘラケズリ (内) ナデ		やや粗い 良好 赤褐色	赤色粒子含む 反転
4	土 師 坏	12.7 3.6 4.9	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 暗褐色	赤色粒子含む
5	土 師 坏	12.8 4.65 4.5	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
6	土 師 坏	12.2 3.5 4.7	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
7	土 師 坏	13.1 4.1 4.9	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 黒褐色	反転
8	土 師 坏	15.0 4.3 5.2	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	焼きむら
9	土 師 高台付坏	15.0 5.0 9.2	横ナデ		密 良好 赤褐色	
10	土 師 鉢	35.6	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ		やや粗い 良好 暗褐色	反転

番号	1112 £16	사트 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
	器 種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	ALLY MUXY CAM	уна <i>7</i> 5
1	土 師 坏	(口) 13.5 (高) (底)	横ナデ、ヘラケズリ		(胎)密 (焼)良好 (色)(内外)丹塗り	赤色粒子含む
2	土 師 坏	13.6 4.6	横ナデ、ヘラケズリ		密 良好 (内外)丹塗り	赤色粒子含む
3	土師蓋	9.0 3.8			密 良好 褐色	赤色粒子含む
4	土 師 小型変	12.0	ヘラケズリ、ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 暗褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	— 胎土、焼成、色調 備 考	-tx.	
	金 恒	(A)	器体部	底 部		1厢	5
5	土 師	(口) 14.2 (高) (底) 7.6	横ナデ		(胎) やや粗い (焼)良好		
	台付甕	(底) 7.6	(内) ケズリ後ナデ不鮮明		(焼)良好 (色)暗赤褐色(内)黒褐色		

番号	器種	· 種 法量 (cm)	調		整		114.1. March 在期	<i>(</i> ##;	-#×	
			器	体	部	底	部	胎土、焼成、色調	備	考
1	土 師 坏	(口) 15.2 (高) (底)			·			(胎)密 (焼)良好 (色)白褐色		
2	土師	5.4	ナデ			木葉痕		やや粗い 良好 褐色	反転	

111号住居址

番号	器	種	法量 (㎝)	調	整	144 株式 存部	備考
	tur	132	IA里(UII)	器体部	底 部	胎土、焼成、色調	加发
1	土 fi 鉢	Ti I	(口) 15.8 (高) 8.7 (底)	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		(胎)密 (焼)良好 (色)明褐色	
2	土師高切	Ì	11.9	ヘラミガキ、ヘラケズリ (内) ヘラミガキ、ヘラケズリ		緻密 良好 暗褐色	
3	土 節 変	TĪ .	8.6	ハケメ		やや粗い 良好 赤褐色	反転 底部表面剝離

112号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	- 胎土、焼成、色調 備 素	Att: -tr.
H 7	1107 13	在風(CIII)	器 体 部	底 部		備考
1	五領台付翌	(口) 14.0 (高) (底)	ハケメ (内)指頭痕		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	金雲母含む
2	土 師 壺		ハケメ後ミガキ (内) ハケメ後ナデ剝離	ヘラケズリ、ナデ	やや粗い 良好 赤褐色	焼きむら
3	土 師器 台	8.8 8.8 14.0	ヘラケズリ、ヘラミガキ (内) ナデ、ミガキ		密 良好 褐色	
4	土 師器 台	15.0	ナデ (内) ナデ		密 良好 赤褐色	赤色粒子含む

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調 備	Att: _tx
H 7	167 13	(A里 (CII)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 14.2 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) やや粗い、赤色粒含む (焼)良好 (色) (内外)丹塗り	反転

番号	器種	法量 (cm)	調			整	胎土、焼成、色調	Att: ats	.:tz.
1117		(CEE)	器体	部	底	部	THE MEAN CAME	備	考
2	土 師 翌	(口) 18.0 (高) (底)	ハケメ (内) ハケメ				(胎) 粗い (焼)良好 (色)茶褐色		
3	土 師 甕	24.0					粗い 良好 茶褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調	整	RA.L. March 在38	備考
田与		大里 (CIII)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 [*] 師 坏	(口) 13.8 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	反転
2	土 師 - - - - - - - - - - - - -	12.0	ヘラミガキ (内) ヘラミガキ		密 良好 赤褐色	反転
3	土 師 甕	16.0 9.8	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 褐色	反転
4	土師	10.8	(内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 茶褐色	反転 焼きむら
5	土 師 変	5.1		木葉痕	やや粗い 良好 赤褐色	
6	土師	8.4		木葉痕	やや粗い 良好 暗褐色	反転
7	土師	8.0	指頭痕	木葉痕	密、砂粒含む 良好 明褐色	

番号	番号 器 種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田石	6分 作組		器 体 部	底 部	加工、粉块、巴酮	7HI 45
1	土 師 坏	(口) 17.2 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) (内外) 丹塗り	反転
2	土師	21.2	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 暗褐色	反転
3	土 師	9.4 7.0	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 黄褐色	反転 焼きむら
4	土 師 甕	17.0			緻密 良好 褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田写	谷 性	佐里 (CII)	器 体 部	底 部	加工、粉切、 巴姆	73 mu
1	土 師 坏	(口) 14.2 (高) 3.6 (底)	ヘラケズリ、ヘラミガキ		(胎)密 (焼)良好 (色)暗褐色(内)黒色	反転
2	土 師 坏	14.1 4.4	ヘラケズリ		密 良好 (内外)黒色	
3	土 師 坏	15.0 4.3	ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 黄褐色	
4	土 師 坏	14.9 3.9	ヘラケズリ、ヘラミガキ (内) ヘラミガキ		密 良好 褐色	反転
5	土 師 坏	12.7	ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 黄褐色	反転
6	土 師 高 坏	8.9			密 良好 赤褐色	反転
7	土師飯	20.8 24.2 10.0	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 黄褐色	

118号住居址

番号 器 種	器種	6 24.101. ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
留与		器 体 部	底 部	MILLY MUSCY CEM	7#8 45	
1	土 師 坏	(口) 13.7 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) (内外) 丹塗り	
2	土 師 坏		ヘラケズリ		やや粗い 良好 赤褐色	

119号住居址

番号器種	法量 (cm)	調整		胎土、焼成、色調	備考	
田与	号 器 種 法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、粉以、巴酮	VIII ~5	
1	土 師 坏	(口) 14.1 (高) 3.6 (底) 8.2	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 黄褐色	

番号器種	法量 (cm)	調整		胎土、焼成、色調	備	考		
田勺	66 位	(A)	器体	部	底 部	加工、施以、C间	VÆ	77
1	土師境	(口) 13.0 (高) (底)				(胎)密 (焼)良好 (色)褐色		

番号	器種	法量(cm)	調		*	<u>¥</u>	114.1. Marth 在部	Atte	-tr.
田力	田分品	大里 (CIII)	器体	部	底	部	胎土、焼成、色調	備	考
1	土 師 壺	(口) 18.0 (高) (底)					(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 褐色		
2	土 師 坩	12.0					密 良好 赤褐色	反転	
3	土 師 小型甕	10.2 9.7 3.4	ヘラミガキ		ヘラケズリ		密 良好 暗褐色		
4	土 師 台付甕	10.4	ハケメ				粗い 良好 黄褐色		
5	土 師 台付甕	9.6	ハケメ				やや粗い 良好 黄褐色		

122号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
借与	福 性		器体部	底 部	加工、始以、巴祠	1)HI
1	土師	(口) 12.3 (高) 4.1 (底) 4.9	ヘラケズリ	回転糸切り、周囲へラケズリ	(胎) 緻密、赤色粒含む (焼)良好 (色)赤褐色	焼きむら
	坏					
2	土 師	12.6 3.8	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	緻密、赤色粒含む 良好	
	坏	3.9			赤褐色	
3	土師	14.3 4.35	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
"	坏	4.3			赤褐色	
	土 師	12.8	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密	
4	坏	4.1 4.2			緻密 良好 赤褐色	
	土 師	17.4	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	変	
5	坏	5.95 5.1			密 良好 暗褐色	
	土 師	12.8	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密、赤色粒含む	
6	Ш	2.45 4.3			密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
	灰 釉				緻密	
7	台付壺	10.3			緻密 良好 灰白色	
	土 師	18.3	ハケメ		やや粗い	
8	羽 釜		ハケメ		良好赤褐色	
	土 師	30.6	ハケメ		やや粗い	焼きむら
9	麪		(内) ハケメ	_	やや粗い 良好 赤褐色	

番号器種		法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	
留行	660 作里	(皿) 重流	器 体 部	底 部	加上、粉以、巴酮	PHI 77
	土 師	(口) 14.6 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	
1	坏	(民)	(内)ナデ		(色) 赤褐色	

377. 🖂	uu 26	34 EL ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	法量(cm)	器体部	底 部	· 胎工、焼灰、色調)#II 75
. 1	土 師 坏	(口) 12.0 (高) 4.0 (底) 4.0	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 黄褐色	反転
2	土 師 坏	12.0 4.7	横ナデ、ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	緻密 良好 暗褐色	反転
3	土 師 坏	12.0 4.6 4.0	ヘラケズリ (内) 横ナデ	全面ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	
4	土 師 坏	12.2	横ナデ、ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	
5	土 師 坏	12.6 4.2 4.7	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	緻密 良好 暗褐色	
6	土師坏	14.0 5.2 7.0	ヘラケズリ		密 良好 褐色	
7	土師坏	11.8 4.2 5.0	横ナデ	回転糸切り未調整	緻密 良好 赤褐色	反転
8	土 師 坏	12.3 4.5 4.4	ヘラケズリ後ナデ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 黄褐色	反転
9	土師坏	12.8 4.3 5.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 黄褐色	反転
10	土 師 坏	14.4 5.4 5.0	横ナデ、ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
11	土 師 坏	13.6	ヘラケズリ		緻密 砂粒を含む 良好 褐色	
12	土 師 坏	14.2	ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色	反転
13	土 師 坏	12.8	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ		やや粗い 良好 黄褐色	小石、砂粒含む 反転
14	土 師 坏	12.5	ヘラケズリ後ナデ (内) ナデ		緻密 良好 褐色	反転
15	土 師 坏	15.2	横ナデ		緻密 良好 黄褐色(内) 黒色	
16	土師坏	16.0	横ナデ		緻密 良好 褐色(内)黒色	反転
17	土 師 坏	15.8	ナデ、ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	反転
18	土 師 坏	16.4 5.3 6.6		回転糸切り、ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	反転

.57.13	np 446	计是 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	法量 (cm)	器体部	底 部	· 加工、殊政、巴嗣	加州
19	土 師 坏	(口) 18.2 (高) (底)	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 黄褐色	反転
20	土師皿	12.4 2.8 4.4	ヘラケズリ	回転糸切り	緻密 良好 赤褐色	反転
21	. 土 師 皿	12.4 2.9 3.8	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	緻密 良好 黄褐色	全体赤色粒子含む
22	.土. 師 .M.	12.6	ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色	反転
23	土. 師	12.0	ヘラケズリ (内) 横ナデ		緻密 良好 赤褐色	赤色粒子含む 反転
24	土 師	24.8	横ナデ、ハケメ (内) ハケメ不鮮明		やや粗い 良好 褐色	
25	土 師 変	18.4	横ナデ、ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 暗褐色	反転
26	土師	11.2	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ	木葉痕	緻密 良好 暗褐色	反転
27	土 師 甕	8.1	(内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 暗褐色	
28	土 師羽 釜	25.0	ハケメ		やや粗い 良好 暗褐色	
29	土. 師 甕	7.5	(内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 暗褐色	
30	士. 師 置カマド		ハケメ (内) ハケメ、ヘラケズリ		やや粗い 良好 赤褐色	金雲母含む

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田力	663 作里	左里 (CII)	器体部	底 部	加工、从以、巴姆	川 角
1	土 師 坏	(口) 13.6 (高) 4.95 (底) 8.4	ナデ		(胎)密 (焼)良好 (色)褐色	反転
2	土 師 坏	11.4 3.95 7.4			密 良好 赤褐色	反転
3	須恵器 坏	8.4		回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 青灰色	反転
4	土. 師 甕	16.2	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	砂粒子、金雲母含む 反転
5	士 師 坏	8.4	ナデ (内) 暗文	ヘラケズリ	密 良好 褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
HH 7	tid 1里	(M)	器 体 部	底 部	加工、施以、巴酮	加州
6	土 師 変	(口) (高) (底) 8.3	(内)ハケメ	木葉痕	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	金雲母含む
7	須恵器 蓋				密 良好 灰色	
8	須恵器 蓋	20.0			密 良好 灰色	反転
9	土 師 翌	8.8	.ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 茶褐色	反転
10	土師	8.3	ハケメ	木葉痕	粗い 良好 茶褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	144 株式 各部	備考
借与	谷 性	法里(CIII)	器体部	底 部	胎土、焼成、色調	VIII 45
1	土 師 坏	(口) 11.4 (高) 4.2 (底) 5.9	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	赤色粒子含む 反転 焼きむら
2	土 師 坏	11.0 4.6 5.0	ナデ、ヘラケズリ (内)ナデ不鮮明、暗文	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 褐色	赤色粒子含む 焼きむら
3	土 師 坏	10.8 4.3 5.2	ナデ、ヘラケズリ (内) 暗文不鮮明	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 褐色	
4	土 師 坏	10.6 3.8 5.0	ナデ、ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 褐色	赤色粒子含む 反転
5	土 師 坏	10.8 4.4 4.9	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 褐色	
6	土 師 坏	13.3 4.3 6.5	ナデ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 褐色	赤色粒子含む 反転 焼きむら

₩ □	番号器種	種 法量(cm) -	調整		胎土、焼成、色調	備考
番写			器 体 部	底 部	加工、始次、巴酮	VH *5
1	土 師 坏	(口) 13.2 (高) 3.7 (底)	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)(内外)丹塗り	
2	土 師 坏	12.6	ヘラケズリ		緻密 良好 (内外)丹塗り	
3	土 師 坏	15.4	横ナデ、ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	
4	土師	13.0	ヘラケズリ (内) ナデ		緻密 良好 (内外)丹塗り	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田力	66 位	法里(CII)	器 体 部	底 部	加工、残以、巴酮	加 与
5	土 師高 坏	(口) (高) (底) 10.0		ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼)良好 (色)褐色	3
6	土 師高 坏	8.4	ヘラケズリ	ハケメ、ヘラケズリ	密 良好 暗褐色	
7	土 師 小型変	11.8			緻密 良好 褐色	
8	土 師 高坏?	21.3	ハケメ (内) ヘラケズリ		やや粗い 良好 暗褐色	石英含む
9	土 師 鉢	15.0	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ、ヘラケズリ		粗い 良好 赤褐色	小石含む
10	土師	13.3	横ナデ、ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	粗い 良好 褐色	小石多量に含む
11	須恵器	9.6 14.2	ヘラケズリ		緻密 良好 灰色	
12	土 師	29.6 25.9 8.2	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 褐色	
13	土 師	25.0 23.0 8.5	ヘラケズリ (内) 暗文	木葉痕、ヘラケズリ	粗い 良好 赤褐色	砂粒子含む
14	土師	20.0	ヘラケズリ後ナデ (内) ハケメ		やや粗い 良好 暗褐色	
15	土 師 変	20.8 34.3 6.2	ヘラケズリ (内)ハケメ、ヘラケズリ	ヘラケズリ、ハケメ	粗い 良好 褐色	砂粒を含む
16	土師	6.6	ヘラケズリ (内)ハケメ、ヘラケズリ	ヘラケズリ	粗い 良好 赤褐色(内)褐色	砂粒を多量に含む
17	土師	21.8 27.0 13.2	ヘラケズリ		密 良好 褐色	
18	土師	21.4	全面ヘラケズリ後ナデ (内) ナデ		密良好褐色	

番号	器 種 法量	汗唇()	調	調整		備考
番写	谷性 性	法量 (cm)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調)HS ~5
1	土 師 坏	(口) 16.5 (高) 7.0 (底)	機ナデ、ヘラケズリ後ヘラミガキ (内) ヘラケズリ後、機ナデ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	
2	土 師 坏	13.8 6.1	ヘラケズリ後ナデ (内) 横ナデ		密 良好 赤褐色	
3	土 師. 坏	14.6 7.3	ヘラケズリ後ヘラミガキ (内) ヘラケズリ後ナデ		密 良好 茶褐色	

	nn - es	N. H. Z. N	調	整	11 laborate 27 - 2121	Att: ±z.
番号	器種	法量(cm)	器体部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
4	土 師 坏	(口) 13.8 (高) 5.8 (底)	ヘラケズリ後ナデ (内) ヘラケズリ後ナデ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	
5	土 師 坏	13.2 6.3 3.6	(内) ハケメ		緻密 良好 丹塗り	反転
6	土 師 坏	14.0	ナデ、ヘラケズリ		密 良好 黄褐色	
7	土 師 坏	15.0	ヘラケズリ後横ナデ		密 良好 赤褐色	
8	土 師 高 坏	8.2	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	
9	土 師 小型甕	11.0 11.6 4.0	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ、ヘラケズリ	ヘラケズリ	粗い 良好 赤褐色	小砂粒含む
10	土 師 甕	17.4 24.4 6.7	ナデ後ヘラケズリ (内) ナデ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 赤褐色	砂粒含む
11	土 師 変	25.5 26.2	横ナデ、ヘラケズリ (内) ヘラケズリ	ヘラケズリ	粗い 良好 赤褐色	小砂粒含む
12	土 師 変	17.6	ナデ、ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		密 良好 赤褐色	焼きむら
13	土師	17.2 25.3	ヘラケズリ後ナデ (内) ナデ	ヘラケズリ	粗い 良好 赤褐色	小砂粒含む
14	土 師 甕	17.5	ヘラケズリ (内) ナデ		粗い 良好 赤褐色	
15	土 師 変	16.5	横ナデ、ヘラケズリ (内) ヘラケズリ		粗い 良好 赤褐色	砂粒を含む
16	土 師 甕	16.4	(内) ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転
17	土 師 翌	7.1	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	
18	土 師 翌	6.2		ヘラケズリ	密 良好 褐色	砂粒子を含む
19	土師	20.6	ナデ (内)ナデ 、 ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色	反転
20	土 師 翌	16.0	(内)輪積み		やや粗い 良好 茶褐色	焼きむら 反転
21	土 師	17.6	ナデ		密 良好 赤褐色	砂粒子含む
22	土 師	15.7	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ、ヘラケズリ	i	密 良好 赤褐色	砂粒含む

番号	器種	法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	谷 悝		器 体 部	底 部	加工、 光 双、巴酮) 加 行
23	土 師 甕	(口) 18.0 (高) (底)	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ、ヘラケズリ		(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 赤褐色	砂粒含む
24	土 師 甕	7.8	ヘラケズリ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 茶褐色	砂粒含む、金雲母含む
25	土 師	17.6	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ、ヘラケズリ		緻密 良好 黄褐色	砂粒を含む

177. [1]	00 ts	4.E /)	調	整	11/4 March 27 200	par -12.
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 12.8 (高) 3.2 (底)	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)褐色	
2	土 師 坏	14.0	ヘラケズリ		緻密 良好 暗褐色(内)丹塗り	反転
3	土 師 坏	13.8 4.2	ヘラケズリ		粗い 良好 黄褐色	反転
4	須恵器 蓋	13.6 4.4			密 良好 灰色	反転
5	土 師高 坏		ヘラケズリ後ナデ不鮮明		粗い 良好 黄褐色 (内) 黒色	
6	土 師 小型変	13.3 7.7 5.1		ヘラケズリ	粗い 良好 茶褐色	
7	土 師	9.9	剝離の下にハケメ (内) ハケメ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 黄褐色	
8	土 師 甕	17.2	ハケメ不鮮明 ハケメ		粗い 良好 茶褐色	反転
9	土 師 翌	17.2	横ナデ (内)ハケメ後ナデ不鮮明	木葉痕?ヘラケズリ	粗い 良好 赤褐色	
10	土 師 変	16.7 36.8 8.6	横ナデ、ハケメ (内) 横ナデ、ハケメ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 黒褐色	白色粒子含む
11	土 師	9.8	ハケメ		粗い 良好 褐色	
12	土 師 手 捏	2.5 2.6 1.6			やや粗い 良好 黄褐色	

番号	器種	接種 法量(cm)	調	調整		烘
田 与	台 性		器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師高 坏	(口) 15.4 (高) (底)	ヘラミガキ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 黄褐色	
2	土師	10.0			やや粗い 良好 赤褐色	
3	土 師 壺				緻密 良好 褐色	
4	土 師 翌	31.5	(内) ヘラケズリ		やや粗い 良好 暗褐色	

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	U.S. I. Marth 42-500	Att: -14.
借与	谷 性	在里(cm)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 12.8 (高) 4.25 (底) 11.55	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)(内外)丹塗り	
2	土 師 坏	11.9 3.7	ヘラケズリ後ナデ (内) ナデ		密 良好 褐色	赤色粒子含む
3	土 師 坏	11.9 3.8	ヘラケズリ (内) ナデ		密 良好 褐色	赤色粒子含む
4	土 師 坏	11.8 3.8	ヘラケズリ後ナデ		密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
5	土 師 坏	10.95 3.95	ヘラケズリ		緻密 良好 黒褐色	焼きむら
6	土 師 坏	11.4 3.85	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	
7	土 師高 坏	12.5 8.2 8.2	ヘラケズリ		密 良好 暗褐色(内) 黒色	
8	土 師 甕	15.6	ハケメ (内) ハケメ、ヘラケズリ		やや粗い 良好 赤褐色	砂粒子、石英含む 反転 焼きむら
9	土 師 甕	13.6 14.5 6.6	ハケメ	木葉痕?ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	焼きむら
10	土 師 翌	10.6	ハケメ (内) ハケメ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 赤褐色	砂粒子含む 焼きむら
11	土. 師 変	10.6	(内) ヘラケズリ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 赤褐色(内)灰褐色	砂粒子含む
12	士: 師 塾	6.3	ヘラケズリ (内) ハケメ	木葉痕?ヘラケズリ	やや粗い 良好 褐色	

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	114 L. Mr. + 22.303	Att: tr
田力	1967 TE	公里 (CII)	器 体 部	底 部	- 胎土、焼成、色調 -	備考
13	土 師 甕	(口) 18.0 (高) 32.1 (底) 6.5	ヘラケズリ後ナデ不鮮明 (内)ハケメ	ヘラケズリ	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 褐色	赤色粒子含む
14	土 師 甕	18.2 30.9 7.3	ヘラケズリ (内) ハケメ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 赤褐色	
15	土 師 変	7.3	ヘラケズリ (内) ハケメ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 赤褐色	砂粒子含む 反転
16	土 師 甕	14.8 32.0 7.4	横ナデ、ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 褐色	
17	土 師 甕	18.1	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ		やや粗い 良好 褐色	
18	土師	17.2 15.9 7.5	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 褐色	(内)焼きむら

番号	器 種	法量 (cm)	題 整		胎上、焼成、色調	備考
借与	谷 性	(加)	器 体 部	底 部	加工、粉以、巴嗣) WH 45
1	土 師 坏	(口) 14.6 (高) (底)	(内)横ナデ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)(内外)丹塗り	
2	土 師 坏	14.8	横ナデ、ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色	赤色粒子含む 反転
3	土 師 坏	15.2	横ナデ、ヘラケズリ		良好 赤褐色	石英、白色粒子含む
4	土 師 甕	17.0			やや粗い 良好 黄褐色	反転
5	土師	25.7	ハケメ (内) ハケメ		緻密 良好 褐色	白色粒子含む

番号	器 種	法量 (cm)	調	調整		備考
田石	666 作里	(A)	器体部	底 部	胎土、焼成、色調)HB *5
1	土 師 坏	(口) 14.2 (高) 4.6 (底) 5.7	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 赤褐色	赤色粒子含む
2	土 師 坏	12.0	ヘラケズリ		やや粗い 良好 褐色	
3	土 師 皿	13.0 3.5 5.0	横ナデ	回転糸切り	緻密 良好 赤暗褐色	赤色粒子含む
. 4	土 師 皿	12.0 2.8 5.2		回転糸切り	やや粗い 良好 赤褐色	

番号 器	un fe	* 'LE ()	調		整		胎土、焼成、色調	備考	g-	
	器 種	法量(cm)	器体	部	底	部	ALLY SUSKY CAN	yie **		
	5	土師皿	(口) 12.2 (高) 2.2 (底) 4.2			回転糸切り		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 暗褐色		
	6	土 師 変	26.0	ハケメ (内) ハケメ				粗い 良好 暗赤褐色	砂粒子含む	

			調	整	DA I bleads As SET	, trtr.
番号	器種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 13.8 (高) 4.6 (底) 4.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	赤色粒子含む 反転
2	土 師 坏	12.9 3.9 4.9	横ナデ、ヘラケズ! (内) ナデ] 回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
3	土 師 坏	14.0	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 暗褐色	
4	土: 師 坏	13.0 3.9	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
5	土 師 坏	13.0	ヘラケズリ		密 良好 暗褐色	赤色粒子含む 反転
6	土 師 坏	13.0			密 良好 (内)黒色	
7	土 師 坏	15.0	ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
8	土 師 坏	14.0	ヘラケズリ		密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
9	土 師 坏	13.6	横ナデ		緻密 良好 赤褐色	反転
10	土 師 坏	16.0	横ナデ、ヘラケズリ) ヘラケズリ	密 良好 黄褐色	
11	土 師 皿	14.0 2.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 褐色	焼きむら
12	土 師 皿	12.3 2.0 8.2	横ナデ	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
13	土 師	13.0	ヘラケズリ		密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
14	土 師 台付坏	16.0		ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
15	士: 師	13.0	横ナデ、ヘラケズリ)	密 良好 赤褐色	反転

番号	器種	法量(cm)	調用	整	胎土、焼成、色調	備考
1117		在里 (CIII)	器体部	底 部	加工、粉块、巴酮)#I 75
16	灰 釉 壺	(口) (高) (底) 9.0	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)灰白色	
17	土 師羽 釜		ハケ後ナデ、不鮮明 (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	反転
18	土. 師	29.8	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 暗褐色	
19	須恵器 大 翌				緻密 良好 青灰色	

番号	器種	法量 (cm)	調整		- 胎土、焼成、色調	備考
		在里(CIII)	器 体 部	底 部		γH 75
1	土 師 甕	(口) 24.8 (高) (底)	ヘラミガキ		(胎) やや粗い、石英含む (焼) 良好 (色) 暗褐色	反転
2	土 師 甕	28.0	ハケメ		粗い、金雲母含む 良好 褐色	
3	土 師 羽 釜	23.5	(内) ハケメ		やや粗い、白色粒含む 良好 赤褐色	

307. L3	器種	i i+14 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	一番 性	法量(cm)	器 体 部	底 部	MILLY SEARY COM	ym
1	土 師 坏	(口) 12.4 (高) 4.6 (底) 5.5	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	反転
2	土 師 坏	12.2 4.25 4.7	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	反転
3	土 師 坏	15.8	ヘラケズリ (内) 暗文		緻密 良好 褐色	反転
4	土 師 坏	15.6 5.0 6.8	ヘラケズリ (内) 暗文		緻密 良好 褐色(内)黒色	反転
5	土 師 皿	13.0 2.3	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 褐色	反転
6	土. 師 	12.6 3.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 褐色	反転

番号	器種	计图 ()	調整		胎土、焼成、色調	備考
田写		法量 (cm)	器 体 部	底 部	加工、规块、已间	77 ERV
1	土師	(口) 13.4 (高) (底)	ハケメ		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 黄褐色	反転
2	土 師 壺	14.9	ヘラミガキ ハケ状 (キメの細かいクシ状) 工具で刺突		やや粗い 良好 暗褐色	
3	土 師 台付甕	8.7	ハケメ	ハケメ	やや粗い 良好 茶褐色	反転

139号住居址

番号器	聖 舖	種は強量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
借与	留与	法里(CII)	器 体 部	底 部	加工、粉切、巴酮	畑 石
1	土 師 坏	(口) 12.4 (高) 3.95 (底) 5.5	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎)密、赤色粒含む (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土 師 坏	12.8	ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
3	土師	12.5 2.2 4.1	ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
4	土師	28.4	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い、砂粒含む 良好 赤褐色	反転
5	土 師 甕	21.0			やや粗い、砂粒含む 良好 赤褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田勺	1111 1.25	(CIII)	器 体 部	底 部	加上、粉以、巴祠	m 与
1	土 師 坏	(口) 12.4 (高) 3.3 (底)	ヘラケズリ		(胎)密 (焼)良好 (色)褐色	反転
2	土 師 坏	14.6			密 良好 赤褐色	
3	土 師 坏	14.6 2.1 9.2	横ナデ	回転糸切り未調整	密 良好 褐色	
4	土 師 坏	13.4			密 良好 褐色	
5	土 師 皿	11.0 1.9 6.8	横ナデ	回転糸切り未調整	緻密 良好 褐色	
6	土 師 甕	29.0	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 暗褐色	

番号	器種	括量(cm)	調	整	- 胎土、焼成、色調 備 考
借与	谷 恒		器 体 部	底 部	1 加工、残政、巴祠 1 湘 考
1	土 師	(口) 14.0 (高) (底)	ハケメ		(胎)やや粗い、赤色粒含む (焼)良好
	台付甕	(底)	(内)ヘラケズリ		(色) 褐色
2	土 師	10.4	ハケメ		密、赤色粒含む 良好 赤褐色
	台付甕				赤褐色
3	土 師	14.7	ハケメ		密 良好 褐色
J	台付甕				褐色
4	土 師	15.9			密 良好 赤褐色
4	高 坏				赤褐色
5	土 師				密 良好 赤褐色
	高 坏				赤褐色

143号住居址

番号	器種	计县 ()	調	整	DA.1. March 45-519	備考
金 万	福 恒	法量(cm)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	1年 行
1	土 師 坏	(口) 13.2 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土 師 甕	24.2			密 良好 茶褐色	転
3	土 師 境	14.0	ヘラケズリ、ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 赤褐色	
4	土 師 甕	6.3		木葉痕	やや粗い、砂粒含む 良好 褐色	
5	土師		•		やや粗い 良好 褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
留与	谷 性	法里(CIII)	器 体 部	底 部	加工、税权、巴嗣	VHI 45
1	土 師 坏	(口) 15.0 (高) (底)			(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 黄褐色	反転
2	土 師 坏	12.6	ヘラケズリ		緻密、赤色粒含む 良好 (内外)丹塗り	反転
3	土 師 坏	10.8 4.0	ヘラケズリ		緻密 良好 暗褐色	
4	土 師 坏	13.0	ヘラケズリ		密 良好 (内外)丹塗り	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
留写	谷 性	(AE (CIII)	器 体 部	底 部	加工、殊政、巴嗣	畑 行
5	土 師 坏	(口) 12.2 (高) 3.5 (底)	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)暗褐色	
6	土 師	17.0 28.8 5.2	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ	木葉痕、ヘラケズリ	やや粗い、砂粒含む 良好 茶褐色	
7	土 師 翌	14.5	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ		やや粗い 良好 暗褐色	
8	土 師 甕	16.4			粗い 良好 黄褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
曲写	谷 性	在里(CII)	器 体 部	底 部	加工、粉灰、色調)HH 45
1	土 師	(口) 12.6 (高)	ヘラケズリ		(胎)密 (焼)良好	反転
	坏	(底)			(色) (内外) 丹塗り	
2	土 師	12.6	ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好	反転
	坏				茶褐色	
3	土 師	13.4	ヘラケズリ		密良好	反転
-	坏				暗褐色	
4	土 師	14.0	ヘラケズリ		密良好	反転
	坏	-			暗褐色	
5	土 師	15.0		ヘラケズリ	密良好	
3	高坏	10.0			(内外) 丹塗り	
6	須恵器	12.0			緻密 良好	反転
L	蓋				青灰色	
7	須恵器				緻密 良好	反転
	短頸壺				灰白色	
8	須恵器				緻密 良好	
	高坏	13.2			青灰色	
9	土 師	6.0 4.0	指頭痕		やや粗い 良好	
	手 揘	4.0	(内)指頭痕		良好赤褐色	
10	土 師				密良好	
	獀				褐色	
11	土 師	16.0 10.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密良好	
	甑	5.6	(内)ハケメ		褐色	

17. LJ	m te	注目 ()	調	整	11/s 1 lett = 14 dz = 400	AH:
番号	器種	法量 (cm)	器体部	底 部	胎士、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 13.4 (高) 3.9 (底)	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)赤褐色	反転
2	土 師 坏	13.0	ヘラケズリ		密 良好 赤褐色	
3	土 師 坏	4.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
4	止 師 坏	15.0 5.3	ヘラケズリ		密 良好 赤褐色	反転
5	土 師 坏	16.0	ヘラケズリ		密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
6	土 師 坏	14.6 4.7 6.5		回転糸切り未調整	粗い 良好 褐色	反転
7	土 師 皿	13.0 2.85 6.1		回転糸切り未調整	やや粗い 良好 褐色	
8	土 師 皿	12.4 2.2 5.3		回転糸切り未調整	やや粗い 良好 褐色	
9	土 師 皿	12.6 2.4 5.5		回転糸切り未調整	やや粗い 良好 褐色	
10	土 師羽 釜	22.0	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 暗褐色	金雲母含む
11	土 師	10.5	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 赤褐色	金雲母含む
12	土 師 鉢	30.5	(内) ハケメ		粗い 良好 暗赤褐色	

.TZ. E3	ur £6	計員 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	種 法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、始次、已两	VAI 75
1	土 師 坏	(口) 13.0 (高) 4.7 (底)	ヘラケズリ		(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 明褐色	
2	土 師 坏	10.8 3.7	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ		緻密 良好 黑色(内) 黑色	
3	土 師 坏	10.4 3.4	横ナデ、ヘラケズリ		緻密 良好 黒色	
4	土 師 坏	12.5 3.5	横ナデ、ヘラケズリ		緻密 良好 茶褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田力	60分 性里	広里(CIII)	器 体 部	底 部	加工、炒奶、巴酮	C* BNV
5	土 師 坏	(口) 12.5 (高) 3.6 (底)	横ナデ、ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)茶褐色	
6	土 師 坏	12.8 4.0	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ		緻密 良好 褐色	
7	土 師 坏	14.4	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ		緻密 良好 暗褐色	反転 底部焼きむら
8	土 師高 坏	8.7 7.1	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 (内外)丹塗り	
9	土 師 境	11.9	ミガキ、ヘラケズリ (内) ミガキ		緻密 良好 (内外)丹塗り	
10	土 師 城	9.7 8.5	(内)横ナデ、ヘラケズリ		粗い 良好 赤褐色	外面全面剝離
11	土 師 手 捏	4.0	横ナデ、指頭痕 (内) 指頭痕		密 良好 暗褐色	反転
12	土師	13.2	ハケメ (内) ヘラケズリ		やや粗い 良好 黄褐色	反転
13	土 師 境	10.3 7.9	ヘラケズリ (内) ハケメ		緻密 良好 褐色	
14	土 師 鉢	14.8 12.0 7.4	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ	ヘラケズリ	粗い 良好 茶褐色	
15	土 師 支 柱	4.6			密 良好 暗褐色	
16	土 師 甕	21.8	横ナデ、ハケメ (内) 横ナデ、ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	反転
17	土 師 甕	16.8	ヘラケズリ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	砂粒を多く含む
18	土 師 変	21.5 31.5 8.2	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕、ヘラケズリ	粗い 良好 茶褐色	
19	土 師 独		ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ	ヘラケズリ	粗い 良好 茶褐色	

番号	そこ	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	ht ±
H	留与	fici 138		器 体 部	底 部		備考
	1	土 師 坏	(口) 12.4 (高) (底)	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)赤褐色	反転
	2	士 師 坏	14.2 4.8	ケズリ後ナデ	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色(内)黒色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備	考
	66 位	公里(皿)	器体部	底 部	加工、粉切、巴爾	THE!	73
,	土 師	(口) (高)	ヘラケズリ		(胎)粗い (焼)良好		
3	緪	(底)	(内) ヘラケズリ		(色)褐色		

番号	np \$4	ÿ+ <u>□</u> ()	調	整	胎上、焼成、色調	備考
金 写	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	后工、 焼 成、巴酮)H 75
1	土 師 坏	(口) 12.4 (高) 4.2 (底) 4.6	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)褐色	赤色粒子含む
2	土 師 坏	11.4 3.9 4.3	ヘラケズリ後ナデ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 褐色	反転
3	土 師 坏	11.8 4.0 5.3	ナデ (内)暗文風ヘラミガキ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 赤褐色(内) 黒色	
4	土 師 坏	12.4 3.7 4.8	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 褐色	赤色粒子含む 反転
5	土 師 坏	3.1 3.5	ヘラケズリ	回転糸切り	密 良好 暗褐色	赤色粒子含む 反転
6	土 師 坏	12.8	ヘラケズリ		密 良好 褐色	赤色粒子含む
7	土 師 坏	13.8 5.2 4.0	ヘラケズリ		密 良好 暗褐色	赤色粒子含む 反転
8	土 師	12.0 2.6 5.5	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 褐色	赤色粒子含む
9	土 師 皿	12.6 2.8 3.8	ヘラケズリ (内) ナデ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 褐色	赤色粒子含む
10	土 師 坏	14.4 4.9	ヘラケズリ		密 良好 褐色(内) 黑色	反転
11	土 師 皿	13.0	ヘラケズリ		密 良好 褐色	赤色粒子含む
12	土 師	12.6 2.4 4.1	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 褐色	赤色粒子含む 反転
13	土師	26.2	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 暗褐色	金雲母含む
14	灰 釉 壺	13.6			密 良好 灰白色	反転
15	土 師	27.0	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 暗褐色	金雲母含む 反転
16	土師	9.1	ハケメ (内) ヘラケズリ	木葉痕	やや粗い 良好 褐色	金雲母含む 焼きむら

番号	器 種 法量(cm)——		調	調整		備考
银石	for TH		器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	加
17	土 師 甕	(口) (高) (底) 8.1	ハケメ (内) ハケメ		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 褐色	金雲母含む 焼きむら
18	土 師羽 釜	20.0	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 赤褐色	金雲母含む 反転 焼きむら

番号	器種	法量 (cm)	調	整	明年1、林山大 石田	備考
11173	66 作里	在里 (CIII)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	1/用 右
1	土: 師 坏	(口) 11.3 (高) 4.6 (底) 5.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ・・	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	
2	土 師 坏	20.0 6.5 7.4	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	やや粗い 良好 茶褐色	
3	土 師 坏	12.4 4.2 4.6	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 褐色	
4	土: 師 坏	18.4	(内)暗文		密 良好 褐色	
5	土 師 甕	19.6	ハケメ (内) ハケメ		や和い、金雲母、 砂粒含む 良好 茶褐色	反転
6	土. 師 変	16.4	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い、砂粒含む 良好 茶褐色	反転
7	土 師 数	36.0	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調		整	10.1. http://doi.org/	Atte	·tv
HIT	6位 代里		器(本 部	底 部	- 胎土、焼成、色調	備	考
1	土 師 坏	(口) (高) (底) 6.0	横ナデ		回転糸切り未調整	(胎)密、砂粒含む (焼)良好 (色)赤褐色		
2	土 師 坏	5.3			回転糸切り未調整	密、砂粒含む 良好 茶褐色		
3	土. 師台付坏	7.0				やや粗い 良好 褐色		
4	土 師台付坏					密、砂粒含む 良好 黄褐色		
5	灰 釉 台付坏	8.2				緻密 良好 灰白色		

番号	器種	法量 (cm)	調	整	- 胎土、焼成、色調	Att: -tz
11175	667 代里	広里 (CIII)	器 体 部	底 部		備考
1	土 師 坏	(口) 14.8 (高) 5.1 (底) 5.8	ヘラケズリ		(胎) 密、砂粒含む (焼) 良好 (色) 褐色	
2	灰 釉 台付坏	7.3			緻密 良好 灰白色	
3	it: 師 甕	30.0	ハケメ (内) ハケメ		密 良好 暗褐色	

154号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	- 胎土、焼成、色調	備考
H J	first TEE	在里(CII)	器 体 部	底 部)
1	土 師 坏	(口) 10.4 (高) 4.6 (底) 4.8	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼)良好 (色)黄褐色	反転
2	土 師 坏	13.2 4.4 5.8	ヘラケズリ (内) 暗文		緻密 良好 茶褐色	反転
3	士: 師 坏	12.6 4.2 6.0	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	反転
4	士. 師 坏	15.9	ヘラケズリ (内) 暗文		緻密 良好 茶褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田力	uir te	法里(CII)	器体部	底 部	加工、死攻、亡祠	VH 73
1	土 師 坏	(口) 13.0 (高) 4.6 (底) 5.8	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	反転
2	土 師 坏	14.8	ヘラケズリ		緻密、赤色粒含む 良好 赤褐色	反転
3	±: 師 坏	14.4			密 良好 暗褐色	反転
4	土 師	13.0 3.1 3.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密、赤色粒含む 良好 暗褐色	
5	土 師羽 釜		(内) ハケメ		密 良好 暗褐色	

3Z. 🗆	番号器種	71 ()	訓	9		整		 胎土、焼成、色調	備	考		
番号		悝	法量(cm)	(cm)	器	体	部	底	部	MILLY PURK CAM	VIII	
1	土	師	(口) (高)	23.0	横ナデ					(胎)密、砂粒含む (焼)良好 (色)赤褐色	反転	
1	高	坏	(底)									
	土	師								やや粗い 良好 (内外)丹塗り	1段3孔	
2	高	坏								(内外) 丹塗り		

158号住居址

377. 🗆 BI		tin titi	計員 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
١	番号	計 器 種 法量(cm)		器 体 部	底 部	MILLY MOUSE CAME	уна 23
	1	土 師 皿	(口) 9.9 (高) 2.0 (底) 4.4		ヘラケズリ	(胎)密、赤色粒含む (焼)良好 (色)褐色	
	2	土 師羽 釜	27.6 31.1 13.6	ヘラケズリ	木葉痕、ヘラケズリ	密、5%位の小礫、金 雲母含む 良好 暗褐色	

159号住居址

- T-	器種	计县 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	田づ 協 怪	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、粉奶、巴酮	70HI 4-5
1	土 師 坏	(口) 10.8 (高) 3.0 (底) 4.7		回転糸切り未調整	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	
2	土 師 坏	11.0 3.0 4.5		回転糸切り未調整	密 良好 褐色	
3	土 師 坏	15.0			密 良好 褐色	
4	土 師 台付坏	18.0			緻密 良好 暗褐色	
5	土 師				緻密 良好 褐色	

番号	器種	计县 ()	調	整	胎土、焼成、色調	 備 考
番写	奋性	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、粉块、色祠	DHI 45
1	土 師 坏	(口) 14.4 (高) 4.5 (底) 6.0	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎)密、赤色粒含む (焼)良好 (色)赤褐色	反転
2	土 師 坏	14.0 4.1 7.0	横ナデ	回転糸切り未調整	密 良好 暗褐色	
3	土 師羽 釜	20.0	(内) ハケメ		密 良好 茶褐色	

来早	番号器種	法量(cm)	調	整	- 胎土、焼成、色調 備 考
田勺		法里(CII)	器 体 部	底 部	- 胎土、焼成、色調 備 考
1	土 師 坏	(口) (高) (底) 6.2	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色
2	土師皿	12.0 2.7 4.3	横ナデ	回転糸切り未調整	密、赤色粒含む 良好 赤褐色
3	土 師 変	32.0	ハケメ (内) ハケメ		密 良好 暗褐色
4	土 師羽 釜				密 良好 暗褐色

162号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田 写	一		器 体 部	底 部	加工、粉切、巴爾	1/HI 4-5
1	土 師 坏	(口) 13.4 (高) (底)	ヘラミガキ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)茶褐色	反転 焼きむら
2	土 師 坏	19.6	ヘラミガキ		緻密 良好 茶褐色	
3	土 師 坏				粗い 良好 黄褐色	
4	土 師	21.2	ハケメ		緻密 良好 白褐色	

sp. □	1812 - 1686	计 县 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、税权、已即	р н
1	土 師 坏	(口) 12.4 (高) 3.7 (底)	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)(内外)丹塗り	
2	土 師 坏	15.0	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	
3	土 師 坏	12.6 3.6	ヘラケズリ		緻密、赤色粒含む 良好 褐色	反転
4	土 師 坏	12.8 4.0	ヘラケズリ		緻密 良好 茶褐色	
5	土 師 坏	13.0	ヘラケズリ		緻密、赤色粒含む 良好 褐色	反転
6	土 師 坏	15.0 3.2	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	反転

37. III	器種	计量 ()	調		*	整	胎上、焼成、色調	備	考
番号	一	法量 (cm)	器体	部	底	部	加工、粉粉、巴酮	THE	77
7	土師高坏	(口) (高) (底)	ヘラケズリ				(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色		
8	土師高坏	(IBI)	ヘラケズリ		ヘラケズリ		緻密 良好 褐色		
9	土師城	7.4	ヘラケズリ				緻密 良好 暗褐色		
10	土 師 甕	24.0					密 良好 褐色		
11	土 師 鉢	15.6					緻密 良好 (内外)黒色	焼きむら	
12	土 師 変	8.0			ヘラケズリ		粗い、砂粒含む 良好 黒褐色		
13	土 師 翌	14.1					緻密 良好 (内外)黒色		

番号	器種	 法量 (cm)	調	整	RAL Meet CAM	Att. day.
ш Э	tid 192	位里(四)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 14.0 (高) 6.2 (底) 4.2	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)茶褐色(内)黒色	反転
2	土 師 坏	13.0 3.8 5.6		回転糸切り未調整	密 良好 赤褐色	反転
3	土 師 甕	23.0	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 暗褐色	
4	土 師置カマド		ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 黒褐色	金雲母含む

来早	番号器種	法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田勺			器 体 部	底 部	加工、焼吹、巴調	加 专
1	土 師 坏	(口) (高) (底) 4.4	ケズリ後ナデ (内) ナデ	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	赤色粒子多量に含む
2	土師皿	13.4	ケズリ後ナデ (内) ナデ		緻密 良好 黄褐色	反転
3	土師 小型変	13.6	ハケメ不鮮明		粗い 良好 茶褐色	雲母全体に含む
4	土 師 翌	16.8	ハケメ		粗い 良好 茶褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	IIA I. bitet At 3III	Alle -tr.		
ш-5	H J 111 12	111 122	111 135	IAE (UII)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
5	土 師 甕	(口) 21.0 (高) (底)	ハケメ不鮮明 (内)ハケメ		(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転		
6	土 師 翌	12.0	ハケメ不鮮明 (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色			
7	土 師 甕	28.2	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色			
8	土師	30.8	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	反転		
9	灰 釉 長頸壺				緻密 良好 灰色			

番号	器種	法量 (cm)	調問	整	胎土、焼成、色調	備考
THE S	66 作	公里 (CIII)	器体部	底 部		畑 巧
1	土 師 坏	(口) 11.6 (高) 4.35 (底) 3.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	反転
2	土 師 坏	17.0 5.8 5.0	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	密 良好 褐色(内) 黑色	反転
3	土 師 鉢	19.4			やや粗い 良好 暗赤褐色	赤色粒子含む
4	土 師 小型甕	13.0	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 暗褐色	金雲母含む
5	土 師 甕	30.0	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 暗赤褐色	金雲母含む
6	土 師 甕	35.0	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 暗赤褐色	金雲母含む

来只	番号 器 種	法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
留与			器 体 部	底 部	加工、粉织、巴酮)HI 73
1	土 師 坏	(口) 11.2 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎)密 (焼)良好 (色)赤褐色	赤色粒子含む
2	土 師 皿	4.5	横ナデ	回転ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
3	土師	4.5	ハケメ後ナデ、不鮮明 (内)ハケメ	木葉痕	密 良好 暗赤褐色	砂粒子を含む 反転

W. 13	pp 246	計員 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、加及、二两	U
1	土 師 坏	(口) 12.4 (高) (底)	横ナデ		(胎)密 (焼)良好 (色)(内外)丹塗り	反転
2	土 師 坏	13.9			密 良好 (内外)丹塗り	砂粒子、赤色粒子含む 反転
3	土師	12.9	ハケメ (内) ヘラケズリ		密 良好 明赤褐色	反転
4	土師	14.9 11.9 2.0	ハケメ (内) ハケメ	(内) ヘラケズリ	緻密 良好 明茶褐色	
5	土 師 変	6.5	ヘラケズリ (内) ハケメ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 明褐色	砂粒子含む
6	土師飯	22.4	(内) ヘラケズリ		緻密 良好 赤黄褐色	反転
7	土 師 手 捏	4.85		木葉痕	やや粗い 良好 赤褐色	砂粒子含む

171号住居址

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田つ	600 代里	法里 (dii)	器体部	底 部	加工、粉以、巴酮	川 畑 ろ
1	土 師 坏	(口) 11.2 (高) (底)	ヘラケズリ後ナデ (内) 暗文		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	反転
2	土 師 甕	19.7	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 褐色	砂粒子、金雲母含む 反転
3	土 師 坏	5.9	ケズリ後ナデ (内) ナデ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 黒色(内)赤褐色	
4	土 師 坏	6.4	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	赤色粒子含む
5	土 師 翌	8.7	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 茶褐色	金雲母含む

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
# 7	66 位	(A)	器体部	底 部	加工、粉以、巴酮) / / / / / / / / / / / / / / / / / / /
1	土 師 坏	(口) 13.0 (高) 4.8 (底) 4.7	ヘラケズリ (内) ナデ	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼)良好 (色)赤褐色	「大」墨書
2	土 師 坏	12.0 4.6 4.4	ヘラミガキ、ヘラケズリ (内) ヘラミガキ	回転糸切り、ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	

番号	器種	法量(cm)	調		-	整	164. 株式 各部	htt: -#
田勺	66 位里	法里(CII)	器体	部	底	部	胎土、焼成、色調	備考
3	土 師 坏	(口) 12.8 (高) 3.8 (底) 4.0	ヘラケズリ		回転糸切り、	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 黄褐色	
4	土 師 坏	7.6 4.0 4.8	ヘラケズリ		ヘラケズリ		緻密 良好 黄褐色	
5	土 師 坏	12.4 4.0 4.6	ヘラケズリ		ヘラケズリ		緻密 良好 黄褐色	
6	土 師 坏	14.9 4.4 5.0	ヘラケズリ				緻密 良好 暗褐色	
7	土 師 坏	14.4 4.9 5.4	ヘラミガキ、ヘラ (内)ナデ	ケズリ	回転糸切り、	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	長石、砂粒を多く含む
8	土 師 坏	12.8 3.5 5.6	ヘラケズリ		回転糸切り、	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
9	土師皿	12.0 3.4 2.35	ヘラケズリ ヘラケズリ		回転糸切り、	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
10	土師皿	13.3 2.7	ヘラケズリ		ヘラケズリ		粗い 良好 ^{黄褐色(内)赤褐色}	
11	土師皿	13.6			回転糸切り、	ヘラケズリ	粗い 良好 ^{黄褐色(内)赤褐色}	
12	土師皿	13.0 2.4			回転糸切り、	ヘラケズリ	粗い 良好 _{黄褐色(内)赤褐色}	
13	土 師 小型変	12.0	ハケメ (内) ハケメ				やや粗い 良好 茶褐色(内) 黒色	
14	土 師 翌	16.2	ハケメ (内) ハケメ				粗い 良好 暗褐色	反転
15	土師	24.2	ハケメ (内) ハケメ				粗い 金婆母 黒婆母 長石、白色粒含む 良好 褐色	
16	土師	8.2	ハケメ (内) ヘラケフ	(I)	木葉痕		やや粗い 良好 暗褐色	
17	須恵器 壺						緻密 良好 灰褐色	
18	須恵器 壺		タタキ目				緻密 良好 灰褐色	

173号住居址

.322.	番号器種		fet:	計具 ()		調整		胎土、焼成、色調	備	考			
田	ㅋ	器	種	法量	(cm.)	器	体	部	底	部	加工、統八、巴剛	VHS	
1	ı	土口坏	師	(口) (高) (底)	13.6 3.5 7.5	横ナデ、 (内) ^					(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	砂粒を含む	

17. C)	nu 24	사트 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器 種	法量 (cm)	器体部	底 部	加工、光双、巴 酮	畑 布
2	土 師 坏	(口) 13.0 (高) (底)	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)暗褐色	赤色、黒色粒子含む
3	土 師 坏	12.3 3.7	横ナデ、ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		密 良好 褐色(内) 黒色	焼きむら
4	土 師 坏	12.7 3.3	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	
5	土. 師 坏	13.0 3.7	ヘラケズリ後ナデ (内) ナデ	(内)暗文らしき紋様	緻密 良好 黒褐色(内)黒彩	
6	土 師 坏	12.0 4.2	ヘラミガキ、ヘラケズリ (内) 横ナデ	·	緻密 良好 暗褐色	
7	土. 師 坏	13.6 3.8	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	
8	土. 師 坏	13.4 3.8	ヘラケズリの上をヘラミガキ (内) 横ナデ		緻密 良好 褐色	砂粒の大粒をわずか に含む
9	土 師 坏	13.0 3.8	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	反転 一部焼きむら
10	土 師 坏	12.8 3.7	へラケズリの上をヘラミガキ (内) 横ナデ		緻密 良好 褐色(内) 黒色	
11	土 師 坏	13.2 3.9	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	反転
12	土 師 坏	15.4 4.2	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	
13	土 師 境	16.0	(内) ハケメ		緻密 良好 赤褐色	
14	土 師 坏	13.6 3.5 7.5	横ナデ (内)へラ先で放射状に紋様		緻密 良好 褐色	砂粒を含む 焼きむら

番号	号 器 種 法量(cm)	计具 ()	調	整	NA. L. Mert & TH	Att: -tr.
#7		器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考	
1	土 師 皿	(口) 14.0 (高) (底)	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	
2	土 師 坏	13.0 3.4	横ナデ	回転糸切り未調整	やや粗い 良好 赤褐色	
3	土 師	28.0	ハケメ (内) ハケメ		密 良好 暗褐色	

 番号 器 種	92. 66	 	調整		胎土、焼成、色調	備考	
	田力	66 代里	大里(CII)	器 体 部	底 部)HI 45
	1	土 師 坏	(口) 7.0 (高) (底)		回転糸切り未調整	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 暗赤褐色	
	2	土 師 台付坏	7.6		回転糸切り未調整	密 良好 褐色	

176号住居址

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田石	66 恒	在里(CIII)	器 体 部	底 部	加工、粉切、巴河) HI 45
1	土 師 坏	(口) 11.0 (高) 3.6 (底) 5.0	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)褐色	
2	: # ## III	13.4	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		密 良好 黄褐色(内)褐色	赤色粒子含む 焼きむら
3	:±: 66 M	13.0 1.9	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	ヘラケズリ	密 良好 褐色	赤色粒子含む

177号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調用	整	胎土、焼成、色調	備考
田石	665 代里	公里(叫)	器体部	底 部	加工、税权、巴酮) HI 75
1	土 師 坏	(口) (高) (底) 4.8	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)赤褐色	赤色粒子含む
2	土 師 翌	31.3	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 褐色	金雲母含む 反転
3	土 師 甕	39.0	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 赤褐色	
4	土 師 置カマド	32.3	ハケメ		粗い 良好 褐色(内) 黒色	金雲母含む

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田勺	6分 性	公里 (CIII)	器 体 部	底 部	加工、粉块、巴姆) VHI 45
1	土 師 坏	(口) 11.0 (高) 4.5 (底) 5.0	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土 師 坏	11.5 3.9 6.4	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	
3	土 師 坏	11.0 4.0 5.4	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
借与	新性	法量(cm) 	器体部	底 部	MULLY MUNKY COM) HI 45
4	土 師 鉢	(口) 17.0 (高) 6.7 (底) 6.8	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	焼きむら
5	土 師 ハケメ 甕 9.0 (内) ハケメ		木葉痕	やや粗い 良好 暗褐色	金雲母含む	

番号	第 種	器種	法量	(m)	1	周			整	胎土、焼成、色調	備	考	
	借与	奋	悝	広里	(cm)	器	体	部	底	部		yma 7	7
	1	土	師不	(口) (高) (底)	11.3 3.1 5.6				回転糸切	り未調整	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	砂粒子を含む	

180号住居址

番号	器 種	法量 (㎝)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田力	6分 1里	(ALL)	器 体 部	底 部		H 43
1	土 師 坏	(口) 11.0 (高) 4.1 (底) 5.3	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	赤色粒子含む
2	土師皿	17.4	(内)暗文		密 良好 褐色	赤色粒子含む 反転
3	土師	24.8	ナデ、ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	砂粒子、金雲母含む

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
借与	奋 惶	法里(CII)	器 体 部	底 部	加工、始以、巴祠	75 EHU
1	土 師 坏	(口) 11.9 (高) 5.3 (底) 5.5	ヘラケズリ後ヘラミガキ不鮮明	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	赤色粒子含む
2	土 師 坏	12.0 4.8	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
3	土師坏	11.7 5.2	ヘラケズリ後ヘラミガキ (内)横ナデ 、 ヘラミガキ	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
4	土 師 坏	10.8 5.2	ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色	
5	土 師 坏	11.8 4.6	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	反転
6	土 師 坏	12.2 5.1	ヘラケズリ		密 良好 赤褐色	
7	土 師 髙 坏	20.0 13.8 15.8	横ナデ、ヘラミガキ (内)横ナデ、ヘラミガキ		緻密 良好 赤褐色	

番号 器 種 法量(cm) 法量(cm) 器 体 部 底 部 胎土、焼成、色調器 体 部 底 部 8 土 師 (高) 6.0 (底) 12.4 (高) 6.0 (内) ヘラミガキ (挽) 良好 (色) 赤褐色 9 土 師 (内) へラミガキ (内) 本褐色 数密 良好 赤褐色 10 土 師 高 坏 16.0 銀密 良好 赤褐色	備考
女 (底) (内) ヘラミガキ (色) 赤褐色 9 土 師 5.0 核ナデ 良好 赤褐色 手 捏 3.2 (内)指頭によるナデ 添褐色 10 土 師 良好	
女 (底) (内) ヘラミガキ (色) 赤褐色 9 土 師 5.0 核ナデ 良好 赤褐色 手 捏 3.2 (内)指頭によるナデ 添褐色 10 土 師 良好	
手 捏 3.2 (内)指頭によるナデ 赤褐色 10 土 師 良好	赤色粒子含む
手 捏 3.2 (内)指頭によるナデ 赤褐色 10 土 師 良好	赤色粒子含む
10	一赤色粒子含む
京	
土 師 9.3 剝離していて不鮮明 ヘラケズリ やや粗い 良好 11 11 11 12 12 12 12 12	
小型壺 6.25 (内) ハケメ 赤褐色	
土 師 15.6 横ナデ 12 by	反転
変 (内)横ナデ 黒褐色 (内) 褐色 土師 16.9 ナデ やや粗い	赤色粒子含む、反転
土 師 16.9 ナデ やや粗い 良好 赤褐色	が已経り占む、次報
土 師 17.6 横ナデ 密 14 壺 (内)横ナデ、ヘラケズリ 茶褐色	
土師 19.0 15 良好	
整 褐色	
土 師 7.4 横ナデ、ヘラケズリ 粗い良好	赤色粒子、金雲母含む
壺 (内)横ナデ 褐色	0
土 師 ヘラケズリ 名 名 名 名 名 日 日 日 日 日	反転
翌 9.0 (内) ヘラナデ 暗褐色	3 1.12
土 師 18.5 ヘラケズリ 密 良好	底部焼土付着
土 師 ヘラケズリ 和い 19 よ	
翌 褐色	
土 師	
壺 (内) ナデ 黄褐色 土 師 27.0 ハケメ後ナデ 密	
土 師 27.0 ハケメ後ナデ 密 21 飯 (内) ハケメ 褐色	
土 師 18.3 ヘラケズリ 木葉痕 粗い	小石含む、反転
22	
23 土 師 ヘラケズリ 密 良好	砂粒含む
23 良好	

番号器種		法量(cm)	調	整	 - 胎土、焼成、色調	備	考
		(A)	器 体 部	底 部	加工、加以、巴酮	VHI	79
1	土 師 台付坏	(口) 13.8 (高) 5.6 (底) 7.0	(内)暗文	(内)暗文	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調	整	마시	AH: -14
H 7	· 603 138	(A)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
2	土 師	(口) (高) (底) 7.7			(胎)密 (焼)良好	反転
	台付坏	(底) 7.7			(胎)密 (焼)良好 (色)茶褐色	
3	土 師				密	
	蓋		(内)暗文		密 良好 褐色	
4	土 師				密 良好 褐色	反転
	蓋				及灯 褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調			整	胎上、焼成、色調	£H;	考
ш.,	田づ杭竹里	拉里(咖)	器を	站 部	底	部	加工、加工、加工、巴酮	備	5
1	土 師 坏	(口) 16.0 (高) (底)					(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転	

186号住居址

番号	器種	種 法量(cm)	(cm)	調				整 胎上、焼成、色調		<i>tt</i> *:	考	
шЭ	借与 奋 悝		r 在里(CIII)	器	体	部	底	部	胎上、焼成、色調	備	4	
1	土虾	ħ	(口) (高) (底)	13.2						(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 赤褐色		

188号住居址

番号	器	種	法量	(cm)	in the	周		!	整	114.1. 地口 在部	th the second		
1	T '7	fich	但	仏里	(CIII)	器	体	部	底	部	胎士、焼成、色調	備	考
	1	土质坏		(口) (高) (底)	13.0 2.4 5.2	ヘラケス	ズリ		ヘラケズリ		(胎)密 (焼)良好 (色)茶褐色		

189号住居址

番号	器種	種法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考	-¥.
田勺	660 位里	位 石里(加)	器 体 部	底 部	加工、粉以、巴祠	741	5
1	土 師 甕	(高)	ハケメ (内) ハケメ		(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色		

番号	器種	法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田石	66 1里	大里 (CIII)	器 体 部	底 部	加工、残疾、巴祠) VHI - 1-5
1	土 師 坏	(口) (高) (底) 4.6	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)茶褐色(内)黒色	
2	土師皿	12.0 2.7 3.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色 (内) 黒彩	

.SZ. E-1	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調 備 考
番号	谷 性	佐里(CII)	器 体 部	底 部	加工、粉似、色刷 佣 行
1	土 師	(口) 12.7 (高)	ヘラケズリ		(胎)密 (焼)良好
	埦	(底)			(色) 褐色 (内) 黒色
2	土 師		ヘラケズリ		密、砂粒含む 反転 良好
	高坏?	8.2			暗褐色
3	土 師		1	ヘラケズリ	密良好
"	獀	8.6			赤褐色 (内) 黒色
4	土 師		ヘラケズリ	木葉痕	密、小石含む 良好
4	麪	6.65			褐色
5	上 師	19.6	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ		粗い、砂粒含む 良好
5	甕		(内) ハケメ		赤褐色

193号住居址

番号	器種	法量 (cm)	11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	整	胎上、焼成、色調	備考
Hr '5	600 1生	(CIII)	器体部	底 部	III.I. WOOD, Com) HI 75
1	土 師 甕	(口) 26.0 (高) (底)	ハケメ (内) ハケメ		(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	

194号住居址

番号	器 種	法量 (cm)	11	整	胎土、焼成、色調	備考
HI 7	66 任生	公里 (加)	器体部	底 部	加工、税权、已间	ν ια *5
1	土 師 坏	(口) 13.8 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転
2	土師	27.4	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	反転 折り返し口縁
3	土 師 置カマド	32.0	ハケメ · (内) ハケメ		やや粗い 良好 暗褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎上、焼成、色調	備	考
H '	fut 1里	AZMA (CIII)	器 体 部	底 部	加工、粉灰、巴酮	1749	75
1	土 師 坏	(口) 13.2 (高) 2.5 (底) 5.6	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)茶褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調	整	16.1 Mart 4.38
H 7	600 1里	広里 (CII)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調 備 考
1	土 師 坏	(口) (高) (底) 4.6	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色
2	土師皿	11.8 1.9 4.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色
3	土師皿	11.8	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色
4	土 師 変	10.0	ヘラケズリ		やや粗い 良好 褐色
5	土師	25.4	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 赤褐色

197号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	吸上 雄武 各部	備考
田石	66) 位生	大里 (CIII)	器体部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 13.6 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎)密 (焼)良好 (色)黄褐色	
2	土 師 坏	17.8 4.8 3.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	
3	土 師 翌		ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	
4	土師	32.0	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	
5	土 師 鉢		ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	

番号	器種	法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
留与	谷 性	公里 (CIII)	器 体 部	底 部		기계 주
1	土 師	(口) (高) (底) 5.8			(胎) やや粗い (焼)良好 (色)赤褐色	反転
	髙台付坏	(底) 5.8			(焼)良好 (色)赤褐色	
2	土 師	28.0	ハケメ		やや粗い良好	反転
2	甕		(内) ハケメ		良好暗褐色	
3	土 師	31.4	ヘラケズリ		密 良好 褐色	反転
L 3	甕				褐色	

番号	器種	法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
1117	台 性	(加)	器 体 部	底 部	加工、粉块、色刷) Viii *73
1	土 師 変	(口) 9.0 (高) (底)	ハケメ (内) ハケメ		(胎) 密 (焼)良好 (色)明褐色	反転

202号住居址

番号	器種	法量 (cm)	期 共長(m)				整	胎土、焼成、色調	備	考
	台 性	大里 (CIII)	器	体	部	底	部	加工、施以、它间	EHU EHU	75
1	土 師 甕?	(口) 19.0 (高) (底)						(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 赤褐色	反転	
2	土 師 坏?	23.3						密、砂粒含む 良好 赤褐色	反転	

203号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備 考 反転
	石 性	法里(CIII)	器 体 部	底 部	加工、粉以、巴酮	
1	土 師 坏	(口) 11.6 (高) (底)	ヘラケズリ (内) 横ナデ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	反転
2	土 師 小 鉢	10.7 7.1	ヘラケズリ		緻密 良好 暗茶褐色	赤色粒子少量含む
3	土 師 坏	13.0	横ナデ		緻密 良好 暗褐色	反転
4	土 師 坏	15.8	横ナデ		緻密 良好 褐色	反転
5	土 師 翌	16.4	横ナデ (内) 横ナデ		やや粗い 良好 暗茶褐色	反転

番号	器種	法量 (㎝)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	種 宏重(温)	器 体 部	底 部	加工、放政、巴혜	河
1	土 師 坏	(口) 14.6 (高) 3.2 (底) 10.8	ナデ	静止糸切り、ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼)良好 (色)黄褐色	
2	土 師 坏	16.0	ナデ (内) ナデ		緻密 良好 褐色	
3	土師	19.0	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	
4	土師	17.0	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調			整	胎土、焼成、色調	焼成、色調 備 考	*
	600 位生	(A)	器体	部	底	部	加工、光双、巴酮		75
5	土 師 甕	(口) (高) (底) 7.2			木葉痕		(胎)密 (焼)良好 (色)褐色		

番号	器種法	種 法量(cm)	. 調	整	胎土、焼成、色調	備考
留与			器 体 部	底 部)佣 行
1	土 師 坏	(口) 14.0 (高) · (底)	ナデ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	赤色粒子含む
2	土 師 坏	12.4 4.8 7.5	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ (内)暗文	密 良好 褐色	赤色粒子含む
3	土 師 翌	27.7	横ナデ (内) 横ナデ		やや粗い 良好 赤褐色	反転
4	土 師 甕	22.6	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 赤褐色	赤色粒子含む 反転

番号	## ###	計員()	調	整	11/1 Mr.+ 22.311	備考
	器種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 12.5 (高) 3.4 (底)	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土 師 坏	12.6 3.8	ヘラケズリ (内) ナデ		密 良好 褐色	
3	土 師 坏	12.8 4.4	ヘラミガキ (内) ヘラミガキ不鮮明		緻密 良好 黄褐色	反転
4	土 師 坏	11.6	ヘラケズリ不鮮明 (内) ヘラミガキ		緻密 良好 黒褐色	
5	土 師 坏	13.4	ヘラケズリ		やや粗い 良好 茶褐色	反転
6	土 師 坏	11.0 3.4	ヘラケズリ		緻密 良好 茶褐色	
7	土 師 坏	12.2 3.8	ヘラケズリ、ヘラミガキ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 暗褐色	
8	土 師 坏	13.0 4.0	ヘラケズリ、ヘラミガキ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 黒褐色	
9	土師坑	15.8	ヘラケズリ (内) 横ナデ		緻密 良好 褐色	
10	土 師 城	16.2	(内)横ナデ		緻密 良好 (内外)丹塗り	

番号	器	種	法量	(am)	ä	9		¥.	整	胎土、焼成、色調	備	考
金 写	1117	但	1五里	(cai)	器	体	部	底	部	加工、税权、巴姆	VAS	~
11	土	師	(口) (高)	12.4	ヘラケス	い後が	トデ			(胎)密 (焼)良好		
''	高台	付坏	(底)							(色) (内外) 丹塗り		
12	土	師			ヘラケス	くり		ヘラケズリ		密良好		
12	髙	坏		11.4						暗褐色		
13	土	師		15.7 32.65	ヘラケズ	り後ナラ	不鮮明	ヘラケズリ		やや粗い 良好	焼きむら	
13	3			4.4	(内)ナ	デ				褐色		
14	±:	師		20.6 34.7	ヘラミガ	キ、 へラ	ケズリ	木葉痕		やや粗い 良好	微砂粒を含む	3
	3	踅		5.6						赤褐色		
15	土	師		23.8	横ナデ、	ハケァ	t			粗い 良好		
	3	踅			(内)/	ケメ				赤褐色		
16	土	師			ハケメイ	鮮明		ヘラケズリ		粗い 良好	反転	
	3	楚		8.0	(内)ナ	デ				赤褐色(内)黒色		
17	土:	師		18.3	ヘラケズ	り後ナテ	"不鮮明			やや粗い 良好	反転	
1,	3	踅			(内) へ	ラケズリ	後ナデ			赤褐色		
18	土.	師			ヘラケス	(リ		ヘラケズリ		粗い 良好		
10	Š	Ē		7.6						茶褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備	考
шу	un 1.2	12至(41)	器体部	底 部	MILLY NUMEY CAPA	DHI	77
1	土 師 坏	(口) 11.0 (高) 3.9 (底)	ヘラケズリ、ヘラミガキ (内) ヘラミガキ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色		
2	土. 師 坏	13.0 4.3	ヘラケズリ		緻密 良好 黒褐色		
3	土 師 坏	12.7 3.9	ヘラケズリ (内) 横位ヘラミガキ		密 良好 褐色(内)黒色		
4	土 師 坏	14.0	ヘラケズリ		密 良好 (内外)黒色		
5	土 師 坏	14.6	(内) ヘラミガキ		密 良好 褐色	反転 焼きむら	
6	土 師 鉢	20.8 10.3	ヘラケズリ (内) 斜め、縦位へラミガキ		緻密 良好 褐色		
7	土 師 鉢	19.3 7.2	ヘラケズリ (内) 横位ヘラミガキ		緻密 良好 褐色		
8	土 師 境	7.7 6.0	ヘラケズリ、ヘラミガキ	糸切り?、ヘラケズリ	緻密 良好 黒褐色		
9	土師・坑	12.2	ヘラケズリ		緻密 良好 黄褐色	反転	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田勺	600 1生	(CII)	器体部	底 部	加工、始以、巴嗣	7H 45
10	土 師	(口) (高)	ヘラケズリ 横位ヘラミガキ	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好	
	高坏	(底) 12.4			(色) 黄褐色	
11	土 師	18.0			密、砂粒含む 良好	
''	聻				褐色	
12	土 師	18.6	ハケメ		粗い 良好	
12	甕		(内) ヘラケズリ		赤褐色	
13	土 師	15.7 15.6	ハケメ、ヘラケズリ	木葉痕	やや粗い 良好 赤褐色	
13	甕	6.5	(内) ハケメ		赤褐色	
14	土 師		ハケメ、指頭痕	木葉痕	粗い	
14	甕	6.3			良好 褐色	
15	土 師	14.4 12.8		ヘラケズリ	粗い 良好	
15	甕	7.8			褐色	
10	土 師		ヘラケズリ	木葉痕	粗い	
16	甕	9.3	(内) 輪積み、ヘラケズリ		良好 褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考	
俄万	器種	(大里(CII)	器体部	底 部	加工、粉块、巴姆) HI 45	
	土 師	(口) 26.0 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 粗い (焼) 良好		
1	甕	(底)	(内) ヘラケズリ	,	(色) 茶褐色		

37Z. 🗀	器種	计县 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	奋 悝	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、粉砂、乙烯	VHI 73
1	土 師 坏	(口) 14.0 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	
2	土 師 坏	13.5 4.4	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	
3	土 師 坏	14.0 4.2	ヘラケズリ		密 良好 黄褐色	
4	土 師 坏	13.2 3.3	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		密 良好 茶褐色	
5	須恵器 蓋	13.6 3.9			緻密、黒色粒含む 良好 灰白色	
6	土師坊	11.5 8.0	ヘラケズリ		緻密 良好 (内外)丹塗り	
7	土 師 小型甕	12.8 10.1 5.4	ハケメ (内) ヘラミガキ		粗い 良好 茶褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
借与		広里 (C□)	器体部	底 部	加工、例以、C两	, inii 73
8	土 師	(口) 19.2 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 粗い (焼) 良好	
	獀	(底)	(内) ヘラケズリ		(色) 茶褐色	
9	土 師			木葉痕	粗い 良好 茶褐色	
"	麪	6.0	(内) ヘラケズリ		茶褐色	
10	土 師	24.4	ハケメ		粗い 良好 茶褐色	
10	甕		(内) ハケメ		茶褐色	
11	土 師		ヘラケズリ	ヘラケズリ	やや粗い自好	反転
'11	甕	6.2			良好赤褐色	

30Z.12	up ££	计具 ()	調	整	14.1. 林叶 45部	備考
番号	器 種	法量(cm)	器 体 部	底 部	- 胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 13.1 (高) 4.1 (底) 5.1	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	
2	土 師 坏	13.2 3.9 4.8	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	
3	土 師 坏	13.7 4.1 3.8	ヘラケズリ	回転糸切り ヘラケズリ	密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
4	土 師 坏	13.6	ヘラケズリ		緻密 良好 暗褐色	反転
5	土 師 坏	14.4	ヘラケズリ		やや粗い 良好 黄褐色	反転
6	土 師 坏	15.4	ヘラケズリ		やや粗い 良好 暗褐色	反転
7	土 師 坏	16.6	ヘラケズリ		緻密 良好 暗褐色	反転
8	土 師 坏	17.0	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	反転
9	土 師 坏	15.8	ヘラケズリ		密 良好 黄褐色(内)黒色	反転
10	土師皿	13.1 2.5 3.6	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
11	灰 釉 台付 境	14.0 4.8 7.0			緻密 良好 灰白色	
12	土 師 変	31.2	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	反転
13	土師	35.0	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
借与	品 性	在里(CII)	器 体 部	底 部	加工、粉以、巴酮	7年 75 1
14	土 師	(口) 32.2 (高)	ハケメ		(胎)密 (焼)良好	
14	甕	(底)	(内) ハケメ		(色) 茶褐色	
15	土 師		ヘラケズリ	木葉痕	やや粗い 良好	
13	甕	8.7	(内) ハケメ		茶褐色	
16	土 師	43.6	ハケメ		粗い、砂粒含む	反転
10	浅 鉢		(内) ヘラケズリ		良好 茶褐色	
17	土 師	23.0			密良好	
11	羽釜		(内) ハケメ		茶褐色	
18	土 師		ハケメ		やや粗い 良好	
10	置カマド				茶褐色	

37. E	器種	計開 ()	調	整	116 Introde 24 313	AH: IZ
番号	一	法量 (cm)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 13.0 (高) 5.5 (底) 5.1	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼)良好 (色)赤褐色(内)丹煙り	一部焼きむら
2	土 師 小 鉢	11.1 6.5 7.6	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ	ヘラケズリ	粗い 良好 暗褐色(内) 黒色	
3	土 師長頸壺	8.7	ヘラミガキ (内) ナデ後ミガキ		緻密 良好 明褐色	
4	土 師 甕	18.0	ハケメ		粗い 良好 暗褐色	
5	土 師 甕		ハケメ		やや粗い 良好 赤褐色	
6	土師	25.0	横ナデ		粗い 良好 赤褐色	
7	土 師 甕	6.5	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ	ヘラケズリ	密 良好 褐色	反転
8	土 師 甕	8.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	粗い 良好 赤褐色	
9	土 師 手 捏	4.7		(内)指頭痕	やや粗い 良好 赤褐色	
10	土師	8.6	ヘラケズリ	(内) ヘラケズリ	粗い 良好 赤褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
	布 悝	佐里(CIII)	器 体 部	底 部)HI *5
1	土 師 坏	(口) 11.6 (高) 4.5 (底)	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ	回転糸切り後周辺 ヘラケズリ (内) 暗文	(胎) 緻密 (焼)良好 (色)明褐色	赤色粒子含む
2	土 師 甕	25.0	ハケメ (内) ハケメ、ヘラケズリ		粗い 良好 暗褐色	金雲母含む
3	土師	8.6		木葉痕	やや粗い 良好 暗褐色	

213号住居址

番号	器種	注唇 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
留巧	谷 悝	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、税权、巴嗣	VIII 45
1	土 師 坏	(口) 6.8 (高) 5.8 (底)	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土 師 小 鉢	8.8 4.1 4.8	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
3	土 師 坏	15.0	ヘラケズリ		密 良好 赤褐色	
4	土 師高 坏	18.0	(内)ナデ		緻密 良好 暗褐色	
5	土 師 境	15.3 7.8 5.2	ヘラケズリ (内) ナデ		密 良好 暗褐色	

214号住居址

番号	器種	法量(㎝)	計劃	整	胎土、焼成、色調	備考
1117	66 任生	(A)	器体部	底 部	加工、粉切、口响	рні <i>2-</i> 3
1	土 師 壺	(口) (高) (底) 7.5	ヘラケズリ後ナデ	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	赤色粒子含む 反転
2	土 師		ヘラケズリ後ナデ不鮮明		密 良好 褐色	赤色粒子含む
	緪	7.2		(内) ヘラケズリ	褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調整		胎土、焼成、色調	備考	
田石	600 個		器 体 部	底 部	加工、税权、巴酮)## 75	
1	土 師 坏	(口) 15.0 (高) 3.6 (底) 4.7	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	ヘラケズリ	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 赤褐色	赤色粒子、砂粒粒子 多量に含む	
2	土 師 坏	15.3 4.2 4.8	ヘラケズリ	全面ヘラケズリ	緻密 良好 黄褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調	整	14.1. 植叶 存部	備考
田力	66 位	(四)	器体部	底 部	胎土、焼成、色調 	備 考
3	土 師 坏	(口) 14.4 (高) 4.6 (底) 4.1	ナデ、ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼)良好 (色)灰褐色	
4	土 師 坏	13.9 4.9 4.9	ヘラケズリ	回転糸切り後ヘラケズリ	密 良好 褐色	赤色粒子含む 反転
5	土 師 坏	14.0 4.9	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	赤色粒子含む
6	土 師 坏	12.5 3.8 5.1	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	反転
7	土 師 坏	12.2	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	
8	土 師 坏	12.4 4.0 6.0	(内)ナデ	回転糸切り後ナデ	やや粗い 良好 黄褐色	雲母、赤色粒子含む
9	土師皿	12.9 2.1 5.7	ヘラケズリ後ナデ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 褐色	赤色粒子含む 反転
10	土師皿	13.6 2.1 4.4	ヘラケズリ不鮮明 (内) ナデ	回転糸切り、ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
11	土 師 皿	14.2	ヘラケズリ		密 良好 赤褐色	
12	土 師 甕	29.0	ナデ、ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 暗褐色	
13	土 師 翌	27.0	ヘラケズリ後ナデ (内) ハケメ		やや粗い 良好 赤褐色	
14	土 師 翌	33.4	ナデ、ハケメ (内) ハケメ		密 良好 褐色	金雲母含む
15	土 師 翌	26.0	ナデ、ハケメ (内) ハケメ		密 良好 暗褐色	金雲母含む
16	土 師 土 錘				緻密 良好 褐色	
17	土 師 甕	9.4	ハケメ (内) ハケメ、ヘラケズリ	木葉痕	やや粗い 良好 暗褐色	
18	土 師 変	7.0	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 暗褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備	考
借与	(金) (里)	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、粉块、巴姆	VHI	79
1	土 師 坏	(口) 17.2 (高) 5.6 (底) 12.2	ヘラミガキ (内) みこみに暗文	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調	整	- 胎土、焼成、色調	備考
番写	福 恒	法里(CIII)	器 体 部	底 部) HI 75
2	土 師 甕	(口) 31.0 (高) (底)	(内) ハケメ		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	
3	土 師	28.0	(内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	

.50Z. L-1	up ££	#B ()	調	整	14.1. Must 66.38	備考
番号	器 種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	- 胎土、焼成、色調	畑 与
1	土 師 坏	(II) 14.0 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	
2	土師・城	18.2 5.9	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		緻密 良好 褐色	焼きむら
3	土師	14.6 8.7 11.4	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ		緻密 良好 暗褐色	
4	土 師 甕	26.0	ヘラケズリ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	
5	土師	27.4	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 褐色	
6	土 師	20.4	横ナデ、ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	
7	土 師 小型変	10.4	ヘラケズリ (内) ハケメ		やや粗い 良好 赤褐色	
8	土 師 変	8.0	ハケメ (内) ヘラケズリ	木葉痕	粗い 良好 茶褐色	
9	土 師		ハケメ、ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
借与	谷 性	在里(CIII)	器 体 部	底 部	加工、粉灰、巴酮	加力
,	土 師	(口) (高)			(胎) 密 (焼) 良好	
1	髙 坏	(底)			(色)褐色	
2	土 師			ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	外、内ところどころ に黒いもの付着
	甕	7.2			赤褐色	に無いもの目着
3	土 師	12.9 6.9	ヘラケズリ		密 良好 暗褐色	砂粒含む
"	鉢	0.9			暗褐色	

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	RAL 地址 在新田	備考
田勺	1分位		器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 小型甕	(口) 8.4 (高) (底)			(胎) 密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	
2	土師	9.0		木葉痕	粗い 良好 赤褐色	砂粒含む

220号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田勺	66 作里	(III) 建五	器 体 部	底 部	加工、粉以、巴酮	MH 与
1	土 師 坏	(口) 10.4 (高) 2.3 (底) 6.0	横ナデ		(胎) 密 (焼)良好 (色)明褐色	
2	土師	8.0	ヘラケズリ、ハケメ (内) ハケメ	木葉痕、ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田石	66 作里	在里 (CIII)	器体部	底 部	加工、始以、巴酮	7개 주
1	土 師 坏	(口) 13.0 (高) (底)	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ		(胎)密 (焼)良好 (色)茶褐色	反転
2	土 師 坏	10.8 4.0	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転
3	土師坏	13.8	ヘラケズリ		密 良好 (内外) 丹塗り 外面、胴郎、黒色	反転
4	土 師 境	17.0	ヘラケズリ (内) ハケメ		密 良好 茶褐色	反転
5	土 師 坏	9.2 4.2	ヘラケズリ		密 良好 暗褐色	
6	土師	18.6	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	反転
7	土師	21.8	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	反転
8	土 師 甕	15.6 15.2 10.0	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 茶褐色	
9	土. 師	17.4 15.1 6.6	ハケメ (内) ハケメ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 茶褐色	
10	土師飯	25.8			やや粗い 良好 茶褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	Att. 32.
田力	667 作里	広里 (CIII)	器 体 部	底 部		備考
1	土 師	(口) 14.2 (高) 6.3 (底) 9.4	ヘラケズリ、髄位波状のヘラミガキ	ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)黄褐色	ひだすき痕
	坏	(底) 9.4	(内) 暗文	(内) 暗文	(色) 黄褐色	
2	須恵器	13.2 4.1	ヘラケズリ 指頭痕	静止糸切り	緻密 良好 灰白色	ひだすき痕
	坏	5.3	1日政政		灰白色	
3	須恵器	13.6 4.35	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 灰白色	
,	坏	4.55			灰白色	

226号住居址

番号	器種	種 沈县	法量	法量 (cm)	調		整		胎土、焼成、色調	備	考	
田勺	1217	但	仏里	(uii)	器	体	部	底	部	加工、粉以、巴酮	7月	45
1	土 年 坏	P	(口) (高) (底)	15.0 5.8 8.6				静止糸切り	、ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼)良好 (色)赤褐色		

227号住居址

番号	器 種	法量 (cm)	割出	整	14. 株式 各部	備考
留力	666 作里	大里 (CIII)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師	(口) 12.0 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	反転
	坏	(底)			(色) 褐色	
2	土 師	16.0 6.3	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	反転
	坏	0.0			褐色	
3	土 師	15.0 5.0	ヘラケズリ		密 良好 赤褐色	
3	坏	5.0			赤褐色	
4	土 師	17.0	ヘラケズリ		やや粗い 良好 黒褐色	反転
4	坏				黒褐色	
5	土 師	12.3			緻密	
3	坏				緻密 良好 赤褐色	
6	土 師	12.6			密 良好 暗褐色	
L	小型甕				暗褐色	:
7	須恵器	12.0 4.5			緻密	
	坏	4.5			緻密 良好 青灰色	
8	土 師	16.3 25.3	ハケメ	ヘラケズリ	やや粗い、砂粒含む	
0	甕	25.3 6.1	(内) ハケメ		良好 茶褐色	

番号器	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
ш 7	tur 132	1五里(皿)	器体部	底 部	1 加工、税权、巴祠	加 名
1	土 師 台付坏	(口) (高) (底) 5.9			(胎) 密 (焼) 良好 (色) 黄褐色	反転

577. E1			· 社員 ()	ā	調			整	14.1. 株式 名和	備	考
番号	器	種	法量(cm)	器	体	部	底	部	胎土、焼成、色調	VIII	-
2	土	師							やや粗い 良好 茶褐色		
2	羽	釜							茶褐色		

番号	器 種	计具 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
留 写	谷田 性	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、粉砂、二两	77 ENV
1	土 師 坏	(口) (高) (底) 6.2	横ナデ、ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼)良好 (色)黄赤褐色	反転
2	土 師 坏	12.0			緻密 良好 暗褐色	反転
3	土 師	23.5	ハケメ (内) ハケメ		++組い め枚、金器場合む 良好 赤褐色	反転 焼土付着
4	土師	8.7	ハケメ (内) ハケメ、指頭痕	木葉痕	やや粗い、砂粒含む 良好 褐色	反転
5	土 師 鉢	36.5	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 褐色	

230号住居址

番号器種		£Æ:	法量(cm)	整 整		整	胎土、焼成、色調 胎土、焼成、色調	備	考				
	番号	器	悝	仏里	(cm)	器	体	部	底	部	加工、殊政、巴酮	VHI	79
	1	土	師	(口) (高) (底)	14.2						(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 暗褐色		

231号住居址

307.12 19.1	nn ta	社員(二)	訓	-			整	胎土、焼成、色調	備	考
番号	器種	法量(cm)	器	体	部	底	部	加工、税以、巴嗣	UHI HI	73
1	土 師 高 坏	(口) (高) (底) 14.4						(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色		

377. 🗆	HP 48	計員()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器種法量(cm)		器 体 部	底 部	加工、粉以、巴嗣	加 有
1	土 師 坏	(口) 14.3 (高) 4.3 (底) 6.0	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼)良好 (色)茶褐色	
2	土 師 坏	11.2 3.9 4.8	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	反転
3	土 師 坏	13.2	ヘラケズリ		緻密、赤色粒含む 良好 黄褐色	
4	土 師 台付坏	6.2		削出高台	緻密 良好 黄褐色	反転

	器種	計量 ()	調	整	10.1. Mr.++ 44.39	備考
番号	奋 惶	法量(cm)	器体部	底 部	胎土、焼成、色調	1
5	土 師	(口) (高) (底) 6.0		削出高台	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	:
	台付坏	(底) 6.0	(内)ヘラミガキ	(内)ヘラミガキ	(色)暗褐色	
6	土 師	13.4 2.3 5.8	ヘラケズリ	回転糸切り、周囲へラケズリ	緻密、赤色粒含む 良好	
	Ш	5.8		,,,	良好赤褐色	
7	土 師	12.9 2.5 5.9	ヘラケズリ	回転糸切り、周囲へラケズリ	緻密、赤色粒含む 白好	
'	Ш	5.9		7729	良好赤褐色	
8	土 師	14.0			緻密 良好 茶褐色	反転
0	III	6.2	(内) ヘラミガキ	(内)ヘラミガキ	茶褐色	
9	土 師	15.2	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
9	Ш				赤褐色	
10	土 師	14.8 2.3	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密	反転
10	Ш	6.0	(内) ヘラミガキ	(内) ヘラミガキ	緻密 良好 茶褐色	

番号	器種	法量 (cm)	1	周			整	14. 林叶 存卸	AH:	.=tz.
шу	11117 133	IAE (M)	器	体	部	底	部	胎土、焼成、色調	備	考
1	土 師 境	(口) 21.6 (高) (底)						(胎)密 (焼)良好 (色)黄褐色		

237-1号住居址

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	11/s 1 July 12 42 400	/H: -H/
HJ	thir 17里	(A里(CIII)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 11.0 (高) 4.2 (底) 6.6	(内)暗文不鮮明	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 黄褐色	反転
2	土 師 蓋	17.0	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	赤色粒子含む
3	須恵器 坏	6.5		回転糸切り	密 良好 青灰色	
4	土師	24.2	ハケメ		やや粗い 良好 褐色	砂粒子、金玺母多量に含む 反転
5	土 師 変	8.4	ハケメ (内)ハケメ不鮮明	木葉痕? ヘラケズリ	やや粗い 良好 茶褐色	砂粒子、金雲母含む 反転
6	土 師 甕	24.6 38.1 8.0	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕?ヘラケズリ	やや粗い 良好 茶褐色	金雲母含む 反転

237-2号住居址

番号器種		種	注导 (cm)	法量(cm)		注量 (cm)		注量 (cm)		100	周			整	胎土、焼成、色調	備	.:br.
	1007	132	IAEL	(CIII)	器	体	部	底	部	加工、粉以、巴祠	1/18	考					
1	土 fi 坏	M	(口) (高) (底)	13.0						(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 白褐色	赤色粒子台	含む、反転					

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田力	1000 1000 1000 1000 1000 1000 1000 100	大鱼(CII)	器体部	底 部	加工、光双、巴酮	加
2	土 師 坏	(口) 13.6 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 黄褐色	赤色粒子含む 反転
3	土 師 坏	9.8 4.5 4.0	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		やや粗い 良好 黄褐色	反転 焼きむら
4	土師	28.8 25.2 10.8	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	赤色粒子含む

番号	器種	法量 (cm)	調	整	- 胎土、焼成、色調	備考
借与	谷 性	佐里 (CIII)	器体部	底 部	加工、光双、巴調	畑 与
1	土 師 坏	(口) 12.4 (高) (底)			(胎) 密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	
2	土 師高 坏	21.8		ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	単孔
3	土 師高 坏	21.6 16.6 13.0		ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	
4	土 師 高 坏	11.0			緻密 良好 明褐色	
5	土 師 高 坏		ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	反転
6	土 師 変	29.6			粗い、小石含む 良好 茶褐色	
7	土 師 翌	12.8		木葉痕、ヘラケズリ	粗い 良好 茶褐色	
8	土師 小型変	8.0			やや粗い 良好 赤褐色	
9	土師	16.8 11.8 6.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	粗い、砂粒含む 良好 赤褐色	

番号	器種	糖 社具()	調	整	胎士、焼成、色調	備考
	帝 惶	法量(cm)	器 体 部	底 部		унц <i>*</i> -5
1	土 師 坏	(口) 12.0 (高) 3.8 (底) 3.6	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)茶褐色	反転
2	土 師 坏	11.6 3.6 3.8	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺へ ラケズリ	密 良好 茶褐色	
3	土師坏	12.9 3.6 3.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	

372. 🖂	nin tee	計員()	制	整	RE 42 4-14 1 AD	Att: att.
番号	器種	法量 (cm)	器体部	底 部	- 胎土、焼成、色調	備考
4	土 師 坏	(口) 13.0 (高) 3.6 (底) 5.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	
5	土 師 坏	12.8 4.0 4.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 黄褐色	
6	土 師 坏	12.2 4.0 4.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	
7	土 師 坏	13.0 3.7 5.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	
8	土 師 坏	12.8 3.6 5.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 暗褐色	
9	土 師 坏	14.0 4.0 5.2	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	反転
10	土 師 坏	12.0 4.1 5.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色(内)黒色	
11	土 師 坏	14.0 3.8 4.4	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色(内)黒色	
12	土 師 皿	12.4 2.7 2.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	反転
13	土 師 皿	12.6 2.7	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	
14	土. 師皿	12.8 2.4 4.0	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	
15	土 師 皿	12.6 2.7 3.7	ヘラケズリ		密 良好 ** 茶褐色	反転
16	土 師 皿	13.2 2.0 5.2	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転
17	灰 釉 台付 埦	7.2			緻密 良好 灰白色	反転
18	土. 師 甕	16.2	ハケメ (内) ヘラケズリ、ハケ	7 ×	やや粗い 良好 茶褐色	反転
19	須恵器 長頸壺	11.0			緻密 良好 灰白色	内面に自然釉
20	土 師 甕	7.0	ハケメ (内)ヘラケズリ	木葉痕	やや粗い 良好 茶褐色	反転
21	土 師羽 釜	28.4	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	反転

37. E	器種	计 县 (, ,)	調	整	144. 株式 各部	備考		
番号	663 作里	fin 作生	台 性	法量(cm)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	畑 石
1	土 師 坏	(口) 6.5 (高) (底)	(内) ヘラミガキ		(胎)密 (焼)良好 (色)(内外)黒色			
2	土師	14.0 6.3	ヘラケズリ		密 良好 (内外)黒色			
3	土 師 鉢	16.8 12.0 6.4	ハケメ、ヘラケズリ	木葉痕、ヘラケズリ	粗い 良好 茶褐色			
4	土 師	19.8	ヘラケズリ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色			
5	土師	6.4	ヘラケズリ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色			
6	土 師 翌	7.4	ヘラケズリ (内) ハケメ	木葉痕、ヘラケズリ	粗い 良好 茶褐色			

241号住居址

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
金石	谷 性	(CIII)	器 体 部	底 部	加工、粉以、巴酮	7세 주
1	土 師 坏	(口) 12.4 (高) 4.05 (底) 3.8	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎)密、砂粒含む (焼)良好 (色)茶褐色	
2	土 師 坏	11.5 4.6 6.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
3	土 師 坏	12.0 3.7 4.1		ヘラケズリ	緻密 良好 明褐色	
4	土 師 坏	14.8 4.45 3.6		回転糸切り	緻密 良好 茶褐色	
5	土師皿	12.6 2.7	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
6	土師皿	5.65		回転糸切り、ヘラケズリ	密、砂粒含む 良好 赤褐色	
7	土 師	26.8	(内) ハケメ		密、砂粒含む 良好 茶褐色	

番号	器種	種 法量(cm)	調整		胎土、焼成、色調	備考
田石	一 在 1里	/公里(CIII)	器 体 部	底 部	加工、粉块、色刷	ин
1	土 師 坏	(口) 15.0 (高) 4.1 (底)	ヘラケズリ	ヘラミガキ	(胎)密 (焼)良好 (色)(内外)黒色	

番号器種	ツ 種		法量 (cm)	調整		胎土、焼成、色調	備	考			
	IAE (CII)	器	体	部	底	部	加工、粉以、巴酮	VHI	45		
,	土	師	(口) (高)			•			(胎)密 (焼)良好		
2	高	坏	(底)						(焼)良好 (色)茶褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	Att	-¥-
		在里(CII)	器 体 部	底 部		備	考
1	土 師 坏	(口) 14.6 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎)密 (焼)良好 (色)茶褐色		
2	土 師 皿	12.4	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田勺	谷 性	法里 (CIII)	器 体 部	底 部	加工、焼灰、巴調	畑 考
1	土 師 坏	(口) 12.2 (高) 4.1 (底)	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	
2	土 師 坏	11.2 3.8	ヘラケズリ		密 良好 (内外)黒色	
3	土 師 坏	11.5 4.3	ヘラケズリ		密 良好 黄褐色(内)黒色	
4	土 師 坏	11.9	ヘラケズリ		密 良好 (内外)黒色	
5	須恵器 坏	9.9			緻密 良好 青灰色	
6	土 師 鉢	13.9	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	
7	土 師 鉢	13.8	(内) ヘラケズリ		粗い 良好 赤褐色	反転
8	土 師 浅 鉢	26.8	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	
9	土 師 小型甕	10.1 7.7	ヘラケズリ		やや粗い 良好 黄褐色 (内) 黒色	
10	土 師 変	14.0 10.55 8.0	(内)ヘラケズリ、指頭痕	ヘラケズリ	やや粗い 良好 赤褐色	
11	土 師 翌	12.0	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転
12	土 師 変	·	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	

.W. 🖂	器種	法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号			器 体 部	底 部) JHS 75
13	土 師 甕	(口) (高) (底) 5.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 暗褐色	反転
14	土 師 円 筒		ハケメ		粗い 良好 茶褐色	
	土師		ヘラケズリ			
15	支 柱	18.6			粗い 良好 黄褐色	

番号	器種	计县 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番写	福 悝	法量 (cm)	器 体 部	底 部	MILLY MUSIC CITY) H 75
1	土 師 坏	(口) 13.2 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎)密 (焼)良好 (色)褐色	反転
2	土 師 坏	13.0 3.95	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 (内外)黒色	
3	土 師 坏	12.0 3.7	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 黒色	
4	士 師 坏	13.0 3.95	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 黒褐色 (内) 黒色	
5	土 師 饗	21.6	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 褐色	
6	土 師 獀	6.0	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ	木葉痕	粗い 良好 暗褐色	

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
借与	福 悝	在县(加)	器 体 部	底 部	加工、始以、巴祠)HI 45
1	士 師 坏	(口) 10.0 (高) (底)	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		(胎)密 (焼)良好 (色)褐色	反転
2	土 師 坏	13.2 2.8			緻密、赤色粒含む 良好 赤褐色	反転
3	士 師 坏	13.0	ヘラケズリ、ヘラミガキ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 褐色	反転
4	土 師 坏	13.0	(内) ヘラミガキ		緻密 良好 赤褐色	反転
5	.t. 師 坏	10.6 4.3	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 褐色	反転
6	土 師 坏	9.2	横位へラミガキ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 褐色	反転

			調			整	He I like to be the		
番号	器種	法量 (cm)	器体	部	底	部	胎土、焼成、色調	備 考	î
7	土 師 鉢	(口) 17.8 (高) (底)	ヘラケズリ (内) ヘラミカ	í ‡			(胎) 密 (姓) 良好 (色) 褐色	反転	
8	土 師 鉢	17.2 8.8				;	緻密 良好 褐色		
9	土 師 鉢	17.4	へラケズリ、ヘラ (内) 横位へラミ				緻密 良好 暗褐色	反転	
10	土 師	18.2 7.2	ヘラケズリ				緻密 良好 暗褐色	反転	
11	土 師 高 坏	21.2	ヘラケズリ (内) ヘラミカ	í+			緻密 良好 黄褐色	反転	
12	土 師高 坏	13.0	ヘラケズリ		ヘラケズリ		緻密、赤色粒含む 良好 赤褐色		
13	土師高坏	15.8	ヘラケズリ				緻密 良好 褐色	反転 焼きむら	
14	土 師	15.4	ヘラミガキ				緻密 良好 赤褐色	反転	
15	土 師 小型甕	12.1	ヘラケズリ (内) ヘラケス				緻密 良好 褐色	反転	
16	土 師	13.4					緻密 良好 赤褐色		
17	土師	15.4					緻密 良好 茶褐色	反転	
18	土 師	20.4	ハケメ (内) ハケメ				緻密 良好 赤褐色	焼きむら	
19	土 師	21.4	ヘラケズリ (内)ヘラケス	()			密 良好 茶褐色		
20	土 師		ハケメ (内) ハケメ				やや粗い 良好 暗褐色		
21	土 師 甕	22.2 27.3 9.0	ハケメ、ヘラケ (内) ハケメ	・ズリ	木葉痕		粗い 良好 茶褐色		
22	土 師	19.5 32.0 9.3	ハケメ、ヘラケ (内) ハケメ	ブリ	木葉痕		ー やや粗い 良好 暗赤褐色		
23	土 師	29.0	ハケメ (内) ハケメ				緻密 良好 褐色		
24	土師変	6.2	(内) ヘラケス	<i>:</i> 1)	木葉痕		粗い 良好 暗褐色		
25	土師	6.2	ヘラケズリ		木葉痕		やや粗い 良好 灰褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田勺	伯子 任生		器 体 部	底 部	加工、粉块、巴酮)H 45
26	土 師	(口) 5.1 (高) 3.3	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎)やや粗い (焼)良好	焼きむら
	手 捏	(底) 4.3	(内)ヘラケズリ		(色) 赤褐色	
27	土 師	5.3 3.2	ヘラケズリ	木葉痕、ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
21	手 捏	5.0	(内)ヘラケズリ		赤褐色	
28	土 師		ヘラケズリ	木葉痕	粗い 良好	焼きむら
20	甕	8.0	(内) ハケメ		褐色	
29	土 師			木葉痕	粗い	焼きむら
29	魙	6.8	(内) ヘラミガキ		粗い 良好 褐色	
30	須恵器	19.6			緻密 良好	-
30	壺				灰褐色	
31	須恵器	19.8			緻密 良好	
31	壺				灰褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田勺	600 亿里	(A)	器体部	底 部	加工、粉以、巴酮	加
1	土師坏	(口) 12.0 (高) 4.0 (底)	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎)密、赤色粒含む (焼)良好 (色)暗褐色	
2	土 師 坏	12.4			密、赤色粒含む 良好 褐色	反転
3	土 師 皿	12.8 2.8	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密、赤色粒含む 良好 赤褐色	反転
4	土師	38.0	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ		やや粗い 良好 褐色	反転
5	土師	8.0	ハケメ		やや粗い 良好 褐色	反転
	円筒		(内)輪積み		褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
借与	谷 恒	(公里(公里)	器 体 部	底 部	加工、粉拟、巴酮	VHI 75
1	須恵器	(口) 12.8 (高) (底)			(胎)緻密 (焼)良好 (色)灰白色	
	坏	(底)			(色)灰白色	
2	土 師	12.6	ハケメ		密 良好 茶褐色	
	甕		(内) ハケメ		茶褐色	
3	土 師		ハケメ	木葉痕	密、砂粒含む 良好 黄褐色	
	翌		(内) ハケメ		黄褐色	

377.17	器 種	計算()	調調	整	151. 城市 45部
番号	66 1里	法量(cm)	器体部	底 部	胎土、焼成、色調 備 考
1	土 師 坏	(口) 12.7 (高) (底)			(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 褐色
2	土 師 坏	14.6			密 良好 黒褐色
3	土 師 坏	16.6			密 良好 暗褐色
4	土師	10.0			密 良好 赤褐色
5	土 師 変	25.4	ハケメ (内) ハケメ		密 良好 明褐色
6	土 師 小型変	9.8			粗い 良好 茶褐色
7	土 師 変	18.4	ハケメ		密 良好 茶褐色
8	土 師 手 捏	4.6 5.4 5.7	(内)指頭痕		粗い 良好 茶褐色
9	土師	7.2		木葉痕	粗い 良好 暗褐色
10	土 師 手 捏				粗い 良好 茶褐色

37L 🗆	器種		調	整	胎土、焼成、色調	備	考
番号	1000 1里	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、粉炒、巴酮	VÆ	~ ,
1	土 師 坏	(口) 13.6 (高) 4.1 (底)	ヘラケズリ後ヘラミガキ (内) 横位ヘラミガキ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色(内) 黒色		
2	土 師 坏	13.6 3.7	ヘラケズリ後ヘラミガキ (内) 横位ヘラミガキ		緻密 良好 黄褐色		
3	土 師 坏	10.6 2.9	ヘラケズリ		級密 良好 暗褐色		
4	土 師 坏	12.8 4.8	ヘラケズリ後ヘラミガキ (内) 横位ヘラミガキ		緻密 良好 黒色		
5	土 師 坏	13.4 4.0	ヘラケズリ後ナデ		緻密 良好 暗褐色(内)黒色		
6	土 師 坏	12.0 4.3	ヘラケズリ後ナデ不鮮明		緻密 良好 褐色		

37.12	器種	計員 ()	調	整	- 胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	加工、光双、巴酮)#II 75
7	土 師 坏	(口) 13.0 (高) 3.85 (底) 10.0	横位へラミガキ、ヘラケズリ (内) 横位へラミガキ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	内、外面スス付着
8	土師坏	13.2 4.4 10.0	横位へラミガキ (内) 横位へラミガキ		緻密 良好 黒色(内) 黒色	
9	土 師 坏	12.0 4.2 8.8	横位へラミガキ (内) 横位へラミガキ		緻密 良好 褐色	
10	土 師 坏	14.0	ナデ		緻密 良好 暗褐色	赤色粒子含む
11	土 師 坏	13.0 4.3	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	
12	土 師 坏	12.7 5.4	横位へラミガキ (内) 横位へラミガキ		緻密 良好 赤褐色	
13	土 師 小型壺	14.6	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ、ヘラケズリ		やや粗い 良好 黄褐色	一部焼きむら
14	土 師 飯	15.0	横ナデ		やや粗い 良好 尚褐色(内)暗褐色	
15	土 師 甕	7.5	ナデ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 赤褐色	反転 焼きむら
16	土 師	6.2	(内)横ナデ、暗文	木葉痕	粗い 良好 赤褐色	
17	土 師 壺	7.0		ヘラケズリ	粗い 良好 黄褐色(内) 黒色	
18	土 師 台付甕	10.6	ヘラケズリ		やや粗い 良好 茶褐色	赤色粒子、砂粒含む 焼きむら
19	土 師 甕	21.8	ハケメ (内) ハケメ	ナデ	粗い 良好 茶褐色	外面スス付着
20	土 師 変	19.8	ヘラケズリ (内)ハケメ		やや粗い 良好 暗褐色(内) 黄褐色	外面スス付着
21	土師	10.0	ヘラケズリ		やや粗い 良好 褐色	
22	土 師	26.0	ヘラケズリ		粗い 良好 褐色	
23	土 師 手 捏	4.0 3.9 2.8	(内)指頭痕		緻密 良好 黄褐色	砂粒含む

57. LI	uu tas	Me ()	Ħ	整	n/. 1 b/c. b // m	411-
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	- 胎士、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 16.4 (高) (底)	ナデ (内) ナデ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	赤色粒子含む
2	上 師 坏	9.3	ナデ (内) ナデ		緻密 良好 黄褐色	赤色粒子微量に含む反転
3	土. 師	23.2			やや粗い 良好 暗褐色(内)赤褐色	砂粒子含む 反転
4	十. 師 甕	21.5	横ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		やや粗い 良好 褐色	砂粒子含む
5): 師 魏	8.65	ヘラケズリ不鮮明剝離	木葉痕	やや粗い 良好 褐色	砂粒子含む
6	土 師 魏	22.0	ナデ、ハケメ不鮮明 (内)ナデ		やや粗い 良好 暗褐色	砂粒子含む 焼きむら 反転
7	土 師 魏	9.2	(内)ハケメ不鮮明	木葉痕	やや粗い 良好 赤褐色	砂粒子、赤色粒子含む
8	須恵器 壺	24.0			緻密 良好 青灰色	反転
9	土 師		ヘラケズリ		緻密 良好 黄褐色	
10	土 師手 捏	5.6	指頭痕 (内) 指頭痕		やや粗い 良好 明褐色	反転
11	土 師 手 捏	3.9	指頭痕 (内) 指頭痕		密 良好 黄褐色	砂粒子含む
12	土 師 手 捏	6.0 3.8	指頭痕 (内)指頭痕		密 良好 暗褐色	
13	土 師 手 捏	4.1	指頭痕 (内)指頭痕		密 良好 茶褐色	

番号	器種	Al-tel ()	調	調整		All: Az-
11175	66 作里	法量 (cm)	器 体 部	底部	胎士、焼成、色調	備考
1	上 師 坏	(II) 12.3 (高) 3.6 (底) 4.9	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	
2	土 師 坏	12.2 3.7 4.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	
3	土 師 甕	8.4		木葉痕	やや粗い 良好 暗褐色	反転

77. 🗆	BD 135	TE ()	1	哥			整	마시	Att: ±4.	
番号	器種	法量 (cm)	器	体	部	底	部	│ 胎土、焼成、色調 │	備 考	
1	土師皿	(口) 13.0 (高) (底)	横ナデ					(胎) 粗い (焼)良好 (色)赤褐色	反転	
2	土 師	12.2	ヘラミカ	j+ 				密 良好 暗褐色		
3	土 師 坏	12.8 4.55 4.4	横位へラ	ミガキ、	指頭痕	回転糸切り	?	緻密 良好 褐色		
4	土 師高 坏	13.2						密 良好 褐色(内)暗褐色		
5	土 師 坏	10.8 3.1						密 良好 茶褐色		
6	土 師 坏	11.7 3.55	ヘラケス	ぐり				緻密 良好 褐色		
7	土 師 坏	13.0 3.8	ナデ、^ (内) ナ		ズリ			緻密 良好 (内外)黒色	反転	
8	土 師 坏	12.4 3.9	ヘラケス	ベリ				緻密 良好 (内外)黒色	反転	
9	土 師 坏	13.0 4.8	ナデ、^ (内) f		ズリ			緻密 良好 (内外)黒色	反転	
10	土 師 高 坏	19.2						密 良好 (内外)黒色		
11	須恵器 蓋	10.4 4.0	横ナデ (内) 植	黄ナデ				緻密 良好 青灰色		
12	須恵器 坏	8.6 3.7 4.1	横ナデ (内) 植	黄ナデ		ヘラケズリ		緻密 良好 灰色		
13	土 師 高 坏	13.0						密 良好 白黄褐色		
14	土 師	11.0 5.5 7.0	ナデ、′	トラケ	ズリ	ヘラケズリ		緻密 良好 暗褐色		
15	土 師 境	19.6	ナデ、ヘ	ラケズ	リ不鮮明			緻密 良好 暗褐色	反転	
16	土 師	12.2 9.1 5.7	ヘラケン	ズリ		ヘラケズリ		粗い 良好 赤褐色		
17	土 師 小型甕	15.6	ヘラケン (内) /					やや粗い 良好 褐色	赤色粒子含む 反転	
18	土 師 小型饗	5.0				ヘラケズリ		緻密 良好 茶褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調	整	114.1. Jacob 44.500	備考
留与	谷 悝	大里 (CIII)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	ケイ
19	土師	(口) 10.6 (高) (底)	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 黄褐色	反転
20	土 師 小型甕	5.8	ヘラケズリ		密 良好 白黄褐色	
21	土 師 小型甕	5.7	ヘラケズリ不鮮明		密 良好 褐色(内)暗褐色	
22	土 師	35.8	ヘラケズリ		粗い 良好	
23	土 師 甕	19.0	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 赤褐色	反転
24	土 師 甕	20.4	ナデ、ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 褐色	小石含む 反転
25	土 師 甕	19.6	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 赤褐色	
26	土 師 甕	3.7		ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	小石を多く含む
27	土 師 甕	13.6 17.3 8.5	ハケメ後ナデ (内) ハケメ後ナデ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 褐色	砂粒、小石を含む
28	土 師 饗	36.6	横ナデ (内) 横ナデ		粗い 良好 暗褐色	小石を含む
29	土 師 円 筒				密 良好 褐色	
30	土 師 支 柱				やや粗い 良好 茶褐色	

番号	器種	種 法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
1117	titr 1±	広里(畑)	器体部	底 部	加工、粉以、巴酮	
1	土 師 坏	(口) 14.6 (高) 4.1 (底)	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	赤色粒子含む 焼きむら
2	土 師 鉢	19.1 5.2	ヘラケズリ		やや粗い 良好 黄褐色	焼きむら
3	土 師 皿	9.3 2.0	ナデ、ヘラケズリ		やや粗い 良好 黄褐色	砂粒含む 焼きむら
4	土 師高 坏	18.5	ヘラケズリ、ヘラミガキ		密 良好 黄褐色	
5	土師	18.5 33.2 8.0	ナデ、ヘラケズリ (内)ヘラケズリ不鮮明	木葉痕	やや粗い 良好 褐色	砂粒子含む 焼きむら

.ஏ. ⊏	upi Aafi	↓+.EL ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	法量 (cm)	器体部	底 部	· 加工、殊政、巴嗣	加 石
6	須恵器 腺	(口) (高) (底)	ナデ、ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 青灰色	小石含む 反転
7	士: 師 魏	26.6			密 良好 茶褐色	赤色粒子含む
8	土 師 壺	15.8			密 良好 赤褐色	砂粒子、小石含む 反転 焼きむら
9	土 師 独	7.9	ハケメ、ヘラケズリ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 茶褐色	砂粒子含む
10	土 師 甕	4.1		ヘラケズリ	やや粗い 良好 褐色	
11	土 師 手 捏	5.0	ミガキ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 黄褐色(内) 黒色	
12	土 師 手 捏	5.4 3.9	指頭痕 (内) 指頭痕	ヘラケズリ	やや粗い 良好 黄褐色	焼きむら
13	土 師 手 捏	4.9	指頭痕 (内) 指頭痕	ヘラケズリ	やや粗い 良好 褐色	
14	土 師 手 捏	4.0	指頭痕 (内) 指頭痕		やや粗い 良好 黄褐色	砂粒子含む
15	土 師 手 捏	3.0	指頭痕 (内) 指頭痕		やや粗い 良好 黄褐色	
16	土 師 手 捏	6.2 7.2 6.2	指頭痕 (内) 指頭痕		やや粗い 良好 茶褐色	小石含む
17	土: 師	23.8	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 黄褐色	
18	土: 師 飯	8.1	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 赤黄褐色	

番号	器種	器種 法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田力			器体部	底 部	MILES ACASS CAM) HI 7-3
1	土. 師 坏	(口) 12.4 (高) 3.5 (底)	横ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ不鮮明		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 暗褐色	赤色粒子含む
2	士: 師 坏	12.7 3.9	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		密 良好 (内外)丹塗り	赤色粒子含む
3	土. 師 魏	39.9 8.1	ケズリ後ナデ不鮮明	木葉痕、ヘラナデ	やや粗い 良好 暗褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田 与	fair (28)	法里(CIII)	器 体 部	底 部	1 加上、税权、巴酮	ин <i>4</i> 5
1	土 師 境	(口) 12.2 (高) (底)	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)明褐色	反転
2	士: 師 境	5.6 7.65	ヘラミガキ		密 良好 暗褐色	砂粒含む
3	士: 師 甕		ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	反転
4	土 師 小型 要		(内) ヘラケズリ		粗い 良好 茶褐色	反転
5	土. 師	17.8 9.1	ハケメ (内) ハケメ		やや密 良好 茶褐色	
6	土 師 甕			木葉痕	やや密 良好 茶褐色	所々剝離 反転
7	須恵器 甕	37.0			密 良好 青白色	反転

260号住居址

番号 器 種	सुन इतः	up ## 3# 11. ()	調整		胎土、焼成、色調	備	考		
	法量(cm)	器体	部	底	部	加L、60以、巴酮	THE	73	
1	土師	(口) 11.5 (高) 2.6 (底) 4.9			回転糸切り	未調整	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色		

261号住居址

番号	99 56	器 種 法量(cm)	調	整	胎士、焼成、色調	備考
留与	谷 性		器 体 部	底 部	加工、烧吹、巴姆	VHI → → →
1	土 師 坏	(口) (高) (底) 8.6		ヘラケズリ	(胎) 緻密、赤色粒含む (焼)良好 (色)赤褐色	反転
2	土師	8.7		ヘラケズリ	密、赤色粒含む 良好 赤褐色	反転
3	土師	7.9	ヘラケズリ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 暗褐色	反転

番号	器種	器種:法量(cm)	調		3	整	胎土、焼成、色調	備	考
留与	谷 俚	在里 (CIII)	器体	部	底	部	加工、始次、已嗣	70189	45
1	土 師 坏	(口) 14.0 (高) 4.6 (底) 4.8	ヘラケズリ		ヘラケズリ		(胎)密、赤色粒含む (焼)良好 (色)褐色	反転	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
借与	谷 悝	性 法里(皿)	器体部	底 部	加二、粉砂、巴河	VIII 45
2	土 師	(口) 12.2 (高) 3.6 (底) 5.0	ヘラケズリ	回転糸切り後ヘラケズリ	(焼)良好	
	坏	(底) 5.0			(色)褐色	
3	土 師	13.0 2.45	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密、赤色粒含む 良好	
	坏	4.3			赤褐色	
4	土 師	15.0 4.75	横ナデ	回転糸切り	密良好	反転
1	坏	6.5			赤褐色	
5	土 師	13.2 2.65	横ナデ	回転糸切り	密良好	
	Ш	5.3			暗赤褐色	
6	土 師	13.2 3.0	横ナデ	回転糸切り	密良好	反転
	Ш	5.2			暗赤褐色	
7	土 師	13.6	横ナデ	回転糸切り	密	反転
'	Ш	7.7			良好 赤褐色	
8	灰 釉	18.4			概密、4%位の小石 含む 良好	反転
0	坏				灰白色	
9	土 師	28.0	ハケメ		やや粗い	
9	甕		(内) ハケメ		良好赤褐色	
10	土 師	28.0	ハケメ		粗い	
10	塑		(内) ハケメ		良好 赤褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
III 7		在里(CII)	器 体 部	底 部	加工、粉以、巴嗣	рня <i></i> 3
1	土 師	(口) 11.0 (高) 3.6	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎)密、赤色粒含む (焼)良好	底部に解読不明の墨 書
1	坏	(底) 6.1	(内) ヘラミガキ	(内) ヘラミガキ	(色)褐色	音
2	土 師	11.1	ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 赤褐色	反転
2	坏		(内) 暗文		赤褐色	
3	土 師	17.8	回転ヘラケズリ		密 良好 褐色	外面に解読不明の墨 書
	蓋		(内) 暗文		褐色	iii

番号	器種	種 法量(cm)	調整		胎土、焼成、色調	備考
			器体部	底 部	加工、粉狀、巴嗣	が明 石
1	土 師 坏	(口) 12.8 (高) (底)			(胎) 緻密 (焼)良好 (色)丹塗り(内)黒色	反転
2	土 師、坏	13.0			やや粗い 良好 茶褐色	反転
3	土 師 坏	13.4 3.8	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ	緻密 良好 暗褐色(内)黒色	反転

番号	器種	法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
借与	600 138	佐里(CII)	器 体 部	底 部	加工、粉以、巴利	VHI *3
4	土 師 坏	(口) 17.8 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎)密 (焼)良好 (色)暗褐色(内)黒色	反転
5	須恵器 蓋	12.4 3.8			緻密 良好 青灰色	反転
6	須恵器 蓋	12.8 3.7			緻密 良好 灰白色	
7	須恵器 坏	11.8			緻密 良好 青灰色	反転
8	土: 師 鉢	11.0			やや粗い 良好 茶褐色	反転
9	須恵器 壺	19.4			緻密 良好 青灰色	反転
10	土 師	9.6			やや粗い 良好 茶褐色	反転
11	土師	23.8	輪積み (内) ハケメ		粗い 大小の粒子多量 に含む 良好 茶褐色	反転

37.EL	器種	# WE ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	66 性	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、粉奶、巴酮	UHS 45
1	土 師 坏	(口) 11.9 (高) 2.2 (底) 5.2	横ナデ	回転糸切り未調整	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	反転
2	土 師 坏	5.6 2.7 4.2	横ナデ	回転糸切り未調整	緻密 良好 茶褐色(内)黒色	反転
3	土 師 坏	9.2 2.3 4.3	横ナデ	回転糸切り未調整	密 良好 赤褐色	
4	灰 釉 高台付城	17.0 5.9 7.8			緻密 良好 灰白色	反転
5	土 師 甕				密 良好 暗褐色	反転
6	土: 師 甕	28.5	横ナデ		粗い、砂粒含む 良好 赤褐色	
7	土 師 甕		ヘラケズリ	ヘラケズリ、ナデ	粗い、砂粒含む 良好 赤褐色	

3Z. 🗆	up fat	計具()	調	整	U/s I betrett da tru	備考
番号	器 種	法量(cm)	器 体 部	底 部	- 胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 15.8 (高) 4.8 (底) 6.2	ヘラケズリ	回転糸切り	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	
2	土 師 坏	14.7 4.7 7.3	横ナデ	回転糸切り未調整	緻密 良好 暗褐色	反転
3	土 師 坏	17.0			緻密 良好 茶褐色	反転
4	土 師 坏	12.4			緻密 良好 赤褐色	反転
5	土 師 坏	14.3 4.4 6.0	横ナデ (内)横ナデ	回転糸切り未調整	やや粗い 良好 茶褐色	
6	土 師 坏	14.8 4.8 6.1	横ナデ	回転糸切り未調整	やや粗い 良好 黄褐色	
7	土 師 坏	5.9	横ナデ	回転糸切り未調整	緻密 良好 暗褐色	
8	土 師 坏	6.0	横ナデ	回転糸切り未調整	緻密 良好 黄褐色	
9	土 師 坏	6.6	横ナデ	回転糸切り未調整	緻密 良好 赤褐色	反転
10	土 師 坏	5.8	横ナデ	回転糸切り未調整	緻密 良好 赤褐色	反転
11	土 師 坏	13.7 3.3	横ナデ	回転糸切り未調整	緻密 良好 茶褐色	反転
12	土 師 坏	15.4 3.3 6.3	横ナデ	回転糸切り未調整	やや粗い 良好 茶褐色	内面スス付着
13	土 師高台付坏				緻密 良好 茶褐色	反転
14	土師皿	11.4 1.8 6.1	横ナデ	回転糸切り未調整	緻密 良好 茶褐色	
15	土 師 皿	11.2 2.4 6.2	横ナデ	回転糸切り未調整	緻密 良好 茶褐色	
16	土 師 皿	10.6 2.1 5.6	横ナデ	回転糸切り未調整	緻密 良好 茶褐色	反転
17	灰 釉 – – – – – – – – – – – – – – – – – –	14.8			緻密 良好 灰褐色	反転
18	土 師 鉢	15.2 7.9 10.0		ヘラケズリ、ナデ	やや粗い 良好 暗褐色	反転

番号	器種	器 種 法量(cm)	調用	調整		備考
借写	谷 悝		器体部	底 部	胎上、焼成、色調	ν π -5
1	須恵器	(口) 13.8 (高) 4.5			(胎)緻密 (焼)良好	反転
1	高台付坏	(底) 9.8			(色) 灰白色	
2	須恵器				緻密 良好	
	高台付坏	8.2			灰白色	
3	:上 師		ヘラケズリ	木葉痕	密良好	
	獀	6.0			茶褐色	
4	出 師		ヘラケズリ、ハケメ	ヘラケズリ	やや粗い 良好	
1	變	6.4			茶褐色	

268号住居址

番号	器 種	Met ()	調	整	- 胎土、焼成、色調	備考
		法量 (cm)	器体部	底 部		75 BIV
1	土 師 坏	(口) 10.2 (高) 4.1 (底) 5.4	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	
2	土 師	23.8	ハケメ		粗い 良好 茶褐色	
3	土 師 置カマド	34.0 34.6 38.0	ヘラケズリ、ハケメ (内) ヘラケズリ、ハケメ		密 良好 暗褐色	

.SZ. □	iyi KE	計具 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	法量(cm)	器体部	底 部	加工、粉砂、二两	UHJ 75
1	土 師 坏	(口) 12.6 (高) 4.3 (底)	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 明褐色	
2	土 師 坏	12.7	ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 (内外)黒色	反転
3	土 師 坏	12.3 3.9	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 (内外)黒色	
4	上師坊	15.4 6.6	ヘラケズリ、ヘラミガキ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 褐色(内)黒色	
5	土 師 坏	17.1 5.4	ヘラケズリ、ヘラミガキ		密、赤色粒含む 良好 明褐色	
6	須恵器 蓋	13.6			緻密 良好 青灰色	反転
7	須恵器 坏	8.8 3.4 3.7			緻密 良好 青灰色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎士、焼成、色調	備考
借写	盆 惶	広凰 (CⅢ)	器体部	底 部	加工、粉切、巴洞	VHI *3
8	須恵器 坏	(口) 8.6 (高) 4.0 (底) 3.3			(胎) 緻密 (焼)良好 (色)青灰色	
9	土. 師 鉢	18.0			密、赤色粒含む 良好 明褐色	
10	須恵器 坏	8.7 3.9 4.3			緻密 良好 青灰色	
11	土師	18.5			密 良好 明褐色	反転 焼きむら
12	土 師 境	12.4 8.4	ヘラケズリ、ヘラミガキ (内) ヘラミガキ		やや粗い、砂粒含む 良好 赤黄褐色	反転
13	土 師 甕	9.6	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 明褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番与	奋 性	法里(CII)	器 体 部	底部	1 胎上、殊叹、巴嗣	畑 右
1	土 師	(口) 11.8 (高)	ヘラケズリ	回転糸切り	(胎)密	反転
	坏	(底)			(焼)良好 (色)茶褐色	
2	土: 師	15.2 4.6	ヘラケズリ	回転糸切り、周囲へラケズリ	密 良好	反転
	坏	5.8		,,,,,	黄褐色	
3	土 師		横ナデ	回転糸切り未調整	粗い 良好	反転
	坏	6.0			黄褐色(内)黒色	
4	土 師		ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好	
	坏	4.0		(内)回転糸切り、ナデ	茶褐色	
5	土 師			回転糸切り未調整	 密 良好	
	坏	5.0			茶褐色	
6	土 師	11.7 2.65		回転糸切り未調整	密 良好	
	Ш	4.7			茶褐色	
7	土 師	12.0 2.8		回転糸切り未調整	密良好	反転
	III				良好 茶褐色	
8	士: 師	15.6	横ナデ	回転糸切り	粗い良好	反転
	Ш	8.0			良好 茶褐色	
9	土 師		ハケメ	木葉痕	粗い 良好	反転
	甕	6.6	(内)指頭痕		良好暗褐色	
10	土 師		ハケメ	木葉痕	粗い 良好	
	獀	8.4	(内) ハケメ		良好暗褐色	
11	土 師	16.0	ハケメ		やや粗い 良好	反転
	魙		(内) ハケメ		暗褐色	

番号 器 種 ;	11/2 56	計順 ()	調問	整	胎土、焼成、色調	備	考
	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、防敌人。	DH3	77	
12	上 師羽 釜	(口) (高) (底)	ハケメ (内) ハケメ		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調制	整	胎土、焼成、色調	備考
留写	thir 13E	在里 (cm)	器体部	底 部	加工、粉块、巴姆	VHI 75
1	土 師高 坏	(口) 12.0 (高) 10.0 (底) 10.2	ヘラケズリ、ハケメ (内) ヘラミガキ	ハケメ	(胎)密 (焼)良好 (色)暗褐色	
2	須恵器 蓋	11.0 4.6			緻密 良好 灰白色	
3	須恵器 坏	14.0 9.0			緻密 良好 灰白色	
4	須恵器 坏	14.8			緻密 良好 灰白色	
5	土 師 翌	18.0	ヘラミガキ		やや粗い 良好 茶褐色	
6	土 師	12.0	ヘラケズリ		密 良好 黄褐色	

番号	器種	计是 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
留写	谷 性	法量 (cm)	器 体 部	底 部	加工、粉色、色洞) this 23
1	土 師	(口) 13.8 (高)	ヘラミガキ		(胎)密 (焼)良好	反転
	坏	(底)	(内) ヘラミガキ		(色) 茶褐色	
2	土 師	12.6	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転
2	坏				茶褐色	
3	土 師	15.0	ヘラミガキ		密 良好 茶褐色	反転
	髙 坏		(内) ヘラミガキ		茶褐色	
4	土 師	22.6			密良好	
T	壷				茶褐色	
5	土 師	14.0	ヘラケズリ		やや粗い 良好	
J	鞭		(内)輪積み		茶褐色	
6	上 師	23.0	ヘラケズリ		粗い 良好	
	麪		(内) ヘラケズリ		茶褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	ht: ±4.	考
一 一	6位 代里	在里(皿)	器 体 部	底 部		備考	
1	土 師 坏		ヘラケズリ ヘラミガキ (内) ヘラミガキ	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色		
2	土 師高 坏	13.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ、ハケメ	密 良好 暗褐色		

W 11	hii +5	N. H. Z. X	調	整		
番号	器 種	法量(cm)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備 考
1	土. 師 坏	(口) 12.7 (高) 3.8 (底)	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) (内外) 黒色	
2	土 師 坏	12.5 3.9	ヘラケズリ		密 良好 褐色	
3	土. 師 坏	9.5 5.2	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	
4	土 師 境	10.0			粗い 良好 暗赤褐色	
5	土 師 鉢	8.5 7.8 6.3	ヘラミガキ (内) ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	
6	土 師 甕	10.4			密 良好 茶褐色	
7	土 師 鉢	14.4	(内)ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 赤褐色	反転
8	須恵器 蓋	12.0 4.3			緻密 良好 青灰色	
9	須恵器 珠		刺突痕、ヘラケズリ		緻密 良好 灰色	反転
10	土 師 甕	19.0 29.5 9.0	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ・	ヘラケズリ	やや粗い 良好 茶褐色	
11	土 師 甕	17.5 21.1 6.8	ヘラケズリ (内) ハケメ	木葉痕、ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	
12	土 師 翌	14.3 17.9 6.4	ハケメ		密 良好 暗茶褐色	
13	土師	16.6			やや粗い 良好 赤褐色	

番号	器 種	計具 ()	i	調			整	10 l kirch 22-311	£H;	-tv.				
ш Э		如 作里	油 恒	悝	悝	但	法量(cm)	器	体	部	底	部	胎土、焼成、色調	備
1	土	師	(口) 17.8						(胎)密 (焼)良好					
	高	坏	(高) (底)						(色)明褐色					
2	土	師	19.8	ヘラミ	ガキ				密 良好 茶褐色					
	高	坏		(内)・	ヘラミス	がキ			茶褐色					
3	:t:	6thi				-								
	±	宛												

17.	BB 65	Maria ()	調	整		
番号	器種	法量 (cm)	器体部	底部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 11.4 (高) (底)	ヘラケズリ、ヘラミガキ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) (内外) 黒色	反転
2	土 師 坏	12.4	ヘラケズリ、ヘラミガキ		密 良好 暗褐色	反転
3	土 師 坏	12.3 3.7	ヘラケズリ		緻密 良好 (内外)丹塗り	
4	土 師 坏	13.0	ヘラケズリ		密 良好 (内外)丹塗り	反転
5	土 師 坏	13.4	ヘラミガキ		密 良好 暗褐色	反転
6	土 師 坏	13.0	ヘラケズリ		密 良好 (内外)黒色	反転
7	土 師 坏	12.8 3.6	ヘラミガキ		緻密 良好 (内外)黒色	
8	土 師 坏	12.0 3.5	ヘラケズリ		密 良好 (内外)黒色	反転
9	土 師 坏	12.4	ヘラケズリ、ヘラミガキ		密 良好 褐色	
10	土 師 坏	14.0	ヘラミガキ		密 良好 褐色	反転
11	土 師 坏	13.0	ヘラケズリ、ヘラミガキ		緻密 良好 茶褐色	
12	土 師 坏	13.0 4.0	ヘラケズリ		緻密 良好 暗褐色	
13	土 師 坏	12.8	ヘラケズリ		緻密 良好 (内外)丹塗り	

) H ()	調	整	11/4 Martin 27/4	Att: ±4.
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	胎上、焼成、色調	備考
14	土 師 坏	(口) 13.2 (高) 3.2 (底)	ヘラケズリ、ヘラミガキ		(胎)緻密 (焼)良好 (色)(内外)丹塗り	
15	上 師 坏	13.0	ヘラケズリ、ヘラミガキ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 茶褐色	反転
16	土 師 坏	15.4	ヘラケズリ		緻密 良好 (内外)黒色	反転
17	土 師 坏	15.6	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		密 良好 暗褐色	
18	土 師 高 坏	14.0	ヘラミガキ		緻密 良好 茶褐色	反転
19	土 師高 坏		ヘラケズリ		緻密 良好 (内外)丹塗り	反転
20	須恵器 坏	11.0			緻密 良好 青灰色	反転
21	土 師 境	10.2 6.9	ヘラケズリ、ハケメ		緻密 良好 暗褐色	
22	土師境	15.0	ヘラケズリ		やや粗い 良好 茶褐色	反転
23	土 師 境	14.8	ヘラケズリ		緻密 良好 暗褐色	反転
24	土 師 境	15.8	ヘラケズリ、ヘラミガキ		緻密 良好 茶褐色	反転
25	土師鉢	15.6	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転
26	土 師 坏	20.6 6.6	ヘラケズリ、ヘラミガキ		緻密 良好 暗褐色	反転
27	土 師 変	12.4	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	反転
28	土師	22.0	(内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	反転
29	土 師 変	10.0	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ		やや粗い 良好 茶褐色	反転
30	土 師 翌	18.0	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	
31	土 師 翌	19.8	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	
32	土 師 翌	14.2	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	

番号	器種	器種 法量(cm)	調	整	胎士、焼成、色調	備考
			器 体 部	底 部		VH 45
33	土師	(口) 29.0 (高) (底)	ハケメ		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転
34	土 師 甕	8.4	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕、ヘラケズリ	やや粗い 良好 茶褐色	
35	土 師 翌	6.6	ヘラケズリ	木葉痕?ヘラケズリ	やや粗い 良好 茶褐色	
36	土 師 円 筒	8.0	ハケメ (内)輪積み、指頭痕		やや粗い 良好 茶 褐 色	焼土多量に付着

番号	器 種	法量(cm)	調整		114 J. March 44 311	備考	
			器体部	底 部	- 胎土、焼成、色調	四明 石	
1	土 師 坏	(口) 10.0 (高) (底)			(胎) 緻密、赤色粒含む (焼) 良好 (色) 暗褐色	反転	
2	土 師高 坏	11.0 6.9 8.9	ヘラケズリ	ヘラケズリ	概密、赤色粒、霊母含む 良好 暗褐色	所々スス付着	
3	土 師高 坏		ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 黒彩		
4	須恵器 坏	10.0			緻密 良好 青灰色	反転	
5	須恵器 坏	12.0			緻密 良好 灰白色	反転	
6	須恵器	10.0			緻密 良好 黒灰色	反転	
7	土 師 城	9.8 6.8	ヘラケズリ		緻密 良好 (内外)黒色	反転	
8	土 師 境	13.6			概密、赤色粒、霊母含む 良好 黄褐色	底部にスス付着	
9	土 師鉢	21.0	ヘラケズリ (内) ハケメ		緻密 良好 黄褐色	反転、スス付着 焼きむら	
10	土 師	14.6 11.9 8.8	ハケメ (内) ヘラケズリ	木葉痕	粗い 良好 赤褐色		
11	土 師 鉢	19.5	ハケメ、ヘラケズリ		密 良好 黄褐色	反転 一部スス付着で黒変	
12	土師	14.0 12.9 5.2	ヘラケズリ (内) ハケメ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 赤褐色	全体にゆがみ	
13	土 師 甕	19.2	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 黄褐色	スス付着	

番号	器種	法量 (cm)	調整		胎土、焼成、色調	備考
			器 体 部	底 部	加工、粉以、巴酮	ν π 73
14	土 師 甕	(口) 26.7 (高) (底)	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ		(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 褐色	
15	土 師	24.0			やや粗い、赤色粒含む 良好 褐色	反転 焼きむら
16	土 師	8.0	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 暗褐色	
17	土 師 円 筒		ハケメ (内) 輪積み		密 良好 黄褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調整		RA. L. Micel: 47-30	AH:	考
			器体部	底 部	胎土、焼成、色調	備	考
1	土 師 坏	(口) 12.3 (高) 4.1 (底) 5.3		回転糸切り未調整	(胎)密 (焼)良好 (色)茶褐色		
2	土 師 坏	13.8 4.25 6.1		回転糸切り未調整	密 良好 茶褐色		
3	土 師 坏	13.2		回転糸切り未調整	密 良好 茶褐色		
4	土 師 高台付坏	14.1 6.2 7.3	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ	ヘラケズリ	密 良好 褐色(内)黒色		
5	土 師 高台付坏	15.1 5.6 9.1			密 良好 褐色		
6	土 師 高台付坏	15.8		回転糸切り	密 良好 褐色		
7	土 師 高台付坏	6.5	横ナデ	回転糸切り	密 良好 褐色		
8	土 師 皿	8.8 2.25 4.3		回転糸切り未調整	密 良好 茶褐色		
9	土 師 鉢	17.6			密 良好 茶褐色		
10	土 師 皿	9.8 2.1 5.1		回転糸切り、ナデ	密 良好 茶褐色		
11	土 師 翌	25.2	ヘラケズリ (内) ハケメ		密 良好 暗褐色		
12	土師皿	9.3 2.1 4.6	ヘラケズリ	回転糸切り未調整	密 良好 茶褐色		

₩ ₽	器種	计制 ()	調	整	胎土、焼成、色調 備 考
番号	一	法量 (cm)	器 体 部	底 部	加工、防災、巴嗣 渊 专
1	土師	(口) 21.6 (高) (底)	ハケメ (内) ハケメ		(胎) やや粗い、砂粒含む (焼) 良好 (色) 茶褐色
2	土 師	17.6			粗い、小石多量に含む 良好 茶褐色
3	土 師 甕	20.8	ハケメ (内) ハケメ		粗い、砂粒含む 良好 茶褐色
4	、土 師 甕	14.4			概密、赤色粒、石英含む 良好 赤褐色
5	土 師 甕	9.0		木葉痕	粗い、砂粒含む 良好 赤褐色

W7. 111	uu te	ME ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	胎工、焼风、巴酮	畑
1	土 師 坏	(口) 12.9 (高) 3.4 (底) 4.7	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺へ ラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	
2	土 師 坏	13.8 3.9 5.9	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺へ ラケズリ	緻密 良好 褐色	反転
3	土 師 坏	14.7 4.7 5.5	ヘラケズリ、ヘラミガキ	回転糸切り、周辺へ ラケズリ	秘密、赤色粒含む 良好 黄褐色(内)黒色	
4	土 師 坏	13.3 5.0 5.6	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ	ヘラケズリ	概密、赤色粒、石英含む 良好 赤褐色(内)黒色	
5	土師皿	12.4 2.8 3.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	焼きむら
6	土師皿	13.6	ヘラケズリ		密 良好 褐色	反転 焼きむら
7	灰 釉 高台付皿	14.1 3.2 6.1			緻密 良好 灰色	底部内面には灰釉は ない
8	土 師	9.1	ハケメ	木葉痕	粗い 良好 赤褐色	反転
9	土 師羽 釜	27.0	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 赤褐色	反転

番号	器種	法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田勺	谷 性	器体部底部		1 VHI 45		
1	土 師 坏	(口) 11.6 (高) 4.15 (底) 5.6	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	
2	土 師 坏	10.8	ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色	反転
3	土 師 翌	9.2	(内) ハケメ		粗い、金雲母含む 良好 暗褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田石	66 位	大里 (CIII)	器 体 部	底 部	1 胎工、焼成、巴嗣	畑 芍
1	土 師 坏	(口) 12.0 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎)密、赤色粒含む (焼)良好 (色)明褐色	
2	土 師 坏	14.0 3.8 13.4	ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 (内外)丹塗り	反転
3	土 師 坏	13.5 4.3 10.15	ヘラケズリ、ヘラミガキ (内) ヘラミガキ		緻密、赤色粒含む 良好 暗褐色	
4	土 師 高 坏	10.9			密 良好 暗褐色	
5	土 師 鉢	27.8	ハケメ		やや粗い、砂粒含む 良好 赤褐色	反転
6	土野	26.4	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い、砂粒含む 良好 明褐色	反転
7	土師	26.8	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 茶 褐 色	反転
8	土 師 甕	21.8			密、砂粒含む 良好 明褐色	反転
9	土 師 甕	18.9	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い、砂粒含む 良好 明褐色	反転 焼土付着
10	土 師 変	16.5			やや粗い、砂粒含む 良好 暗褐色	反転
11	土 師 変	21.9	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い、小石含む 良好 暗褐色	
12	土 師 翌	7.0	ヘラケズリ	木葉痕	粗い、砂粒含む 良好 明褐色	反転
13	土師	17.3	ハケメ (内) ハケメ		ゃや粗い、砂粒含む 良好 暗褐色	

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
1117	600 11里	(A)	器体部	底 部	加工、税以、巴姆) VHI 23
14	土 師	(口) (高) (底) 6.1		木葉痕	(胎) やや粗い、砂粒含む (焼)良好 (色)明褐色	焼きむら
15	土 師 変	8.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 褐色	

17. LJ	tus 256	計算 ()	調	整	15.1. 地震 各部	備考
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調)
1	土 師 坏	(口) 10.4 (高) 4.1 (底) 5.0	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、ヘラケズリ	(多)密 (姓)良好 (色)褐色	
2	土 師 坏	11.0 4.2 5.3	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	
3	土 師 坏	11.4 4.7 5.4	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 黄褐色	反転
4	土 師 坏	9.7 4.2 4.7	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 褐色	反転
5	土 師 坏	10.8 3.9 5.8	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 褐色	反転
6	土 師 坏	5.7	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り	密 良好 褐色	
7	土師皿	15.6 2.5 8.0	回転ヘラケズリ (内)暗文	回転ヘラケズリ	密 良好 褐色	反転
8	土 師 翌	26.0	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い、金紫母、砂 粒を含む 良好 茶褐色	反転 焼きむら
9	土 師 翌	28.2			やや粗い、砂粒含む 良好 褐色	
10	土 師 鉢	47.2	ハケメ (内) ハケメ		ゃゃ粗い、金雲母合む 良好 茶褐色	

37. FJ	1311 12E	計員()	調	整	- 胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、税权、巴嗣	DHU ~5
1	土 師 坏	(口) (高) (底) 5.6	横ナデ	回転糸切り未調整	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	
2	土 師 坏	6.4	横ナデ	回転糸切り未調整	緻密 良好 茶褐色	
3	土 師 高台付坏				緻密 良好 黄褐色	

番号	器種	法量(cm)	ā	哥			整	胎土、焼成、色調	備	考
H 7	100 1里	公里 (UII)	器	体	部	底	部	加工、始以、巴利	VHI	79
4	土 師 甕	(口) 26.2 (高) (底)	ハケメ					(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色		

番号	器 種	法量 (cm)	部	1			整	14.1. 株式 存部	備	tz-
1117	600 位里	(A)	器	体	部	底	部	胎土、焼成、色調	VHI 73	考
1	須恵器 蓋	(口) 11.4 (高) (底)						(胎) 緻密 (焼)良好 (色)青灰色	反転	
2	土 師 壺	8.5	ハケメ					粗い 良好 明褐色	反転	

287-1号住居址

番号	岩器	種	法量	(cm)	訓	9			整	胎土、焼成、色調	備	考
ш	fur	131	石里	(uii)	器	体	部	底	部	加工、光双、巴酮	1/111	45
1	土	師	(口) (高) (底)	11.0 2.5 4.8	横ナデ			回転糸切	り未調整	(胎)密 (焼)良好 (色)茶褐色	黒変らし	き斑点

287-2号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	마수스 선생님 나시	AH: -14.
田力	台 性	法里(CIII)	器 体 部	底 部	→ 胎土、焼成、色調 	備考
1	土 師 坏	(口) 12.6 (高) 3.6 (底) 5.5	横ナデ	回転糸切り未調整	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	
2	土 師 甕	26.0	ハケメ (内) ハケメ		粗い、砂粒含む 良好 茶褐色	反転
3	土 師 甕	31.8	ハケメ (内) ハケメ		密 良好 茶褐色	反転
4	土 師 羽 釜	30.6	ハケメ (内) ハケメ		粗い、砂粒含む 良好 暗褐色	反転

番号器種	計員 ()	調	整	IIA.I. Marit 47. 319	Att: = ±x.	
田つ	66 1里	法量 (cm)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土. 師	(口) 12.6 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎)密、赤色粒含む (焼)良好 (色)褐色	反転
2	土 師 坏	13.8	ヘラケズリ		緻密 良好 黒褐色	反転
3	土 師 皿	13.0	ヘラケズリ		緻密、赤色粒含む 良好 赤褐色	反転

番号 器 種		法量 (cm)	1110	周			整	胎土、焼成、色調	備考
ш.5	1117 1 <u>H</u>	IZE (UII)	器	体	部	底	部	胎土、焼成、色調	14店 右
4	土 師 坏	(口) (高) (底)						(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	底部外面に墨書

						1
番号	器種	法量 (cm)	調	整	IIA I beloub Ar Smi	A441#
金 写	器種	と と と と と と と と と と と と と と と と と と と	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備 考
	土 師	(口) 13.2			(胎) 密	
1	坏	(高) (底)			(焼)良好 (色)(内外)丹塗り	
	•				(巴)(内外)万里り	
2	土 師	13.8 3.6			密良好	
	坏	3.0			(内外)黒色	
	土 師	14.4			密	
3	坏	3.4			良好 丹塗り(内) 黒色	
\vdash		10.1				
4	土 師	12.4	ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好	反転
	坏				暗褐色	
	土 師		ヘラケズリ	ヘラケズリ	密	
5	高坏		·		良好	
6	土 師	20.0	ヘラケズリ		やや粗い、赤色粒含む 良好	反転 焼きむら
	魙		(内) ヘラケズリ、指頭痕		暗褐色	med 9
	土 師		ハケメ		やや粗い	反転
7	麪		(内) ハケメ		良好 褐色	焼きむら 焼土付着
	土 師	16.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	やや粗い、赤色粒含む	
8	,	10.3		79729	良好	死さむり
	甑	8.4	(内)ハケメ		褐色	
	土 師		ハケメ	木葉痕	やや粗い、小石含む	
9	甕	7.6	(内) ハケメ		良好 茶褐色	
						
10	土師	16.6	ハケメ		やや粗い、小石含む 良好	
	魙		(内)ハケメ		暗褐色	
1,	土 師		ヘラケズリ	木葉痕	やや粗い、小石含む	
11	甕	6.5	(内) ハケメ、ヘラケズリ		良好 褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
留与	谷 恒	法里 (CIII)	器 体 部	底 部		備考
1	土 師 坏	(口) 12.6 (高) 4.3 (底) 4.8	(内)暗文	ヘラケズリ	(胎)密、赤色粒含む (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土 師 坏	16.3 4.0 4.6	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	反転
3	土 師 坏	13.7 3.9 4.0	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
金 一	世分 44 12		器 体 部	底 部	加工、粉以、巴酮	VIII 75
4	土 師 坏	(口) 16.4 (高) 5.5 (底) 5.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 赤褐色	
5	土 師 皿	13.0 2.75		回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	反転
6	土 師 皿	14.0 2.9	ヘラケズリ		粗い、赤色粒含む 良好 赤褐色	
7	灰 釉 甕	16.4			緻密 良好 灰白色	

30Z. E3	器種	計具 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	谷 性	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、粉狀、巴嗣	79 HI
1	土 師 坏	(口) 11.0 (高) 4.0 (底) 5.0	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	
2	土師坏	10.0			密 良好 茶褐色	
3	土 師 高台付坏	7.0		削出髙台	密 良好 茶褐色	反転
4	土師	7.0	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	反転
5	土 師 翌	26.0	(内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	
6	土師	22.0	ハケメ (内) ハケメ		粗い、砂粒多量に含む 良好 茶褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
留写	谷 性	伝里(CII)	器体部	底 部	加工、粉砂、巴刷	ᄱ
1	土師坏	(口) 10.6 (高) 4.4 (底) 5.0	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	反転
2	土 師	11.2	横ナデ	回転糸切り、ヘラケズリ	密良好褐色	反転
	坏	5.75	(内) 暗文		褐色	
3	土 師	10.5	ヘラケズリ		密 良好 赤 褐 色	反転
,	坏	4.8			赤褐色	
4	土 師	15.4	ヘラケズリ		密 良好 褐色	
4	坏				褐色	
5	土 師	12.8	ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 褐色	反転
	坏		(内) 暗文		褐色	

番号器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考	
田力	600 1里	(A)	器 体 部	底 部	加工、施以、巴岡	THE
6	土 師 坏	(口) (高) (底) 9.0		ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	反転
7	土師皿	15.35	回転ヘラケズリ	回転糸切り	密、赤色粒含む 良好 褐色	反転
8	土 師 鉢	21.6			密、赤色粒含む 良好 褐色	反転
9	土 師 翌	6.9	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ、ヘラケズリ	木葉痕	やや粗い、金選母含む 良好 暗褐色	反転

番号器種		法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田石	66 位	thr 恒 在重(CII)	器 体 部	底 部	加工、粉块、巴姆	
1	土師坏	(口) 12.0 (高) 4.5 (底) 5.4	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 明褐色	反転 一部黒変
2	土 師 坏	12.8 4.8 4.0	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 茶褐色(内)黒色	反転
3	土 師高台付坏	13.9 4.9 6.15			密 良好 明褐色	
4	土 師 甕	21.9	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	反転

32 .0	nu 126	計員()	調	整	11/1 left 22.300	AH: -14.
番号	器 種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	· 胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 13.8 (高) 3.4 (底)	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	反転
2	土 師 坏	13.0	ヘラケズリ		緻密 良好 (内外)丹塗り	反転
3	土 師 坏	12.8	ヘラケズリ		緻密 良好 黄褐色	反転 口縁の外に一部黒彩
4	土 師 高 坏	10.8	ヘラケズリ		粗い 良好 黄褐色	反転
5	土 師 鉢		ヘラケズリ		密 良好 褐色	
6	土 師 城		ヘラケズリ		密 良好 黄褐色(内)黒色	反転
7	土 師 変	18.5	ヘラケズリ (内) ハケメ		粗い 良好 褐色	

平旦	番号 器 種	種 法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
留写			器 体 部	底 部	加工、姊欢、巴調	VHI 주
8	土 師 甕	(口) 15.4 (高) 26.0 (底) 6.7	ヘラケズリ、ヘラミガキ (内) 輪積み	木葉痕	(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転
9	土 師	5.9	ヘラケズリ (内) ハケメ	木葉痕	密 良好 褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田石	石 付里	法里(CIII)	器体部	底 部	加工、粉块、巴酮	ᄱ
1	土 師 坏	(口) 12.4 (高) 4.3 (底)			(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 黄褐色	焼きむら
2	土 師 境	13.8 6.0			網密赤色的多量に含む 良好 赤褐色	反転
3	土 師 高 坏	15.6			緻密 良好 赤褐色	反転
4	土 師 鉢	13.6			粗い 良好 黄褐色	反転
5	土 師 翌	28.6 26.7 10.2	ヘラケズリ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 茶褐色	反転

296号住居址

番号器	器 種	重 法量(cm)	調整		胎土、焼成、色調	備考
番写	新方 帝 他		器体部	底 部	NULLY MUNCY CAM	가비 건
1	土 師 皿	(口) 14.4 (高) 3.0 (底) 5.8	回転ヘラケズリ		(胎)密、赤色粒含む (焼)良好 (色)明褐色	反転
2	灰釉	15.8			緻密 良好 灰色	反転
3	土師	12.0	ハケメ (内) ハケメ		や中報い、砂粒、金螺母合む 良好 暗褐色	
4	土節	24.0			密、砂粒含む 良好 赤褐色	反転

番号器	np faf	計画 ()	調整		胎土、焼成、色調	備考
	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、粉砂、二两	у нн → →
1	土 師 境	(口) 9.8 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎)緻密 (焼)良好 (色)(内外)丹塗り	
2	土 師 髙 坏	10.2 5.5	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ		密 良好 暗褐色	

番号	器種	種 法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
			器 体 部	底 部	加工、粉灰、巴酮) HI 45
3	土 師	(口) (高) (底) 8.0	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ	木葉痕	(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 黄褐色	
4	上 師 円 筒	9.6	ヘラケズリ (内) 輪積み、ヘラケズリ		やや粗い 良好 褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調整		整	胎土、焼成、色調	備考
御与	66 性		器体	部	底 部	DULLY MONT COM	VHI +3
1	.t. 師 皿	(口) 9.8 (高) 2.15 (底) 4.3		^	、 ラナデ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	
2	上 師 高台付坏	20.2				密 良好 褐色	反転

299号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
金石	谷 性	(CE)	器 体 部	底 部	加工、粉块、巴酮	VIII 45
1	須恵器 蓋	(口) 10.0 (高) 3.2 (底)			(胎) 緻密 (焼)良好 (色)灰白色	反転
2	須恵器 蓋	9.7 3.6			緻密 良好 青灰色	
3	須恵器 蓋	9.6			緻密 良好 青灰色	反転
4	上師	18.6	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い、砂粒含む 良好 明褐色	反転 焼きむら
5	上 師 高 坏	12.4	ヘラケズリ、ナデ		密、赤色粒含む 良好 黒褐色	

番号	器種	器種 法量(cm)	調整		胎土、焼成、色調	備考
田力	665 代里	在底(CIII)	器 体 部	底 部	加工、粉切人、巴姆	EFIG. 4-3
1	上 師 坏	(口) 13.6 (高) 4.5 (底) 5.4	横ナデ	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 褐色	
2	:E FFF	15.8 2.3 13.3		回転糸切り	緻密 良好 褐色	反転
3	土 師 皿	16.2			緻密 良好 褐色	反転
4	土 師 坏	6.0	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	緻密、赤色粒含む 良好 褐色	反転

番号	器種	接種 法量(cm)	調整		胎土、焼成、色調	備考
田台	石 恒		器体部	底 部	THE PARTY CAN	DHS 42
5	土師皿	(口) 18.0 (高) (底)			(胎) 緻密、赤色粒含む (焼)良好 (色)褐色	反転
6	土 師 手 捏	6.8 3.0			やや粗い 良好 褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	14. 林叶 4.38	備考
借与	奋 惶	大里 (CIII)	器体部	底部	- 胎土、焼成、色調	畑 与
1	土 師 坏	(口) 10.0 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 粗い (焼)良好 (色)茶褐色	反転
2	土師高坏		ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	反転
3	土師高坏	7.8		ヘラケズリ	密 良好 黄褐色	
4	土 師 城	7.5	ハケメ、ヘラケズリ		緻密 良好 暗褐色	反転
5	須恵器 坏	12.6 4.5			緻密 良好 灰白色	
6	土 師 翌	20.0	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 暗褐色	反転
7	土 師	26.0	ヘラケズリ		やや粗い 良好 暗褐色	反転
8	土. 師 翌.	20.0	ハケメ (内) ハケメ		密 良好 茶褐色	

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田力	66 任		器 体 部	底 部	加工、粉以、巴嗣	一 佣 与
1	土 師 坏	(口) 10.6 (高) 3.8 (底) 5.3	ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り、周辺へラケズリ	(胎) 密、赤色粒含む (焼) 良好 (色) 赤褐色	
2	土 師 坏	11.6 4.5 5.3	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
3	土 師 坏	10.6 4.2 5.4	ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り、周辺へラケズリ	密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
4	土 師 坏	10.8 3.85 5.0	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、周辺へラケズリ	密、赤色粒含む 良好 茶褐色	反転
5	士. 師 坏	10.8 4.2 5.1	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺へラケズリ	やや粗い、赤色粒含む 良好 黄褐色	反転

47 11	m: 55	ME ()	制	整	NE AS STATE OF THE LAND	備 考
番号	器種	法量(cm)	器体部	底 部	- 胎土、焼成、色調	
6	土 師 坏	(口) 11.0 (高) 4.7 (底) 5.4	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	(胎) 密、赤色粒含む (焼) 良好 (色) 赤褐色	
7	土 師 坏	10.8 4.4 5.7	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、周辺へラケズリ	緻密 良好 褐色	
8	土 師 坏	10.3 4.3 4.7	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺へラケズリ	密 良好 黄褐色	·
9	土 師 坏	10.6 4.2 5.9	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
10	土 師 坏	5.6	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、周辺へラケズリ	密 良好 褐色	反転
11	土 師 坏	15.8	ヘラケズリ (内) 暗文		密 良好 褐色	
12	土 師	10.5 3.9	(内)暗文			つまみは、はりつけ てある
13	土 師 坏	17.4			密 良好 褐色	
14	土 師 皿	16.6 2.15	(内) 暗文	ヘラケズリ	密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
15	土師皿	17.0			密 良好 褐色	
16	土 師 皿	16.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
17	土師皿	16.6 3.8	ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 茶褐色	反転
18	土師皿	14.4 3.15 6.8	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
19	土師皿	7.0		ヘラケズリ	密 良好 褐色	
20	土師皿	6.0	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺へラケズリ	密 良好 褐色	反転
21	土師皿	6.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ (内) 暗文	密 良好 褐色	
22	土師	31.2	(内) ハケメ		密良好褐色	
23	土師		ハケメ、ヘラケズ (内) ハケメ	IJ.	密 良好 暗褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	RAJ. March CASIR	備考
ш Э	III TE IAE (III)	器体部	底 部	· 胎土、焼成、色調 	備考	
1	土 師 坏	(口) 14.3 (高) 2.5 (底) 9.4	ヘラケズリ、ヘラミガキ (内) 横位ヘラミガキ	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	
2	土 師 坏	16.0 5.3	ヘラミガキ (内) ヘラミガキ	ヘラミガキ (内) ヘラミガキ	緻密 良好 赤褐色	反転
3	須恵器 高台付坏	14.6 3.7 10.2		ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	
4	土: 師 甕	24.2			密、砂粒含む 良好 暗赤褐色	反転
5	土 師 甕	23.7	(内) ハケメ		密、砂粒含む 良好 暗赤褐色	反転
6	土 師 甕	31.2	ハケメ (内) ハケメ		密 良好 褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整		Att: +1.
11179	fir) 1型		器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	須恵器 坏	(口) 12.4 (高) 3.6 (底)			(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 灰色	
2	土師高坏	21.0	ヘラケズリ		やや粗い 良好 茶褐色	反転
3	土 師高 坏			ハケメ	緻密 良好 (内外)黒色	
4	土 師高 坏	11.0	ヘラケズリ、ヘラミガキ		緻密 良好 暗褐色	反転
5	土 師高 坏	9.6	ヘラケズリ	ヘラケズリ -	緻密 良好 茶褐色	
6	土 師 甕	17.4	ハケメ、ヘラミガキ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	
7	土 師 甕		ヘラケズリ、ヘラミガキ		粗い 良好 茶褐色	
8	土: 師 甕	18.0	ハケメ (内) ハケメ		密 良好 茶褐色	反転
9	土 師 翌	16.6	ヘラケズリ		粗い 良好 茶褐色	反転
10	土師	22.1	ハケメ (内) ハケメ		密 良好 茶褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調		整	14.1. 地点 在部	備考
留与	1111 1211	在里(CII)	器体音	部底	部	胎土、焼成、色調	加 方
11	土 師 変	(口) 17.2 (高) (底)				(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 黄褐色	反転
12	土 師	8.0	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕		粗い 良好 茶褐色	
13	土師	23.0	ヘラケズリ			粗い 良好 褐色	
14	土 師 円 筒	9.0	ハケメ (内) ハケメ			粗い 良好 茶褐色	焼土多量に付着
15	土 師 支 柱	16.6 4.1	ハケメ			密 良好 茶褐色	
16	土 師 支 柱	4.2	ハケメ			密 良好 茶褐色	
17	土 師 円 筒		ハケメ			粗い 良好 茶褐色	反転

37. LI	nur sati	計算 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	加工、%以、巴 酮	7 相 有
1	土 師 坏	(口) 16.8 (高) (底)			(胎)密 (焼)良好 (色)茶褐色	
2	土 師 坏	18.4	ヘラミガキ		密 良好 茶褐色	
3	±: 師 坏	8.0	ヘラミガキ	静止糸切り、ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	
4	土 師 鉢		ヘラミガキ (内) 暗文		密 良好 茶褐色	
5	須恵器 蓋	10.4			緻密 良好 灰色	反転
6	土師	21.6	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	
7	土師	9.0	ハケメ (内) ハケメ		密 良好 茶褐色	
8	土師		ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	
9	土. 師	8.4	ヘラケズリ (内) ハケメ	ヘラケズリ	粗い 良好 茶褐色	
10	土 師 独	15.6	ハケメ、横ナデ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	

W-D	番号器種	法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
留つ			器 体 部	底 部	ALLEN MORN COM) HII 43
11	土 師 甕	(口) (高) (底) 7.0	ヘラケズリ (内) ハケメ	木葉痕、ヘラケズリ	(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転
12	土 師 手 捏				粗い 良好 茶褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調整		胎土、焼成、色調	備考	
田石	66 作组	公里(CII)	器 体 部	底 部	加工、粉切、巴爾	1 加工、光以、巴酮 1 加) HI 45
1	土 師 坏	(口) 14.8 (高) (底)			(胎) 密 (焼) 良好 (色) (内外) 丹塗り	反転	
2	須恵器 坏	13.1 4.1			緻密 良好 青灰色		
3	土 師 甕	14.2	ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 褐色		

310号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調整		胎上、焼成、色調	備考
田力	台 性	法里(CII)	器 体 部	底 部	加工、始次、已酮) VHI 45
1	土 師 坏	(口) 12.6 (高) 4.2 (底) 4.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	
2	土 師 坏	4.9		回転糸切り	緻密、赤色粒含む 良好 茶褐色	
3	土師皿	14.8			緻密 良好 褐色	

番号 器 種	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
任 与	一 位	治 恒 (公里(CIII)	器体部	底 部	月日.1.、 <i>为</i> 七次、 三周) VH 25
1	土 師 坏	(口) 12.3 (高) 3.75 (底)	ヘラケズリ、ヘラミガキ (内) ヘラミガキ		(胎)密 (焼)良好 (色)暗褐色	
2	土 師 坏	12.7 3.85	ヘラミガキ		密、赤色粒含む 良好 茶褐色	焼きむら
3	土 師 坏	12.3 3.6	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		密 良好 暗褐色	
4	土 師 坏	10.8	ヘラミガキ (内) ヘラミガキ		密 良好 明褐色	反転
5	土 師 境	9.4	ヘラケズリ (内) 指頭痕		密 良好 明褐色	反転 焼きむら

番号	器種	法量 (cm)	調整		胎土、焼成、色調	備考
留写	奋性	大里 (CIII)	器 体 部	底 部	加工、例识、已两	DHI 7-5
6	土師城	(口) 10.7 (高) (底)	ヘラケズリ、ヘラミガキ		(胎)密 (焼)良好 (色)暗褐色	反転
7	土 師 鉢	18.0	ヘラケズリ、ヘラミガキ (内) ヘラミガキ		密 良好 明 褐 色	反転
8	土 師 鉢	20.9	ヘラケズリ		密 良好 黄褐色	反転

来早	nn te	計目 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	番号 器 種	種 法量(cm)	器 体 部	底 部	MILLY MUXY COM	ин <i>*</i> Э
1	土 師 坏	(口) 12.6 (高) 4.8 (底)	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		(胎) やや密 (焼)良好 (色) 茶褐色(内)黒色	
2	土 師 坏	11.8 4.2	ヘラケズリ		緻密 良好 茶褐色	
3	土 師 坏	11.9			緻密 良好 褐色	
4	土師坑		磨耗していて不鮮明		緻密 良好 茶褐色	一部表面剝離
5	土師境	11.0 8.2 6.8	ヘラケズリ (内) 輪積み		やや密 良好 暗褐色	

57. C3	器 種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	谷 性	法里(CII)	器 体 部	底 部	MILLY MUNICIPALITY	иня у ₁
1	土 師 坏	(口) 11.7 (高) (底)	ハケメ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	
2	土 師 坏	13.9	横ナデ		緻密 良好 黄褐色	
3	土 師 坏	12.5	ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色	
4	土 師 鉢	13.8	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 茶褐色 (内) 黒色	
5	土 師 鉢	13.85	不鮮明なヘラケズリ		緻密 良好 暗褐色	
6	土 師 高 坏		ヘラケズリ但し摩耗に て不鮮明		密 良好 茶褐色	
7	土 師 鉢	12.1	ヘラミガキ、ハケメ (内) 指頭痕	木葉痕	やや粗い 良好 赤褐色	(内)スス付着

番号	器種	法量 (cm)	調	整	RA.L Mart 45.38	Att:tax.
田石	金 性	法里(CIII)	器 体 部	底 部	· 胎土、焼成、色調	備考
8	土 師	(口) (高)	ヘラミガキ	ヘラケズリ	(胎) やや密 (焼) 良好	
	甕	(底) 7.3	(内)ヘラケズリ、ヘラミガキ		(色) 黄褐色	丹塗り
9	土 師			ヘラケズリ	密良好	一部黒変
9	獀	8.4			茶褐色	
10	土 師	6.1 9.6	ヘラケズリ		密	
10	小型甕	9.0			良好 茶褐色	
11	土 師		指頭痕		やや密	
	手 揘	5.0			良好 茶褐色	
12	土 師	5.2			やや密	
12	手 捏	4.9	指頭痕		良好 茶褐色	
13	土 師	22.7	横ナデ		やや密	
13	麪				良好 茶褐色	
14	土 師				やや粗い	焼きむら
14	手 揘	4.4			良好 茶褐色	

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	116.1 left-15 At 310	Alle
田勺	600 代里	法里 (CIII)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師	(口) 9.7 (高)	ヘラケズリ		(胎)密 (焼)良好	
	埦	(底) 4.4	(内)横ナデ		(色) 褐色	
2	土 師	12.0	横ナデ、ヘラケズリ		緻密 良好	
	坏		(内)ナデ		褐色	
3	土 師	13.3 6.0	ヘラケズリ		緻密 良好	焼きむら
	埦	0.0	(内)ナデ		褐色	
4	土 師	14.1	ヘラケズリ後ナデ不鮮明		緻密 良好	金雲母含む
	埦		(内)ナデ		褐色	
5	土 師	13.6	ヘラケズリ後ナデ不鮮明		緻密 良好	赤色粒子含む
	坏				褐色	
6	土 師	14.8	ヘラケズリ後ナデ不鮮明		緻密 良好	
	坏		(内)ナデ		褐色	
7	土 師	14.9	ヘラケズリ後ナデ不鮮明		緻密 良好	赤色粒子含む
	坏		(内)ナデ		褐色	
8	土 師	13.3	ヘラケズリ		密良好	赤色粒子含む
	埦		(内)ナデ		褐色	
9	土 師	12.4 6.8	ヘラケズリ後ナデ不鮮明	ヘラケズリ	緻密 良好	
	鉢	5.6	(内)ナデ		赤褐色	
10	土 師	16.2 9.7	ヘラケズリ		やや粗い 良好	砂粒含む
	鉢	3.25	(内)ヘラケズリ		赤褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田つ	663 19里	AAA (CIII)	器 体 部	底 部	加工、粉炒、巴酮	加 专
11	土 師高 坏	(口) 26.7 (高) (底)	(内)暗文		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	赤色粒子含む
12	土 師 高 坏	15.5	ヘラケズリ後ナデ不鮮明 (内)ナデ		緻密 良好 褐色	赤色粒子含む
13	土師高坏	20.5	ヘラケズリ (内) ナデ		緻密 良好 褐色	赤色粒子含む
14	土 師		ヘラケズリ		密 良好 褐色	赤色粒子含む
15	土 師		ヘラケズリ後ナデ、ミガキ不鮮明		密 良好 褐色	赤色粒子含む
16	土師	15.8 21.9	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	
17	土師	16.8	横ナデ (内)横ナデ		密 良好 褐色	
18	土 師	15.3	ヘラケズリ後ナデ不鮮明 (内) ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	
19	土師	15.3	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ後ナデ不鮮明		粗い 良好 茶褐色	
20	土師	19.3	(内)横ナデ		粗い 良好 茶褐色	
21	土師	17.4 29.4 7.0	横ナデ、斜めナデ (内) 横ナデ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	
22	土師	21.2	横ナデ、ハケメ (内)横ナデ、ハケメ不鮮明		緻密 良好 暗褐色	反転
23	土 師	24.6 8.3	横ナデ、ヘラケズリ (内) ヘラケズリ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 褐色	
24	土 師	21.4 20.3 7.7	ヘラケズリ後ナデ不鮮明 (内) ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 褐色	
25	土 師 手 捏	4.9	指頭痕	(内) 指頭痕	やや粗い 良好 褐色	

3Z. C3	mu £6	注图 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、税政、已两	ина <i></i> 2
1	土 師 坏	(口) 11.8 (高) 4.4 (底) 3.6	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	
2	土 師 坏	13.8 4.8	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	

亚口	QU 45	计具 ()	調	整	14.1 株式 名類	備考
番号	器種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	畑 芍
3	土 師 坏	(口) 12.8 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	
4	須恵器 蓋	9.8	横ナデ		緻密 良好 灰色	反転
5	須恵器 高 坏				緻密 良好 灰色	
6	土 師高 坏	11.8	ヘラケズリ		緻密 良好 灰色 (内) 灰褐色	
7	土 師 甕	21.8	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い、砂粒含む 良好 茶褐色	
8	土 師 鉢	11.1 7.5	ヘラミガキ	ヘラケズリ、ナデ	緻密 良好 褐色	
9	土師		ハケメ、焼土付着の為所々不鮮明 (内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 茶褐色	
10	土 師	18.6 34.1 8.2	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ	ヘラケズリ、ナデ	銀い、小石と砂粒を含む 良好 褐色	
11	土 師 円 筒		ハケメ (内)ヘラケズリ、指頭痕		緻密 良好 茶褐色	
12	土 師 円 筒		ハケメ (内)輪積みの上に指頭痕		やや密 良好 茶褐色	
13	土 師 支 柱	5.5	ヘラケズリ		密 良好 黄褐色	
14	土 師 円 筒	5.8	ハケメ、ヘラケズリ (内) 指頭痕	木葉痕	緻密 良好 褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	RAL Much 42 SEE	Att: -tx.
田つ	伯子 作出	在里 (CII)	器体部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 13.4 (高) 3.7 (底)	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	反転
2	土 師 坏	12.2 3.7	横ナデ、ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	反転
3	土 師 坏	14.4 3.6	ヘラケズリ		緻密 良好 暗褐色	
4	土 師 坏	12.8 5.4	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	
5	土 師 坏	14.0	横ナデ、ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎上、焼成、色調	備考
借与	私 性	佐里(畑)	器体部	底 部	加工、粉灰、巴調)HI 45
6	土 師 坏	(口) 13.0 (高) 3.6 (底)	ヘラケズリ		(胎)密 (焼)良好 (色)暗褐色	
7	土. 師 坏	13.0 4.3	ヘラケズリ		密 良好 暗褐色	
8	土 師 坏	11.8	(内)ミガキ		緻密 良好 暗褐色	
9	土 師 坏	11.3 3.3	横ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		密 良好 褐色	赤色粒子含む
10	上 師 高 坏		ヘラケズリ		密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
11	上 師 高 坏		ヘラケズリ		密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
12	上 師 小 鉢	10.2	ヘラケズリ		密 良好 褐色	
13	土 師 鉢	19.0	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横へラミガキ		粗い 良好 暗褐色 (内) 黒色	反転
14	土 師 翌	18.5	ヘラケズリ		緻密 良好 茶褐色	反転
15	土 師 鉢	19.4	横ナデ、面取り (内)横位へラミガキ		粗い 良好 暗褐色 (内) 黒色	反転
16	土 師 甕	18.0	ハケメ (内) ハケメ		密 良好 茶褐色	
17	土 師 甕	23.0			密 良好 褐色	

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土、焼成、色調	備	考
留与	品 性	左里 (CII)	器 体 部	底 部	加工、烧灰、色褐	VFI	~"j
1	土 師 坏	(口) 13.0 (高) (底)			(胎)密 (焼)良好 (色)(内外)丹塗り		
2	土 師 坏	13.4			密 良好 茶褐色	反転	
3	土 師高 坏	11.2			密 良好 茶褐色		
4	土 師高 坏	13.1 11.1 11.7	ヘラケズリ後ナデ (内) ナデ		密 良好 褐色		
5	土 師 坏	8.2 3.2 6.0		ヘラケズリ	密 良好 茶褐色		

番号	器 種 法	法量(cm)	調整		14.1. 地口 在部	A## ##	_tr_
田勺	600 位生	在里(CIII)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備 考	45
6	土 師 鉢	(口) 13.7 (高) 10.3 (底) 7.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色		
7	土師	23.0	ヘラケズリ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調	整	□/	AH: -14
借与	福 性	大重 (CEE)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 11.7 (高) 3.3 (底)	ヘラケズリ (内) 横ナデ		(胎) やや密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	
2	土 師 坏	11.0 3.75	ヘラケズリの上にヘラミガキ (内) ミガキ		やや密 良好 (内外)黒色	砂粒含む
3	土 師 坏	12.8 3.75	ヘラケズリ		密 良好 (内外)丹塗り	砂粒含む
4	土 師 坏	12.7 3.9	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		密 良好 (内外)黒色	
5	土 師 変	18.8	ハケメ所々不鮮明 (内)ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	砂粒含む
6	土 師 甕	17.8			やや粗い 良好 ^{黒褐色(内) 茶褐色}	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	14.1. 加古 各部	Att: _tr.
田勺	167 1里	(A)	器体部	底 部	胎土、焼成、色調	備 考
1	土 師 坏	(口) 10.4 (高) 4.9 (底) 6.0	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	反転
2	土 師 坏	12.0 4.5 5.2	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	一部反転
3	土 師 坏	6.0	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り	緻密 良好 黄褐色	反転
4	土 師 坏	6.0	(内)暗文	回転糸切り、ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	
5	土 師 坏	5.4	ナデ (内) ナデ	回転糸切り	密 良好 茶褐色	
6	土 師 坏	16.0			密 良好 茶褐色	
7	土 師置カマド		ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ		密 良好 茶褐色	

番号器種	叩 統	法量 (cm)	調整		胎土、焼成、色調	備考
	(公里(四)	器 体 部	底 部		Viii → →	
1	土 師 翌	(口) (高) (底) 5.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	
2	土 師 手 捏	4.2 4.3	指頭痕	ヘラケズリ	やや粗い 良好 褐色	

321号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考	
	田勺	器種		器 体 部	底 部	加工、施以、C两	75 BHV
	1	土 師	(口) 23.7 (高) (底)	横ナデ (内) ハケメ		(胎) 粗い (焼)良好 (色)茶褐色	

322号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
曲写	益性 性	伝里 (CIII)	器 体 部	底 部	加工、税权、已间	уна <i>7</i> 5
1	土 師 坏	(口) 12.8 (高) 4.1 (底) 3.6	ヘラケズリ (内) ナデ	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	赤色粒子含む
2	土 師 坏	12.9 3.8 4.0	ヘラケズリ (内) 横ナデ	ヘラケズリ	密 良好 暗褐色	赤色粒子含む
3	士: 師 皿	12.4 2.42 4.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	
4	土 師 翌	29.9	ハケメ (内) ハケメ	ヘラケズリ、ナデ	やや粗い 良好 暗褐色	
5	灰 釉 台付 埦	7.8			緻密 良好 灰白色	反転
6	土 師 翌	9.8	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ	木葉痕、ヘラケズリ	粗い 良好 暗褐色	反転
7	土 師羽 釜		(内) ハケメ		密 良好 暗褐色	金雲母含む

37. EQ.	RD 22	7 E ()	調整		胎土、焼成、色調	備考	
	番号器種	帝 惶	法量(cm)	器 体 部	底 部	MILE V MUNCK COM	Viel 75
	1	土 師 坏	(口) 11.4 (高) 3.6 (底)	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	
	2	土 師 坏	12.6 3.8	ヘラケズリ (内) 横位ヘラミガキ		密 良好 褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田力	100 11年	(Z.A. (CIII)	器体部	底部	加工、粉块、色洞	四 石
3	土 師	(口) 16.5 (高) 13.1	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼) 良好	
	高坏	(底) 13.0	(内) 横ナデ、ハケメ		(色) 褐色	
4	土 師	11.0	ヘラケズリ		密良好	脚部一部反転
-1	髙 坏		(内) 横位ヘラミガキ		暗褐色	
5	土 師		指頭痕		密 良好 褐色	
	手 揘	4.7			褐色	
6	土 師	21.0	ハケメ、ヘラケズリ		密良好	反転
0	甕		(内) ハケメ		黄褐色	
7	土 師	22.4	ハケメ		密	
'	狸		(内) ハケメ		密 良好 茶褐色	
8	土 師		ハケメ		密	反転
°	円筒	S	(内)ヘラケズリ、輪積み		密 良好 褐色	

遺物観察表(二之宮西)

1号住居址

W. E.	uu te	M: EI ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器 種	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、粉块、巴酮	戸田 75
1	土: 師 坏	(口) 10.6 (高) 3.3 (底) 5.6		回転糸切り未調整	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	
2	土: 師 坏	11.3 3.8 5.6		回転糸切り未調整	緻密 良好 赤褐色	
3	士 師 坏	11.7 3.6 5.8		回転糸切り未調整	緻密 良好 赤褐色	·
4	上 師 坏	11.7 3.9 5.8		回転糸切り未調整	緻密 良好 褐色	
5	±: 師 坏	11.8 3.8 5.6		回転糸切り未調整	緻密 良好 赤褐色	
6	土 師	11.0 3.9 5.7		回転糸切り未調整	緻密 良好 赤褐色	
7	土 師 坏	12.0 4.3 5.7		回転糸切り未調整	密 良好 赤褐色	
8	土 師 坏	11.3 3.7 5.7		回転糸切り未調整	緻密 良好 赤褐色	
9	土 師 坏	10.8 3.5 5.2		回転糸切り未調整	やや粗い 良好 褐色	
10	土 師 坏	13.2 2.9 7.8		回転糸切り未調整	緻密 良好 茶褐色	
11	土 師	15.1 20.8 8.0	(内) ヘラケズリ	回転糸切り未調整		
12	土: 師 魏	28.4	ナデ		粗い 良好 茶 褐 色	石英、長石、雲母含む
13	土師	26.0	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	
14	士. 師 翌	8.6	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 黄褐色	

ſ	17. []	1111 £E	#- [1 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
	番号	器 種	法量(cm)	器 体 部	底部	HILL MOX CHA	уна <u>-</u>
	1	土. 師 坏	(口) 11.6 (高) 4.35 (底) 5.2	横ナデ、ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケ ズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	
	2	土. 師 坏	12.1 3.5 4.3	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	R5.1. 地址 4.38	備考
田つ	60 位	(A)	器体部	底 部	- 胎土、焼成、色調 -	備 考
3	土 師 坏	(口) 15.6 (高) 4.9 (底) 4.7	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 明褐色	
4	土 師 坏	11.8	ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色	
5	土 師 坏	13.8	ヘラケズリ		緻密 良好 暗褐色	
6	土師皿	12.6 2.7 5.8	ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色	
7	土 師羽 釜	10.8	ハケメ		緻密 良好 暗褐色	
8	土 師		ハケメ、ヘラケズリ			金雲母、長石多し
	カマド				茶褐色	

番号器種		法量 (cm)	調整		[[스.]. htt-는 스크피	Att:	-tv.		
ш 3	107 132	IAE (UII)	器体	部	底	部	胎土、焼成、色調	備	考
1	土 師	(口) 14.0 (高) (底)	横ナデ				(胎) 緻密 (焼)良好 (色) 貴褐色(内)黒褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調			整	14.1. Mr. 42.40	Att: -14
шЭ	拉 矿 1里	/A里(CII)	器体	部	底	部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 11.8 (高) (底)					(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	
2	土師坏	12.8					緻密 良好 茶褐色	
3	土 師 坏	6.0			ヘラケズリ		緻密 良好 暗褐色	
4	土師皿	13.6					緻密 良好 赤褐色	
5	土 師 変	23.6					良好 暗褐色(内)茶褐色	多量の雲母含む
6	土 師 甕			-			良好 黄褐色	多量の金雲母と雲母含む

番号器	np: 40f:	计图()	調			整	胎土、焼成、色調	備	考	
留写	器種	法量 (cm)	器	体	部	底	部	加工、税以、巴嗣	VHI	<i>7</i> 3
1	須恵器	(口) (高) (底) 7.0						(胎) 緻密 (焼)良好 (色)灰白色		
	坏	(底) 7.0						(色) 灰白色		
2	土 師	11.0						緻密 良好 赤褐色		
4	Ш							赤褐色		
	上師	15.9						緻密 良好 茶褐色		
3	Ш							茶褐色		

6 号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
留ち	布 惶	AZH (CIII)	器体部	底 部	THE PURCH CAN	У ПВ
1	土 師 坏	(口) 14.8 (高) 4.8 (底)	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ		(胎) (焼)良好 (色)褐色(内)暗褐色	
2	土 師 坏	13.2 4.0	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	
3	土 師 坏	15.2	ヘラケズリ		やや粗い 良好 茶褐色	
4	土 師 坏	15.2	ヘラケズリ		やや粗い 良好 黄褐色	
5	土 師 坏	14.5	ヘラケズリ		緻密 良好 茶褐色	反転
6	上 師 小 鉢	14.4	横ナデ、ヘラケズリ		やや粗い 良好 茶褐色	
7	土師	20.0	(内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	
8	土師	21.0 22.9 7.6	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	
9	須恵器 長頸壺	5.2			緻密 良好 灰白色	

707. IT1	nn te	34E ()	調	整	· 胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	法量 (cm)	器体部	底 部	加工、粉切、 巴岡	yns
1	土 師 坏	(口) 11.2 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	
2	土 師 坏	12.0 3.7 8.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調		整	[A.J. Mirch: 49 部	備考
HH 7	fut fill	(江東 (山)	器体	部	底 部	胎土、焼成、色調	畑 与
3	土 師 坏	(口) 14.9 (高) 3.65 (底) 10.5			ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼)良好 (色)褐色	反転
4	土 師 坏	10.5			ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	反転
5	土 師 甕					やや粗い 良好 黄褐色	
6	土 師 魏	38.4					
7	土 師 塾	23.2	横ナデ			良好	砂粒含む
8	土 師	7.8			木葉痕	やや粗い 良好 赤褐色	大粒の砂粒含む
9	土 師 塑	29.8				やや粗い 良好 暗褐色	表面剝離

番号	器種	法量 (cm)	調	整	114.1. Mart 47.50	Att: dr.
ш	1117 132	/A里(W)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 13.0 (高) 3.9 (底)			(胎) 密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	反転
2	土 師 坏	10.0	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	反転
3	土 師 坏	13.4 4.0	ヘラケズリ		緻密 良好 茶褐色	反転
4	土 師 坏	13.0	ヘラケズリ		緻密 良好 暗褐色	反転
5	須恵器 坏	12.0			緻密 良好 青灰色	反転
6	須恵器 坏	7.6	·		緻密 良好 青灰色	反転
7	須恵器 坏					
8	須恵器 坏	8.0			緻密 良好 青灰色	
9	須恵器 坏	11.8			緻密 良好 灰白色	
10	土 師高 坏	11.6 6.6 9.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ、ハケメ	密 良好 褐色	

番号	tyo Aff	法量 (cm)	調	整	- 胎上、焼成、色調	備考
金万	器種	大重 (cm)	器 体 部	底 部	加.1.、发现、巴爾	70111 75
11	上 師高 坏	(口) (高) (底) 9.8	ヘラケズリ	ハケメ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	
12	上 師高 坏	10.0			密 良好 褐色	
13	土 師	10.8	ヘラケズリ	ハケメ	密、砂粒含む 良好 褐色	
14	上 師	11.6			密、砂粒含む 良好 褐色	
15	上 師	13.6	ハケメ (内) ハケメ		密 良好 褐色	
16	:h: 師 墾	20.0	(内)へラ押し		やや粗い、砂粒含む 良好 褐色	
17	上 師	8.8	(内) ハケメ	木葉痕	やや粗い、砂粒含む 良好 茶褐色	
18	土 師 翌	8.6		ヘラケズリ	やや粗い 良好 茶褐色	反転
19	土 師		ハケメ (内) ハケメ		緻密 良好 赤褐色	
20	上 師 獀	9.6		木葉痕、ヘラケズリ	密 良好 褐色	
21	土 師	10.0	ハケメ (内) ハケメ		密 良好 茶褐色	

377. I=1	nu .56	社物 ()	記号	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	III.L. BOX. Cara	- HI
1	土 師 甕	(口) 16.6 (高) 34.9 (底) 4.6	ハケメ、ヘラケズリ (内)ハケメ、ヘラケズリ	木葉痕、ヘラケズリ	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	
2	上 師 塑	21.0	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	
3	土. 師	6.0	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 茶褐色	
4	土 師 変	13.8 18.0 8.0	ヘラケズリ (内) ハケメ	ヘラケズリ	粗い 良好 赤褐色	
5	土 師	14.0 19.4 5.0	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	粗い 良好 茶褐色	
6	土 師 円 筒	8.5	ハケメ (内) 輪積み		やや粗い 良好 赤褐色	

₩ -□	92 44	沈县 /\	調	整	ILA L. Micres &z. em	烘≒≠
番号	器 種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	- 胎土、焼成、色調 	備考
1	土: 師 坏	(口) 11.6 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 緻密、白色粒含む (焼)良好 (色)褐色	反転
2	土 師 坏	12.0 3.5	ヘラケズリ		緻密 良好 茶褐色	反転
3	土 師 坏	11.4 3.9	ヘラケズリ		緻密 良好 茶褐色	反転
4	土. 師 坏	13.2	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 (內、外) 黑色	
5	土 師 坏	11.6 2.8	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 褐色(内)黒色	反転
6	土. 師 坏	11.8 3.1	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		密 良好 暗褐色	反転
7	土. 師 坏	11.2 5.8	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		緻密、雲母含む 良好 赤褐色	
8	土 師、	12.8 4.2	ヘラケズリ ヘラミガキ		密、白色粒含む 良好 赤褐色	焼きむら
9	土: 師 境	16.8 6.6	ヘラケズリ		密 良好 褐色	
10	土 師 境	16.6 7.2	ヘラケズリ、ヘラミガキ (内) ヘラミガキ		密、雲母含む 良好 赤褐色	
11	土 師 高 坏	9.2 7.0 7.0	ヘラケズリ (内) ハケメ	(内)ハケメ	緻密 良好 赤褐色	
12	土 師高 坏	11.4	ヘラケズリ、ヘラミガキ (内) ヘラミガキ	ハケメ	やや粗い、砂粒含む 良好 褐色	
13	土 師 高 坏	12.4	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		密、砂粒含む 良好 黒褐色、(内)黒色	反転
14	須恵器 蓋	9.5 3.4			緻密、白色鉱物含む 良好 灰色	
15	須恵器 蓋	9.2 3.7			緻密 良好 暗灰色	
16	須恵器 坏	7.9 3.15			緻密 良好 暗灰色	気泡が多く見られる
17	須恵器 坏	8.0 3.05			緻密、白色鉱物含む 良好 暗灰色	
18	須恵器 坏	7.4 3.05			緻密 良好 灰白色	

番号	器種	法量 (cm)	100	問			整	- 胎土、焼成、色調	備	考
借与	福 性	在里 (CIII)	器	体	部	底	部	加工、房口人、巴西	VHI	~ ~
19	須恵器 坏	(口) 10.2 (高) 4.25 (底)						(胎) 概念、白色黒色粒含む (焼)良好 (色)灰白色		
20	須恵器 坏	9.9 3.4						緻密、鉱物粒含む 良好 灰白色		
21	土 師 甕	20.8	ハケメ 、 (内)/		ケズリ			やや粗い 良好 茶褐色		
22	士: 師 甕	18.6	ハケメ (内) /	ヽケメ				やや粗い 良好 茶褐色		
23	.t: 師 甕	19.3	ハケメ (内) /	ヽケメ				やや粗い 良好 茶褐色		
24	土 師	14.2	(内) ′	ヽ ラケン	ズリ			やや粗い 良好 茶褐色		
25	土 師	34.2	ハケメ (内) /	ヽケメ				やや粗い 良好 黄褐色		
26	士: 師 甕	7.4				木葉痕		やや粗い 良好 暗褐色		
27	土 師 甕	7.0				木葉痕		脚、小石、砂粒多く含む 良好 茶褐色		
28	土: 師 甕	8.4				木葉痕		やや粗い 良好 褐色	反転	
29	土: 師	8.0				木葉痕		やや粗い 良好 茶褐色	反転	
30	士: 師 甕	5.1				木葉痕		粗い 良好 茶褐色	反転	
31	士: 師 甕	7.4				ヘラケズリ		やや粗い 良好 茶褐色	反転	
32	土. 師 甕	7.0				ヘラケズリ		やや粗い 良好 茶褐色		
33	土師	8.6				ヘラケズリ		やや粗い 良好 茶褐色		

37.EL	番号 器 種 法量(cm)	M. 601 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
金写		佐里(畑)	器体部	底 部		VIII 7-3
1	土 師 坏	(口) 13.0 (高) 3.5 (底)	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色)(内外) 黒色	反転
2	土 師高 坏		ヘラケズリ		緻密 良好 黒褐色	反転

番号器種	92 56	法量 (cm)	調	整	胎上、焼成、色調	備考
田与	60年	在里 (CIII)	器 体 部	底 部	加工、光双、巴酮)用 石
1	土 師 坏	(口) 13.6 (高) 3.8 (底)	不鮮明なヘラケズリ (内) ヘラミガキ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)黒褐色(内)黒色	
2	土 師 坏	13.4 3.8	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	焼むら
3	土 師 坏	13.2 4.4	ナデ		緻密 良好 褐色	
4	須恵器 坏				やや粗い 良好 灰白色	
5	土 師 小型変	14.6 14.8 6.7	ハケメ、ヘラケズリ (内) ヘラケズリ	ヘラケズリ	粗い 良好 茶褐色	
6	上 師高 坏		(内) ヘラケズリ		緻密 良好 灰褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	114.1. March 47.38	Nit IV
田石	1117 1主	(A)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 10.8 (高) 4.2 (底) 5.5	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼)良好 (色)茶褐色	
2	土 師 坏	6.0	ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り	緻密 良好 茶褐色	反転
3	土師皿	12.7 2.5 6.0			緻密 良好 茶褐色	反転
4	土 師 蓋	16.0			緻密 良好 褐色	
5	土師	31.2	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	
- 6	土 師 甕	14.2	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	反転
7	土 師 変	5.0	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 茶 褐 色	反転
8	土 師 変	6.0	ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 暗褐色	金雲母含む
9	土師	5.8		木葉痕	やや粗い 良好 暗褐色	金雲母含む
10	土 師 変	9.4	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 茶褐色	

. 57 7. ⊑1	番号 器 種 法量(cm)	注导 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田力		器 体 部	底部	加工、税以、巴酮	РН 73	
	土 師		ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好	
1	坏	(高) 3.5 (底) 8.4		(内) 線刻	(色)茶褐色	

15号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎士、焼成、色調	備考。
•		, , ,	器 体 部	底部		
1	士: 師 坏	(日) 10.2 (高) 4.4 (底) 4.4	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	反転
2	土 師 坏	11.0 3.8	ヘラケズリ (内) 暗文		緻密 良好 赤褐色	
3	土. 師 坏	15.6 5.2 6.3	ヘラケズリ (内)暗文		良好 赤褐色(内) 黒色	反転
4	.t. M	12.1 2.2 5.7	横ナデ、ヘラケズリ 回転 (内) ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	
5	土 師 皿	12.9 2.8 4.8	ナデ (内) ナデ	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	赤色粒子含む
6	:1: 6F III	13.0 2.8	横ナデ (内) ヘラミガキ	ヘラケズリ	緻密 良好 暗褐色	
7	.±: 666 UM	13.0	ヘラケズリ		密 良好 赤褐色	

17. ta	mı te	24-14. ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器 種	法量 (cm)	器体部	底 部	加工、税政、巴姆	ин <i>22</i>
1	土 師 坏	(口) 11.8 (高) 5.0 (底)	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ、ヘラミガキ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) (内) 黒褐色	
2	土 師 坏	13.0 5.0	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		密 良好 茶褐色	
3	土: 師 坏	12.8 4.3	ヘラケズリ		緻密 良好 茶褐色	
4	土 師 坏	12.4 4.6	ヘラケズリ		密 良好 (内外)黒色	
5	士 師 坏	12.2	ヘラケズリ (内) ナデ		緻密 良好 黒褐色	反転
6	土 師高 坏	11.4		ヘラケズリ	密 良好 褐色	

		四 括 计目()	調			整	me I lake the Arm	All to
番号	器 種	法量(cm)	器体音	邹	底	部	一 胎土、焼成、色調	備考
7	土 師	(口) 17.0 (高)	ヘラケズリ				(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 黒褐色	反転
	坏	(底)	(内)ヘラミガキ					
8	土 師高 坏	8.8	ヘラケズリ (内)ヘラケズリ				密 良好 茶褐色	
	土師						,,,,,,,	
9	高坏	6.4	(内) ヘラケズリ、ノ	・ ケメ				
10	土 師		ヘラケズリ				密良好	
	高坏		(内)ヘラケズリ				黒褐色	
11	須恵器 蓋	9.5 3.2					灰白色(内)青灰色	
12	須恵器 坏	9.5 3.3 5.0					緻密 良好 青灰色	
13	土 師 境	11.0 6.0 5.0			木葉痕		やや粗い 良好 褐色	
14	須恵器 蓋						良好 灰白色	
15	須恵器 坏	17.0 3.6					良好 青灰色	
16	須恵器 蓋	9.8					密 良好 灰白色	
17	須恵器 坏	8.0 3.0 3.6					緻密 良好 青灰色	
18	土 師	34.8	ハケメ (内) ハケメ				やや粗い 良好 黄褐色	
19	土 師 甕	20.0	ハケメ				やや粗い 良好 黄褐色	-
20	土 師 変	21.0	ナデ				やや粗い 良好 茶褐色	
21	土 師 甕	19.0	ハケメ摩耗で、不鮮 (内) ハケメ	明			密、赤色粒含む 良好 赤褐色	反転
22	土 師 独	17.0	ハケメ、ヘラケズ (内) ハケメ	'n			やや粗い 良好 茶褐色	
23	土 師 甕	24.2	ハケメ (内) ハケメ				やや粗い 良好 茶褐色	反転
24	須恵器 長頸壺	9.8					良好灰白色	
25	土師	22.0	ハケメ				やや粗い	反転
25	甕		(内) ハケメ				良好 茶褐色	

番号	uu ±6	法量 (cm)	調	整	- 胎士、焼成、色調	備考
俄万	器 種		器 体 部	底 部		1 III 7-5
26	上 師 25 25	(口) 20.4 (高) (底)	ヘラケズリ (内) ハケメ		(胎) 密、赤色粒含む (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転
27	土 師 甕	20.4	ヘラケズリ (内) ハケメ		やや粗い 良好 黄褐色	

			H	整		
番号	器種	法量(cm)	器体部	底 部	胎上、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 11.0 (高) 3.9 (底) 4.4	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転
2	土 師 坏	11.6 3.8 2.6	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケ ズリ	密 良好 茶褐色	反転
3	土 師 坏	13.0 3.9 5.2	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケ ズリ	密 良好 茶褐色	反転
4	土 師 坏	11.8 6.2 4.0	ナデ (内) ナデ	回転糸切り未調整	緻密 良好 暗褐色	反転
5	土 師 坏	10.9 3.3 5.2		回転糸切り未調整	やや粗い 良好 赤褐色	砂粒含む 反転
6	土 師 坏	4.8		回転糸切り未調整	やや粗い 良好 茶褐色	
7	土 師 坏	15.0			密 良好 茶褐色	反転
8	土 師 高台坏	7.0			密 良好 茶褐色	反転
9	灰 釉 坏	9.2			緻密 良好	
10	土 師 甕	28.6	ハケメ、不鮮明 (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	
11	土 師 羽 釜	18.8	(内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	

377. [3]	番号 器 種 法量(cm	M-14 / \	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番写		法重 (CIII)	器体部	底 部		Jin 3
1	土 師 坏	(口) 12.7 (高) (底)	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)茶褐色	反転
2	土 師 坏	11.4			緻密 良好 黄褐色	反転

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	- 胎土、焼成、色調 備 考 (胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 黄褐色	/#: -#
## 'J	66 作里	公里 (CII)	器 体 部	底 部		加 考
3	土 師	(口) 14.8 (高) (底)	ハケメ		(胎) 緻密 (性) 良好	
	坏	(底)	(内)横ナデ		(色) 黄褐色	
4	土 師	23.5	ハケメ		密 良好 黄褐色	
	2				黄褐色	
5	土. 師	20.0	ハケメ		やや粗い	
	獀		(内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	
6	土 師	10.0	ハケメ		粗い	
	円筒		(内)ハケメ、輪積み		粗い 良好 茶褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調整		B 소	Att: dz.
田つ			器 体 部	底部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 13.0 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転
2	土 師 坏	14.0	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	
3	土 師 坏	13.8	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	
4	土 師 坏	14.3 4.7 5.2	ヘラケズリ (内) ナデ	回転糸切り、ヘラケ ズリ	緻密 良好 茶褐色	
5	土 師 坏	14.4 4.7 3.0	ハケメ後ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	黒色粒子含む
6	土 師 坏	18.2	ヘラケズリ		密 良好 褐色	反転
7	土 師 坏	14.3 3.0 4.9	横ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	黒色粒子含む
8	土師皿	13.5 2.5 3.7	ヘラケズリ (内) ナデ	回転糸切り、ヘラケ ズリ	密 良好 茶褐色	
9	土師皿	12.8 2.6 4.7	横ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	黒色粒子含む
10	土: 師 皿	12.6 2.3 3.0	横ナデ、ヘラケズリ (内)ナデ		密 良好 茶褐色	
11	土 師 甕	27.8	ハケメ (内)ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	反転
12	土 師 変	15.8	(内) ハケメ		密 良好 茶褐色	反転
13	土: 師 羽 釜	24.8	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	Ħ	整	胎上、焼成、色調	備考
	60 TH	AZAR (CIII)	器体部	底 部	MILL MODEL CHAN) III 75
1	上 師 坏	(口) 12.8 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	
2	上: 師	18.4	(内)ミガキ		密 良好 茶褐色	汉韩云
3	†: 師 坏	12.7 2.35	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	

7	un re	Mart ()	JA	整	11/4 Mr. 45 ZZ 344 Att	備考
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	胎上、焼成、色調	備考
1	上 師 坏	(口) 11.3 (高) 4.2 (底) 5.2	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)茶褐色	
2	上 師 坏	12.0 4.3 4.1	ナデ、ヘラケズリ (内)暗文、不鮮明	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	
3	上 師 坏	12.5 4.4 4.3	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	汉朝公
4	上 師 坏	11.6 4.5 4.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	反転
5	上 師 坏	11.4 4.2 4.3	ヘラケズリ後ナデ (内) ナデ	回転糸切り、ヘラケ ズリ	緻密 良好 茶褐色	
6	土 師 坏	12.6 4.3 4.1	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	
7	上 師 坏	11.8 4.45 4.3	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	
8	上 師 坏	11.4 4.0 4.2	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケ ズリ	緻密 良好 來褐色(內) 黄褐色	反転
9	上 師 坏	12.0 3.7 4.2	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケ ズリ	緻密 良好 茶褐色	反転
10	士. 師 坏	11.7 4.2 4.3	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	反転
11	上 師 坏	12.0 4.0 4.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 黄褐色	反転
12	土 師 坏	11.7 4.4 5.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 黄褐色(内)茶褐色	
13	上 師 坏	15.4 5.0 6.6	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	密 良好 暗褐色(内) 黑褐色	

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
1117	600 位	法里 (CIII)	器 体 部	底 部	加工、粉以、巴洞) Will 45
14	土 師 坏	(口) 13.6 (高) 2.8 (底) 5.0	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケ ズリ	(胎) 緻密 (焼)良好 (色)茶褐色	
15	土 師 坏	11.8 2.8 4.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	
16	土 師 坏	13.3 2.8 4.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 黄褐色	
17	土 師 坏	12.4 2.5 4.4	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
18	土 師 坏	11.0 2.6 4.8	ヘラケズリ		緻密 良好 茶褐色	反転
19	土 師 甕	24.0	ハケメ		緻密 良好 茶褐色	反転
20	土 師 甕	13.6	ハケメ (内) ハケメ		緻密 良好 茶褐色	反転
21	土 師 変	9.0	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	緻密 良好 茶褐色	
22	灰 釉	18.0 2.2 9.0		回転ヘラケズリ	緻密 良好 灰白色	
23	須恵器 壺	13.3	ヘラケズリ (内) 横ナデ		密 良好 青灰色	

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	11人 L. Marth 25.318	AH: -tr.
ш-5	11.07 13.2	(加)	器体部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土. 師 坏	(口) 14.4 (高) 4.2 (底)	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 暗褐色(内) 黒色	
2	須恵器 坏	9.3			緻密 良好 灰白色	反転
3	須恵器 坏	5.0			緻密 良好 灰白色	反転
4	土 師 甕	24.2	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	反転
5	土 師 甕	22.2 31.5 13.2	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	緻密 良好 黄褐色	
6	土 師 甕	23.2	ハケメ (内) 輪積み		緻密 良好 黄褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
借写	奋 悝	広里(畑)	器 体 部	底 部	加工、税权、巴酮	ν # 75
1	土 師 坏	(口) 11.2 (高) 3.9 (底) 5.2	ヘラケズリ (内)暗文	ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)黄褐色	
2 .	土 師高台付坏	7.4	ヘラケズリ (内) 暗文	削出高台 (内) 横位へラミガキ	緻密 良好 茶褐色	反転
3	土 師 坏	13.2 3.4 7.6			やや粗い 良好 茶褐色	反転
4	土 師 坏	10.8 3.9 4.8	ヘラケズリ	回転糸切り未調整	密 良好 茶褐色	反転
5	土 師 甕	29.65	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 暗褐色	反転
6	土 師 小型甕	16.8	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	
7	土 師 甕	30.2	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 暗褐色	

.pz. ⊨1	器 種	法量 (cm)	調問	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	盆 惶	在里(CII)	器 体 部	底 部	加工、税权、已确) His
1	土 師 坏	(口) 12.4 (高) 4.1 (底) 4.5	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケ ズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)茶褐色	焼むら
2	土 師 坏	12.7 4.2 3.6	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケ ズリ	密 良好 茶褐色	
3	土 師 坏	12.2 4.5 5.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	
4	土 師 坏	10.6 4.2 4.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	反転
5	土 師 坏	12.4 3.9 3.1	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	
6	土 師 坏	11.8 4.0	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転
7	土 師 坏	12.0 3.5 4.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	反転
8	土. 師 坏	12.1 4.1 5.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	
9	土 師 坏	12.4 4.2 4.8	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	反転

37. LJ	no te	WE ()	調		<u> </u>	ž.	Die L. Lakenth, de day		
番号	器種	法量(cm)	器体	部	底	部	胎上、焼成、色調	備考	ī
10	土 師 坏	(口) 15.1 (高) 4.6 (底) 5.2	ヘラケズリ		ヘラケズリ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色		
11	土 師 坏	15.7 5.1 5.0	ヘラケズリ		回転糸切り、 ズリ	、ヘラケ	密 良好 茶褐色		
12	土 師	17.5 6.7 7.0	ヘラケズリ		ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転	
13	土 師 坏	16.8 6.4 5.0	ヘラケズリ		ヘラケズリ		密 良好 茶褐色		
14	土 師 高台付坏	6.0	横ナデ				緻密 良好 褐色(内) 黒色		
15	土 師 高台付坏	15.8 6.1 7.0					密 良好 茶褐色		
16	土 師 坏	12.1 2.5 4.0	ヘラケズリ		ヘラケズリ		密 良好 茶褐色		
17	土 師 坏	13.0 2.9 5.4	ヘラケズリ		ヘラケズリ		密 良好 茶褐色		
18	土 師 皿	12.3 2.4	ヘラケズリ				密 良好 茶褐色		
19	土師皿	10.3 2.3 3.8			回転糸切りえ	卡調整	密 良好 茶褐色		
20	土 師 坏	10.2 2.7 5.0	横ナデ		回転糸切りえ	卡調整	密 良好 茶褐色		
21	灰 釉段 皿	10.6 1.9 5.8					緻密 良好 灰白色		
22	灰 釉 埦	19.8					緻密 良好 灰白色		
23	灰 釉 高台付坏	8.4					緻密 良好	反転	
24	土 師 変	31.4					やや粗い 良好 茶褐色(内) 黒色		
25	土 師 変	39.2	横ナデ				やや粗い 良好 褐色	反転	
26	土 師 翌	32.8	ハケメ (内) ハケメ				やや粗い 良好 黒色(内)褐色	砂粒含む	
27	土 師 変	31.4	ハケメ (内) ハケメ				やや粗い 良好 暗褐色	反転	
28	土 師 小型甕	20.6	ハケメ (内) ハケメ				やや粗い 良好 褐色	反転	

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	- 胎土、焼成、色調	備考
田力	66 代生	在里(皿)	器 体 部	底 部	1 加工、光以、巴酮) VIII 45
29	土 師 小型変	(口) 19.6 (高) (底)	ハケメ (内) ハケメ		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 褐色	反転
30	土 師羽 釜	27.0	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 暗褐色	反転
31	灰 釉 獀	13.4			密 良好 灰色	砂粒含む
32	土 師カマドの庇		(内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎士、焼成、色調	備考
番写	奋 悝	公里(CII)	器 体 部	底 部	加工、粉以、巴祠	7HI 75
1	土 師 坏	(口) 9.4 (高) 3.4 (底) 3.4	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転
2	土 師 坏	5.0	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	
3	土 師 坏	16.0			やや粗い 良好 黄褐色 (内) 黒色	反転
4	士. 師	10.8 4.4 4.4		回転糸切り未調整	粗い 良好 赤褐色	砂粒含む
5	十. 師	26.4	横ナデ、ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 暗褐色	
6	士 師 鞭	22.5	(内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	

28号住居址

番号器	器種	法量 (cm)	制	整	胎士、焼成、色調 胎士、焼成、色調	備考
番写	福 性	法量(cm)	器 体 部	底 部		EFF EFF
	縄文土器	(口) 60.0 (高) 54.5	半截竹管による竹管文		(胎) やや粗い (焼) 良好	再片を接合復元
	甕	(底) 10.3			(色) 茶褐色	

32	Z 🖂	up Aff	34-EL ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号 器 種	法量 (cm)	器体部	底 部	MILLIN MUNICIPAL CHAP	ини <i>4-</i> 5		
	1	土 師 坏	(口) 11.8 (高) 4.0 (底)	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼)良好 (色)茶褐色	
	2	土 師 坏	13.8	ヘラケズリ		緻密 良好 茶褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	訓	1			整	胎土、焼成、色調	備考
留写	福 性	佐里(CIII)	器	体	部	底	部	一加工、光仪、巴祠	加 石
3	土 師 境	(口) 12.0 (高) 6.4 (底)						(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	
4	土 師 坏	14.8 3.5	ヘラケス	ぐり				密 良好 茶褐色	反転
5	土 師 坏	18.8	ヘラケス	ぐり				緻密 良好 赤褐色	
6	須恵器 蓋	10.8 3.4 6.0						緻密 良好 青灰色(内) 黒色	反転
7	土 師 鉢	15.4 5.8	ヘラケス	ぐり				緻密 良好 茶褐色(内) 黑色	反転
8	土 師 高 坏	7.0	ヘラケス	(I)				緻密 良好 茶褐色	反転
9	土 師 鉢	10.9 7.7	ヘラケス (内) ^		ズリ	ヘラケズリ		やや粗い 良好 黒褐色(内)褐色	雲母、白色粒子含む
10	土 師 甕	17.0	ヘラケス	ぐり				やや粗い 良好 茶褐色	反転
11	土 師 鉢	11.0 9.5	横ナデ、 (内) /		ケズリ			やや粗い 良好 褐色	
12	土 師 甕	19.7						やや粗い 良好 黄褐色	
13	土師	21.0 31.5 8.2	ハケメ 、 (内)/		ケズリ	ヘラケズリ		やや粗い 良好 茶褐色	焼土付着
14	土 師 甕	22.7	ハケメ (内) ハ	・ケメ				やや粗い 良好 暗褐色	
15	土師	18.7	ハケメイ	鮮明				やや粗い 良好 黄褐色	反転
16	土 師 甕	20.3	(内)輪	績み		木葉痕		やや粗い 良好 茶褐色	表面に焼土多量に付着
17	土師	11.5 30.7 8.4	ハケメ、 (内)ハ		ケズリ	木葉痕		やや粗い 良好 茶褐色	焼土付着
18	土師変	7.0	ハケメ (内)ハ	ケメ		木葉痕		粗い 良好 赤褐色	砂粒含む
19	土師	10.3				木葉痕		密 良好 黄褐色	
20	土 師手 捏	5.8	指頭痕 (内) 指	頑痕				密 良好 茶褐色	反転
21	土 師手 捏	4.0 3.8 1.7							

.57. C1	器種	計量 ()	調	整	胎士、焼成、色調	備考
番号	器 種	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、粉切、巴酮	₩I *5
1	上 師 坏	(II) 11.2 (高) 4.5 (底) 5.5	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	
2	土 師 坏	12.5 4.5 4.5	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケ ズリ	密 良好 茶褐色	
3	上 師 坏	12.6 4.0 5.0		回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	
4	上 師 坏	12.4			緻密 良好 黄褐色(内) 黑色	
5	:1: FF	12.8 2.4	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 褐色	
6	出 師 m	13.2	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	
7	須恵器 蓋	14.8			緻密 良好 灰褐色	
8	土 師	28.0	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	反転
9	土 師 魏	32.0	ヘラケズリ、ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	

57.13	uu ££	ù+ E4 ()	調	整	胎上、焼成、色調	備考
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	MILLY MUNICIPALITY	uns 5
1	土 師 坏	(口) 14.2 (高) (底)	(内)暗文		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	反転
2	土 師 坏	14.3 5.6 6.0	(内)暗文	回転糸切り、ヘラケ ズリ	緻密 良好 褐色 (内) 黒色	
3	上 師 坏	10.6 4.2 5.4	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケ ズリ	緻密 良好 明褐色	
4	上 師 坏	10.4			密 良好 褐色	反転
5	上 師 甕	28.8			やや粗い、砂粒含む 良好 褐色	反転
6	土 師	30.0	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 褐色	反転 焼きむら
7	土 師		ハケメ		粗い 良好	反転
	翌	9.6	(内) ハケメ		暗褐色	

番号	器	種	法量 (cm)	ā	月			整	胎土、焼成、色調	備	考
# 5	667	但		器	体	部	底	部	加工、粉灰、巴酮) 1V用	5
	土	師	(口) 17.4						(胎) やや粗い	反転	
8	羽	釜	(高) (底)						(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 褐色		

番号	器種	法量 (cm)	謝	1			整	04 Mr.+ 4z311	Atte	-tr.
田力	66 位	花里 (CIII)	器	体	部	底	部	胎土、焼成、色調	備	考
1	土 師 坏	(口) 13.2 (高) 4.6 (底) 7.4	横ナデ			回転糸切り	未調整	(胎) やや粗い、砂粒含む (焼) 良好 (色) 暗褐色	反転	
2	土 師	13.6 4.0 6.5	横ナデ			回転糸切り	未調整	やや粗い、砂粒含む 良好 赤褐色	反転	
3	土 師 坏	12.1 3.6 5.4	横ナデ、	ヘラケ	ァズリ	回転糸切り	未調整	やや粗い、砂粒含む 良好 茶褐色		
4	土 師 坏	12.3 3.7 6.2	横ナデ			回転糸切り	未調整	緻密 良好 赤褐色		
5	土 師 坏	12.5 3.8 5.8	横ナデ			回転糸切り	未調整	やや粗い 良好 赤褐色		
6	土 師 坏	12.0 3.5 6.3	横ナデ			回転糸切り	未調整	やや粗い、砂粒含む 良好 赤褐色		
7	土 師 坏	11.2 3.2 7.8	横ナデ			回転糸切り	未調整	密 良好 茶褐色	反転	
8	土 師 坏	11.4 3.1 6.0	横ナデ			回転糸切り	未調整	密 良好 暗褐色	反転	
9	土 師 坏	4.8	横ナデ			回転糸切り	未調整	やや粗い、砂粒含む 良好 暗褐色		
10	土 師 坏	5.5	横ナデ			回転糸切り	未調整	密 良好 褐色		
11	土 師高台付坏	6.6						密 良好 茶褐色 (内) 黒色		
12	土 師 高台付 城	7.4				ヘラケズリ		やや粗い、砂粒含む 良好 赤褐色 (内) 黒色		
13	土 師 鉢	17.4						密 良好 暗褐色	反転	
14	土 師 鉢	28.0	ハケメ (内)ハ	ケメ				粗い 良好 茶褐色	反転	
15	土 師 甕	14.0						密 良好 褐色	反転	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	- 胎上、焼成、色調	備考
番り	66 性	在風 (CIII)	器 体 部	底 部	· 加工、光双、巴酮	畑 ち
1	十. 師 坏	(日) 15.6 (高) 4.4 (底) 4.2	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	
2	上 師 坏	5.2	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	以転
3	上 師 坏	6.8		ヘラケズリ	やや粗い 良好 茶褐色 (内) 黒色	反転
4	1: 66 M	13.6 2.5 5.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
5	十. 師 魏	31.8	ハケメ (内) ハケメ		密、砂粒含む 良好 茶褐色	
6	士 師 甕	34.2	ヘラ押し痕		密、砂粒含む 良好 褐色	

372.E1	器種	計具 ()	調	整	胎上、焼成、色調	備考
番号	一名 性	法量 (cm)	器 体 部	底 部	加工、粉切、巴爾	Viii 75
1	土 師 坏	(口) 12.6 (高) 3.6 (底) 4.3	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 緻密、赤色粒含む (焼)良好 (色)赤褐色	反転 焼きむら
2	士 師 坏	12.9 4.1 3.8	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	
3	上 師 坏	12.6 4.3 3.9	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	反転
4	土 師 坏	13.0	ヘラケズリ	·	粗い 良好 茶褐色	反転
5	土 師 坏	12.8	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転
6	上 師 坏	15.2 5.8 6.2	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密、赤色粒含む 良好 赤褐色	反転
7	士. 師 坏	15.8 5.9	ヘラケズリ・		密 良好 茶褐色(内)黒色	反転
8	土 師 皿	12.4 2.7	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
9	土 師 皿	12.0	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転
10	灰 釉 高台付坏	6.5			緻密 良好 灰白色	

番号	号 器 種 法量(cm)		i	調整		整	胎士、焼成、色調	備	考			
田つ	fut ·	但	在里	(cm)	器	体	部	底	部		VH9	79
11	土師	Ţi	(口) (高) (底)	26.8	ハケメ (内) /	ヽケメ				(胎) 粗い (焼)良好 (色)茶褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調		整	胎土、焼成、色調	備考
田与	一 位	在里 (CIII)	器体	部	底部) THE 45	
1	土 師 甕	(口) 16.2 (高) (底)				(胎) やや粗い、砂粒含む (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転
2	土 師 坏	9.2 2.75 3.9				密 良好 茶褐色	反転
3	土 師 翌	13.4			ヘラケズリ	粗い 良好 暗褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調			整	胎上、焼成、色調	備	考
田勺	667 任生	在里 (CII)	器体	部	底	部	加	1VHI	45
1	土 師 坏	(口) 11.2 (高) 3.6 (底) 5.0			回転糸切り	、ナデ	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転	
2	土 師 坏	10.4 4.0 4.8	横ナデ		回転糸切り	未調整	やや粗い 良好 茶褐色		
3	土 師 坏	13.0 4.9 5.0	(内)ナデ		回転糸切り		褐色		
4	土 師 皿	13.2 3.3 4.7	(内)ナデ		回転糸切り	未調整	やや粗い 良好 茶褐色		
5	土 師 坏	11.8 3.6 5.4			回転糸切り	未調整	密 良好 茶褐色		
6	土 師 高台付坏	13.4 6.2					やや粗い 良好 明褐色		
7	土 師 坏	11.0 3.0 4.5			回転糸切り	未調整			
8	土 師 坏	10.7 2.6 4.4			回転糸切り	未調整	やや粗い 良好 茶褐色		
9	土 師 高台付坏	7.0					密 良好 黄褐色		
10	土 師高台付坏	6.8					緻密 良好 明褐色		

37. D	tips £46	社長 ()	調	整	144. 株式 各部	備考
番号	器 種	法量(cm)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	畑 与
1	土 師 坏	(口) 11.4 (高) 3.8 (底) 8.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	反転
2	土 師 坏	13.0 3.9 8.5		ヘラケズリ	密 良好 褐色	反転
3	土 師 坏	13.2	ヘラケズリ		概念、赤色粒、袰母含む 良好 褐色	反転
4	土: 師 坏	12.5	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	緻密、赤色粒含む 良好 褐色	反転
5	土 師 坏	15.4 6.1 10.6	(内) 暗文	ヘラケズリ	緻密、赤色粒含む 良好 褐色	反転
6	土 師 坏	8.2	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ (内) 暗文	密 良好 茶褐色	反転
7	土: 師 坏	14.4 9.0	ヘラケズリ、機位波状、ヘラミガキ	静止糸切り 周囲へラケズリ ヘラミガキ (内) 暗文	緻密 良好 褐色	底部外面に「十二月」の 墨書
8	土 師 坏	17.0	ヘラミガキ (内) ヘラミガキ		密 良好 茶褐色	反転
9	須恵器 坏	11.5			緻密 良好 青灰色	
10	須恵器 坏	14.4 3.7 6.8	横ナデ	回転糸切り	緻密、白色粒含む 良好 灰白色	
11	土: 師 甕	19.6	(内) ハケメ		密 良好 暗褐色	
12	土師	10.4			粗い 良好 赤褐色	
13	土師	20.2	ヘラケズリ		やや粗い 良好 茶褐色	
14	須恵器 翌	22.6			緻密 良好 青灰色	反転

邓 口 即 뜖	24-EL ()	調整		胎土、焼成、色調	備考	
番号	器種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	加工、粉如人、巴姆	ин 25
1	土 師 坏	(口) 10.2 (高) (底)	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	反転
2	土 師 坏	11.6 3.5 4.2	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	HELD MAIN CASH	備考
田石	谷 恒	(CIII)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調) III
3	土 師 高台付付	(口) (高) (底) 8.6		削出高台	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 黄褐色	反転
4	土 師 皿	12.8	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ	ヘラケズリ	密 良好 褐色	反転
5	土 師 皿	6.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	反転
6	土 師 甕	31.6	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	反転
7	土 師 翌	27.6			粗い、砂粒含む 良好 茶褐色	反転
8	土 師 甕	9.7	(内) ヘラケズリ	木葉痕	粗い 良好 暗褐色	底部に焼土付着
9	土 師 塾	18.0	ハケメ (内) ハケメ		粗い、砂粒含む 良好 茶褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	061. btc+*	All:
ш Э	6位 任里	(A)	器 体 部	底 部	- 胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 14.4 (高) 6.3 (底) 5.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)茶褐色	
2	土 師	16.2 6.8 5.0	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転
3	土 師 坏	14.8	ヘラケズリ		緻密 良好 茶褐色	反転
4	土 師 坏	16.6	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転
5	土 師 坏	12.4	ヘラミガキ		密 良好 茶褐色	反転
6	土 師 高 坏			ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	反転
7	土 師 翌	5.0	(内)指頭痕		粗い 良好 茶褐色	反転
8	土 師高 坏	12.2			密 良好 茶褐色	反転
9	土師	4.2	(内)指頭痕		粗い 良好 茶褐色	反転
10	土 師 変	17.0			密 良好 茶褐色	反転

番号器種		法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
留与 益	台 性	五里(皿)	器 体 部	底 部	加工、死以、己酮) 加 <i>行</i>
11	土 師 翌	(口) 17.0 (高) (底)	ヘラケズリ (内) 指頭で横ナデ		(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	
12	土師	15.6	ヘラケズリ (内) 輪積み		粗い 良好 茶褐色	

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
借写	奋 惶	在重(cm)	器体部	底 部	加工、粉灰、巴酮	7H 75
1	土 師	(口) 12.4 (高) 4.35	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケ ズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	
	坏	(底) 6.4		~ /	(色) 茶褐色	
2	土 師		ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケ ズリ	密良好	反転
	坏	6.0	(内) 暗文	~ ,	褐色	
3	土 師		ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケ ズリ	密良好	
	坏	5.2	(内) 暗文		褐色	
4	土 師			回転糸切り	密良好	
4	坏	5.8			茶褐色	
5	土 師	17.4			密良好	反転
	蓋				褐色	
6	土. 師	26.4	ハケメ		粗い、砂粒含む 良好	反転
"	甕		(内) ハケメ		茶褐色	
7	土 師	14.6	ハケメ		やや粗い良好	反転
	獀		(内) ハケメ		良好茶褐色	
8	土 師		ハケメ		粗い、金雲母含む 良好	反転
Ů	甕	7.6	(内) ハケメ、指頭痕		茶褐色	

37Z. [3]	器種	H-14 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	奋 悝	法量 (cm)	器 体 部	底 部	加工、粉砂、 Cm	ун а
1	土 師 境	(口) 13.8 (高) 6.6 (底) 3.6	ヘラケズリ (内) 内面剝離の為不鮮明	ヘラケズリ	(胎) (焼)良好 (色)茶褐色	反転
2	土. 師 坏	12.3 4.0	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ		緻密 良好 茶褐色	赤色粒子含む
3	土 師 坏	12.6	ヘラケズリ不鮮明		密 良好 暗褐色	反転
4	土 師 坏	13.6	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色(内) 黒色	反転
5	土 師 高 坏	19.4	ヘラミガキ (内) ハケメ		密 良好 茶褐色	

17.13	DD 126	TH ()	調	整	II/. I lete with the days	411
番号	器種	法量(㎝)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備 考
6	土 師 高 坏	(口) (高) (底) 12.0	摩耗していて不鮮明 (内) 指頭痕		(胎) 密 (焼)良好 (色)褐色	
7	土 師 鉢	16.2 8.1	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	
8	土 師	5.7	ヘラケズリ (内) ハケメ、輪積み	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	
9	土 師 壺	15.3 25.0 5.8	ハケメ (内)ハケメ、指頭痕	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
10	土 師	16.8 30.6 7.0	ヘラケズリ (内) 輪積み	ヘラケズリ	やや粗い 良好 茶褐色	
11	土 師 小型変	17.8	ハケメ (内) ハケメ		密 良好 茶褐色	砂粒含む 反転
12	土 師	16.0 25.2 8.0	ヘラケズリ但し剝離多い	ヘラケズリ	粗い 良好 茶褐色	
13	土 師 甕	17.6	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 資褐色(内)暗褐色	反転
14	土師	29.6	ハケメ不鮮明 (内)ハケメ不鮮明		やや粗い 良好 茶褐色	反転
15	土 師 甕	27.6	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	反転
16	土 師 翌	21.1	ハケメ (内) ハケメ		密良好褐色	
17	土 師 翌		ハケメ (内) ハケメ		良好褐色	砂粒含む
18	土師	25.8	外、内ともハケメ摩耗 で不鮮明		やや粗い 良好 褐色	
19	土 師 甕	6.2	(内)ハケメ不鮮明	木葉痕	粗い 良好 黄褐色	反転
20	土師 変	6.4	ハケメ、ヘラケズリ	木葉痕	粗い 良好 暗褐色	反転
21	土師	9.2	ハケメ摩耗で不鮮明		良好 茶褐色	反転
22	土 師 手 捏	4.6	ヘラケズリ(内) 指頭痕		やや粗い 良好 茶褐色	反転
23	土 師手 捏	3.1	(内)指頭痕		やや粗い 良好 黒褐色	
24	土 師 円 筒	10.2	ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 茶褐色	反転

.₩. □ .₩ .\$£	66	3+.EL	法量(cm)	i	胡			整	胎士、焼成、色調	備考	t z-	
留写	番号 器 種	佐里	(cm)	器	体	部	底	部			75	
25	:E	師	(口) (高) (底)					木葉痕		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転	
25	Щ	筒	(底)	8.8	(内)!	輪積み、	指頭痕			(色) 茶褐色		
26	:±:	師								やや粗い 良好 褐色		
20	支	桩								褐色		

572.13	nu se	24-EL ()	調	整	115.1. Mart 各部	備考
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	胎上、焼成、色調	畑 写
1	:上: 師 鉢	(11) 14.3 (高) 7.55 (底) 5.1	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	
2	上 師高 坏	15.5	ヘラミガキ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 褐色	
3	上 師 高 坏	17.1	ヘラケズリ (内) ハケメ不鮮明		緻密 良好 黄褐色	
4	土 師高 坏	10.85	ハケメ、ヘラケズリ (内) ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	
5	土 師高 坏	21.8			緻密 良好 茶褐色	
6	十. 師 塑	17.4	ヘラケズリ (内) ハケメ		密 良好 褐色	
7	上 師				密 良好 茶褐色	
8	土 師 甕	14.0		木葉痕、ヘラケズリ	やや粗い 良好 茶褐色	小石含む
9	土 師	6.5	ハケメ (内) ハケメ、ヘラケズリ、輪積み	ヘラケズリ	やや粗い 良好 茶褐色	小石含む ヘラケズリ表面剝離 の為不鮮明
10	土 師 小型寶	7.0		ヘラケズリ	やや粗い 良好 茶褐色	

.572. E.3 1143	in th	út-J L ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	HILL WEDE COM	
1	土 師 坏	(口) 11.2 (高) 4.2 (底) 6.2	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	(胎) (焼)良好 (色)茶褐色	
2	土 師 坏	11.0 3.9 4.4	ヘラケズリ (内) 暗文不鮮明	ヘラケズリ	良好 茶褐色	反転
3	土 師 坏	11.8 4.0 4.0	ヘラケズリ (内) 暗文不鮮明	ヘラケズリ	良好 茶褐色	反転

番号 器 種	法量(cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考	
田力	6分 作里	公里 (CII)	器 体 部	底 部	加工、死攻、亡祠) VHI 45
4	土 師 坏	(口) 12.6 (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) (焼)良好 (色)茶褐色	反転
5	土 師				良好	
	蓋のツマミ				良好 茶褐色	
6	土 師		ハケメ		计抗乙	反転
L	甕		(内) ハケメ		良好 茶褐色	

番号	器種	法量 (cm)	ā	哥			整	114.1. Mart 44.31	Atta	考
H 7	100 亿里	公里 (畑)	器	体	部	底	部	胎土、焼成、色調	備	45
1	土 師 坏	(口) 14.5 (高) 4.4 (底) 6.0	横ナデ			回転糸切り	未調整	(胎) (焼)良好 (色)暗褐色		
2	土 師 坏	12.9 3.5 5.7	ヘラケス	ぐリ		回転糸切り	未調整	良好 暗褐色		
3	土 師 坏	11.4 3.4 6.0	横ナデ (内) ⁄	トケメ		回転糸切り	未調整	良好 茶褐色		
4	土 師 坏	13.2 4.4 5.2	横ナデ			回転糸切り	未調整	良好 褐色	反転	
5	土 師 坏	10.2 3.6 5.0	横ナデ			回転糸切り	未調整	良好 暗褐色	反転	
6	土 師 坏	10.0 4.6 2.8	横ナデ			回転糸切り	未調整	良好 茶褐色	反転	
7	土 師 高台坏	14.3	横ナデ					良好 暗褐色		
8	須恵器 蓋	16.2 3.1						緻密 良好 青灰色		
9	土 師	34.0	指頭痕、 (内) イ		x Sハケメ			良好 暗褐色	反転	
10	土 師 変	22.6	ハケメβ	耗でイ	不鮮明			暗褐色		
11	土 師	12.0				木葉痕		良好 茶褐色		
12	土 師 手 捏	4.8 4.8 4.6	(内)指	頭痕				良好 茶褐色		
13	土: 師 変	7.6	ヘラケス	ij		木葉痕		良好 暗褐色	1	
14	土 師羽 釜	28.4	ハケメ摩(内)横		鮮明			良好 茶褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調	整	UA I. bitc+P 6z-9H	Attstr.
留写	盆 性	在風(cm)	器体部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 14.25 (高) 5.1 (底) 5.1	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	
2	土 師 坏	14.8 4.9 6.4		回転糸切り未調整	緻密 良好 黒褐色	反転
3	土 師 坏	6.1		回転糸切り未調整	良好 茶褐色	
4	上 師 坏	12.6 4.45 5.3		回転糸切り未調整	密 良好 黒褐色	
5	土 師 皿	12.0 2.4 5.0	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転
6	土 師 坏	5.0		回転糸切り未調整	良好 茶褐色	
7	土 師高台坏	9.7		回転糸切り	良好 茶褐色	
8	土 師高台坏	6.8		回転糸切り	良好 茶褐色	
9	土 師 甕	16.2	ハケメ (内) ハケメ		良好 茶褐色	
10	土 師 甕	29.0	ハケメ (内) ハケメ		良好 茶褐色	反転
11	土 師	6.6	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	良好 茶褐色	反転
12	土 師羽 釜	19.2	ハケメ (内) ハケメ		良好 茶褐色	反転

番号器種		沙比學(com)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番写	帝 悝	法量 (cm)	器 体 部	底 部	NO. SOUR CHO	75 BIQ
1	土 師 坏	(口) 13.0 (高) 4.7 (底) 4.0	ヘラケズリ (内) ハケメ	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	
2	土 師 坏	14.0 6.5 5.6	ヘラケズリ、ヘラミガキ (内) ヘラミガキ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	
3	土 師 坏	14.8 6.5 4.2	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 黄褐色	
4	土 師 坏	14.8 6.1 5.0	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	

177.	DD 156	ALEL ()	調	整	nt. I let-da et arn	411
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
5	土 師 坏	(口) 15.7 (高) 7.5 (底) 5.8	指頭押し、ヘラミガキ (内) ハケメ	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼)良好 (色)赤褐色	
6	土 師 坏	13.6 5.1 4.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	反転
7	土 師 坏	11.9 5.0 3.9	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
8	土 師 坏	13.8 5.2 6.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 黄褐色	反転
9	土. 師 坏	12.8 5.5 5.6	ヘラケズリ (内) 指頭痕	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	焼きむら
10	土 師 坏	12.4 5.3 5.6	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	
11	土師坏	12.8 5.75	ヘラミガキ (内) ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	反転
12	土 師	11.4 5.4 5.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
13	土 師 城	16.4 7.7 5.9	ヘラミガキ、ヘラケズリ (内) ハケメ	ヘラケズリ	緻密 良好 黄褐色	
14	土 師 坏	12.6			密 良好 暗褐色	反転
15	土 師 坏	8.6 6.0 2.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 黄褐色	
16	土 師 高 坏	15.8	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 暗褐色	
17	土 師高 坏	17.0	ヘラケズリ、ヘラミガキ		緻密 良好 黄褐色	
18	土 師高 坏	16.1	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ	緻密 良好 黄褐色	
19	土 師 高 坏	12.3	ヘラミガキ	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
20	土 師高 坏		ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	
21	須恵器 変	38.4			緻密 良好 青灰色	
22	須恵器 腺		波状文		緻密 良好 黒灰色	
23	土 師 独	11.6			粗い 良好 赤褐色	反転

亚口	器種	计具 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	加工、粉以、巴酮	C* BHU
24	土 師 甕	(口) 10.0 (高) (底)	(内) ハケメ		(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 赤褐色	反転
25	土 師高 坏	19.6			密 良好 明褐色	反転
26	土師	18.0	(内) 輪積み		密 良好 褐色	反転
27	土: 師 甕	17.4			密 良好 茶褐色	反転
28	土 師	15.9 27.3 7.1	(内)輪積み	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	
29	土師	18.1 24.5 7.6	ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ	ヘラケズリ、ナデ	密 良好 茶褐色	
30	土 師 甕	17.1	(内) ハケメ		粗い 良好 褐色	
31	土 師 台付甕	11.8		ヘラケズリ	やや粗い 良好 茶褐色	
32	土 師 小型 甕	2.4			粗い 良好 茶褐色	
33	土 師 小型甕	6.4			粗い 良好 褐色	
34	土師	37.1			やや粗い 良好 赤褐色	焼きむら

番号	器 種	法量 (cm)	謁	整	胎土、焼成、色調	備考
番写	谷 性	法里(CII)	器 体 部	底 部	月日土.、 好即人、 巴姆	VHI 75
1	土 師 坏	(口) 11.6 (高) 4.0 (底) 5.5	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、周辺へ ラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	
2	土 師 坏	11.2 3.9 4.3	ヘラケズリ (内) 暗文		緻密 良好 赤褐色	反転
3	土 師 坏	11.3 3.9 4.7	ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り、周辺へ ラケズリ	緻密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
4	土 師 坏	11.1 3.6 4.7	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺へ ラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
5	土 師 坏	13.3 4.7 5.9	ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り、周辺へ ラケズリ	緻密 良好 褐色	
6	土 師 坏	4.9	ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り、周辺へ ラケズリ	緻密 良好 赤褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	HALL MEETS CASTR	Att: .:±A
田勺	600 代生	太重 (CIII)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備 考
7	土 師 坏	(口) (高) (底) 4.4	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	(胎) 緻密、赤色粒含む (焼)良好 (色)赤褐色	
8	土師皿	12.6 2.35 6.7	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
9	土 師 坏	10.5	ヘラケズリ		密 良好 褐色	
10	土 師 坏	15.2 4.9 6.0		回転糸切り	緻密 良好 褐色	反転
11	土 師 甕	25.8			やや粗い、砂粒・金 良好 褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	86 1 Mr. 15 Zz 30	AH: tr.
留与	一 位	佐里(CIII)	器体部	底 部	胎上、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 11.4 (高) 4.3 (底) 2.8		ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	反転
2	土 師 坏	11.4 4.1 3.0			密 良好 褐色	反転
3	土 師	11.2 4.6 4.2	ヘラミガキ (内)暗文		密 良好 褐色	反転
4	土 師 城	13.4 6.8 5.0	ヘラケズリ (内) 指頭痕	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	反転
5	土 師 坏	12.0			密 良好 黄褐色	反転
6	土 師 坏	11.4			密 良好 暗褐色	反転
7	土 師 高 坏	18.0	ヘラケズリ (内) ハケメ		緻密 良好 赤褐色	反転
8	土 師高 坏	19.6			緻密 良好 茶褐色	反転
9	土 師高 坏	7.6			密 良好 暗褐色	
10	土 師 翌	17.4			やや粗い、砂粒含む 良好 赤褐色	
11	土 師 翌		ハケメ (内) ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	
12	土 師 変変	21.6	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い、砂粒含む 良好 茶褐色	

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土、焼成、色調	備考
留り			器 体 部	底 部		加 45
13	土 師 甕	(口) 14.6 (高) (底)	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色	
14	土師	4.4	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	

37. L3	un tæ	計員 ()	調	整	DAI. Marth 42-311	備考
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底部	胎土、焼成、色調	7月 行
1	土 師 坏	(口) 13.7 (高) 4.85 (底) 4.9	ヘラケズリ	回転糸切り 周辺ヘラケズリ	(胎) 緻密、黒色粒含む (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土 師 坏	12.7 4.1 5.3	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密、赤色粒含む 良好 暗褐色	
3	土 師 坏	12.4	ヘラケズリ			
4	土 師 坏	12.4	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転
5	土 師 坏	13.0	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	
6	土 師 坏	4.0	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	
7	土 師 坏	16.4			緻密 良好 茶褐色(内) 黒色	反転
8	土 師 皿	13.0 2.6 5.2	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	•
9	土 師 坏	12.7 2.85 5.8	横ナデ	回転糸切り	緻密 良好 赤褐色	
10	土 師	18.6	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い、砂粒含む 良好 茶褐色	
11	須恵器 四耳壺				緻密 良好 青灰色	
12	土 師 翌	8.0		木葉痕	粗い 良好 茶褐色	
13	土 師 カマドの庇		ハケメ		密、金雲母含む 良好 茶褐色	
14	灰 釉 高台付坏	6.8			緻密 良好 灰白色	

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田勺	谷 性	太里 (CIII)	器 体 部	底部	加工、粉块、巴酮	畑 呑
1	土 師 坏	(口) (高) (底) 8.0		ヘラケズリ	(胎) (焼) (色)	
2	土 師 翌	24.4	ハケメ (内) ヘラケズリ、ハケメ		やや粗い、砂粒、器母含む 良好 暗褐色	反転
3	土師	24.4	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い、砂粒、選母含む 良好 赤褐色	反転

51号住居址

番号器種	男 舗	法量 (cm)	調 <u>整</u> 141. http://dx.au	Atts	-17.		
	(五里(山)	器体部	底 部	胎土、焼成、色調	備	考	
1	土師皿	(口) 15.0 (高) 2.1 (底)			(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色		

52号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	11/4 Inter-14	
ш.	1117 1里	K里(CII)	器 体 部	底 部	│ 胎土、焼成、色調 │ 備	5
1	土 師 坏	(口) 15.3 (高) 5.3 (底) 6.4	ヘラミガキ		(胎)密 (焼)良好 (色)茶褐色	
2	土師坏	8.4		静止糸切り、ヘラケ ズリ	密 良好 茶褐色	
3	土 師 坏	6.3		ヘラケズリ (内) ヘラミガキ	やや粗い 良好 茶褐色 (内) 黒色	
4	土 師 甕	21.6			やや粗い 良好 茶褐色	

番号器	器種	法量(cm)	調	整	開ム L
ш.,	1107 12	TE IZE (W)	器 体 部	底 部	- 胎土、焼成、色調 備 考 -
1	土 師 鉢	(口) 20.5 (高) 7.4 (底)	ヘラケズリ、ヘラミガキ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) (内外) 丹塗り
2	土 師 小型甕	8.4		ヘラケズリ	やや粗い 良好 褐色 (内)黒色
3	土 師 坏	14.3 5.9 4.65	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色 (内) 黒色
4	土 師 . 坏	15.0 5.0 6.0	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色 (内) 黒色

97.11	192 156	M. E. C. N	1	調整		整	胎士、焼成、色調	備考	Æ	
番号	器種	法量 (cm)	器	体	部	底	部	月日.上、 <i>外</i> 记人、 Card	VIII .	<i>4</i> 9
5	上 師 坏	(口) 12.2 (高) (底)						(胎)密 (焼)良好 (色)黄褐色		
6		15.4						密 良好 暗褐色		
7	上 師	31.4	ハケメ (内) /	ヽケメ				やや粗い 良好 暗褐色		

\$27. □1	器種	计具 ()	調	整	胎士、焼成、色調	備考
番号	初 性	法量 (cm)	器 体 部	底 部	MILLS MEAN COM	VRI 73
1	上 師 坏	(口) 14.1 (高) 5.1 (底) 5.2	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺へ ラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	
2	土 師 坏	13.8 5.0 5.4	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺へ ラケズリ	密 良好 茶褐色	
3	土 師 坏	16.6	ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色	反転
4	土 師 坏	12.1 2.75 2.5	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケ ズリ	緻密 良好 明褐色	
5	土 師 坏	12.0			褐色	
6	灰釉	15.8 5.4 7.5		ヘラケズリ	緻密 良好 青灰色	

	器種	34 M ()	調	整	胎上、焼成、色調	備考
番号	器種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	ALL MOX COM	, cm
1	上 師 坏	(口) (高) (底) 6.8	ヘラケズリ (内) 暗文		(胎)密 (焼)良好 (色)茶褐色	反転
2	士 師 坏	11.8 4.0 6.2	ヘラケズリ		密 良好 黄褐色	反転
3	土 師 坏	12.2 4.4 4.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 褐色	
4	土 師 坏	14.8 5.1 6.0	ヘラケズリ		やや粗い 良好 茶褐色	
5	土 師	16.8			緻密 良好 褐色	
6	止 師 翌	12.1 9.2 7.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 明褐色	

番号器種	哭 舖	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
	(A)	器 体 部	底 部	加上、死权、亡酮)	
7	土師	(口) 30.0 (高) (底)			(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 赤褐色	
8	土 師カマド	26.0	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 赤褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田马山村	167 代里	が重(CII)	器 体 部	底 部	1 加工、税权、巴酮	畑 考
1	土 師 坏	(口) 13.3 (高) 5.0 (底) 7.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	反転
2	土 師 坏	11.8 4.8 7.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	反転
3	須恵器 坏	14.7 4.6	横ナデ (内) 横ナデ	回転糸切り	緻密 良好 灰褐色	
4	土師	9.0	(内) ハケメ		やや粗い 良好 暗褐色	砂粒多量に含む

57号住居址

番号	器種	法量 (cm)	ä	Ħ		整	BA I left all the atm	T	-
ш 7	田" 恒 位里(0	石里 (CIII)	器	体	部	底 部	胎土、焼成、色調	備	考
1	土 師 坏	(口) 11.2 (高) 3.6 (底) 5.0				回転糸切り、ナデ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転	
2	土 師 坏	7.0				回転糸切り不鮮明	やや粗い 良好 茶褐色		
3	土 師 坏	12.4	横ナデ		-		密 良好 赤褐色		
4	土 師 羽 釜	32.4					やや粗い 良好 茶褐色		

番号	器種	器 種 法量(cm)	調	整	IIA I laterally de acro	
			器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 翌	(口) 21.0 (高) 28.9 (底) 7.6	ハケメ不鮮明 (内)ハケメ不鮮明	ヘラケズリ	(胎) (焼)良好 (色)黄褐色	反転
2	土 師	17.1 22.8	ハケメ、ヘラケズリ	ヘラケズリ	白好	
	麪	7.6			良好 褐色	
3	土 師	20.8	ハケメ摩耗で不鮮明		密 良好 茶褐色	
	뫷				茶褐色 茶褐色	

番号器	器種	法量 (cm)	制	整	胎上、焼成、色調	備	老
借与	石 恒		器 体 部	底 部		У НЭ	~,
	土. 師	(口) (雷)	ハケメ摩耗で不鮮明	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好		
4	魏	(高) (底) 8.5	(内) ヘラケズリ		(色)黄褐色		

番号	器種	計量 ()	調	整	胎上、焼成、色調	備考
番写	田 石	法量(cm)	器体部	底 部	加工、粉奶、巴姆	VHI 75
1	土 師 坏	(口) 12.0 (高) 4.1 (底) 4.3	ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	
2	上 師 坏	11.5 4.2 4.6	ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	ヘラケズリ不鮮明	緻密 良好 茶褐色	砂粒少量含む
3	土 師 皿	14.3 2.3	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	·

60号住居址

番号	npo stati	計具 ()	制	整	胎上、焼成、色調	備考
	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	MILL, WOX, COM	уна <u>-</u>
1	土 師 坏	(口) 13.6 (高) (底)			(胎) 密 (焼) 良好 (色) 暗褐色	
2	土 師 坏	12.0	横ナデ		やや粗い 良好 暗褐色	反転
3	土 師 甕	17.4	(内) ハケメ		やや粗い 良好 暗褐色	反転

	HH 75	the ()	調	整	胎士、焼成、色調	備考
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	MILLY DUDY	Viii J
1	土 師 坏	(口) 12.4 (高) 5.4 (底) 6.4	ナデ、ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り、ヘラケ ズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	
2	土 師 坏	11.0 4.5 5.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	
3	土 師 皿	16.4 2.8 6.6	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	
4	土 師 坏	11.3 4.0 5.5	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、ヘラケ ズリ	緻密 良好 茶褐色	
5	土師蓋	21.8	ナデ		緻密 良好 褐色	反転
6	土 師 蓋	23.0			緻密 良好 褐色	

番号器	器種	法量 (cm)	調			整	胎土、焼成、色調	кн :	-tr.
	60 位		器体	部	底	部		備	考
7	土師蓋	(口) 17.2 (高) 2.6 (底)					(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色		
8	土: 師	17.4					緻密 良好 褐色		

番号器	器種	法量 (cm)	調整		胎士、焼成、色調	備考
111.7	分 福 在重(cm)	器体部	底 部	加工、粉以、巴酮	備 考	
1	土: 師 坏	(口) 15.6 (高) 3.6 (底)	ヘラケズリ		(胎) (焼)良好 (色)茶褐色	反転

63号住居址

番号 器 種	奥 舖	法量(cm)	調	整	85 L Mr.+ 22.30	th tr
шЭ	1117 13E	ALE (CII)	器 体 部	底 部	- 胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 13.2 (高) 3.8 (底)	横ナデ (内) 横ナデ	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 黄褐色	
2	土: 師 坏	14.2 4.2 8.1	ナデ (内) ナデ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	赤色粒子含む 器体部「#」の線刻
3	土 師 坏	16.9 3.8 10.4	横ナデ、ヘラケズリ (内) 横ナデ	ヘラミガキ (内) 暗文	緻密 良好 褐色	
4	土 師 坏	13.0			緻密 良好 褐色	
5	土. 師	19.4	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	114 L. Mr.+ 44.312	fit
n. 3		124_25 (WII)	器 体 部	底部	胎土、焼成、色調	備考
1	土. 師 坏	(口) 9.8 (高) 3.6 (底) 4.8	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	·
2	上 師 坏	5.8	横ナデ、ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	密 良好 黄褐色(内)褐色	
3	土. 師 坏	3.3	ヘラケズリ (内) 暗文	回転糸切り、ヘラケズリ	良好 茶褐色	
4	土 師 坏	13.8 3.5 3.7	(内)暗文		緻密 良好 茶褐色	
5	土 師 坏	17.3 5.6 7.3	ヘラケズリ (内) 暗文		緻密 良好 赤褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田勺	1117 132 124	在里(CIII)	器 体 部	底 部	加工、税以、巴嗣) 加
6	土 師 坏	(口) 17.9 (高) 6.6 (底)	ナデ、ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 赤褐色	(内)焼きむら
7	土 師 坏	19.5 6.0	ナデ、ヘラケズリ		密 良好 赤褐色	
8	.t: 66 m	15.4	ヘラケズリ (内) 暗文		緻密 良好 赤褐色	
9	土 師		ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	
10	土 師 羽 釜	26.0	(内) ハケメ		やや粗い 良好 褐色(内)暗褐色	

番号器	m te	34-FI ()	調	整	胎士、焼成、色調	備考
番写	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、残权、巴嗣	加
1	土 師 坏	(口) 12.5 (高) 4.75 (底) 5.0	横ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	ヘラケズリ	(胎) (焼)良好 (色)茶褐色	赤色粒子含む
2	土 師 坏.	12.1 4.2 3.8	横ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ	ヘラケズリ	良好 茶褐色	赤色粒子含む
3	士. 師 坏	5.4	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケ ズリ	密 良好 暗褐色	
4	士: 師 坏	15.0 4.5 5.4	ヘラケズリ後ナデ (内) ナデ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	赤色粒子含む
5	土 師 坏	15.8 4.2 6.0	ヘラケズリ		やや粗い 良好 黄褐色	
6	土 師 坏	2.5		回転糸切り未調整	やや粗い 良好 ^{※褐色(内) 黄褐色}	
7	士: 師	14.2 2.3	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	赤色粒子含む
8	土: 師	13.8	ヘラケズリ		緻密 良好 暗褐色	
9	灰 釉 境	7.8			緻密 良好 灰褐色	
10	土 師 甕	24.0	不鮮明なハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	
11	灰 釉 長頸壺	14.0			緻密 良好 緑釉	
12	土 師 小型甕	12.0			密 良好 茶褐色	

番号器種	器種	計劃 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考	
借写	奋 悝	法量 (cm)	器 体 部	底 部	加工、烧成、品啊	VIB 75	
13	土 師置カマド	(口) (高) (底)	ハケメ (内) ハケメ		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 暗褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調		Ī	整	胎土、焼成、色調	備	考
留写	一 位	大里(CII)	器体	部	底	部	胎工、焼灰、巴調	10/11	<i>•</i> 5
1	土 師 坏	(口) 12.8 (高) 4.5 (底) 4.4	ヘラケズリ		回転糸切り、 ラケズリ	、周辺へ	(胎)密 (焼)良好 (色)茶褐色		
2	土 師 坏	12.0 4.1 4.0	ヘラケズリ		回転糸切り、 ラケズリ	、周辺へ	密 良好 黄褐色	焼きむら	
3	土 師 坏	12.2 4.6 4.4	ヘラケズリ				密 良好 褐色		-
4	上 師 坏	12.0 4.6 4.0	ヘラケズリ		ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転	
5	土師坏	13.2 4.8	ヘラケズリ		ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転	
6	土 師 坏	14.4	ヘラケズリ				密 良好 茶褐色	反転	
7	土 師 皿	13.2 2.3 5.0	ヘラケズリ		ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転	
8	土師皿	12.0 2.5 3.0	ヘラケズリ		回転糸切り、 ズリ	ヘラケ	密、砂粒含む 良好 茶褐色	反転	
9	土 師 皿	13.4	ヘラケズリ				密、砂粒含む 良好 茶褐色	反転	
10	土 師 変	37.4	ハケメ				粗い 良好 茶褐色		
11	土 師 羽 釜	21.0	ハケメ (内) ハケメ				粗い 良好 茶褐色		
12	土 師 羽 釜	23.4	ハケメ (内) ハケメ				粗い 良好 茶褐色		
13	土 師置カマド	25.6	ハケメ (内) ハケメ				やや粗い 良好 暗褐色		
14	土 師カマドのソデ						やや粗い 良好 茶褐色		

37. □	器種	種 計具()	調		整		胎土、焼成、色調	備	考
番号	お 性	法量 (cm)	器体	部	底	部	加工、粉块、色褐	VAS	79
1	土 師 坏	(口) 8.0 (高) 3.4 (底) .	ヘラケズリ (内) ツメ痕				(胎)密 (焼)良好 (色)茶褐色(内)黒色		
2	土 師高 坏	21.0	(内) ハケメ				密 良好 茶褐色		
3	土: 師 鉢	12.4					やや粗い 良好 茶褐色		

68号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
留写	私 悝		器 体 部	底 部	加工、税政、已阿	уня "Э
1	土 師 坏	(口) 13.8 (高) 6.0 (底) .	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	反転 焼きむら
2	土 師 坏	13.8	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	
3	土 師 坏	13.1			緻密 良好 茶褐色	
4	土 師	16.0			密 良好 茶褐色	折り返し口縁
5	土 師 翌	37.0	ハケメ (内) ハケメ		密、砂粒含む 良好 茶褐色	
6	士: 師 甕	8.0	ヘラケズリ		やや粗い 良好 茶褐色	
7	土師	29.3 28.5 8.3	ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 茶褐色	
8	土 師 甕	22.0 33.5 9.5	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 茶褐色	焼きむら 焼土付着

317. [2]	器種	ALEI ()	調		整		胎土、焼成、色調	備	考	
番号	奋 惶	法量(cm)	器	体	部	底	部	加工、粉以、巴酮	VHI	73
1	土 師 坏	(口) 10.4 (高) 3.8 (底) 5.5	横ナデ			回転糸切り) 未調整	(胎) 緻密 (焼)良好 (色)暗褐色		
2	土 師 坏	16.2		,				密 良好 茶褐色(内)黒色	反転	
3	土. 師高台付坏	8.0						密 良好 茶褐色		

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
шЭ	tio 13	拉里 (UII)	器 体 部	底 部	加工、殊政、巴調	備考
4	土 師 小型 甕	(口) 13.0 (高) (底)	(内) ハケメ		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	11. htt:
# 7	667 作里	(A)	器 体 部	底 部	- 胎土、焼成、色調 備 考
1	土 師	(口) 12.4 (高) 4.6 (底) 5.0	ヘラケズリ		(胎)密 (焼)良好 (色)暗褐色
2	土 師 坏	4.0	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色
3	土 師 蓋のつまみ				密 良好 茶褐色
4	土師蓋	17.0			密 良好 茶褐色
5	土 師 手 捏	4.0	(内)指頭痕		密 良好 褐色

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎上、焼成、色調	備考
田力	66 12	在里(CII)	器 体 部	底 部	加上、税以、巴酮	1 1/11 45
1	土 師 坏	(口) 12.6 (高) 6.15 (底) 5.1	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) (内外) 丹塗り	焼きむら 「#」の線刻
2	土 師 坏	12.25 6.4 4.6	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
3	土 師 坏	11.9 5.05	ヘラケズリ、ヘラミガキ (内) ヘラミガキ	ヘラミガキ	緻密 良好 赤褐色 (内)丹塗り	焼きむら
4	土 師 坏	12.5 6.2 4.3	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ、ハケメ	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
5	土 師 坏	14.0 6.1 5.4	ヘラミガキ (内) ヘラミガキ	ヘラケズリ	緻密 良好 赤貴褐色 (内) 丹塗り	·
6	土 師 坏	13.8 5.7 4.3	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
7	土 師 坏	14.4	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転
8	土 師 坏	12.4	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		密 良好 茶褐色	
9	土 師 坏	12.4 5.2	ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色	

		N H	JH	整	nt. 1 14-45 & 20	411-
番号	器種	法量(cm)	器 体 部	底 部	- 胎上、焼成、色調 -	備考
10	土 師 坏	(口) 13.0 (高) 6.0 (底) 6.6	ヘラミガキ	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼)良好 (色) 茶褐色	反転
11	土 師 坏	12.2 5.7 5.4	ヘラミガキ (内) ヘラミガキ	ヘラミガキ	やや粗い 良好 茶褐色	
12	土 師 坏	11.9 5.4 4.5	ヘラミガキ (内) ヘラミガキ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 赤褐色	
13	土 師 坏	12.2 5.35	ヘラケズリ、ヘラミガキ (内) ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	緻密 良好 (内外)丹塗り	
14	土 師 坏	13.0 5.8 6.2	ヘラケズリ (内) 暗文	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	反転
15	十. 師	13.2	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転
16	上 師 坏	13.0 5.6 4.4	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ	ヘラケズリ	緻密 良好 (内外)丹塗り	
17	土. 師 坏	14.2 5.7 5.3	暗文状のヘラミガキ (内)暗文	ヘラケズリ	緻密 良好 (内外)丹塗り	三本の沈線
18	上 師 坏	12.9 5.1 3.9	ヘラミガキ (内) 暗文		緻密 良好 赤褐色	三本の沈線
19	土 師 鉢	13.4	ヘラケズリ (内)ヘラケズリ、線刻		密 良好 茶褐色	
20	上 師	18.7	ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色	
21	土 師高 坏	19.2	ハケメ、ヘラミガキ		密 良好 茶褐色	
22	土 師	15.6		ヘラケズリ		
23	上 師	16.3 10.8 11.6	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
24	上 師	14.4 10.4 11.8	ヘラケズリ	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ	緻密 良好 赤黄褐色	
25	上 師 高 坏	16.1	ヘラミガキ、ヘラケズリ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 黄褐色	
26	上 師 高 坏	15.0			密 . 良好 . 茶褐色	反転
27	土 師 高 坏	17.0	ヘラミガキ (内) ヘラミガキ		密 良好 茶褐色	
28	土 師 高 坏	16.4	(内) ヘラミガキ		密 良好 茶褐色	

	m rs	NB ()	調	整		
番号	器種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	── 胎土、焼成、色調	備 考
29	土 師 高 坏	(口) 11.0 (高) (底)	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 黄褐色	焼きむら
30	土 師 高 坏	13.4	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	
31	土師	8.0	ヘラミガキ		緻密、雲母含む 良好 茶褐色	
32	土師・	8.6			密 良好 茶褐色	
33	須恵器	7.9 9.9	ヘラケズリ、タタキ		緻密 良好 黒青色	胴部外面に自然釉
34	土 師 壺	15.8	ヘラミガキ (内) ハケメ、ヘラケズリ		やや粗い 向色粒1% の小礫含む 良好 赤褐色	
35	土 師	14.7 28.6 6.4	ハケメ (内) 輪積み、ハケメ		白色粒含む 良好 暗褐色	
36	土師	14.6			密 良好 茶褐色	反転
37	土 師 壺	8.2	縦位へラミガキ (内) ヘラケズリ、ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 赤褐色	
38	土 師 壺	6.8	ヘラミガキ、ヘラケズリ (内)ヘラケズリ	木葉痕	やや粗い 良好 褐色	
39	土師		ヘラケズリ、ヘラミガキ	木葉痕	密 良好 明褐色	
40	土師	4.2			密 良好 茶褐色	反転
41	土 師 甕	20.8	ハケメ · (内)ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	
42	土 師 甕	7.6 8.2	ヘラケズリ	ヘラケズリ	粗い 良好 茶褐色	
43	土 師 翌	9.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	反転
44	土師	12.8	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	
45	土 師 手 捏	3.0	ヘラナデ (内) ヘラ押し		密 良好 茶褐色	
46	土師飯	17.1 10.9 5.4	(内) ヘラケズリ	(内)指頭痕	良好 暗赤褐色	
47	土 師高台付皿	12.8	(内)ヘラミガキ		緻密 良好 茶褐色(内) 黑色	

番号	器種	#+ F1 ()	諣	整	胎上、焼成、色調	備考
番写	谷 性	法量(cm)	器体部	底 部	加工、粉奶、巴爾	VIII ~3
1	上 師高 坏	(口) 16.4 (高) (底)	ヘラケズリ後、ヘラミガキ (内) ナデ後、ヘラミガキ	糸切り?	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	
2	土 師 甕	19.6	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色	砂粒子、雲母含む
3	土師	17.6	横ナデ		粗い 良好 赤褐色	
4	土. 師 甕	9.2	ハケメ (内) ハケメ	木葉痕	粗い 良好 茶褐色	
5	土 師	10.0	(内) ヘラケズリ	木葉痕	粗い 良好 茶褐色	
6	灰釉	15.2 6.6 7.1	(内)横ナデ		緻密 良好 灰褐色	

W. F1	nu t#	ite ()	胡	整	胎士、焼成、色調	備考
番号	器 種	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、税政、已间	70111 75
1	土 師 坏	(口) 11.7 (高) 3.7 (底) 4.8	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 黄褐色	反転
2	上 師 坏	11.8 4.1 5.0	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	密 良好 黄褐色(内) 黒色	反転
3	上 師 坏	12.8 4.6 5.2	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	反転
4	土 師 坏	13.3 4.6 5.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 暗褐色	砂粒多量に含む 反転
5	土 師 坏	12.2	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転
6	土 師 坏	4.8	ヘラケズリ	回転糸切り、ヘラケ ズリ	密 良好 茶褐色	
7	土 師 坏	15.6	不鮮明なヘラケズリ		密 良好 茶褐色(内) 黄褐色	反転
8	土 師 皿	12.8 2.6	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	
9	土師皿	12.3 2.6	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	
10	土師皿	11.6 2.45	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	反転

番号	器種	法量 (cm)	調	整	144. 株式 存卸	備考	
田勺	谷 性	法里 (CIII)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	加 石	
11	土 師 坏	(口) 10.5 (高) (底)	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色) ※褐色(內)暗褐色		
12	土. 師	28.4	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 暗褐色		
13	灰 釉 坑	7.4			密 良好 灰白色		
14	土 師 甕	6.41		ヘラケズリ	やや粗い 良好 黄褐色		
15	灰 釉 坂	7.0			密 良好 灰白色		
16	土 師小型甕	15.7 13.5 7.9	ハケメ (内) ハケメ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 茶褐色		
17	土 師 羽 釜	21.0	横ナデ、ハケメ		やや粗い 良好 茶褐色		

番号 器 種	- 異 - 編	法量 (cm)	調	整	1141、林宁 在部	AH: -17.
		器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考	
1	士. 師 甕	(口) (高) (底)	ハケメ (内) ハケメ、ヘラケズリ		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色 一部黒色	
2	土 師 甕	6.8	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ	ヘラケズリ	良好 褐色	砂粒を多く含む

番号	器種	法量 (cm)	調	3	整	144 株式 存卸	£#;	.=tx.
H 7	tur 有里	/A里 (Ⅲ)	器体部	底	部	胎土、焼成、色調	備	考
1	土 師 坏	(口) 12.5 (高) 6.1 (底)	ヘラケズリ			(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色		
2	土 師 坏	12.2 6.0 3.8	ヘラケズリ (内)暗文	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色		·
3	土 師 坏	11.7 5.7 3.8	(内)ハケメ	ヘラケズリ		緻密 良好 茶褐色		
4	土 師 坏	14.4 7.1 6.2	ヘラケズリ	ヘラケズリ		緻密 良好 黄褐色		
5	土 師 坏	15.2 5.5 1.8	ヘラケズリ	ヘラケズリ		緻密 良好 褐色		
6	土 師 坏	13.8 6.1 4.7	ヘラケズリ	ヘラケズリ		緻密 良好 黄褐色		

番号	器 種	计具 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番写	器種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	加工、光汉、巴酮	湘
7	土 師 坏	(口) 15.4 (高) 7.0 (底) 5.1	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	
8	土 師 坏	13.3 6.3	ヘラケズリ (内) ハケメ		緻密 良好 褐色	
9	土. 師 坏	11.0	ヘラケズリ (内) ハケメ		緻密 良好 赤褐色	,
10	: : 師 - 坏	19.0 6.3 2.4	ヘラケズリ (内) ヘラミガキ	ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	反転
11	土 師 坏	13.0			密 良好 黄褐色	
12	土 師高 坏	18.0	ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色	
13	土 師高 坏	16.8	ヘラケズリ		緻密 良好 黄褐色	
14	土 師高 坏		ヘラケズリ		密 良好 黄褐色	
15	土 師				緻密 良好 黄褐色	反転
16	士: 師 壺		(内) ヘラケズリ		粗い 良好 赤褐色	
17	土 師	20.8			粗い 良好 褐色	反転
18	d: 師 甕	17.6 27.7 8.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 褐色	
19	土: 師 壺	10.2 16.5 4.0	ヘラケズリ (内) ハケメ		緻密 良好 褐色	
20	須恵器 把 手				緻密 良好 暗褐色	

番号	器 種	法量(cm)	調整		胎土、焼成、色調	備考
			器 体 部	底 部	70111) HI
1	土 師 坏	(口) 12.0 (高) 4.45 (底) 5.05	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)褐色	
2	土 師 坏	12.4 4.0 3.8	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺ヘラケズリ	密 良好 暗褐色	
3	土 師 坏	11.7	ヘラケズリ		密 良好 黄褐色	反転

番号	器 種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
田力	667 1里	IAM (ui)	器体部	底 部	加工、粉以、巴酮) III
4	土師	(口) 13.2 (高)	ヘラケズリ		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 黄褐色	反転
	坏	(底)				
5	土 師	14.0 4.7	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	
	坏	5.1			茶褐色	
6	土 師	13.8	ヘラケズリ		緻密	反転
6	坏	3.9 6.0			緻密 良好 黄褐色	
7	土 師	12.8	ヘラケズリ		密	反転
	坏	3.6 4.2			密 良好 褐色	
8	土 師	15.8	ヘラケズリ		密	反転
L	坏				密 良好 黄褐色	
9	灰 釉				緻密	
3	埦	8.4			緻密 良好 灰白色	
10	土 師	34.0	ハケメ		粗い	
	塑		(内)ハケメ		粗い 良好 茶褐色	
11	土 師	36.0	ハケメ	·	粗い	
	甕		(内)ハケメ		粗い 良好 茶褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	DA L Jake Jake 200	
ш Э	603 任里	AZEL (CIII)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 12.1 (高) 3.8 (底) 4.5	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺へラケズリ	(胎) 緻密、赤色粒含む (焼)良好 (色)褐色	
2	土 師 坏	12.6 3.8 5.6	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密、赤色粒含む 良好 褐色	
3	土 師 坏	13.8 4.2 4.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 黄褐色	反転
4	土 師	12.4 4.4 4.0		回転糸切り、周辺ヘラケズリ	密 良好 茶褐色	反転
5	土 師高台付坏	14.8 6.6 6.7			密 良好 赤褐色	
6	土 師 皿	11.7 2.35 3.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	
7	土 師 皿	12.0	ヘラケズリ		密 良好 黄褐色	反転
8	土 師 皿	11.8			密 良好 茶褐色	反転
9	土 師 翌	32.0	ハケメ (内)ハケメ		密 良好 茶褐色	反転

77.17	DD 545	과티 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備考
番号	器種	法量 (cm)	器 体 部	底 部	加工、始以、巴혜	VH 75
1	土 師 坏	(口) 14.0 (高) 5.15 (底) 5.1	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	
2	土 師 坏	11.9 6.4	ヘラミガキ (内) ヘラミガキ		緻密 良好 茶褐色	
3	土 師 坏	13.0			やや粗い 良好 黄褐色	
4	土 師 坏	11.8			密 良好 茶褐色	
5	土 師	27.4			やや粗い 良好 茶褐色	反転
6	土 師 坏	5.6	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 褐色	反転
7	土 師 坏	5.4		ヘラケズリ	密 良好 黄褐色(内)黒色	反転
8	土師皿	13.7 3.0 5.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 褐色	
9	土 師	. 27.5			密 良好 茶褐色(内)黒色	反転
10	土師	29.6	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 暗褐色	

W E1	器種		調	整	胎土、焼成、色調		考
番号	谷 悝 伝	法量(cm)	器 体 部	底 部	加工、机块、巴姆	Ун і	
1	土 師 境	(口) 13.6 (高) 6.0 (底) 4.8	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色		
2	土 師 坏	13.4	ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色		_
3	土 師 高 坏	10.5			緻密 良好 茶褐色		
4	土 師 小型饗	3.4	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色		
5	土 師 小型甕		ハケメ、ヘラケズリ (内) ハケメ、ヘラケズリ		密 良好 赤褐色		
6	土 師 小型館	11.0	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ		緻密 良好 褐色		

番号	器種	法量 (㎝)	調整		RS.A. March & STR	Att: ±c
田勺	663 1里		器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
7	土師境	(口) (高) (底) 6.0	ハケメ、ヘラケズリ (内) ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)黄褐色	反転
8	土師	8.7		ヘラケズリ	粗い 良好 暗褐色	
9	土 師 手 捏	4.0 2.0 2.1		ヘラケズリ	やや粗い 良好 赤褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調	整	HEAL MALE CASH	Att: :tx
E 7	667 作里	公里 (CII)	器 体 部	底 部	- 胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 坏	(口) 12.6 (高) 3.9 (底) 5.1	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺へラケズリ	(胎) 密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	
2	土 師 坏	11.8	ヘラケズリ		密 良好 茶褐色	反転
3	土 師 鉢	22.6			密 良好 黄褐色(内)黒色	反転
4	土 師 甕	24.3	ハケメ (内) ハケメ		やや粗い 良好 暗褐色	反転
5	土 師 変	30.0	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	反転
6	土 師 甕	34.0	ハケメ (内) ハケメ		粗い 良好 茶褐色	反転

81(HS)号住居址

来是	番号 器 種	法量 (cm)	調	整	10 L Marth 42,311	AH: III
H 7	40 1里	Z里(CII)	器 体 部	本 部 底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師	(口) 11.0 (高) 3.6 (底) 5.7	ヘラケズリ	ヘラケズリ	(胎)密、赤色粒含む (焼)良好 (色)褐色	
2	土 師 坏	11.6 4.4 4.4		ヘラケズリ	緻密 良好 黄褐色	
3	土 師 皿	12.4 3.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密 良好 褐色	反転
4	土 師 坏	13.4 4.6 5.1	横ナデ	回転糸切り未調整	緻密 良好 暗褐色	
5	土 師 坏	13.1 4.4 5.5	横ナデ	回転糸切り未調整	密 良好 茶褐色	
6	土 師 坏	13.3 4.1 5.9		回転糸切り未調整	密 良好 褐色	

W 1-3	III 775	11 11 1	ħ	 i .				
番号	器種	法量 (cm)	器	体	部	底 部	—— 胎土、焼成、色調 	備考
7	上 師 坏	(口) 13.0 (高) 4.5 (底) 6.0	横ナデ			回転糸切り未調整	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	
8	土 師 坏	13.3 4.5 5.2	横ナデ			回転糸切り未調整	密、赤色粒含む 良好 褐色	
9	土 師 坏	14.0 4.1 5.8	横ナデ			回転糸切り未調整	密 良好 褐色	
10	上 師 坏	11.5 4.2 .5.5	横ナデ			回転糸切り未調整,	密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
11	上 師 坏	13.2 4.2 7.5	横ナデ			回転糸切り未調整	緻密 良好 暗褐色	
12	上 師 坏	11.9 3.8 5.3	横ナデ			回転糸切り未調整	密 良好 褐色	
13	出 師 坏	11.9 3.5 6.2	横ナデ			回転糸切り未調整	密、赤色粒含む 良好 褐色	
14	上 師 坏	11.5 3.2 5.7	横ナデ			回転糸切り未調整	密 良好 赤褐色	
15	上 師 坏	11.2 3.2 5.8	横ナデ			回転糸切り未調整	密 良好 褐色	
16	土 師 坏	11.0 3.9 2.7	横ナデ			回転糸切り未調整	やや粗い 良好 赤褐色	
17	上 師 坏	11.0 3.5 5.0	横ナデ			回転糸切り未調整	やや粗い 良好 赤褐色	
18	上 師 坏	13.3 4.1 5.9	横ナデ			回転糸切り未調整	密 良好 褐色	
19	土 師 坏	11.2 3.6 5.0	横ナデ			回転糸切り未調整	密 良好 赤褐色	
20	上 師 坏	11.0 3.7 4.5					やや粗い 良好 暗褐色	
21	上師坏	11.5 4.2 5.5	横ナデ			回転糸切り未調整	密、赤色粒含む 良好 赤褐色	全体にゆがみ
22	上 師 坏	10.9 3.9 5.7	横ナデ			回転糸切り未調整	客、赤色粒含む 良好 褐色	
23	上 師 坏	10.7 3.4 5.0	横ナデ			回転糸切り未調整	客、赤色粒含む 良好 褐色	
24	土師坏	11.1 2.6 4.8	横ナデ			回転糸切り未調整	密 良好 茶褐色	
25	土 師 坏	11.1 2.5 4.8	横ナデ			回転糸切り未調整	答 良好 茶褐色	

番号	器種	计目 ()	調	整	RAL Must 任利	備考
番与	一 位	法量(cm)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	7用 45
26	土 師 高台付坏	(口) 11.6 (高) 3.8 (底) 6.8			(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色	
27	土 師 高台付坏	9.0			やや粗い 良好 赤褐色	
28	土 師 高台付坏	6.9			密 良好 褐色	
29	土 師高台付坏	8.3			密 良好 褐色	
30	土 師 坏	5.0		回転糸切り未調整	やや粗い 良好 赤褐色	
31	灰 釉 坏	11.7 3.5 6.7		回転糸切り	緻密 良好 灰色	

82号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	IIA. I. Marth Ca. 310	備	-tz.
шу	1117 19	IZEL (UII)	器体部	底 部	胎土、焼成、色調	1/111	考
1	土 師 台付甕	(高) 18.8	ハケメ、ヘラミガキ (内)ハケメ、ヘラミガキ	指頭痕、ハケメ	(胎) (焼)良好 (色)赤黄褐色		

83号住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	HALL MART CAR	Att: de
E 7	110 12	IZE (CII)	器 体 部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
1	土 師 変	(口) 14.4 (高) 17.0 (底) 6.0	ヘラケズリ、ハケメ (内) ヘラケズリ、ハケメ	ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土 師 小型壺	7.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	
3	土 師 小型甕	6.7 7.2 4.3		ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	
4	土 師 坏	8.5 2.9 5.3		回転糸切り未調整	粗い 良好 茶褐色	1号土城
5	土. 師 台付坏	9.0 3.3 5.2		回転糸切り未調整	密 良好 赤褐色	1号土城
6	土 師 台付坏	9.4 4.0 3.6		回転糸切り未調整	密 良好 赤褐色	1号土城
7	土 師 台付坏	8.0		回転糸切り未調整	密 良好 赤褐色	1号土城

西井戸住居址

番号	器種	法量 (cm)	調	整	胎土、焼成、色調	備考
借与	谷 性	大里 (CIII)	器体部	底 部	加工、始以、巴爾) HI 73
1	土 師 坏	(口) 11.6 (高) 4.6 (底) 4.1	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺ヘラケズリ	(胎) 密 (姓) 良好 (色) 赤褐色	
2	土 師 坏	12.0 4.5 4.0	ヘラケズリ	回転糸切り、周辺へラケズリ	密 良好 褐色	
3	土 師 坏	11.4 4.0 3.7	ヘラケズリ (内) 暗文		緻密 良好 赤褐色	底部に墨書
4	土 師 手 揘	4.5	ヘラケズリ		密 良好 暗褐色	

墨書、箆書土器片

番号	器種	法量 (cm)	調		3	Ř	胎土、焼成、色調	備	考
番写	命 性	伝虹 (CIII)	器(本 部	底	部	后工、焼灰、巴祠	10111	45
1	土師器	(口) (高) (底)			(内)暗文		(胎) (焼) (色)		
2	土 師 坏	10.4 3.7 5.6	ヘラケズリ (内)暗文				緻密 良好 褐色		
3	士. 師 坏	5.2	ヘラケズリ (内) 暗文				密 良好 褐色	反転 底部に墨書	
4	土: 師 坏	5.8					緻密 良好 赤褐色	一部反転 底部墨書	
5	土: 師 坏	12.3 3.6 3.8	ヘラケズリ		ヘラケズリ		密 良好 褐色		
6	土 師 坏		ヘラケズリ		回転糸切り、ズリ	ヘラケ	緻密 良好 赤褐色		
7	土: 師 蓋	17.8	ヘラケズリ (内) 暗文				密 赤色粒子含む 良好 褐色		
8	上 師 坏								
9	土: 師 坏	14.4 10.0	ヘラケズリ後		ヘラミガキ			½片反転	
10	土: 師 坏	11.0 3.6 6.0	ヘラケズリ		ヘラケズリ		密 赤色粒子含む 良好 褐色		
11	土 師 坏	11.4 4.0 3.7	ヘラケズリ (内)暗文		回転糸切り、ズリ	ヘラケ	緻密 良好 赤褐色	底部内面に墨	書
12	土 師 坏	14.2 4.2 8.1			ヘラケズリ		概密 赤色粒子含む 良好 褐色	外面に線刻	

二之宮グリット

番号	90	器種	法量 (cm)	i	周			整	BEAS STAN LAB	AL #44
番写	'An	相	/Ant (cm)	器	体	部	底	部	- 胎土、焼成、色調 -	備考
1	縄文	上器	(口) (高) (底)						(胎) 繊維混入 (焼) (色)	
2	縄文	土器							数8、石类、長石を含む 良好 暗褐色	半截竹管
3	縄文	七器							雲母、長石含む 良好 茶褐色	うず巻文と区画文の 中に半截竹管あり
4	縄文	七器								

## ID	pp 75	N. E. C. N	調	-			整	11/. 1 Introd. 22, 310	AH: -#
番号	器種	法量(cm)	器	体	部	底	部	胎土、焼成、色調	備考
5	縄文土器	(口) (高) (底)						(胎) 粗い、砂粒含む (焼) 良好 (底) 茶褐色	半截竹管 深い沈線がみえる
6	縄文土器								
7	縄文土器								
8	縄文土器								
9	弥生土器 壺	22.8					-	密 良好 褐色	反転 焼きむら
10	弥生土器 甕	24.1	ハケメ (内) ハ	ケメ				緻密 良好 褐色	
11	弥生土器 壺		ハケメ後 (内) ハ					やや粗い、砂粒含む 良好 褐色	
12	弥生上器 甕	19.4	ハケメ (内) へ	ラケス	(1)			緻 密 良好 暗褐色	反転
13	弥生土器 壺								
14	弥生土器 壺	5.1	1		,		_	緻密 良好 茶褐色	
15	弥生土器 台付甕	9.4	ハケメ (内) ハ	ケメ後	きナデ			やや粗い、砂粒含む 良好 褐色	
16	弥生土器 台付甕	9.8	ハケメ (内) ハ	ケメ				緻密 良好	
17	弥生土器 甕	14.2	(内) へ	ラケス	ぐり			やや粗い 良好 黒褐色	
18	弥生土器 饗	5.4	ハケメ (内) ハ	ケメ			1	密 良好 暗褐色	反転
19	弥生土器 手 捏	9.3 5.5 5.8	縦位へラ (内)横(密 良好 茶褐色	反転
20	弥生土器 手 捏	11.2 5.8 5.4						密 良好 黄褐色	
21	弥生土器 壺	6.8	ハケメ、 (内) ハ		ァズリ	木葉痕		やや粗い、砂粒赤色粒合む 良好 褐色	
22	弥生土器 甕	13.4	ハケメ					やや粗い 良好 茶褐色	反転
23	弥生土器 翌	20.0	ハケメ					密 良好 黄褐色	

37. 53	pp 56	71 ()	i	問			整	11/1 July 14 42 411	£#: ±¥.
番号	器種	法量 (cm)	器	体	部	底	部	- 胎土、焼成、色調 -	備考
24	弥生土器 甕	(口) 16.6 (高) (底)	ハケメ					(胎) (焼)良好 (色)暗褐色	反転 ハケで一ツ文をほど こしている
25	弥生土器 翌	19.0 6.8	ハケメ、 (内) へ		ァズリ ト、ハケメ			粗い 良好 暗褐色	反転
26	弥生土器 飯	14.8 12.15 5.8	ハケメ、	指頭症	良			密 良好 茶褐色	
27	弥生土器	4.9	ヘラミカ		がキ			密 良好 黒褐色	反転
28	弥生土器 甕	7.0	ハケメ (内) ′	ヽ ラケン	ズリ			密 良好 暗褐色	
29	弥生土器 塑			,				密 良好 褐色	
30	弥生土師 甕								
31	弥生土器 高 坏	18.0	ハケメ、	縦列沈線	泉4単位			密 良好 茶褐色	
32	弥生土器 甕							緻密 良好 灰白色	たたきめ紋様
33	弥生土器 甕	16.9	ハケメ					緻密 良好 赤褐色	反転
34	弥生土器 甕		ハケメ (内) /	・ケメ				やや粗い、砂粒含む 良好 黄褐色	反転
35	弥生土器 壺	26.4						粗い 良好 褐色	反転
36	弥生土器 壺							やや粗い 良好 褐色	
37	弥生土器 壺	20.0	ハケメ (内) ^	・ラケフ	ぐり			緻密 良好 褐色	反転
38	弥生土器 壺	19.6						緻密 良好 褐色	反転
39	弥生土器 壺	22.4	ハケメ後	きナデ				密、赤色粒含む 良好 赤褐色	反転
40	弥生土器 壺	27.2						密、赤色粒含む 良好 赤褐色	反転
41	弥生土器 壺	25.0						やや粗い、砂粒含む 良好 褐色	反転
42	弥生土器 壺							緻密 良好 褐色	反転

77. 🗆	DD 155	Marie ()	調	整	n/ l ltub more	
番号	器 種	法量(cm)	器体部	底部	胎土、焼成、色調	備考
43	土 師 壺	(口) (高) (底)	ヘラケズリ		(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 黄褐色	
44	土 師 壺	18.0			密、砂粒含む 良好 褐色	
45	土 師 台付甕	18.7			やや粗い、石英、墨母含む 良好 褐色	反転
46	土. 師台付甕	14.6			粗い 良好 茶褐色	反転
47	土. 師台付甕	13.6	(内) ハケメ		やや粗い 良好 黄褐色	反転
48	土 師 台付甕	13.8			やや粗い、雲母含む 良好 褐色	反転 焼きむら
49	土 師 台付甕	10.1 13.5 7.5			密、金雲母含む 良好 赤褐色	底部のみ反転
50	土師	14.8				反転
51	土 師 台付甕	12.6			密 良好 黄褐色	反転
52	土 師 台付甕	10.0			密 良好 赤褐色	反転
53	土 師 台付甕	16.3			やや粗い、金銀母含む 良好 暗褐色	
54	土 師 台付甕	11.2	ハケメ (内) ヘラケズリ		やや粗い 良好 暗褐色	反転
55	土. 師台付獲	14.4			やや粗い 良好 黄褐色	
56	土師	12.0	ヘラケズリ (内) ヘラケズリ、輪積み		やや粗い 良好 赤褐色	反転
57	土師	13.4			密 良好 赤褐色	反転
58	土 師	19.0			密 良好 黄褐色	
59	土師	16.0			緻密 良好 褐色	
60	土 師 22	13.8			密 良好 褐色	反転
61	土 師 甕	18.5			密 良好 暗褐色	

N7. C	UU 156	4.8 / \	調			整	II. I let all At An	Ht	-++
番号	器種	法量(cm)	器体	部	底	部	胎土、焼成、色調	備	考
62	土 師 壺	(口) 16.4 (高) (底)					(胎)密 (焼)良好 (色)暗褐色		
63	土 師 壺	17.0	ハケメ後ナラ (内) ハケメ				密、砂粒、赤色粒含む 良好 黄褐色	反転	
64	土 師	15.8					密 良好 褐色		
65	上 師 鉢	18.2 9.3 7.4	ヘラケズリ				密 良好 褐色		
66	土 師 甕	25.8	ヘラケズリ				やや粗い 良好 茶褐色		
67	土 師 甕	36.8					粗い 良好 褐色		
68	土師	16.8	ハケメ、へき (内) ハケメ				密 良好 暗褐色		
69	土 師	18.0 36.5 7.0	ハケメ、ヘラ ヘラミガキ (内) ハケメ、						
70	土 師	24.0 26.9 8.2	ヘラケズリ、ヘ	、ラミガキ			密 良好 黄褐色	焼きむら	
71	土師	28.0 32.5 11.0	ハケメ、へき (内) ハケメ、				密 良好 黄褐色	反転	
72	土 師 壺		(内)ハケメ				緻密 良好 丹塗り		
73	土 師 小型壺	9.2	ヘラケズリ				やや粗い、石英含む 良好 茶褐色		
74	土 師 高 坏	17.2	縦位へラミガキ (内) 縦位へラ	•			密 良好 褐色		_
75	土 師 境	11.8 6.8 4.5	ヘラケズリ後へ	・ラミガキ			密、砂粒赤色粒合む 良好 赤黄褐色		-
76	土 師 境	12.4 5.4 3.9	ヘラケズリ		ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色	反転	
77	土 師 坏	14.2 5.8 7.4			ヘラケズリ		緻密 良好 茶褐色		
78	土 師 坏	12.3 5.6 3.2	(内) ハケメ				良好 褐色	焼きむら	
79	土 師 坏	13.5 5.5 6.5							
80	土 師 境	13.7 5.6					緻密 良好 褐色		

W 13	1112 ES	N. FL. Z. N	調				整	116 1 14c.45 4c.30	
番号	器種	法量(cm)	器	体	部	底	部	胎上、焼成、色調	備考
81	上 師 坏	(口) (高) (底)	ヘラケズ	ij				(胎) (焼) (色)	
82	土 師 坏	15.2 5.5 5.8	ヘラケズリ (内) 暗		ミガキ	ヘラケス	(I)	緻密、赤色粒含む 良好 褐色	焼きむら
83	土 師 塊	12.1 5.7 3.2	ヘラケズ	り後ま	デ		_	密 良好 褐色	
84	上 師 境	13.6	横位へラ	ミガキ	<u>.</u>			やや粗い 良好 赤褐色	反転
85	土 師 坏	13.1 4.6	ヘラミガキ	·、 ^ ラ	ケズリ			密 良好 茶褐色	
86	上 師 坏	12.6 4.6	ヘラケズ	ij				密、砂粒含む 良好 暗褐色	
87	上 師 坏	11.6 5.5 4.6	ハケメ					緻密 良好 暗褐色	
88	土 師 坏	12.4 3.8 4.0	ヘラケズ	ij				緻密 良好 褐色	
89	:±: 師 坏	11.3 4.2	ヘラケズ (内) へ		ブキ			緻密 良好 暗褐色	
90	土 師 坏	12.2 4.1	ヘラケズ	IJ				緻密、赤色粒含む 良好 明褐色	
91	上 師 坏	13.2 5.0	ヘラケズ	IJ				緻密 良好 (内外)丹塗り	
92	土 師 坏	13.2 4.2	ヘラケズ	IJ				緻密 良好 黒色 (内) 黒彩	
93	土 師 坏	11.6 3.8	ヘラケズリ	後へき	シミガキ			密、砂粒、赤色粒含む 良好 赤褐色	
94	土. 師 坏	14.0 3.5	ヘラケズ	IJ				密、砂粒、赤色粒含む 良好 褐色	焼きむら
95	上 師 坏	13.2 4.0	ヘラケズ	IJ				密、赤色粒含む 良好 (内外)黒彩	
96	上 師	13.2 3.7	ヘラケズ (内) へ		ゲキ			緻密 良好 (内外)黒彩	
97	土師	8.6 4.8	ヘラケズ	` ี่				緻密 良好 (内外)丹塗り	
98	上 師 高 坏	10.5 8.15 6.9	ヘラミガ (内) へ		がキ	ハケメ		緻密 良好 褐色	段3孔
99	土師	23,2	ハケメ (内) ハ	ケメ					

		11 = ()	â	H			整	11/. 1 left _lb	All Tr
番号	器種	法量(cm)	器	体	部	底	部	胎土、焼成、色調	備考
100	土 師 高 坏	(口) 14.0 (高) (底)						(胎)緻密 (焼)良好 (色)(内外)丹塗り	反転
101	土 師高 坏	14.2 10.1 10.2	ヘラケン	ズリ		ヘラケズリ		密、砂粒含む 良好 (内外)丹塗り	
102	土 師高 坏	16.5 9.4 11.0	ヘラケ: (内) 約		ナデ			密 良好 褐色	
103	土 師 高 坏	18.9 12.5 13.8						緻密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
104	土師	9.4 10.0 3.0	ヘラミ	ゲキ				緻密 良好 褐色	反転 一孔
105	須恵器 甕	22.0						緻密 良好 青灰色	反転
. 106	須恵器 変	10.0						緻密 良好 青灰色	反転
107	須恵器 甕	40.4						緻密 良好 灰色	反転
108	須恵器 蓋	12.6 5.3						緻密 良好 青灰色	反転
109	須恵器 蓋	11.0 4.2						緻密 良好 青灰色	一部反転
110	須恵器 蓋	19.0						緻密 良好 青灰色	反転
111	須恵器 蓋	15.6 4.0						密、小石含む 良好 青灰色	反転
112	須恵器 蓋	15.3 3.8						密 良好 灰白色	
113	須恵器 蓋	12.0 2.8						緻密 良好 青灰色	
114	須恵器 蓋	10.6						緻密 良好 灰色	反転
115	須恵器 高 坏	9.0				-		緻密 良好 青灰色	四方にすかし
116	須恵器 坏	14.0 3.7 9.5						緻密 良好 青灰色	
117	土 師 坏	15.9				ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 褐色	反転
118	土 師 坏	13.8 3.8 9.6				ヘラケズリ (内) 線刻		緻密 良好 黄褐色	反転

		11 = 4	調			整	no I like to Ar Str	Ht -17
番号	器 種	法量(cm)	器	体	部	底 部	- 胎土、焼成、色調	備考
119	土 師 坏	(口) 13.8 (高) 3.5 (底) 8.8				回転糸切り	(胎) (焼) (色)青灰色	反転
120	土 師 坏	16.6 4.05 9.0	(内) 暗	文			やや粗い 良好 茶褐色	反転
121	土 師 坏	13.2 3.3 7.6						
122	土 師 坏	14.6 5.6 9.8	(内)暗	文				反転
123	土 師 坏	16.4 5.4 11.0					密 良好 褐色	
124	土 師 坏	17.8 6.0 11.8	ヘラケズ	IJ		(内) 放射状暗文	緻密 良好 赤褐色	
125	土 師 坏	14.2					緻密 良好 明赤褐色	反転
126	土師皿	14.2 3.8 10.3				(内) 暗文	緻密 良好 赤褐色	反転
127	土 師 坏	12.8 3.45 8.0				ヘラケズリ	緻密 良好 茶褐色	反転
128	土師	21.8 28.2					やや粗い 良好 褐色	口縁部反転
129	土師坏	12.2	ヘラケズ (内)暗				密、砂粒含む 良好 茶褐色	反転
130	土 師 坏	12.0 3.1 6.6	ヘラケズ	IJ			密 良好 褐色	反転
131	土 師 坏	14.0 3.8 10.0				(内) 暗文	緻密 良好 赤褐色	
132	土師坏	13.5 3.3 10.2					密 良好 褐色	
133	須恵器						緻密 良好 青灰色	反転
134	土 師 坏	14.2 5.4 9.7	(内) 暗	文		(内) 暗文		
135	土 師 坏	9.5	(内) 暗	文				
136	土 師 坏	9.0	(内) 暗	文			緻密 良好 暗褐色	
137	土 師 坏	15.6 5.3 8.0	(内) 暗	文			緻密 良好 赤褐色	

W. D.	un #	ALM / N	調		<u>*</u>	ě	76 L 144 A 67 377		
番号	器種	法量 (cm)	器体	部	底	部	胎土、焼成、色調 	備	考
138	土 師 坏	(口) 11.5 (高) 4.4 (底) 7.0	(内)暗文		(内)暗文		(胎) 密 (焼) 良好 (色) 褐色		
139	土 師 坏		ヘラケズリ (内) 暗文						
140	土 師 坏	12.3 4.6					密 良好 茶褐色	反転	
141	土 師 坏	13.2 5.3 7.3	横ナデ (内)暗文		回転糸切り、 ズリ (内)暗文	ヘラケ	緻密 良好 茶褐色		
142	土 師	11.9 4.8 5.6	ヘラケズリ (内)暗文		回転糸切り、ズリ	ヘラケ	緻密 良好 褐色		
143	土 師 坏	8.6	(内)暗文		(内)暗文				
144	土 師 台付坏	10.1 4.0 6.8	(内)暗文		削出高台		密 良好 褐色		
145	土 師 鉢	12.3 6.9 8.2	ヘラケズリ (内)暗文				緻密 良好 茶褐色		
146	土 師 坏	11.6 3.8 6.2	ヘラケズリ						
147	土 師 坏	11.0 4.3 5.8					密 良好 褐色	反転	
148	土. 師	16.8 2.8 7.2					密 良好 黄褐色	反転	
149	土 師 坏	11.2 4.2 5.8	ヘラケズリ (内) 暗文				緻密、赤色粒含む 良好 褐色		
150	土 師 坏	11.0 4.4 4.4					緻密 良好 褐色	反転	
151	土師蓋	16.4 5.0					緻密 良好 褐色		
152	土 師 坏	10.6 3.7 5.4	ヘラケズリ (内) 暗文		回転糸切り、 ズリ	ヘラケ	緻密 良好 赤褐色		
153	土 師 坏	11.6 4.6 6.9					緻密 良好 赤褐色		
154	土 師 坏	11.5 4.0 5.0	ヘラケズリ (内)暗文		回転糸切り、 ズリ	ヘラケ	密 良好 赤褐色		
155	土 師 坏	10.5 4.05 5.8	ヘラケズリ (内)暗文				緻密 良好 黄褐色	反転	
156	土 師 坏	11.0 4.18 6.1	(内)暗文		回転糸切り、 ズリ	ヘラケ	緻密 良好 赤褐色		

w	m	N. E. Z. N	調			8	nt that earn	
番号	器種	法量 (cm)	器体	部	底	部	胎土、焼成、色調	備考
157	土. 師	(口) 14.6 (高) 3.2 (底) 6.8	ヘラケズリ		ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 褐色	反転
158	土 師 坏	13.8 6.0 6.6	ヘラケズリ (内) 暗文		ヘラケズリ		緻密 良好 明褐色	反転
159	土. 師 坏	10.8 4.3 5.0	ヘラケズリ (内)暗文		回転糸切り、 ズリ	ヘラケ	密 良好 茶褐色	
160	土. 師 坏	11.0 4.1 2.4	ヘラケズリ (内)暗文		回転糸切り、ズリ	ヘラケ	緻密 良好 明褐色	
161	土: 師 甕	16.4 15.0 9.2	ハケメ (内) ハケメ		木葉痕		ゃゃ粗い、金雲母含む 良好 茶褐色	焼きむら
162	土 師 坏	10.8 4.6 9.6	ヘラケズリ				密 良好 茶褐色	反転
163	土. 師	25.8	ハケメ (内) ハケメ				やや粗い 良好 褐色	反転
164	土 師 坏	12.2 3.9 6.0			回転糸切り		密 良好 茶褐色	反転
165	土. 師 坏	5.5 4.3 2.8	ヘラケズリ				緻密 良好 黄褐色	反転
166	土 師 坏	11.3 3.75 5.0	ヘラケズリ (内)暗文		ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	反転
167	土. 師 坏	10.6 4.15 5.8	ヘラケズリ (内)暗文		回転糸切り		緻密、赤色粒含む 良好 褐色	
168	土 師 坏	11.1 4.1 4.65	ヘラケズリ (内) 暗文		ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 赤褐色	内面一部にすす付着
169	土 師 坏	10.4 4.25 5.5	ヘラケズリ (内) 暗文					
170	土: 師 坏	7.2	(内)暗文	_	削出高台		密 良好 茶褐色	
171	土 師 坏	10.9 4.0 5.9	ヘラケズリ (内) 暗文		線刻 (内)線刻			_
172	土 師 高台付坏	16.3 6.1 8.2	(内)暗文		削出高台		密 良好 赤褐色	一部反転
173	土 師 高台付坏	7.5	(内)暗文		削出高台		緻密 良好 赤褐色	
174	土師蓋	17.0					緻密 良好 赤褐色	反転
175	土師坏	15.0 4.75 6.4	ヘラケズリ (内) 暗文				緻密 良好 茶褐色	

番号	器種	法量 (cm)	調		整	胎土、焼成、色調	備考
田力	6亩 作组	公里 (CII)	器体	部	底 部	TILL SCOOL COM	VAI 73
176	土 師 坏	(口) 6.0 (高) 4.1 (底) 4.5	ヘラケズリ		ヘラケズリ	(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	
177	土 師 坏	11.6	ヘラケズリ (内) 暗文			緻密 良好 茶褐色	反転
178	土 師 坏	15.4	ヘラケズリ (内) 暗文			緻密 良好 褐色 (内) 黒褐色	
179	土 師	18.0	ハケメ (内) ハケメ			やや粗い 良好 暗褐色	反転
180	土 師	32.0	ハケメ (内) ハケメ			やや粗い 良好 茶褐色	反転
181	土 師 置カマド	38.0	ハケメ (内) ハケメ			粗い 良好 茶褐色	反転
182	土師坏	13.7 4.2 5.6			回転糸切り未調整	密 良好 茶褐色	
183	土 師 坏	13.0 4.4 5.8			回転糸切り未調整	密 良好 茶褐色	反転
184	土 師 坏	10.7 3.5 5.0	(内) ハケメ		回転糸切り、ナデ	密 良好	
185	土 師置カマド		ハケメ			砂粒含む 良好 暗褐色	
186	土 師 皿	13.0 2.6	ヘラケズリ		ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
187	土 師	13.7 2.5	ヘラケズリ		ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
188	土師	22.4	ハケメ				
189	土 師 変	18.0	ヘラケズリ (内) ハケメ			粗い、金雲母含む 良好 暗褐色	反転
190	土 師 甕	8.4			木葉痕	良好 暗褐色	
191	土 師 坏	15.1 4.6 5.3	ヘラケズリ		回転糸切り、ヘラケ ズリ	密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
192	土 師 坏	12.0 3.7 4.7	ヘラケズリ			密 良好 暗褐色	
193	土 師 坏	12.0 3.8 4.8	ヘラケズリ		回転糸切り、ヘラケズリ	赤色粒含む 良好 褐色	
194	土 師 坏	6.3 2.7 3.7	ヘラケズリ			密、赤色粒含む 良好 赤褐色	

	m te	11.E. ()	調		3	整	16.1. 林宁 存部	/± ±4-
番号	器種	法量(cm)	器体	部	底	部	胎土、焼成、色調	備考
195	土 師 坏	(口) 12.9 (高) 2.9 (底)	ヘラケズリ		ヘラケズリ		(胎) 緻密 (焼) 良好 (色) 茶褐色	
196	土 師 坏	13.1 4.1 5.1	ヘラケズリ		ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
197	土 師 坏	12.3 3.9 4.7	ヘラケズリ		ヘラケズリ		緻密、赤色粒含む 良好 褐色	
198	土 師 坏	11.8 4.0 5.7	ヘラケズリ				良好 赤褐色	
199	土 師 坏	12.2 3.2 4.2	ヘラケズリ		回転糸切り、周囲	用ヘラケズリ	緻密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
200	土 師 坏	12.5 3.7 4.3	ヘラケズリ				緻密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
201	土 師 坏	13.1 4.2 5.0	ヘラケズリ				粗い、赤色粒含む 良好 黄褐色	
202	土. 師 坏	12.2 3.7 4.8	ヘラケズリ		ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 褐色 (内) 黒色	
203	土 師 坏	12.7 2.75 4.7	ヘラケズリ		ヘラケズリ		緻密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
204	土 師 坏	13.0 2.9 2.8	ヘラケズリ		ヘラケズリ		緻密 良好 褐色	
205	土 師 坏	12.9 2.9 4.0	ヘラケズリ		ヘラケズリ		緻密、赤色粒含む 良好 褐色	
206	土 師 坏	13.0 2.9 3.3	ヘラケズリ		ヘラケズリ		緻密 良好 赤褐色	
207	土 師 坏	12.8 2.7 4.1	ヘラケズリ		ヘラケズリ		密、赤色粒含む 良好 褐色	
208	灰 釉 台付境	14.6 5.0 7.2						
209	灰 釉 台付 境	15.2 5.5 8.4					緻密 良好 灰白色	反転 内面釉
210	灰 釉 台付坏	11.8 2.3 6.4					緻密 良好 灰白色	反転
211	灰 釉 台付坏	10.2 2.3 6.0						反転
212	灰 釉 台付坏	11.0 2.3 5.5					緻 密 良好 灰色	
213	灰 釉 高台付坏	12.8 2.5 7.5					緻密 良好	

377. [2]	号 器 種 法量 (cm)		訓				整	10.1 ktr+2 47.313	Ht:	-tr.		
番号	备	悝	公里	(cm)	器	体	部	底	部	胎土、焼成、色調	備	考
214	灰 台作		(口) (高) (底)							(胎) (焼) (色)		
215	灰	釉										
216	鉄 天目	釉 茶城								緻密 良好 灰白色(内外)鉄釉		
217	土			15.0 5.0 6.2	横ナデ			回転糸切り	未調整	密、赤色粒含む 良好 褐色	焼きむら	
218	土			18.0 6.1 7.4						密 良好 茶褐色		
219	土 5			15.8 5.0 7.6	横ナデ			回転糸切り	未調整	やや粗い、砂粒赤色粒合と 良好 黄褐色		
220	土 均	•		13.0 3.6 5.6	横ナデ			回転糸切り	未調整	密、赤色粒含む 良好 褐色		
221	土	•		12.5 4.2 6.2	横ナデ			回転糸切り	未調整	緻密、赤色粒含む 良好 褐色		_
222	土	•		13.7 4.3 6.0	横ナデ			回転糸切り	未調整	やや粗い 良好 褐色		
223	土切			12.0 3.6 5.1				回転糸切り	未調整	緻密 良好 明褐色		
224	土			12.9 4.2 5.5						やや粗い 良好 褐色		
225	土 坏	·		13.2 3.7 6.0	横ナデ			回転糸切り	未調整	緻密 良好 茶褐色		_
226	土 坏			12.5 2.9 5.7	横ナデ			回転糸切り	未調整	密 良好 茶褐色		
227	土 坏			12.5 2.8 5.2	横ナデ			回転糸切り	未調整	密 良好 褐色		
228	土			13.0 3.7 6.1	横ナデ			回転糸切り	未調整	やや粗い 良好 茶褐色		
229	土 坏	· ·		16.3 3.7 7.0						やや粗い 良好 赤褐色	反転	
230	土 坏	.		14.3 4.2 6.0	横ナデ			回転糸切り	未調整	やや粗い、砂粒含む 良好 褐色		
231	土坏			14.0 4.2 2.7	横ナデ			回転糸切り	未調整	粗い 良好 暗褐色		
232	土坏			14.0 4.5	横ナデ			回転糸切り	未調整	やや粗い 良好 褐色	反転	

	nn 75	N E Z	訊	1		整	77 1 144 15 45 VE	
番号	器種	法量 (cm)	器	体	部	底 部	胎土、焼成、色調	備考
233	土 師 坏	(口) 13.2 (高) 3.8 (底) 5.0	横ナデ			回転糸切り未調整	(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 暗褐色	
234	土 師 坏	10.0 3.8 5.0					やや粗い 良好 褐色	一部反転
235	土 師 坏	10.8 3.4 5.0					やや粗い 良好 褐色	
236	土 師 坏	11.0 3.3 4.5					密 良好 褐色	
237	土 師 坏	11.0 3.3 4.4					やや粗い 良好 褐色	反転
238	土 師 坏	10.3 3.4 5.6	横ナデ			回転糸切り未調整	やや粗い、砂粒含む 良好 茶褐色	
239	土 師 坏	10.7 3.2 5.0					密 良好 茶褐色	
240	土 師 坏	10.3 2.9 4.8				回転糸切り未調整	やや粗い、赤色粒含む 良好 赤褐色	
241	土 師 坏	11.45 3.5 6.1				回転糸切り未調整	緻密 良好 褐色	
242	土 師 坏	11.0 3.1 4.8	横ナデ			回転糸切り未調整	密 良好 暗褐色	
243	土 師 坏	11.6 3.6 5.0	横ナデ			回転糸切り未調整	やや粗い 良好 赤褐色	
244	土師坏	11.0 3.2 6.0	横ナデ			回転糸切り未調整	やや粗い 良好 褐色	
245	土師坏	11.6 3.3 5.8					やや粗い 良好 黄褐色	
246	土 師 坏	12.0 3.2 4.8					緻密 良好 赤褐色	
247	土 師 坏	10.2 3.2 5.0					粗い 良好 褐色	
248	土 師 坏	10.6 2.9 4.5	横ナデ			回転糸切り未調整	粗い 良好 茶褐色	反転
249	土 師 坏	10.2 2.8 4.0	横ナデ			回転糸切り未調整	やや粗い、赤色粒含む 良好 褐色	
250	土 師 坏	10.0 2.7 4.5	横ナデ			回転糸切り未調整	やや粗い、砂粒含む 良好 褐色	反転
251	土 師 坏	10.8 2.6 5.2	横ナデ			回転糸切り未調整	やや粗い、赤色粒含む 良好 黄褐色	

37. E	UD #	法量(cm)	語]			整	116 1 July 12 64 277		
番号	器種	法 重(cm)	器	体	部	底	部	├──胎土、焼成、色調 ├	備	考
252	土 師 坏	(口) 10.2 (高) 2.4 (底)	横ナデ			回転糸切り	未調整	(胎) 粗い (焼) 良好 (色) 茶褐色		
253	土 師 坏	11.0 2.7 5.4	横ナデ			回転糸切り	未調整	やや粗い、砂粒含む 良好 褐色		
254	土 師 坏	9.0	横ナデ			回転糸切り	未調整	やや粗い、赤色粒含む 良好 褐色	反転	
255	土 師 坏	12.0 2.1 6.0	横ナデ			回転糸切り	未調整	緻密 良好 赤褐色	反転	
256	土 師 坏	11.0 2.1 5.7	横ナデ			回転糸切り	未調整	密、赤色粒含む 良好 茶褐色		
257	土 師 坏	10.7 1.8 5.3	横ナデ			回転糸切り	未調整	密 良好 褐色		
258	土 師 坏	8.7 1.6 5.4	横ナデ			回転糸切り	未調整	やや粗い 良好 褐色		
259	土 師 坏	9.7 2.3 4.5				回転糸切り	未調整	密 良好 褐色		
260	土 師 坏	9.1 2.4 3.8				回転糸切り	、ナデ	密、赤色粒含む 良好 茶褐色		•
261	土 師 坏	4.0 2.1 4.8				回転糸切り	未調整	密 良好 褐色		
262	土 師 坏	9.5 2.3 5.0				回転糸切り	未調整	粗い 良好 褐色		
263	土 師 坏	8.3 2.3 3.8	横ナデ			回転糸切り	未調整	やや粗い 良好 茶褐色	反転	
264	土 師 坏	9.0 2.3 4.5	横ナデ			回転糸切り	未調整	やや粗い、砂粒含む 良好 茶褐色		
265	土 師 坏	9.1 2.3 4.2	横ナデ			回転糸切り	未調整	粗い 良好 茶褐色		
266	土 師 坏	9.0 2.5 4.6				回転糸切り	未調整	粗い 良好 茶褐色		
267	土 師 坏	8.3 2.2 4.3	横ナデ			回転糸切り	未調整	やや粗い 良好 茶褐色		
268	土 師 坏	8.1 2.4 4.1	横ナデ			回転糸切り	未調整	密 良好 茶褐色		
269	土 師 坏	8.2 2.2 4.7				回転糸切り	未調整	やや粗い 良好 褐色	反転	
270	土 師 坏	8.5 2.2 4.7	横ナデ			回転糸切り	未調整	やや粗い 良好 褐色		

		N F ()	Ð	1		整	# 1 U. D. A. 277	
番号	器種	法量 (cm)	器	体	部	底 部	→ 胎土、焼成、色調 	備考
271	土 師 坏	(口) 8.5 (高) 2.3 (底) 4.2	横ナデ			回転糸切り未調整	(胎) やや粗い、金選母含む (焼) 良好 (色) 暗褐色	
272	土. 師 坏	8.4 2.2 4.5	横ナデ			回転糸切り未調整	密 良好 茶褐色	
273	土 師 坏	8.0 2.0 4.6					やや粗い 良好 褐色	
274	土 師 坏	8.7 2.6 4.9	横ナデ			回転糸切り未調整	やや粗い 良好 茶褐色	反転
275	土 師 坏	8.9 2.2 5.0	横ナデ			回転糸切り未調整	密 良好 茶褐色	
276	土 師 坏	9.2 2.7 4.5	横ナデ			回転糸切り未調整	密 良好 ·褐色	
277	土 師 坏	8.4 1.6 5.2					やや粗い 良好 褐色	
278	土 師 坏	9.0 2.1 5.5					やや粗い 良好 褐色	一部反転
279	土 師 坏	9.0 1.9 5.0					やや粗い 良好 褐色	一部反転
280	灰 釉高台付城	15.0 6.6 7.5					緻密 良好 灰白色	無釉と思われる高台 底面に調整痕 もみの痕跡が見られる
281	土 師 高台付城	15.0 5.9 7.0					緻密 良好 褐色(内)黒色	
282	土 師 高台付城	14.0 5.1					緻密 良好 褐色	
283	土 師 高台付城	14.1 5.75 7.1					密、赤色粒含む 良好 赤褐色	
284	土 師 高台付城	12.6 4.9 7.2					やや粗い 良好 褐色	
285	土 師 高台付城						密 良好 茶褐色	
286	土 師 高台付坏	15.0 5.0 9.2					密 良好 赤褐色	
287	土 師 高台付坏	12.3					密 良好 暗褐色	
288	土師						粗い 良好 茶褐色	
289	土 師 高台付坏	15.5					やや粗い 良好 暗褐色	反転

377. 🖂	pp 125	YE ()	ð	=			整	II. I late the first first	-	
番号	器種	法量(cm)	器	体	部	底	部	胎土、焼成、色調	備考	Ś
290	土 師 高台付坏	(口) 10.7 (高) 4.4 (底) 5.5						(胎) 密 (焼) 良好 (色) 黄褐色		
291	土 師 高台付坏	9.2 2.7 4.7						やや粗い 良好 褐色	反転	
292	土 師 高台付坏	10.2 3.7 5.5						密 良好 褐色		
293	土 師 高台付坏	11.6 4.0 6.7						緻密 良好 茶褐色		
294	土 師 高台付坏	11.0						密、砂粒、赤色粒含む 良好 褐色		
295	土. 師高台付坏	11.4 4.0 6.2						やや粗い、赤色粒含む 良好 褐色		
296	土 師高台付坏	9.3						粗い 良好 赤褐色		
297	土 師器 台	7.1 7.5 6.1				回転糸切り	未調整	密、赤色粒含む 良好 褐色		
298	土 師器 台	5.3				回転糸切り	未調整	密 良好 褐色		
299	土 師器 台	5.0				回転糸切り	未調整	密 良好 茶褐色	反転	
300	土 師器 台	5.4				回転糸切り	未調整	粗い 良好 暗褐色		
301	土 師台付坏	8.5 4.1 5.6	横ナデ			回転糸切り	未調整	緻密 良好 赤褐色		
302	土 師台付坏	9.6 4.05 5.1				回転糸切り	未調整	密 良好 褐色		
303	土 師 台付坏	8.5 4.1 4.8	横ナデ			回転糸切り	未調整	緻密 良好 赤褐色		
304	土 師 台付坏	8.8 3.1 5.7				回転糸切り	未調整	やや粗い 良好 茶褐色	一部反転	
305	土 師 台付坏	8.1 3.6 4.6	横ナデ			回転糸切り	未調整	緻密 良好 赤褐色		
306	土 師 台付坏	9.4 5.5	横ナデ			回転糸切り	未調整	粗い 良好 茶褐色	反転	
307	土 師 台付坏	8.0 1.8 4.2	横ナデ			回転糸切り	未調整	密 良好 茶褐色		
308	土 師 台付坏	9.9 2.8 4.6	横ナデ			回転糸切り	未調整	やや粗い、砂粒含む 良好 褐色		

番号	器種	计 周 ()	調	整	胎土、焼成、色調	備	考
金石	一番 性	法量(cm)	器 体 部	底 部	· 加工、烧成、巴祠	1/用	45
309	土 師 台付坏	(口) 4.8 (高) 3.4 (底)		回転糸切り未調整	(胎) やや粗い (焼) 良好 (色) 赤褐色	<i>.</i>	
310	土 師 台付坏	5.1		回転糸切り未調整	密 良好 褐色		
311	土 師 台付坏	4.3		回転糸切り未調整	密 良好 赤褐色		
312	土 師 台付坏	8.6		回転糸切り未調整	やや粗い 良好 赤褐色		
313	土 師 鉢	30.0	指頭痕		やや粗い、赤色粒含む 良好 黄褐色		
314	土師片口	35.0	ヘラケズリ後ナデ ナデ		粗い 良好 褐色		

金属製品

番号	出土住居	和	[類	材	質	長さ(現存表cm)	備考
1	3号住居址	鉄		鏃		 鉄		
2	5 号住居址		"			"		
3	5 号住居址	7]		子		"	4.3	
4	6 号住居址		"			"		
5	12号住居址		"			"	1 0.2	
6	16号住居址	不		明		"		
7	21号住居址		"			"	-	茎部?
8	22号住居址		"			"		
9	22号住居址	鉄		鏃		"	1 0 . 4	
10	24号住居址		"			"		
11	24号住居址	不		明		"		
12	24号住居址		"			"		
13	26号住居址		"			"		
14	26号住居址		"			"		
15	39号住居址		"			"		
16	43号住居址		"			"		
17	43号住居址	77		子		"		
18	43号住居址	鉄		鏃		"		
19	43号住居址	不		明		"		
20	48号住居址		"			"		
21	51号住居址		"			"		鉄鏃
22	58号住居址	鉄		鏃		"	7.9	
23	72号住居址	刀		子		"		
24	69号住居址	鉄		鏃		"	3.5	
25	69号住居址		"			"		
26	72号住居址	刀		子		"	8.4	
27	84号住居址	不		明		"		
28	89号住居址	馬		具		"	6.8	引手
29	89号住居址	不		明		"		
30	"		"		,	"		鉄鏃 ?
31	"		"		,	,		
32	91号住居址		"		,	,		刃部らしき部分あり
33	93号住居址	鉄		鏃		,	9.2	
34	"	鉄	鏃	?		,	3.7	鏃身と思われる
35	94号住居址	不		明	\$,	1 0.1	鉄鏃 ?
36			鏃		,	<u> </u>		
37	95号住居址	不		明		, <u> </u>		鉄鏃 ?

番号	出土住居	種		Ą	材	質	長さ(現存表cm)	備考
38	103号住居址	刀		子	ý	跌	8.1	茎部に木質残存
39	105号住居址	不		明		"	9.9	鉄鏃ないしノミ
40	122号住居址	刀		子		"	1 4.4	
41	125号住居址		鏃			"	9.6	
42	126号住居址	刀		子		"	6.9	茎部に木質残存
43	136号住居址	不		明		"		
44	176号住居址		鏃			"	1 3.0	
45	177号住居址	刀		子		"		
46	224号住居址		"			"	8.1	
47	228号住居址	紡	錘	車	·	"	1 3.1	
48			"			//	"	
49	151号住居址	不		明		"		
50	247号住居址		"			"		
51	292号住居址	刀		子		"	1 0.1	
52	"	不		明		"		鉄鏃?
53	11号住居址		"			"		
54	309号住居址		"			"	1 1.6	刃部らしき部位あり
55	"		"			"		"
58	253号住居址	馬		具		″		轡
59			鏡		青	銅		八稜鏡(直径9.0㎝)
60	西46号住居址		鏃			銅		周辺の剝落が著しい
61	299号住居址	金		環				
62		紡	錘	車		鉄	1 9.8	
63	148号住居址		鋤			"		
64			斧			"		
65			鏃			"	8.2	グリット出土
66			"			"	1 2.5	"
67			"			"	1 3.7	"
68			"			"	1 0.0	"
69			"			鉄	1 2.1	"
70	西2号住居址	紡	錘	車		"		
71	西7号住居址		″			"		銹が著しく原形不明
72	西11号住居址		鏃			"	1 3.0	表面に植物の茎の炭化したものが厚く付着
73	西13号住居址	不		明		"		
74	西18号住居址	カ		子		"		
75	西20号住居址		"			"	9.0	
76	西21号住居址	不		明		"		
77	西15号住居址		"			"		鉄鏃?
78	西25号住居址	7]		子		"	5.0	

番号	出土住居	種	類	材質	長さ(現存表㎝)	備考
79	西25号住居址	不	明	鉄		鉄鏃?
80	西26号住居址		鎌	"		先端部を欠く
81	西26号住居址	刀	子	"	2 3 . 7	関の形態不明
82	西29号住居址		鎌	"	17.0	
83	西29号住居址	不	明	"		刀子か鎌?
84	西31号住居址	馬	具	"	1 0.2	引手、銹が著しい
85	西38号住居址	7]	子	"	5.9	
86	西41号住居址	不	明	"		鉄鏃?
87	西46号住居址	Л	子	"	6.6	
88	"		"	"		茎部で木質残存
89	西64号住居址	刀	子	"		
90	西66号住居址-1	不	明	"		鉄鏃?
91	西66号住居址		"	"		"
92	西45号住居址	紡	錘 車	"	1 4.9	
93	西75号住居址	不	明	"		茎部?
94			"	"		グリット出土
	-					
						·

石器、石製品類、砥石

番号	出土住居	種	類	材		質	重 さ	加工痕、使用痕、装飾	備考
1	1号住居址	砥	石	凝	灰	岩	55.2 g	4 面に使用痕	
2	17号住居址	砥	石	砂		岩	880 <i>g</i>		
3	19号住居址	砥	石	安	山	岩	510 g	4面	
4	20号住居址	砥	石	砂		岩	110 g		
5	20号住居址	軽	石	軽		石	40 g		
6	23号住居址	砥	石	頁		岩	100 g		
7	51号住居址	砥	石	凝	灰	岩	80 <i>g</i>		
8	72号住居址	砥	石	凝	灰	岩	10.1 g		
9	136号住居址	砥	石	砂		岩	70 g		
10	191号住居址	砥	石	凝	灰	岩	20 g		
11	197号住居址	砥	石	砂		岩	140 g		
12	217号住居址	砥	石	凝	灰	岩	50 g		
13	279号住居址	砥	石	凝	灰	岩	334.6 g		
14	309号住居址	砥	石	凝	灰	岩	60 g		
15	西8号住居址	砥	石	凝	灰	岩	362.1 g		
16	西24号住居址	砥	石	凝	灰	岩	21.2 g		
17	西26号住居址	砥	石	凝	灰	岩	74.8 g		
18	西38号住居址	砥	石	凝	灰	岩	215.4 g		
19	西34号住居址	砥	石	凝	灰	岩	1 K 240 g		
20	L区622	砥	石	凝	灰	岩	120 g		グリット出土
21		砥	石	凝	灰	岩			表採
22		砥	石	凝	灰	岩			グリット出土
23		不	明	土	製	品			グリット出土

石器、石器類、石器

番号	出土住居	種	類	材		質	重き	加工痕、使用痕、装飾	備考
1	68号住居址	石	器	花	崗	岩	400 g		ムシロ編用錘
2	68号住居址	石	器	花	崗	岩	520 <i>g</i>		"
3	68号住居址	石	器	花	崗	岩	400 g		"
4	68号住居址	石	器	花	崗	岩	280 g		"
5	68号住居址	石	器	安	Ш	岩	480 <i>g</i>		"
6	68号住居址	石	器	安	山	岩	390 g		"
7	68号住居址	石	器	花	崗	岩	580 <i>g</i>		"
8	68号住居址	石	器	花	崗	岩	530 g		"

番号	出土住居	種	類	材		質	重き	加工痕、使用痕、装飾	備考
1	117号住居址	石	器	花	崗	岩	560 g		ムシロ編用錘
2	117号住居址	石	器	花	崗	岩	270 g		"
3	117号住居址	石	器	花	崗	岩	770 g		"
4	117号住居址	石	器	花	崗	岩	520 g		"
5	117号住居址	石	器	花	崗	岩	1 K 122 g		"
6	117号住居址	石	器	花	崗	岩	520 g		"
7	117号住居址	石	器	花	崗	岩	360 g		"
8	117号住居址	石	器	花	崗	岩	780 g		"
9	117号住居址	石	器	花	崗	岩	410 g		"
10	117号住居址	石	器	花	崗	岩	760 g		'n
11	117号住居址	石	器	安	Щ	岩	300 g		"
12		石	器	凝	灰	岩	480 g		"
13	117号住居址	石	器	花	崗	岩	590 g		"
14	117号住居址	石	器	安	Щ	岩	660 g		"
15	117号住居址	石	器	花	崗	岩	800 g		"
16	117号住居址	石	器	安	山	岩	500 g		"
17	117号住居址	石	器	花	崗	岩	520 g		"

番号	出土住居	種	類	材	•	質	重さ	加工痕、使用痕、装飾	備考
1	206号住居址	石	器	花	崗	岩	1 K 20 g		ムシロ編用錘
2	206号住居址	石	器	花	崗	岩	1 K 200 g		
3	206号住居址	石	器	花	崗	岩	830 g		
4	206号住居址	石	器	花	崗	岩	860 g		
5	206号住居址	石	器	花	崗	岩	980 g		
6	206号住居址	石	器	花	崗	岩	1 kg		
7	206号住居址	石.	器	花	崗	岩	900 g		
8	206号住居址	石	器	礫		岩	1 K 600 g		
9	206号住居址	石	器	石英	は関系	录岩	790 g		
10	206号住居址	石	器	花	崗	岩	740 g		
11	206号住居址	石	器	花	崗	岩	720 g		
12	206号住居址	石	器	花	崗	岩	800 g		
13	206号住居址	石	器	花	崗	岩	920 g		
14	206号住居址	石	器	花	崗	岩	1 K 100 g		
15	206号住居址	石	器	花	崗	岩	500 g		
16	206号住居址	石	器	花	崗	岩	800 g		
17	206号住居址	石	器	花	崗	岩	1 K 20 g		

番号	出土住居	種	類	材		質	重さ	加工痕、使用痕、装飾	備考
1	294号住居址	石	器	花	闣	岩	410 g		ムシロ編用錘
2	294号住居址	石	器	걘	崗	岩	420 g		"
3	294号住居址	石	器	花	崗	岩	460 g		"
4	294号住居址	石	器	花	崗	岩	340 g		"
5	294号住居址	石	器	花	崗	岩	340 g		"
6	294号住居址	石	器	花	崗	岩	620 g		"
7	294号住居址	石	器	花	崗	岩	760 g		"
8	294号住居址	石	器	花	崗	岩	500 g		"
9	294号住居址	石	器	花	崗	岩	620 g		"
10	294号住居址	石	器	花	崗	岩	240 g		"
11	294号住居址	石	器	安	Щ	岩	510 <i>g</i>		"
12	294号住居址	石	器	花	崗	岩	500 g		"
13	294号住居址	石	器	安	Ш	岩	730 <i>g</i>		"
14	294号住居址	石	器	花	崗	岩	570 g		"
15	294号住居址	石	器	花	崗	岩	610 g		"
16	294号住居址	石	器	花	崗	岩	420 g		"
17	294号住居址	石	器	花	崗	岩	480 g		"
18	294号住居址	石	器	花	崗	岩	460 g		"
19	294号住居址	石	器	花	崗	岩	810 g		"
20	294号住居址	石	器	花	崗	岩	810 g		"
21	294号住居址	石	器	花	崗	岩	780 g		"
22	294号住居址	石	器	花	崗	岩	680 g		"
23	294号住居址	石	器	花	崗	岩	440 g		"
24	294号住居址	石	器	花	崗	岩	480 g		"
25	294号住居址	石	器	花	崗	岩	960 g		"
26	294号住居址	石	器	花	崗	岩	480 g		"
27	294号住居址	石	器	花	崗	岩	540 g		"
28	294号住居址	石	器	花	崗	岩	590 g		"
29	294号住居址	石	器	花	崗	岩	760 g		"
30	294号住居址	石	器	花	崗	岩	470 g		"
31	294号住居址	石	器	花	崗	岩	790 g		"
32	294号住居址	石	器	花	崗	岩	300 g		"
33	294号住居址	石	器	花	崗	岩	480 g		"
34	294号住居址	石	器	花	崗	岩	820 g		"
35	294号住居址	石	器	花	崗	岩	480 g		"
36	294号住居址	石	器	花	崗	岩	360 g		"
37	294号住居址	石	器	花	崗	岩	380 g	側縁中央に加工剝離痕あり	"

番号	出土住居	種	類	材		質	重	ż	加工痕、使用痕、装飾	備考
1	295号住居址	石	器	花	崗	岩		320 g		ムシロ編用錘
2	295号住居址	石	器	花	崗	岩		420 g		"
3	295号住居址	石	器	花	崗	岩		480 g		"
4	295号住居址	石	器	花	崗	岩		460 g		"
5	295号住居址	石	器	花	崗	岩		770 g		"
6	295号住居址	石	器	花	崗	岩		700 g		"
7	295号住居址	石	器	花	崗	岩		400 g		"

石器、石製品類、打製石斧

番号	出土住居	種	類	材	•	質	重き		加工痕、使用痕、装飾	備考
1	62号住居址	打製	石斧	粘	板	岩	80	д		
2		打製	石斧	ホル	ンへ	ルス	440	g		表採
3	109号住居址	打製	石斧				20	g		
4		打製	石斧	粘	板	岩	90	9		表採
5		打製	石斧	粘	板	岩	100	g		グリット出土
6		打製	石斧	粘	板	岩	40	д		" .
7		打製	石斧				40	д		"
8		打製	石斧				80	g		"
9		磨製	石 斧		•		640	g		"
10		石	鏃	黒	曜	石				"
11		磨	石	安	山	岩	480	д	2面に使用痕あり	"

番号	出土住居	種		類	材		質	重き	加工痕、使用痕、装飾	備考
1	10号住居址	紡	錘	車	滑		石	40.7 g	側面、底面に鋸歯文	
2	"	不		明	滑	_	石	7.5 g		剣先状石製品?
3	22号住居址	紡	鍾	車	滑		石	37.2 g	側面、底面に鋸歯文	
4	46号住居址	不		明	滑		石	15.8 g		有孔円盤?
5	72号住居址	紡	錘	車	土		製	25.2 g		
6	278号住居址	紡	錘	車	蛇	紋	岩	48.8 g		
7	西58号住居址	紡	錘	車	土		製	25.5 g		
8	西83号住居址	紡	錘	車	土		製			·
9	"	紡	錘	車	土		製			
10		紡	錘	車	石		製		上面、側面、底面に鋸歯文	表採
11		紨	錘	車	石		製	40.9 g		"
12		紡	錘	車	土		製			グリット出土
13		紡	錘	車	土		製	51.0 g		"
14		有子	1 P	盤	滑		石	28.1 g		"
15			"							

石器、石製品類

番号	出土住居	種	類	材		質	重き	加工痕、使用痕、	装飾	備考
1	5 号住居址	管	玉	碧		玉	2.2 g			
2	10号住居址	士:	玉	土		製	7.5 g		1	P - 211
3	46号住居址	±.	玉	士.		製	0.4 g		E	末直
4	46号住居址	土	玉	± :		製	0.5 g		E	末直
5	46号住居址	日	玉	滑	石	製	0.1 g		E	末直
6	46号住居址	E	玉	滑	石	製	0.1 g			
7	53号住居址	日	玉	滑	石	製	0.2 g			
8	69号住居址	琥	珀 玉	琥		珀	0.3 g			P - 7
9	93号住居址	小	玉	ガ	ラス	、製	0.4 g			
10	111号住居址	土	玉	土		製	0.6 g			
11	130号住居址	土	玉	土		製	0.7 g			
12	132号住居址	小	玉	ガ	ラス	、製	2.0 g		(1)
13	132号住居址	士:	玉	± :		製	1.4 g		(1	3)
14	132号住居址	±:	玉	土		製	0.8 g		(4)
15	132号住居址	:±:	玉	土		製	1.3 g		(5)
16	132号住居址	±:	玉	1:		製	1.3 g		(7)
17	163号住居址	士:	玉	士.		製	0.5 g			P - 13
18	182号住居址	土	玉	土		製	0.9 g			P - 31
19	217号住居址	臼	玉	滑	石	製	0.8 g			
20	291号住居址	± :	玉	#		製	1.4 g			P - 16
21	291号住居址	日	玉	滑	石	製	0.2 g		:	カマド内
22	231号住居址	1:	錘	土		製	12.5 g			
23		± :	玉	±.		製	3.9 g			表採
24		±:	玉	土		製	1.1 g		-	表採
25		± .	玉	土		製	0.7 g			グリット出土
26		± :	玉	土		製	1.3 g			"
27		±.	玉	土:		製	2.2 g			<i>"</i>
28	232号住居址	勾	玉	滑	石	製	4.3 g			
29	278号住居址	勾	玉	滑	石	製	3.2 g			
30	269号住居址	士:	錘	士:		製				
31	269号住居址	±:	錘	土		製				
32	272号住居址									
33	西21号住居址	日	玉	<u> </u>						
34	西40号住居址	土	玉	滑	石	製				
35	西46号住居址	管	玉							
36	西55号住居址	小	玉	ガ	ラ :	ス製				
37	西79号住居址	管								

番号	出土住居	種	類	材	質	重	さ	加工痕、使用痕	、装飾	備	考
38	西	勾	玉	土	製		1.9 g			表採	
39	西									表採	-
									·		
											-
		*								-	
		•									
					-				-		
						-					
				5-11-1-							-
	,										
	7										
			_								
			l								

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第23集

二之宮遺跡 本文編

印刷日 昭和62年3月25日

発行日 昭和62年3月31日

発行所 山梨県教育委員会 印刷所 (株)峡南堂印刷所

	*		
		•	